

Interstage List Works V10.1.0



帳票印刷配信手引書

Windows

B1WD-2967-02
2011年10月

はじめに

本書は、List Worksの「帳票印刷配信手引書」です。帳票印刷配信機能の概要、環境構築から運用/保守まで全般について説明しています。また、リファレンス形式で画面、コマンド、メッセージについても説明しています。



List Worksのマニュアルの体系、関連マニュアル、マニュアルの読み方、商標、説明・表記上の約束については、“マニュアル体系と読み方”を参照してください。

本書の構成

第1部 概要編

第1章 帳票印刷配信機能の概要

帳票印刷配信機能を運用するために必要となる基本的な知識について説明しています。

第2部 環境構築編

第2章 帳票印刷配信機能の環境構築手順

扱う帳票ごとに、帳票印刷配信機能の環境構築手順を説明しています。

第3章 配信管理サーバの環境構築

配信データベースや配信管理サーバの環境構築について説明しています。

第4章 配信出力サーバの環境構築

配信出力サーバの環境構築について説明しています。

第5章 運用環境の設定

配信管理サーバの運用環境の設定について説明しています。

第6章 Web配信操作クライアントの環境構築

Web配信操作クライアントの環境構築について説明しています。

第7章 メッセージ通知クライアントの環境構築

メッセージ通知クライアントの環境構築について説明しています。

第8章 環境の変更

帳票印刷配信機能における環境の変更について説明しています。

第3部 運用編

第9章 帳票の準備

印刷データおよび印刷資源の準備について、扱う帳票ごとに説明しています。

第10章 印刷配信の運用

帳票や配信フォルダなどの管理方法や、画面の操作方法など、帳票印刷配信機能の運用について説明しています。

第11章 帳票と印刷資源の退避、復元

帳票と印刷資源の退避、復元について説明しています。

第12章 データベースの管理

配信データベースの容量監視、およびフラグメンテーションの監視/解消について説明しています。

第4部 GUIリファレンス編

第13章 Web配信操作クライアントの画面

Web配信操作クライアントで表示される画面について、説明しています。

第14章 配信操作画面のカスタマイズ

出力指示画面および処理状況照会画面をカスタマイズする方法について説明しています。

第15章 配信操作画面のAPI(Httpリクエスト)

配信操作画面のAPI(Httpリクエスト)について説明しています。

第5部 コマンドリファレンス編

第16章 帳票印刷配信機能のコマンド

帳票印刷配信機能で使用するコマンドについて、説明しています。

第6部 メッセージリファレンス編

第17章 帳票印刷配信機能のログ/メッセージ

帳票印刷配信機能の運用において出力される、ログおよびメッセージについて説明しています。

第18章 トラブルシューティング

帳票印刷配信機能の運用で発生するトラブルについて、原因および対処方法を説明しています。

付録

付録A サポートプリンタについて

帳票印刷配信機能のサポートプリンタおよびプリンタ使用時の留意事項などについて説明しています。

付録B Windowsファイアウォールの設定

Windowsファイアウォールの設定内容および設定手順について説明しています。

付録C List Creator互換印刷機能

List Creator互換印刷機能の環境構築および運用管理について説明しています。

付録D コマンドと画面で表示される一覧の比較

帳票、配信フォルダおよび配信出力先を一覧表示したときに表示される項目を、コマンドと画面で比較しています。

付録E 大量帳票、多重運用時の留意事項

大量の帳票を扱う場合、登録の多重度についての留意事項について説明しています。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Copyright 1995-2011 FUJITSU LIMITED

目 次

第1部 概要	1
第1章 帳票印刷配信機能の概要	2
1.1 帳票印刷配信機能とは	2
1.2 帳票印刷配信機能のしくみ	3
1.2.1 帳票印刷配信機能のシステム構成	3
1.2.2 帳票印刷配信機能のコンポーネント	5
1.2.3 帳票印刷配信機能のサービス	5
1.2.4 帳票印刷配信機能のフォルダと配信出力先	6
1.2.5 印刷配信の流れ	7
1.3 帳票印刷配信機能の適用パターン	8
1.3.1 拠点のプリンタに印刷する(配信出力サーバを拠点に配置)	8
1.3.2 拠点のプリンタに印刷する(配信出力サーバをセンターに配置)	9
1.3.3 センターの高速プリンタに大量印刷する	10
1.4 帳票印刷配信機能の帳票	11
1.4.1 扱える印刷データ	11
1.4.2 帳票印刷配信機能用の帳票情報	12
1.4.3 帳票情報の優先順位	12
1.5 帳票印刷配信機能の機能	12
1.5.1 印刷配信機能	13
1.5.2 管理機能	14
1.5.3 監視機能	15
1.5.4 セキュリティ機能	15
1.5.5 配信操作画面のカスタマイズ	16
1.5.6 クラスタシステムでの運用<EEのみ>	18
1.5.7 配信フォルダの共有運用<EEのみ>	19
1.6 システムの見積もり	21
1.6.1 メモリ量	21
1.6.2 ディスク容量	22
1.6.3 帳票の登録に必要な作業フォルダのディスク容量	23
1.6.4 配信フォルダのディスク容量	23
第2部 環境構築	25
第2章 帳票印刷配信機能の環境構築手順	26
2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票の場合	26
2.1.1 システム構成	26
2.1.2 構築手順	29
2.2 富士通ホスト帳票の場合	30
2.2.1 システム構成	31
2.2.2 構築手順	32
第3章 配信管理サーバの環境構築	35
3.1 配信管理サーバの環境構築手順	35
3.1.1 構築手順	35
3.1.2 クラスタシステムで運用する場合の構築手順	35
3.2 クラスタシステムで運用する場合の共有ディスクの準備<EEのみ>	38
3.2.1 共有ディスクの準備	38
3.2.2 共有ディスクのクラスタシステムへの登録	38
3.3 配信データベースの環境設定	39
3.3.1 Symfowareデータベースの環境設定	39
3.3.2 Oracleデータベースの環境設定	52
3.3.3 配信データベースの作成に失敗した場合の再構築手順	66
3.4 配信管理サーバの環境設定 事前準備	67
3.4.1 Windowsファイアウォールの設定	68

3.4.2 ユーザ登録<オペレーティングシステムによる認証の場合>.....	68
3.4.3 出口ルーチンの準備<ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>.....	69
3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>.....	71
3.5 ネットワークの設定.....	72
3.6 コネクションプーリングの環境設定<Symfowareデータベースの場合のみ>.....	73
3.6.1 Symfowareのネーミングサービスの登録と起動.....	73
3.6.2 JDBCデータソースの登録.....	75
3.7 クラスタシステムで運用する場合のInterstage Application Serverの初期設定<EEのみ>.....	77
3.8 ワークユニットの作成.....	77
3.8.1 帳票登録のワークユニットの作成手順.....	79
3.8.2 配信操作画面のワークユニットの作成手順.....	82
3.8.3 印刷管理のワークユニットの作成手順.....	85
3.9 配信管理サーバの環境設定.....	88
3.9.1 配信管理サービスの停止.....	89
3.9.2 List Worksサービスの停止.....	89
3.9.3 Web連携の環境設定.....	89
3.9.4 配信管理サーバの環境設定ファイルの編集.....	90
3.9.5 印刷配信の環境設定.....	92
3.9.6 List Worksサービスの開始.....	100
3.9.7 配信管理サービスの開始.....	100
3.10 ワークユニットの設定変更(配信フォルダの共有運用の場合).....	100
3.10.1 配信管理サービスの停止.....	101
3.10.2 List Worksサービスの停止.....	101
3.10.3 ワークユニットの設定変更.....	101
3.10.4 List Worksサービスの開始.....	102
3.10.5 配信管理サービスの開始.....	103
3.11 クラスタシステムで運用する場合のサービス/ワークユニットの自動起動の抑止.....	103
3.11.1 ワークユニットの自動起動の抑止.....	103
3.11.2 サービスの自動起動の抑止.....	104
3.11.3 到着通知パネルの削除.....	105
3.12 クラスタシステムで運用する場合の帳票印刷配信機能の登録<EEのみ>.....	105
3.12.1 配信データベースのサービスのクラスタシステムへの登録.....	105
3.12.2 ネーミングサービスのクラスタシステムへの登録.....	106
3.12.3 Interstage Application Serverのサービスのクラスタシステムへの登録.....	107
3.12.4 配信管理サービスおよびスクリプトのクラスタシステムへの登録.....	108
3.13 配信操作画面のカスタマイズ.....	110
3.14 負荷分散装置の環境設定(配信フォルダの共有運用の場合).....	111
第4章 配信出力サーバの環境構築	112
4.1 配信出力サーバの環境構築手順.....	112
4.2 配信出力サーバの環境設定 事前準備.....	112
4.2.1 ポート番号の変更(任意).....	112
4.2.2 Windowsファイアウォールの設定.....	113
4.2.3 プリンタの定義.....	113
4.3 ネットワークの設定.....	119
4.4 Interstageのサービスの設定.....	120
4.5 環境構築スクリプトによる配信出力サーバの環境構築.....	121
4.5.1 環境構築スクリプトの実行手順.....	121
4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順.....	124
4.5.3 環境構築スクリプト/環境削除スクリプトで発生するエラーと対処方法.....	126
4.6 帳票印刷のワークユニットの作成.....	130
4.7 配信出力サービスの停止.....	133
4.8 プリンタの環境設定.....	133
4.8.1 管理対象プリンタの追加.....	133
4.8.2 プリンタの管理環境の設定.....	133
4.9 配信出力サーバの環境設定.....	134
4.10 トナー削減印刷の設定.....	137

4.11 配信出力サービスの開始.....	138
第5章 運用環境の設定	140
5.1 プリンタ構成の定義(任意).....	140
5.1.1 プリンタ構成を利用した印刷.....	140
5.1.2 プリンタ構成の定義.....	141
5.2 配信出力先の設定.....	142
5.3 配信フォルダの設定.....	143
5.4 設定の確認.....	144
第6章 Web配信操作クライアントの環境構築	145
6.1 必要なソフトウェアのインストール.....	145
6.2 Webブラウザの環境設定.....	145
第7章 メッセージ通知クライアントの環境構築	147
7.1 ポート番号の変更(任意).....	147
7.2 到着通知パネルの設定.....	147
7.2.1 スタートアップメニューへの登録.....	149
7.2.2 到着通知パネルの起動.....	149
第8章 環境の変更	150
8.1 配信フォルダの帳票を格納するフォルダの変更.....	150
8.2 List Worksサーバの追加 <EEのみ>.....	152
8.3 List Worksサーバの移行.....	156
第3部 運用	158
第9章 帳票の準備	159
9.1 印刷資源の準備.....	159
9.1.1 外字の準備.....	159
9.2 印刷データの準備.....	160
9.2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票を扱う場合.....	160
9.2.2 富士通ホスト帳票を扱う場合.....	174
第10章 印刷配信の運用	189
10.1 サービスの開始/停止.....	189
10.1.1 配信出力サービスの開始/停止.....	189
10.1.2 配信管理サービスの開始/停止.....	192
10.1.3 サービス開始の確認.....	196
10.2 帳票の印刷.....	198
10.2.1 帳票の印刷の指示.....	198
10.2.2 帳票の表示.....	200
10.2.3 その他の操作.....	202
10.3 印刷ジョブの監視.....	205
10.3.1 出力状態の確認.....	205
10.3.2 印刷ジョブのエラー発生時の対処.....	206
10.3.3 印刷の取り消し.....	210
10.3.4 優先度の変更.....	211
10.3.5 配信出力先の変更.....	211
10.3.6 その他の操作.....	212
10.4 プリンタの監視.....	213
10.4.1 返答メッセージ.....	214
10.4.2 応答メッセージ.....	215
10.5 帳票の登録状況の監視.....	216
10.5.1 帳票の登録時に異常が発生した場合の対処.....	216
10.6 帳票の管理.....	217
10.6.1 帳票の一覧表示.....	218
10.6.2 最大出力回数の変更.....	218
10.6.3 帳票状態(出力済/未出力)の変更.....	218

10.6.4 帳票の削除.....	219
10.6.5 保存期限を過ぎた帳票の削除.....	219
10.6.6 帳票に関連するファイルと情報の削除.....	220
10.7 配信フォルダの管理.....	220
10.7.1 配信フォルダの一覧表示.....	220
10.7.2 配信出力先の変更.....	220
10.7.3 出力動作モード(即時印刷/ため置き印刷)の変更.....	221
10.7.4 配信フォルダの削除.....	221
10.8 配信出力先の管理.....	221
10.8.1 配信出力先の状態(稼働/停止)の変更.....	222
10.8.2 配信出力先の一覧表示.....	222
10.8.3 配信出力先の変更.....	222
10.8.4 配信出力先の削除.....	222
10.9 操作ログの管理.....	223
10.9.1 操作ログの格納場所.....	223
10.9.2 配信管理サーバの操作ログの自動バックアップ.....	224
10.9.3 操作ログの改ざん検知.....	225
10.10 トラブル時の情報採取.....	225
10.11 クラスシステム運用におけるフェールオーバー発生時の対処.....	226
第11章 帳票と印刷資源の退避、復元.....	228
11.1 帳票と印刷資源の退避.....	228
11.1.1 Symfowareデータベースの場合.....	229
11.1.2 Oracleデータベースの場合.....	233
11.2 帳票と印刷資源の復元.....	235
11.2.1 退避時の状態まで復元(Symfowareデータベースの場合).....	237
11.2.2 退避時の状態まで復元(Oracleデータベースの場合).....	240
第12章 データベースの管理.....	244
12.1 Symfowareデータベースの場合.....	244
12.1.1 配信データベースの容量監視.....	244
12.1.2 配信データベースの容量拡張/再構築.....	245
12.1.3 配信データベースのフラグメンテーションの監視.....	250
12.1.4 配信データベースのフラグメンテーションの解消.....	252
12.2 Oracleデータベースの場合.....	257
12.2.1 配信データベースの容量監視.....	257
12.2.2 配信データベースの容量拡張/再構築.....	258
12.2.3 配信データベースのフラグメンテーションの監視と解消.....	262
第4部 GUIリファレンス.....	263
第13章 Web配信操作クライアントの画面.....	264
13.1 ログイン画面.....	264
13.2 メニュー画面.....	265
13.3 出力指示画面.....	267
13.4 処理状況照会画面.....	275
13.5 配信出力先一覧画面.....	281
13.6 帳票詳細情報画面.....	284
13.7 印刷ジョブ詳細情報画面.....	285
13.8 帳票表示画面.....	287
13.8.1 ツールバーの説明.....	289
13.8.2 帳票表示画面で検索するときに表示されるダイアログボックス.....	290
13.9 配信フォルダ管理画面.....	296
13.10 配信フォルダ詳細情報画面.....	298
第14章 配信操作画面のカスタマイズ.....	300
14.1 配信操作画面のカスタマイズ方法.....	300
14.2 出力指示画面のカスタマイズ.....	301

14.2.1 出力指示画面の表示域の幅の変更.....	302
14.2.2 出力指示画面の表示域の高さの変更.....	303
14.2.3 帳票の一覧の行数の変更.....	303
14.2.4 表示する帳票の絞り込み.....	304
14.2.5 帳票の一覧に表示する項目の変更.....	304
14.2.6 出力指示画面の画面カスタマイズ設定ファイルの設定例.....	307
14.3 処理状況照会画面のカスタマイズ.....	307
14.3.1 処理状況照会画面の表示域の幅の変更.....	308
14.3.2 処理状況照会画面の表示域の高さの変更.....	309
14.3.3 印刷ジョブの一覧の行数の変更.....	309
14.3.4 印刷ジョブの一覧に表示する項目.....	310
14.3.5 処理状況照会画面の画面カスタマイズ設定ファイルの設定例.....	311
第15章 配信操作画面のAPI(Httpリクエスト).....	312
15.1 Login.....	312
第5部 コマンドリファレンス.....	316
第16章 帳票印刷配信機能のコマンド.....	317
16.1 配信管理サーバの環境設定.....	317
16.1.1 利用時の準備.....	317
16.1.2 環境設定用のコマンドで指定できる文字.....	318
16.1.3 lwdstmgrenvコマンド.....	322
16.1.4 lwdtprinfoコマンド.....	325
16.1.5 lwdtdestコマンド.....	330
16.1.6 lwdtfolコマンド.....	339
16.1.7 環境設定用のコマンドの復帰値.....	346
16.2 配信出力サーバの環境設定.....	347
16.2.1 利用時の準備.....	347
16.2.2 環境設定用のコマンドで指定できる文字.....	347
16.2.3 addlprtコマンド.....	347
16.2.4 delprtコマンド.....	348
16.2.5 prtlistコマンド.....	349
16.2.6 setenvdefコマンド.....	350
16.2.7 setenvprtコマンド.....	357
16.3 配信管理サーバの運用.....	360
16.3.1 利用時の準備.....	360
16.3.2 運用用のコマンドで指定できる文字.....	361
16.3.3 lwoprdestコマンド.....	363
16.3.4 lwoprfolコマンド.....	364
16.3.5 lwoprformコマンド.....	366
16.3.6 lwdelexpireコマンド.....	376
16.3.7 lwcleanformコマンド.....	377
16.3.8 F5CWCKLGコマンド.....	379
16.3.9 運用用のコマンドの復帰値.....	380
第6部 メッセージリファレンス.....	381
第17章 帳票印刷配信機能のログ/メッセージ.....	382
17.1 配信管理サーバの操作ログ.....	382
17.1.1 操作ログの出力形式.....	382
17.1.2 操作ログに出力される情報.....	385
17.1.2.1 帳票を登録した場合.....	385
17.1.2.2 コマンドを実行した場合.....	387
17.1.2.3 配信操作画面を操作した場合.....	389
17.1.2.4 印刷をした場合.....	391
17.1.2.5 帳票を表示した場合.....	393
17.2 配信管理サーバのメッセージ.....	396

17.2.1 ソースが「List Works Distributor」のイベントログ	396
17.2.1.1 イベントログ	396
17.2.1.2 配信処理のエラー	453
17.3 配信出力サーバのメッセージ	456
17.3.1 ソースが「List Works Distributor」のイベントログ	456
17.3.1.1 イベントログ	457
17.3.1.2 配信処理のエラー	509
17.3.1.3 JMSのエラー	512
17.3.2 ソースが「F3EWSRV」のイベントログ	519
17.3.3 ソースが「F3EWSVLG」のイベントログ	537
17.3.4 ソースが「f3ewlprm」のイベントログ	550
17.3.4.1 詳細情報	551
17.3.5 ソースが「WORKIT MSG(F3BW)」のイベントログ	554
17.3.6 ソースが「WORKIT JOB(F3BW)」のイベントログ	560
17.3.7 ソースが「F5CWSVLG」のイベントログ	561
17.3.8 ソースが「List Works PrintFit」のイベントログ	569
17.4 メッセージ通知クライアントのメッセージ	570
17.4.1 返答メッセージ	571
17.4.2 応答メッセージ	583
17.4.3 到着通知パネルに表示されるメッセージ	583
17.5 List Creator互換印刷機能で出力されるメッセージ	591
17.5.1 ログの出力形式	591
17.5.2 ソースが「List Works MeFt」のイベントログ	592
第18章 トラブルシューティング	607
18.1 エラー通知のトラブル	607
18.1.1 KERNEL32.DLLの初期化エラーが発生し、印刷されない。	607
18.1.2 印刷エラーが発生したとき、List Works がメッセージ通知クライアントに表示するエラーメッセージと同時に、Windowsのエラーメッセージも配信出力サーバを運用しているサーバ上に表示される。	607
18.1.3 システムのシャットダウン時またはPrint Managerのインストール時、イベントログに「イベントID:6862 配信出力サーバで問題が発生したため、プリンタの状態監視処理に失敗しました。」「イベントID:6606 印刷状態の取得に失敗しました。依存するサービスが停止しています。」のメッセージが出力される。	608
18.2 印刷時のトラブル	608
18.2.1 帳票出力アプリケーションで、帳票の登録は正常終了したが、印刷されない。	608
18.2.2 プリンタ装置のエラーを解除しても印刷が自動再開されない。	608
18.2.3 Printia LASERシリーズ(Printianavi搭載機)でプリンタエラーが発生してもエラーメッセージが表示されない。	609
18.2.4 セパレート印刷を行った場合、帳票出力アプリケーションで指定した部数が印刷されない。	609
18.2.5 到着通知パネルから「保留」を行うと、帳票が印刷されない。	610
18.2.6 大量ページを印刷すると、印刷がエラーとなる場合がある。	611
18.3 表示時のトラブル	611
18.3.1 Web配信操作クライアントを使用中に「HTTP 404」「HTTP 500」「サーバでエラーが発生しました」「Internal Server Error」などのメッセージが表示される。または、Webブラウザの画面に何も表示されない。	611
18.3.2 List Works帳票を表示しようとすると、帳票表示画面が起動されるが、帳票が表示されない。	612
18.3.3 List Works帳票を表示すると、Webブラウザが異常終了する。	612
18.4 帳票の操作時のトラブル	613
18.4.1 lwoprformコマンドまたはlwdelexpireコマンドを実行しても、帳票を削除できない。	613
18.5 サービス「PRT Server Service」のトラブル	613
18.5.1 サービス「PRT Server Service」を停止できない。	613
18.5.2 サービス「PRT Server Service」の停止に時間がかかる。	614
18.6 メッセージ通知クライアント(到着通知パネル)のメッセージ	614
18.6.1 メッセージ「メッセージサーバXXXXXXXXXの電源が未投入、または通信に失敗しました。」が表示される。	614
18.6.2 メッセージ「メッセージ管理制御とのコネクションが切断されたため、メッセージ監視処理を中止します。」が表示される。	615
18.6.3 メッセージ「到着通知パネルが同一端末上ですでに起動されているか、指定されたポートが使用中のため、到着通知パネルを起動できません。」が表示される。	615
18.6.4 印刷指定画面に回答すると、メッセージ「不当なページ数が指定されました。」が表示される。	615
付録A サポートプリンタについて	617
A.1 帳票印刷配信機能のサポートプリンタ	617

A.1.1 VSP/VS/PS5000シリーズ.....	618
A.1.2 PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機).....	618
A.1.3 Interstage Enabled認定プリンタ.....	620
A.2 Interstage Enabled認定プリンタについて.....	632
A.2.1 プリンタドライバ.....	632
A.2.2 配信出力サーバとプリンタの接続形態.....	634
A.2.3 プリンタ機種ごとの機能.....	635
A.2.4 プリンタ機種ごとのエラー検出内容.....	636
A.2.5 留意事項.....	638
A.2.6 連続印刷指定時の留意事項.....	639
A.2.7 CANON製プリンタ使用時の留意事項.....	639
A.2.8 EPSON製プリンタ使用時の留意事項.....	640
A.2.9 FUJI XEROX製プリンタ使用時の留意事項.....	641
A.2.10 RICOH製プリンタ使用時の留意事項.....	641
付録B Windowsファイアウォールの設定.....	643
B.1 Windowsファイアウォールの設定内容.....	643
B.2 Windowsファイアウォールの設定手順.....	645
B.2.1 ポート番号の設定方法.....	645
B.2.2 プログラムの設定方法.....	646
付録C List Creator互換印刷機能.....	649
C.1 環境構築.....	649
C.1.1 システム構成.....	649
C.1.2 環境設定.....	649
C.2 運用管理.....	650
C.2.1 帳票の準備.....	651
C.2.2 帳票の表示.....	653
付録D コマンドと画面で表示される一覧の比較.....	654
D.1 帳票の一覧表示.....	654
D.2 配信フォルダの一覧表示.....	655
D.3 配信出力先の一覧表示.....	655
付録E 大量帳票、多重運用時の留意事項.....	657
E.1 配信管理サーバ運用環境の推奨値.....	657
E.2 帳票の登録.....	657
E.2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票の場合.....	658
E.2.2 List Creator互換印刷機能を利用するList Creator帳票の場合.....	658
E.2.3 富士通ホスト帳票の場合.....	658
索引.....	660

第1部 概要

第1章 帳票印刷配信機能の概要.....	2

第1章 帳票印刷配信機能の概要

この章では、帳票印刷配信機能を使用するために必要となる、基本的な知識について説明します。

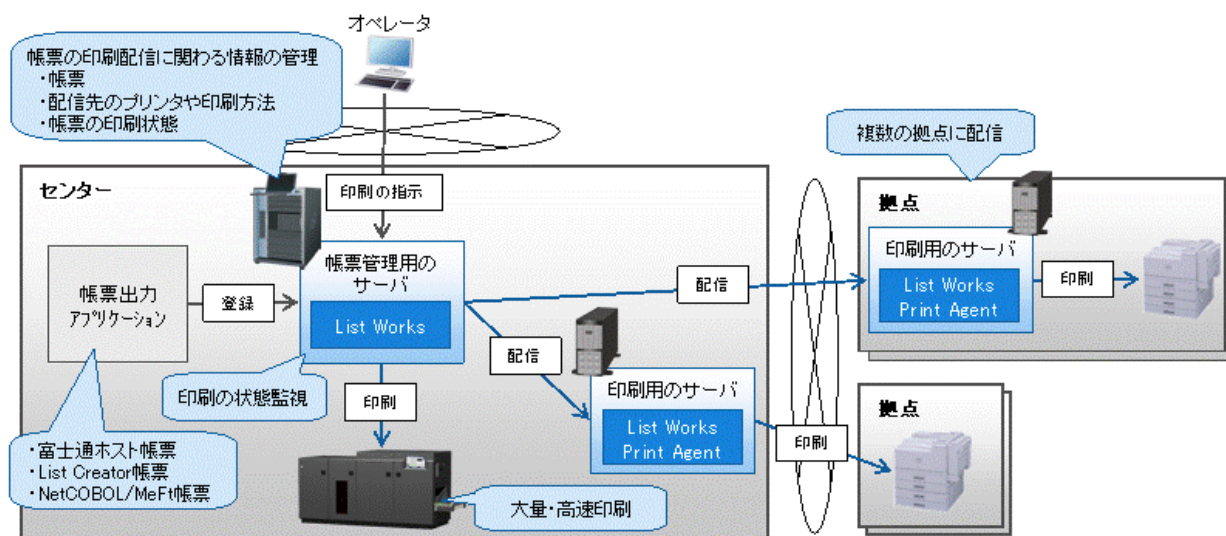
1.1 帳票印刷配信機能とは

帳票印刷配信機能は、日々の業務で生成される帳票、および帳票の配信先のプリンタ・印刷方法などの情報をセンターで一元管理し、帳票を配信し、印刷するシステムです。

センターでの大量印刷や、拠点への印刷配信など、さまざまな印刷形態に適用できます。

拠点が分散された環境でも、帳票の印刷状態をセンターで一元管理できます。

また、帳票保管活用機能と同様に、クラスシステム運用や配信フォルダの共有運用も可能なため、高信頼なシステムを構築できます。



帳票保管活用機能のリモート印刷でも、拠点にサーバを配置しない運用が可能です。以下のような運用を行う場合には、帳票印刷配信機能の利用を推奨します。

- ・ 複数台のプリンタを同時に稼働する
- ・ 大量の帳票を印刷する
- ・ 印刷の状態をセンターで一元管理する

帳票印刷配信機能の特長

帳票印刷配信機能の特長を以下に示します。

帳票の登録から印刷配信までをトータルでサポート

帳票の印刷配信、および帳票や配信先のプリンタの管理など、帳票の印刷配信システムにおける一連の機能を提供します。

高性能なデータ転送・印刷配信処理を実現

スプールデータと比べてサイズの小さいデータで転送するため、拠点にサーバを置く場合、ネットワークの負荷を軽減でき、低速な回線でも大量印刷を実現できます。

不正操作、情報漏えいを防止するセキュリティ機能をサポート

操作ログの出力による操作の監視、帳票の印刷を指示した回数の管理など、帳票に対する操作を制限するための機能を提供しています。

業務に最適な配信操作画面の提供

Webブラウザを使用して印刷業務に最適な画面で、帳票の印刷に関する情報を閲覧/操作できます。

画面は、業務にあわせてカスタマイズすることもできます。

既存資産を活用し、現行システムから簡単移行

富士通ホストやCOBOLアプリケーションなどの現行システムにアドオンするだけで、オープンシステム環境における帳票の印刷配信を簡単に実現できます。

トラブルへの迅速な対応が可能

配信先のプリンタと印刷状態をセンターで一元管理するため、拠点での異常にすばやく対応できます。

プリンタが故障したときの代替プリンタへの切り替えや印刷用のサーバがダウンした時の出力先の切り替えが、センターから操作できるなど、業務の停止を最小限に抑えることができます。

また、帳票管理用のサーバがダウンした時のクラスタシステムのフェールオーバークラスタ運用やフォルダの共有運用などにより、印刷業務を継続することができます。

1.2 帳票印刷配信機能のしくみ

ここでは、帳票印刷配信機能の運用を実現しているしくみについて説明します。

1.2.1 帳票印刷配信機能のシステム構成

帳票印刷配信機能のシステム構成を説明します。



Web配信操作クライアントを、帳票保管活用機能のWebクライアントと同一のパソコンで使用する場合、同時にそれぞれのクライアントからログインした状態で、操作することはできません。

メッセージ通知クライアント

印刷エラーや用紙の交換を促すメッセージが通知されるパソコンのことです。メッセージ通知クライアントには、Message Clientをインストールします。

1.2.2 帳票印刷配信機能のコンポーネント

帳票印刷配信機能には、以下のコンポーネントがあります。

配信管理サーバ

配信管理サーバは、帳票の配信フォルダへの格納、帳票/配信フォルダ/配信出力先の管理を行います。

配信フォルダに登録された帳票が印刷を指示されると、配信管理サーバは、帳票を配信出力サーバに配信します。

配信出力サーバ

配信出力サーバは、配信管理サーバから帳票が配信された後、プリンタへの印刷、印刷の状態の監視や配信管理サーバへの印刷の状態の通知を行います。

Message Client

Message Clientは、配信出力サーバから通知された印刷エラーや用紙交換のメッセージを、到着通知パネルに通知します。

1.2.3 帳票印刷配信機能のサービス

帳票印刷配信機能では、以下のサービスを提供しています。

配信管理サービス

配信管理サービスは、配信管理サーバの機能を動作させるための以下のサービスやInterstage Application Serverのワークユニットの総称です。

- LW Transfer Service
- 帳票登録のワークユニット(LWDST_MREG)
- 印刷管理のワークユニット(LWDST_MWTR)
- 配信操作画面のワークユニット(LWDST_MGUI)

配信出力サービス

配信出力サービスは、配信出力サーバの機能を動作させるための以下のサービスやInterstage Application Serverのワークユニットの総称です。

- LW Transfer Service
- LW Print State Service

- ー 帳票印刷のワークユニット(LWDST_W)

LW Transfer Service

印刷を指示された帳票を、配信管理サーバから配信出力サーバに転送するサービスです。

LW Print State Service

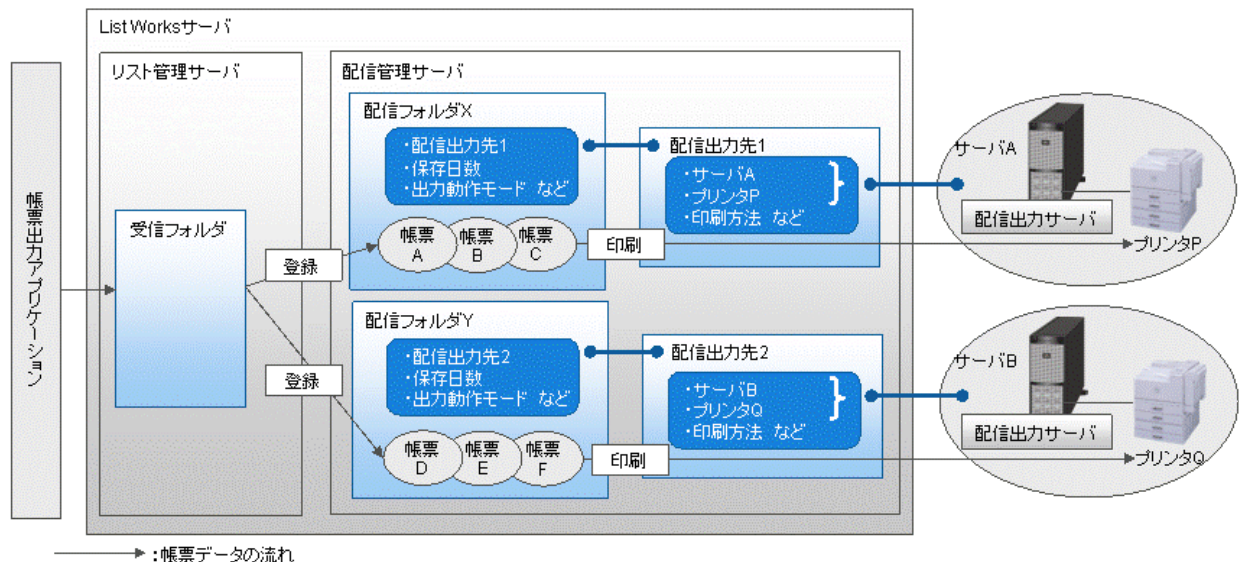
印刷を指示された帳票の印刷状態を監視するサービスです。

1.2.4 帳票印刷配信機能のフォルダと配信出力先

帳票出力アプリケーションが出力した帳票は、配信フォルダに登録され、帳票印刷配信機能によって管理されます。配信先のサーバやプリンタは、配信出力先として定義しておきます。帳票は、印刷の指示を受けると、配信出力先の定義に従ってプリンタに印刷されます。

また、帳票は、配信フォルダの定義により、登録直後に配信出力先に印刷することができます。

以下に、配信フォルダと配信出力先について示します。



配信フォルダ

配信フォルダは、配信管理サーバに作成します。帳票出力アプリケーションでは、配信フォルダを指定して帳票を登録します。配信フォルダでは、フォルダごとに以下の情報を設定します。

- ー 配信フォルダID
- ー 配信フォルダ名
- ー 帳票登録後の保存日数
- ー 帳票登録後、即時に印刷するかどうか(出力動作モード)
- ー 配信出力先
- ー 帳票の印刷の優先度
- ー コメント

- 備考

配信出力先

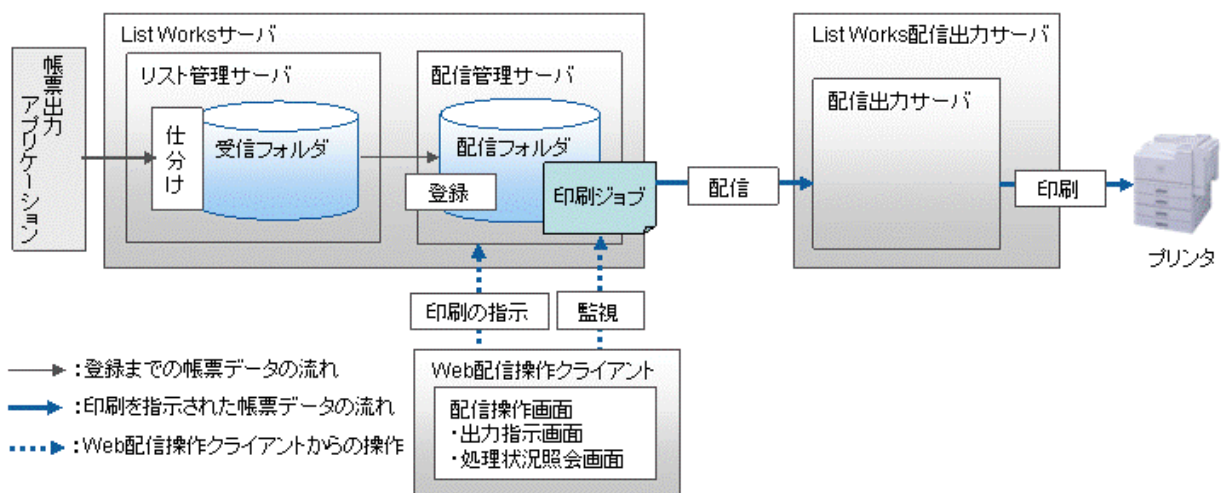
配信出力先は、プリンタ名、プリンタが接続された配信出力サーバ名、印刷方法などをまとめた情報です。配信出力先は、配信管理サーバに定義して一元管理します。

配信出力先には、以下の情報を設定します。

- 配信出力先ID
- 配信出力先名
- 配信出力サーバ名
- プリンタ名
- コメント
- 備考
- セパレータ(印刷するかどうか、印刷方法、給紙口名)
- メッセージ通知先
- プリンタ構成コード(用紙サイズ、給紙口)
- 機器メーカー
- 機器型名

1.2.5 印刷配信の流れ

印刷配信の流れについて説明します。



帳票の作成から登録まで

帳票出力アプリケーションで作成された帳票は、リスト管理サーバの受信フォルダで受信し、帳票に設定されている配信フォルダに登録されます。帳票は、登録時にList Worksの独自形式(List Works帳票)に変換されます。

なお、List Creator帳票の場合、帳票出力アプリケーションでList Creator互換印刷機能を指定することによって、List Creatorの出力形式のまま登録されます。



List Creator 互換印刷については、“[付録C List Creator 互換印刷機能](#)”を参照してください。

帳票の登録から印刷まで

配信フォルダに登録された帳票は、配信フォルダの定義(配信出力先)に従って、配信管理サーバから配信出力サーバに配信され、プリンタに印刷されます。配信フォルダに登録されている帳票は、Web配信操作クライアント(出力指示画面)を使用して、印刷を指示します。

なお、登録時に即時に印刷するように設定されている配信フォルダに登録された帳票については、登録直後に印刷されます。

帳票が印刷の指示をされると、印刷ジョブという帳票の印刷についての手続き情報が生成されます。印刷状態は、Web配信操作クライアント(処理状況照会画面)を使用して、印刷ジョブを監視することで確認できます。



帳票の印刷配信機能については、“[1.5.1 印刷配信機能](#)”を参照してください。

印刷ジョブの状態監視については、“[1.5.3 監視機能](#)”を参照してください。

1.3 帳票印刷配信機能の適用パターン

帳票印刷配信機能を利用するには、以下の2つの適用パターンがあります。

- ・ 拠点のプリンタに印刷する
 - 拠点に配信出力サーバを配置する
 - センターに配信出力サーバを配置する
- ・ センターの高速プリンタに大量印刷する

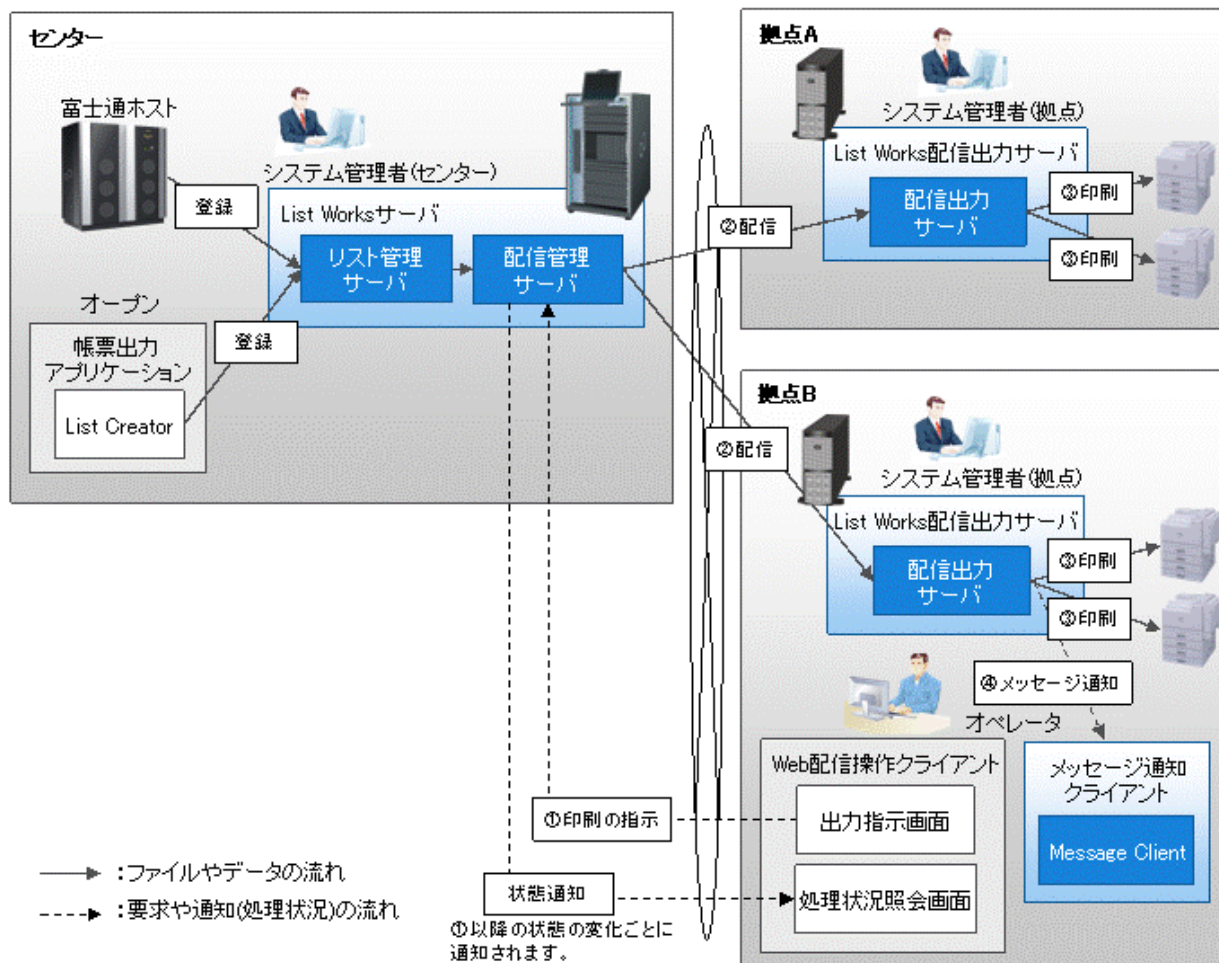
適用パターンの選択の目安を以下に示します。

適用パターン		プリンタ の場所	配信出力 サーバの場 所	帳票の ページ数	回線速度		プリンタ の台数	プリンタの性能
					センター内 (注)	センター・拠点 間		
拠点の プリンタ に印刷	拠点に配信出力サーバを配置	拠点	拠点	1～1000 ページ	—	100Mbps以下	1～1000 台	中速プリンタ (VSP4000シリーズ /VSP2000シリーズなど)
	センターに配信出力サーバを配置	拠点	センター	1～100 ページ	100Mbps 以下	100Mbps以上	1～100 台	中速プリンタ (VSP4000シリーズ /VSP2000シリーズなど)
センターの高速プリンタに大量印刷		センター	センター	1000ページ以上	1Gbps以上	—	1～10台	高速プリンタ (PS5600シリーズ /VSP4900シリーズなど)

注: センター内で、List Worksサーバとは別にList Works配信出力サーバを設置する場合に、List WorksサーバとList Works配信出力サーバ間の回線速度です。

1.3.1 拠点のプリンタに印刷する(配信出力サーバを拠点に配置)

配信出力サーバを拠点に配置して、拠点のプリンタに印刷します。センターから拠点の配信出力サーバへは、スプールデータに比べてサイズが小さいList Works独自の帳票データが配信されるため、ネットワークの負荷を軽減できます。



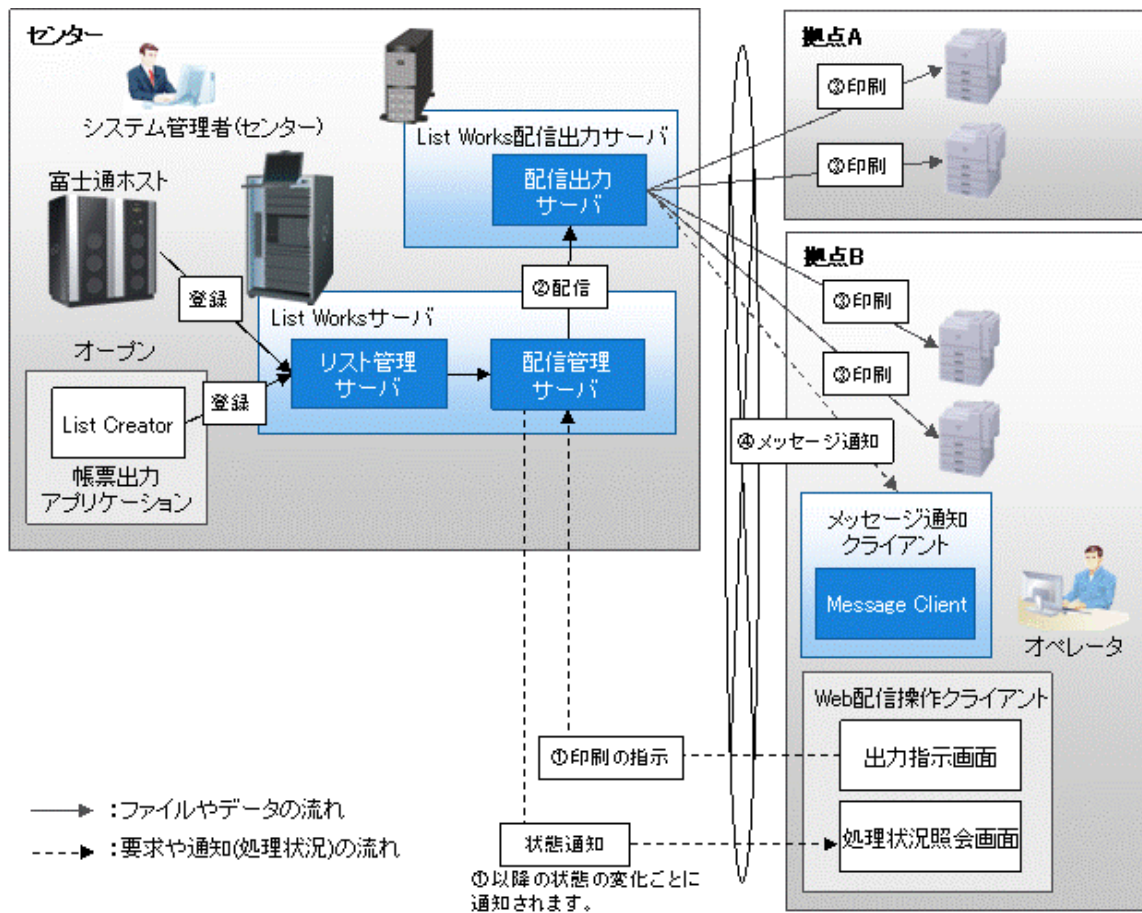
適用のポイント

- ・ 拠点にサーバ・管理者を配置した印刷業務を、センターで集中管理
- ・ 配信出力サーバをセンターに配置するのに比べて、大規模な運用が可能
 - ー 1帳票あたり1000ページ程度まで印刷可能
 - ー 合計1000台程度のプリンタに印刷可能
(List Works配信出力サーバ CPU1コアあたり同時印刷するプリンタは3台を想定)

1.3.2 拠点のプリンタに印刷する(配信出力サーバをセンターに配置)

配信出力サーバをセンターに配置して、拠点のプリンタに印刷します。

配信出力サーバからネットワークを経由したプリンタへの印刷には、データサイズの大きいスプールデータが送信されるため、ネットワークの負荷が高くなります。

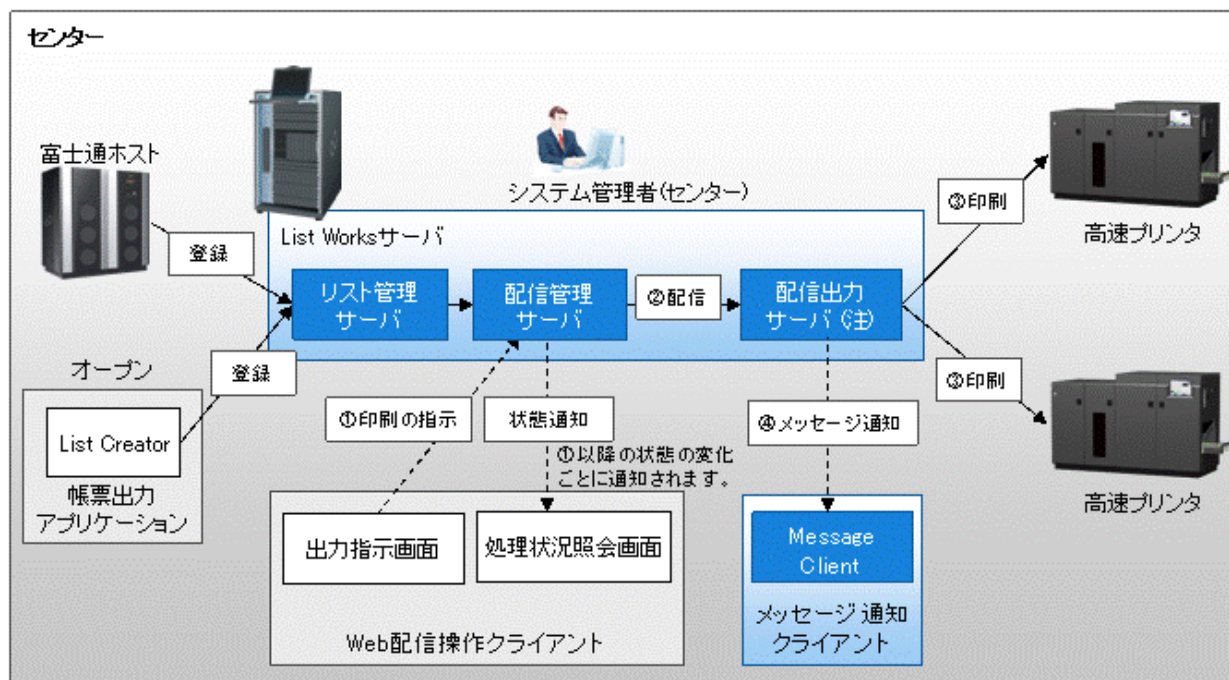


適用のポイント

- ・ 拠点にサーバ・管理者を配置しない印刷業務を、センターで集中管理
- ・ 配信出力サーバを拠点に配置するのに比べて、小規模な運用に対応
 - ー 1帳票あたり100ページ程度まで印刷可能
 - ー 合計100台程度のプリンタに印刷可能
(List Works配信出力サーバ CPU1コアあたり同時印刷するプリンタは3台を想定)

1.3.3 センターの高速プリンタに大量印刷する

大量の帳票をセンターの高速プリンタに印刷します。



→ :ファイルやデータの流れ
 ----> :要求や通知(処理状況)の流れ

注:List Worksサーバとは別のList Works配信出力サーバに、配信出力サーバを配置することもできます。

適用のポイント

- ・ 印刷業務を高性能、高信頼システムで構築
 - ー 複数台の高速プリンタを同時稼働
- ・ 1帳票あたり1000ページ以上を印刷可能
- ・ 合計10台程度の高速プリンタに印刷可能
 (List Worksサーバ 2CPUに加え、CPU1コアあたり同時印刷するプリンタは1台を想定。
 別にList Works配信出力サーバを設置する場合は、
 List Works配信出力サーバ CPU1コアあたり同時印刷するプリンタは1台を想定。)

1.4 帳票印刷配信機能の帳票

1.4.1 扱える印刷データ

帳票印刷配信機能で扱える印刷データを、以下に示します。

扱える印刷データ	説明
NetCOBOL/MeFt帳票の印刷データ	Windowsサーバ、またはSolaris上のアプリケーションで作成した帳票をNetCOBOLと直接連携、またはMeFt経由によるNetCOBOLとの連携により印刷するデータのことです。
List Creator帳票の印刷データ	List Creatorで作成した印刷データのことです。
富士通ホスト帳票の印刷データ	富士通ホストで作成した、NLP/CLP 装置で印刷できるJEF 形式(F6671、F6672、SIA)の印刷データのことです。



List Worksで印刷データを扱う場合の留意事項については、“運用手引書”の“2.1.1 帳票の登録”の“帳票を扱う場合の留意事項”を参照してください。

1.4.2 帳票印刷配信機能用の帳票情報

帳票には、帳票印刷配信機能のための帳票情報を付加することができます。帳票情報は、帳票の登録時に帳票出力アプリケーションで指定します。帳票印刷配信機能は、帳票に設定されている帳票情報に従って、帳票を配信し、印刷します。

帳票印刷配信機能のために設定できる帳票情報を以下に示します。

- ・ 帳票の管理情報(帳票名、コメント、タイトル、作成者のユーザID、保存日数、備考1～16)
- ・ 帳票の登録に必要な情報(登録先の配信フォルダID)
- ・ 帳票の印刷に必要な情報(印刷の指示ができる最大回数、開始ページ、終了ページ、部数、用紙コード、メッセージ通知先、再印刷マークの印刷有無、再印刷マークの印刷場所、再印刷マークの印刷文字列)



帳票印刷配信機能のための帳票情報の設定については、“[9.2 印刷データの準備](#)”を参照してください。

1.4.3 帳票情報の優先順位

帳票情報と同じ項目を、コマンドなどの別の方法で設定した場合、採用される優先順位があります。

以下に、採用される優先順位について説明します。

メッセージ通知先

1. 帳票情報で指定したメッセージ通知先
2. lwedtdestコマンドで指定したメッセージ通知先
3. setenvprtコマンドで指定したメッセージ通知先
5つまで指定可能で、複数指定した場合、指定した順で最初に通信可能なコンピュータ1台
4. setenvdefコマンドで指定したメッセージ通知先
5つまで指定可能で、複数指定した場合、指定した順で最初に通信可能なコンピュータ1台
5. 1～4が設定されていない、または1～4で指定した通知先にメッセージを通知できない場合は、配信出力サーバを運用するサーバ

保存日数

1. 帳票情報で指定した保存日数
2. 配信フォルダ(lwedtfolコマンド)に設定した保存日数

1.5 帳票印刷配信機能の機能

帳票印刷配信機能の機能概要について説明します。

- ・ 印刷配信機能
- ・ 管理機能

- ・ 監視機能
- ・ セキュリティ機能
- ・ 配信操作画面のカスタマイズ
- ・ クラスタシステムでの運用<EEのみ>
- ・ 配信フォルダの共有運用<EEのみ>

1.5.1 印刷配信機能

帳票を、配信出力サーバに配信し、プリンタに印刷します。

配信管理サーバで配信フォルダに登録された帳票は、そのまま配信フォルダに保存され、必要に応じて印刷できます(ため置き印刷)。なお、配信フォルダごとに、登録直後に印刷するかどうか(即時印刷)、帳票の保存日数、印刷時の優先度などを指定することもできます。

List Creator帳票の場合は、帳票出力アプリケーションでList Creator互換印刷機能を指定することによって、List Creatorの出力形式をそのまま帳票データとして扱い、印刷(List Creator互換印刷)できます。



List Creator互換印刷については、“[付録C List Creator互換印刷機能](#)”を参照してください。



参考

ため置き印刷と即時印刷

ため置き印刷は、夜間バッチなどで配信フォルダに登録された帳票を、オペレータが確認しながら印刷する業務に適しています。

オペレータが介入せずに、自動的に印刷する業務には、即時印刷が適しています。

帳票の印刷時に、以下の機能を利用できます。

セパレータ印刷

先頭ページにセパレータページを追加して印刷できます。セパレータ印刷するかどうかは、配信出力先ごとに設定できます。印刷物の仕分け作業を軽減することができます。

再印刷マークの印刷

再印刷時に、帳票のすべてのページに対して、2回目以降の印刷をしたことを示す再印刷マークを印刷することができます。再印刷マークの印刷有無は、帳票登録時に帳票情報で設定します。再印刷マークは、印刷先のプリンタのスプールデータ形式がEMFの場合のみ有効になります。



帳票情報の設定については、“[9.2 印刷データの準備](#)”を参照してください。

トナー削減印刷

配信出力サーバごとに、印刷時のトナー削減率を調整し、トナーの消費量を節約することができます。



トナー削減印刷の設定方法については、“[4.10 トナー削減印刷の設定](#)”を参照してください。

印刷が完了していない帳票に対して、以下の処理が行えます。

優先度の変更

配信出力先ごとに印刷の優先度を変更できます。

印刷の取り消し

印刷を取り消すことができます。

テスト印刷

用紙交換の際に、連帳用紙で印刷位置を確認するために、任意のページを1ページだけ印刷することができます。

配信フォルダに保管されている帳票に対して、以下の処理が行えます。

印刷(再印刷)

ため置き印刷を指定して配信フォルダに保管されている帳票、および即時印刷後に配信フォルダに保管されている帳票に対して、Web配信操作クライアント(出力指示画面)で、印刷を指示することができます。開始ページ/終了ページ/部数などを指定することができます。再印刷時に、再印刷マークを印刷することができます。

帳票の表示

印刷を指示する前に、Web配信操作クライアント(出力指示画面)で帳票を表示して確認できます。List Creator互換印刷の場合は、Adobe Readerを使用して、PDFファイルで確認できます。

1.5.2 管理機能

帳票、配信出力先、配信フォルダなどの各種情報を、配信管理サーバで一元管理できます。

管理機能には、以下の機能があります。

- ・ 帳票の管理
- ・ 配信出力先の管理
- ・ 配信フォルダの管理

帳票の管理

帳票は、配信フォルダ単位に管理します。

配信フォルダ単位で帳票を一覧表示し、帳票の管理作業を行います。

配信フォルダの帳票に対して、以下の管理を行うことができます。

- 帳票の削除
- 印刷の指示ができる最大回数(最大出力回数)の変更
- 帳票状態(未出力/出力済)の変更



帳票の管理方法については、“[10.6 帳票の管理](#)”を参照してください。

配信フォルダの管理

配信フォルダに対して、以下の管理を行うことができます。

- ー 配信出力先の変更
- ー 出力動作モード(即時印刷/ため置き印刷)の変更



配信フォルダの管理方法については、“[10.7 配信フォルダの管理](#)”を参照してください。

配信出力先の管理

配信出力先に対して、以下の管理を行うことができます。

- ー 配信出力先の状態(稼働/停止)の変更



配信出力先の管理方法については、“[10.8 配信出力先の管理](#)”を参照してください。

1.5.3 監視機能

印刷配信時のトラブルに即時に対応するために、プリンタと印刷ジョブを監視できます。

印刷ジョブの監視

印刷ジョブは、印刷の指示をした直後から印刷完了までの間、配信管理サーバで管理されます。印刷ジョブを確認すると、帳票名、ページ数、出力状態などの詳細情報を参照することができます。出力状態は印刷が完了するまでの間、随時更新されます。

オペレータやシステム管理者は、印刷ジョブの状況を配信出力先ごとに監視することができます。



印刷ジョブの監視方法については、“[10.3 印刷ジョブの監視](#)”を参照してください。

プリンタの監視

帳票を配信出力サーバからプリンタに印刷しているときにエラーが発生すると、メッセージ通知クライアントに、エラーが通知されます。

さらに、プリンタの機能を利用することで、詳細なエラー通知、エラーリカバリ、および用紙の排出完了までの監視ができます。



プリンタの監視方法については、“[10.4 プリンタの監視](#)”を参照してください。
プリンタによる機能差については、“[A.1 帳票印刷配信機能のサポートプリンタ](#)”を参照してください。

1.5.4 セキュリティ機能

以下の機能で、不正操作の監視、追跡を行うことにより、情報漏えいを防止できます。

操作ログの出力

ユーザが行った帳票印刷配信機能の操作に関する履歴が、操作ログに出力されます。

操作ログを監視し、問題発生時の追跡調査を行うことにより、不正操作を検出することができます。



操作ログの確認方法については、“[10.9 操作ログの管理](#)”を参照してください。

印刷を指示できる回数の制限(最大出力回数の設定)

原本を保証するために印刷を指示できる回数を1回に制限できます。印刷を指示できる回数を制限することで、不正な印刷を防止できます。最大出力回数は、帳票登録時に帳票情報で設定します。また、帳票の登録後に、変更することもできます。



帳票情報の設定については、“[9.2 印刷データの準備](#)”を参照してください。
最大出力回数を変更する方法については、“[10.6.2 最大出力回数の変更](#)”を参照してください。

帳票の操作制限

帳票情報として帳票に作成ユーザIDを設定することで、そのユーザだけが帳票を利用できるように制限できます。



帳票の操作制限の設定方法については、“[14.2 出力指示画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

1.5.5 配信操作画面のカスタマイズ

配信操作画面のカスタマイズ

帳票の印刷の指示などの操作、印刷ジョブの操作や印刷の状態を確認するための配信操作画面を提供しています。

帳票の操作画面には、以下の2つの画面があります。

- ・ 出力指示画面
- ・ 処理状況照会画面

配信操作画面は、配信管理サーバごとにカスタマイズすることができます。

配信操作画面のカスタマイズでは、例えば、Webブラウザの表示域を変更したり、画面(1ページ分)に表示する帳票数や印刷ジョブ数を変更したり、項目の表示/非表示を切り替えたりできます。



配信操作画面については、“[第4部 GUI リファレンス](#)”を参照してください。
配信操作画面のカスタマイズについては、“[第14章 配信操作画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

出力指示画面

操作できる帳票に対して印刷を指示する画面です。

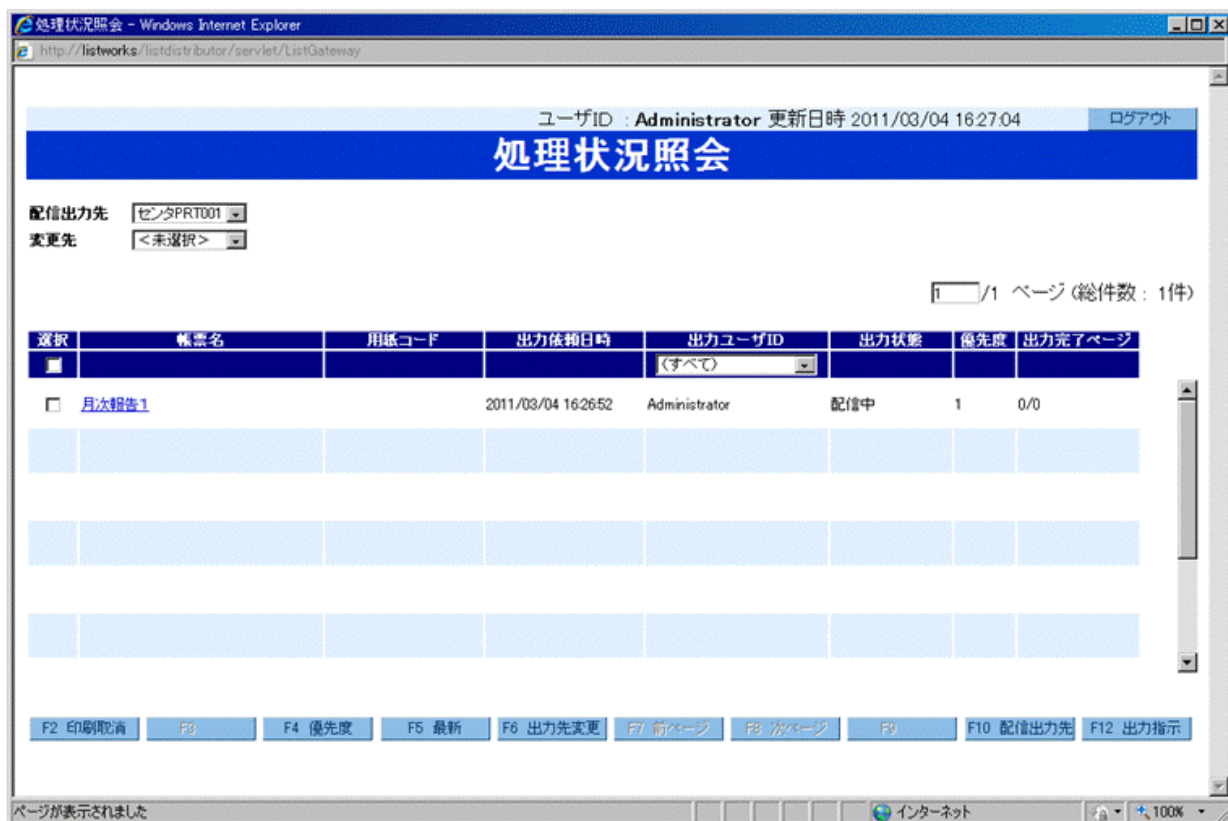
以下は、インストール初期状態の画面です。



処理状況照会画面

指定した配信出力先ごとに印刷ジョブの処理状態を照会する画面です。印刷ジョブに対して配信出力先の変更、取り消しなどができます。

以下は、インストール初期状態の画面です。



業務アプリケーションからのメニュー画面の表示

帳票印刷配信機能の操作性を向上するために、配信操作画面用のAPI(HTTPリクエスト)を提供しています。

本APIを利用することで、業務アプリケーションからログイン画面を表示しないで配信管理サーバに接続し、直接Web配信操作クライアントのメニュー画面を表示できます。また、配信フォルダ名や配信出力先名を指定することにより、出力指示画面、処理状況照会画面などで、配信フォルダや配信出力先を絞り込んで表示することもできます。



APIの詳細については、“[第15章 配信操作画面のAPI \(HTTPリクエスト\)](#)”を参照してください。

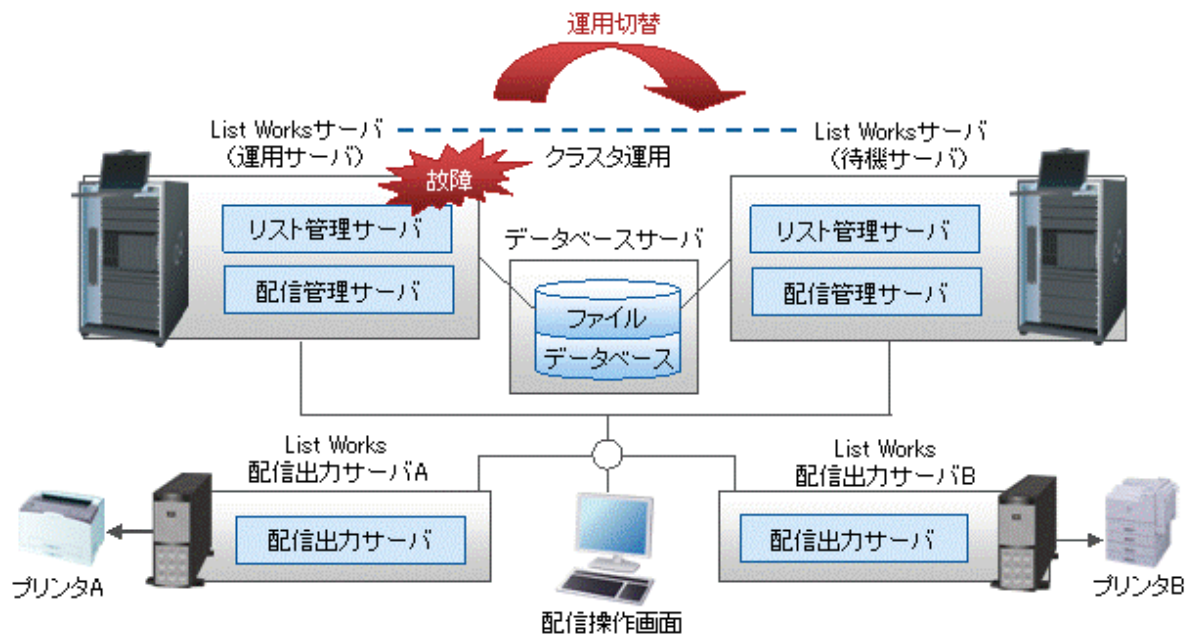
1.5.6 クラスタシステムでの運用<EEのみ>

List Works EEでは、配信管理サーバをクラスタシステム(1対1の運用待機型)で運用することができます。

クラスタシステムでは、List Worksサーバ内の配信管理サーバ、およびリスト管理サーバの状態を常に監視し、障害が発生すると自動的にフェールオーバー(処理をもう一方のサーバに引き継ぐこと)し、処理を続行します。このため、業務を継続でき、可用性の高いシステムを実現できます。



クラスタシステムでの帳票印刷配信機能の環境構築については、“[3.1.2 クラスタシステムで運用する場合の構築手順](#)”を参照してください。



帳票印刷配信機能のうち、以下の機能がフェールオーバーの対象になります。

- ・ 配信フォルダの作成、変更、削除
- ・ 配信フォルダ内の帳票の参照、印刷、削除
- ・ 配信出力先の作成、変更、削除
- ・ プリンタ構成の作成、変更、削除

受信フォルダは、フェールオーバーの対象になりません。

注意

配信出力サーバは、クラスタシステムに対応していません。クラスタシステムで運用する場合、配信出力サーバは、List Worksサーバとは別に設置したList Works配信出力サーバにインストールする必要があります。

参考

帳票印刷配信機能をクラスタシステムで運用する場合、配信データベースの配置場所は、List Worksサーバ内でも、List Worksサーバとは別のデータベースサーバでも構いません。データベースサーバを用意する場合は、それ自身の故障を考えてクラスタ運用することを推奨します。



配信データベースの環境設定については、“[3.3 配信データベースの環境設定](#)”を参照してください。
Symfowareデータベースのクラスタ運用を行う場合の環境設定の詳細は、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。
Oracleデータベースのクラスタ運用を行う場合の環境設定の詳細は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

1.5.7 配信フォルダの共有運用<EEのみ>

配信フォルダ内の資源を共有ディスクに一元管理し、複数のサーバから共有できます。

複数台のList Worksサーバで処理させることによって、個々のList Worksサーバの負荷を分散できます。

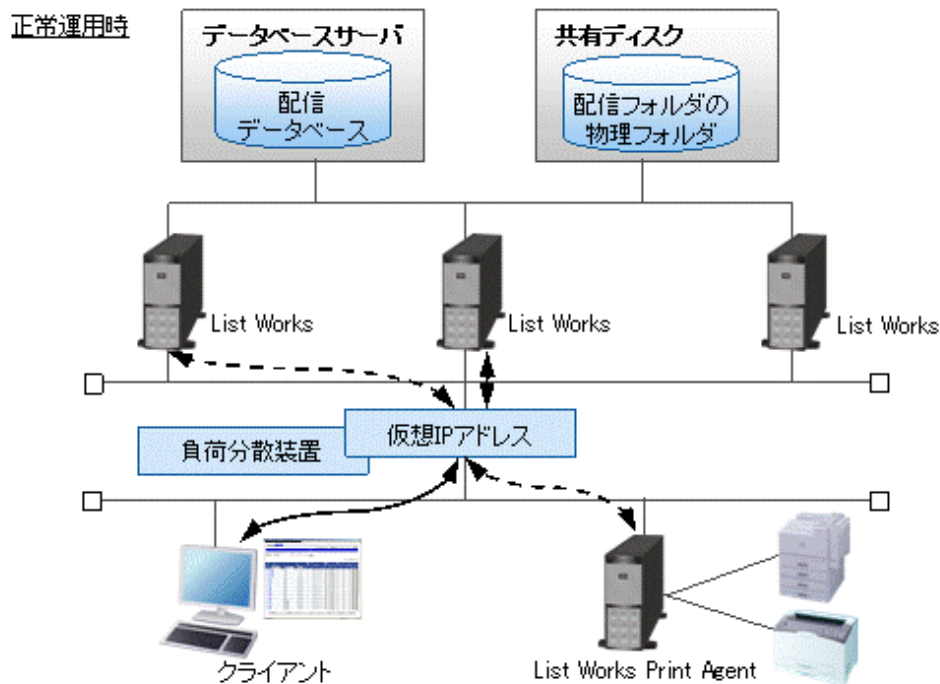
また、1台のList Worksサーバがダウンした場合でも、Web配信操作クライアントから配信管理サーバに再度ログインすることで、帳票の印刷配信の運用を停止させることなく継続できます。

配信フォルダの共有運用では、負荷分散装置を利用して複数のList Worksサーバで運用します。配信フォルダの共有運用ができるサーバは10台までです。それぞれのList Worksサーバには、リスト管理サーバおよび配信管理サーバをインストールします。

配信出力サーバおよび共有ディスクは、List Worksサーバとは別サーバに配置します。

データベースサーバは、List Worksサーバ上に作成することも可能ですが、以下を推奨します。

- List Worksサーバとは別サーバにする(配信データベースが存在するList Worksサーバがダウンした場合にシステムが停止するため)
- 上記に加えて、データベースサーバをクラスタ運用する(データベースサーバの故障に備えるため)



注意

- 配信フォルダの共有運用を行う場合、すべてのList Worksサーバに同じバージョンレベルのList Worksがインストールされている必要があります。
- 11台以上のList Worksサーバで運用する場合は、製品をご購入された際の販売会社または弊社の担当営業・SEにご相談ください。



配信フォルダの共有運用のための環境設定については、“[3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>](#)” および “[3.9 配信管理サーバの環境設定](#)” を参照してください。

1.6 システムの見積もり

帳票印刷配信機能の運用に必要なシステムの見積もりについて、説明します。

1.6.1 メモリ量

メモリ量の目安を説明します。

List Worksサーバ

帳票印刷配信機能を使用する場合に、List Worksサーバに必要なメモリ量は、以下の式で算出します。

なお、オペレーティングシステム、業務アプリケーション他に必要なメモリ量は、含まれていません。

使用メモリ量 = リスト管理サーバおよびWeb連携機能のメモリ量 + 配信管理サーバのメモリ量 + 配信出力サーバのメモリ量 (注1)

リスト管理サーバおよびWeb連携機能のメモリ量 = 768MB (Javaのヒープ域サイズ) (注2) + 256MB (Interstage Application Serverの使用量) + 256MB × 起動コンテナ数 (注3) + 800MB (保管データベースの使用量) (注4) + 印刷フォルダ内に残っている帳票数の和 × 64KB (注5) + 帳票仕分けの加算値 (注6)

配信管理サーバのメモリ量 = 256MB (印刷管理のワークユニットの使用量) + 256MB (配信操作画面のワークユニットの使用量) + 256MB (帳票登録のワークユニットの使用量) + 800MB (配信データベースの使用量) (注4) + プリンタの同時稼働数 × 5MB + 35MB (サービス「LW Transfer Service」の使用量)

配信出力サーバのメモリ量 = 256MB (帳票印刷のワークユニットの使用量) + プリンタの同時稼働数 × 5MB + 35MB (サービス「LW Transfer Service」の使用量)

注1:

List Worksサーバに、配信出力サーバを構築しない場合は不要です。

注2:

リスト管理サーバの環境設定で、Javaのヒープ域サイズに「900MB」を選択した場合は、1.2GBが必要です。

注3:

サーバレット・コンテナの数です。

サーバレット・コンテナは、サーバレットを動作させるための実行環境のことです。サーバレット・コンテナは、最大10コンテナまで起動できます。

1コンテナあたり、List Works帳票の表示画面でList Works帳票を表示できる利用者数は、最大500人です。

1コンテナあたり、List Works帳票の表示画面で、表示や検索の処理を同時に依頼できる利用者数は、最大50人です。

注4:

List Worksサーバとは別にデータベースサーバを構築する場合は、不要です。



注意

保管データベースおよび配信データベースの使用量は、List Worksに同梱しているSymfowareの使用量です。



製品版のSymfoware、Oracleを使用している場合は、各製品のマニュアルを参照してください。

注5:

帳票保管活用機能を使用する場合に必要です。

注6:

帳票仕分けを行う場合の加算値です。(List Works EEのみ)

仕分けする帳票の種類によって値が異なります。

帳票の種類	加算値
富士通ホスト帳票	$((n1 \times 128B) + (n2 \times 256B) + (n3 \times 260B) + (n4 \times 64B) + (n5 \times 64B) + 24MB) \times \text{同時受信数}$ n1: CMレコードの定義数 n2: CCレコードの定義数 n3: KFレコードの定義数 n4: KPレコードの定義数 n5: RSレコードの定義数
NetCOBOL/MeFt帳票 List Creator帳票	(注) $(24MB + ((n1 + n2) \times 2KB + 3KB) \times \text{仕分け後の帳票数}) \times \text{プロセス多重度}$ n1: 共通情報のKF/KCレコードの定義数 n2: 個別情報のKF/KCレコードの定義数(最大)

注: 加算値の最大値は 2GB です。

List Works配信出力サーバ

List Works配信出力サーバに必要なメモリ量は、以下の式で算出します。

なお、オペレーティングシステムの必要容量は含まれていません。

使用メモリ量 = 256MB (帳票印刷のワークユニットの使用量)
 + プリンタの同時稼働数 × 5MB + 35MB (サービス「LW Transfer Service」の使用量)
 + 256MB (Interstage Application Serverの使用量)

Web配信操作クライアント

Web配信操作クライアントに必要なメモリ量は、以下のとおりです。

Windows Server 2003、Windows XPの場合

256MB以上

Windows Server 2008、Windows Vista、Windows 7の場合

1GB以上

1.6.2 ディスク容量

帳票印刷配信機能を使用する場合に、必要なディスク容量の目安をコンポーネントごとに、以下に示します。

配信管理サーバ

配信管理サーバに必要なディスク容量は、以下の式で算出します。

ディスク容量

= 帳票の登録に必要な作業フォルダのディスク容量
+ 配信フォルダのディスク容量
+ 配信データベースで使用するディスク容量



帳票の登録に必要な作業フォルダのディスク容量については、“[1.6.3 帳票の登録に必要な作業フォルダのディスク容量](#)”、
配信フォルダのディスク容量については、“[1.6.4 配信フォルダのディスク容量](#)”を参照してください。
配信データベースで使用するディスク容量については、“[3.3 配信データベースの環境設定](#)”を参照してください。

配信出力サーバ

配信出力サーバに必要なディスク容量は、以下の式で算出します。

ディスク容量

= (帳票のファイルサイズ + オーバレイのファイルサイズ + 10KB) × 3 × プリンタの同時稼働数 + 30MB
帳票のファイルサイズ
= 帳票の最大ページ数 × 1ページあたりのサイズ (注)

注:1ページあたりのサイズは、富士通ホスト帳票では8KB、オープン帳票では3KBが目安です。

1.6.3 帳票の登録に必要な作業フォルダのディスク容量

帳票を配信フォルダに登録する際に、作業ファイルを作成します。作業ファイルの格納場所に必要なディスク容量は、以下の式で算出します。なお、作業ファイルは、帳票登録後に削除されます。

ディスク容量 = (印刷データの最大サイズ × 2) × 最大同時登録数

印刷データの最大サイズ = 帳票の最大ページ数 × 1ページあたりのサイズ (注)

注:1ページあたりのサイズは、富士通ホスト帳票では8KB、オープン帳票では3KBが目安です。

帳票の登録に必要な作業フォルダの初期値は、List Worksインストール先フォルダ¥Tempフォルダですが、リスト管理サーバの環境設定で変更することも可能です。変更する場合は、【リスト管理サーバ環境設定】ダイアログボックスー【資源】タブの「作業ファイル」の格納場所を変更します。



【リスト管理サーバ環境設定】ダイアログボックスについては、“[操作手引書 運用管理者編](#)”を参照してください。

1.6.4 配信フォルダのディスク容量

配信フォルダの帳票を格納するのに必要なディスク容量の目安を説明します。

運用で使用する帳票の種類によってディスク容量は異なります。そのため、運用に必要なディスク容量は、使用する帳票の各算出結果の合計になります。

配信フォルダの帳票の格納先は、印刷配信の動作環境定義ファイルの「folder.rootpath」キーに設定します。



印刷配信の動作環境定義ファイルについては、“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

List Works帳票の場合のディスク容量

以下の式で算出します。

$\begin{aligned} \text{ディスク容量} &= (\text{帳票データの最大サイズ (1ページ分)} \\ &\quad \times \text{帳票の平均ページ数} + \text{オーバーレイのファイルサイズ}) \\ &\quad \times \text{最大帳票格納数} \\ \text{帳票データの最大サイズ (1ページ分)} &= 3\text{KB} \\ \text{ドットオーバーレイのファイルサイズ} &= 0.1\text{MB} \\ \text{ベクトルオーバーレイのファイルサイズ} &= 0.01\text{MB} \end{aligned}$

List Creator互換印刷機能を使用する場合のディスク容量

以下の式で算出します。

$\begin{aligned} \text{ディスク容量} &= (\text{帳票データの最大サイズ (1ページ分)} \\ &\quad \times \text{帳票の平均ページ数} + \text{オーバーレイのファイルサイズ}) \\ &\quad \times \text{最大帳票格納数} \times 2 \\ \text{帳票データの最大サイズ (1ページ分)} &= 3\text{KB} \\ \text{オーバーレイのファイルサイズ} &= 0.01\text{MB} \end{aligned}$

第2部 環境構築

第2章 帳票印刷配信機能の環境構築手順.....	26
第3章 配信管理サーバの環境構築.....	35
第4章 配信出力サーバの環境構築.....	112
第5章 運用環境の設定.....	140
第6章 Web配信操作クライアントの環境構築.....	145
第7章 メッセージ通知クライアントの環境構築.....	147
第8章 環境の変更.....	150

第2章 帳票印刷配信機能の環境構築手順

ここでは、帳票印刷配信機能を使用するために必要な環境構築の手順について、扱う帳票ごとに説明します。

帳票印刷配信機能で扱う帳票には、以下のものがあります。

- ・ NetCOBOL/MeFt帳票またはList Creator帳票
- ・ 富士通ホスト帳票(分散印刷運用)

2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票の場合

NetCOBOL/MeFt帳票、またはList Creator帳票を扱う場合のシステム構成、および環境構築手順の概要を説明します。

2.1.1 システム構成

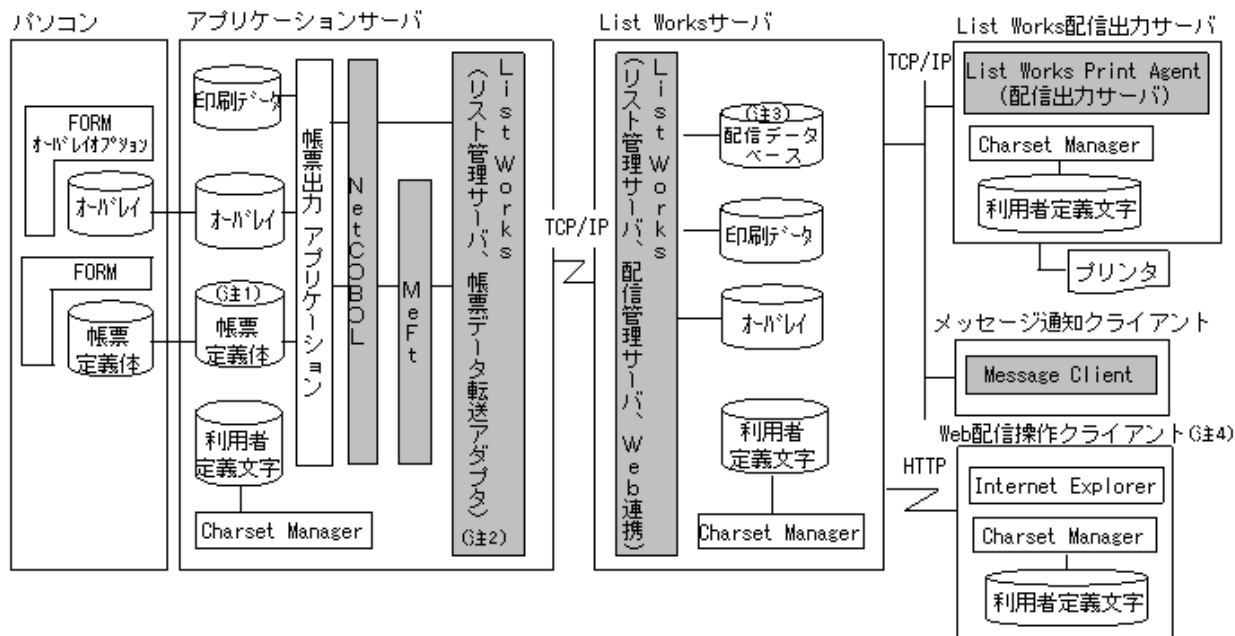
各帳票を扱う場合のシステム構成例を以下に示します。

(1) NetCOBOL/MeFt帳票

アプリケーションサーバとList Works サーバを、別サーバ機に構築するパターンと、同一サーバ機に構築するパターンがあります。

別サーバ機に構築するパターン

アプリケーションサーバとList Worksサーバを別サーバ機に構築する場合は、以下のような構成になります。



アプリケーションサーバがWindowsサーバの場合、FORMおよびFORMオーバーレイオプションは、アプリケーションサーバ上に置くことも可能です。

注1:

MeFtを経由したNetCOBOLと連携する場合に使用します。NetCOBOLと直接連携する場合は使用しません。



帳票定義体については、“運用手引書”を参照してください。

注2:

帳票の仕分けを行う場合は、アプリケーションサーバにList Works EE(リスト管理サーバ)をインストールする必要があります。ただし、リスト管理サーバの環境設定(Windows版:【リスト管理サーバ環境設定】ダイアログボックスでの設定)は不要です。この場合、List WorksサーバにインストールするList WorksのエディションはSE/EEどちらでも構いません。帳票の仕分けを行わない場合は、アプリケーションサーバに帳票データ転送アダプタをインストールします。

注3:

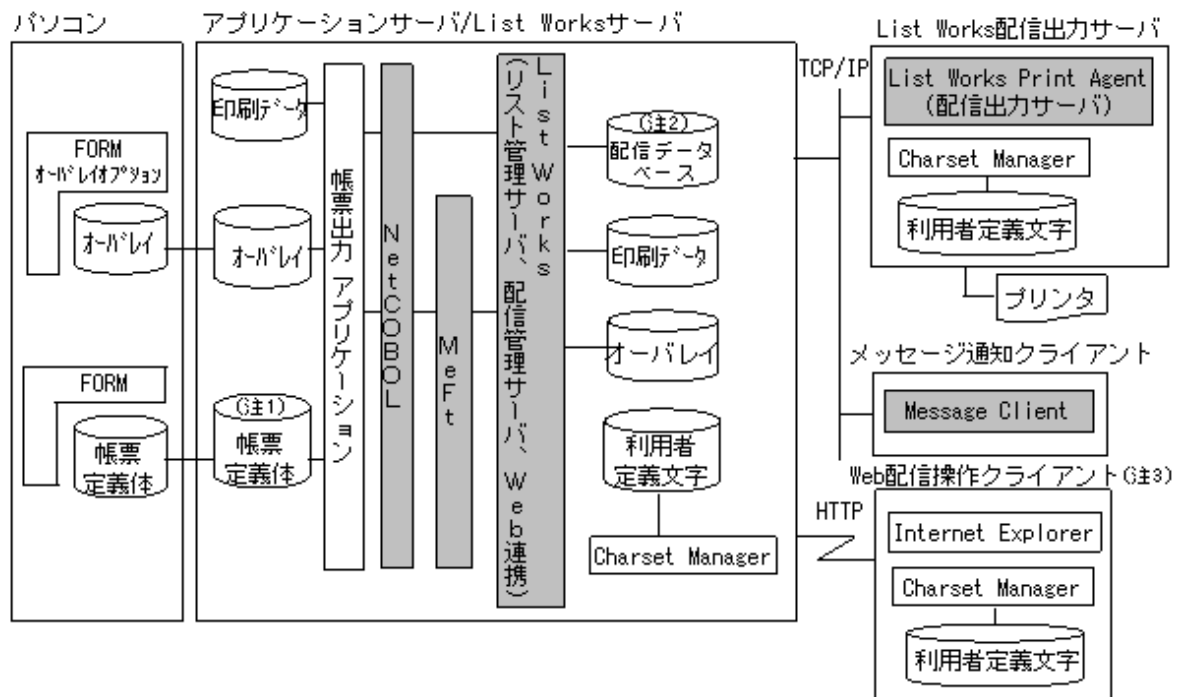
帳票およびフォルダの管理情報です。

注4:

Web配信操作クライアントを、帳票保管活用機能のWebクライアントと同一のパソコンで使用する場合、同時にそれぞれのクライアントからログインした状態で、操作することはできません。

同一サーバ機に構築するパターン

アプリケーションサーバとList Worksサーバを同一サーバ機に構築する場合は、以下のような構成になります。



配信管理サーバと配信出力サーバを同一サーバ機に構築することもできます。

注1:

Meftを経由したNetCOBOLと連携する場合に使用します。NetCOBOLと直接連携する場合は使用しません。



帳票定義体については、“運用手引書”を参照してください。

注2:

帳票およびフォルダの管理情報です。

注3:

Web配信操作クライアントを、帳票保管活用機能のWebクライアントと同一のパソコンで使用する場合、同時にそれぞれのクライアントからログインした状態で、操作することはできません。

(2) List Creator帳票

登録時にList Worksの独自形式(List Works帳票)に変換されたList Creator帳票のシステム構成について、説明します。

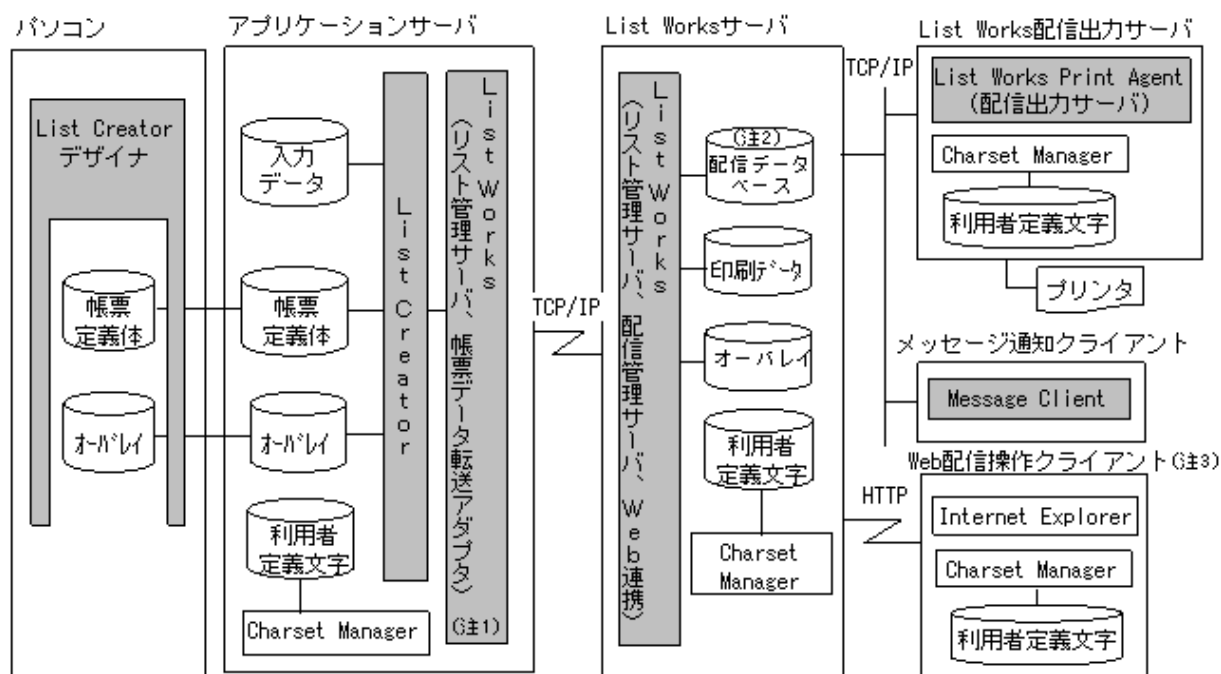


List Creator互換印刷機能を使用する際のシステム構成については、“[0.1.1 システム構成](#)”を参照してください。

アプリケーションサーバとList Worksサーバを、別サーバ機に構築するパターンと、同一サーバ機に構築するパターンがあります。

別サーバ機に構築するパターン

アプリケーションサーバとList Worksサーバを別サーバ機に構築する場合は、以下のような構成になります。



注1:

帳票の仕分けを行う場合は、アプリケーションサーバにList Works EE(リスト管理サーバ)をインストールする必要があります。ただし、リスト管理サーバの環境設定(Windows版:【リスト管理サーバ環境設定】ダイアログボックスでの設定)は不要です。この場合、List WorksサーバにインストールするList WorksのエディションはSE/EEどちらでも構いません。帳票の仕分けを行わない場合は、アプリケーションサーバに帳票データ転送アダプタをインストールします。

注2:

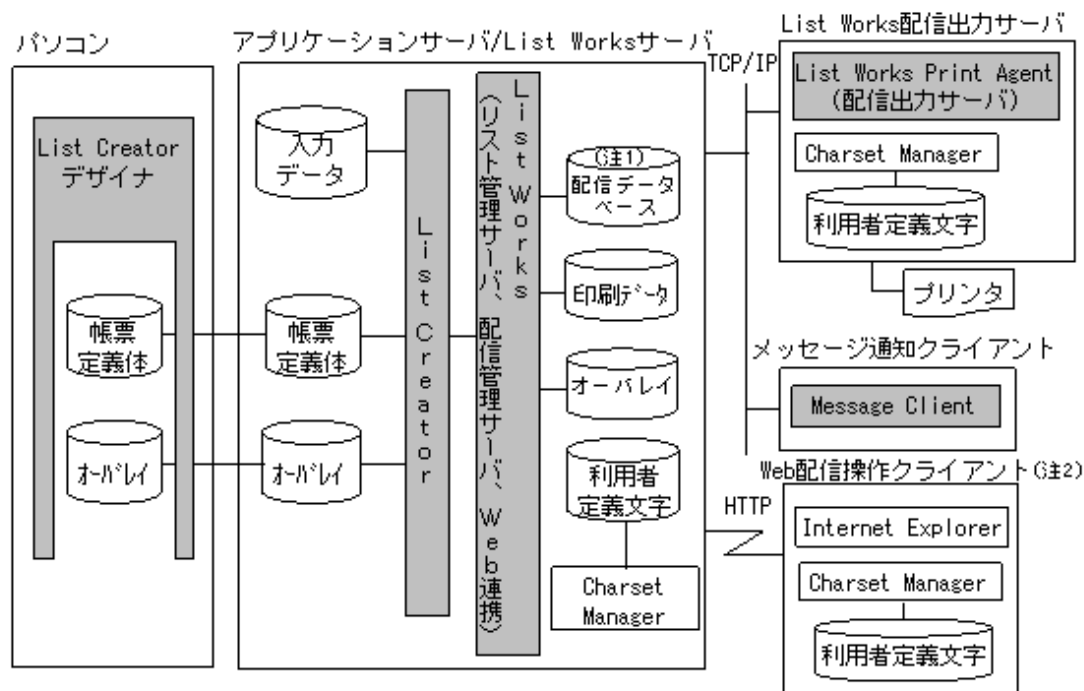
帳票およびフォルダの管理情報です。

注3:

Web配信操作クライアントを、帳票保管活用機能のWebクライアントと同一のパソコンで使用する場合、同時にそれぞれのクライアントからログインした状態で、操作することはできません。

同一サーバ機に構築するパターン

アプリケーションサーバとList Worksサーバを同一サーバ機に構築する場合は、以下のような構成になります。



注1:

帳票およびフォルダの管理情報です。

注2:

Web配信操作クライアントを、帳票保管活用機能のWebクライアントと同一のパソコンで使用する場合、同時にそれぞれのクライアントからログインした状態で、操作することはできません。

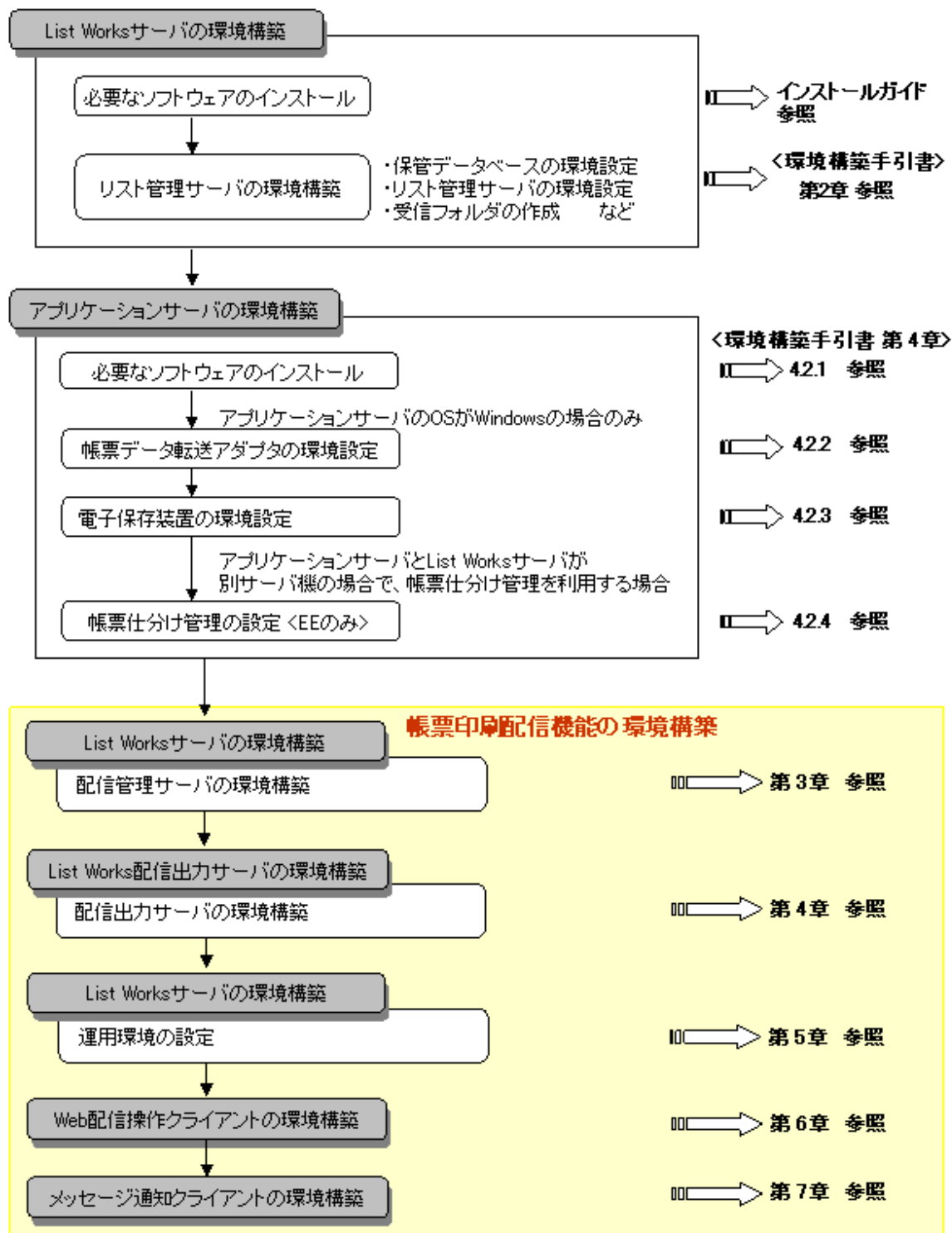
配信管理サーバと配信出力サーバを同一サーバ機に構築することもできます。

2.1.2 構築手順

NetCOBOL/MeFt 帳票またはList Creator 帳票を扱う場合の環境構築の手順について、説明します。

帳票印刷配信機能の環境構築は、リスト管理サーバや保管データベースの環境設定、およびアプリケーションサーバの環境構築を行った後で実施します。

環境構築の流れを、以下に示します。



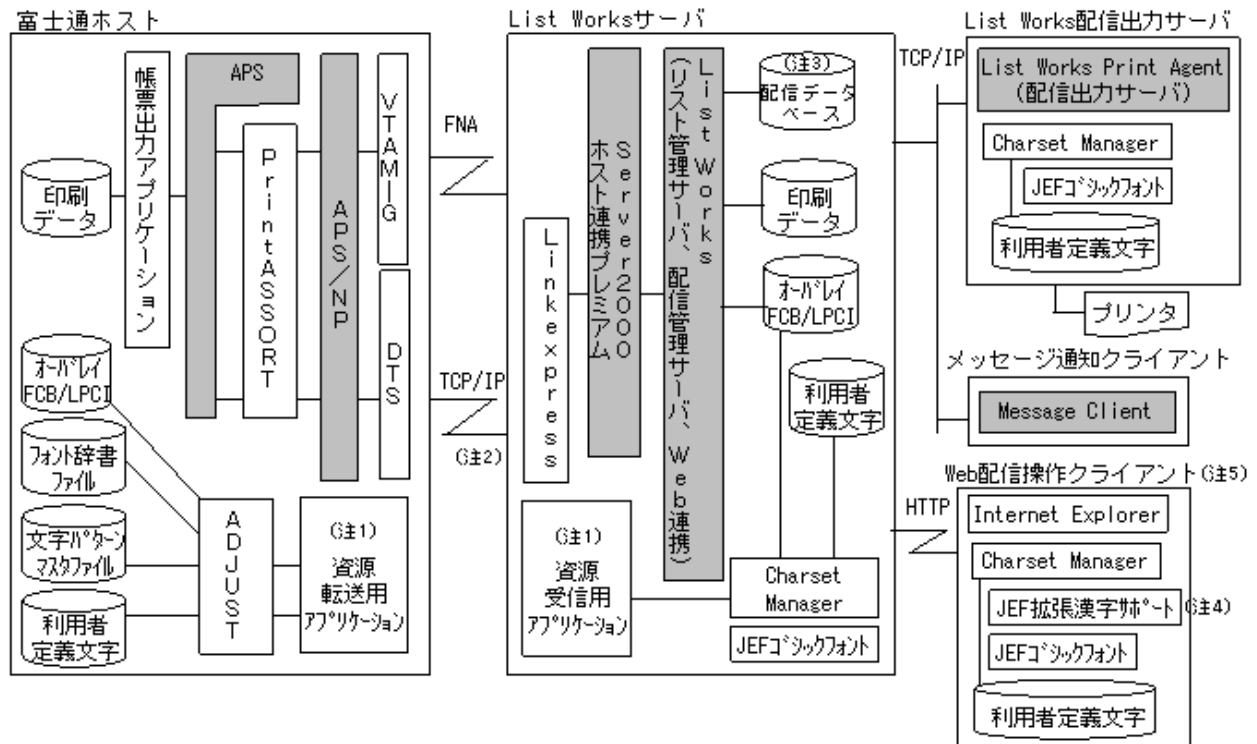
リスト管理サーバの環境構築およびアプリケーションサーバの環境構築については、“環境構築手引書”を参照してください。

2.2 富士通ホスト帳票の場合

富士通ホスト帳票を扱う場合のシステム構成、および環境構築手順の概要を説明します。

2.2.1 システム構成

富士通ホスト帳票を分散印刷運用で扱う場合のシステム構成例を、以下に示します。



配信管理サーバと配信出力サーバを同一サーバ機に構築することもできます。

注1:

資源転送用アプリケーション、資源受信用アプリケーションの対応関係を以下に示します。

資源転送用アプリケーション (富士通ホスト)	資源受信用アプリケーション (List Worksサーバ)	FNA	TCP/IP
PLOP/X	Server2000ホスト連携プレミアム	△	×
CharsetMGR	WSMGR		×
DRMS	Systemwalker CentricMGR(マネージャ)または Systemwalker SoftDelivery		△
ファイル転送ソフト(FTPなど)	ファイル転送ソフト(FTPなど)		

△: どれか1つを選択

×: 利用不可

注2:

印刷データをTCP/IP通信で転送する場合に、Linkexpressが必要です。

注3:

帳票およびフォルダの管理情報です。

注4:

JEF拡張漢字をWindowsの外字に移入した場合に、JEF拡張漢字サポートが必要です。

注5:

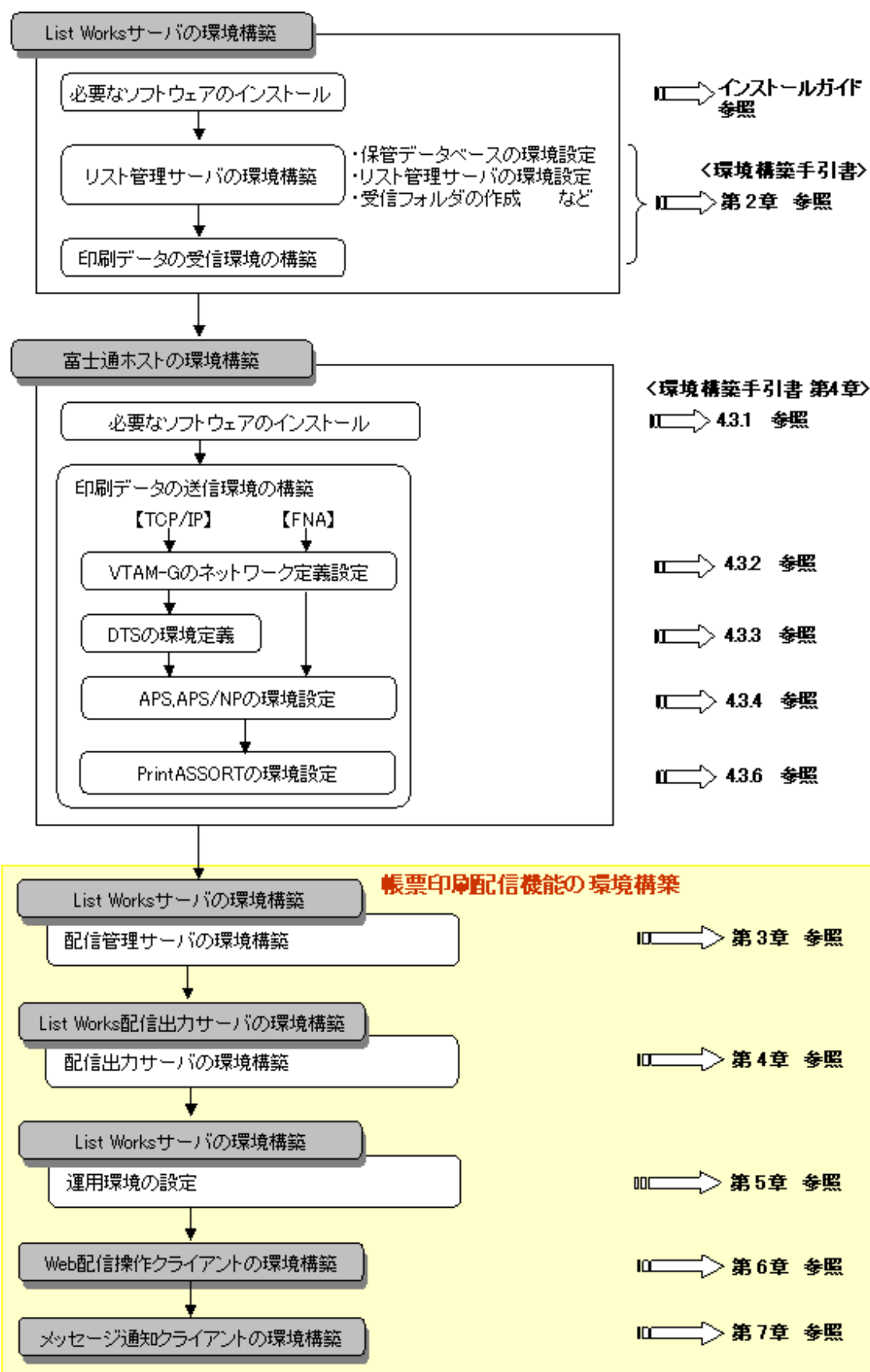
Web配信操作クライアントを、帳票保管活用機能のWebクライアントと同一のパソコンで使用する場合、同時にそれぞれのクライアントからログインした状態で、操作することはできません。

2.2.2 構築手順

富士通ホスト帳票を分散印刷運用で扱う場合の環境構築の手順について、説明します。

帳票印刷配信機能の環境構築は、リスト管理サーバや保管データベースの環境設定、および富士通ホストの環境構築を行った後で実施します。

環境構築の流れを、以下に示します。





リスト管理サーバの環境構築および富士通ホストの環境構築については、“環境構築手引書”を参照してください。

第3章 配信管理サーバの環境構築

ここでは配信管理サーバの環境構築について説明します。

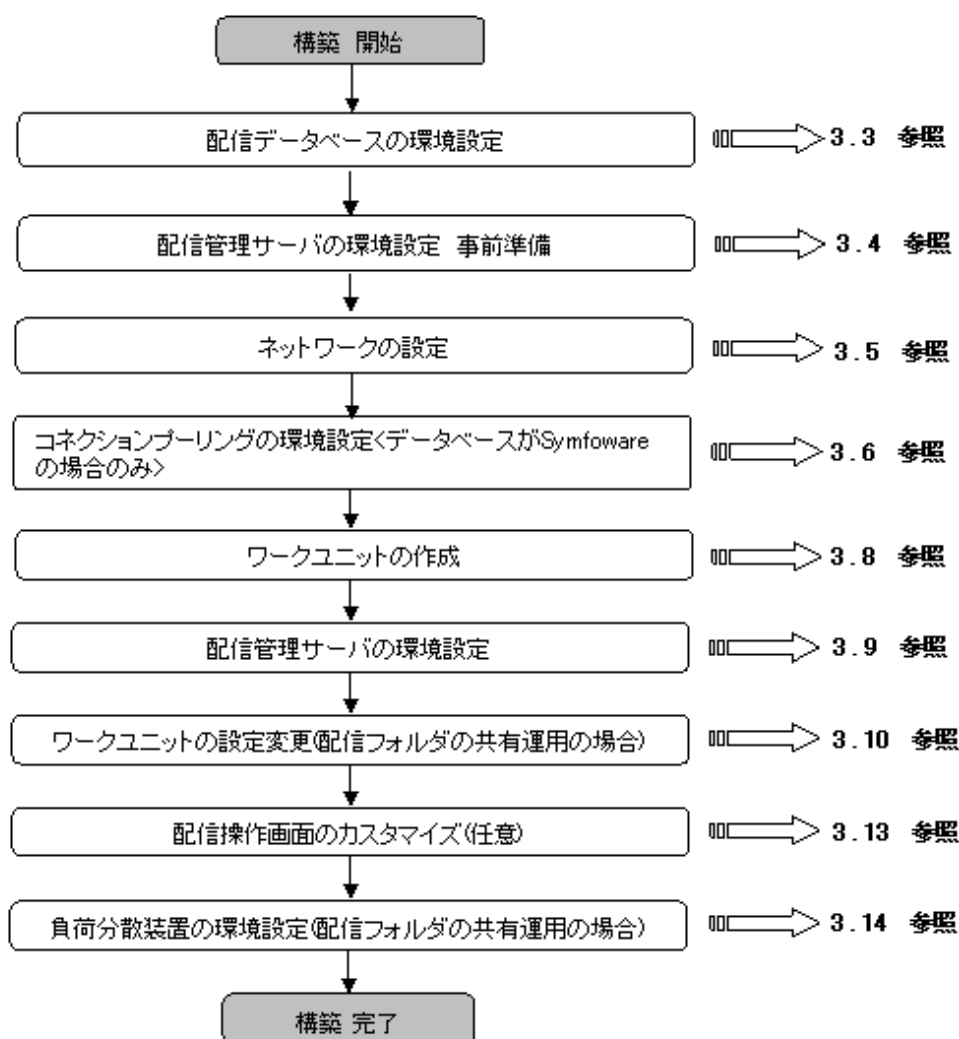
3.1 配信管理サーバの環境構築手順

配信管理サーバの環境構築の手順と参照先を以下に示します。

3.1.1 構築手順

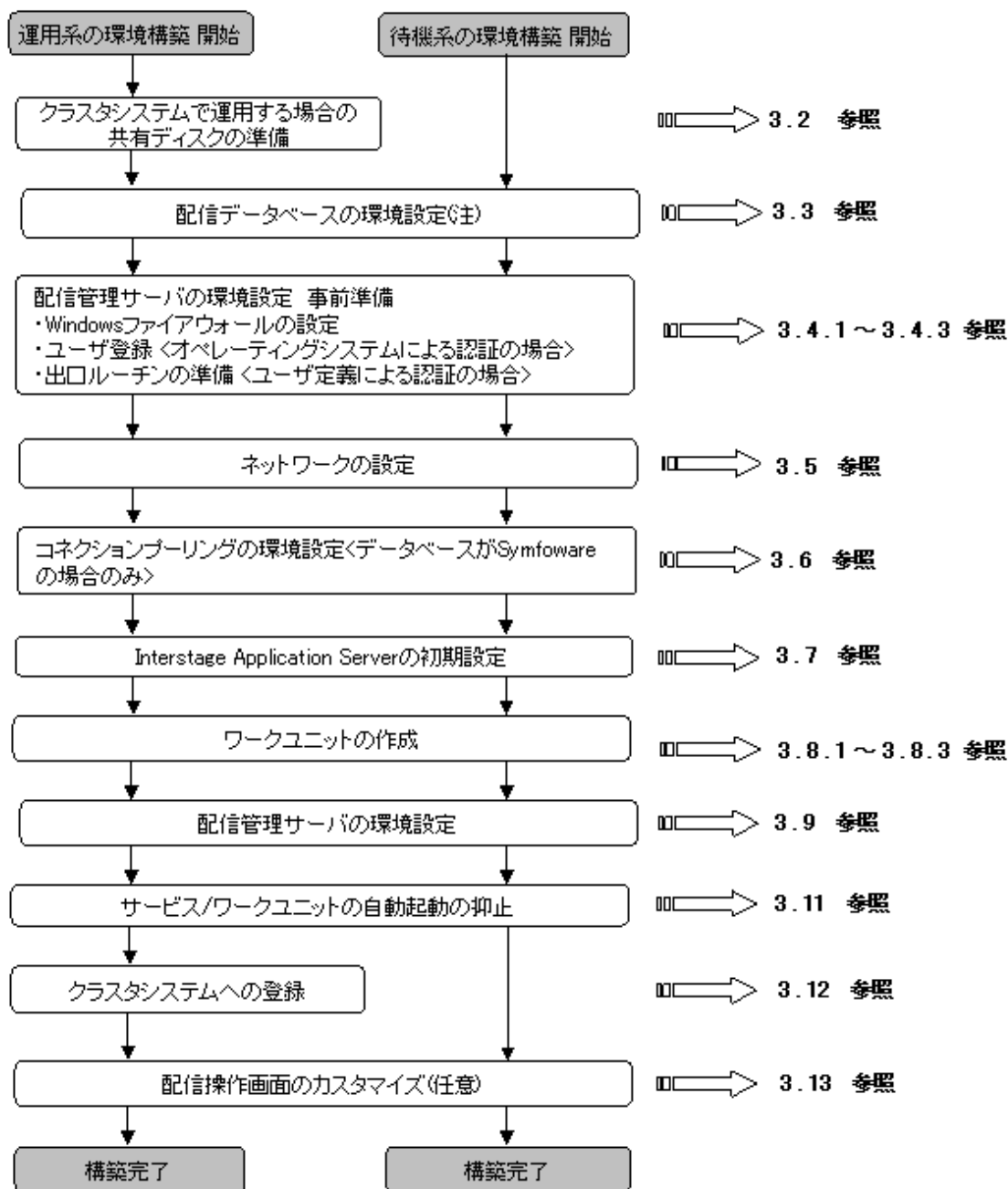
配信管理サーバの構築手順と参照先を以下に示します。

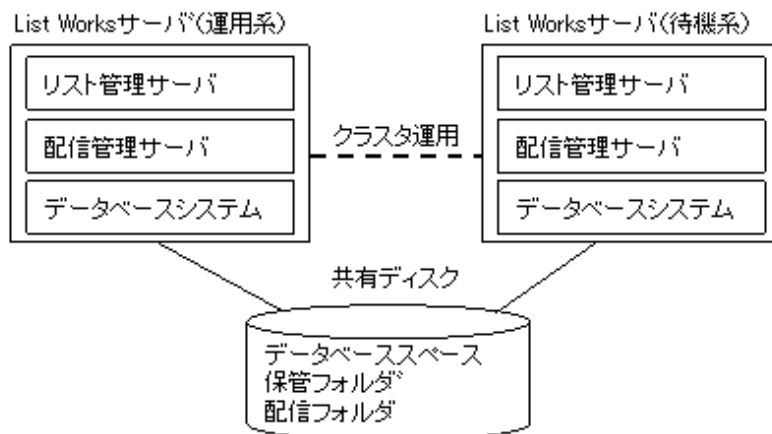
配信フォルダの共有運用を行う場合、配信管理サーバの環境設定は、すべてのサーバで同じ設定をします。また、すべてのサーバで時刻を合わせます。時刻が異なると印刷順序が保証されません。



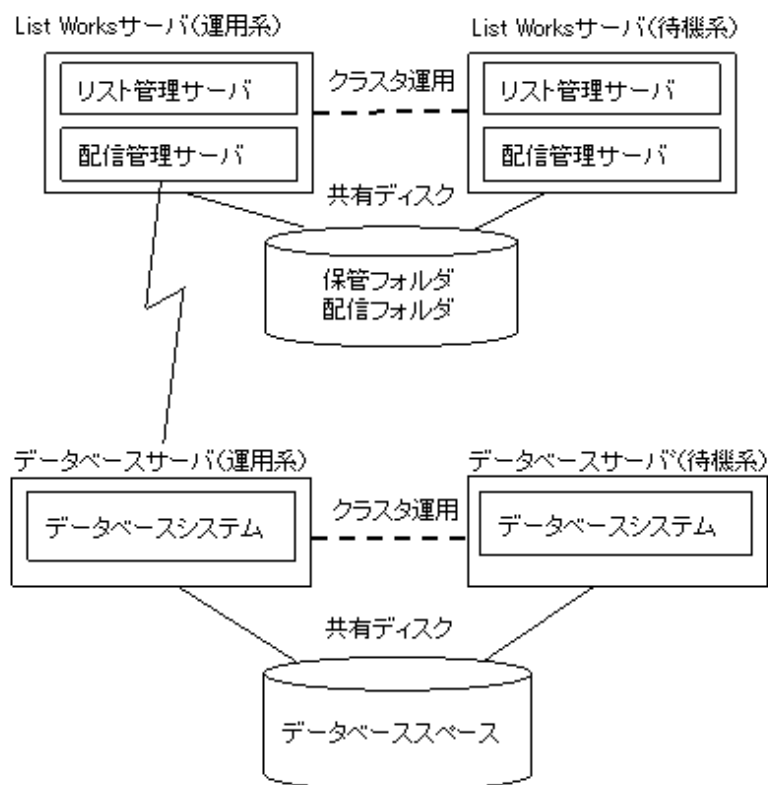
3.1.2 クラスタシステムで運用する場合の構築手順

List Worksの帳票印刷配信機能をクラスタシステムで運用する場合の構築手順を以下に示します。各ノード(運用系と待機系)で設定していきます。各作業の詳細については、参照箇所を示していますので、そちらを参照してください。





データベースサーバとして、別サーバ機に配置する場合は、データベースサーバもクラスタシステムで運用することを推奨します。



データベースサーバをList Worksサーバとは別のサーバ機に配置し、データベースサーバをクラスタシステムで運用しない場合、保管データベースおよび配信データベースの構築は、非クラスタシステムでの構築と同様になります。

注意

共有ディスクの準備では、以下のことに留意してください。

- 配信管理サーバをクラスタシステムで運用する場合は、リスト管理サーバもクラスタシステムで運用してください。
- 配信フォルダの帳票を格納するフォルダ配下には、ファイルやフォルダを格納しないでください。

3.2 クラスタシステムで運用する場合の共有ディスクの準備<EEのみ>

3.2.1 共有ディスクの準備

クラスタシステムで運用する場合は、NTFSでフォーマットされた共有ディスクを用意します。

共有ディスクに、配信フォルダを格納するためのフォルダを作成します。フォルダを作成する場所は、フォルダのパスが100バイト以内になるようにします。

List Worksサーバのアクセス権

共有ディスクにアクセスできるように、以下に対してフルコントロールのアクセス権が設定されている必要があります。

- List Worksサービスのログオンアカウント(注)
- サービス「LW Transfer Service」のログオンアカウント(注)
- サービス「TransactionDirector」のログオンアカウント(注)
- サービス「INTERSTAGE」のログオンアカウント(注)
- サービス「Interstage Operation Tool」のログオンアカウント(注)
- FUJITSU 帳票管理サービスのログオンアカウント(注)
- 帳票配信サービスのログオンアカウント(注)
- 配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドを実行するユーザ(管理者権限)
- 帳票出力アプリケーションの実行ユーザ(List Creator互換印刷機能を利用する場合)
- List Works帳票を表示するユーザ

注:ログオンアカウントにシステムアカウントが設定されている場合は、SYSTEMに対しフルコントロールのアクセス権を設定します。

3.2.2 共有ディスクのクラスタシステムへの登録

配信データベースサービスおよび配信フォルダで使用する共有ディスクをクラスタシステムに登録します。運用ノードで実施します。



クラスタシステムの構築は、Windows Server 2008 R2を基本に説明しています。

Windows Server 2003のクラスタシステムを構築する場合は、“Windowsシステムのマニュアル”を参照してください。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】－【フェールオーバー クラスタ マネージャー】をクリックします。
→【フェールオーバー クラスタ マネージャー】画面が表示されます。
2. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名を選択した状態で、右クリックし、メニューより「記憶域の追加」をクリックします。
→【記憶域の追加】ダイアログボックスが表示されます。
3. 配信データベースおよび配信フォルダで使用する「クラスタディスク」を選択し、【OK】ボタンをクリックします。
→作成した「クラスタ ディスク」が「ディスクドライブ」に追加されます。
4. 追加された「クラスタ ディスク」を右クリックして表示されるメニューで、「プロパティ」を選択します。
→【“クラスタ ディスク”のプロパティ】画面が表示されます。

5. 【“クラスター ディスク”のプロパティ】画面で以下を設定し、【OK】ボタンをクリックします。

ー 【依存関係】タブ

リソース一覧より「ネットワーク名」を選択します。

3.3 配信データベースの環境設定

List Worksの資源は、データベースにて管理します。帳票印刷配信機能を使用する場合は、保管データベースと配信データベースの2つのデータベースを構築します。

データベースシステムは、SymfowareまたはOracleを使用します。配信データベースは、保管データベースと同じデータベースシステムを使用してください。データベースシステムにより、環境設定手順が異なります。

ここでは、配信データベースの環境設定について、使用するデータベースシステムごとに説明します。

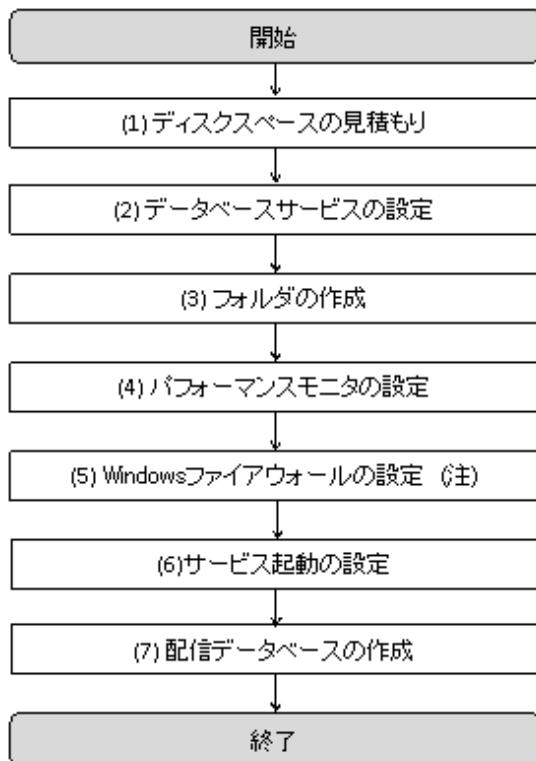


保管データベースの環境設定については、“環境構築手引書”を参照してください。

3.3.1 Symfowareデータベースの環境設定

Symfowareデータベースの環境構築について説明します。データベースの環境構築は、管理者で行います。

以下の手順で配信データベースの環境構築を行います。



注:

配信データベースがList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に存在する場合のみ、行う作業です。配信データベースがList Worksサーバに存在する場合は、行う必要はありません。

配信データベースの環境構築は、データベースをList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に構築する場合は、データベースサーバで行います。

配信データベースをList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に用意する場合は、クラスタシステムを使用してデータベースをクラスタ運用することを推奨します。



Symfowareデータベースのクラスタ運用を行う場合の環境設定の詳細は、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

(1) ディスクスペースの見積もり

配信データベースの運用に必要なディスク容量の見積もりは、Database見積もりツールを使用して行います。見積もりによって求めた値は、“(7) 配信データベースの作成”で使します。

Database見積もりツール(dbmitsumori.xls)は、以下に格納されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥db

(2) データベースサービスの設定

Symfoware付属のセットアップツールを使用して、以下の手順でデータベースサービスの設定を行います。

手順1: RDBシステム セットアップの起動

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】—【Symfoware Server Enterprise Edition】—【RDBシステム セットアップ】からRDBシステムセットアップを起動します。

→【Symfoware RDB-System Setup】ダイアログボックスが表示されます。



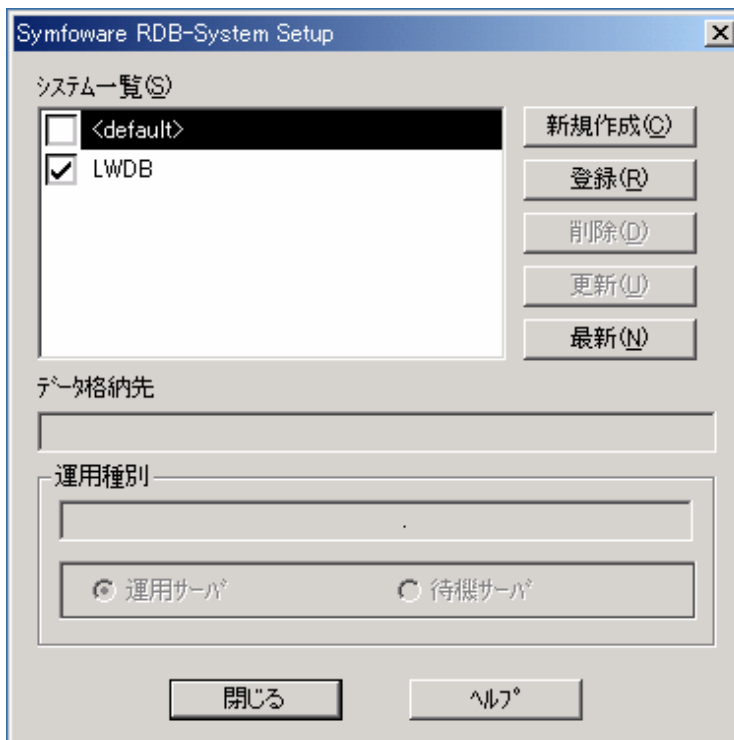
参考

Symfoware Server V10 を使用している場合、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行し、RDB システムセットアップを起動します。

Symfowareのサーバ機能のインストール先¥SYSSETUP.EXE



詳細については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。



【Symfoware RDB-System Setup】ダイアログボックスの【新規作成】ボタンをクリックして、入力画面を表示させます。

手順2: RDBシステム名、データ格納先の設定

【Symfoware RDB-System Setup】ダイアログボックスの入力画面で、以下の情報について値を設定します。

RDBシステム名

LWLDSTDB

データ格納先

RDBシステムのログファイル、ディクショナリファイル(データベースの定義情報を格納するファイル)を格納する場所(任意の格納場所)を指定します。

例) C:\LWLDSTDB

クラスタ運用する場合は、共有ディスク(「フェールオーバー クラスタ マネージャー」で定義したディスク)を指定します。

運用種別

クラスタ運用しない場合:「クラスタシステムを使用しない」が指定されていることを確認します。

クラスタ運用する場合:「MSCSを使用する」を指定します。運用系の場合は「運用サーバ」、待機系の場合は「待機サーバ」をチェックします。



【OK】ボタンをクリックします。

→【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスが表示されます。

注意

- 「データ格納先」は、ファイルシステムがNTFSである必要があります。
- 「データ格納先」には、Database見積もりツールで算出された空き容量が必要です。
- データベーススペースを作成するドライブのプロパティとして、「ドライブを圧縮してディスク領域を空ける」を設定しないでください。
ドライブを圧縮すると、通常のI/O処理と比較して性能上のオーバーヘッドが発生します。オーバーヘッドが発生することにより、I/O量に依存してOSリソース不足によるアクセスエラーが発生します。
- データベーススペースを作成するフォルダのプロパティとして【全般】タブにある【詳細設定】ボタンをクリックすると表示されるダイアログボックスで、「圧縮属性または暗号化属性」を設定しないでください。
圧縮属性を設定すると、ドライブ圧縮と同様に通常のI/O処理と比較して性能上のオーバーヘッドが発生します。オーバーヘッドが発生することにより、I/O量に依存してOSリソース不足によるアクセスエラーが発生します。
暗号化属性を設定すると、Symfoware/RDBで使用する各資源の作成者とSymfowareサービス起動で動作するSymfoware Serverプロセスの実行者(ユーザ登録されないWindowsシステムユーザ)が異なるため、暗号解除ができずアクセスエラーが発生します。
- 配信データベースを再構築する場合は、次のメッセージが出力されますが、いずれの場合も「はい」を選択し、処理を続行させてください。
 - 「データ格納先が既に存在しています。このまま続行すると、以降の処理が失敗することがあります。処理を続行しますか？」
 - 「以下のファイルが既に存在します。上書きしますか？」

参考

- RDBシステム名(LWLDSTDB)は、原則、固定です。Symfowareを設定する際に、既存のRDBシステム名に「LWLDSTDB」が使われていない場合は、変更する必要はありません。すでにSymfowareを使用してマルチRDB運用を行っている場合に、設定する「RDBシステム名」が重複するようでしたら、重複しない「RDBシステム名」を設定してください。
- 「データ格納先」について、ハード障害時に備えて、リスト管理サーバのインストール先とは別のディスクを指定することを推奨します。

手順3:【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスの設定

配信データベースの環境設定に必要なタブの設定をします。その他のタブについては、環境設定には関係ないため、設定する必要はありません。



環境に合わせて配信データベースの規模を見積もっている場合においても、各タブの値を変更する必要はありません。

【多重度】タブの設定

【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスの【多重度】タブの入力画面で、以下の情報について値を設定します。

ローカルアクセス数、リモートアクセス数

2台以下の配信管理サーバで配信フォルダの共有運用をする場合は、初期値「256」を設定します。

3台以上の配信管理サーバで配信フォルダの共有運用をする場合は、以下の方法で計算した値を設定します。

100(注) × サーバ台数

注:1台の配信管理サーバのサーバ処理に必要なセッション数

10台接続する場合の例:100セッション×10台 = 1000

リモートアクセスで使用するポート番号

通常は2056を設定します。

2056が使用されている場合は、以下の範囲で未使用の値を設定してください。

- Symfoware Server V9を使用している場合

1024～65535

- Symfoware Server V10を使用している場合

Windows Server 2003の場合:5001～49151

Windows Server 2008またはWindows Server 2008 R2の場合:1024～49151

ローカルアクセス数、リモートアクセス数、リモートアクセスで使用するポート番号を設定したら、【計算】ボタンをクリックして、RDB構成パラメタの値を更新します。

入力したポート番号を記録しておきます。このポート番号は、以下の設定で配信データベースのポート番号を指定するときに使用します。

- 印刷配信の環境設定の、「db.port」キー
- コネクションプーリングの環境設定の、JDBCデータソース登録ツール



印刷配信の環境設定については、“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

【RDB構成パラメタ】タブの設定

【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスの【RDB構成パラメタ】タブは、RDB構成パラメタファイルに関する情報を設定するタブです。

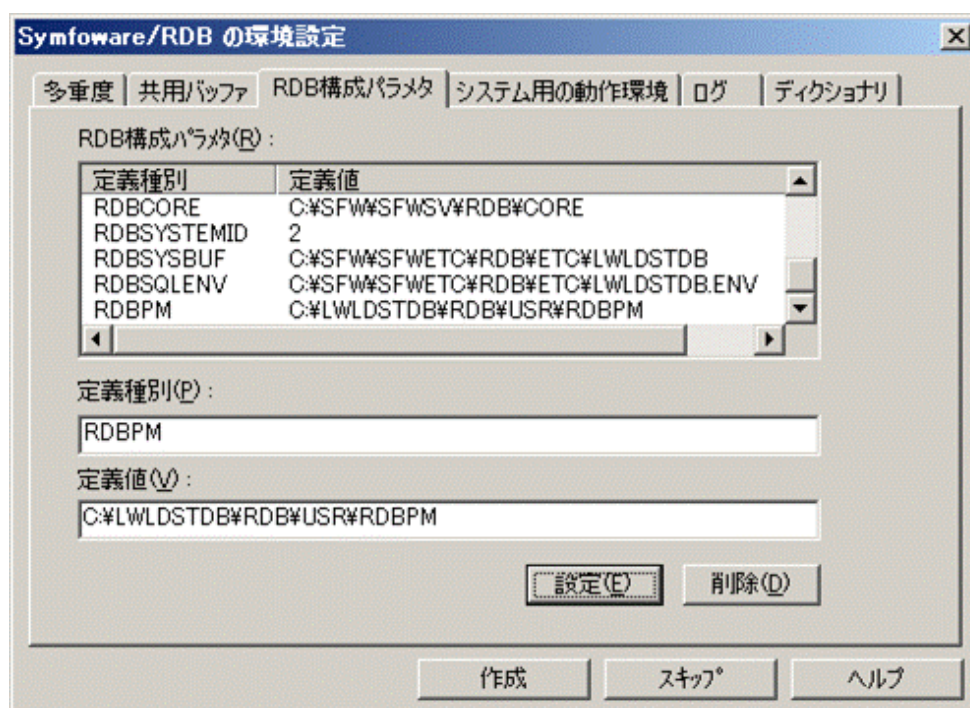
1. RDB構成パラメタ「RDBPM」を設定します。

RDB構成パラメタ一覧から「RDBPM」を選択します。「定義値」にパフォーマンスデータ格納ファイルの配置先フォルダを設定し、【設定】ボタンをクリックします。通常は以下の値で作成しますが、データベースをクラスタ運用する場合は、ローカルディスクを指定してください。

定義値: データ格納先¥RDB¥USR¥RDBPM

データ格納先は、“[手順2: RDBシステム名、データ格納先の設定](#)”で指定した値です。

パフォーマンスデータ格納ファイルの配置先フォルダには、500MB以上の空き容量が必要です。



2. RDB構成パラメタ「RDBREPORT」を設定します。

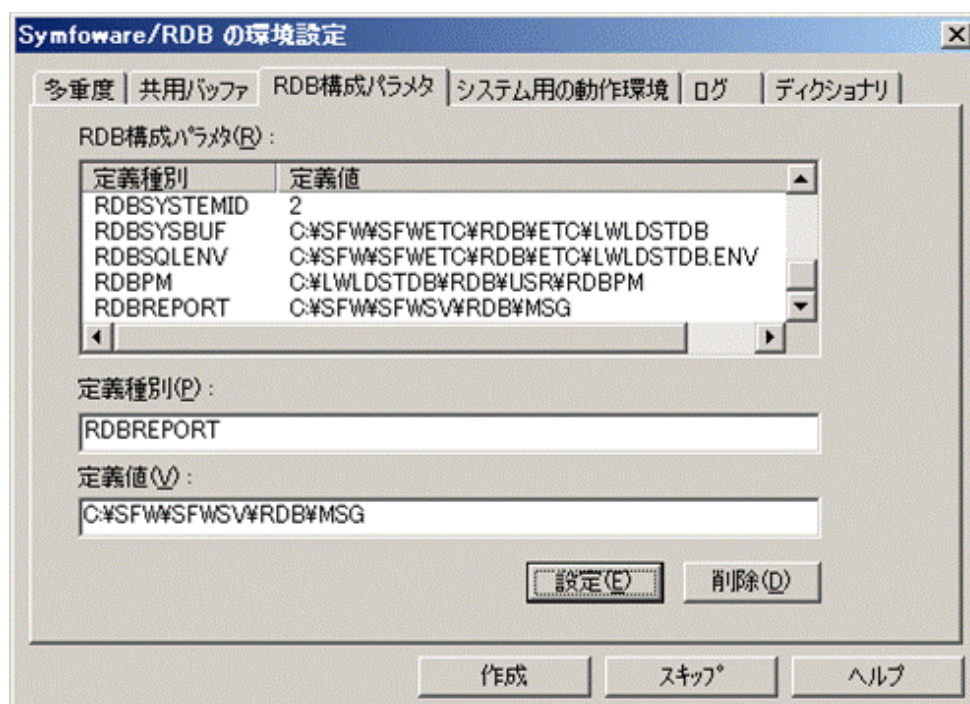
メッセージログファイルの配置先フォルダとして以下を設定し、【設定】ボタンをクリックします。

定義種別: RDBREPORT

定義値: Symfoware Serverサーバ機能のインストール先フォルダ¥RDB¥MSG

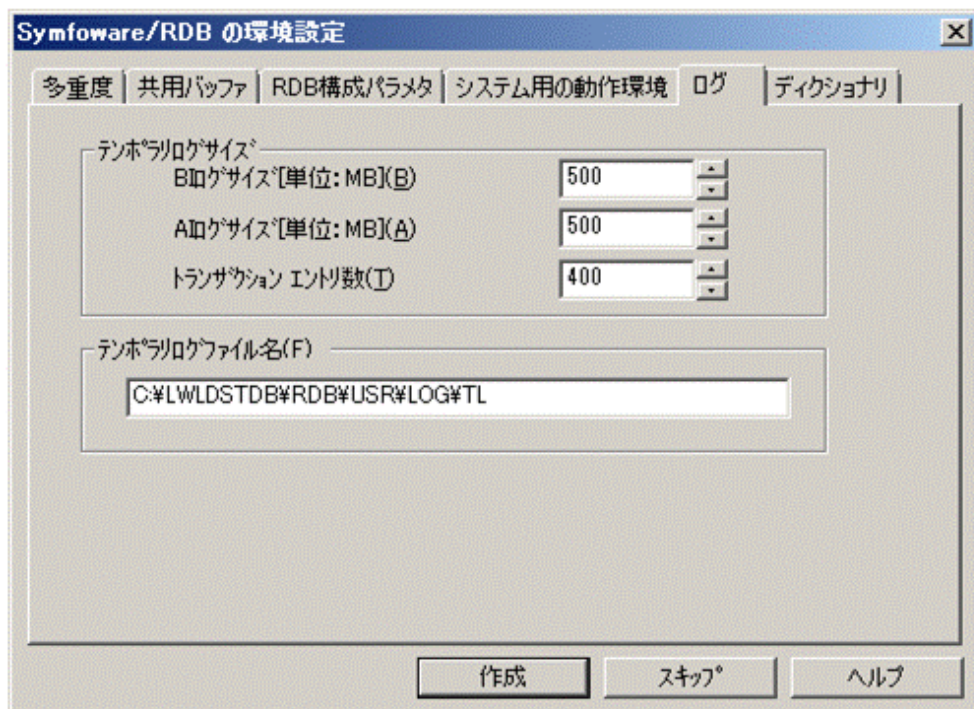
例) C:\SFWSV\SFW\RDB\MSG

メッセージログファイルの配置先フォルダには、30MB以上の空き容量が必要です。



【ログ】タブの設定(データベースをクラスタ運用する場合)

【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスの【ログ】タブで、テンポラリログファイル名に共有ディスク(クラスターディスク)が設定されていることを確認します。運用ノードで実施します。



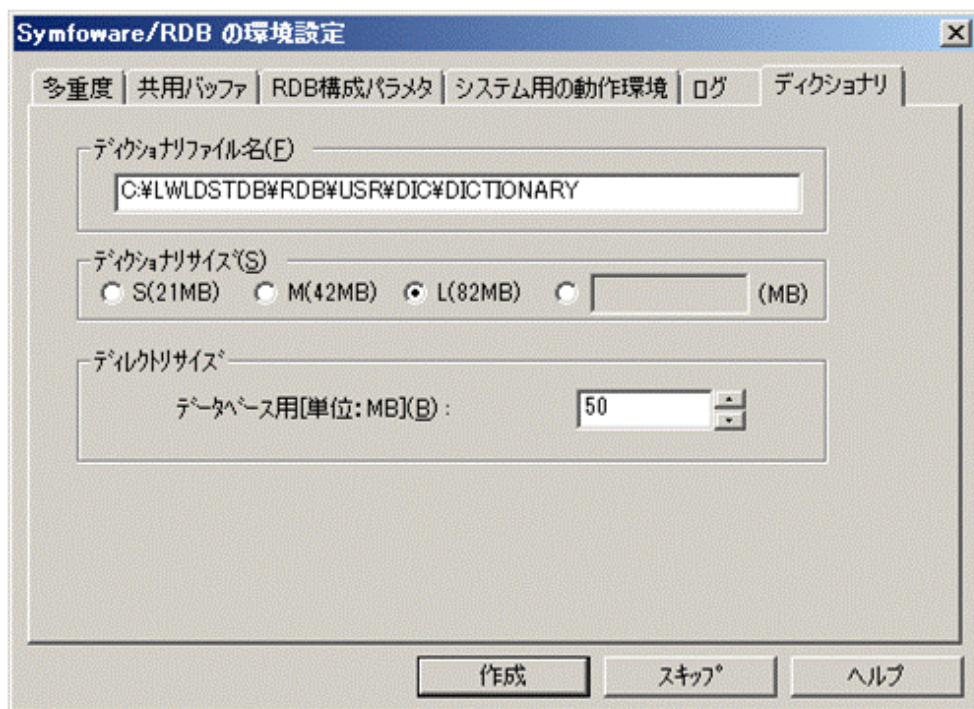
The image shows the 'Symfoware/RDB 環境設定' (Symfoware/RDB Environment Settings) dialog box with the 'ログ' (Log) tab selected. The dialog has several tabs: '多重度', '共用バッファ', 'RDB構成/パラメタ', 'システム用の動作環境', 'ログ', and 'ディクショナリ'. The 'ログ' tab contains the following settings:

- テンポラリログサイズ** (Temporary Log Size):
 - Bロクサイズ[単位: MB](B): 500
 - Aロクサイズ[単位: MB](A): 500
 - トランザクション エントリ数(T): 400
- テンポラリログファイル名(F)** (Temporary Log File Name): C:\LWLDSTDB\RDB\USR\LOG\TL

At the bottom of the dialog are three buttons: '作成' (Create), 'スキップ' (Skip), and 'ヘルプ' (Help).

【ディクショナリ】タブの設定(データベースをクラスタ運用する場合)

【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスの【ディクショナリ】タブで、ディクショナリファイル名に共有ディスク(クラスターディスク)が設定されていることを確認します。運用ノードで実施します。



The image shows the 'Symfoware/RDB 環境設定' (Symfoware/RDB Environment Settings) dialog box with the 'ディクショナリ' (Dictionary) tab selected. The dialog has the same tabs as the previous image. The 'ディクショナリ' tab contains the following settings:

- ディクショナリファイル名(E)** (Dictionary File Name): C:\LWLDSTDB\RDB\USR\DIC\DICTIONARY
- ディクショナリサイズ(S)** (Dictionary Size):
 - ☐ S(21MB) ☐ M(42MB) ☒ L(82MB) ☐ (MB)
- ディレクトリサイズ** (Directory Size):
 - データベース用[単位: MB](B): 50

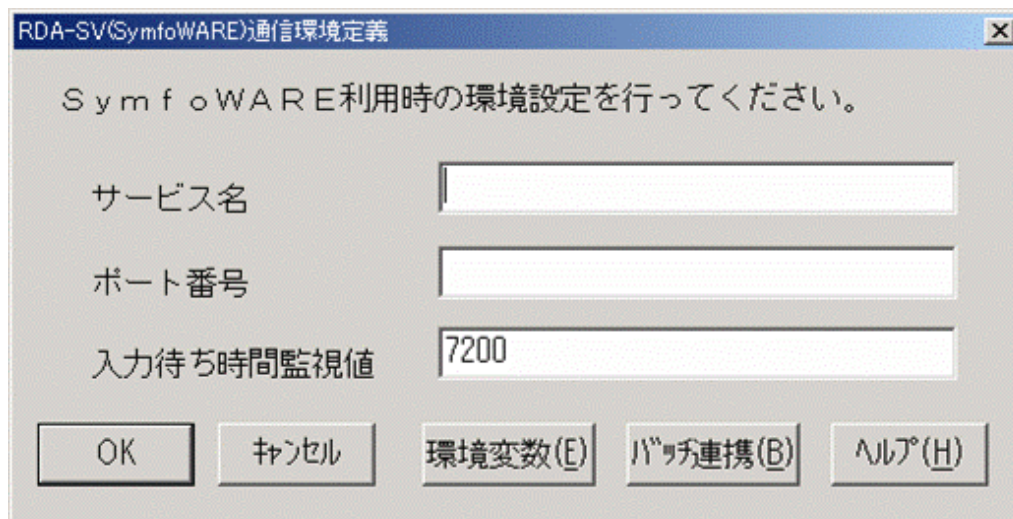
At the bottom of the dialog are three buttons: '作成' (Create), 'スキップ' (Skip), and 'ヘルプ' (Help).

手順4: RDBシステム セットアップの開始

【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスで必要な情報を設定したら、【作成】ボタンをクリックします。RDBシステムのセットアップが開始されます。

手順5: RDA-SV(Symfoware)通信環境定義のキャンセル

データベースシステムの作成が完了すると、【RDA-SV(Symfoware)通信環境定義】ダイアログボックスが表示されますが、List Worksでは使用しないため、設定する必要はありません。【キャンセル】ボタンをクリックします。



手順6: RDBシステム セットアップの完了

【閉じる】ボタンをクリックして、セットアップの完了です。

(3) フォルダの作成

エクスプローラなどで、“(2) データベースサービスの設定”の“手順3:【Symfoware/RDBの環境設定】ダイアログボックスの設定”の“【RDB構成パラメタ】タブの設定”で指定したパフォーマンスデータ格納ファイルの配置先フォルダを作成します。

例) C:\LWLDSTDB¥RDB¥USR¥RDBPM

(4) パフォーマンスモニタの設定

以下のスクリプトを使用して、パフォーマンスモニタを設定します。

格納場所 : List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥setpmLWLDSTDB.bat

設定手順を以下に示します。

手順1: スクリプトの複写

データベースがList Worksサーバと異なるサーバ(データベースサーバ)にある場合は、スクリプト(setpmLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバに複写します。

手順2: スクリプトの修正

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、環境に合わせてスクリプト(setpmLWLDSTDB.bat)の以下の箇所(太字下線)を、環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@set RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順3: スクリプトの実行

コマンドプロンプトを起動し、スクリプト(setpmLWLDSTDB.bat)を実行します。

例)

```
C:\ListWORKS¥db¥symfo¥LWLDSTDB> setpmLWLDSTDB.bat
```

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(setpmlog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトの実行カレントフォルダに出力されます。



詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

(5) Windowsファイアウォールの設定

配信データベースがList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に存在する場合は、以下の確認が必要です。

データベースサーバのWindowsファイアウォールの設定が「有効」の場合は、配信データベースで使用するポート番号を「例外」または「受信の規則」として設定する必要があります。「無効」の場合は設定する必要はありません。



Windowsファイアウォールの設定については、“付録B Windowsファイアウォールの設定”を参照してください。

(6) サービス起動の設定

以下の手順でサービス起動の設定を行います。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」を選択して、プロパティ画面を表示します。



参考

“[\(2\) データベースサービスの設定](#)”において、【Symfoware RDB-System Setup】ダイアログボックスで「RDBシステム名」をLWLDSTDB以外に設定している場合は、サービス名が「SymfoWARE RDB 設定したRDBシステム名」になります。

3. スタートアップの種類の変更

プロパティ画面の「スタートアップの種類」を「手動」から「自動」に変更します。【開始】ボタンをクリックしてサービスを開始します。

注意

配信管理サービスを起動する前に、Symfowareデータベースが起動している必要があります。サービス起動の設定作業は必ず行ってください。

(7) 配信データベースの作成

データベース構築スクリプトを使用して配信データベースを作成します。

データベース構築スクリプトのファイル構成と格納場所は、以下のとおりです。

createLWLDSTDB.bat

配信データベース構築スクリプトです。

createLWLDSTDB.dat

配信データベース構築用のSQL定数定義ファイルです。配信データベース構築スクリプト内で使用されます。

格納場所：List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB

作成手順を以下に示します。

手順1: データベース構築スクリプト(createLWLDSTDB.bat)の編集

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、環境に合わせてスクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@set RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順2: 配信データベース構築用のSQL定数定義ファイル(createLWLDSTDB.dat)の編集

実行環境に合わせて、定義ファイルの以下の箇所(太字下線)を編集します。

データベースの場所とデータベーススペース容量の指定(DBSPACEの定義)

Database見積もりツールで得た値に従い、DBSPACEの定義を編集します。クラスタ運用する場合は、配信データベースの場所には、共有ディスク(「フェールオーバー クラスタ マネージャー」で定義したディスク)を指定します。

編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
DBSPACE作成 データベーススペースの物理 ファイルの場所とサイズを指定	CREATE DBSPACE LWLDSTDBSP1 ALLOCATE FILE C:¥LWLDSTDB¥RDB¥USR¥LWLDSTDBSP1 ATTRIBUTE SPACE(2375M);

注意

- 編集箇所の指定例に記載した「C:¥LWLDSTDB¥RDB¥USR」のフォルダは、存在するフォルダを指定してください。存在しない場合は、配信データベース作成時にエラーが発生します。また、「LWLDSTDBSP1」はファイル名ですので、実在しない状態で作業を実施してください。

- データベーススペースを作成するドライブのプロパティとして、「ドライブを圧縮してディスク領域を空ける」を設定しないでください。

ドライブを圧縮すると、通常のI/O処理と比較して性能上のオーバーヘッドが発生します。オーバーヘッドが発生することにより、I/O量に依存してOSリソース不足によるアクセスエラーが発生します。

- データベーススペースを作成するフォルダのプロパティとして【全般】タブにある【詳細設定】ボタンをクリックすると表示されるダイアログボックスで、「圧縮属性または暗号化属性」を設定しないでください。

圧縮属性を設定すると、ドライブ圧縮と同様に通常のI/O処理と比較して性能上のオーバーヘッドが発生します。オーバーヘッドが発生することにより、I/O量に依存してOSリソース不足によるアクセスエラーが発生します。

暗号化属性を設定すると、Symfoware/RDBで使用する各資源の作成者とSymfowareサービス起動で動作するSymfowareServerプロセスの実行者(ユーザ登録されないWindowsシステムユーザ)が異なるため、暗号解除ができずアクセスエラーが発生します。



表のスペース量の指定(表のDSIの定義)

Database見積もりツールで得た値に従い、表のDSIの定義を編集します。

編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
帳票テーブルの容量	CREATE DSI LWLDST_LIST_TBL_DSI DSO LWLDST_LIST_TBL_DSO ALLOCATE DATA ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>936104K</u> ;
配信フォルダテーブルの容量	CREATE DSI LWLDST_FOLDER_TBL_DSI DSO LWLDST_FOLDER_TBL_DSO ALLOCATE DATA ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>1848K</u>
配信出力先テーブルの容量	CREATE DSI LWLDST_OUTPUT_TBL_DSI DSO LWLDST_OUTPUT_TBL_DSO ALLOCATE DATA ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>2704K</u> ;
印刷ジョブテーブルの容量	CREATE DSI LWLDST_JOB_TBL_DSI DSO LWLDST_JOB_TBL_DSO ALLOCATE DATA ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>26104K</u> ;
プリンタ構成定義テーブルの容量	CREATE DSI LWLDST_PRINTERCONFIG_TBL_DSI DSO LWLDST_PRINTERCONFIG_TBL_DSO ALLOCATE DATA ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>1664K</u> ;
印刷資源ファイルテーブルの容量	CREATE DSI LWLDST_PRTRES_TBL_DSI DSO LWLDST_PRTRES_TBL_DSO ALLOCATE DATA ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>312104K</u> ;

インデックスのスペース量の指定(インデックスのDSIの定義)

Database見積もりツールで得た値に従い、インデックスのDSIの定義を編集します。

編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
帳票テーブルの主キーインデックスの容量	CREATE DSI LIST_PK INDEX DSO LIST_PK ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>13392K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>160K</u> ;
配信フォルダテーブルの主キーインデックスの容量	CREATE DSI FOLDER_PK INDEX DSO FOLDER_PK ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>96K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>24K</u> ;

編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
配信出力先テーブルの主キーインデックスの容量	CREATE DSI OUTPUT_PK INDEX DSO OUTPUT_PK ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>96K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>24K</u> ;
印刷ジョブテーブルの主キーインデックスの容量	CREATE DSI JOB_PK INDEX DSO JOB_PK ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>2248K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>48K</u> ;
プリンタ構成定義テーブルの主キーインデックスの容量	CREATE DSI PRINTERCONFIG_PK INDEX DSO PRINTERCONFIG_PK ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>848K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>24K</u> ;
印刷資源ファイルテーブルの主キーインデックスの容量	CREATE DSI PRTRES_PK INDEX DSO PRTRES_PK ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>468016K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>16152K</u> ;
帳票テーブルの副キー(1)インデックスの容量	CREATE DSI LIST_IDX1 INDEX DSO LIST_IDX1 ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>15616K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>208K</u> ;
帳票テーブルの副キー(2)インデックスの容量	CREATE DSI LIST_IDX2 INDEX DSO LIST_IDX2 ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>62416K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>2616K</u> ;
配信フォルダテーブルの副キー(1)インデックスの容量	CREATE DSI FOLDER_IDX1 INDEX DSO FOLDER_IDX1 ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>192K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>24K</u> ;
配信出力先テーブルの副キー(1)インデックスの容量	CREATE DSI OUTPUT_IDX1 INDEX DSO OUTPUT_IDX1 ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>168K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>24K</u> ;
印刷ジョブテーブルの副キー(1)インデックスの容量	CREATE DSI JOB_IDX1 INDEX DSO JOB_IDX1 ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>5216K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>136K</u> ;
印刷ジョブテーブルの副キー(2)インデックスの容量	CREATE DSI JOB_IDX2 INDEX DSO JOB_IDX2 ALLOCATE BASE ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>2248K</u> ; INDEX ON LWLDSTDBSP1 SIZE <u>48K</u> ;

手順3: データベース構築スクリプトの実行

データベース構築スクリプト(createLWLDSTDB.bat)を実行します。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のスクリプトを実行します。

List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥createLWLDSTDB.bat

例)

```
C:¥ListWORKS¥db¥symfo¥LWLDSTDB> createLWLDSTDB.bat
```

2. コマンドプロンプト上に、「配信データベースの構築が完了しました。」のメッセージが表示されることを確認します。

データベース構築スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(dbsetuplog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。

ログファイルは、スクリプトの実行カレントフォルダに出力されます。



データベース構築スクリプトの実行中に出力される可能性の高いメッセージを、“環境構築手引書”に抜粋して説明しています。LWDBをLWLDSTDBに置き換え、参考になさってください。また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。



参考

List Works標準のデータベース構築スクリプトを実行した場合の所要時間の目安は、15分です。

なお、所要時間はサーバスペックなどにより左右されますので、ご注意ください。

手順4: 配信データベースの構築確認

配信データベースが正しく構築できたかを、確認します。

1. コマンドプロンプト上で、以下の構文(`rdbexecsql -s RDBシステム名.配信データベース名`)を入力して実行します。配信データベース名は「LWLDSTDB」固定です。

```
> rdbexecsql -s LWLDSTDB.LWLDSTDB
```

2. 「SQL>」と表示されたら、以下の構文を入力して実行します。

```
SQL> SELECT * FROM LWLDST.LWLDST_LIST
```

以下のような結果が表示されれば、配信データベースは正常に構築されています。

```
SQL> SELECT * FROM LWLDST.LWLDST_LIST
Number of records : 0
SQLSTATE: 00000
SQLMSG: JYP2001I 正常に終了しました.
SQL>
```

エラーが発生した場合は、Symfowareのエラーメッセージが表示されます。



エラーメッセージの詳細は、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

エラーメッセージが表示された場合は、データベースの作成に失敗している可能性があります。データベース構築時のログファイルにエラーが出力されていないか、確認してください。

3. 以下の構文を入力して実行し、`rdbexecsql`コマンドを終了します。

```
SQL> QUIT
```

以下のメッセージが表示されますので、確認したら、コマンドプロンプトを閉じてください。

```
qdg02200i:rdexecsql が正常終了しました 復帰コード 00 (システム名=LWLDSTDB)
```

3.3.2 Oracleデータベースの環境設定

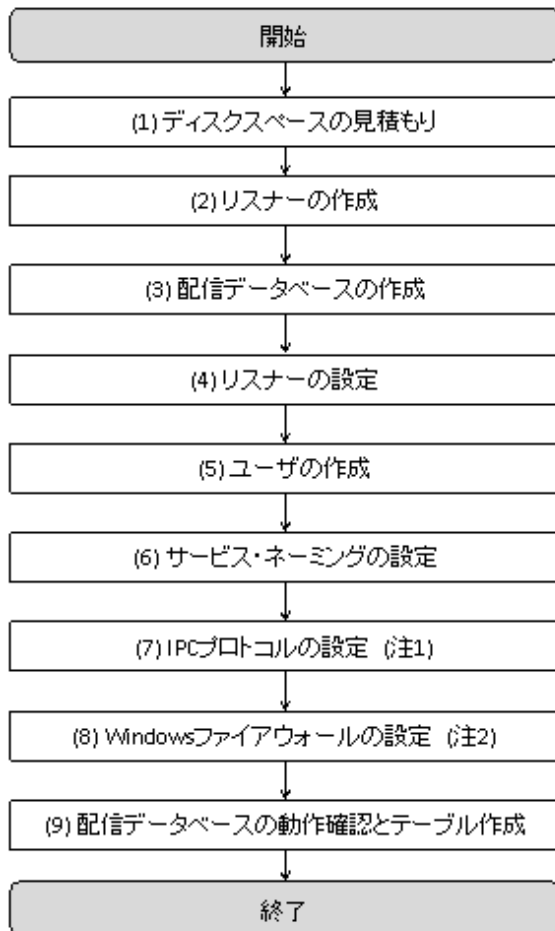
Oracleデータベースの環境設定について説明します。配信データベースの環境設定は、管理者で行います。



注意

Oracleデータベースの環境設定ではOracle 11g R2を基本に説明しています。Oracle 10g R2およびOracle 11g R1の配信データベースを構築する場合は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照して手順を確認してください。

以下の手順で配信データベースの環境構築を行います。



注1:

配信データベースがList Worksサーバに存在する場合のみ、行う作業です。配信データベースがList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に存在する場合は、行う必要はありません。

注2:

配信データベースがList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に存在する場合のみ、行う作業です。配信データベースがList Worksサーバに存在する場合は、行う必要はありません。

配信データベースがList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に存在する場合は、上記の作業手順と作業するサーバが以下のように異なります。点付き数字の順番に従って環境設定を行ってください。

作業項目	作業するサーバ	
	データベースサーバ	List Worksサーバ
(1) ディスクスペースの見積もり	1.	-
(2) リスナーの作成	2.	-

作業項目	作業するサーバ	
	データベースサーバ	List Worksサーバ
(3) 配信データベースの作成	3.	-
(4) リスナーの設定	4.	-
(5) ユーザの作成	5.	-
(6) サービス・ネーミングの設定	6.	9.
(7) IPCプロトコルの設定	-	-
(8) Windowsファイアウォールの設定	7.	-
(9) 配信データベースの動作確認とテーブル作成	8.	-



ここでは、手順の概略を説明しています。Oracleデータベースの環境設定の詳細は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

配信データベースをList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に用意する場合は、クラスタシステムを使用して配信データベースをクラスタ運用することを推奨します。



Oracleデータベースのクラスタ運用を行う場合の環境設定の詳細は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

(1) ディスクスペースの見積もり

配信データベースの運用に必要なディスク容量の見積もりは、Database見積もりツールを使用して行います。見積もりによって求めた値は、“(3) 配信データベースの作成”でUSERS表領域のサイズとして使用します。

Database見積もりツール(dbmitsumori.xls)は、以下に格納されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥db

(2) リスナーの作成

Net Configuration Assistantを使用して、リスナーを作成します。



作成中にエラーが発生した場合は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

以下に手順を示します。

1. Net Configuration Assistantの起動

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】－【Oracle － <HOME_NAME>】－【コンフィグレーションおよび移行ツール】から【Net Configuration Assistant】を選択します。

→【ようこそ】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【ようこそ】ダイアログボックス

【リスナー構成】を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成 － リスナー】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【リスナーの構成 － リスナー】ダイアログボックス

「実行する処理の選択」の「追加」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成 – リスナー名】ダイアログボックスが表示されます。

4. 【リスナーの構成 – リスナー名】ダイアログボックス

リスナー名に「LISTENER_LWLDST」を入力し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成 – プロトコルの選択】ダイアログボックスが表示されます。

5. 【リスナーの構成 – プロトコルの選択】ダイアログボックス

初期表示は「TCP」が選択済みになっています。「TCP」が選択されていない場合は選択してください。

「選択済プロトコル」に「TCP」が選択されていることを確認後、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成 – TCP/IPプロトコル】ダイアログボックスが表示されます。

6. 【リスナーの構成 – TCP/IPプロトコル】ダイアログボックス

TCP/IPポート番号を指定します。

「別のポート番号を使用」を選択し、「1523」を入力します。

設定後、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成 – リスナーを追加しますか】ダイアログボックスが表示されます。

7. 【リスナーの構成 – リスナーを追加しますか】ダイアログボックス

「いいえ」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成 – リスナーの選択】ダイアログボックスが表示されます。

8. 【リスナーの構成 – リスナーの選択】ダイアログボックス

「LISTENER_LWLDST」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リスナーの構成が完了】ダイアログボックスが表示されます。

9. 【リスナーの構成が完了】ダイアログボックス

リスナー構成が完了しましたので、【次へ】ボタンをクリックします。

→【ようこそ】ダイアログボックスが表示されます。

10. 【ようこそ】ダイアログボックス

【完了】ボタンをクリックして、Net Configuration Assistantを終了します。

(3) 配信データベースの作成

Database Configuration Assistantを使用して、配信データベースを作成します。



作成中にエラーが発生した場合は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

以下に手順を示します。

1. Database Configuration Assistantの起動

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】－【Oracle – <HOME_NAME>】－【コンフィグレーションおよび移行ツール】から【Database Configuration Assistant】を選択します。

→Database Configuration Assistantが起動され、【ようこそ】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【ようこそ】ダイアログボックス

【次へ】ボタンをクリックします。

→【操作】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【操作】ダイアログボックス

「データベースの作成」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース・テンプレート】ダイアログボックスが表示されます。

4. 【データベース・テンプレート】ダイアログボックス

配信データベースを作成するテンプレートを指定します。

「カスタム・データベース」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース識別情報】ダイアログボックスが表示されます。

5. 【データベース識別情報】ダイアログボックス

「グローバル・データベース名」および「SID」に、大文字の「LWLDSTDB」を入力します。

【次へ】ボタンをクリックします。

→【管理オプション】ダイアログボックス－【Enterprise Manager】タブが表示されます。



「グローバル・データベース名」および「SID」(LWLDSTDB)は、原則固定です。すでにOracleデータベースを構築しており、マルチRDB運用を行う場合に、設定するSIDが重複するようでしたら、重複しないSIDを設定してください。

6. 【管理オプション】ダイアログボックス－【Enterprise Manager】タブ

「Enterprise Managerの構成」のチェックボックスを選択します。

「ローカル管理用のDatabase Controlを構成」を選択します。

「アラート通知有効化」は、アラートメッセージをメールで受信したい場合に選択してください。

「リカバリ領域への日次バックアップの有効化」は選択しません。

上記の項目を設定後、【自動メンテナンス・タスク】タブをクリックします。

→【管理オプション】ダイアログボックス－【自動メンテナンス・タスク】タブが表示されます。

7. 【管理オプション】ダイアログボックス－【自動メンテナンス・タスク】タブ

「自動メンテナンス・タスクの有効化」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース資格証明】ダイアログボックスが表示されます。

8. 【データベース資格証明】ダイアログボックス

「すべてのアカウントに同じ管理パスワードを使用」を選択し、パスワードを設定します。

設定後、【次へ】ボタンをクリックします。

→【ネットワーク構成】ダイアログボックスが表示されます。

9. 【ネットワーク構成】ダイアログボックス

「選択されたリスナーのみに、このデータベースを登録」を選択します。

選択済みリスナーに「LISTENER_LWLDST」を選択します。

設定後、【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース・ファイルの位置】ダイアログボックスが表示されます。

10. 【データベース・ファイルの位置】ダイアログボックス

運用に応じて作成するデータベース・ファイルの位置を指定します。

運用管理の点から「すべてのデータベース・ファイルに対して共通の位置を使用」の選択を推奨します。

設定後、【次へ】ボタンをクリックします。

→【リカバリ構成】ダイアログボックスが表示されます。

11. 【リカバリ構成】ダイアログボックス

「フラッシュ・リカバリ領域の指定」および「アーカイブ有効化」は選択しません。

何も選択せずに【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース・コンテンツ】ダイアログボックスが表示されます。

12. 【データベース・コンテンツ】ダイアログボックス

この画面では変更する項目はありません。初期表示状態のまま【次へ】ボタンをクリックします。

→【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【メモリ】タブが表示されます。

13. 【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【メモリ】タブ

メモリ使用量を指定します。メモリ使用量は大きい方が配信データベースのパフォーマンスが向上します。スワップを使用しない状態で使用可能な物理メモリのサイズを指定してください。

「標準」を選択した場合は、「自動メモリー管理の使用」を選択してください。「カスタム」を選択した場合は、「メモリー管理」は必ず「自動共有メモリー管理」を選択してください。

設定後、【サイズ指定】タブをクリックします。

→【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【サイズ指定】タブが表示されます。

14. 【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【サイズ指定】タブ

「ブロックサイズ」が8192バイトであることを確認します。配信データベースのデータファイルのサイズが32GB以上になる場合は16384バイトを設定する必要があります。

「プロセス数」に以下の値を設定します。

2台以下の配信管理サーバで配信フォルダの共有運用をする場合は、「256」を設定します。

3台以上の配信管理サーバで配信フォルダの共有運用をする場合は、以下の方法で計算した値を設定します。

$(100(\text{注1}) \times \text{サーバ台数}) \times 1.2(\text{注2}) + 30(\text{注3})$

注1:1台の配信管理サーバのサーバ処理に必要なセッション数

注2:コネクション時に起動されるシステムのプロセスを考慮した係数

注3:システムが使用するプロセス数

10台接続する場合の例： $(100\text{セッション} \times 10\text{台}) \times 1.2 + 30 = 1230$

【すべての初期化パラメータ】ボタンをクリックして、初期化パラメータのsessionsの値を以下の値にしてください。

$\text{sessions} = 1.1 \times \text{process} + 5$

設定後、【キャラクタ・セット】タブをクリックします。

→【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【キャラクタ・セット】タブが表示されます。

15. 【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【キャラクタ・セット】タブ

「キャラクタ・セット」が「JA16SJISTILDE」であることを確認してください。「JA16SJISTILDE」でない場合は「JA16SJISTILDE」に変更してください。

設定後、【接続モード】タブをクリックします。

→【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【接続モード】タブが表示されます。

16. 【初期化パラメータ】ダイアログボックス — 【接続モード】タブ

「専用サーバ・モード」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース記憶域】ダイアログボックスが表示されます。

17. 【データベース記憶域】ダイアログボックス

表領域の設定を行います。各表領域のサイズを下表の値に変更します。すでに設定されている値のほうが大きい場合は、変更しないでください。

表領域	タイプ	サイズ(MB)	増分値(MB)
SYS_AUX	PERMANENT	500	50
SYSTEM	PERMANENT	500	50
TEMP	TEMPORARY	1000	100
UNDOTBS1	UNDO	1000	100
USERS	PERMANENT	(注)	200

注: Database見積りツールで計算した見積り結果のサイズを指定してください(標準規模の場合は、2160MB)。

「USERS」表領域の変更例を以下に示します。他の表領域も同様に変更してください。

1. ダイアログボックス左側ペイン

ツリービューの「USERS」をクリックします。

→【データベース記憶域】ダイアログボックス — 【一般】タブが表示されます。

2. 【データベース記憶域】ダイアログボックス — 【一般】タブ

表領域に2GB以上のファイルを使用する場合は「大型ファイル表領域の使用」のチェックボックスを選択します。



大型ファイルの使用については、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

【記憶域】タブをクリックします。

→【データベース記憶域】ダイアログボックス — 【記憶域】タブが表示されます。

3. 【データベース記憶域】ダイアログボックス — 【記憶域】タブ

エクステンツ管理は「ローカルでの管理」、「自動割り当て」を選択します。

セグメント領域の管理は「自動」を選択します。

【一般】タブをクリックします。

→【データベース記憶域】ダイアログボックス — 【一般】タブが表示されます。

4. 【データベース記憶域】ダイアログボックス — 【一般】タブ

「サイズ」が表示されている欄をクリックします。

→【データファイルの編集】ダイアログボックス — 【一般】タブが表示されます。

5. 【データファイルの編集】ダイアログボックス — 【一般】タブ

ファイル・サイズに表領域の初期値を設定します。

【記憶域】タブをクリックします。

→【データファイルの編集】ダイアログボックス — 【記憶域】タブが表示されます。

6. 【データファイルの編集】ダイアログボックス — 【記憶域】タブ

増分値に拡大時の増分値を設定します。

【OK】ボタンをクリックします。

すべての表領域に対して、サイズの変更が完了したら、ダイアログボックス左側ペインのツリービューの「表領域」をクリックし、変更した各表領域のサイズを確認します。

確認後、【次へ】ボタンをクリックします。

→【作成オプション】ダイアログボックスが表示されます。

18. 【作成オプション】ダイアログボックス

「データベースの作成」、「データベース作成スクリプトの作成」を選択します。

【完了】ボタンをクリックします。

→【確認】ダイアログボックスが表示されます。

19. 【確認】ダイアログボックス

【OK】ボタンをクリックします。

→【スクリプト作成完了】ダイアログボックスが表示されます。

20. 【スクリプト作成完了】メッセージボックス

【OK】ボタンをクリックします。

→【データベース作成】ダイアログボックスが表示されます。

21. 【データベース作成】メッセージボックス

配信データベースの作成が完了するまで、時間が20分程度かかります。

→【データベース作成完了】ダイアログボックスが表示されます。

22. 【データベース作成完了】ダイアログボックス

「Database ControlのURL」のURLを記録しておきます。このURLは“(5) ユーザの作成”でOracle Enterprise Managerを起動する時に使用します。

【終了】ボタンをクリックします。

(4) リスナーの設定

Oracle Net Managerを使用して、リスナーを設定します。



設定中にエラーが発生した場合は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

以下に手順を示します。

1. Oracle Net Manager の起動

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】→【Oracle — <HOME_NAME>】→【コンフィグレーションおよび移行ツール】から【Net Manager】を選択します。

→【Net Manager】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【Net Manager】ダイアログボックス

【Oracle Netの構成】→【ローカル】→【リスナー】→【LISTENER_LWLDST】をクリックします。

→【Net Manager リスナー(リスニング位置)】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【Net Manager リスナー(リスニング位置)】ダイアログボックス

【リスニング位置】で「ネットワーク・アドレス」の設定が以下になっていることを確認します。

「プロトコル」: TCP/IP

「ホスト」: コンピュータのホスト名、またはIPアドレス

「ポート」: “(2) リスナーの作成” で設定されたポート番号(本手順の場合は1523)

【リスニング位置】のコンボボックスをクリックし、「データベース・サービス」を選択します。

【データベース追加】ボタンをクリックします。

→【データベース1】ダイアログボックスが表示されます。

4. 【Net Manager リスナー(データベース・サービス)】ダイアログボックス

「グローバル・データベース名」に「LWLDSTDB」を設定します。

「Oracleホーム・ディレクトリ」にOracleインストールディレクトリを設定します。

「SID」に「LWLDSTDB」を設定します。

メニューの【ファイル】－【ネットワーク構成の保存】を選択し、設定情報を保存します。

メニューの【ファイル】－【終了】を選択し、Net Managerを終了します。

(5) ユーザの作成

配信データベースで使用するユーザIDを作成します。Oracle Enterprise Manager(OEM)を使用してユーザIDを作成します。



作成中にエラーが発生した場合は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

以下に手順を示します。

1. Oracle Enterprise Manager(OEM)の起動

Webブラウザを起動し、配信データベース作成時に表示されたURLを指定して、OEMを起動します。

通常は以下のURLです。

https://ホスト名:5500/em

→【ログイン】画面が表示されます。



注意

WebブラウザがInternet Explorer 7以降の場合は、信頼済みサイトにOEMを登録する必要があります。次の方法で登録後、OEMを起動します。

1. Internet Explorerの【ツール】メニューの【インターネットオプション】をクリックします。
→【インターネットオプション】ダイアログボックスが表示されます。
2. 【セキュリティ】タブの「信頼済みサイト」を選択して、【サイト】ボタンをクリックします。
→【信頼済みサイト】ダイアログボックスが表示されます。
3. ゾーンにWebサイトとして、OEMを追加して、【追加】ボタンをクリックします。

2. 【ログイン】画面

以下の接続情報を指定します。

ユーザ名 : 「sys」
パスワード : 「sys」 に設定したパスワード
接続モード : 「SYSDBA」

【ログイン】ボタンをクリックします。

→【ホーム】画面が表示されます。

3. 【ホーム】画面

【サーバー】タブをクリックします。

→【サーバー】画面が表示されます。

4. 【サーバー】画面

【セキュリティ】の【ユーザー】をクリックします。

→【ユーザー】画面が表示されます。

5. 【ユーザー】画面

【作成】ボタンをクリックします。

→【ユーザーの作成】画面－【一般】タブが表示されます。

6. 【ユーザーの作成】画面－【一般】タブ

以下の項目を入力します。

名前：「LWLDST」を指定（「LWLDST」以外の名前を入力しないでください）
プロファイル：「DEFAULT」を選択
認証：「パスワード」を選択
パスワードの入力：任意のパスワードを指定
パスワードの確認：「パスワードの入力」で入力したパスワードを指定
デフォルト表領域：「USERS」を選択
一時表領域：「TEMP」を選択
ステータス：「ロック解除」を指定

入力後、【ロール】タブをクリックします。

→【ユーザーの作成】画面－【ロール】タブが表示されます。

7. 【ユーザーの作成】画面－【ロール】タブ

【リストの編集】ボタンをクリックします。

→【ロールの変更】画面が表示されます。

8. 【ロールの変更】画面

「使用可能なロール」から「DBA」を選択して、【移動】ボタンをクリックします。

「選択したロール」に「CONNECT」と「DBA」が表示されていることを確認して、【OK】ボタンをクリックします。

→【ユーザーの作成】画面－【ロール】タブが表示されます。

9. 【ユーザーの作成】画面－【ロール】タブ

「ロール」に「CONNECT」と「DBA」が表示されていることを確認して、【OK】ボタンをクリックします。

→【ユーザー】画面が表示されます。

10. 【ユーザー】画面

「更新メッセージ」に「オブジェクトは正常に作成されました」と表示されていることを確認します。

「ログアウト」をクリックし、OEMを終了します。

(6) サービス・ネーミングの設定

Oracle Net Managerを使用して、サービス・ネーミングを設定します。サービス・ネーミングの設定はSQL*Plusを動作させるために必要です。



設定中にエラーが発生した場合は、「Oracleシステムのマニュアル」を参照してください。

以下に手順を示します。

1. Net Managerの起動

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】－【Oracle – <HOME_NAME>】－【コンフィグレーションおよび移行ツール】から【Net Manager】を選択します。

→【Net Manager】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【Net Manager】ダイアログボックス

ツリービューペインで【Oracle Netの構成】－【ローカル】－【サービス・ネーミング】を選択して、「+」をクリックします。すでにサービス名に「SID(通常はLWLDSTDB)」が存在する場合、サービス・ネーミングの設定は不要です。存在しない場合は、メニューの【編集】－【作成】を選択します。

→【ネット・サービス名】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【ネット・サービス名】ダイアログボックス

「ネットサービス名」にサービス名である「SID(通常はLWLDSTDB)」を指定します。

【次へ】ボタンをクリックします。

→【プロトコル】ダイアログボックスが表示されます。

4. 【プロトコル】ダイアログボックス

「TCP/IP」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。

→【プロトコル設定】ダイアログボックスが表示されます。

5. 【プロトコル設定】ダイアログボックス

「ホスト名」にデータベースサーバのホスト名を指定します。

「ポート番号」に“(2) リスナーの作成”で指定したポート番号を指定します。本手順の場合は「1523」です。

【次へ】ボタンをクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

6. 【サービス】ダイアログボックス

「サービス名」を選択し、項目に「SID(通常はLWLDSTDB)」を指定します。

「接続タイプ」は「データベースのデフォルト」を選択します。

【次へ】ボタンをクリックします。

→【テスト】ダイアログボックスが表示されます。

7. 【テスト】ダイアログボックス

【テスト】ボタンをクリックします。

→【接続テスト】ダイアログボックスが表示されます。

8. 【接続テスト】ダイアログボックス

Oracle Net Managerでは、「scott」ユーザとして接続テストが動作します。「scott」ユーザは登録されていないため、「テストは失敗しました」のメッセージが出力されます。

【ログイン変更】ボタンをクリックします。

→【ログイン変更】ダイアログボックスが表示されます。

9. 【ログイン変更】ダイアログボックス

以下の項目を指定して、【OK】ボタンをクリックします。

ユーザ名：「LWLDST」

パスワード：「LWLDST」に設定したパスワード

【ログイン変更】ボタンをクリックします。

→【接続テスト】ダイアログボックスが表示されます。

10. 【接続テスト】ダイアログボックス

【テスト】ボタンをクリックします。

「接続テストに成功しました」のメッセージが出力されることを確認します。

【閉じる】ボタンをクリックします。

→【テスト】ダイアログボックスが表示されます。

11. 【テスト】ダイアログボックス

テストが完了したため、【完了】ボタンをクリックします。

→【Net Manager】ダイアログボックスが表示されます。

12. 【Net Manager】ダイアログボックス

「サービスの識別」と「アドレスの構成」に表示されている内容を確認します。

メニューの【ファイル】→【ネットワーク構成の保存】を選択し、設定情報を保存します。

メニューの【ファイル】→【終了】を選択して、Net Managerを終了します。

(7) IPCプロトコルの設定

Oracle Net Managerを使用して、IPCプロトコルの設定を行います。

以下に手順を示します。

1. Net Managerの起動

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】→【Oracle - <HOME_NAME>】→【コンフィグレーションおよび移行ツール】から【Net Manager】を選択します。

→【Net Manager】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【Net Manager】ダイアログボックス

ツリービューペインで【Oracle Netの構成】→【ローカル】→【リスナー】→【LISTENER_LWLDST】を選択します。

3. 【Net Manager(リスナー:リスニング位置)】ダイアログボックス

【アドレスの追加】ボタンをクリックし、以下のネットワーク・アドレスを追加します。

「プロトコル」：IPC

「キー」：LWLDSTDB

4. 【Net Manager】ダイアログボックス

ツリービューペインで【Oracle Netの構成】－【ローカル】－【サービス・ネーミング】－【LWLDSTDB】を選択します。

5. 【Net Manager(サービス・ネーミング)】ダイアログボックス

「アドレスの構成」の【+】ボタンをクリックし、以下のアドレスを追加します。

「プロトコル」: IPC

「キー」: LWLDSTDB

メニューの【ファイル】－【ネットワーク構成の保存】を選択し、設定情報を保存します。

メニューの【ファイル】－【終了】を選択し、Net Managerを終了します。

6. リスナーサービスの再起動

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「OracleOraDb11g_home1TNSListenerLISTENER_LWLDST」のプロパティ画面を起動し、リスナーサービスを再起動します。

(8) Windowsファイアウォールの設定

配信データベースがList Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)に存在する場合は、以下の確認が必要です。

データベースサーバのWindowsファイアウォールの設定が「有効」の場合は、配信データベースで使用するポート番号を「例外」または「受信の規則」として設定する必要があります。「無効」の場合は設定する必要はありません。



Windowsファイアウォールの設定については、“[付録B Windowsファイアウォールの設定](#)”を参照してください。

(9) 配信データベースの動作確認とテーブル作成

SQL*Plusを起動して、作成したユーザIDでテーブル作成を行います。

テーブル作成用SQLファイル(createLWLDSTTable.sql)は以下の場所に格納されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥db¥oracle¥LWLDSTDB



動作確認および作成中にエラーが発生した場合は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

以下に手順を示します。

手順1: SQL*Plusの起動

SQL*Plusをコマンドプロンプトから起動します。以下を入力して配信データベースに接続します。

```
>sqlplus LWLDST/LWLDSTに設定したパスワード@LWLDSTDB
```

手順2: テーブル作成

「接続されました。」のメッセージが表示されることを確認します。

1. スプール出力設定

以下の構文を入力し、スプール出力設定をONにします。

```
SQL> SPOOL List Worksのインストール先フォルダ¥db¥oracle¥LWLDSTDB¥createLWLDSTTable.log
```

2. テーブル作成

入力プロンプトに、以下のテーブル作成SQLファイルを入力して実行します。

```
SQL> @List Worksのインストール先フォルダ¥db¥oracle¥LWLDSTDB¥createLWLDSTTable.sql
```

→テーブル作成で正常終了のメッセージが表示されることを確認します。

手順3: 確認

テーブルが作成できたことを確認します。以下の構文を入力して実行します。

```
SQL> DESC LWLDST.LWLDST_PRTRES
```

以下の結果が表示されれば、配信データベースは正常に構築されています。

```
SQL> DESC LWLDST.LWLDST_PRTRES
名前                                NULL?   型
-----
LISTID                             NOT NULL CHAR (50)
FILENAME                           NOT NULL VARCHAR2 (256)
SQL>
```

手順4: SQL*Plusの終了

以下の構文を入力して実行します。

```
SQL> quit
```

→SQL*Plusが終了します。

3.3.3 配信データベースの作成に失敗した場合の再構築手順

配信データベースの作成に失敗した場合は、作成途中の配信データベースの定義やファイルを削除してから、配信データベースを再構築します。再構築の手順を、データベースごとに説明します。

(1) Symfowareデータベースの場合

配信データベースの定義やファイルを削除してから、配信データベースを再構築します。

配信データベースの定義は、RDBシステム セットアップを起動して、【Symfoware RDB-System Setup】ダイアログボックスの画面から削除します。

手順1: 配信データベースの削除

1. 【スタート】メニューの【すべてのプログラム】－【Symfoware Server Enterprise Edition】－【RDBシステム セットアップ】からRDBシステムセットアップを起動します。

→【Symfoware RDB-System Setup】ダイアログボックスが表示されます。



参考

Symfoware Server V10 を使用している場合、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行し、RDB システムセットアップを起動します。

```
Symfowareのサーバ機能のインストール先¥SYSSETUP.EXE
```


2. 「システム一覧」から「LWLDSTDB」を選択して、【削除】ボタンをクリックします。

→RDBサービスが削除されます。

3. 配信データベース作成用のファイル(createLWLDSTDB.dat)に指定したデータベーススペースの物理ファイル(LWLDSTDBSPファイル)を、エクスプローラなどから削除します。

手順2: 配信データベースの再構築

再度、構築手順に従って、データベースサービスの設定から配信データベースの構築を行います。

(2) Oracleデータベースの場合

Oracleデータベースを削除してから、配信データベースを再構築します。

手順1: 配信データベースの削除

1. 【スタート】メニューの【プログラム】—【Oracle — <HOME_NAME>】—【コンフィグレーションおよび移行ツール】—【Database Configuration Assistant】からDatabase Configuration Assistant を起動します。

→【ようこそ】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【次へ】ボタンをクリックします。

→【操作】ダイアログボックスが表示されます。

3. 「データベースの削除」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

→【データベース】ダイアログボックスが表示されます。

4. データベース一覧から削除する配信データベースを選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

5. 【完了】ボタンをクリックします。

→削除を確認するメッセージボックスが表示されます。

6. 【はい】ボタンをクリックします。

→配信データベースが削除されます。

手順2: 配信データベースの再構築

再度、Database Configuration Assistantから配信データベースの構築を行います。



Database Configuration Assistantの詳細、および、実行時のエラーの原因、対処方法については、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

3.4 配信管理サーバの環境設定 事前準備

配信管理サーバの環境を設定する前に、運用によって必要となる設定について説明します。

ここでは、以下について説明します。

- Windowsファイアウォールの設定
- ユーザ登録<オペレーティングシステムによる認証の場合>
- 出口ルーチンの準備<ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>
- 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>

運用に合わせて準備します。



オペレーティングシステム/ユーザ作成ライブラリによる認証の概要については、“運用手引書”の“第2章 帳票保管活用機能の運用”を参照してください。

3.4.1 Windowsファイアウォールの設定

オペレーティングシステムのWindowsファイアウォールの設定が「有効」の場合は、帳票印刷配信機能で使用するポート番号を「例外」または「受信の規則」として設定する必要があります。「無効」の場合は設定する必要はありません。



Windowsファイアウォールの設定については、“付録B Windowsファイアウォールの設定”を参照してください。

3.4.2 ユーザ登録<オペレーティングシステムによる認証の場合>

配信管理サーバのユーザ認証にオペレーティングシステムによる認証を利用する場合は、List Worksサーバの利用者情報を、運用に合わせて登録します。登録には、Windowsシステムの「コンピュータの管理」、または「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用します。コマンドで登録する場合は、以下のコマンドを利用します。

- NET USER コマンド … ユーザの追加
- NET ACCOUNTS コマンド … 既存のユーザのアカウント情報の変更
- NET GROUP コマンド … グループの追加



各コマンドの詳細は、“Windowsシステムのマニュアル”を参照してください。



注意

- 配信管理サーバでオペレーティングシステムによる認証方法を利用する場合は、リスト管理サーバの認証方法も、オペレーティングシステムによる認証方法を利用してください。認証方法が異なる場合は、正しく動作しません。
- 登録するユーザIDには、List Worksサーバにおける「ローカルログオン」権限が必要です。List Worksサーバで、登録するユーザIDに「ローカルログオン」権限を設定してください。

List Worksの利用者に変更があった場合は、新しい利用者情報を登録し、旧利用者情報を削除します。

3.4.3 出口ルーチンの準備<ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>

配信管理サーバのユーザ認証に、ユーザ作成ライブラリによる認証を利用する場合は、出口ルーチンを利用します。そのため、ディレクトリサービスなどを利用する場合は、以下のユーザ作成ライブラリの出口ルーチンを作成しておく必要があります。なお、この出口ルーチンは、リスト管理サーバのユーザ作成ライブラリの出口ルーチンと兼用で作成します。



リスト管理サーバのユーザ作成ライブラリの出口ルーチンについては、“環境構築手引書”の“2.3.3 出口ルーチンの準備<ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>”を参照してください。

利用者情報に変更が発生した場合は、ユーザ作成ライブラリの出口ルーチンに定義している利用者情報を変更します。



注意

- 配信管理サーバでユーザ作成ライブラリによる認証方法を利用する場合は、リスト管理サーバの認証方法も、ユーザ作成ライブラリによる認証方法を利用してください。認証方法が異なる場合は、正しく動作しません。
- ユーザ作成ライブラリの出口ルーチンは32ビットモードで作成してください。
- 出口ルーチンおよび出口ルーチンからリンクしているライブラリがロードできるように、システム環境変数「Path」を正しく設定してください。
- 出口ルーチンはマルチプロセスで動作するように作成してください。
- 出口ルーチンはマルチスレッドで動作するように作成してください。
- 出口ルーチンはシフトJISコードで記述してください。
- 設定ファイルなどを利用する場合は、絶対パス指定で参照してください。
ユーザ作成ライブラリの出口ルーチンをリスト管理サーバと兼用するときに、ユーザ作成ライブラリで設定ファイルをカレントディレクトリ指定で参照している場合は、絶対パス指定に変更して参照してください。
- 環境変数とカレントディレクトリを出口ルーチン内で変更しないでください。

出口ルーチン	関数名	概要
ログイン出口	LW_LDAP_LoginExit	配信管理サーバへのログイン時に呼び出されます。ログインのユーザIDとパスワードから、ログインを許可するかどうかを判定します。

出口ルーチンのライブラリ名と格納場所は、以下のとおりです。

ライブラリ名	格納場所
lwlogin.dll (呼び出し規約 _cdecl)	Windowsのシステム環境変数の「Path」に指定されているフォルダ

出口ルーチンの関数定義、出口ルーチンで使用する構造体の形式を格納したヘッダファイルの格納場所は、以下のとおりです。

ファイル名	格納場所
lwlogin.h	List Worksのインストール先フォルダ¥Samples

ログイン出口のインタフェース

ログイン出口(LW_LDAP_LoginExit 関数)は、配信管理サーバへのログイン時に呼び出されます。

LW_LDAP_LoginExit 関数のインタフェースを以下に示します。

記述形式

```
int LW_LDAP_LoginExit (LOGIN_INDATA *lpIndata,  
                      LOGIN_OUTDATA *lpOutdata)
```

機能

ログイン時に呼び出されます。

出口ルーチンでは、入力パラメタとして渡されたログインのユーザIDとパスワードから、ログインを許可するかどうかを判定します。許可する場合は、ユーザ名などのユーザ情報と、そのユーザが所属するグループ情報を出力パラメタに設定して復帰してください。

パラメタの説明

lpIndata

本関数呼び出し時に設定されるLOGIN_INDATAの構造体のアドレスが設定されています。

lpOutdata

本関数復帰時に指定するLOGIN_OUTDATAの構造体のアドレスが設定されています。

LOGIN_INDATA構造体

LOGIN_INDATA構造体の内容を以下に示します。

```
typedef struct  
{  
    char    iUid[40];          /* ログインユーザID(有効文字数26 バイト) */  
    char    iPasswd[16];       /* パスワード(有効文字数14 バイト) */  
    int     iMaxReturnNo;      /* 返却可能最大グループ数 */  
    char    iPassword[256];    /* パスワード(有効文字数256 バイト) */  
} LOGIN_INDATA ;
```



LOGIN_INDATA構造体の各メンバの詳細については、“環境構築手引書”の“2.3.3 出口ルーチンの準備 <ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>”を参照してください。

LOGIN_OUTDATA構造体

LOGIN_OUTDATA構造体の内容を以下に示します。

```
typedef struct  
{  
    char    oUid[40];          /* ユーザID(有効文字数26 バイト) */  
    char    oName[44];         /* ユーザ名(有効文字数40 バイト) */  
    int     oAdmin;            /* 管理者権限 0: 権限なし 1: 権限あり */  
    long    oAccessibility[4]; /* ユーザの業務権限 */  
} LDAP_USER_INFO ;  
typedef struct  
{  
    char    oGid[28];          /* グループID(有効文字数26 バイト) */  
    char    oName[44];         /* グループ名(有効文字数40 バイト) */  
    long    oAccessibility[4]; /* グループの業務権限 */  
} LDAP_GROUP_INFO ;  
typedef struct  
{  
    LDAP_USER_INFO    oUserInfo; /* ユーザ情報 */
```

```

    int          oGroupNum:    /* 返却するグループ数(値を格納した数を設定する) */
    LDAP_GROUP_INFO *oGroupInfo: /* ユーザが所属するグループ情報 */
} LOGIN_OUTDATA ;

```



LOGIN_OUTDATA構造体の各メンバの詳細については、“環境構築手引書”の“2.3.3 出口ルーチンの準備 <ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>”を参照してください。



注意

帳票印刷配信機能では、業務権限やユーザが所属するグループ情報の指定は無視されます。



業務権限やユーザが所属するグループ情報の指定については、“環境構築手引書”の“2.3.3 出口ルーチンの準備 <ユーザ作成ライブラリによる認証の場合>”を参照してください。

復帰値

- 0: 正常終了(ログインを許可する)
- 1: 異常終了
- 1: 指定されたユーザIDは存在しない。
- 2: 指定されたユーザIDのパスワードの有効期限が切れている。
- 3: 指定されたユーザIDが複数登録されている。
- 4: パスワードに誤りがある。
- 5: 所属グループ数がiMaxReturnNoを超えている。

補足

ユーザの所属グループが「返却可能最大グループ数(構造体LOGIN_INDATAのメンバiMaxReturnNo)」を超えるときは、復帰値に「5(所属グループ数がiMaxReturnNoを超えている)」を設定し、「返却するグループ数(構造体LOGIN_OUTDATAのメンバoGroupNum)」に所属グループ数を設定して復帰してください。この場合は、設定された所属グループ数分の返却領域を獲得しないおとして、再度、本ログイン出口モジュールを呼び出します。なお、ユーザの所属できるグループ数の最大値は256グループまでです。

3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>

配信フォルダの共有運用を行うために、以下の準備をします。

- ・ 共有ディスク
- ・ List Worksサーバのアクセス権

共有ディスクの準備

配信フォルダの共有運用を行う場合は、NTFSでフォーマットされた共有ディスクを用意します。

共有ディスクに、配信フォルダを格納するためのフォルダを作成します。フォルダを作成する場所は、フォルダのパスが100バイト以内になるようにします。

作成するフォルダの例を以下に示します。

例) ¥¥Server¥Shared¥LDST_Data

Server : サーバ名
Shared : 共有名
LDST_Data : フォルダ名



注意

共有ディスクの準備では、以下のことに留意してください。

- 共有ディスクが存在するサーバとList Worksサーバは、同じドメインに属する必要があります。
- 共有ディスクが存在するサーバとList Worksサーバは、同一ネットワークセグメント(サブネット)にする必要があります。
- 配信フォルダの帳票を格納するフォルダ配下には、ファイルやフォルダを格納しないでください。

List Worksサーバのアクセス権

共有ディスクにアクセスできるように、以下に対してフルコントロールのアクセス権が設定されている必要があります。

- List Worksサービスのログオンアカウント(注)
- サービス「LW Transfer Service」のログオンアカウント(注)
- サービス「TransactionDirector」のログオンアカウント(注)
- サービス「INTERSTAGE」のログオンアカウント(注)
- サービス「Interstage Operation Tool」のログオンアカウント(注)
- FUJITSU 帳票管理サービスのログオンアカウント(注)
- 帳票配信サービスのログオンアカウント(注)
- 配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドを実行するユーザ(管理者権限)
- 帳票出力アプリケーションの実行ユーザ(List Creator互換印刷機能を利用する場合)
- List Works帳票を表示するユーザ

注: ログオンアカウントにシステムアカウントが設定されている場合は、SYSTEMに対しフルコントロールのアクセス権を設定します。

3.5 ネットワークの設定

List Worksサーバで、ネットワークの設定を行います。

(1) DNSサーバの設定

DNSサーバで名前解決を行う場合、List WorksサーバのIPアドレスとFQDNでのコンピュータ名の設定をDNSサーバに行ってください。

(2) hostsファイルの設定

hostsファイルで名前解決を行う場合、List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのサーバ名とIPアドレスを、Windowsのhostsファイルに設定します。

配信フォルダの共有運用を行う場合は、負荷分散装置のIPアドレスを設定します。

[hosts ファイルの記述例]

192.9.200.3	SYS1 # List Worksサーバ
192.9.200.2	SYS2 # List Works配信出力サーバ

(3) servicesファイルの設定

Windowsのservicesファイルに、サービス「LW Transfer Service」で使用するポート番号を設定します。

ポート番号は、通常は9564を指定します。すでに9564を使用している場合は、1～65535の範囲で別のポート番号を指定します。

dtranf01 ポート番号/tcp #LW Transfer Service

ここで指定したポート番号は、印刷配信の動作環境定義ファイルの「delivery.manager.filetrans.port」キーに指定します。



注意

servicesファイルに追加した行の最後には必ず改行を入れてください。

3.6 コネクションプーリングの環境設定<Symfowareデータベースの場合のみ>

配信管理サーバで、コネクションプーリングの環境設定をします。コネクションプーリングとは、データベースに接続する場合に、要求されるたびにコネクションを作成するのではなく、コネクションをプール(保持)して再利用する機能です。

データベースシステムにSymfowareを使用している場合に行います。

配信フォルダの共有運用の場合は、配信管理サーバを構築するすべてのサーバで、コネクションプーリングの環境設定をします。

クラスタ運用の場合は、運用ノードおよび待機ノードで、コネクションプーリングの環境設定をします。

Symfowareデータベースでコネクションプーリングを使用するには、JDBCデータソースやネーミングサービスの環境設定が必要です。本節の環境設定をすることで、配信管理サーバのコマンド(lwdstmgrenvコマンドを除く)を実行できます。



注意

本節の環境設定をしない場合は、配信管理サーバのコマンド(lwdstmgrenvコマンドを除く)を実行しても、Symfowareデータベースでエラーとなります。

ここでは、以下について説明します。

- Symfowareのネーミングサービスの登録と起動
- JDBCデータソースの登録



ポイント

すでにサービス「Symfoware JDBC Naming Service」が起動している場合は、“[3.6.2 JDBCデータソースの登録](#)”から環境設定を開始します。

3.6.1 Symfowareのネーミングサービスの登録と起動

以下の手順で、サービス「Symfoware JDBC Naming Service」をWindowsのサービスに登録し、起動します。管理者権限のあるユーザーで行います。

手順1: 環境変数の設定<Symfoware Server V10の場合のみ>

Symfoware V10を使用する場合は、以下の手順でシステム環境変数を設定します。

1. 【スタート】メニューから「コントロールパネル」をクリックします。
→【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。
2. 【コントロールパネル】ウィンドウの「システム」をクリックします。
→【システム】ウィンドウが表示されます。
3. コンソールツリーで【システムの詳細設定】をクリックします。
→【システムのプロパティ】ダイアログボックスが表示されます。
4. 【詳細設定】タブにある【環境変数】ボタンをクリックします。
→【環境変数】ダイアログボックスが表示されます。
5. 「システム環境変数一覧」で「CLASSPATH」を選択し、【編集】ボタンをクリックします。
→【システム変数の編集】ダイアログボックスが表示されます。
6. 「変数値」の先頭にカーソルを移動して以下を追加し、【OK】ボタンをクリックします。

<Symfowareクライアントインストールフォルダ>%JDBC%fjjdbc%lib%fjsymjdbc2. jar ;

例 : C:%\$FWCLNT%JDBC%fjjdbc%lib%fjsymjdbc2. jar ;



環境変数CLASSPATHがシステムの有効長を超える場合は、不要なパスやアプリケーションを削除し、必要な領域を確保してください。

7. 【環境変数】ダイアログボックスの【OK】ボタンをクリックします。
8. 【システムのプロパティ】ダイアログボックスの【OK】ボタンをクリックします。
9. コンピュータを再起動します。

手順2: Symfowareのネーミングサービスの登録

1. 管理者権限のあるユーザでコマンドプロンプトを起動し、symjddfnnsコマンドを実行します。

Windows Server 2008で実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

記述形式

```
>symjddfnns -add -jdk JDKのインストール先フォルダ [-port xxxx]
```

-jdk オプション

JDKのインストール先フォルダは、絶対パスで指定します。

-port オプション

省略できます。-portオプションを省略すると、ポート番号には、10326が使用されます。
10326がすでに使用されている場合は、5001～65535の範囲内で未使用のポート番号を指定します。



symjddfnnsコマンドの詳細については、Symfowareのマニュアルを参照してください。

使用例

```
>symjddfnns -add -jdk C:%$Interstage%JDK5
```



ポート番号は、List Worksサーバ内でのみ使用するため、ファイアウォールの設定は不要です。

2. コマンドプロンプト上に、「サービス Symfoware JDBC Naming Service を登録しました。」のメッセージが表示されることを確認します。

手順3: Symfowareのネーミングサービスの起動

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】をクリックします。
→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。
2. サービス名「Symfoware JDBC Naming Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。
3. プロパティ画面で【開始】ボタンをクリックし、【OK】ボタンをクリックします。

3.6.2 JDBCデータソースの登録

以下の手順で、JDBCデータソースを登録します。管理者権限のあるユーザで行います。

手順1: JDBCデータソース名の確認

同じサーバの他のシステムで、データソース名「LWLDSTDS」を利用しているかを確認します。JDBCデータソース名を確認する方法は、以下のとおりです。

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分で「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。
3. 【Interstage管理コンソール】—【Interstage Application Server】—【システム】—【リソース】—【JDBC】をクリックします。
→右の画面にJDBCデータソースの一覧が表示されます。
4. 一覧に「LWLDSTDS」がないことを確認します。
「LWLDSTDS」が存在する場合は、手順2の3.で「データソース名」に別の値を設定してください。

手順2: JDBCデータソースの登録

1. 管理者権限のあるユーザで新たにコマンドプロンプトを起動し、java.exeのコマンドを実行します。

Windows Server 2008で実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

記述形式

`>java.exe com.fujitsu.symfoware.jdbc2.tool.FJJdbcTool port_no`

port_no

“3.6.1 Symfowareのネーミングサービスの登録と起動”の手順1で指定したポート番号を指定します。ポート番号を省略した場合は、10326を指定します。



JDBCデータソース登録ツールの起動方法の詳細については、Symfowareのマニュアルを参照してください。

使用例

```
>java.exe com.fujitsu.symfoware.jdbc2.tool.FJjdbcTool 10326
```

→JDBCデータソース登録ツールが起動されます。

2. JDBCデータソース登録ツールで【追加】ボタンをクリックします。

→【JDBCデータソース情報設定】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【JDBCデータソース情報設定】ダイアログボックスで以下の内容を設定します。

データソース名

LWLDSTDS

同じデータソース名が利用されている場合は、別のデータソース名を指定します。

プロトコル

配信管理サーバとデータベースサーバが同一サーバの場合は「ローカル」を選択します。

配信管理サーバとデータベースサーバが異なるサーバの場合は「リモート(RDB2_TCP連携)」を選択します。

ホスト名

データベースサーバのIPアドレスまたはホスト名を、15バイト以内の半角文字で指定します。

プロトコルで「リモート(RDB2_TCP連携)」を選択した場合のみ、指定できます。

ポート番号

“3.3.1 Symfowareデータベースの環境設定”で指定したポート番号を指定します。

プロトコルで「リモート(RDB2_TCP連携)」を選択した場合のみ、指定できます。

データ資源名

配信管理サーバとデータベースサーバが同一サーバの場合は、「LWLDSTDB.LWLDSTDB」を指定します。RDBシステム名が「LWLDSTDB」以外の場合は、「RDBシステム名.LWLDSTDB」と指定します。

配信管理サーバとデータベースサーバが異なるサーバの場合は、「LWLDSTDB」を指定します。

ユーザ名

配信データベースに接続するユーザIDを、18バイト以内の半角英数字で指定します。配信データベースがインストールされているサーバの管理者権限を持つユーザIDを指定します。

パスワード

配信管理サーバに接続するユーザIDのパスワードを、14バイト以内の半角文字で指定します。

4. 【JDBCデータソース情報設定】ダイアログボックスで【オプション】ボタンをクリックします。

→【JDBCデータソース オプション設定】ダイアログボックスが表示されます。

5. 【JDBCデータソース オプション設定】ダイアログボックスで、以下の内容を設定し、【OK】ボタンをクリックします。

最大プールコネクション数

「4」を指定します。

その他パラメタ

「ctuneparam='CLI_WAIT_TIME=(30)」を指定し、【登録】ボタンをクリックします。

6. 【JDBCデータソース情報設定】ダイアログボックスで【OK】ボタンをクリックします。

7. 【JDBCデータソース情報設定】ダイアログボックスで指定した内容が、JDBCデータソース登録ツールの「データソース一覧」に追加されたことを確認し、【閉じる】ボタンをクリックします。

3.7 クラスタシステムで運用する場合のInterstage Application Serverの初期設定<EEのみ>

クラスタシステムで運用する場合、スクリプト(lwdstinitIS.bat)を使用してInterstage Application Serverを初期化します。運用ノードおよび待機ノードで実施します。

スクリプトの格納場所

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥setup¥cluster

以下の手順で実施します。

1. コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、スクリプトの格納場所にフォルダを移動します。
2. パラメタにホスト名およびノード種別を指定してスクリプトを実行します。

[運用ノードでの実行例]

```
C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥setup¥cluster> lwdstinitIS.bat hostname node1
```

[待機ノードでの実行例]

```
C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥setup¥cluster> lwdstinitIS.bat hostname node2
```

ホスト名

クラスタシステムのグループの登録時に「クライアント アクセス ポイントの設定」で指定したネットワーク名を指定します。

運用ノード、待機ノードで同じ名前を指定します。



クライアント アクセス ポイントの設定については、“環境構築手引書”の“2.3.7 クラスタシステム運用の準備 <EEのみ>”を参照してください。

ノード種別

運用ノードの場合はnode1を、待機ノードの場合はnode2を指定します。



注意

指定するホスト名の妥当性チェックは行わないため、設定する値には注意してください。

3. コマンドプロンプト上に、「Interstageの初期化を終了しました。」のメッセージが表示されることを確認します。このメッセージの前にエラーメッセージが出力されている場合は、Interstage Application Serverのインストールが正常に実施されているか確認してください。

3.8 ワークユニットの作成

配信管理サーバに、以下のワークユニットを作成します。

- ・ 帳票登録のワークユニット
- ・ 配信操作画面のワークユニット
- ・ 印刷管理のワークユニット

配信フォルダの共有運用の場合は、ワークユニットのDBコネクションの設定を変更します。



ワークユニットのDBコネクションの設定変更については、“3.10 ワークユニットの設定変更(配信フォルダの共有運用の場合)”を参照してください。



参考

上記3種類のワークユニットは、サンプルスクリプト(createWU.bat)を利用して作成することができます。

サンプルスクリプトの格納場所

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥setup¥samples

サンプルスクリプトを利用したワークユニット作成手順を以下に示します。

1. 以下の場合、ワークユニット作成用のサンプルスクリプト(createWU.bat)を開き、内容を変更して保存します。
 - － List Worksに同梱されているSymfowareを使用し、Symfowareのインストール先を変更している場合
 - － 製品版のSymfowareを利用する場合
 - － Oracleを利用する場合

Symfowareの場合

JDBCドライバの絶対パスを変更します。

項目	編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
JDBCドライバのパス	接続する配信データベースに対応するJDBCアーカイブファイルを絶対パスで指定します。	set JDBCCLASSPATH= <u>C:¥\$FW¥\$FWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2.jar</u>

Oracleの場合

JDBCドライバのパスおよび、OCIのライブラリの格納先を変更します。

項目	編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
JDBCドライバのパス	接続する配信データベースに対応するJDK 5用のクラスおよびNLSクラスのJDBCアーカイブファイルを絶対パスで指定します。 複数のファイルを指定する場合は、半角セミコロン(;)で区切ります。	set JDBCCLASSPATH= <u>C:¥app¥Administrator¥product ¥11.2.0¥dbhome_1¥jdbc¥lib¥ojdbc5.jar;C:¥app ¥Administrator¥product¥11.2.0¥dbhome_1¥jlib ¥orai18n.jar</u>
OCIのライブラリの格納先	OCIのライブラリが格納されている「Oracleホーム・ディレクトリ¥bin」を絶対パスで指定します。	set OCIPATH= <u>C:¥app¥Administrator¥product ¥11.2.0¥dbhome_1¥bin</u>

2. 管理者権限のあるユーザでコマンドプロンプトを起動し、サンプルスクリプトの格納場所にフォルダを移動して、サンプルスクリプトを実行します。

Windows Server 2008で実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

例)

```
C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥setup¥samples> createWU.bat
```

3. コマンドプロンプト上に、「ワークユニットの作成手順が完了しました。」のメッセージが表示されることを確認します。

「ワークユニットの作成手順が完了しました」のメッセージの前に、エラーメッセージが出力されている場合は、各ワークユニットの作成手順に従って作成してください。

.....

以下に、ワークユニットの種類ごとに作成手順を説明します。

3.8.1 帳票登録のワークユニットの作成手順

手順1: web.xmlファイルの修正

以下のファイルを修正します。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥regist¥app¥WEB-INF¥web.xml

<param-name> app.pathの<param-value>に、List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥registを絶対パスで指定します。

記述例

```
.  
.br/><param-name>app.path</param-name>  
<param-value>C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥regist</param-value>  
.br/>.
```



注意

web.xmlはUTF-8で記述されていることを確認してください。web.xmlがUTF-8で記述されていない場合、ワークユニットの起動でエラーになります。

特に、タグの内容やコメントに日本語の文字列を使用する場合は注意が必要です。

.....

手順2: WAR(Web Archive)ファイルの作成

jarコマンドを使用し、帳票登録用のWARファイルを作成します。

アーカイブファイル名 : List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥regist¥lwdstregist.war

アーカイブ対象のフォルダパス : List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥regist¥app .

List Worksのインストール先フォルダが「C:¥ListWORKS」で、帳票登録用のWARファイルを「C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥regist」に作成する場合の例を以下に示します。

```
jar -cvf C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥regist¥lwdstregist.war -C C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥regist¥app .
```

手順3: Interstage管理コンソールの起動

以下の手順で、Interstage管理コンソールを起動します。

1. Web ブラウザで、以下に示すURL を指定し、Interstage 管理コンソールのログイン画面を表示します。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

手順4: ワークユニットの作成

Interstage 管理コンソールで、帳票登録のWebアプリケーションを配備するIJSERVERのワークユニットを作成します。以下の手順でワークユニットを作成します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【ワークユニット:状態】画面の【新規作成】タブをクリックします。
3. ワークユニットの名前を指定します。「簡易設定」の「ワークユニット名」エディットボックスに、「LWDST_MREG」を指定してください。



注意

ワークユニット名に「LWDST_MREG」以外は、指定しないでください。

4. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
5. 「IJSERVER設定[表示]」をクリックします。
6. IJSERVERタイプを指定します。IJSERVERタイプは以下のいずれかを選択してください。
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを同一JavaVMで運用
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用
 - Webアプリケーションのみ運用
7. 【作成】ボタンをクリックします。
→「LWDST_MREG」ワークユニットが作成されます。

手順5: ワークユニットの設定

Interstage管理コンソールで、作成したワークユニットを設定します。以下の手順で「LWDST_MREG」ワークユニットを設定します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MREG】をクリックします。
3. 【LWDST_MREG:操作】画面の【環境設定】タブをクリックします。
4. 「ワークユニット設定[表示]」をクリックします。

5. クラスパスを指定します。「クラスパス」エディットボックスに、以下のパスを絶対パスで指定します。各クラスパスを指定するときは、行の最後で改行してください。

ー JDBCドライバのパス名

Symfowareの場合

接続する配信データベースに対応するJDBCアーカイブファイル(fjsymjdbc2.jar)を絶対パスで指定します。

例)

C:¥\$FW¥\$FWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjjsymjdbc2. jar

Oracleの場合

接続する配信データベースに対応するJDK5用のクラスおよびNLSクラスのJDBCアーカイブファイルを絶対パスで指定します。

- 10g R2の場合

JDK5用のクラスのJDBCアーカイブファイル:ojdbc14.jar

NLSクラスのJDBCアーカイブファイル:orai18n.jar

- 11gの場合

JDK5用のクラスのJDBCアーカイブファイル:ojdbc5.jar

NLSクラスのJDBCアーカイブファイル:orai18n.jar

例)

C:¥app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥jdbc¥lib¥ojdbc5. jar

C:¥app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥jlib¥orai18n. jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstmgr.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstcif.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥conf

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥framework.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwcommon.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwgwbase.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwtrace.jar

6. Oracleの場合は、OCIライブラリの格納先(Oracleホーム・ディレクトリ¥bin)を指定します。「パス」エディットボックスに、絶対パスで指定します。

例)

C¥:app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥bin

7. Java バージョンを指定します。「Java バージョン」コンボボックスから「5.0」を選択します。
8. JavaVMオプションに「-Xms64m -Xmx256m -DWORK_UNIT_TYPE=REGISTER」を記載します。
9. 【適用】ボタンをクリックします。
- 「LWDST_MREG」ワークユニットが設定されます。

手順6: Webアプリケーションの配備

Interstage管理コンソールで、Webアプリケーションを配備します。以下の手順でWebアプリケーションを配備します。

1. Interstage管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MREG】をクリックします。
3. 【LWDST_MREG:操作】画面の【配備】タブをクリックします。

4. 配備ファイルに、「ファイルをアップロードして配備する」を選択し、“[手順2: WAR\(Web Archive\)ファイルの作成](#)”で作成したWARファイルのパスを指定します。
5. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
6. 「Web アプリケーション設定[表示]」をクリックします。
7. Web アプリケーション名に、「lwdstregist」が指定されていることを確認します。



注意

Webアプリケーション名は、「lwdstregist」以外に変更しないでください。

8. 【配備】ボタンをクリックします。
→Web アプリケーションが配備されます。

3.8.2 配信操作画面のワークユニットの作成手順

以下の手順で配信操作画面のワークユニットの作成を行います。

手順1: web.xmlファイルの修正

以下のファイルを修正します。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥gui¥app¥WEB-INF¥web.xml

<param-name> app.pathの<param-value>に、List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥guiを絶対パスで指定します。

記述例

```
.  
.br/><param-name>app.path</param-name>  
<param-value>C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥gui</param-value>  
.br/>.
```



注意

web.xmlはUTF-8で記述されていることを確認してください。web.xmlがUTF-8で記述されていない場合、ワークユニットの起動でエラーになります。

特に、タグの内容やコメントに日本語の文字列を使用する場合は注意が必要です。

手順2: WAR(Web Archive)ファイルの作成

jarコマンドを使用し、配信操作画面用のWARファイルを作成します。

アーカイブファイル名 : List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥gui¥listdistributor.war

アーカイブ対象のフォルダパス : List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥gui¥app .

List Worksのインストール先フォルダが「C:¥ListWORKS」で、配信操作画面用のWARファイルを「C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥gui」に作成する場合の例を以下に示します。

```
jar -cvf C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥gui¥listdistributor.war -C C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥gui¥app .
```


手順3: Interstage管理コンソールの起動

以下の手順で、Interstage管理コンソールを起動します。

1. Web ブラウザで、以下に示すURL を指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

手順4: ワークユニットの作成

Interstage 管理コンソールで、配信操作画面のWebアプリケーションを配備するIJSERVERのワークユニットを作成します。以下の手順でワークユニットを作成します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【ワークユニット:状態】画面の【新規作成】タブをクリックします。
3. ワークユニットの名前を指定します。「簡易設定」の「ワークユニット名」エディットボックスに、「LWDST_MGUI」を指定してください。



ワークユニット名に「LWDST_MGUI」以外は、指定しないでください。

4. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
5. 「IJSERVER設定[表示]」をクリックします。
6. IJSERVERタイプを指定します。IJSERVERタイプは以下のいずれかを選択してください。
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを同一JavaVMで運用
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用
 - Webアプリケーションのみ運用
7. 【作成】ボタンをクリックします。

→「LWDST_MGUI」ワークユニットが作成されます。

手順5: ワークユニットの設定

Interstage管理コンソールで、作成したワークユニットを設定します。以下の手順で「LWDST_MGUI」ワークユニットを設定します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MGUI】をクリックします。

3. 【LWDST_MGUI:操作】画面の【環境設定】タブをクリックします。
4. 「ワークユニット設定[表示]」をクリックします。
5. クラスパスを指定します。「クラスパス」エディットボックスに、以下のパスを絶対パスで指定します。各クラスパスを指定するときは、行の最後で改行してください。

ー JDBCドライバのパス名

Symfowareの場合

接続する配信データベースに対応するJDBCアーカイブファイル(fjsymjdbc2.jar)を絶対パスで指定します。

例)

C:\\$FW\\$FWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2.jar

Oracleの場合

接続する配信データベースに対応するJDK5用のクラスおよびNLSクラスのJDBCアーカイブファイルを絶対パスで指定します。

- 10g R2の場合

JDK5用のクラスのJDBCアーカイブファイル:ojdbc14.jar

NLSクラスのJDBCアーカイブファイル:orai18n.jar

- 11gの場合

JDK5用のクラスのJDBCアーカイブファイル:ojdbc5.jar

NLSクラスのJDBCアーカイブファイル:orai18n.jar

例)

C:\app¥Administrator¥product¥11.2.0¥dbhome_1¥jdbc¥lib¥ojdbc5.jar

C:\app¥Administrator¥product¥11.2.0¥dbhome_1¥jlib¥orai18n.jar

- ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstapi.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstmgr.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstcif.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstgui.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥conf
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥gui¥property
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥framework.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwcommon.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwgwbase.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwtrace.jar
- ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwdstutil.jar

6. Oracleの場合は、OCIライブラリの格納先(Oracleホーム・ディレクトリ¥bin)を指定します。「パス」エディットボックスに、絶対パスで指定します。

例)

C:\app¥Administrator¥product¥11.2.0¥dbhome_1¥bin

7. Java バージョンを指定します。「Java バージョン」コンボボックスから「5.0」を選択します。
8. JavaVMオプションに「-Xms16m -Xmx256m -DWORK_UNIT_TYPE=GUI」を記載します。
9. 【適用】ボタンをクリックします。

→「LWDST_MGUI」ワークユニットが設定されます。

手順6: Webアプリケーションの配備

Interstage管理コンソールで、Webアプリケーションを配備します。以下の手順でWebアプリケーションを配備します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MGUI】をクリックします。
3. 【LWDST_MGUI: 操作】画面の【配備】タブをクリックします。
4. 配備ファイルに、「ファイルをアップロードして配備する」を選択し、“[手順2: WAR\(Web Archive\)ファイルの作成](#)”で作成したWARファイルのパスを指定します。
5. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
6. 「Web アプリケーション設定[表示]」をクリックします。
7. Web アプリケーション名に、「listdistributor」が指定されていることを確認します。



注意

Webアプリケーション名は、「listdistributor」以外に変更しないでください。

8. 【配備】ボタンをクリックします。
→Web アプリケーションが配備されます。

3.8.3 印刷管理のワークユニットの作成手順

以下の手順で印刷管理のワークユニットの作成を行います。

手順1: web.xmlファイルの修正

以下のファイルを修正します。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥writerif¥app¥WEB-INF¥web.xml

<param-name> app.pathの<param-value>に、List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥writerifを絶対パスで指定します。

記述例

```
.  
.br/><param-name>app.path</param-name>  
<param-value>C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥writerif</param-value>  
.br/>.
```



注意

web.xmlはUTF-8で記述されていることを確認してください。web.xmlがUTF-8で記述されていない場合、ワークユニットの起動でエラーになります。

特に、タグの内容やコメントに日本語の文字列を使用する場合は注意が必要です。

手順2: WAR(Web Archive)ファイルの作成

jarコマンドを使用し、印刷管理用のWARファイルを作成します。

アーカイブファイル名 : List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥writerif¥lwdstwriterif.war

アーカイブ対象のフォルダパス : List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥writerif¥app .

List Worksのインストール先フォルダが「C:¥ListWORKS」で、印刷管理用のWARファイルを「C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥writerif」に作成する場合の例を以下に示します。

```
jar -cvf C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥writerif¥lwdstwriterif.war -C C:¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥writerif¥app .
```

手順3: Interstage管理コンソールの起動

以下の手順で、Interstage管理コンソールを起動します。

1. Web ブラウザで、以下に示すURL を指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

```
https://hostname:port/IsAdmin
```

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。

→Interstage 管理コンソールの画面が表示されます。

手順4: ワークユニットの作成

Interstage 管理コンソールで、印刷管理のWebアプリケーションを配備するIJServerのワークユニットを作成します。以下の手順でワークユニットを作成します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【ワークユニット:状態】画面の【新規作成】タブをクリックします。
3. ワークユニットの名前を指定します。「簡易設定」の「ワークユニット名」エディットボックスに、「LWDST_MWTR」を指定してください。



注意

ワークユニット名に「LWDST_MWTR」以外は、指定しないでください。

4. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
5. 「IJServer設定[表示]」をクリックします。
6. IJServerタイプを指定します。IJServerタイプは以下のいずれかを選択してください。
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを同一JavaVMで運用
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用

ー Webアプリケーションのみ運用

7. 【作成】ボタンをクリックします。

→「LWDST_MWTR」ワークユニットが作成されます。

手順5: ワークユニットの設定

Interstage管理コンソールで、作成したワークユニットを設定します。以下の手順で「LWDST_MWTR」ワークユニットを設定します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MWTR】をクリックします。
3. 【LWDST_MWTR:操作】画面の【環境設定】タブをクリックします。
4. 「ワークユニット設定[表示]」をクリックします。
5. クラスパスを指定します。「クラスパス」エディットボックスに、以下のパスを絶対パスで指定します。各クラスパスを指定するときは、行の最後で改行してください。

ー JDBCドライバのパス名

Symfowareの場合

接続する配信データベースに対応するJDBCアーカイブファイル(fjsymjdbc2.jar)を絶対パスで指定します。

例)

C:\\$FW\\$FWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2. jar

Oracleの場合

接続する配信データベースに対応するJDK5用のクラスおよびNLSクラスのJDBCアーカイブファイルを絶対パスで指定します。

- 10g R2の場合

JDK5用のクラスのJDBCアーカイブファイル:ojdbc14.jar

NLSクラスのJDBCアーカイブファイル:orai18n.jar

- 11gの場合

JDK5用のクラスのJDBCアーカイブファイル:ojdbc5.jar

NLSクラスのJDBCアーカイブファイル:orai18n.jar

例)

C:\app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥jdbc¥lib¥ojdbc5. jar

C:\app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥jlib¥orai18n. jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstmgr.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥classes¥lwdstcif.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥conf

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥framework.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwcommon.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwgwbase.jar

ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwtrace.jar

6. Oracleの場合は、OCIライブラリの格納先(Oracleホーム・ディレクトリ¥bin)を指定します。
「パス」エディットボックスに、絶対パスで指定します。

例)

C¥:app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥bin

7. Java バージョンを指定します。「Java バージョン」コンボボックスから「5.0」を選択します。

8. JavaVMオプションに「-Xms16m -Xmx256m -DWORK_UNIT_TYPE=WRITER」を記載します。
9. 【適用】ボタンをクリックします。
→「LWDST_MWTR」ワークユニットが設定されます。

手順6: Webアプリケーションの配備

Interstage管理コンソールで、Webアプリケーションを配備します。以下の手順でWebアプリケーションを配備します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MWTR】をクリックします。
3. 【LWDST_MWTR:操作】画面の【配備】タブをクリックします。
4. 配備ファイルに、「ファイルをアップロードして配備する」を選択し、“[手順2: WAR\(Web Archive\)ファイルの作成](#)”で作成したWARファイルのパスを指定します。
5. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
6. 「Web アプリケーション設定[表示]」をクリックします。
7. Web アプリケーション名に、「lwdstwriterif」が指定されていることを確認します。



注意

Webアプリケーション名は、「lwdstwriterif」以外は指定しないでください。

8. 【配備】ボタンをクリックします。
→Web アプリケーションが配備されます。

3.9 配信管理サーバの環境設定

配信管理サーバの環境設定について説明します。

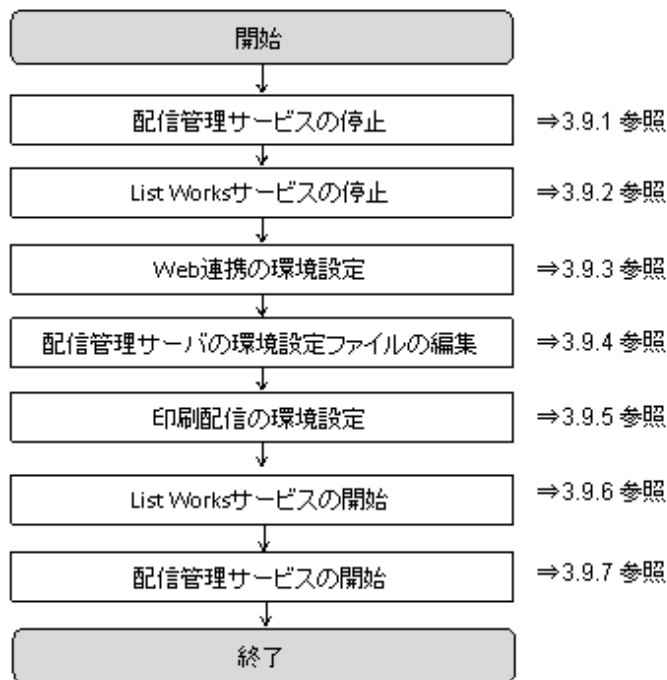


注意

配信管理サーバの環境設定を行うためには、Interstage Application Server および配信データベース(SymfowareまたはOracle)がインストールされ、環境設定が完了している必要があります。

配信管理サーバの環境設定の前に確認してください。

配信管理サーバの環境設定は、以下の手順で実施します。



3.9.1 配信管理サービスの停止

配信管理サービスが起動している場合は、配信管理サービスを停止します。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

3.9.2 List Worksサービスの停止

List Worksサービスが起動している場合は、以下の手順で、サービスを停止します。

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EE版をインストールしている場合のみ

3.9.3 Web連携の環境設定

以下の手順で、Web連携の環境設定を行います。

手順1: Interstage Application Serverとの接続確認

WebブラウザからWebアプリケーションの画面が正しく表示されることを確認してください。



確認方法については、“環境構築手引書”の“2.9.2 Interstage Application Server との接続確認”を参照してください。

手順2: リスト管理サーバとの接続環境の設定

Webゲートウェイサーバで、リスト管理サーバとの接続に「9243」以外のポート番号を指定している場合、Windowsサーバのservicesファイルに、リスト管理サーバと接続するためのサービス名とポート番号を設定します。



設定方法については、“環境構築手引書”の“2.9.3 リスト管理サーバとの接続環境の設定”を参照してください。



注意

帳票保管活用機能ですでに追加されている場合は、本手順は必要ありません。

手順3: Webゲートウェイサーバの環境設定

Webゲートウェイサーバの環境設定は、【List Works Web連携環境設定】ダイアログボックスを使用して行います。

【List Works Web連携環境設定】ダイアログボックスの【接続】タブで指定する値は、帳票印刷配信機能で使用する値として、「1コンテナあたりの利用者数」×「コンテナ数」の数値が500以上になるように設定します。帳票保管活用機能も使用する場合には、帳票保管活用機能で使用する値との合計値を設定してください。



設定方法については、“環境構築手引書”の“2.9.4 Web ゲートウェイサーバの環境設定”を参照してください。

3.9.4 配信管理サーバの環境設定ファイルの編集

配信管理サーバの環境設定ファイル(lwdstmgr.ini)を編集します。環境設定ファイルは、以下の場所に格納されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥ini

配信管理サーバの環境設定ファイルの編集規約とキーの説明を以下に示します。

編集規約

- ・ 1行1項目で指定してください。
- ・ キーと値の指定は、「キー=値」の形式で指定してください。
- ・ 設定値の後に、続けて全角の空白文字や半角の空白文字を入力しないで改行してください。
- ・ コメントを記述する場合は、行頭に「#」を記述してください。
- ・ 行は削除しないでください。
- ・ 追加した行の最後は、必ず改行してください。
- ・ シフトJISコードで記述してください。
- ・ セクション名およびキー名を変更しないでください。キー名を誤って指定した場合、設定は無効となります。

- ・ 同一のセクション名または同一のキー名が重複して指定された場合は、後で指定した値が有効となります。

キーの説明

配信管理サーバの環境設定ファイルの以下のキーを修正します。

セクション名	キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	初期値
oprlog				
	logfolder	配信管理サーバの操作ログの格納場所を指定します。クラスタシステム運用の場合は、共有ディスクのフォルダを指定します。 存在するフォルダを210バイト以内のフルパスで指定します。省略した場合や存在しないフォルダを指定した場合は、以下のフォルダが指定されたものとして動作します。 List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥oprlog		
	filetype	操作ログのファイルの作成方法を指定します。 下記以外の値が指定された場合、設定が省略された場合は、0が指定されたものとして動作します。 0：操作ログをサイクリックで出力します。以下のファイル名で操作ログファイルが作成されます。 lwdstlog_IPアドレス_nn.csv IPアドレス：操作ログを出力したサーバのIPアドレス nn：自動で採番される2桁の「00」以上の数値 1：操作ログを日単位に出力します。以下のファイル名で操作ログファイルが作成されます。 lwdstlog_YYYYMMDD_IPアドレス_nn.csv YYYYMMDD：操作ログを出力した日付 IPアドレス：操作ログを出力したサーバのIPアドレス nn：自動で採番される2桁の「00」以上の数値		0
regist				
	trkRegPeerPort	List WorksサーバのWebサーバのポート番号を1～65535の範囲で指定します。通常は設定値を変更する必要はありません。配信管理サーバのWebサーバのポート番号を変更した場合に設定してください。1～65535以外の値を指定した場合、または設定が省略された場合は初期値「80」が指定されます。		80

記述例

配信管理サーバの環境設定ファイルの記述例を以下に示します。

```
[oprlog]
# 配信管理サーバの操作ログの格納場所
logfolder=D:¥data¥oprlog

# 配信管理サーバの操作ログのファイルの作成方法
# 0:サイクリックで出力、1:日単位で出力
filetype=0

[regist]
# List WorksサーバのWebサーバのポート番号
trkRegPeerPort=80
```

3.9.5 印刷配信の環境設定

以下の手順で印刷配信の環境設定を行います。印刷配信の環境設定が終了したあと、設定内容を確認する場合は、`lwdstmngrenv`コマンドを実行してください。

手順1: JDBCデータソース名の確認

配信管理サーバでは、Interstage Application ServerのJDBCデータソースの機能を利用しています。手順3で、データソース名として「LWLDSTDS」を設定します。同じサーバの他のシステムでInterstage Application ServerのJDBCデータソースを利用しており、すでにデータソース名「LWLDSTDS」を利用しているかを確認します。

JDBCデータソース名を確認する方法は以下のとおりです。

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。
3. 【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【リソース】－【JDBC】をクリックします。
→右の画面にJDBCデータソースの一覧が表示されます。
4. 一覧に「LWLDSTDS」がないことを確認します。
「LWLDSTDS」が存在する場合は、手順3で、印刷配信の動作環境定義ファイルの「db.datasourcename」キーに別の値を設定してください。

手順2: 配信フォルダの帳票を格納するフォルダの作成

配信フォルダの帳票を格納するフォルダを、List Worksサーバのローカルドライブに作成します。クラスタシステム運用または配信フォルダの共有運用の場合は、共有ディスクに作成します。



共有ディスクの準備については、“[3.2 クラスタシステムで運用する場合の共有ディスクの準備<EEのみ>](#)” または “[3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>](#)” を参照してください。

フォルダを作成する場所は、帳票を格納するのに必要なディスク容量を考慮し、フォルダのパスが100バイト以内になるようにします。



必要なディスク容量については、“[1.6.4 配信フォルダのディスク容量](#)” を参照してください。

フォルダには、以下のアクセス権を設定してください。設定されていない場合、配信フォルダの作成や帳票登録ができない可能性があります。

また、フォルダへの不当なアクセスを防止する目的で、以下のアクセス権の設定を除いて、必要以上にアクセスができるような設定はしないようにすることを推奨します。

- ・ List Worksサービス、サービス「LW Transfer Service」、サービス「TransactionDirector」に設定されているログオンアカウントのユーザに対し、フルコントロールのアクセス権を設定します。
ログオンアカウントにシステムアカウントが設定されている場合は、SYSTEMに対しフルコントロールのアクセス権を設定します。
- ・ 配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドを実行する管理者権限を持つユーザに対し、フルコントロールのアクセス権を設定します。
- ・ List Creator互換印刷機能を利用する場合は、帳票出力アプリケーションの実行ユーザに対し、フルコントロールのアクセス権を設定します。
- ・ List Works帳票を表示するユーザに対し、フルコントロールのアクセス権を設定します。



注意

配信フォルダの帳票を格納するフォルダ配下には、ファイルやフォルダを格納しないでください。



参考

ここで作成したフォルダは、手順3で印刷配信の動作環境定義ファイルの「folder.rootpath」キーに指定します。

手順3: 印刷配信の動作環境定義ファイルの編集

印刷配信の動作環境定義ファイル(lwmctr.conf)を編集します。動作環境定義ファイルの雛形は、以下の場所に格納されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥conf

印刷配信の動作環境定義ファイルの編集規約とキーの説明を以下に示します。

編集規約

- 1行1項目で指定してください。
- キーと値の指定は、「キー=値」の形式で指定してください。
- 設定値の後に、続けて全角の空白文字や半角の空白文字を入力しないで改行してください。
- コメントを記述する場合は、行頭に「#」を記述してください。
- 行は削除しないでください。
- 追加した行の最後は、必ず改行してください。
- シフトJISコードで記述してください。
- キー名を変更しないでください。キー名を誤って指定した場合、設定は無効となります。
- 同一のキー名が重複して指定された場合は、後で指定した値が有効となります。

キーの説明

印刷配信の動作環境定義ファイルの以下のキーを設定します。

注意

キーに指定する内容が以下の場合は、手順4でコマンドを実行したときに、エラーとなります。

- 必須の項目を省略した場合
- 指定できる数値以外の値を指定した場合
- 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
- 使用できない文字種を指定した場合

キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	雛形における設定値
db.type	接続する配信データベースの種別を以下のいずれかで指定します。 0:Symfoware 1:Oracle	○	0
db.systemname	db.typeで0(Symfoware)を指定した場合 配信データベースの作成時に指定したRDBシステム名を8バイト以内の半角英数字で指定します。 db.typeで1(Oracle)を指定した場合 配信データベースの作成時に指定したOracleデータベースのネットサービス名を8バイト以内の英字で始まる半角英数字で指定します。 通常は設定値を変更する必要はありません。	○	LWLDSTDB
db.hostname	データベースサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定します。 db.typeで0(Symfoware)を指定した場合 15バイト以内の半角文字で指定します。 db.typeで1(Oracle)を指定した場合 255バイト以内の半角文字で指定します。 配信データベースと配信管理サーバが同じ筐体にある場合、「localhost」または「127.0.0.1」を指定します。	○	localhost
db.port	配信データベースの作成時に指定したポート番号を指定します。 配信データベースと配信管理サーバが異なる筐体にある場合に指定する必要があります。		2056
db.datasourcename	配信データベースに接続するための資源名(データソース名)を27バイト以内の半角英数字で指定します。 通常は設定値を変更する必要はありません。 手順1で同じデータソース名を利用していることが確認された場合に、別のデータソース名を指定します。	○	LWLDSTDS
db.userid	配信データベースに接続するユーザIDを指定します。 db.typeで0(Symfoware)を指定した場合 18バイト以内の半角英数字で指定します。データベースサーバの管理者権限を持つユーザIDを指定します。	○	—

キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	雛形における設定値
	 注意 セキュリティの面から、パスワードがあるユーザIDを指定することを推奨します。 db.typeで1(Oracle)を指定した場合 「LWLDST」を指定します。		
db.password	ユーザのパスワードを指定します。 db.typeで0(Symfoware)を指定した場合 db.useridで指定したユーザのパスワードを14バイト以内の半角文字で指定します。 db.typeで1(Oracle)を指定した場合 「LWLDST」のパスワードに指定した文字列を指定します。	○	—
db.naming.port	db.typeで0(Symfoware)を指定した場合は、必須項目です。 Symfowareのネーミングサービス(サービス「Symfoware JDBC Naming Service」)と通信するポート番号を指定します。“3.6.1 Symfowareのネーミングサービスの登録と起動”で指定したものと、同じポート番号を指定します。	○ (Symfowareのみ)	10326
classpath.jdbc	JDBCアーカイブファイルを255バイト以内の絶対パスで指定します。 db.typeで0(Symfoware)を指定した場合 Symfoware Server クライアント機能のインストール先フォルダ ¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2.jar db.typeで1(Oracle)を指定した場合 — Oracle 10g R2の場合 Oracleホーム・ディレクトリ¥jdbc¥lib¥ojdbc14.jar — Oracle 11gの場合 Oracleホーム・ディレクトリ¥jdbc¥lib¥ojdbc5.jar	○	C:¥SFW¥SFWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2.jar
classpath.nls	db.typeで1(Oracle)を指定した場合は、必須項目です。 JDK5.0用のNLSクラスを含むjarファイル(orai18n.jar)を255バイト以内の絶対パスで指定します。 以下のパスを指定します。 Oracleホーム・ディレクトリ¥jlib¥orai18n.jar	○ (Oracleのみ)	—
path.oci	db.typeで1(Oracle)を指定した場合は、必須項目です。 OCIのライブラリが格納されているフォルダを255バイト以内の絶対パスで指定します。 以下のパスを指定します。 Oracleホーム・ディレクトリ¥bin	○ (Oracleのみ)	—
certificate.mode	帳票印刷配信機能を使用するユーザの認証方法を指定します。 0:オペレーティングシステムによる認証 Windowsシステムの認証処理によって認証する場合に選択します。	○	0

キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	雛形における設定値
	5: ユーザ作成ライブラリによる認証 List Worksの認証処理用の出口ルーチンを利用して、LDAPやユーザ独自の認証システムを組み込んだユーザ作成のアプリケーションによって認証する場合に選択します。		
certificate.type	帳票印刷配信機能を使用するユーザの認証先を指定します。 certificate.mode で0(オペレーティングシステムによる認証)を指定した場合は必須項目です。 クラスタシステム運用の場合は、2(このコンピュータが所属するドメイン)を指定します。 1: このコンピュータ List WorksサーバのOSのユーザアカウントによって認証する場合に選択します。 2: このコンピュータが所属するドメイン List Worksサーバが所属するドメインのユーザアカウントによって認証する場合に選択します。 3: 他のドメイン List Worksサーバが所属するドメイン以外のドメインによって認証する場合に選択します。	○(注1)	1
certificate.domainname	認証先のドメイン名を15バイト以内の半角文字で指定します。 certificate.mode に0(オペレーティングシステムによる認証)を指定して、 certificate.type に3(他のドメイン)を指定した場合は必須項目です。	○(注2)	
server.hostname	List Worksサーバのホスト名またはIPアドレスを255バイト以内の半角文字(注4)で指定します。配信出力サーバから配信管理サーバに通信するときに利用します。配信管理サーバと配信出力サーバが別筐体の場合は、「localhost」または「127.0.0.1」を指定しないでください。 配信フォルダの共有運用を行う場合は、負荷分散装置のIPアドレスまたはホスト名を指定します。 クラスタシステム運用の場合は、クラスタシステムのグループの登録時に、クライアント アクセス ポイントで指定したネットワーク名を指定します。 クライアント アクセス ポイントの設定については、“環境構築手引書”の“2.3.7 クラスタシステム運用の準備 <EEのみ>”を参照してください。	○	—
delivery.writer.web.port	配信出力サーバを運用するサーバのWebサーバに設定しているポート番号を1～65535の範囲で指定します。すでに「80」を使用している場合は、別の値に変更します。帳票の印刷時に利用します。 配信出力サーバの環境設定で設定するWebサーバのポート番号は、本項目と合わせてください。	○	80
delivery.manager.web.port	List WorksサーバのWebサーバに設定しているポート番号を1～65535の範囲で指定します。すでに「80」を使用している場合は、別の値に変更します。印刷管理で配信出力サーバとの通信に利用します。	○	80
delivery.manager.filetrans.port	“ 3.5 ネットワークの設定 ”でservicesファイルに指定した、サービス「LW Transfer Service」が使用するポート番号を1～65535の範囲で指定します。配信出力サーバとの通信に利用します。	○	9564

キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	雛形における設定値
default.userid	帳票登録時に、作成ユーザIDが指定されなかった場合に、帳票に設定する作成ユーザIDを64バイト以内の半角文字(注3)で指定します。	○	Administrator
folder.rootpath	手順2で作成した、配信フォルダの帳票を格納するフォルダのパスを、100バイト以内の絶対パスで指定します。(注4) クラスタシステム運用の場合は、共有ディスクのフォルダ名をドライブ指定で指定します。 配信フォルダの共有運用を行う場合は、共有運用を行うすべてのサーバで同じ共有ディスクをUNC名(¥¥サーバ名¥¥)で指定してください。	○	C:¥ListWORKS ¥Distribute¥manager ¥managefolder

注1: certificate.modeで5(ユーザ作成ライブラリによる認証)を指定した場合は省略できます。

注2: certificate.typeで1(このコンピュータ)または2(このコンピュータが所属するドメイン)を指定した場合は省略できます。

注3: 指定できる半角記号は、以下のとおりです。

指定項目	空白	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	`	.
server.hostname														○		○
default.userid		○		○	○	○	○		○	○				○	○	○

指定項目	/	:	;	<	=	>	?	@	[	¥	]	^	_	{		}	~
server.hostname																	
default.userid								○				○	○	○		○	○

○: 指定できる文字

注4: 配信管理サーバの環境設定後や運用中に、「folder.rootpath」キーの値を変更する場合は、サービスの停止などの操作が必要です。



「folder.rootpath」キーの値を変更する場合の手順については、“[8.1 配信フォルダの帳票を格納するフォルダの変更](#)”を参照してください。

注意

- 配信管理サーバで指定するユーザの認証方法および認証先は、リスト管理サーバと同じ方法を指定してください。
- 配信フォルダの共有運用を行う場合は、certificate.typeに2(このコンピュータが所属するドメイン)を指定してください。また、ユーザ認証先のユーザIDで共有ディスクにアクセスするように設定してください。



設定方法については、“[3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>](#)”を参照してください。

記述例

印刷配信の動作環境定義ファイルの記述例(Symfowareの場合)を以下に示します。

```
#データベースの設定
db.type=0
db.systemname=LWLDSTDB
db.hostname=localhost
db.port=2056
db.datasourcename=LWLDSTDS
db.userid=Administrator
db.password=ListWorks
db.naming.port=10326
classpath.jdbc=C:\$FW\$FWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2.jar
classpath.nls=
path.oci=

#認証
certificate.mode=0
certificate.type=1
#certificate.domainname=ドメイン名

#配信管理サーバホスト名
server.hostname=SYS1

#ポート番号
delivery.writer.web.port=80
delivery.manager.web.port=80
delivery.manager.filetrans.port=9564

#帳票作成ユーザ
default.userid=Administrator

#格納場所
folder.rootpath=C:\¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥managefolder
```

手順4: lwdstmgrenvコマンドの実行

印刷配信の動作環境定義ファイルに指定した値を有効にするため、lwdstmgrenvコマンドを実行します。



lwdstmgrenvコマンドについては、“[16.1.3 lwdstmgrenvコマンド](#)”を参照してください。



注意

- 印刷配信の動作環境定義ファイルには、配信データベースに接続するためのユーザIDやパスワードが記述されています。配信データベースへの不当なアクセスを防止する目的で、印刷配信の環境設定後、印刷配信の動作環境定義ファイルをList Worksサーバ上から削除し、別の場所で大切に管理することを推奨します。
- lwdstmgrenvコマンドの実行後は、必ず配信データベースの接続確認を行ってください。

手順5: 配信データベースの接続確認

配信管理サーバと配信データベースの接続確認をします。

配信管理サーバと配信データベースの接続確認する方法を以下に示します。

1. Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分で「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. 【Interstage管理コンソール】-【Interstage Application Server】-【システム】-【環境設定】をクリックします。
3. 【クラスパス】エディットボックスに、クラスパスを指定します。

Symfowareデータベースの場合

JDBCアーカイブファイル(fjsymjdbc2.jar)の絶対パスを追加します

Symfoware Server クライアント機能のインストール先フォルダ¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2. jar

例)

C:¥\$FW¥\$FWCLNT¥JDBC¥fjjdbc¥lib¥fjsymjdbc2. jar

Oracleデータベースの場合

接続する配信データベースに対応するJDK5用のクラスおよびNLSクラスのJDBCアーカイブファイルを絶対パスで指定します。

Oracleホーム・ディレクトリ¥jdbc¥lib¥ojdbc5. jar

Oracleホーム・ディレクトリ¥jlib¥orai18n. jar

例)

C:¥app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥jdbc¥lib¥ojdbc5. jar

C:¥app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥jlib¥orai18n. jar



参考

配信データベースの接続確認後、追加したクラスパスを削除しても運用上問題ありません。

4. Oracleデータベースの場合、OCIライブラリの格納先を指定します。
【パス】エディットボックスに、Oracleホーム・ディレクトリ¥binを絶対パスで指定します。
例)
C:¥app¥Administrator¥product¥11. 2. 0¥dbhome_1¥bin
5. 【適用】ボタンをクリックします。
6. 【Interstage管理コンソール】-【Interstage Application Server】-【システム】-【リソース】-【JDBC】をクリックします。
→右の画面にJDBCデータソースの一覧が表示されます。
7. 一覧からデータソース名「LWLDSTDS」をクリックして、環境設定画面を表示します。



注意

印刷配信の環境設定の「db.datasourcename」キーで「LWLDSTDS」以外を指定している場合は、指定したデータソース名をクリックしてください。印刷配信の環境設定はlwdstmgrenvコマンドで確認してください。

- 環境設定画面の【DB接続テスト】ボタンをクリックし、配信データベースの接続確認をします。
- 接続確認に成功した場合は、以下の内容のメッセージが表示されます。

IS: 情報: is40303: JDBCデータソース接続テストに成功しました(定義名=LWLDSTDS)

接続確認に失敗した場合は、以下の内容のメッセージが表示されます。メッセージに表示されるエラー情報を参考にして、“[手順3:印刷配信の動作環境定義ファイルの編集](#)”から再度行ってください。

IS: エラー: is40304: JDBCデータソース接続テストに失敗しました(定義名=LWLDSTDS, エラー情報=[SymfoWARE ODBC Driver]
[SymfoWARE Server] JYP1011E 利用者の認証ができません。)

3.9.6 List Worksサービスの開始

システムを再起動するか、List Worksサービスを開始します。なお、システムを再起動すると、必要なサービスが起動されるため、“[3.9.7 配信管理サービスの開始](#)”の作業は不要です。

List Worksサービスは、【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EE版をインストールしている場合のみ

3.9.7 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。

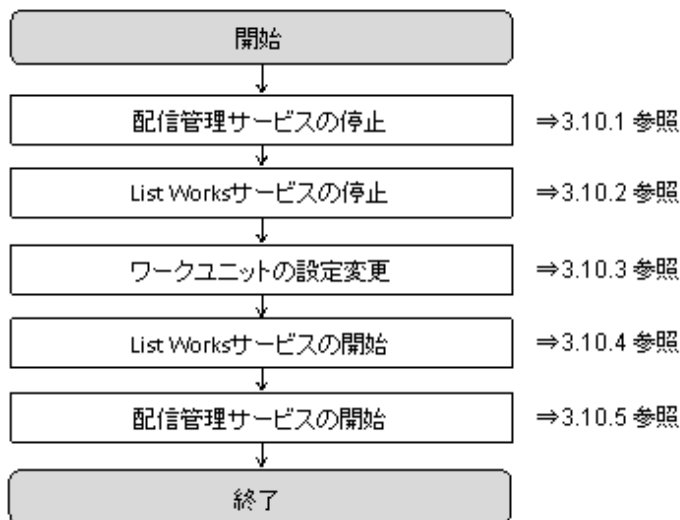


配信管理サービスの開始の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

3.10 ワークユニットの設定変更(配信フォルダの共有運用の場合)

配信フォルダの共有運用の場合、ワークユニットの設定内容を変更します。

ワークユニットの設定変更は、以下の手順で実施します。



3.10.1 配信管理サービスの停止

配信管理サービスが起動している場合は、配信管理サービスを停止します。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

3.10.2 List Worksサービスの停止

List Worksサービスが起動している場合は、以下の手順で、サービスを停止します。

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。
保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU 帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EE版をインストールしている場合のみ

3.10.3 ワークユニットの設定変更

1. Interstage管理コンソールの起動

以下の手順で、Interstage管理コンソールを起動します。

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. 帳票登録のワークユニットのDB接続の設定

帳票登録のワークユニットのDB接続について設定します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_MREG】をクリックします。
3. 【LWDST_MREG:操作】画面の【環境設定】タブをクリックします。
4. 「DB接続設定[表示]」をクリックします。
5. データソース名が「LWLDSTDS」のチェックボックスをチェックします。
6. データソース名が「LWLDSTDS」の「最大接続数」を「32」に変更します。
7. 【適用】ボタンをクリックします。

→「LWDST_MREG」ワークユニットが設定されます。

3. 配信操作画面のワークユニットのDB接続の設定

手順2と同様の手順で、【LWDST_MGUI】について設定します。

4. 印刷管理のワークユニットのDB接続の設定

手順2と同様の手順で、【LWDST_MWTR】について設定します。

3.10.4 List Worksサービスの開始

システムを再起動するか、List Worksサービスを開始します。なお、システムを再起動すると、必要なサービスが起動されるため、“3.10.5 配信管理サービスの開始”の作業は不要です。

List Worksサービスは、【スタート】メニューの【管理ツール】→【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU 帳票管理

- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EE版をインストールしている場合のみ

3.10.5 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

3.11 クラスタシステムで運用する場合のサービス/ワークユニットの自動起動の抑止

クラスタシステムでは、クラスタ製品がサービス/ワークユニットを起動するため、サービス/ワークユニットが自動起動しないようにします。

また、スタートアップに登録されている到着通知パネルを削除します。

運用ノードおよび待機ノードで実施します。

3.11.1 ワークユニットの自動起動の抑止

クラスタシステムで運用する場合、以下のワークユニットが自動起動しないようにします。運用ノードおよび待機ノードで実施します。

- 帳票登録のワークユニット(LWDST_MREG)
- 配信操作画面のワークユニット(LWDST_MGUI)
- 印刷管理のワークユニット(LWDST_MWTR)
- listworks

以下の手順で作業します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

- すでにワークユニットが起動している場合は、停止します。

【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】→【ワークユニット】→【LWDST_MREG】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【停止】ボタンをクリックし、帳票登録のワークユニットを停止します。

- 帳票登録のワークユニット「LWDST_MREG」の自動起動を抑止

【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】→【ワークユニット】→【LWDST_MREG】を選択し、【環境設定】タブをクリックします。

→【ワークユニット設定】画面が表示されます。「ワークユニットの自動起動」で「自動起動しない」を指定します。

- ワークユニット「LWDST_MGUI」、「LWDST_MWTR」「listworks」についても、手順2および3と同様の手順で実施します。

3.11.2 サービスの自動起動の抑止

クラスタシステムで運用する場合、以下のサービスが自動起動しないようにします。運用ノードおよび待機ノードで実施します。なお、インストール方法、運用形態などによりインストールされないサービスもあるため、存在しない場合は、サービスの停止は不要です。

- 配信管理サーバのサービス
 - WORKIT JOB(F3BW)
 - WORKIT MSG(F3BW)
 - Advanced Message Service(F3BW)
 - PRT Server Service
 - PRT Account Service
 - PRT Log Service
 - LW Log Service
 - LW Print State Service
 - LW Transfer Service
- Interstage Application Serverのサービス
 - OD_start
 - ObjectTransactionService
 - FJapache
 - Interstage HTTP Server(Webサーバ名) (注1)
 - Interstage Directory Service(リポジトリ名) (注2)
 - INTERSTAGE

- ネーミングサービス
 - Symfoware JDBC Naming Service
- 配信データベースのサービス
 - SymfoWARE RDB LWLDSTDB

注1: Interstage HTTP Serverにおいて複数のWebサーバを運用している場合に登録されます。

注2: リポジトリを作成した場合に登録されます。

以下の手順で作業します。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】からサービスマネージャを起動します。
2. サービス「WORKIT JOB(F3BW)」の「スタートアップの種類」を確認します。「自動」が設定されている場合は「手動」に変更します。
3. サービスの状態を確認し、「開始」している場合には、サービスを停止します。

配信管理サーバのサービス、Interstage Application Serverのサービス、ネーミングサービス、配信データベースのサービスの順序で、手順2および3と同様の手順で実施します。

3.11.3 到着通知パネルの削除

到着通知パネルコンパクトをスタートアップから削除します。

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】—【スタートアップ】から、「到着通知パネルコンパクト」を削除します。

3.12 クラスタシステムで運用する場合の帳票印刷配信機能の登録<EEのみ>

クラスタシステムで帳票の印刷配信を運用する場合は、帳票印刷配信機能で使用するサービスをクラスタシステムに登録する必要があります。

3.12.1 配信データベースのサービスのクラスタシステムへの登録

サービス「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」をクラスタシステムに登録します。運用ノードで実施します。

クラスタシステムへの登録の手順を説明します。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】—【フェールオーバー クラスター マネージャ】をクリックします。
→【フェールオーバー クラスター マネージャ】画面が表示されます。
2. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名を選択した状態で、右クリックし、メニューより「リソースの追加」—「3-汎用サービス」をクリックします。
→【新しいリソースウィザード】画面が表示されます。
3. 新しいリソースウィザードに従って、以下の情報を指定し、クラスタリソースを登録します。
 - サービスの選択
 - 一覧から「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - 確認
 - 内容を確認し、【次へ】ボタンをクリックします。

ー 概要

【完了】ボタンをクリックします。

4. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名をクリックします。
→サービス「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」が「その他のリソース」に追加されています。
5. サービス「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」を右クリックして表示されるメニューで、「プロパティ」を選択します。
→【SymfoWARE RDB LWLDSTDBのプロパティ】画面が表示されます。
6. 【SymfoWARE RDB LWLDSTDBのプロパティ】画面で以下を設定し、【OK】ボタンをクリックします。
 - ー 【全般】タブ
「コンピューター名にネットワーク名を使用する」がチェックされていないことを確認します。チェックされている場合は、チェックをはずします。
 - ー 【依存関係】タブ
リソース一覧より“[3.2.2 共有ディスクのクラスタシステムへの登録](#)”で登録した、配信データベース用の「クラスター ディスク」を選択します。
7. 「その他のリソース」配下のサービス「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」を右クリックして表示されるメニューで、「このリソースをオンラインにする」を選択します。サービス「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」がオンラインになることを確認します。

3.12.2 ネーミングサービスのクラスタシステムへの登録

サービス「Symfoware JDBC Naming Service」をクラスタシステムに登録します。

クラスタシステムへの登録の手順を説明します。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】ー【フェールオーバー クラスター マネージャー】をクリックします。
→【フェールオーバー クラスター マネージャー】画面が表示されます。
2. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名を選択した状態で、右クリックし、メニューより「リソースの追加」ー「3ー汎用サービス」をクリックします。
→【新しいリソースウィザード】画面が表示されます。
3. 新しいリソースウィザードに従って、以下の情報を指定し、クラスタリソースに登録します。
 - ー サービスの選択
一覧から「Symfoware JDBC Naming Service」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 確認
内容を確認し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 概要
【完了】ボタンをクリックします。
4. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名をクリックします。
→サービス「Symfoware JDBC Naming Service」が「その他のリソース」に追加されています。
5. サービス「Symfoware JDBC Naming Service」を右クリックして表示されるメニューで、「プロパティ」を選択します。
→【Symfoware JDBC Naming Serviceのプロパティ】画面が表示されます。
6. 【Symfoware JDBC Naming Serviceのプロパティ】画面で以下を設定し、【OK】ボタンをクリックします。
 - ー 【全般】タブ
「コンピューター名にネットワーク名を使用する」がチェックされていないことを確認します。チェックされている場合は、チェックをはずします。

ー 【依存関係】タブ

リソース一覧より「ネットワーク名」を選択します。

7. 「その他のリソース」配下のサービス「Symfoware JDBC Naming Service」を右クリックして表示されるメニューで、「このリソースをオンラインにする」を選択します。サービス「Symfoware JDBC Naming Service」がオンラインになることを確認します。

3.12.3 Interstage Application Serverのサービスのクラスタシステムへの登録

Interstageの以下のサービスをクラスタシステムに登録します。運用ノードで実施します。

- OD_start
- Naming Service
- InterfaceRep_Cache Service
- TransactionDirector
- INTERSTAGE API
- FJapache

クラスタシステムへの登録の手順を説明します。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】ー【フェールオーバー クラスター マネージャー】をクリックします。
→【フェールオーバー クラスター マネージャー】画面が表示されます。
2. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名を選択した状態で、右クリックし、メニューより「リソースの追加」ー「3ー汎用サービス」をクリックします。
→【新しいリソース ウィザード】画面が表示されます。
3. 新しいリソース ウィザードに従って、以下の情報を指定し、クラスタリソースに登録します。
 - ー サービスの選択
一覧から「OD_start」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 確認
内容を確認し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 概要
【完了】ボタンをクリックします。
4. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名をクリックします。
→サービス「OD_start」が「その他のリソース」に追加されています。
5. サービス「OD_start」を右クリックして表示されるメニューで、「プロパティ」を選択します。
→【OD_startのプロパティ】画面が表示されます。
6. 【OD_startのプロパティ】画面で以下を設定し、【OK】ボタンをクリックします。
 - ー 【全般】タブ
「コンピューター名にネットワーク名を使用する」がチェックされていないことを確認します。チェックされている場合は、チェックをはずします。
 - ー 【依存関係】タブ
 - List WorksサーバでSymfowareを運用する場合
リソース一覧より「SymfoWARE RDB LWDB」を選択します。また、「AND」を設定し、「SymfoWARE RDB LWLDSTDB」を選択します。

- List Worksサーバとは別のサーバ(データベースサーバ)で運用する場合
リソース一覧より「ネットワーク名」を選択します。

7. 「その他のリソース」配下のサービス「OD_start」を右クリックして表示されるメニューで、「このリソースをオンラインにする」を選択します。サービス「OD_start」がオンラインになることを確認します。
8. サービス「Naming Service」を、手順2から7と同様の手順で登録し、オンラインにします。
ただし、プロパティ画面では、【依存関係】タブで、リソース一覧より「OD_start」を選択します。
9. サービス「InterfaceRep_Cache Service」を、手順2から7と同様の手順で登録し、オンラインにします。
ただし、プロパティ画面では、【依存関係】タブで、リソース一覧より「Naming Service」を選択します。
10. サービス「TransactionDirector」を、手順2から7と同様の手順で登録し、オンラインにします。
ただし、プロパティ画面では、【依存関係】タブで、リソース一覧より「InterfaceRep_Cache Service」を選択します。
11. サービス「INTERSTAGE API」を、手順2から7と同様の手順で登録し、オンラインにします。
ただし、プロパティ画面では、【依存関係】タブで、リソース一覧より「TransactionDirector」を選択します。
12. サービス「FJapache」を、手順2から6と同様の手順で登録します。
ただし、プロパティ画面では、【依存関係】タブで、リソース一覧より「ネットワーク名」を選択します。
13. サービス「FJapache」の起動パラメタを削除します。
コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、以下のコマンドを実行します。

`cluster resource "FJapache" /priv StartupParameters=""`
14. サービス「FJapache」のプロパティ画面の【全般】タブで、「スタートアップ パラメーター」に何も指定されていないことを確認し【OK】ボタンをクリックします。「その他のリソース」配下のサービス「FJapache」を右クリックして表示されるメニューで、「このリソースをオンラインにする」を選択します。サービス「FJapache」がオンラインになることを確認します。

3.12.4 配信管理サービスおよびスクリプトのクラスタシステムへの登録

サービス「LW Transfer Service」を汎用サービスとしてクラスタシステムに登録します。

また、以下のワークユニット起動スクリプトを汎用アプリケーションとして登録します。

ワークユニット起動スクリプト

lwdstartWU.bat

ワークユニット起動スクリプトの格納先

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥setup¥cluster

クラスタシステムへの登録の手順を説明します。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】—【フェールオーバー クラスター マネージャー】をクリックします。
→【フェールオーバー クラスター マネージャー】画面が表示されます。
2. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名を選択した状態で、右クリックし、メニューより「リソースの追加」—「3—汎用サービス」をクリックします。
→【新しいリソースウィザード】画面が表示されます。
3. 新しいリソースウィザードに従って、以下の情報を指定し、クラスタリソースを登録します。
 - サービスの選択
一覧から「LW Transfer Service」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。

- ー 確認
内容を確認し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 概要
【完了】ボタンをクリックします。
4. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名をクリックします。
→サービス「LW Transfer Service」が「その他のリソース」に追加されています。
 5. サービス「LW Transfer Service」を右クリックして表示されるメニューで、「プロパティ」を選択します。
→【LW Transfer Serviceのプロパティ】画面が表示されます。
 6. 【LW Transfer Serviceのプロパティ】画面で以下を設定し、【OK】ボタンをクリックします。
 - ー 【全般】タブ
「コンピューター名にネットワーク名を使用する」がチェックされていないことを確認します。チェックされている場合は、チェックをはずします。
 - ー 【依存関係】タブ
リソース一覧より「ネットワーク名」を選択します。
 7. 「その他のリソース」配下のサービス「LW Transfer Service」を右クリックして表示されるメニューで、「このリソースをオンラインにする」を選択します。サービス「LW Transfer Service」がオンラインになることを確認します。
 8. ワークユニット起動スクリプトを汎用アプリケーションとして登録します。
「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名を選択した状態で、右クリックし、メニューより「リソースの追加」→「2-汎用アプリケーション」をクリックします。
→【新しいリソースウィザード】画面が表示されます。
 9. 新しいリソースウィザードに従って、以下の情報を指定し、クラスタリソースを登録します。
 - ー 汎用アプリケーションの設定
コマンドラインにスクリプトのパスを設定し、【次へ】ボタンをクリックします。

“List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥setup¥cluster¥lwdstartWU.bat”
 - ー 確認
内容を確認し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 概要
【完了】ボタンをクリックします。
 10. 「サービスとアプリケーション」配下に表示された、List Worksサーバのグループ名をクリックします。
→スクリプト「lwdstartWU.bat」が「lwdstartWU アプリケーション」として「その他のリソース」に追加されています。
 11. 「lwdstartWU アプリケーション」を右クリックして表示されるメニューで、「プロパティ」を選択します。
→【lwdstartWU アプリケーションのプロパティ】画面が表示されます。
 12. 【lwdstartWU アプリケーションのプロパティ】画面で、以下を設定し、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー 【全般】タブ
「コンピューター名にネットワーク名を使用する」のチェックをはずします。
 - ー 【依存関係】タブ
リソース一覧より「INTERSTAGE API」を選択します。また、「AND」を設定し、“[3.2.2 共有ディスクのクラスタシステムへの登録](#)”で登録した、配信フォルダ用の「クラスター ディスク」を選択します。
 13. 「その他のリソース」配下の「lwdstartWU アプリケーション」を右クリックして表示されるメニューで、「このリソースをオンラインにする」を選択します。「lwdstartWU アプリケーション」がオンラインになることを確認します。



注意

1対1運用待機の利用形態が可能です。1対1運用待機の利用形態では、業務運用中のサーバに対して、同様の環境を備えたサーバを待機として準備し、業務運用中のサーバが故障時に待機していたサーバが業務を引き継ぐことができます。

3.13 配信操作画面のカスタマイズ

出力指示画面および処理状況照会画面は、運用に合わせて変更することができます。

変更する場合は、以下の画面カスタマイズ設定ファイルを編集します。

出力指示画面の画面カスタマイズ設定ファイル：lwdst_layout_output_instruction.csv

処理状況照会画面の画面カスタマイズ設定ファイル：lwdst_layout_processing_situation.csv

格納場所：List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥gui¥conf



画面カスタマイズ設定ファイルの詳細については、“[14.1 配信操作画面のカスタマイズ方法](#)”を参照してください。

設定内容を有効にするには、配信操作画面のワークユニット(LWDST_MGUI)を再起動します。

配信操作画面のワークユニット(LWDST_MGUI)を再起動する手順は、以下のとおりです。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. ワークユニットの操作画面を表示

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_MGUI】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

3. 配信操作画面のワークユニットを再起動

1. 【停止】ボタンをクリック後、「停止」が選択されていることを確認し、【実行】ボタンをクリックします。

→配信操作画面のワークユニットが停止します。

2. 【起動】ボタンをクリックします。

→配信操作画面のワークユニットが起動します。

3.14 負荷分散装置の環境設定(配信フォルダの共有運用の場合)

配信フォルダの共有運用を行う場合、負荷分散する配信管理サーバを負荷分散装置に登録します。



負荷分散装置への登録方法の詳細については、“負荷分散装置のマニュアル”を参照してください。

以下のポート番号について、ポート番号とアプリケーション種別の関連づけを定義します。

識別名	ポート番号(注)	説明	プロトコル
ftp	21	FTPサービスで使用するポート番号	tcp
http	80	List WorksサーバのWebサーバのポート番号 印刷配信の動作環境定義ファイル(lwmctr.conf)の 「delivery.manager.web.port」キーで指定	tcp
ftp	9564	サービス「LW Transfer Service」が使用するポート番号 印刷配信の動作環境定義ファイル(lwmctr.conf)の 「delivery.manager.filetrans.port」キーで指定	tcp

注: 表に示したポート番号はデフォルト値です。変更している場合は、説明にあるキーに設定した値を確認してください。



ポート番号とアプリケーション種別の関連づけについては、“負荷分散装置のマニュアル”を参照してください。

第4章 配信出力サーバの環境構築

ここでは、配信出力サーバの環境構築について説明します。

4.1 配信出力サーバの環境構築手順

配信出力サーバの環境構築の手順と参照先を以下に示します。

手順	環境構築	参照先
1	配信出力サーバの環境設定 事前準備	“4.2 配信出力サーバの環境設定 事前準備”
2	ネットワークの設定	“4.3 ネットワークの設定”
3	Interstage のサービスの設定	“4.4 Interstageのサービスの設定”
4	配信出力サーバ環境構築スクリプトの実行	“4.5 環境構築スクリプトによる配信出力サーバの環境構築”
5	帳票印刷のワークユニットの作成	“4.6 帳票印刷のワークユニットの作成”
6	配信出力サービスの停止	“4.7 配信出力サービスの停止”
7	プリンタの環境設定	“4.8 プリンタの環境設定”
8	配信出力サーバの環境設定	“4.9 配信出力サーバの環境設定”
9	トナー削減印刷の設定	“4.10 トナー削減印刷の設定”
10	配信出力サービスの開始	“4.11 配信出力サービスの開始”

4.2 配信出力サーバの環境設定 事前準備

配信出力サーバの環境を設定する前に、運用によって準備しておかなければならない設定について説明します。

ここでは、以下について説明します。

- ・ポート番号の変更(任意)
- ・Windowsファイアウォールの設定
- ・プリンタの定義

運用に合わせて準備します。

4.2.1 ポート番号の変更(任意)

メッセージ通知クライアントとの通信用のポート番号(9299、9599)を変更する場合は、以下の手順で変更してください。

通常は、変更する必要はありません。

1. 【スタート】メニューの【ファイル名を指定して実行】をクリックします。
→【ファイル名を指定して実行】ダイアログボックスが表示されます。

2. 以下を指定して【OK】ボタンをクリックします。

List Worksのインストールドライブ¥SYMFCOMN¥CT00¥f1dgwbst.exe

→【メッセージ操作動作環境】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【ポート番号】タブで、以下のポート番号を変更してください。

ー メッセージ管理のポート番号



注意

配信出力サーバを運用するサーバとメッセージ通知クライアントで「メッセージ管理のポート番号」と「到着通知パネルのポート番号」の値はそれぞれ同じである必要があります。ポート番号を変更する場合は、「[7.1 ポート番号の変更\(任意\)](#)」において、メッセージ通知クライアントのポート番号も同じ値で変更してください。

4.2.2 Windowsファイアウォールの設定

オペレーティングシステムのWindowsファイアウォールの設定が「有効」の場合は、帳票印刷配信機能で使用するポート番号を「例外」または「受信の規則」として設定する必要があります。「無効」の場合は設定する必要がありません。



Windowsファイアウォールの設定については、「[付録B Windowsファイアウォールの設定](#)」を参照してください。

4.2.3 プリンタの定義

プリンタの定義手順は利用するプリンタにより異なります。以下に、プリンタごとの定義手順と参照先を示します。

サポートプリンタ	定義手順		参照先
PS5000シリーズ VSP/VSシリーズ PrintiaLASERシリーズ (Printianavi搭載機) 通常のWindowsプリンタ	1	Windowsにプリンタを定義します。	“(1) プリンタの定義”
	2	プリンタのプロパティを設定します。	“(3) プリンタのプロパティの設定”
Interstage Enabled認定プリンタ	1	Windowsにプリンタを定義します。	“(1) プリンタの定義”
	2	以下のいずれかの設定をします。(注) ・ プリンタのポートの設定 ・ 各社が提供するプリンタの設定	プリンタのポートの設定については、“(2) プリンタのポート設定”を参照してください。 各社が提供するプリンタの設定については各社Webサイトを参照してください。
	3	プリンタのプロパティを設定します。	“(3) プリンタのプロパティの設定”

注: 必要な設定はプリンタの機種により異なります。



詳細については、“[A.1.3 Interstage Enabled認定プリンタ](#)”を参照してください。



サポートしているプリンタ、プリンタごとにサポートしている機能などについては、“[付録A サポートプリンタについて](#)”を参照してください。

(1) プリンタの定義

配信出力サーバを運用するサーバで、Windowsにプリンタを定義します。

Windowsにプリンタを定義するときは、「プリンタの追加ウィザード」に従って設定してください。



注意

ここで指定したプリンタ名を、`lwdtdest`コマンドで配信出力先のプリンタ名に指定します。

そのため、定義するプリンタ名は、コマンドで指定できる文字列長および文字/記号の範囲で指定してください。



`lwdtdest`コマンドで指定できる文字および文字列長については、“[16.1.2 環境設定用のコマンドで指定できる文字](#)”を参照してください。

(2) プリンタのポート設定

Interstage Enabledプリンタのうち、一部の機種種のプリンタについて、プリンタのポートを設定します。



設定を行う必要のあるプリンタについては、“[A.1.3 Interstage Enabled認定プリンタ](#)”を参照してください。

ポートの設定が必要なプリンタのみ、ポートを追加します。

新規にプリンタを追加する場合は、プリンタを定義したあとに行う必要があります。



注意

- ターミナルサービスクライアント上から、ポートの追加/構成/削除はできません。配信出力サーバを運用するサーバ上で操作してください。
- Windowsサーバ(x64)では、本手順によるプリンタのポート設定は未サポートです。プリンタポート画面において、「FUJITSU PrintMGR LAN Port」は表示されません。

ポートの追加

以下の手順でポートを追加します。

Windowsの操作については、Windows Server 2008(Windows Server 2008 R2を除く)の操作方法で説明しています。

- Administrators 権限でログオンします。
- 【スタート】メニューの【プリンタ】を選択します。
- プリンタを選択し、【整理】メニューの【プロパティ】を選択します。
→プリンタのプロパティ画面が表示されます。
- プリンタのプロパティ画面の【ポート】タブで【ポートの追加】ボタンをクリックします。
→プリンタ ポート画面が表示されます。
- プリンタ ポート画面で「FUJITSU PrintMGR LAN Port」を選択し、【新しいポート】ボタンをクリックします。
→ポートの追加画面が表示されます。
- プリンタのポートを設定し、【OK】ボタンをクリックします。

ポートの追加画面

以下に、ポートの追加画面を示し、画面の内容を説明します。

ポートの追加 - FUJITSU PrintMGR LAN Port

ホスト名(P):

ホスト名またはTCP/IPアドレス(H):

プリンタキュー名(Q):

タイムアウト(T): 秒

☐ マルチサーバ運用を行う(M)

☐ 連続印刷を行う(R)

メッセージ通知

☐ プリンタ装置使用中メッセージは通知しない(Q)

印刷完了待合せ方法

☒ プリンタ装置 (内蔵型プリントサーバ) を指定する(A)

☐ 印刷完了待合せ時間を指定する(N)

印刷完了待合せ時間(秒): 秒

オプション... OK キャンセル

ポート名

接続するプリンタで使用するポートの名前を指定します。ポート名は6～32文字の範囲で指定してください。使用できる文字範囲は「0」～「9」、「a」～「z」、「A」～「Z」、ピリオド「.」、ハイフン「-」です。ピリオド「.」だけで構成されるポート名を指定することはできません。なお、この項目はポートを追加する場合にだけ指定できます。

ホスト名またはTCP/IP アドレス

プリンタ装置のネットワークホスト名またはTCP/IP アドレスを255文字以内で指定します。

プリンタキュー名

プリンタ装置における論理プリンタ名を64文字以内で指定します。初期値は「lp」です。通常は変更する必要はありません。

タイムアウト

プリンタ装置との通信処理の最大待合せ時間を30～9999秒の範囲で指定します。ここで指定された時間内にプリンタ装置から応答がない場合は、通信処理が切斷されたものとみなし、印刷エラーとします。該当する印刷ジョブの出力状態が印刷エラーに更新されます。

マルチサーバ運用を行う

1台のプリンタ装置に対して、複数の配信出力サーバから印刷を行う場合に有効にします。

連続印刷を行う

複数の印刷の指示に対して、連続的に印刷したい場合に有効にします。有効にすると、複数の印刷の指示があった場合に印刷完了から次の印刷の指示が開始されるまでの時間が短縮されます。ただし、返答メッセージ/応答メッセージで、再開ページの指定およびテスト印刷はできません(返答メッセージ/応答メッセージの操作ボタンが非表示になります)。



返答メッセージ/ 応答メッセージについては、“[17.4 メッセージ通知クライアントのメッセージ](#)”を参照してください。

メッセージ通知

メッセージの通知について指定します。

- プリンタ装置使用中メッセージは通知しない

「プリンタ装置が他で使用中です」の返答メッセージをメッセージ通知クライアントに出力しない場合に有効にします。マルチサーバ運用を指定しなかった場合、メッセージ番号0101(詳細情報: プリンタ装置が他で使用中のため、印刷を開始できません。)のメッセージを抑止します。マルチサーバ運用を指定した場合、メッセージ番号7401、7402、7403、7404 のメッセージを抑止します。

印刷完了待合せ方法

印刷完了待合せ方法を指定します。通常は、「プリンタ装置(内蔵型プリントサーバ)を指定する」を選択してください。

印刷完了待合せとは、最終ページが印刷されるまで印刷要求を終了せずに、ポートモニタで待ち合わせることです。印刷要求を待ち合わせることで、最終ページで印刷エラーが発生した場合にそのエラーを検出することができます。

印刷完了待合せ方法には、プリンタ装置を指定する方法と、完了待合せ時間を指定する方法がありますが、「印刷完了待合せ時間を指定する」を指定した場合、正しく印刷エラーを検出できないことがあります。

- プリンタ装置(内蔵型プリントサーバ)を指定する:

使用するプリンタ装置と内蔵型ネットワークプリントサーバの組み合わせをドロップダウンリストボックスから選択してください。

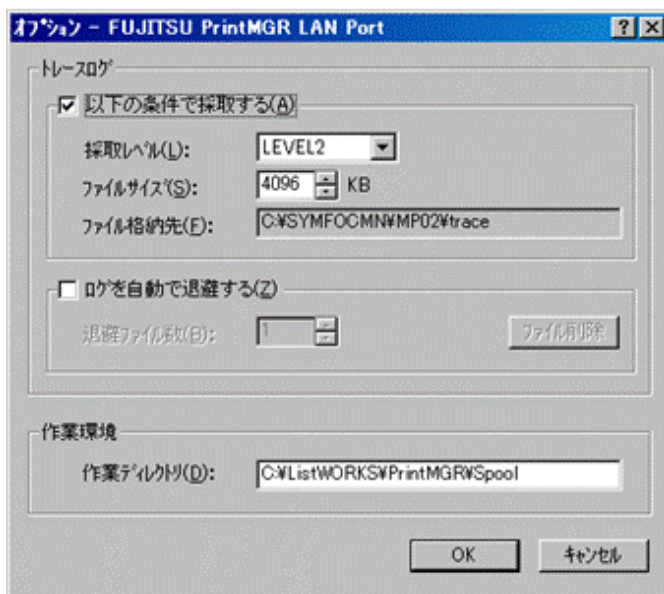
- 印刷完了待合せ時間を指定する: 選択しないでください。

【オプション】ボタン

トレースログの採取レベル、ログの退避、および作業ディレクトリについて設定する場合にクリックします。このボタンをクリックすると、オプション画面が表示されます。

オプション画面

ポートの追加画面で、【オプション】ボタンをクリックすると表示されます。以下に、オプション画面を示し、画面の内容を説明します。



トレースログ

トレースログについて指定します。トレースログとは、なんらかの異常が発生した場合、弊社技術員がその原因を解明するために残しておく情報です。

以下の条件で採取する

トレースログを採取する場合に有効にしてください。

採取レベル

トレースログの採取レベルを指定してください。採取レベルには以下のものがあります。

LEVEL1:

処理結果が異常の場合、処理結果だけを採取します。

LEVEL2:

処理結果が異常の場合、処理結果の詳細情報を採取します。初期値です。

LEVEL3:

処理結果にかかわらず、異常となった処理の前後の情報を含めて詳細に採取します。

ファイルサイズ

トレースログのファイルサイズを指定します。ファイルサイズを変更した場合は、変更前のトレースログの内容は無効です。64～10240キロバイトの範囲で指定できます。初期値は、4096キロバイトです。

ファイル格納先

トレースログファイルの格納先フォルダが表示されます。

ログを自動で退避する

トレースログが設定されたファイルサイズを超えたときに、自動でログを退避したい場合に有効にします。退避ファイル名は、「f3ewobsl Auto 年月日時分秒.log」の形式で、トレースログファイルを出力するフォルダに作成されます。

退避ファイル数

退避するトレースログのファイル数を1～7の範囲で指定します。

初期値は、1です。

【ファイル削除】ボタン

自動で退避したトレースログファイルをすべて削除したい場合にクリックします。

作業環境

作業ディレクトリ

作業ファイルなどを格納するために使用する作業フォルダを、120 文字以内のフルパスで指定します。初期値は、「List Works のインストール先フォルダ¥PrintMGR¥Spool」です。Print Managerを導入済みのサーバにList Worksをインストールした場合は、初期値は「Print Managerのインストール先フォルダ¥PrintMGR¥Spool」です。

「作業ディレクトリ」として指定するフォルダは、以下の条件であらかじめ作成されている必要があります。

- 固定ディスクに作成されている
- ファイルシステムがNTFS 形式の場合、ユーザに「変更」のアクセス許可が割り当てられている



注意

- 以下の場合で、かつトレースログファイルを作成(更新)するために必要なディスクの空き容量が不足すると、エラーメッセージが出力されます。
 - 「以下の条件で採取する」を有効にした場合
 - ログのファイルサイズを大きくした場合
 - 「ログを自動で退避する」を有効にした場合
 - 「退避ファイル数」を変更した場合

上記の場合、ディスクの空き容量を増やして、再度設定してください。ただし、トレースログファイルの作成(更新)は、ログが出力されたタイミングで行われるため、環境設定が完了してからログが出力されるまでの間にディスクの空き容量が不足した場合は、空き容量に応じた設定に変更されます。

この場合、ソースがF3EWSVLG のイベントログ(イベントID:141)が出力されますので、内容を確認してください。



イベントログについては、“17.3 配信出力サーバのメッセージ”を参照してください。

- ・「作業ディレクトリ」を変更して【OK】ボタンをクリックすると、以下の場合にエラーメッセージが表示されます。
 - ー 指定されたフォルダが存在しない場合
 - ー 指定されたフォルダが絶対パスでない場合
 - ー 指定されたフォルダがネットワークパスである場合
 - ー 指定されたフォルダが固定ディスクでない場合
 - ー 上記以外の異常が発生した場合
- ・印刷開始時に「作業ディレクトリ」として指定したフォルダが存在しない場合は、以下のフォルダを「作業ディレクトリ」として印刷を続行します。
 - ー List Worksのインストール先フォルダ¥PrintMGR¥Spool
- ・「作業ディレクトリ」が存在しない以外のエラー(書き込み権がないなど)の場合は、エラーメッセージが表示されます。

(3) プリンタのプロパティの設定

Windowsに定義したプリンタのプロパティを以下のように設定します。

【ポート】タブ

1つの論理プリンタ(プリンタプール)から2つ以上の同じプリンタ装置で印刷する場合は、「プリンタプールを有効にする」を指定します。



注意

- ・「プリンタプールを有効にする」を指定し、複数のポートを選択した場合、【詳細設定】タブで「印刷後ドキュメントを残す」を有効にしてください。なお、この場合、印刷順序は保証されません。
- ・プリンタポートで「FILE:」を選択すると、正常に印刷されない場合があります。選択しないでください。

【詳細設定】タブ

「印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う」を選択します。プリンタドライバによっては、初期値として「プリンタに直接印刷データを送る」が選択されている場合があります。この場合、「印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う」に設定を変更してください。

【ポート】タブで「プリンタプールを有効にする」を指定し、複数のポートを選択した場合、「印刷後ドキュメントを残す」を有効にしてください。なお、この場合、印刷順序は保証されません。

スプールデータ形式をEMFに設定します。以下に設定例を示します。なお、スプールデータ形式の設定方法は、プリンタドライバにより異なります。



設定方法については、“各プリンタドライバのマニュアル”を参照してください。

設定例

【標準の設定】ボタンをクリックすると、【標準の設定】画面が表示されます。

【標準の設定】画面の【用紙/品質】タブで【詳細設定】ボタンをクリックすると、プリンタの詳細オプション画面が表示されます。「ドキュメントのオプション」の「メタファイルスプーリング」に「有効」を選択します。



注意

- ・ 本機能では、EMF形式を推奨します。スプールデータがRAW形式の場合、出力状態が取得できない、セパレータが印刷できないなどのトラブルが発生することがあります。
- ・ プリントドライバにより、EMF形式でスプールされないものがあります。

富士通ホスト帳票をインパクトプリンタおよび連続紙プリンタに印刷する場合は、用紙サイズ、給紙口を設定します。また、プリントドライバの設定で、用紙サイズ、給紙口を指定して印刷する場合は、同様な設定が必要です。

以下に設定例を示します。なお、設定方法は、プリントドライバにより異なります。



設定方法については、“各プリンタドライバのマニュアル”を参照してください。

設定例

【標準の設定】ボタンをクリックすると、【標準の設定】画面が表示されます。

【標準の設定】画面の【用紙/品質】タブの「給紙方法」で給紙口を選択します。

また、【詳細設定】ボタンをクリックすると、プリンタの詳細オプション画面が表示されます。「用紙/出力」の「用紙サイズ」で用紙を選択します。



注意

プリントドライバの設定を変更する場合は、【詳細設定】タブの【標準の設定】画面で行ってください。【全般】タブの【印刷設定】画面で行った設定は、有効になりません。

4.3 ネットワークの設定

ネットワークの設定を行います。なお、配信管理サーバと配信出力サーバを同一のサーバで運用している場合は、“[3.5 ネットワークの設定](#)”ですでに実施しているため、設定する必要はありません。

配信出力サーバをList Worksサーバとは別のサーバで運用している場合に、List Works配信出力サーバで以下の設定を行います。

(1) DNSサーバの設定

DNSサーバで名前解決を行う場合、List Works配信出力サーバのIPアドレスとFQDNでのコンピュータ名の設定をDNSサーバに行ってください。

(2) hostsファイルの設定

hostsファイルで名前解決を行う場合、List Worksサーバのサーバ名とIPアドレスをWindowsのhostsファイルに設定します。

また、複数のネットワークが存在し、LANボード/カードでそれぞれのネットワークに接続させている場合、Windowsのhostsファイルに、List Works配信出力サーバのサーバ名とIPアドレスを設定します。

[hostsファイルの記述例]

192.9.200.3	SYS1 # List Worksサーバ
192.9.200.2	SYS2 # List Works配信出力サーバ

(3) servicesファイルの設定

Windowsのservicesファイルに、サービス「LW Transfer Service」で使用するポート番号を設定します。

ポート番号は、List Worksサーバで実施した印刷配信の環境設定で「delivery.manager.filetrans.port」に設定されている値を指定します。通常は9564を指定します。ポート番号を変更している場合などで、設定されている内容を確認するときは、List Worksサーバでlwdstmgrenvコマンドを実行します。

dtranf01 ポート番号/tcp #LW Transfer Service



servicesファイルに追加した行の最後には必ず改行を入れてください。

4.4 Interstageのサービスの設定

以下の手順で、Interstageのサービスの設定を行います。

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

配信出力サーバを運用するサーバのホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。
3. Interstage管理コンソールの左側のツリー画面で、「システム」をクリックします。
4. 【システム:状態】画面の【環境設定】タブをクリックします。
5. 【システム:環境設定】画面の「詳細設定[表示]」をクリックします。
6. 「イベントサービス詳細設定」または「JMS詳細設定」の項目の「使用する」ラジオボタンを確認します。
ー 「使用する」ラジオボタンが選択されている場合
手順7.へ進みます。

- 「使用する」ラジオボタンが選択されていない場合

Interstageの構成変更を以下の手順で行います。

1. 配信出力サーバと同じサーバに配信管理サーバが構築されている場合は、配信管理サーバのワークユニット(LWDST_MREG、LWDST_MGUI、LWDST_MWTR)を停止します。
配信出力サーバと同じサーバでInterstageを利用した他のアプリケーションが運用されている場合は、それらのアプリケーションを停止します。
 2. 「使用する」ラジオボタンを選択して、【適用】ボタンをクリックします。
 3. 確認のウィンドウが表示されるので、【OK】ボタンをクリックします。
7. 【システム:環境設定】画面の【状態】タブをクリックします。
8. 【システム:状態】画面の「詳細[表示]」をクリックします。
9. Interstage構成サービスの一覧を確認し、以下のサービスが起動していることを確認します。
- コンポーネントトランザクションサービス(TD)
 - CORBAサービス
 - ネーミングサービス
 - イベントサービス
10. 起動していないサービスがある場合、Interstageの再起動を以下の手順で行います。
1. 【システム:状態】画面の【停止】ボタンをクリックします。
 2. 「通常停止」を選択して、【実行】ボタンをクリックします。
 3. 確認のウィンドウが表示されるので、【OK】ボタンをクリックします。
 4. 【システム:状態】画面の【起動】ボタンをクリックします。

4.5 環境構築スクリプトによる配信出力サーバの環境構築

配信出力サーバの環境構築を行うために、環境構築スクリプトを実行します。環境構築スクリプトは、配信出力サービスが利用するInterstageのイベントサービスとJMSの設定や、配信出力サービスの動作環境の設定を行います。

環境構築スクリプトを実行する前に、帳票印刷配信機能が使用するリソース名が、他のシステムで使用されていないか確認します。

4.5.1 環境構築スクリプトの実行手順

環境構築スクリプトは、以下の手順で実行します。

1. 帳票印刷配信機能が使用するリソース名の確認
2. 環境構築スクリプトファイルの複写
3. 環境構築スクリプトファイルの編集
4. 環境構築スクリプトの実行
5. 環境構築スクリプトファイルのバックアップ

(1) 帳票印刷配信機能が使用するリソース名の確認

配信出力サーバでは、InterstageのイベントサービスおよびJMSの機能を利用しています。同じサーバの他のシステムでInterstageのイベントサービスやJMSを利用しており、以下の項目で同じリソース名を利用している場合は、環境構築スクリプトおよび環境削除スクリプトに記述されているリソース名を編集してから、各スクリプトを実行する必要があります

項目	リソース名
イベントサービスの保存先ユニット名	lwdst
イベントサービスのイベントチャンネルグループ名	Lwdstevent
コネクションファクトリ名(JNDI名)	LwdstStatusQueueCF
Destination名(JNDI名)	LwdstPrintJobRQueue LwdstStatusRQueue LwdstStatusSQueue

以下の手順で、上記リソース名が他システムで利用されていないかを確認します。

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

配信出力サーバを運用するサーバのホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分で「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。
3. 【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】配下の以下のどちらかをクリックします。
 - ー 【サービス】→【イベントサービス】→【保存先】
 - ー 【リソース】→【JMS】→【保存先】
4. 【保存先:情報】画面のユニットIDの一覧に「lwdst」がないことを確認します。
5. 【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】配下の以下のどちらかをクリックします。
 - ー 【サービス】→【イベントサービス】→【イベントチャンネル】
 - ー 【リソース】→【JMS】→【イベントチャンネル】
6. 【イベントチャンネル:状態】画面のグループ名の一覧に「Lwdstevent」がないことを確認します。
7. 【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】→【リソース】→【JMS】→【ConnectionFactory】をクリックします。
8. 【ConnectionFactory:一覧】画面のJNDI名の一覧に「LwdstStatusQueueCF」がないことを確認します。
9. 【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】→【リソース】→【JMS】→【Destination】をクリックします。
10. 【Destination:一覧】画面のJNDI名の一覧に「LwdstPrintJobRQueue」「LwdstStatusSQueue」「LwdstStatusRQueue」がないことを確認します。
11. 同じリソース名が利用されていないことが確認できた場合は、環境構築スクリプトおよび環境削除スクリプトの実行前にリソース名の修正は行わないでください。
同じリソース名が利用されている場合は、各スクリプトの実行前に、必ずスクリプトを修正してリソース名を変更してください。

(2) 環境構築スクリプトファイルの複写

配信出力サーバの環境構築スクリプトの各ファイルが格納されているフォルダを、作業用フォルダ(例えば「C:¥work」)配下に複写してください。

配信出力サーバの環境構築スクリプトの各ファイルは以下に格納されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥setup¥create

(3) 環境構築スクリプトファイルの編集

複写した以下のファイルをテキストエディタで開いて編集します。

- lwsetupwtr.bat

インストール先フォルダの変更

環境に合わせて、ファイルの太字下線部分を編集してください。

項目	編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
List Worksのインストール先フォルダ	List Worksのインストール先フォルダの絶対パスを設定してください。 ファイルの区切り文字(¥)は末尾に付与しないでください。付与した場合は、環境構築スクリプトがエラーとなります。 ダブルクォーテーション(")は付与しないでください。付与した場合は、環境構築スクリプトが構文エラーにより実行できなくなります。	@set installpath=C:¥ ListWORKS

リソース名の変更

“(1) 帳票印刷配信機能が使用するリソース名の確認”で、同じリソース名が同じサーバの他のシステムで利用されていることが確認された場合は、以下の項目も編集してください。通常は編集する必要はありません。環境構築スクリプトを編集して指定したリソース名は、環境削除スクリプトでも利用します。リソース名を編集した場合は、“(5) 環境構築スクリプトファイルのバックアップ”の手順で必ず環境構築スクリプトをバックアップしてください。

項目	編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
イベントサービスの保存先ユニット名	イベントサービスの保存先ユニット名を、6文字以内の半角英数字(注)で指定してください。 大文字と小文字は区別されません。	@set lwdst= lwdst
イベントサービスのイベントチャネルグループ名	イベントサービスのイベントチャネルグループ名を、32文字以内の半角英数字(注)で指定してください。	@set Lwdstevent= Lwdstevent
コネクションファクトリ名(JNDI名)	コネクションファクトリのJNDI名を、255文字以内の半角英数字(注)で指定してください。 DestinationのJNDI名とは異なる名前を指定してください。	@set LwdstStatusQueueCF= LwdstStatusQueueCF
Destination名(JNDI名)	DestinationのJNDI名を、255文字以内の半角英数字(注)で指定してください。	@set LwdstPrintJobRQueue= LwdstPrintJobRQueue @set LwdstStatusRQueue= LwdstStatusRQueue @set LwdstStatusSQueue= LwdstStatusSQueue

項目	編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
	ここで指定する3つのJNDI名と、コネクションファクトリのJNDI名は、それぞれ異なる名前を指定してください。	

注:

半角英数字は、a～z、A～Z、0～9の範囲の文字で指定してください。また、省略せず、1文字以上の文字列を指定してください。範囲外の文字を利用した場合や省略した場合は、環境構築スクリプト、環境削除スクリプト、および配信出力サーバの動作は保証されません。

(4) 環境構築スクリプトの実行

環境構築スクリプト(lwsetupwtr.bat)を、管理者権限のあるユーザで実行します。

実行例を以下に示します。

```
C:¥work¥create> lwsetupwtr.bat
```

環境構築スクリプトの実行が完了したら、ログファイルを参照して、配信出力サーバの環境構築中にエラーが発生して中断されていないことを確認します。ログファイルは、環境構築スクリプトの実行カレントフォルダに出力されます。

例) C:¥work¥create¥lwsetupwtr.log.txt

以下のメッセージが最後に出力されている場合は、配信出力サーバの環境構築が成功しています。

```
配信出力サーバの環境構築が完了しました。
環境構築スクリプトファイルはバックアップしてください。
```

エラーが発生して、環境構築が中断されていた場合、メッセージの内容に従って、エラーの原因を取り除いてください。



環境構築スクリプトで出力されるメッセージと、その対処方法については、“[4.5.3 環境構築スクリプト/環境削除スクリプトで発生するエラーと対処方法](#)”を参照してください。

エラーを取り除いた後、再度環境構築を行います。



再構築の方法については、“[4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順](#)”を参照してください。

(5) 環境構築スクリプトファイルのバックアップ

編集した以下のファイルは、アンインストール時にリソース名の変更を確認するために利用します。必ずバックアップしてください。

- lwsetupwtr.bat

4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順

環境構築スクリプトでエラーが発生した場合、環境を削除してから、再度環境構築を行います。環境の削除は、環境削除スクリプト(lwdeletewtr.bat)を使用します。環境削除スクリプトは、以下の場所に格納されています。

```
List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥setup¥delete
```

(1) 環境の削除

手順1: 環境削除スクリプトの複写

lwdeletewtr.batの格納されている以下のフォルダを、作業用フォルダ(例えば「C:\work」)配下に複写してください。

```
List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥setup¥delete
```

手順2: 環境削除スクリプトの修正

環境構築スクリプトで、リソース名を修正して実行した場合、環境削除スクリプトで指定されるリソース名も修正する必要があります。通常は修正する必要はありません。

環境構築スクリプトで指定したリソース名に合わせて、環境構築スクリプトの実行後にバックアップしたファイルを参考に、環境削除スクリプトの以下の項目を修正してください。

項目	編集内容	編集箇所(太字下線の部分)
イベントサービスの保存先ユニット名	環境構築スクリプトで指定した保存先ユニット名を指定してください。	@set lwdst= <u>lwdst</u>
イベントサービスのイベントチャネルグループ名	環境構築スクリプトで指定したイベントチャネルグループ名を指定してください。	@set Lwdstevent= <u>Lwdstevent</u>
コネクションファクトリ名(JNDI名)	環境構築スクリプトで指定したコネクションファクトリのJNDI名を指定してください。	@set LwdstStatusQueueCF= <u>LwdstStatusQueueCF</u>
Destination名(JNDI名)	環境構築スクリプトで指定したDestinationのJNDI名を指定してください。	@set LwdstPrintJobRQueue= <u>LwdstPrintJobRQueue</u> @set LwdstStatusRQueue= <u>LwdstStatusRQueue</u> @set LwdstStatusSQueue= <u>LwdstStatusSQueue</u>

手順3: 環境削除スクリプトの実行

1. 環境削除スクリプト(lwdeletewtr.bat)を管理者権限のあるユーザで実行します。

実行例を以下に示します。

```
C:\work¥delete> lwdeletewtr.bat
```

2. 削除するリソース名が実行画面に表示され、削除を確認するメッセージが表示されます。削除するリソース名を確認し、問題がなければyを入力してください。環境削除スクリプトの処理が続行されます。問題がある場合はnを入力してください。環境削除スクリプトの処理が中断されます。yまたはn以外の文字列を入力すると、再度確認のメッセージが表示されます。

確認メッセージの表示例を以下に示します。

配信出力サーバの環境削除を行います。

以下のリソースが指定されました。

環境構築スクリプトで指定されているリソース名と一致しているか必ず確認してください。

```
-----
保存先ユニット           : lwdst
イベントチャネルグループ : Lwdstevent
コネクションファクトリ   : LwdstStatusQueueCF
Destination               : LwdstPrintJobRQueue
                           : LwdstStatusRQueue
                           : LwdstStatusSQueue
-----
```

環境の削除を実施してもよろしいですか(y/n)

3. ログファイルを参照して、配信出力サーバの環境削除中にエラーが発生して中断されていないことを確認します。ログファイルは、環境削除スクリプトの実行カレントフォルダに出力されます。

例) C:\work\delete\lwdeletewtr log.txt



環境削除スクリプトで出力されるエラーと、その対処方法については、“[4.5.3 環境構築スクリプト/環境削除スクリプトで発生するエラーと対処方法](#)”を参照してください。

(2) 環境構築スクリプトの実行

再度、環境構築スクリプトを実行して、配信出力サーバの環境構築を行います。

実行例を以下に示します。

```
C:\work\create> lwsetupwtr.bat
```



環境構築スクリプトの実行については、“[4.5.1 環境構築スクリプトの実行手順](#)”を参照してください。

4.5.3 環境構築スクリプト/環境削除スクリプトで発生するエラーと対処方法

環境構築スクリプトおよび環境削除スクリプトで発生する、代表的なエラーと、その対処方法について説明します。

環境構築スクリプトと、環境削除スクリプトは、実行経過をログファイルに出力します。スクリプトの実行が中断された場合、ログファイルに出力されているメッセージを確認して対処する必要があります。

ログファイルには、以下の形式でメッセージが出力されます。

```
ラベル:エラー種別:メッセージ番号:メッセージ内容
```

各項目の説明を以下に示します。

ラベル：エラーが発生したコンポーネントを表します。「ES」および「JMS」の場合、Interstageのイベントサービスでエラーが発生しています。「LDST」の場合、List Worksの配信出力サーバでエラーが発生しています。

エラー種別：「情報」「警告」「エラー」のいずれかの情報が表示されます。

メッセージ番号：メッセージにつけられた番号が表示されます。

メッセージ内容：メッセージが表示されます。

メッセージ番号	原因	対処方法
LDST00000	List Worksのインストール先フォルダが正しく指定されていません。	環境構築スクリプトを編集して、List Worksのインストール先フォルダを正しく指定してください。 環境構築スクリプトの編集方法については、“ 4.5.1 環境構築スクリプトの実行手順 ”を参照してください。
LDST00001	ファイルの書き込みに失敗しました。 ファイルやフォルダのアクセス権が正しく設定されていない可能性があります。	以下のフォルダ、およびフォルダ配下のファイルについてアクセス権の設定を確認してください。 List Worksのインストール先フォルダ\ Distribute\ writer\ conf

メッセージ番号	原因	対処方法
es10010	Interstageの必要なサービスが起動されてない可能性があります。	Interstage管理コンソールより、必要なサービスが起動されているか確認してください。起動されていない場合は、必要なサービスを起動してください。 サービスの確認および起動方法については、“ 4.4 Interstageのサービスの設定 ”を参照してください。
es10015	Interstageの動作環境に必要なサービスが追加されてない可能性があります。	Interstage管理コンソールより、Interstageの動作環境にイベントサービスが追加されていることを確認してください。追加されてない場合は、イベントサービスを追加してください。 イベントサービスが動作環境に追加されているか確認する方法および追加する方法については、“ 4.4 Interstageのサービスの設定 ”を参照してください。
es10023	環境構築処理に成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。
es10025	資源の削除に失敗しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、削除対象の資源を管理するサービスが、完全に停止していない可能性があります。しばらく時間をおいてから、再度環境削除スクリプトを実行してください。
es10062	環境削除処理に成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。
es10201	Interstageが起動されていない可能性があります。また、Interstageの必要なサービスが起動されていない可能性があります。	Interstage管理コンソールより、Interstageおよび必要なサービスが起動されているか確認してください。起動されていない場合は、Interstageおよび必要なサービスを起動してください。 サービスの確認および起動方法については、“ 4.4 Interstageのサービスの設定 ”を参照してください。
es10403	メモリ不足の可能性があります。	不要なアプリケーションを停止してください。
es10404	メモリ不足の可能性があります。	不要なアプリケーションを停止してください。
es10406	ディスクの容量が不足している可能性があります。	配信出力サーバを動作させるのに必要なディスクの容量が確保されているか確認してください。
es10409	メモリ不足の可能性があります。	不要なアプリケーションを停止してください。
es10603	資源の削除に失敗しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

メッセージ番号	原因	対処方法
		環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、削除対象の資源を管理するサービスが、完全に停止していない可能性があります。しばらく時間をおいてから、再度環境削除スクリプトを実行してください。
es10606	Interstageの必要なサービスが起動されていない可能性があります。	Interstage管理コンソールより、必要なサービスが起動されているか確認してください。 起動されていない場合は、必要なサービスを起動してください。 サービスの確認および起動方法については、“4.4 Interstageのサービスの設定”を参照してください。
es10708	Interstageの環境に存在しないリソース名が指定されました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 リソース名を修正せずにスクリプトを実行した場合は、問題はありません。 リソース名の修正を行ってスクリプトを実行した場合は、環境構築スクリプトで指定したリソース名と同じリソース名が環境削除スクリプトでも指定されているか確認してください。異なるリソース名が指定されている場合は、環境削除スクリプトを修正し、正しいリソース名を指定して、再度環境削除スクリプトを実行してください。環境構築スクリプトと同じリソース名が指定されている場合は、問題はありません。
es10711	リソース名の指定に問題があります。	リソース名を修正して環境構築スクリプトを実行した場合、イベントチャネルグループ名の指定に問題がある可能性があります。スクリプトに指定したイベントチャネルグループ名を確認してください。
es10716	Interstageの環境に既に存在するリソース名が指定されました。	以前に環境構築スクリプトで環境構築を行ったことがある場合、古い環境が残っている可能性があります。環境削除スクリプトで、環境の削除を行ってください。 環境削除スクリプトの実行方法については、“4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順”を参照してください。
es11101	Interstageの環境に存在しないリソース名が指定されました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 リソース名を修正せずにスクリプトを実行した場合は、問題はありません。 リソース名の修正を行ってスクリプトを実行した場合は、環境構築スクリプトで指定したリソース名と同じリソース名が環境削除スクリプトでも指定されているか確認してください。異なるリソース名が指定されている場合は、環境削除スクリプトを修正し、正しいリソース名を指定して、再度環境削除スクリプトを実行してください。環境構築スクリプトと同じリソース名が指定されている場合は、問題はありません。
es11108	環境構築処理が成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

メッセージ番号	原因	対処方法
es11111	リソース名の指定に問題があります。	直前にes11128のメッセージが表示されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。
es11112	環境構築処理が成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。
es11113	Interstageの環境に既に存在するリソース名が指定されました。	以前に環境構築スクリプトで環境構築を行ったことがある場合、古い環境が残っている可能性があります。環境削除スクリプトで、環境の削除を行ってください。 環境削除スクリプトの実行方法については、“4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順”を参照してください。
es11117	環境削除処理に成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。
es11128	リソース名の指定に問題があります。	リソース名を修正して環境構築スクリプトを実行した場合、保存先ユニット名の指定に問題がある可能性があります。スクリプトに指定した保存先ユニット名を確認してください。
es11134	環境構築処理が成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。
es11135	環境削除処理に成功しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、問題はありません。
es11139	サービスが稼働するための資源が、既に環境に存在します。	以前に環境構築スクリプトで環境構築を行ったことがある場合、古い環境が残っている可能性があります。環境削除スクリプトで、環境の削除を行ってください。 環境削除スクリプトの実行方法については、“4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順”を参照してください。
es11140	資源の削除に失敗しました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合、削除対象の資源を管理するサービスが、完全に停止していない可能性があります。または関連する他の資源が削除されていない可能性があります。 他に問題のあるメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して問題を解決して、再度環境削除スクリプトを実行してください。

メッセージ番号	原因	対処方法
es11211	管理者権限がありません。	管理者権限のないユーザで実行した可能性があります。管理者権限のあるユーザでスクリプトを実行してください。
jms2811	リソース名の指定に問題があります。	リソース名を修正して環境構築スクリプトを実行した場合、コネクションファクトリまたはDestinationのJNDI名の指定に問題がある可能性があります。スクリプトに指定したJNDI名を確認してください。
jms2815	環境構築処理または環境削除処理が成功しました。	本メッセージが出力された場合、問題はありません。
jms6013	Interstageの環境に既に存在するリソース名が指定されました。	リソース名の修正を行って環境構築スクリプトを実行した場合、修正したコネクションファクトリ名とDestination名のJNDIに同じ名前が指定されている可能性があります。それぞれ異なる名前を指定してください。 指定したリソース名(JNDI名)に問題がない場合や、リソース名の修正を行わずに環境構築スクリプトを実行した場合、以前に実行した環境構築スクリプトによって作成された古い環境が残っている可能性があります。環境削除スクリプトで、環境の削除を行ってください。 環境削除スクリプトの実行方法については、“4.5.2 環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順”を参照してください。
jms6014	Interstageの環境に存在しないリソース名が指定されました。	環境構築スクリプトの場合 本メッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。 環境削除スクリプトの場合 リソース名の修正を行わずにスクリプトを実行した場合は、問題はありません。 リソース名の修正を行ってスクリプトを実行した場合は、環境構築スクリプトで指定したリソース名と同じリソース名が環境削除スクリプトでも指定されているか確認してください。異なるリソース名が指定されている場合は、環境削除スクリプトを修正し、正しいリソース名を指定して、再度環境削除スクリプトを実行してください。環境構築スクリプトと同じリソース名が指定されている場合は、問題はありません。

上記の対処方法で問題が解決されない場合や、上記以外のエラーメッセージが出力された場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

4.6 帳票印刷のワークユニットの作成

帳票印刷のワークユニットを作成します。



参考

帳票印刷のワークユニットは、サンプルスクリプト(createWUPA.bat)を利用して作成することができます。

サンプルスクリプトの格納場所

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥setup¥samples

サンプルスクリプトを利用したワークユニット作成手順を以下に示します。

1. 管理者権限のあるユーザでコマンドプロンプトを起動し、サンプルスクリプトの格納場所にフォルダを移動して、サンプルスクリプトを実行します。

Windows Server 2008で実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

例)

```
C:\¥ListWORKS¥Distribute¥writer¥setup¥samples> createWUPA.bat
```

2. コマンドプロンプト上に、「ワークユニットの作成手順が完了しました。」のメッセージが表示されることを確認します。
「ワークユニットの作成手順が完了しました」のメッセージの前に、エラーメッセージが出力されている場合は、ワークユニットの作成手順に従って作成してください。

以下に、ワークユニットの作成手順を説明します。

手順1: Interstage管理コンソールの起動

以下の手順で、Interstage管理コンソールを起動します。

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

配信出力サーバを運用するサーバのホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

手順2: ワークユニットの作成

以下の手順で、ワークユニットの作成を行います。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【ワークユニット:状態】画面の【新規作成】タブをクリックします。
3. ワークユニットの名前を指定します。「簡易設定」の「ワークユニット名」エディットボックスに、「LWDST_W」を指定してください。



注意

ワークユニット名に「LWDST_W」以外は、指定しないでください。

4. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
5. 「IJServer設定[表示]」をクリックします。
6. ワークユニットタイプを指定します。IJServerタイプから、以下のいずれかを選択してください。
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを同一JavaVMで運用
 - WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用

ー Webアプリケーションのみ運用

7. 【作成】ボタンをクリックします。

→「LWDST_W」ワークユニットが作成されます。

手順3:ワークユニットの設定

以下の手順で、ワークユニットの設定を行います。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_W】をクリックします。
3. 【LWDST_W: 操作】画面の【環境設定】タブをクリックします。
4. 「ワークユニット設定[表示]」をクリックします。
5. プロセス多重度を指定します。「プロセス多重度」エディットボックスに1の値を指定します。



注意

1以外の値は、指定しないでください。

6. クラスパスを指定します。「クラスパス」エディットボックスに、以下のパスを絶対パスで指定します。各クラスパスを指定するときは、行の最後で改行してください。
 - ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥classes¥lwdstwtr.jar
 - ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥classes¥lwdstcif.jar
 - ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥F3JTjavaapi.jar
 - ー List Worksのインストール先フォルダ¥classes¥lwtrace.jar
7. Java バージョンを指定します。「Java バージョン」コンボボックスから「5.0」を選択します。
8. JavaVMオプションに「-Xms16m -Xmx256m」を記載します。
9. 【適用】ボタンをクリックします。
→「LWDST_W」ワークユニットが設定されます。

手順4:Webアプリケーションの配備

以下の手順で、Webアプリケーションを配備します。

1. Interstage 管理コンソールの左側のツリー画面で、【システム】の【ワークユニット】をクリックします。
2. 【LWDST_W】をクリックします。
3. 【LWDST_W: 操作】画面の【配備】タブをクリックします。
4. 配備ファイルに、「ファイルをアップロードして配備する」を選択し、以下のファイルを指定します。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥classes¥lwdst-writer.war
5. 「起動指定」の「配備完了後、ワークユニットを起動する」チェックボックスのチェックをはずしてください。
6. 「詳細設定[表示]」をクリックします。
7. 「Web アプリケーション設定[表示]」をクリックします。
8. Web アプリケーション名に、「lwdst-writer」が指定されていることを確認します。



注意

Webアプリケーション名は、「lwdst-writer」以外は指定しないでください。

9. 【配備】ボタンをクリックします。
→Webアプリケーションが配備されます。

4.7 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



配信出力サービスの停止方法については、“[10. 1. 1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

4.8 プリンタの環境設定

プリンタの環境設定を以下の手順で実施します。

1. 管理対象プリンタの追加
2. プリンタの管理環境の設定

4.8.1 管理対象プリンタの追加

プリンタを配信出力サーバの管理対象として追加します。

プリンタを管理対象として追加するには、`addlprt` コマンドを実行します。管理対象としているプリンタを一覧表示する場合には、`prtlist` コマンドを実行します。



`addlprt`コマンドについては、“[16. 2. 3 addlprtコマンド](#)”を参照してください。
`prtlist`コマンドについては、“[16. 2. 5 prtlistコマンド](#)”を参照してください。

4.8.2 プリンタの管理環境の設定

プリンタの管理環境は、以下のコマンドで設定します。

- `setenvdef`コマンド
- `setenvprt`コマンド

以下に、各コマンドで設定する内容について説明します。

setenvdefコマンドでの設定

帳票印刷時の印刷エラーのメッセージを通知する環境やログの採取方法など、管理対象プリンタの全体の設定を行います。

`setenvdef`コマンドで、設定する項目を以下に示します。設定した内容を表示する場合も、本コマンドを実行します。



プリンタの管理環境における全体の設定コマンドについては、“[16. 2. 6 setenvdefコマンド](#)”を参照してください。

- スプールフォルダに関する設定
配信出力サーバの管理対象のプリンタから印刷するときに、帳票がスプールされるフォルダを設定します。

スプールフォルダの初期値は「(Windowsのシステムドライブ)¥windows¥system32¥spool¥PRINTERS」です。

変更する場合は、以下の手順で作業してください。

スプールフォルダの変更手順

1. setenvdefコマンドで、「スプールフォルダ」を変更します。
2. Windows Server 2003 の場合、コントロールパネルの【管理ツール】—【サービス】で「PRT Server Service」および「Print Spooler」を停止します。Windows Server 2008 の場合、コントロールパネルの【システムとメンテナンス】から【管理ツール】—【サービス】で「PRT Server Service」および「Print Spooler」を停止します。
3. 新しくスプールフォルダに設定するフォルダが存在しない場合、フォルダを作成します。フォルダは固定ディスクに作成してください。NTFS形式の場合、Usersグループのユーザに「変更」アクセス権を設定してください。
4. エクスプローラのフォルダ オプション画面の【表示】タブで「すべてのファイルとフォルダを表示する」が選択されていることを確認して、現在のスプールフォルダに存在するすべてのファイルを、新しくスプールフォルダに設定するフォルダに複写します。
5. コンピュータを再起動します。

・プリンタ監視の操作ログに関する設定

プリンタ監視の操作ログには、配信出力サーバの管理対象のプリンタを監視しているときに発生するエラー/警告/情報が出力され、トラブル発生時に使用します。プリンタ監視の操作ログの採取するイベントの種類、出力ファイル名、出力ファイルサイズなどを設定します。



プリンタ監視の操作ログの採取方法については、“[10.10 トラブル時の情報採取](#)”を参照してください。

・プリンタ監視のトレースログに関する設定

プリンタ監視のトレースログには、配信出力サーバの管理対象のプリンタを監視しているときのプログラムの処理結果(プログラムトレース)、通信に関する処理結果(ネットワークトレース)が出力され、トラブル発生時に使用します。プリンタ監視のトレースログの採取条件、出力ファイルサイズなどを設定します。



プリンタ監視のトレースログの採取方法については、“[10.10 トラブル時の情報採取](#)”を参照してください。

・返答メッセージ、または応答メッセージに関する設定

配信出力サーバの管理対象のプリンタでエラーが発生したときや印刷経過を知らせるときに、指定したメッセージ通知クライアントに返答メッセージおよび応答メッセージを通知できます。返答/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントのコンピュータの指定およびポップアップ表示をする/しないを設定します。

setenvprtコマンドでの設定

帳票印刷時の印刷エラーのメッセージを通知する環境など、管理対象プリンタの環境をプリンタごとに設定します。

setenvprtコマンドで、設定する項目を以下に示します。設定した内容を表示する場合も、本コマンドを実行します。

・返答メッセージ、または応答メッセージに関する設定

配信出力サーバの管理対象のプリンタでエラーが発生したときや印刷経過を知らせるときに、指定したメッセージ通知クライアントに返答メッセージおよび応答メッセージを通知できます。返答/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントのコンピュータの指定およびポップアップ表示をする/しないを設定します。

4.9 配信出力サーバの環境設定

配信出力サーバの環境設定を行うためには、配信出力サーバの環境設定ファイル(lwdstwttr.ini)を編集します。

環境設定ファイルは、以下の場所に格納されています。

配信出力サーバの環境設定ファイルの編集規約とキーの説明を以下に示します。

編集規約

- ・ 1行1項目で指定してください。
- ・ キーと値の指定は、「キー=値」の形式で指定してください。
- ・ 設定値の前後に全角の空白文字や半角の空白文字を入力しないでください。また、設定値の後は改行してください。
- ・ コメントを記述する場合は、行頭に「#」を記述してください。
- ・ 行は削除しないでください。
- ・ 追加した行の最後は、必ず改行してください。
- ・ シフトJISコードで記述してください。
- ・ セクション名およびキー名を変更しないでください。キー名を誤って指定した場合、設定は無効となります。
- ・ 同一のセクション名または同一のキー名が重複して指定された場合は、後で指定した値が有効となります。

キーの説明

セクション名	キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	初期値
WRITER				
	PRINT_JOB_FOLDER	【帳票印刷時の作業フォルダ】 帳票印刷時の作業フォルダのパスをフルパスで指定します。 帳票印刷時の作業フォルダを変更したい場合に設定してください。また、事前に変更先のフォルダを作成してください。作成したフォルダには、サービス「LW Print State Service」、サービス「LW Transfer Service」、サービス「TransactionDirector」のログオンアカウントに対してフルコントロールのアクセス権を設定してください。ログオンアカウントにシステムアカウントが設定されている場合は、SYSTEMに対しフルコントロールのアクセス権を設定してください。 末尾にフォルダの区切り文字は指定しないでください。 フォルダのパスは160バイト以内で指定してください。160バイトを超えて設定した場合、帳票印刷のワークユニットの起動に失敗します。 帳票印刷時の作業フォルダとは、配信管理サーバから配信された帳票を一時的に格納するフォルダです。 この設定を省略した場合や、存在しないフォルダが指定された場合、以下が設定されたものとして動作します。ただし、以下のフォルダの長さが160バイトを超えている場合、帳票印刷のワークユニットの起動に失敗します。 List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥data¥spool  注意 ワークユニットの起動の成功/失敗を確認するためには、イベントビューアに出力されるイベントログを参照する必要があります。		

セクション名	キー名	キーの設定内容(設定値)	必須	初期値
		確認方法については、“10. 1. 3 サービス開始の確認”を参照してください。 		
STATE				
	PORT	【配信出力サーバのWebサーバのポート番号】 配信出力サーバを運用するサーバのWebサーバに設定しているポート番号を1～65535の整数で指定します。 配信出力サーバを運用するサーバのWebサーバに設定しているポート番号を変更した場合に設定してください。通常は変更する必要はありません。 この設定を省略した場合は、80が設定されたものとして動作します。		80
COMMON				
	OwnServer	【配信出力サーバのホスト名】 List Works配信出力サーバ(自サーバ)のホスト名を指定します。 通常は本設定を省略します。以下の場合のみ設定が必要です。 • List Worksサーバとは別にList Works配信出力サーバを構築する場合、かつ • 複数のネットワークが存在し、LANボード/カードでそれぞれのネットワークに接続させている場合 List Works配信出力サーバのホスト名は、hostsファイルに設定されている必要があります。 詳細については、“4. 3 ネットワークの設定”を参照してください。		
	Reset	【配信出力サーバの内部情報の初期化】 帳票印刷のワークユニットを起動する時に、内部で保持している情報を初期化するかどうかを指定します。 下記以外の値が指定された場合または省略した場合は、Nが指定されたものとして動作します。 N: 初期化しない Y: 初期化する 通常は、本設定を変更する必要はありません。 List WorksサーバのIPアドレスなどの接続情報を変更した場合にエラーが発生し、イベントログのメッセージにJMSのエラーコード「jms2552」が表示されている場合の対処として、本設定により内部情報を初期化します。 内部情報を初期化する必要のあるエラーや、作業手順については、“17. 3. 1. 3 JMSのエラー”を参照してください。		N

記述例

配信出力サーバの環境設定ファイルの記述例を以下に示します。

```
[WRITER]
# 帳票印刷時の作業フォルダ
PRINT_JOB_FOLDER=D:\data\spool

[STATE]
```

```
# 配信出力サーバのWebサーバのポート番号
#PORT=80
```

[COMMON]

```
# 配信出力サーバ名 2つのネットワークに接続しているときに設定が必要。
#OwnServer=ホスト名
# 配信出力サーバの内部情報の初期化
#Reset=N
```



- ・ 環境設定ファイルを変更する場合、配信出力サーバでの配信処理や印刷処理が完了していることを確認し、配信出力サーバを停止させてから設定の変更を行ってください。
- ・ 編集した項目を有効にするには、配信出力サービスを再起動してください。

4.10 トナー削減印刷の設定

トナー削減印刷は、帳票の印刷時のトナー削減率を調整することで、プリンタのトナー消費量を節約することができる機能です。



- ・ 本機能は、PostScriptプリンタ、インパクトプリンタでは使用できません。
- ・ トナー削減率を変更した場合には、必ず、印刷結果に問題がないか確認してください。特に印刷したバーコードが、読み込めるか確認してください。

ここでは、トナー削減率の変更方法について説明します。

トナー削減率の変更は、配信出力サーバごとに行います。

トナー削減率を変更する場合には、トナー削減印刷の動作環境ファイル(lwdstpfpnr.ini)を編集します。

トナー削減印刷の動作環境ファイルは、以下の場所に格納されています。

List Works のインストール先フォルダ¥PrintFit

トナー削減印刷の動作環境ファイルの編集規約とキーの説明を以下に示します。

編集規約

- ・ 1行1項目で指定してください。
- ・ キーと値の指定は、「キー=値」の形式で指定してください。
- ・ 設定値の後に、続けて全角の空白文字や半角の空白文字を入力しないで改行してください。
- ・ コメントを記述する場合は、行頭に「;」を記述してください。
- ・ 追加した行の最後は、必ず改行してください。
- ・ シフトJISコードで記述してください。
- ・ セクション名およびキー名を変更しないでください。キー名を誤って指定した場合、設定は無効となります。

- ・ セクションが重複する場合、先に定義されたものが有効になります。
- ・ [nnnn]セクションのPrinterキーに指定するプリンタ名が重複する場合、セクション番号が小さい方が有効になります。([0001][0002]の場合、指定順序にかかわらず、[0001]の方が有効になります。)

キーの説明

セクション名	キー名	セクションの説明およびキーの設定内容(設定値)	必須	初期値
Default		配信出力サーバで、配信出力先に定義したプリンタに対して有効となるセクションです。Defaultセクションを省略すると、トナー削減率は「0」が指定されたものとみなされます。		
	Ratio	【配信出力先に指定したすべてのプリンタに対するトナー削減率】 配信出力先に指定したすべてのプリンタに対するトナー削減率(%)を0～90の範囲の整数値で指定します。整数値の後ろに小数点「.」などの文字を指定しても、整数値より後ろの文字は無視されます。 トナー削減率を大きくすると、トナーの消費量が減ります。 0を指定するとトナー削減処理は行いません。		0
nnnn		プリンタごとに有効となるセクションです。 このセクションを定義すると、Printerキーに指定したプリンタ名ごとにトナー削減率を指定できます。 nnnnは、0001～1024の範囲で複数指定可能です。		
	Printer	【プリンタ名】 プリンタ名を指定します。		
	Ratio	【プリンタごとのトナー削減率】 Printerキーに指定したプリンタに対するトナー削減率(%)を0～90の範囲の整数値で指定します。整数値の後ろに小数点「.」などの文字を指定しても、整数値より後ろの文字は無視されます。 トナー削減率を大きくすると、トナーの消費量が減ります。 0を指定するとトナー削減処理は行いません。 このRatioキーで指定したトナー削減率は、[Default]セクションのRatioキーで指定したトナー削減率より優先されます。		0

記述例

トナー削減印刷の動作環境ファイルの記述例を以下に示します。

プリンタ「XL-5720」のトナー削減率を30%に指定し、プリンタ「XL-5900」のトナー削減率を70%に指定した場合の例です。

```
[Default]
Ratio=0
[0001]
Printer=XL-5720
Ratio=30
[0002]
Printer=XL-5900
Ratio=70
```

4.11 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始方法については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

以下のサービスがすでに開始している場合は、再起動してください。

- LW Transfer Service
- LW Print State Service

第5章 運用環境の設定

配信管理サーバの運用環境の設定について説明します。



- ・ 配信管理サーバの運用環境の設定を行う前に、配信管理サービスを起動しておく必要があります。
- ・ 配信管理サーバの運用環境の設定を行う場合、管理者権限を持ったアカウントでList Worksサーバにログインする必要があります。

配信管理サーバの運用環境の設定手順と参照先を以下に示します。

手順	環境設定手順	参照先
1	プリンタ構成の定義(任意) (注)	“5.1 プリンタ構成の定義(任意)”
2	配信出力先の定義	“5.2 配信出力先の設定”
3	配信フォルダの定義	“5.3 配信フォルダの設定”
4	運用環境の設定の確認	“5.4 設定の確認”

注: 帳票に設定された用紙コードに従って、自動的に給紙口、用紙サイズを変更して印刷する運用の場合は必須です。

配信管理サーバの運用環境は、配信管理サーバの環境設定用のコマンドで設定します。



各コマンドの詳細については、“[16.1 配信管理サーバの環境設定](#)”を参照してください。

5.1 プリンタ構成の定義(任意)

5.1.1 プリンタ構成を利用した印刷

プリンタ構成とは、帳票をプリンタのどの給紙口の用紙で印刷するか、どんな用紙サイズの用紙で印刷するかといったプリンタに関する情報です。プリンタ構成を利用することによって、帳票情報で設定した用紙コードに従って、給紙口や用紙サイズを変更して印刷することができます。プリンタ構成は、プリンタ構成コード、用紙コード、給紙口、および用紙サイズの組み合わせで、配信管理サーバに設定します。

また配信出力先には、プリンタ構成コードを設定します。

帳票出力アプリケーションから帳票を登録する時に、帳票情報として指定した用紙コードと、配信出力先に設定されているプリンタ構成コードの組み合わせにより、プリンタのどの給紙口から給紙するかが決まります。

プリンタ構成を利用することのメリットの例を以下に示します。

給紙口を変更する場合

プリンタ構成を利用しない場合は、以下のどちらかの対処をします。

- 帳票に設定された給紙口を変更する
 - 配信出力サーバを運用するサーバに、給紙口を設定したプリンタを定義して、対応する配信出力先と配信フォルダを設定する
- プリンタ構成を利用する場合は、プリンタ構成の定義を変更するだけで対応できます。

新しい種類の帳票を、別の給紙口の用紙で印刷するように設定する場合

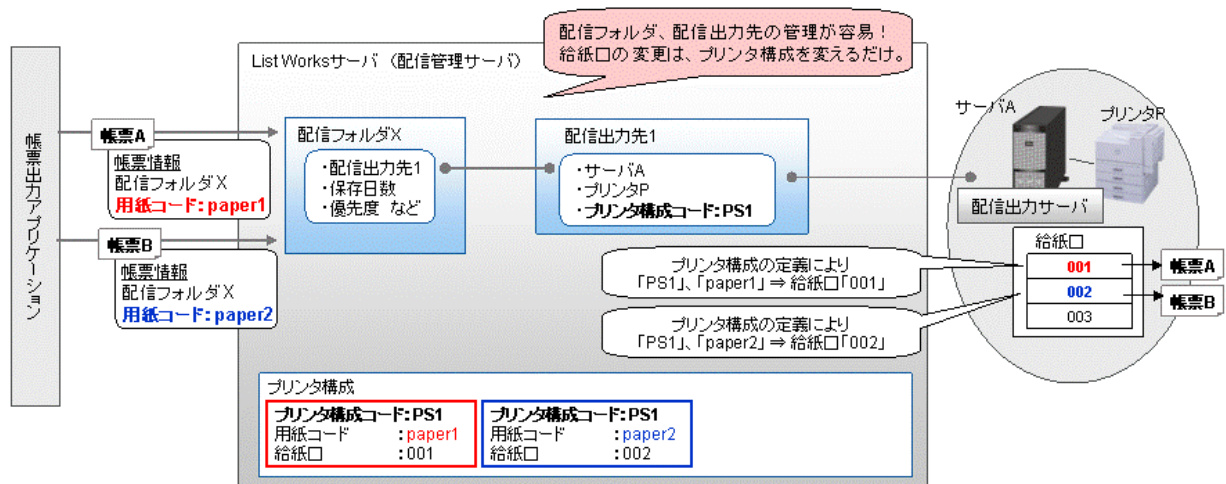
プリンタ構成を利用しない場合は、以下のどちらかの対処をします。

- 新しい帳票に給紙口を設定する

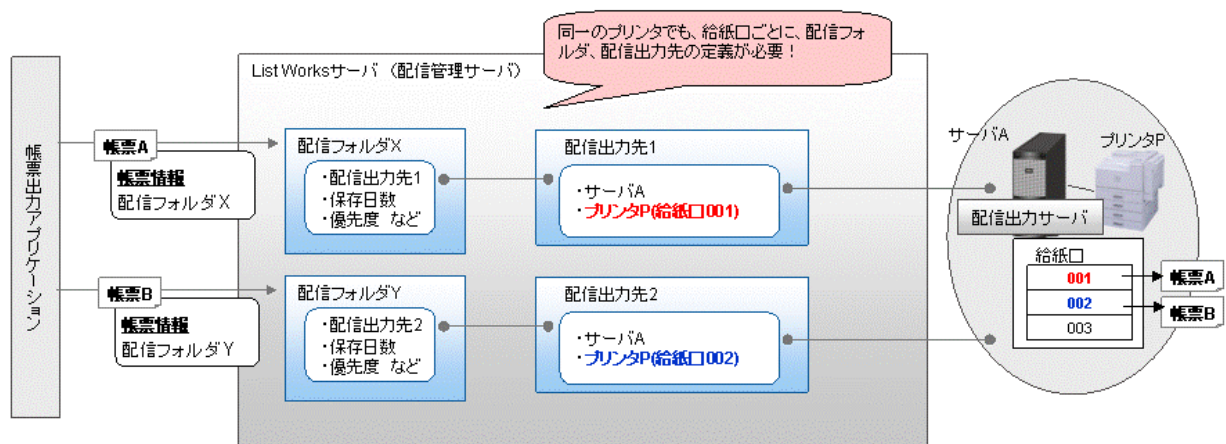
- ー 配信出力サーバを運用するサーバに、給紙口を設定したプリンタを定義して、対応する配信出力先と配信フォルダを設定する
- プリンタ構成を利用する場合は、プリンタ構成コードの定義を追加するだけで対応できます。用紙ごとに配信フォルダを分ける必要がなく、既存の配信フォルダおよび配信出力先をそのまま利用できるため、管理が容易です。

プリンタ構成を利用した場合と、利用しない場合の即時印刷について、以下に図で示します。

プリンタ構成を利用した場合



プリンタ構成を利用しない場合



5.1.2 プリンタ構成の定義

プリンタ構成を定義するには、lwdtprinfoコマンドを実行します。定義したプリンタ構成を変更/削除/一覧表示する場合にも、本コマンドを実行します。



lwdtprinfoコマンドの詳細については、“16.1.4 lwdtprinfoコマンド”を参照してください。

プリンタ構成を定義するときは、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してください。

プリンタ構成を定義するときに設定する項目を以下に示します。

設定項目	説明	必須
プリンタ構成コード	プリンタを識別・管理するためのコードを設定します。	○
用紙コード	帳票によって用紙サイズや用紙種別が異なる場合に、用紙を識別・管理するためのコードを設定します。	○
給紙口名	プリンタの給紙口名を設定します。	
用紙サイズ	用紙サイズを設定します。	

5.2 配信出力先の設定

配信出力先は、プリンタ名、プリンタが接続された配信出力サーバ名、印刷方法などをまとめた情報です。帳票は配信出力先の情報に従って印刷されます。

配信出力先を定義するには、`lwedtdest`コマンドを実行します。



`lwedtdest`コマンドの詳細については、“[16.1.5 lwedtdestコマンド](#)”を参照してください。

配信出力先を定義するときは、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してください。

配信出力先を定義する時に設定する項目を以下に示します。

設定項目	説明	必須
配信出力先ID	配信出力先のIDを設定します。	○
配信出力先名	配信出力先の名前を設定します。	○
配信出力サーバ名	配信出力サーバを運用しているサーバのホスト名またはIPアドレスで設定します。	○
プリンタ名	帳票印刷配信機能で帳票を印刷するプリンタとして、配信出力サーバを運用しているサーバに接続されているプリンタ名を指定します。  注意 配信出力サーバを運用しているサーバにPrint Managerがインストールされている場合、Print Managerで追加した、リモートプリンタ、List Worksプリンタ、FAX連携プリンタを本項目に指定できません。指定した場合、印刷時にエラーとなります。	○
コメント	配信出力先のコメントを設定します。	
プリンタ構成コード	プリンタ構成で定義したプリンタ構成コードを設定します。	
セパレータ印刷指定	セパレータを印刷するかどうかを設定します。	
セパレータの印刷方法	セパレータの印刷方法を設定します。セパレータの印刷方法には、「定型フォーマットで印刷」と「白紙で印刷」があります。	
セパレータ印刷時の給紙口名	セパレータ印刷時の給紙口名を設定します。	
メッセージ通知先	メッセージを通知するコンピュータのホスト名または、IPアドレスで設定します。	
機器メーカー名	プリンタの機器メーカー名を設定します。	
機器型名	プリンタの機器型名を設定します。	
用紙交換メッセージ表示指定	用紙交換メッセージの表示指定を設定します。表示指定には、「表示しない」、「用紙変更時に自動で表示」、「印刷開始時に必ず表示」があります。	
備考1	配信出力先の備考1を設定します。	

設定項目	説明	必須
備考2	配信出力先の備考2を設定します。	
備考3	配信出力先の備考3を設定します。	
備考4	配信出力先の備考4を設定します。	
備考5	配信出力先の備考5を設定します。	
備考6	配信出力先の備考6を設定します。	
備考7	配信出力先の備考7を設定します。	
備考8	配信出力先の備考8を設定します。	

5.3 配信フォルダの設定

配信フォルダは、印刷配信する帳票を格納するフォルダです。帳票の保存日数や印刷時の優先度の情報を持ちます。

配信フォルダを定義するには、`lwedtfol`コマンドを実行します。

定義した配信フォルダを変更/削除/一覧表示する場合も、本コマンドを実行します。



`lwedtfol`コマンドの詳細については、“[16.1.6 lwedtfolコマンド](#)”を参照してください。

配信フォルダを定義するときは、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してください。

配信フォルダを定義するときに設定する項目を以下に示します。

設定項目	説明	必須
配信フォルダID	配信フォルダのIDを設定します。	○
配信フォルダ名	配信フォルダのフォルダ名を設定します。	○
配信出力先ID	配信フォルダに設定する配信出力先の配信出力先IDを設定します。出力動作モードが「即時印刷」の場合の配信出力先になります。 したがって、出力動作モードが「即時印刷」の場合は、設定必須となります。  注意 配信出力先IDを省略すると、以下のようになります。 - 配信出力先は、設定されません。 - 配信操作画面の配信出力先には、「(指定なし)」が表示されます。	
出力動作モード	出力動作モードを設定します。出力動作モードには、「ため置き印刷」、「即時印刷」があります。	
優先度	配信フォルダごとに、印刷を指示した印刷ジョブの優先度を設定します。	
コメント	配信フォルダのコメントを設定します。	
保存日数	配信フォルダで管理される帳票の保存日数を設定します。	
備考1	配信フォルダの備考1を設定します。	
備考2	配信フォルダの備考2を設定します。	
備考3	配信フォルダの備考3を設定します。	
備考4	配信フォルダの備考4を設定します。	

設定項目	説明	必須
備考5	配信フォルダの備考5を設定します。	

5.4 設定の確認

運用環境の設定後に、配信フォルダ管理画面と配信出力先一覧画面が表示されることを確認し、配信管理サーバの環境設定と運用環境の設定が正しく行われていることを確認してください。

設定の確認手順を以下に示します。

1. Webブラウザから以下のURLを指定し、ログイン画面を表示します。

```
http://hostname[:port]/listdistributor/
```



- hostnameには、List WorksサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定します。
- portには、Webサーバのポート番号を指定します。

→ログイン画面が表示されます。

2. ログイン画面で管理者権限を持つユーザのユーザID、パスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。

→メニュー画面が表示されます。

3. メニュー画面で、【配信フォルダ管理画面】ボタンをクリックします。

→配信フォルダ管理画面が表示されます。

4. 配信フォルダ管理画面で、定義した配信フォルダが一覧表示されていることを確認します。

5. 配信フォルダ管理画面で、【閉じる】ボタンをクリックします。

6. メニュー画面で、【配信出力先一覧画面】ボタンをクリックします。

→配信出力先一覧画面が表示されます。

7. 配信出力先一覧画面で、定義した配信出力先が一覧表示されていることを確認します。

第6章 Web配信操作クライアントの環境構築

パソコンのWebブラウザから配信管理サーバへ接続することで、配信管理サーバが管理する帳票の表示、印刷など、さまざまな帳票印刷配信機能の操作を行うことができます。このようなパソコンをWeb配信操作クライアントと呼びます。Web 配信操作クライアントの環境設定について説明します。

6.1 必要なソフトウェアのインストール

配信管理サーバの帳票を、Web配信操作クライアントから表示・印刷する場合、Webブラウザが必要です。



Web配信操作クライアントに必要なWebブラウザについては、“ソフトウェア説明書”を参照してください。

また、Web配信操作クライアントを利用する際に、留意する点を以下に示します。

運用に関して

帳票の表示を行う場合ListPrint(ActiveXコントロール)を自動的にダウンロードします。運用開始後、Web配信操作クライアントで、最初に帳票の表示を行うとき、ListPrint(ActiveXコントロール)がWeb配信操作クライアントにダウンロードされます。このとき、安全性を確認するためのダイアログボックスが表示されます。帳票の表示の操作が2回目以降となるWeb配信操作クライアントでは、すでにListPrint(ActiveXコントロール)がダウンロードされているため、操作時に再度ダウンロードされることはありません。

ListPrint(ActiveXコントロール)のダウンロードに関して

- ListPrintのダウンロードにおいて、Web配信操作クライアントがWindows XP、および、Windows Server 2003の場合は、Administrators権限またはPower Users権限を持つユーザである必要があります。Windows Server 2008、Windows VistaおよびWindows 7の場合は、Administrators権限を持つユーザである必要があります。
- WWWサーバとWeb配信操作クライアントが同一ネットワークセグメント(サブネット)になく、さらにWWWサーバをホスト名またはFQDN形式で指定する場合、WWWサーバの名前をDNSなどで名前解決しておく必要があります。
- Web配信操作クライアントがWindows Server 2008、Windows VistaおよびWindows 7の場合は、OSの管理者権限への昇格が必要になります。運用開始後、Web配信操作クライアントで最初に帳票の表示を行うときに表示される【ユーザアカウント制御】ダイアログボックスで【続行】ボタンを押すことによって管理者権限へ昇格されます。



参考

ListPrint(ActiveXコントロール)のファイルサイズは、約3MB～4MBです。

6.2 Webブラウザの環境設定

Webブラウザで、以下の設定をします。

- 配信操作画面では、Cookieを使用して動作します。Webブラウザの設定でCookieを受け入れるように設定してください。
- 配信操作画面では、JavaScriptとスタイルシートを使用して動作します。Webブラウザの設定でJavaScriptとスタイルシートを受け入れるように設定してください。
- 配信操作画面では、帳票の表示にActiveXコントロールを使用して動作します。Webブラウザの設定でActiveXコントロールがダウンロードされるように設定してください。

- 配信操作画面の利用時に、Webブラウザの【ファイル】メニューの【オフライン作業】からオフラインの状態に切り替えると処理が行できなくなります。オフラインにしないください。

第7章 メッセージ通知クライアントの環境構築

ここでは、メッセージ通知クライアントの環境構築について説明します。

メッセージ通知クライアントは、帳票の印刷時にプリンタで発生したエラーや印刷完了が通知されるように設定されたコンピュータです。

メッセージ通知クライアントの環境構築手順

メッセージ通知クライアントの環境構築の手順と参照先を以下に示します。

手順	環境構築	参照先
1	Message Clientのインストール	“ソフトウェア説明書(Message Client編)”
2	ポート番号の変更(任意) (注)	“7.1 ポート番号の変更(任意)”
3	Windowsファイアウォールの設定	“付録B Windowsファイアウォールの設定”
4	到着通知パネルの設定	“7.2 到着通知パネルの設定”

注:配信出力サーバの環境設定において、メッセージ通知クライアントとの通信用のポート番号を変更した場合に必要な作業です。

7.1 ポート番号の変更(任意)

“4.2 配信出力サーバの環境設定 事前準備”において、メッセージ通知クライアントとの通信用のポート番号(9299、9599)を変更した場合は、以下の手順でメッセージ通知クライアントのポート番号を変更してください。

通常は、変更する必要はありません。

1. 【スタート】メニューの【ファイル名を指定して実行】をクリックします。
→【ファイル名を指定して実行】ダイアログボックスが表示されます。
2. 以下を指定して【OK】ボタンをクリックします。

Message Clientのインストールドライブ¥SYMFOCMN¥CT00¥fidgwbst.exe

→【メッセージ操作動作環境】ダイアログボックスが表示されます。

3. 【ポート番号】タブで、以下のポート番号を変更してください。

- ー メッセージ管理のポート番号
- ー 到着通知パネルのポート番号



注意

メッセージ通知クライアントで設定する「メッセージ管理のポート番号」と「到着通知パネルのポート番号」は、それぞれ配信出力サーバを運用しているサーバで設定されている値と同じ値を設定する必要があります。

7.2 到着通知パネルの設定

帳票の印刷時にプリンタで発生したエラーや印刷完了は、メッセージ通知クライアントの到着通知パネルに通知されます。到着通知パネルからメッセージウィンドウを起動し、通知されたメッセージを確認したり、メッセージに応答したりできます。到着通知パネルには、以下の種類があります。

- ・ 到着通知パネルワイド

ワイド形式の到着通知パネルは、通知メッセージ、返答メッセージ(応答メッセージを含む)の2種類のメッセージを示すアイコンが表示され、それぞれのメッセージの到着を通知します。



- ・ 到着通知パネルコンパクト

コンパクト形式の到着通知パネルは、メッセージが到着していない場合、通知メッセージと返答メッセージ(応答メッセージを含む)が同一のアイコンで表示されます。通知メッセージまたは返答メッセージ(応答メッセージを含む)が到着すると、到着したメッセージを示すアイコンに変化します。



到着通知パネルは、通常は以下のように、タスクバーに最小化表示されます。



到着通知パネルの詳細については、“到着通知パネルのヘルプ”を参照してください。
到着通知パネルワイドおよびコンパクトがタスクバーに最小化表示されている場合は、到着通知パネルを右クリックして、ポップアップメニューから「トピックの検索」を選択してください。

注意

Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008では、Windowsヘルプ(WinHlp32.exe)がオペレーティングシステムのコンポーネントとしてリリースされません。到着通知パネルのヘルプはWindowsヘルプ形式のため、これを表示するには、Windowsヘルププログラムが必要です。

本プログラムがコンピュータにインストールされていない場合、ヘルプ実行時に「Windowsヘルプとサポート」が表示されますので、トピックに従ってWinHlp32.exeをダウンロードし、ご使用のコンピュータにインストールしてください。

7.2.1 スタートアップメニューへの登録

Message Clientのインストール直後は、スタートアップメニューに「到着通知パネルコンパクト」が登録されています。そのため、通常は何もする必要はありません。

到着通知パネルがスタートアップメニューに登録されていない場合、または到着通知パネルコンパクトから到着通知パネルワイドに変更する場合は、以下のファイルをスタートアップに登録します。

- ・ 到着通知パネルワイド

Message Clientのインストールドライブ¥SYMFOCMN¥CT00¥wtbase.exe

- ・ 到着通知パネルコンパクト

Message Clientのインストールドライブ¥SYMFOCMN¥CT00¥wtbasec.exe



Windowsのスタートアップメニューに登録する方法については、“Windowsのマニュアル”を参照してください。

7.2.2 到着通知パネルの起動

到着通知パネルは、到着通知パネルをスタートアップメニューへ登録したユーザのログオン時に自動で起動され、以下のようにタスクバーに最小化表示されます。そのため、通常は何もする必要はありません。



到着通知パネルが起動していない場合に、手動で起動するときは、【スタート】メニューの【すべてのプログラム】－【スタートアップ】－【到着通知パネルワイド】または【到着通知パネルコンパクト】を選択します。

第8章 環境の変更

帳票印刷配信機能における環境の変更について説明します。

8.1 配信フォルダの帳票を格納するフォルダの変更

配信管理サーバの環境設定後や運用中に、配信フォルダの帳票を格納するフォルダの変更が発生した場合は、以下の手順で変更します。

1. 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

2. 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

3. List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)

- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

4. 変更先となるフォルダの作成

配信フォルダの帳票を格納するフォルダの変更先となるフォルダを作成します。



配信フォルダの帳票を格納するフォルダの作成についての詳細は、“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

5. 変更前のフォルダ配下のフォルダおよびファイルの移動

配信フォルダの帳票を格納するフォルダ配下のフォルダおよびファイルを、4.で作成したフォルダ配下に移動します。

6. 印刷配信の動作環境定義ファイルの編集

印刷配信の動作環境定義ファイルの「folder.rootpath」キーの設定値を、4.で作成したフォルダパスに変更します。



印刷配信の動作環境定義ファイルの編集についての詳細は、“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

7. lwdstmgrenvコマンドの実行

印刷配信の動作環境定義ファイルに指定した値を有効にするため、lwdstmgrenvコマンドを実行します。



lwdstmgrenvコマンドについては、“[16.1.3 lwdstmgrenvコマンド](#)”を参照してください。

注意

印刷配信の動作環境定義ファイルには、配信データベースに接続するためのユーザIDやパスワードが記述されています。配信データベースへの不当なアクセスを防止する目的で、lwdstmgrenvコマンドの実行後、印刷配信の動作環境定義ファイルをList Worksサーバ上から削除し、別の場所で大切に管理することを推奨します。

8. List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理

- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

9. 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

10. 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

8.2 List Worksサーバの追加 <EEのみ>

現在使用している環境において、List Worksサーバを追加し、配信フォルダの共有運用を行う手順について説明します。

新規に配信フォルダの共有運用を行う場合

「既存のList Worksサーバ」「追加するList Worksサーバ」「データベースサーバ」「共有ディスク」で必要な作業を以下の表に示します。「データベースサーバ」の手順は、List Worksサーバで運用している配信データベースを、データベースサーバに移行する場合に実施します。

負荷分散装置の設定は、事前に実施してください。

No.	List Worksサーバの追加手順	既存のList Worksサーバ	追加するList Worksサーバ	データベースサーバ	共有ディスク
1	共有ディスクの準備	—	—	—	○
2	アクセス権の設定	○	—	—	—
3	配信データベースの作成	—	—	○	—
4	配信出力サービスの停止	○	—	—	—
5	配信管理サービスの停止	○	—	—	—
6	List Worksサービスの停止	○	—	—	—
7	帳票印刷配信機能の帳票資源の回避	○	—	—	—
8	帳票印刷配信機能の帳票資源の復元	—	—	○	○
9	配信管理サーバの環境設定の変更	○	—	—	—
10	List Worksサービスの開始	○	—	—	—

No.	List Worksサーバの追加手順	既存のList Worksサーバ	追加するList Worksサーバ	データベースサーバ	共有ディスク
11	配信管理サービスの開始	○	—	—	—
12	配信出力サービスの開始	○	—	—	—
13	配信管理サーバの環境設定	—	○	—	—

○:必要 —:不要

1. 共有ディスクの準備

配信フォルダを格納するためのフォルダを、共有ディスクに作成して共有します。



共有ディスクの準備の詳細は、“[3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>](#)”を参照してください。

2. アクセス権の設定

管理者と、配信管理サーバを利用する一般ユーザに対してフルコントロールの権限を許可するように、共有フォルダのアクセス権を設定します。



アクセス権の設定については、“[3.4.4 配信フォルダの共有運用の準備<EEのみ>](#)”を参照してください。

3. 配信データベースの作成(データベースサーバを新たに構築する場合)

データベースサーバに配信データベースを作成します。



配信データベースの作成の詳細は、“[3.3 配信データベースの環境設定](#)”を参照してください。

4. 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止方法については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

5. 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

6. List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU 帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

7. 帳票印刷配信機能の帳票資源の退避

既存のList Worksサーバで、印刷配信の環境設定で「folder.rootpath」キーに設定されているフォルダ配下と配信データベースを退避します。



退避手順については、“[11.1 帳票と印刷資源の退避](#)”を参照してください。

8. 帳票印刷配信機能の帳票資源の復元

“7. 帳票印刷配信機能の帳票資源の退避”で退避した資源を復元します。

- 印刷配信の環境設定で「folder.rootpath」キーに設定されているフォルダ配下の資源を、“1. 共有ディスクの準備”で作成したフォルダへ復元します
- 配信データベースを、データベースサーバへ復元します(データベースサーバを新たに構築する場合)



復元手順については、“[11.2 帳票と印刷資源の復元](#)”を参照してください。

9. 帳票印刷配信機能の環境設定の変更

既存のList Worksサーバで、配信管理サーバの環境設定を変更します。

変更する内容は以下のとおりです。

- ネットワークの設定
- コネクションプーリングの設定変更(データベースサーバを新たに構築する場合)

SymfowareデータベースをList Worksサーバとは別サーバに構築する場合、JDBCデータソース登録ツールで、【構成】ボタンをクリックし、環境に合わせて内容を変更します。

- DBコネクション数の設定(ワークユニットの設定変更)
- 印刷配信の環境設定
 - 「server.hostname」キー
負荷分散装置のIPアドレスまたはホスト名を指定します。

- 「folder.rootpath」キー

手順1で作成したフォルダ名をUNC名(\\¥サーバ名¥~)で指定します。

- 「db.hostname」キー(データベースサーバを新たに構築する場合)

手順3で作成したデータベースサーバのIPアドレスまたはホスト名に変更します。

なお、他の設定を変更する場合は、環境に合わせて環境設定を行ってください。



ネットワークの設定については、“[3.5 ネットワークの設定](#)”を参照してください。

JDBCデータソース登録ツールの設定内容については、“[3.6.2 JDBCデータソースの登録](#)”を参照してください。

DBコネクション数の設定については、“[3.10 ワークユニットの設定変更\(配信フォルダの共有運用の場合\)](#)”を参照してください。

印刷配信の環境設定については、“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

10. List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】→【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU 帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

11. 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

12. 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始した後、Web配信操作クライアントでサーバに接続し、配信フォルダ、帳票が参照できるか確認します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

13. 配信管理サーバの環境設定

追加するList Worksサーバで、配信管理サーバの環境設定を実施します。

環境設定をした後、Web配信操作クライアントでサーバに接続し、配信フォルダ、帳票が参照できるか確認します。



配信管理サーバの環境設定については、“[第3章 配信管理サーバの環境構築](#)”を参照してください。

すでに配信フォルダの共有運用を行っている場合

追加するList Worksサーバで、配信管理サーバの環境設定を実施します。環境設定をした後、Web配信操作クライアントでサーバに接続し、配信フォルダ、帳票が参照できるか確認します。



配信管理サーバの環境設定については、“[第3章 配信管理サーバの環境構築](#)”を参照してください。

8.3 List Worksサーバの移行

ハードウェア環境の変更に伴って、List Worksサーバを移行する場合、リスト管理サーバ、配信管理サーバ、および富士通ホストやアプリケーションサーバなど印刷データの送信元では、設定の変更が必要です。

帳票出力元の環境修正

富士通ホスト、アプリケーションサーバなどの帳票出力元が、帳票や印刷資源の転送に使用しているJCL、帳票出力アプリケーションで、帳票の出力先となるリスト管理サーバの設定を変更します。

List Worksサーバの移行

移行元となるList Worksサーバに登録されている帳票の中に、今後に必要な帳票が存在する場合は、以下の操作で移行します。

移行方法は以下のとおりです。

1. 移行先となるList Worksサーバに対し、List Worksの導入、環境構築を行います。



各作業の詳細は、“[第2部 環境構築](#)”を参照してください。



注意

移行先のList Worksサーバでは、移行作業が終了するまで以下のサービスは停止しておく必要があります。

- 配信出力サービス
- 配信管理サービス
- List Worksサービス

2. 移行元List Worksサーバにおいて、帳票保管活用機能の資源の移行を行います。



受信フォルダ、保管フォルダなど帳票保管活用機能の資源の移行方法については、“保守手引書”の“2. 4. 1 List Worksサーバの追加、移行”を参照してください。

3. 移行元List Worksサーバにおいて、配信フォルダ、オーバーレイ、および印刷資源を、以下の手順で退避します。

1. 配信出力サービスを停止します。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10. 1. 1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

2. 配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

3. List Worksサービスを停止します。

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

4. lwdstmgrenvコマンドを実行し、印刷配信の環境設定の内容を確認します。

「folder.rootpath」キーに設定されている、配信フォルダの帳票を格納するフォルダのパスを確認します。

5. 4で確認したフォルダ配下の資産を退避します。

4. 配信データベースのデータを退避して、移行先List Worksサーバで復元します。



配信データベースのデータを退避/復元する方法については、“[12.1.2 配信データベースの容量拡張/再構築](#)”または“[12.2.2 配信データベースの容量拡張/再構築](#)”を参照してください。

5. 3の手順で退避した資産を、移行先のList Worksサーバで作成した、配信フォルダの帳票を格納するフォルダに復元します。



参考

移行先のList Worksサーバで作成した、配信フォルダの帳票を格納するフォルダは、1.の環境構築時に印刷配信の環境設定で「folder.rootpath」キーに指定したフォルダです。

6. オペレーティングシステムによる認証を利用している場合は、移行先List Worksサーバに、利用者の追加を行います。

7. 利用者定義文字を再転送します。



注意

移行先における各ファイルの所有者、グループ、アクセス権は、移行元と同じ設定にしてください。

第3部 運用

第9章 帳票の準備.....	159
第10章 印刷配信の運用.....	189
第11章 帳票と印刷資源の退避、復元.....	228
第12章 データベースの管理.....	244

第9章 帳票の準備

ここでは、帳票印刷配信機能を利用するために必要な、帳票の準備について説明します。

なお、帳票印刷配信機能を利用するには、帳票保管活用機能のために必要な帳票の準備をすることが前提となります。



前提となる帳票の準備については、“運用手引書”を参照してください。

9.1 印刷資源の準備

List Worksサーバとは別にList Works配信出力サーバを設置する場合、List Works配信出力サーバに印刷資源として外字を準備する必要があります。

また、Web配信操作クライアントにも、印刷資源として外字を準備する必要があります。



List Worksサーバにおける印刷資源の準備方法については、“運用手引書”の“第5章 印刷資源の準備”を参照してください。

9.1.1 外字の準備

外字の登録の仕方によって、以下のように準備が異なります。

外字を文字コードとして登録する場合

List Worksサーバに適用した日本語資源を、Charset Managerの日本語資源適用機能を使用して、List Works配信出力サーバおよびWeb配信操作クライアントにも適用してください。



Charset Managerの日本語資源適用機能については、“Charset Managerのマニュアル”を参照してください。

外字をイメージ(ビットマップ)として登録する場合

List Works配信出力サーバおよびWeb配信操作クライアントに、外字を準備する必要はありません。



注意

- 富士通ホスト帳票を扱う場合、List Works配信出力サーバおよびWeb配信操作クライアントに、以下の製品が必要です。
 - JEF拡張文字を明朝体で印刷する：JEF拡張漢字サポート
 - JEF拡張文字をゴシック体で印刷する：JEFゴシックフォント
- Windowsでは、外字情報はユーザごとに保持され、ログオン時にメモリにロードされます。印刷時にList WorksサーバまたはList Works配信出力サーバがログオフ状態であると外字情報にアクセスできず、印刷データに外字情報が反映されません。このため、List Works配信出力サーバにおいて、Windowsにログオンしていることを確認してから、印刷を実施してください。
- Windows Server 2008を使用しているアプリケーションサーバ、List Worksサーバ、またはList Works配信出力サーバでは、Charset Managerの外字ロードサービスを起動する必要があります。



外字ロードサービスの詳細については、“Charset Managerのマニュアル”を参照してください。

9.2 印刷データの準備

帳票印刷配信機能を利用するには、印刷データに帳票印刷配信機能のための帳票情報を設定する必要があります。



印刷データの準備における帳票情報の設定方法については、“運用手引書”の“第6章 印刷データの準備”を参照してください。

帳票印刷配信機能のための帳票情報を、以下に示します。

- ・ 帳票の管理情報(帳票名、コメント、タイトル、作成ユーザID、保存日数、備考1～16)
- ・ 帳票の登録に必要な情報(登録先の配信フォルダID)
- ・ 帳票の印刷に必要な情報(印刷を指示できる最大回数、開始ページ、終了ページ、部数、用紙コード、メッセージ通知先、再印刷マークの印刷有無、再印刷マークの印刷場所、再印刷マークの印刷文字列)

9.2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票を扱う場合

NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票の場合、帳票印刷配信機能のための帳票情報は電子帳票情報ファイルに設定します。



NetCOBOL、MeFt、List Creatorにおける帳票情報の設定方法については、“運用手引書”の“6.2.2 電子帳票情報ファイルの準備”または“6.2.3 NetCOBOL/MeFtと連携する場合の準備”を参照してください。

参考

List Creator帳票の場合、“運用手引書”で説明している方法以外に、以下の方法もあります。

- ・ List Creatorの帳票出力インタフェースを利用する
- ・ COBOLアプリケーション連携機能を利用する

また、帳票情報は、電子帳票情報ファイルに設定する方法以外に、以下の方法でも設定できます。

- ・ List Creatorの帳票出力インタフェースで指定
- ・ List Creatorデザイナーの帳票様式定義画面で設定



List Creatorの帳票出力インタフェース、COBOLアプリケーション連携機能、およびList Creatorデザイナーの帳票様式定義画面については、“List Creatorのマニュアル”を参照してください。

(1) 電子帳票情報ファイルに設定するキーワード

帳票印刷配信機能のための帳票情報として、電子帳票情報ファイルに設定できる各キーワードを、以下に示します。

キーワード名	説明
LDST-FOLDERID	配信フォルダID
TITLE	帳票名
STITLE	コメント
LDST-CREATEUSERID	作成ユーザID
LDST-PAPERCODE	用紙コード
LDST-KEEPPAYS	保存日数

キーワード名	説明
LDST-MAXOUTPUT	最大出力回数
LDST-TITLE	タイトル(注)
LDST-CUSTOM1	備考1
LDST-CUSTOM2	備考2
LDST-CUSTOM3	備考3
LDST-CUSTOM4	備考4
LDST-CUSTOM5	備考5
LDST-CUSTOM6	備考6
LDST-CUSTOM7	備考7
LDST-CUSTOM8	備考8
LDST-CUSTOM9	備考9
LDST-CUSTOM10	備考10
LDST-CUSTOM11	備考11
LDST-CUSTOM12	備考12
LDST-CUSTOM13	備考13
LDST-CUSTOM14	備考14
LDST-CUSTOM15	備考15
LDST-CUSTOM16	備考16
LDST-STARTPAGE	印刷時の開始ページ
LDST-ENDPAGE	印刷時の終了ページ
LDST-COPY	印刷時の部数
LDST-MSGHOST	メッセージ通知先
LDST-RPRINTFLG	再印刷マークの印刷有無
LDST-RPRINTPOS	再印刷マークの印刷場所
LDST-RPRINTSTR	再印刷マークの印刷文字列

注: 帳票名に別名をつけたい場合に設定します。

(2) 帳票情報のキーワードの値で指定できる文字

帳票情報のキーワードの値で指定できる文字について説明します。

指定できる範囲

帳票情報のキーワードの値で指定できる文字/記号の範囲について示します。

半角文字：半角英数字と半角記号を合わせた範囲の文字

半角英数字：A～Z、a～z、0～9

半角記号：ASCIIコードで0x20～0x2f、0x3a～0x40、0x5b～0x60、0x7b～0x7eの範囲の文字

全角文字：JIS非漢字、JIS第一水準漢字、JIS第二水準漢字

指定できる文字

指定できる文字について、以下に示します。

指定項目	指定できる文字/記号	文字列長(バイト)
配信フォルダID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
帳票名	全角文字 半角英数字/半角カナ 半角記号の一部(注1)	64
コメント	全角文字 半角英数字/半角カナ 半角記号の一部(注1)	64
作成ユーザID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	64
用紙コード	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	40
タイトル	全角文字 半角英数字/半角カナ 半角記号の一部(注1)	64
備考1～16	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	(注2)
メッセージ通知先	半角英数字 半角記号の一部(注1)	255
再印刷マークの印刷 文字列	全角文字 半角英数字	128

注1:

指定できる半角記号は、以下のとおりです。

指定項目	空白	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*
配信フォルダID		○			○		○		○	○	
帳票名	○	○		○	○	○	○		○	○	
コメント	○	○		○	○	○	○		○	○	○
作成ユーザID		○		○	○	○	○		○	○	
用紙コード		○			○		○		○	○	
タイトル	○	○		○	○	○	○		○	○	
備考1～16	○	○		○	○	○	○		○	○	○
メッセージ通知先											

指定項目	+	,	-	`	.	/	:	;	<	=	>
配信フォルダID			○	○	○					○	
帳票名	○		○		○					○	
コメント	○	○	○		○	○	○		○	○	○
作成ユーザID			○	○	○						
用紙コード			○	○	○					○	

指定項目	+	,	-	`	.	/	:	;	<	=	>
タイトル	○		○		○					○	
備考1～16	○	○	○		○	○	○		○	○	○
メッセージ通知先			○		○						

指定項目	?	@	[	¥	]	^	_	{		}	~
配信フォルダID			○		○	○	○	○		○	
帳票名		○	○		○	○	○	○		○	○
コメント	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
作成ユーザID		○				○	○	○		○	○
用紙コード			○		○	○	○	○		○	○
タイトル		○	○		○	○	○	○		○	○
備考1～16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メッセージ通知先											

注2:

各備考で指定できる文字列長が異なります。各キーワードの説明を参照してください。



注意

- 文字列の先頭と末尾に半角空白が含まれている場合、先頭と末尾の半角空白が除去された文字列になります。
- 半角空白のみの文字列は、値を指定しない場合と同じ扱いになります。

(3) キーワードの説明

各キーワードについて説明します。

なお、説明中の「省略時」とは、キーワード全体の省略と、値を指定しない場合を意味しています。

LDST-FOLDERID

書式

LDST-FOLDERID=80バイト以内の文字列

説明

配信フォルダIDを80バイト以内で指定します。

特記事項

NetCOBOL/MeFt帳票の場合

帳票印刷配信機能を利用する場合は、本キーワードを必ず指定してください。

List Creator帳票の場合

帳票印刷配信機能を利用する場合は、List Creatorの帳票出力インタフェースにおいて、帳票の印刷配信時の配信フォルダIDに関する指定、または、本キーワードの指定を必ず行ってください。

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 指定した配信フォルダが存在しない場合
- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

TITLE

書式

TITLE=64バイト以内の文字列

説明

帳票名を64バイト以内で指定します。

省略時

NetCOBOL/MeFt帳票の場合

プリンタ情報ファイルの「PRTID」、または印刷情報ファイルの「DocumentName」の値。

List Creator帳票の場合

List Creatorのprprintコマンドの-titleオプション、またはList Creatorデザイナーの帳票様式定義の名前。

特記事項

文字列の最大長を超えた場合は、登録時にエラーになります。

STITLE

書式

STITLE=64バイト以内の文字列

説明

コメントを64バイト以内で指定します。

省略時

NetCOBOL/MeFt帳票の場合

値は設定されません。

List Creator帳票の場合

List Creatorのprprintコマンドの-ttlcommentオプション、またはList Creatorデザイナーの帳票業務情報のコメント。

特記事項

文字列の最大長を超えた場合は、登録時にエラーになります。

LDST-CREATEUSERID

書式

LDST-CREATEUSERID=64バイト以内の文字列

説明

帳票を作成するユーザIDを64バイト以内で指定します。

省略時

印刷配信の環境設定の「default.userid」キーで設定している値

印刷配信の環境設定はlwdstmgrenvコマンドで確認してください。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-PAPERCODE

書式

LDST-PAPERCODE=40バイト以内の文字列

説明

用紙コードを40バイト以内で指定します。用紙交換メッセージ表示を利用する場合は、必ず指定してください。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合



注意

用紙交換メッセージ表示を利用した場合に、用紙コードが設定された帳票と用紙コードが設定されていない帳票を運用すると、意図したとおり用紙交換が通知されない場合があります。

LDST-KEEPDAYS

書式

LDST-KEEPDAYS=保存日数

説明

帳票を保存する日数を以下の範囲で指定します。

- 0 : 帳票を無期限に保存します。
1～9999 : 帳票を保存する日数を指定します。

省略時

配信フォルダに設定された保存日数

特記事項

範囲外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

帳票の保存期限は、「保存期限＝帳票の登録された日＋保存日数－1」で計算されます。保存日数に「1」を指定した場合は、「保存期限＝帳票の登録された日」となります。

LDST-MAXOUTPUT

書式

LDST-MAXOUTPUT=最大出力回数

説明

帳票の印刷を指示できる最大回数を、以下の範囲で指定します。

- 0 : 帳票を無制限に印刷できます。
1～9999 : 帳票の印刷を指示できる最大回数を指定します。

省略時

0(帳票を無制限に印刷できます)

特記事項

範囲外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LDST-TITLE

書式

LDST-TITLE=64バイト以内の文字列

説明

帳票のタイトルを64バイト以内で指定します。

省略時

TITLE(帳票名)の値

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM1

書式

LDST-CUSTOM1=64バイト以内の文字列

説明

備考1を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM2

書式

LDST-CUSTOM2=64バイト以内の文字列

説明

備考2を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM3

書式

LDST-CUSTOM3=64バイト以内の文字列

説明

備考3を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM4

書式

LDST-CUSTOM4=64バイト以内の文字列

説明

備考4を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM5

書式

LDST-CUSTOM5=8バイト以内の文字列

説明

備考5を8バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM6

書式

LDST-CUSTOM6=8バイト以内の文字列

説明

備考6を8バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM7

書式

LDST-CUSTOM7=8バイト以内の文字列

説明

備考7を8バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM8

書式

LDST-CUSTOM8=1024バイト以内の文字列

説明

備考8を1024バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM9

書式

LDST-CUSTOM9=1024バイト以内の文字列

説明

備考9を1024バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM10**書式**

LDST-CUSTOM10=256バイト以内の文字列

説明

備考10を256バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM11**書式**

LDST-CUSTOM11=256バイト以内の文字列

説明

備考11を256バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM12**書式**

LDST-CUSTOM12=256バイト以内の文字列

説明

備考12を256バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM13**書式**

LDST-CUSTOM13=256バイト以内の文字列

説明

備考13を256バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM14**書式**

LDST-CUSTOM14=128バイト以内の文字列

説明

備考14を128バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM15**書式**

LDST-CUSTOM15=128バイト以内の文字列

説明

備考15を128バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合

- 指定できない文字が指定された場合

LDST-CUSTOM16

書式

LDST-CUSTOM16=128バイト以内の文字列

説明

備考16を128バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-STARTPAGE

書式

LDST-STARTPAGE=印刷時の開始ページ

説明

印刷時の開始ページを指定します。帳票の総ページ数以下の値、および印刷時の終了ページ以下の値を指定してください。

省略時

1

特記事項

以下の値を指定した場合は、登録時にエラーになります。

- 帳票の総ページ数より大きい値
- LDST-ENDPAGEで指定した終了ページ数よりも大きい値
- 0、または負の値

LDST-ENDPAGE

書式

LDST-ENDPAGE=印刷時の終了ページ

説明

印刷時の終了ページを指定します。帳票の総ページ数より大きな値を指定した場合、帳票の最終ページまで印刷されます。印刷時の開始ページ以上の値を指定してください。

省略時

最終ページ

特記事項

以下の値を指定した場合は、登録時にエラーになります。

- 印刷時の開始ページより小さい値
- 99999999より大きい値

LDST-COPY

書式

LDST-COPY=印刷時の部数

説明

印刷時の部数を1～999の範囲で指定します。指定した部数が印刷されます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

本キーワードを省略した場合、List Creator帳票は、List Creatorデザイナーの帳票業務情報(【電子保存】タブ)で指定した印刷部数に従って印刷されます。NetCOBOL/MeFt帳票は1部で印刷されます。また、出力指示画面に部数は表示されません。

範囲外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LDST-MSGHOST

書式

LDST-MSGHOST=255バイト以内の文字列

説明

帳票の印刷中に対処が必要なエラーが発生した場合、返答メッセージ/応答メッセージを通知するコンピュータのホスト名またはIPアドレスを255バイト以内で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

本キーワードを省略した場合、lwedtdestコマンドで指定したメッセージ通知先が有効になります。

メッセージ通知先が設定されていない場合、またはメッセージが通知できなかった場合は、以下の優先順位でメッセージが通知されます。

- setenvprtコマンドで指定したメッセージ通知先
- setenvdefコマンドで指定したメッセージ通知先
- 配信出力サーバを運用するサーバ

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LDST-RPRINTFLG

書式

LDST-RPRINTFLG=再印刷マークの印刷有無

説明

再印刷マークの印刷有無を「0」か「1」で指定します。

0：再印刷マークを印刷しない

1：再印刷マークを印刷する

再印刷マークは、以下の書式で印刷されます。

フォント名：MS明朝

フォントの色：黒(透過)

フォントのスタイル：標準
フォントサイズ：10ポイント

省略時

0(再印刷マークを印刷しない)

特記事項

0、1以外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

注意

- 帳票の表示では、再印刷マークは表示されません。
- 再印刷マークは、印刷先のプリンタのスプールデータ形式がEMFの場合のみ印刷されます。
- 再印刷マークは2回目以降の印刷時に有効になります。以下の場合は再印刷マークは印刷されません。
 - 1回目の印刷時の印刷ジョブに対して、配信出力先を変更した場合
 - 1回目の印刷時に2部以上印刷した場合

LDST-RPRINTPOS

書式

LDST-RPRINTPOS=再印刷マークの印刷場所

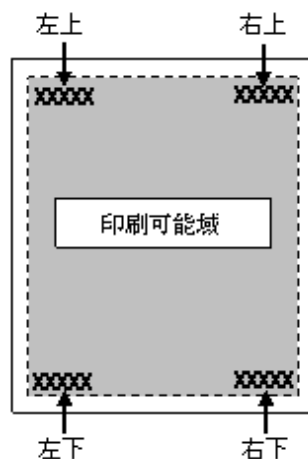
説明

再印刷マークの印刷場所を1～4で指定します。

LDST-RPRINTFLGに「1」を指定した場合に有効になります。

- 1：左上
- 2：左下
- 3：右上
- 4：右下

再印刷マークの印刷場所は、印刷可能域において左上の端、左下の端、右上の端、または右下の端になります。



省略時

1(左上)

特記事項

1～4以外の値が指定された場合は、登録時にエラーになります。



注意

運用前に事前に帳票を登録して、再印刷マークの印刷結果に問題がないことを確認してください。再印刷マークと印刷データやオーバーレイが重なった場合、再印刷マークの印刷場所を変更してください。

LDST-RPRINTSTR

書式

LDST-RPRINTSTR=128バイト以内の文字列

説明

再印刷マークとして印刷する文字列を128バイト以内で指定します。

LDST-RPRINTFLGに「1」を指定した場合に有効になります。

省略時

reprint

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合



注意

指定した文字列が用紙サイズに収まらない場合、収まらない部分は印刷されません。用紙サイズに収まるように文字列を指定してください。

9.2.2 富士通ホスト帳票を扱う場合

富士通ホスト帳票を扱う場合、帳票印刷配信機能のための帳票情報は、APS/NP、PrintASSORTの情報連携で設定します。



APS/NP、PrintASSORTにおける帳票情報の設定方法については、“運用手引書”の“6.3.2 帳票情報を連携する場合の準備”を参照してください。



注意

複数の製品で帳票情報を設定すると、実際に帳票に付加される帳票情報や、各種機能の処理結果が意図しない結果になる場合があります。複数の製品で同時に帳票情報を設定しないでください。

(1) APS/NPおよびPrintASSORTで設定するキーワード

帳票印刷配信機能のための帳票情報として、APS/NPおよびPrintASSORTに設定できる各キーワードを、以下に示します。

キーワード名	説明
LV-LDST-FOLDERID	配信フォルダID
LV-TITLE	帳票名
LV-STITLE	コメント
LV-LDST-CREATEUSERID	作成ユーザID
LV-LDST-PAPERCODE	用紙コード
LV-LDST-KEEPDAYS	保存日数
LV-LDST-MAXOUTPUT	最大出力回数
LV-LDST-TITLE	タイトル
LV-LDST-CUSTOM1	備考1
LV-LDST-CUSTOM2	備考2
LV-LDST-CUSTOM3	備考3
LV-LDST-CUSTOM4	備考4
LV-LDST-CUSTOM5	備考5
LV-LDST-CUSTOM6	備考6
LV-LDST-CUSTOM7	備考7
LV-LDST-CUSTOM8	備考8
LV-LDST-CUSTOM9	備考9
LV-LDST-CUSTOM10	備考10
LV-LDST-CUSTOM11	備考11
LV-LDST-CUSTOM12	備考12
LV-LDST-CUSTOM13	備考13
LV-LDST-CUSTOM14	備考14
LV-LDST-CUSTOM15	備考15
LV-LDST-CUSTOM16	備考16
LV-LDST-STARTPAGE	印刷時の開始ページ
LV-LDST-ENDPAGE	印刷時の終了ページ
LV-LDST-COPY	印刷時の部数
LV-LDST-MSGHOST	メッセージ通知先
LV-LDST-RPRINTFLG	再印刷マークの印刷有無
LV-LDST-RPRINTPOS	再印刷マークの印刷場所
LV-LDST-RPRINTSTR	再印刷マークの印刷文字列

(2) 帳票情報のキーワードの値で指定できる文字

帳票情報のキーワードの値で指定できる文字について説明します。

指定できる範囲

帳票情報のキーワードの値で指定できる文字/記号の範囲について示します。

半角文字：半角英数字と半角記号を合わせた範囲の文字

半角英数字：A～Z、a～z、0～9

半角記号：ASCIIコードで0x20～0x2f、0x3a～0x40、0x5b～0x60、0x7b～0x7eの範囲の文字
 全角文字：JIS非漢字、JIS第一水準漢字、JIS第二水準漢字

指定できる文字

指定できる文字について、以下に示します。

指定項目	指定できる文字/記号	文字列長(バイト)
配信フォルダID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
帳票名	全角文字 半角英数字/半角カナ 半角記号の一部(注1)	40
コメント	全角文字 半角英数字/半角カナ 半角記号の一部(注1)	40
作成ユーザID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	64
用紙コード	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	40
タイトル	全角文字 半角英数字/半角カナ 半角記号の一部(注1)	64
備考1～16	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	(注2)
メッセージ通知先	半角英数字 半角記号の一部(注1)	254
再印刷マークの印刷文字列	全角文字 半角英数字	128

注1:

指定できる半角記号は、以下のとおりです。

指定項目	空白	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*
配信フォルダID		○			○		○		○	○	
帳票名	○	○		○	○	○	○		○	○	
コメント	○	○		○	○	○	○		○	○	○
作成ユーザID		○		○	○	○	○		○	○	
用紙コード		○			○		○		○	○	
タイトル	○	○		○	○	○	○		○	○	
備考1～16	○	○		○	○	○	○		○	○	○
メッセージ通知先											

指定項目	+	,	-	`	.	/	:	;	<	=	>
配信フォルダID			○	○	○					○	
帳票名	○		○		○					○	
コメント	○	○	○		○	○	○		○	○	○
作成ユーザID			○	○	○						
用紙コード			○	○	○					○	
タイトル	○		○		○					○	
備考1～16	○	○	○		○	○	○		○	○	○
メッセージ通知先			○		○						

指定項目	?	@	[	¥	]	^	_	{		}	~
配信フォルダID			○		○	○	○	○		○	
帳票名		○	○		○	○	○	○		○	○
コメント	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
作成ユーザID		○				○	○	○		○	○
用紙コード			○		○	○	○	○		○	○
タイトル		○	○		○	○	○	○		○	○
備考1～16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メッセージ通知先											

注2:

各備考で指定できる文字列長が異なります。各キーワードの説明を参照してください。



注意

- 文字列の先頭と末尾に半角空白が含まれている場合、先頭と末尾の半角空白が除去された文字列になります。
- 半角空白のみの文字列は、値を指定しない場合と同じ扱いになります。

(3) キーワードの説明

各キーワードについて説明します。

なお、説明中の「省略時」とは、キーワード全体の省略と、値を指定しない場合を意味しています。

LV-LDST-FOLDERID

書式

LV-LDST-FOLDERID=80バイト以内の文字列

説明

配信フォルダIDを80バイト以内で指定します。

特記事項

帳票印刷配信機能を利用する場合は、本キーワードを必ず指定してください。

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 指定した配信フォルダが存在しない場合
- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-TITLE

書式

LV-TITLE=40バイト以内の文字列

説明

帳票名を40バイト以内で指定します。40バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

富士通ホストの設定に従います。

デマンド要求(PRTFILE、PRTJOB)で、NOTEオペランドありの場合

NOTEオペランドに指定した文字列

デマンド要求(PRTFILE)で、NOTEオペランドなしの場合

FNA通信形態 : FILEオペランドに指定したファイル名

TCP/IP通信形態 : PRTFILEコマンドを実行したユーザのユーザID

デマンド要求(PRTJOB)で、NOTEオペランドなしの場合

JCLに指定したジョブ名

バッチジョブの場合

JCLに指定したジョブ名

LD配信(APS/DSPを使用した配信)の場合

APS/DSPのLD名

LV-STITLE

書式

LV-STITLE=40バイト以内の文字列

説明

コメントを40バイト以内で指定します。40バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

LV-LDST-CREATEUSERID

書式

LV-LDST-CREATEUSERID=64バイト以内の文字列

説明

帳票を作成するユーザIDを64バイト以内で指定します。

省略時

印刷配信の環境設定の「default.userid」キーで設定している値

印刷配信の環境設定はlwdstmgrenvコマンドで確認してください。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-PAPERCODE

書式

LV-LDST-PAPERCODE=40バイト以内の文字列

説明

用紙コードを40バイト以内で指定します。用紙交換メッセージ表示を利用する場合は、必ず指定してください。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合



注意

用紙交換メッセージ表示を利用した場合に、用紙コードが設定された帳票と用紙コードが設定されていない帳票を運用すると、意図したとおり用紙交換が通知されない場合があります。

LV-LDST-KEEPDAYS

書式

LV-LDST-KEEPDAYS=保存日数

説明

帳票を保存する日数を以下の範囲で指定します。

- 0 : 帳票を無期限に保存します。
1～9999 : 帳票を保存する日数を指定します。

省略時

配信フォルダに設定された保存日数

特記事項

範囲外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

帳票の保存期限は、「保存期限＝帳票の登録された日＋保存日数－1」で計算されます。保存日数に「1」を指定した場合は、「保存期限＝帳票の登録された日」となります。

LV-LDST-MAXOUTPUT

書式

LV-LDST-MAXOUTPUT=最大出力回数

説明

帳票の印刷を指示できる最大回数を以下の範囲で指定します。

- 0 : 帳票を無制限に印刷できます。
1～9999 : 帳票の印刷を指示できる最大回数を指定します。

省略時

0(帳票を無制限に印刷できます)

特記事項

範囲外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-TITLE

書式

LV-LDST-TITLE=64バイト以内の文字列

説明

帳票のタイトルを64バイト以内で指定します。

省略時

LV-TITLE(帳票名)の値

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM1

書式

LV-LDST-CUSTOM1=64バイト以内の文字列

説明

備考1を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM2

書式

LV-LDST-CUSTOM2=64バイト以内の文字列

説明

備考2を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM3**書式**

LV-LDST-CUSTOM3=64バイト以内の文字列

説明

備考3を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM4**書式**

LV-LDST-CUSTOM4=64バイト以内の文字列

説明

備考4を64バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM5**書式**

LV-LDST-CUSTOM5=8バイト以内の文字列

説明

備考5を8バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合

- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM6

書式

LV-LDST-CUSTOM6=8バイト以内の文字列

説明

備考6を8バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM7

書式

LV-LDST-CUSTOM7=8バイト以内の文字列

説明

備考7を8バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合に登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM8

書式

LV-LDST-CUSTOM8=254バイト以内の文字列

説明

備考8を254バイト以内の文字列で指定します。254バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-CUSTOM9

書式

LV-LDST-CUSTOM9=254バイト以内の文字列

説明

備考9を254バイト以内の文字列で指定します。254バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-CUSTOM10**書式**

LV-LDST-CUSTOM10=253バイト以内の文字列

説明

備考10を253バイト以内の文字列で指定します。253バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-CUSTOM11**書式**

LV-LDST-CUSTOM11=253バイト以内の文字列

説明

備考11を253バイト以内の文字列で指定します。253バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-CUSTOM12**書式**

LV-LDST-CUSTOM12=253バイト以内の文字列

説明

備考12を253バイト以内の文字列で指定します。253バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-CUSTOM13**書式**

LV-LDST-CUSTOM13=253バイト以内の文字列

説明

備考13を253バイト以内の文字列で指定します。253バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-CUSTOM14**書式**

LV-LDST-CUSTOM14=128バイト以内の文字列

説明

備考14を128バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM15**書式**

LV-LDST-CUSTOM15=128バイト以内の文字列

説明

備考15を128バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-CUSTOM16**書式**

LV-LDST-CUSTOM16=128バイト以内の文字列

説明

備考16を128バイト以内の文字列で指定します。

省略時

値は設定されません。

特記事項

以下の場合は登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

LV-LDST-STARTPAGE

書式

LV-LDST-STARTPAGE=印刷時の開始ページ

説明

印刷時の開始ページを指定します。帳票の総ページ数以下の値、および印刷時の終了ページ以下の値を指定してください。

省略時

1

特記事項

以下の値を指定した場合は、登録時にエラーになります。

- 帳票の総ページ数より大きい値
- LV-LDST-ENDPAGEで指定した終了ページ数よりも大きい値
- 0、または負の値

LV-LDST-ENDPAGE

書式

LV-LDST-ENDPAGE=印刷時の終了ページ

説明

印刷時の終了ページを指定します。帳票の総ページ数より大きな値を指定した場合、帳票の最終ページまで印刷されます。印刷時の開始ページ以上の値を指定してください。

省略時

最終ページ

特記事項

以下の値を指定した場合は、登録時にエラーになります。

- 開始ページより小さい値
- 99999999より大きい値

LV-LDST-COPY

書式

LV-LDST-COPY=印刷時の部数

説明

印刷時の部数を1～999の範囲で指定します。指定した部数が印刷されます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

本キーワードを省略した場合、帳票は1部で印刷されます。また、出力指示画面に部数は表示されません。
範囲外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-MSGHOST

書式

LV-LDST-MSGHOST=254バイト以内の文字列

説明

帳票の印刷中に対処が必要なエラーが発生した場合の返答メッセージ/応答メッセージを通知するコンピュータのホスト名またはIPアドレスを254バイト以内で指定します。254バイトを超えて指定した場合、超えた部分は切り捨てられます。

省略時

値は設定されません。

特記事項

本キーワードを省略した場合、`lwdtdest`コマンドで指定したメッセージ通知先が有効になります。

メッセージ通知先が設定されていない場合、またはメッセージが通知できなかった場合は、以下の優先順位でメッセージが通知されます。

- `setenvprt`コマンドで指定したメッセージ通知先
- `setenvdef`コマンドで指定したメッセージ通知先
- 配信出力サーバを運用するサーバ

指定できない文字が指定された場合は、登録時にエラーになります。

LV-LDST-RPRINTFLG

書式

LV-LDST-RPRINTFLG=再印刷マークの印刷有無

説明

再印刷マークの印刷有無を「0」か「1」で指定します。

0：再印刷マークを印刷しない

1：再印刷マークを印刷する

再印刷マークは、以下の書式で印刷されます。

フォント名：MS明朝

フォントの色：黒(透過)

フォントのスタイル：標準

フォントサイズ：10ポイント

省略時

0(再印刷マークを印刷しない)

特記事項

0、1以外の数値が指定された場合は、登録時にエラーになります。



注意

- 帳票の表示では、再印刷マークは表示されません。
- 再印刷マークは、印刷先のプリンタのスプールデータ形式がEMFの場合のみ印刷されます。
- 再印刷マークは2回目以降の印刷時に有効になります。以下の場合は再印刷マークは印刷されません。
 - 1回目の印刷時の印刷ジョブに対して、配信出力先を変更した場合
 - 1回目の印刷時に2部以上印刷した場合

LV-LDST-RPRINTFLG

書式

LV-LDST-RPRINTPOS=再印刷マークの印刷場所

説明

再印刷マークの印刷場所を1～4で指定します。

LV-LDST-RPRINTFLGに「1」を指定した場合に有効になります。

- 1：左上
- 2：左下
- 3：右上
- 4：右下

再印刷マークの印刷場所は、印刷可能域において左上の端、左下の端、右上の端、または右下の端になります。



省略時

1(左上)

特記事項

1～4以外の値が指定された場合は、登録時にエラーになります。



運用前に事前に帳票を登録して、再印刷マークの印刷結果に問題がないことを確認してください。再印刷マークと印刷データやオーバーレイが重なった場合、再印刷マークの印刷場所を変更してください。

LV-LDST-RPRINTSTR

書式

LV-LDST-RPRINTSTR=128バイト以内の文字列

説明

再印刷マークとして印刷する文字列を128バイト以内で指定します。

LV-LDST-RPRINTFLGに「1」を指定した場合に有効になります。

省略時

reprint

特記事項

以下の場合には登録時にエラーになります。

- 文字列の最大長を超えた場合
- 指定できない文字が指定された場合

注意

指定した文字列が用紙サイズに収まらない場合、収まらない部分は印刷されません。用紙サイズに収まるように文字列を指定してください。

第10章 印刷配信の運用

帳票印刷配信機能の運用時の作業、および操作方法について、説明します。



画面の説明、制限値などについては、“[第4部 GUI リファレンス](#)”を参照してください。

10.1 サービスの開始/停止

サービスの開始、停止、および開始の確認について説明します。

帳票印刷配信機能の運用を開始/終了するには、以下のサービスを開始/停止する必要があります。

- 配信管理サービス
- 配信出力サービス

以下の順で開始/停止してください。

1. 配信出力サービス
2. 配信管理サービス

10.1.1 配信出力サービスの開始/停止

配信出力サービスを開始/停止するには、以下のサービスおよびワークユニットを開始/停止します。

- LW Transfer Service
- LW Print State Service
- 帳票印刷のワークユニット

(1) 配信出力サービスの開始

以下の手順で、配信出力サービスを開始します。

手順1: サービス「LW Transfer Service」の開始

以下の手順で、サービス「LW Transfer Service」を開始します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「LW Transfer Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。

3. サービス「LW Transfer Service」の開始

プロパティ画面の【開始】ボタンをクリックしてサービスを開始します。

手順2: サービス「LW Print State Service」の開始

以下の手順で、サービス「LW Print State Service」を開始します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「LW Print State Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。

3. サービス「LW Print State Service」の開始

プロパティ画面の【開始】ボタンをクリックしてサービスを開始します。

手順3: ワークユニットの起動

以下の手順で、帳票印刷のワークユニットを起動します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

配信出力サーバを運用しているサーバのホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



.....
SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。
.....

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. ワークユニットの起動

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_W】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【起動】ボタンをクリックし、ワークユニットを起動します。

手順4: ワークユニットの起動を確認

以下の手順で、帳票印刷のワークユニットが正しく起動されているか確認します。

1. 【イベントビューア】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【イベントビューア】をクリックします。

→【イベントビューア】ダイアログボックスが表示されます。

2. イベントログの一覧を表示

画面の左側から【アプリケーション】をクリックします。

→画面の右側に、出力されたイベントログの一覧が表示されます。

3. イベントの確認

一覧に表示されたイベントをクリックして、以下が出力されていることを確認します。

- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「配信出力サービスを開始しました。」のイベント

以下が出力されている場合は、起動に失敗しています。説明に出力されている利用者の処置を行って、ワークユニットを起動しなおしてください。

- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「配信出力サービスの開始に失敗しました。」のイベント

(2) 配信出力サービスの停止

以下の手順で、配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。

手順1: ワークユニットの停止

以下の手順で、帳票印刷のワークユニットを停止します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

配信出力サーバを運用しているサーバのホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. ワークユニットの停止

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_W】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【停止】ボタンをクリックし、ワークユニットを停止します。

手順2: サービス「LW Print State Service」の停止

以下の手順で、サービス「LW Print State Service」を停止します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「LW Print State Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。

3. サービス「LW Print State Service」の停止

プロパティ画面の【停止】ボタンをクリックしてサービスを停止します。

手順3: サービス「LW Transfer Service」の停止

以下の手順で、サービス「LW Transfer Service」を停止します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「LW Transfer Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。

3. サービス「LW Transfer Service」の停止

プロパティ画面の【停止】ボタンをクリックしてサービスを停止します。

10.1.2 配信管理サービスの開始/停止

配信管理サービスを開始/停止するには、以下のサービスおよびワークユニットを開始/停止します。

- LW Transfer Service
- 帳票登録のワークユニット
- 配信操作画面のワークユニット

- ・ 印刷管理のワークユニット

(1) 配信管理サービスの開始

以下の手順で、配信管理サービスを開始します。

手順1: サービス「LW Transfer Service」の開始

以下の手順で、サービス「LW Transfer Service」を開始します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「LW Transfer Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。

3. サービス「LW Transfer Service」の開始

プロパティ画面の【開始】ボタンをクリックしてサービスを開始します。

手順2: ワークユニットの起動

以下に示すワークユニットを起動します。

- － 帳票登録のワークユニット
- － 配信操作画面のワークユニット
- － 印刷管理のワークユニット

以下の手順で、ワークユニットを起動します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. 印刷管理のワークユニットを起動

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_MWTR】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【起動】ボタンをクリックし、印刷管理のワークユニットを起動します。

3. 配信操作画面のワークユニットを起動

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_MGUI】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【起動】ボタンをクリックし、配信操作画面のワークユニットを起動します。

4. 帳票登録のワークユニットを起動

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_MREG】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【起動】ボタンをクリックし、帳票登録のワークユニットを起動します。

手順3: ワークユニットの起動を確認

以下の手順で、ワークユニットが正しく起動されているか確認します。

1. 【イベントビューア】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【イベントビューア】をクリックします。

→【イベントビューア】ダイアログボックスが表示されます。

2. イベントログの一覧を表示

画面の左側から【アプリケーション】をクリックします。

→画面の右側に、出力されたイベントログの一覧が表示されます。

3. イベントの確認

一覧に表示されたイベントをクリックして、以下が出力されていることを確認します。

- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「帳票登録のワークユニットを起動しました。」のイベント
- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「配信操作画面のワークユニットを起動しました。」のイベント
- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「印刷管理のワークユニットを起動しました。」のイベント

以下のいずれかが出力されている場合は、起動に失敗しています。説明に出力されている利用者の処置を行って、ワークユニットを起動しなおしてください。

- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「帳票登録のワークユニットの起動に失敗しました。」のイベント
- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「配信操作画面のワークユニットの起動に失敗しました。」のイベント

- ソースが「List Works Distributor」で、説明が「印刷管理のワークユニットの起動に失敗しました。」のイベント

(2) 配信管理サービスの停止

以下の手順で、配信管理サービスを停止します。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。

手順1: ワークユニットの停止

以下に示すワークユニットを停止します。

- 帳票登録のワークユニット
- 配信操作画面のワークユニット
- 印刷管理のワークユニット

以下の手順で、ワークユニットを停止します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分で「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. 帳票登録のワークユニットを停止

【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】→【ワークユニット】→【LWDST_MREG】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【停止】ボタンをクリックし、帳票登録のワークユニットを停止します。

3. 配信操作画面のワークユニットを停止

【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】→【ワークユニット】→【LWDST_MGUI】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【停止】ボタンをクリックし、配信操作画面のワークユニットを停止します。

4. 印刷管理のワークユニットを停止

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】－【LWDST_MWTR】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの操作画面が表示されます。

【停止】ボタンをクリックし、印刷管理のワークユニットを停止します。

手順2: サービス「LW Transfer Service」の停止

以下の手順で、サービス「LW Transfer Service」を停止します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. プロパティの表示

サービス名「LW Transfer Service」を選択して、プロパティ画面を表示します。

3. サービス「LW Transfer Service」の停止

プロパティ画面の【停止】ボタンをクリックしてサービスを停止します。

10.1.3 サービス開始の確認

配信管理サービス、配信出力サービスが開始していることを、それぞれ以下の手順で確認します。

(1) 配信出力サービス

以下の手順で確認します。

手順1: ワークユニットの確認

Interstage管理コンソールで、以下に示すワークユニットが起動していることを確認します。

－ 帳票印刷のワークユニット

以下の手順で確認します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

https://hostname:port/IsAdmin

hostname

配信出力サーバを運用しているサーバのホスト名を指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. ワークユニットの状態を確認

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの状態が表示されます。

画面の右側に表示されるワークユニット一覧からワークユニット名「LWDST_W」の状態が「起動」であることを確認します。

手順2: サービス「LW Transfer Service」およびサービス「LW Print State Service」の確認

サービス「LW Transfer Service」およびサービス「LW Print State Service」が開始していることを、以下の手順で確認します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. 「LW Transfer Service」のサービス状態を確認

サービス名「LW Transfer Service」を選択して、プロパティ画面を表示し、サービスの状態が「開始」であることを確認します。

3. 「LW Print State Service」のサービス状態を確認

サービス名「LW Print State Service」を選択して、プロパティ画面を表示し、サービスの状態が「開始」であることを確認します。

(2) 配信管理サービス

以下の手順で確認します。

手順1: ワークユニットの確認

Interstage管理コンソールで、以下に示すワークユニットが起動していることを確認します。

- － 帳票登録のワークユニット
- － 配信操作画面のワークユニット
- － 印刷管理のワークユニット

以下の手順で確認します。

1. Interstage管理コンソールの起動

Webブラウザで以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールを起動します。管理者権限を持ったアカウントでログインします。

`https://hostname:port/IsAdmin`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名を指定してください。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分で「http」に置き換えて指定してください。

→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。

2. ワークユニットの状態を確認

【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【ワークユニット】をクリックします。

→画面の右側にワークユニットの状態が表示されます。

画面の右側に表示されるワークユニット一覧からワークユニット名「LWDST_MREG」、「LWDST_MGUI」、「LWDST_MWTR」の状態が「起動」であることを確認します。

手順2: サービス「LW Transfer Service」の確認

サービス「LW Transfer Service」が開始していることを、以下の手順で確認します。

1. 【サービス】ダイアログボックスの表示

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】をクリックします。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. 「LW Transfer Service」のサービス状態を確認

サービス名「LW Transfer Service」を選択して、プロパティ画面を表示し、サービスの状態が「開始」であることを確認します。

10.2 帳票の印刷

帳票を印刷/表示する方法について説明します。

10.2.1 帳票の印刷の指示

帳票の印刷を指示するには、出力指示画面で操作します。

出力指示画面で帳票の印刷を指示する手順は、以下のとおりです。

1. 出力指示画面を表示します。

2. 「配信フォルダ」ドロップダウンリストで、印刷する帳票が格納されている配信フォルダを指定します。
→帳票の一覧が表示されます。
3. 印刷する帳票の「配信出力先」ドロップダウンリストで、配信出力先を指定します。
4. 印刷する帳票の「開始ページ」、「終了ページ」、「部数」を入力します。
5. 印刷する帳票の【印刷】ボタンをクリックします。
複数の帳票を印刷する場合は、印刷対象の帳票の「選択」チェックボックスをチェックして、【F2 選択印刷】ボタンをクリックします。



出力指示画面を表示する方法および出力指示画面で指定する項目の詳細については、“13.3 出力指示画面”を参照してください。

印刷の指示が成功すると、帳票一覧の項目が以下のとおり更新されます。ただし、印刷の完了(紙の出力)を意味するものではありません。

- ・「出力回数」が1回増えます。
- ・「帳票状態」が「未出力」の帳票は、「出力済」になります。



注意

帳票を印刷する場合、以下の点に注意してください。

- ・ VSP/VS/PS5000 シリーズのプリンタに印刷する場合、用紙交換メッセージを通知する指定を行うと、用紙交換メッセージが2重に通知される場合があります。
- ・ メッセージの通知先に指定したコンピュータ(メッセージ通知クライアント)は、到着通知パネルを起動しておいてください。
- ・ 印刷時、以下に示すプリンタ装置以外では、印刷中にスプールデータが削除された場合などでも印刷完了のメッセージが通知される場合があります。また、実際の印刷完了のタイミングがずれる場合や、エラーが正しく通知されない場合があります。
 - ー VSP/VS/PS5000 シリーズ
 - ー PrintiaLASER シリーズ(Printianavi 搭載機)
 - ー Interstage Enabled 認定プリンタ
- ・ サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を停止すると、出力状態が正しく通知されません。出力状態を正しく通知させるためには、サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を起動後、サービス「PRT Server Service」、サービス「Print Spooler」、サービス「LW Print State Service」、配信出力サービスを再起動してください。
- ・ 外字を出力する場合は、List Works配信出力サーバのWindowsにログオンしている必要があります。
- ・ 配信処理、印刷処理中に配信出力サービスを停止すると、配信出力サーバで処理されている印刷ジョブはキャンセルされ、配信管理サーバには失敗として通知されます。ただし、サーバ間の通信状態により印刷の完了や失敗の状態が通知できず、「印刷中」や「配信中」などの出力状態のままになる場合があります。この現象が発生した場合、配信出力サービスを起動することで、出力状態は最新の状態に更新されます。
- ・ 配信出力サービスが異常停止した場合、配信出力サービスを再起動しても、出力状態が更新されない場合があります。この現象が発生した場合、処理状況照会画面から、状態の更新されない印刷ジョブを取り消してください。
- ・ 配信出力先に定義したプリンタ名は変更しないでください。プリンタ名を変更した場合、帳票が正しく印刷されない、または正しく操作できないことがあります。
- ・ 「出力回数」が「最大出力回数」に達している帳票は、印刷を指示できません。

10.2.2 帳票の表示

帳票を表示し、内容を確認することができます。

帳票を表示するには、出力指示画面で操作します。

帳票を表示する手順は、以下のとおりです。

1. 出力指示画面で、表示する帳票の【表示】ボタンをクリックします。

→帳票表示画面に帳票が表示されます。List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票の場合は、Adobe Readerで表示されます。



List Works帳票用の帳票表示画面の詳細については、“[13.8 帳票表示画面](#)”を参照してください。

List Creator互換印刷を使用して印刷する場合の帳票の表示については、“[C.2.2 帳票の表示](#)”を参照してください。

List Works帳票用の帳票表示画面では、以下の機能を使用できます。

- ・ 帳票を拡大/縮小して表示する
- ・ 帳票をスクロールする
- ・ 帳票を分割して表示する
- ・ 指定ページへ移動する
- ・ 文字列を検索する
- ・ 検索条件を保存する・読み込む
- ・ ステータスバーの表示/非表示を切り替える



List Works帳票用の帳票表示画面で表示されるツールバーのボタンの詳細については、“[13.8.1 ツールバーの説明](#)”を参照してください。

List Creator互換印刷を使用して印刷する場合の帳票の表示で利用できる機能については、“[C.2.2 帳票の表示](#)”を参照してください。

各機能を使用するときの操作手順を、以下に示します。

帳票を拡大/縮小して表示する

【ズーム】ボタンを使用する場合

1. ツールバーの【ズーム】ボタンをクリックします。

→マウスカーソルが、虫めがねの形に変わります。

2. 拡大するときはマウスの左ボタン、縮小するときはマウスの右ボタンをクリックします。

→それぞれ、現在の倍率から10%拡大、または10%縮小表示されます。

マウスの右ボタンまたは左ボタンを押したままにすると、現在の倍率から連続して10%ずつ縮小、または拡大して表示されていきます。好みの倍率に表示されたら、ボタンから指を離します。

【倍率を指定】コンボボックスを使用する場合

1. 【倍率を指定】にある【▼】をクリックします。また、【倍率を指定】に表示倍率を指定することもできます。

→【▼】をクリックすると、倍率などが表示されたリストが表示されます。

2. リストから任意の倍率を選択します。(なお、表示倍率を指定したとき、この操作は不要です。)
→指定した倍率で帳票が表示されます。

帳票をスクロールする

1. ツールバーの【ハンド】ボタンをクリックします。
→マウスカーソルが、開いた状態の手の形に変わります。
2. 帳票をドラッグします。ドラッグしている間、マウスカーソルは、握った状態の手の形に変わります。
→マウスの動きにあわせて、表示される場所が移動します。

帳票を分割して表示する

1. ツールバーの【分割/分割の解除】ボタンをクリックします。
→マウスカーソルの形が十字の矢印になり、マウスカーソルの矢印方向に、ウィンドウを分割する目安のラインが表示されます。
2. ウィンドウを分割したい位置にマウスカーソルを移動し、クリックします。
→帳票を表示しているウィンドウが分割されます。
分割表示を解除する場合は、ツールバーの【分割/分割の解除】ボタンをクリックします。

指定ページへ移動する

1. ツールバーの【前のページへ】ボタン、【次のページへ】ボタン、【最初のページへ】ボタン、【最後のページへ】ボタンから任意のボタンをクリックします。
または、ツールバーの「指定ページへ」テキストボックスに表示されているページ番号を、移動先のページ番号に書き換えます。
→ページが表示され、ステータスバーに現在のページ番号が表示されます。

文字列を検索する

1. 【検索】ボタンをクリックします。
→【検索】ダイアログボックスが表示されます。
2. 検索条件を設定し、【検索】ボタンをクリックします。
→ 検索結果が表示されます。検索結果の表示方法に選択した項目に従って、以下のように結果が表示されます。
 - － 「行の一覧で」を選択した場合
【検索結果の行の一覧】ダイアログボックスが表示されます。検索条件に一致したデータを含む行が一覧で表示されます。
また、【検索結果の行の一覧】ダイアログボックスの左下に、検索条件に一致した項目の件数が表示されます。
 - － 「ページごとに」を選択した場合
検索条件に一致したページ内のすべてのデータが、検索範囲とともに強調されて表示されます。
 - － 「項目ごとに」を選択した場合
検索条件に一致した1つ目のデータが、検索範囲とともに強調されて表示されます。



数値および日付は、検索できません。

検索条件を保存する・読み込む

検索条件を保存する場合

1. 【検索】ダイアログボックスに検索条件を設定した状態で、【検索条件の保存】ボタンをクリックします。
→【検索条件の保存】ダイアログボックスが表示されます。
2. 必要な項目を指定し、【OK】ボタンをクリックします。
→検索条件が保存されます。

保存している検索条件を読み込む場合

1. 【検索条件の読み込み】ボタンをクリックします。
→【検索条件の読み込み】ダイアログボックスが表示されます。
2. 「検索条件の名前の一覧」に表示されている条件の中から、必要な検索条件を選択し、【読み込み】ボタンをクリックします。
→保存されている検索条件が【検索】ダイアログボックスに設定されます。

ステータスバーの表示/非表示を切り替える

1. ツールバーの【ステータスバーの表示/非表示】ボタンをクリックします。
→表示/非表示が切り替わります。

10.2.3 その他の操作

出力指示画面では、“[10.2.1 帳票の印刷の指示](#)”、“[10.2.2 帳票の表示](#)”の操作のほかに以下の操作ができます。

- ・ 配信フォルダの切替え
- ・ 帳票の検索
- ・ 出力指示画面の更新
- ・ 帳票の並べ替え
- ・ 帳票の詳細表示
- ・ 出力指示画面の終了



出力指示画面で指定する項目の詳細については、“[13.3 出力指示画面](#)”を参照してください。

配信フォルダの切替え

配信フォルダを切り替えて、ほかの配信フォルダ内の帳票を一覧表示します。

配信フォルダを切り替えるには、以下の手順で操作します。

1. 出力指示画面で、「配信フォルダ」のドロップダウンリストから、別の配信フォルダ名を選択します。
→選択した配信フォルダの帳票が、一覧表示されます。

帳票の検索

指定した条件で帳票を検索して、検索結果を表示します。

出力指示画面で帳票を検索するには、以下の手順で操作します。

1. 出力指示画面で【F3 検索】ボタンをクリックします。
→検索条件画面が表示されます。
2. 検索条件を入力し、【OK】ボタンをクリックします。
→検索条件に一致した帳票の一覧が、出力指示画面に表示されます。



参考

管理者権限を持ったユーザがlwoprformコマンドを実行することで、帳票の検索結果を一覧表示することもできます。



lwoprformコマンドの詳細については、“[16.3.5 lwoprformコマンド](#)”を参照してください。

出力指示画面の更新

出力指示画面を更新します。

出力指示画面を更新するには、以下の手順で操作します。

1. 出力指示画面で【F5 最新】ボタンをクリックします。
→出力指示画面が更新されます。

帳票の並べ替え

見出し行上段に□が表示されている項目(以下が該当)をキーにして、帳票を並べ替えて表示します。なお、複数の項目を指定して並べ替えることはできません。(初期状態では、以下の項目名で表示されます。)

- ・ 帳票名
- ・ 帳票状態
- ・ コメント(注1)
- ・ 用紙コード(注1)
- ・ 登録日時
- ・ 備考1～16(注1)
- ・ 作成ユーザID(注1)
- ・ タイトル(注1)
- ・ 出力回数
- ・ 最大出力回数(注1)
- ・ 保存期限(注1)

注1: 出力指示画面をカスタマイズすることにより、表示されます。



表示する情報を追加したい場合は、“[14.2 出力指示画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

帳票を並べ替えるには、以下の手順で操作します。

1. 帳票一覧の、タイトル部分に表示されている、□、▼、または▲をクリックします。
→帳票が昇順/降順で並べ替えられます。



□、▼、▲の意味については、“[13.3 出力指示画面](#)”の“[項目の並び替えボタン](#)”を参照してください。

帳票の詳細表示

帳票の詳細情報を表示し、内容を確認します。(初期状態では、以下の項目名で表示されます。)

- ・ 帳票ID
- ・ 作成ユーザID
- ・ 帳票状態(注1)
- ・ 帳票名
- ・ 保存期限(注1)
- ・ 総ページ数
- ・ 配信フォルダ名
- ・ コメント
- ・ 用紙コード
- ・ 登録日時
- ・ 出力回数
- ・ タイトル(注1)
- ・ 最大出力回数(注1)
- ・ 備考1～16(注1)

注1: 出力指示画面をカスタマイズすることにより、表示されます。



表示する情報を追加したい場合は、“[14.2 出力指示画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

出力指示画面で帳票の詳細情報を確認するには、以下の手順で操作します。

1. 帳票一覧から、対象の帳票名をクリックします。
→帳票詳細情報画面が表示されます。
2. 帳票の詳細情報を確認します。
3. 【OK】ボタンをクリックします。
→出力指示画面に戻ります。



帳票詳細情報画面の詳細については、“[13.6 帳票詳細情報画面](#)”を参照してください。



参考

管理者権限を持ったユーザがlwoprformコマンドを実行することで、帳票の詳細情報を確認することもできます。



lwoprformコマンドの詳細については、“[16.3.5 lwoprformコマンド](#)”を参照してください。

出力指示画面の終了

出力指示画面を終了します。

出力指示画面を終了するには、以下の手順で操作します。

1. 出力指示画面で【ログアウト】ボタンをクリックします。
→確認メッセージが表示されます。
2. メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックします。
→ログアウトしてログイン画面が表示されます。

10.3 印刷ジョブの監視

印刷ジョブは、配信出力先や印刷方法などの帳票の印刷についての手続き情報です。帳票に対して印刷の指示をすると生成されます。印刷ジョブを監視することによって、出力状態を確認できます。

また、印刷ジョブに対して、以下の操作ができます。

- ・ 印刷の取り消し
- ・ 優先度の変更
- ・ 配信出力先の変更
- ・ 詳細表示

10.3.1 出力状態の確認

印刷ジョブの一覧を表示して出力状態を確認するには、処理状況照会画面で操作します。



処理状況照会画面を表示する方法、および処理状況照会画面で表示される項目の詳細については、“[13.4 処理状況照会画面](#)”を参照してください。

帳票の出力状態は、各印刷ジョブの「出力状態」に表示されます。

印刷ジョブの出力状態と可能な操作

処理状況照会画面に表示される印刷ジョブの出力状態、および各出力状態における可能な操作を以下に示します。

出力状態	説明	印刷ジョブの操作			
		詳細表示	取り消し	優先度変更	配信出力先の変更
受付済	ユーザまたは帳票出力アプリケーションから、印刷の指示を配信管理サーバが受け付けた状態です。	○	○	○	×
配信待ち	配信管理サーバでキューイングされた状態(配信管理サーバが配信の処理を開始していない状態)です。	○	○	○(注)	×
配信開始	配信管理サーバで配信の処理を開始した状態です。 配信出力サーバには、まだ連絡されていません。	○	○	×	×
配信中	配信管理サーバが配信出力サーバへ帳票を配信している状態です。	○	○	×	×
印刷待ち	配信出力サーバで印刷を待ち合わせている状態です。	○	○	×	×
印刷中	配信出力サーバで印刷している状態です。	○	○	×	×
接続エラー	配信管理サーバと配信出力サーバの間で通信エラーが発生した状態です。	○	○	×	×
応答待ち	用紙交換をメッセージ通知クライアントに通知した状態です。	○	○	×	×
印刷エラー	プリンタでオフライン、用紙切れなどのエラーが発生した状態です。	○	○	×	×
失敗	続行不可能なエラーが発生して終了した状態です。	○	○	×	○

○:操作できる ×:操作できない

注:すでに印刷ジョブに関する情報が配信出力サーバに通知されている場合、優先度が変更されても印刷順序は変わりません。

10.3.2 印刷ジョブのエラー発生時の対処

処理状況照会画面で、印刷ジョブの出力状態が以下のエラーや応答待ちを確認できます。

- ・ 失敗
- ・ 接続エラー
- ・ 印刷エラー



エラーの詳細を確認する方法については、“[10.3.6 その他の操作](#)”を参照してください。



参考

プリンタで発生したエラーは、到着通知パネルでも確認することができます。



到着通知パネルでの確認方法については、“[10.4 プリンタの監視](#)”を参照してください。

「失敗」の場合の対処

印刷ジョブの出力状態が「失敗」の場合は、以下の対処方法があります。配信出力先の変更により、再印刷することなく印刷業務を継続できます。

- ・ 印刷を取り消して再印刷する
- ・ 配信出力先を変更する

印刷を取り消して再印刷する

印刷を取り消して再印刷する場合は、以下の手順で対処します。

1. エラーが発生した印刷ジョブを削除します。
2. エラーの要因を取り除きます。
3. 必要に応じて以下の情報を、出力指示画面で指定して、帳票を印刷します。
 - 配信出力先
 - 開始ページ
 - 終了ページ
 - 部数

→指定した内容に従って、帳票が印刷されます。

配信出力先を変更する

配信出力先を変更する場合は、以下の手順で対処します。

1. 「変更先」のプルダウンメニューから切り替えたい配信出力先を選択します。
2. 出力状態が「失敗」の印刷ジョブを選択します。
3. 「出力先変更」ボタンをクリックします。



印刷ジョブを削除する方法については、“[10.3.3 印刷の取り消し](#)”を参照してください。
帳票を印刷する方法については、“[10.2 帳票の印刷](#)”を参照してください。
配信出力先を変更する方法については、“[10.3.5 配信出力先の変更](#)”を参照してください。

参考

出力状態が「失敗」の場合でも、後続する印刷ジョブの帳票は印刷されます。

なお、「失敗」の原因によっては、後続の印刷ジョブも失敗することがあります。

「接続エラー」の場合の対処

印刷ジョブの出力状態が「接続エラー」の場合は、以下の手順で対処します。

1. エラーが発生した印刷ジョブの印刷を取り消します。
2. エラーの要因を取り除きます。
3. 必要に応じて以下の情報を、出力指示画面で指定して、帳票を印刷します。
 - ー 配信出力先

- ー 開始ページ
- ー 終了ページ
- ー 部数

→指定した内容に従って、帳票が印刷されます。



印刷ジョブの印刷を取り消す方法については、“[10.3.3 印刷の取り消し](#)”を参照してください。
帳票を印刷する方法については、“[10.2 帳票の印刷](#)”を参照してください。



参考

後続する印刷ジョブの帳票は、印刷される場合があります。

「印刷エラー」の場合の対処

印刷ジョブの出力状態が「印刷エラー」の場合は、以下の手順で対処します。

1. エラーが発生した印刷ジョブの印刷を取り消します。
2. エラーの要因を取り除きます。
3. 必要に応じて以下の情報を、出力指示画面で指定して、帳票を印刷します。
 - ー 配信出力先
 - ー 開始ページ
 - ー 終了ページ
 - ー 部数

→指定した内容に従って、帳票が印刷されます。



印刷ジョブの印刷を取り消す方法については、“[10.3.3 印刷の取り消し](#)”を参照してください。
帳票を印刷する方法については、“[10.2 帳票の印刷](#)”を参照してください。



注意

後続する印刷ジョブの帳票は、印刷されません。

プリンタの機種によっては、以下の手順で対処できます。

1. プリンタのエラー要因を取り除きます。
 2. プリンタをスタート状態にします。
- エラーが発生したページから自動的に印刷を再開します。



対応するプリンタの機種については、“[付録A サポートプリンタについて](#)”を参照してください。

参考

到着通知パネルで応答することで、印刷を再開したり、印刷を取り消したりできます。



到着通知パネルについては、“到着通知パネルのヘルプ”を参照してください。

「応答待ち」の場合の対処

印刷ジョブの出力状態が「応答待ち」の場合は、用紙交換を促すメッセージ(用紙交換メッセージ)が到着通知パネルに表示されます。

注意

- ・ 後続する印刷ジョブの帳票は、印刷されません。



エラーの詳細を確認する方法については、“[10.3.6 その他の操作](#)”を参照してください。

- ・ 到着通知パネルでメッセージを確認するには、あらかじめ、到着通知パネルを設定しておく必要があります。



設定方法については、“[7.2 到着通知パネルの設定](#)”を参照してください。

「応答待ち」の印刷ジョブに応答するには、到着通知パネルに表示されたメッセージで、以下のいずれかの操作をします。

印刷を続行する場合

1. プリンタ装置に指定の用紙をセットするなど、印刷を開始できる準備を行い、**【続行】**ボタンをクリックします。
→印刷が再開されます。

ページを指定して印刷を続行する場合

1. プリンタ装置に指定の用紙をセットするなど、印刷を開始できる準備を行い、**【操作】**ボタンをクリックします。
→プリンタの操作画面が表示されます。
 - VSP/VS/PS5000シリーズのプリンタに印刷していて、配信出力サーバを運用しているサーバにPrint Walker/PMを導入している場合、かつ、メッセージ通知クライアントに同プリンタ添付のクライアントがインストールされている場合は、PrintWalker/PMのプリンタ操作画面が表示されます。
同プリンタ添付のクライアントがインストールされていない場合は、**【操作】**ボタンがグレーアウトされるため、プリンタの操作画面は表示できません。
 - 上記以外のプリンタに印刷している場合は、List Worksの操作画面が表示されます。
2. 印刷を再開するページを指定して、**【続行】**ボタンをクリックします。
→印刷が続行されます。

テスト印刷を行う場合

1. プリンタ装置に指定の用紙をセットするなど、印刷を開始できる準備を行い、**【操作】**ボタンをクリックします。
→プリンタの操作画面が表示されます。

- VSP/VS/PS5000シリーズのプリンタに印刷していて、配信出力サーバを運用しているサーバにPrint Walker/PMを導入している場合、かつ、メッセージ通知クライアントに同プリンタ添付のクライアントがインストールされている場合は、PrintWalker/PMのプリンタ操作画面が表示されます。

同プリンタ添付のクライアントがインストールされていない場合は、【操作】ボタンがグレイアウトされるため、プリンタの操作画面は表示できません。

- 上記以外のプリンタに印刷している場合は、List Worksの操作画面が表示されます。

2. 印刷を再開するページを指定して、テスト印刷のボタンをクリックします。

→テスト印刷が開始されます。

注意

到着通知パネルでテスト印刷を行う場合、印刷を再開するページに最終ページを指定して印刷すると、印刷完了の状態となります。そのため、印刷を再開するページには最終ページを指定しないでください。

印刷を取り消す場合

1. 【削除】ボタンをクリックします。

→印刷ジョブが削除されます。

参考

「応答待ち」の印刷ジョブの印刷を取り消す場合、処理状況照会画面で取り消すこともできます。



印刷ジョブの印刷を取り消す方法については、“[10.3.3 印刷の取り消し](#)”を参照してください。

10.3.3 印刷の取り消し

帳票の印刷を取り消すには、印刷ジョブを削除します。

印刷ジョブを削除するには、処理状況照会画面で、印刷を指示したユーザ(出力ユーザID)、または管理者権限を持ったユーザが操作します。

注意

印刷ジョブを削除しても、以下の状態になることがあります。

- ・ タイミングによっては、すでに印刷が完了していたり、印刷ジョブの印刷が止まらなかったりすることがあります。このとき、操作ログには、印刷ジョブを正常に取り消した旨のログが出力されます。
- ・ 帳票の「出力回数」および「帳票状態」は、印刷を指示する前の状態には戻りません。
- ・すでに配信出力先が変更されている場合は、印刷が続きます。このとき、操作ログには、印刷ジョブを正常に取り消した旨のログが出力されます。

操作手順

1. 処理状況照会画面で、削除する印刷ジョブの左側のチェックボックスをチェックし、【F2 印刷取消】ボタンをクリックします。

→チェックした印刷ジョブが削除されます。

注意

- 複数の印刷ジョブを選択した場合、ある印刷ジョブの削除に失敗しても、残りの印刷ジョブは削除されます。印刷ジョブの削除処理終了後、削除に失敗した数が分かる警告メッセージが表示されます。
- 印刷ジョブを選択しなかった場合、印刷ジョブを選択する旨のメッセージが表示されます。

10.3.4 優先度の変更

印刷ジョブの優先度を上げて、印刷順序を変更します。優先度は1～10までの値が設定可能で、値が大きいほど優先して印刷されます。

印刷ジョブの優先度を変更するには、処理状況照会画面で印刷を指示したユーザ(出力ユーザID)、または管理者権限を持ったユーザが操作します。

注意

出力状態が「受付済」「配信待ち」の場合にのみ、優先度を変更することができます。



出力状態と可能な操作の関係については、“[10.3.1 出力状態の確認](#)”を参照してください。

操作手順

1. 処理状況照会画面で優先度を変更する印刷ジョブの左側のチェックボックスをチェックし、【F4 優先度】ボタンをクリックします。
→選択した印刷ジョブの優先度に1が加算されます。

注意

- 出力状態が「配信待ち」の場合、優先度を変更しても印刷順序が変わらないことがあります。
- 優先度を下げることはいけません。
- 優先度が10の印刷ジョブは、優先度を変更できません。
- 印刷ジョブを選択しなかった場合、印刷ジョブを選択する旨のメッセージが表示されます。
- 優先後を変更しても、タイミングによっては、すでに印刷ジョブが削除されていることがあります。このとき、操作ログには、印刷ジョブの優先度を正常に変更した旨のログが出力されます。

10.3.5 配信出力先の変更

印刷に失敗した場合に、印刷ジョブの配信出力先を変更して印刷することができます。

印刷ジョブの配信出力先を変更するには、処理状況照会画面で印刷を指示したユーザ(出力ユーザID)、または管理者権限を持ったユーザが操作します。

注意

- ・ 停止中の配信出力先への変更はいけません。

- ・ 出力状態が「失敗」の印刷ジョブに対してのみ、配信出力先の変更ができます。出力状態が「失敗」以外の場合、配信出力先を変更できない旨のメッセージが出力されます。

操作手順

1. 処理状況照会画面で変更先の配信出力先を選択します。
2. 処理状況照会画面で配信出力先を変更する印刷ジョブの左側のチェックボックスをチェックし、【F6 出力先変更】ボタンをクリックします。
→印刷ジョブの配信出力先が変更されます。処理状況照会画面には、変更先の配信出力先が表示されます。



参考

- ー 複数の印刷ジョブを選択した場合、選択したすべての印刷ジョブの配信出力先を変更します。
- ー 印刷ジョブを選択しなかった場合、印刷ジョブを選択する旨のメッセージが表示されます。
- ー 配信出力先と変更先が同じ場合は、配信出力先と変更先が同じ旨のメッセージが表示されます。
- ー 変更先が指定されていない場合は、変更先を選択していない旨のメッセージが表示されます。

10.3.6 その他の操作

処理状況照会画面では、“[10.3.1 出力状態の確認](#)”～“[10.3.5 配信出力先の変更](#)”の操作のほかに以下の操作ができます。

- ・ 処理状況照会画面の更新
- ・ 印刷ジョブの詳細表示
- ・ 処理状況照会画面の終了

処理状況照会画面の更新

処理状況照会画面を更新します。

処理状況照会画面を更新するには、以下の手順で操作します。

1. 処理状況照会画面で【F5 最新】ボタンをクリックします。
→処理状況照会画面が更新されます。

印刷ジョブの詳細表示

印刷ジョブの詳細情報を表示し、内容を確認します。（初期状態では、以下の項目名で表示されます。）

- ・ 印刷ジョブID
- ・ 帳票名
- ・ 優先度
- ・ 配信出力先名
- ・ 出力完了ページ数
- ・ 出力総ページ数
- ・ エラーメッセージ種別

- ・ エラーメッセージ
- ・ 出力依頼日時
- ・ 出力ユーザID
- ・ 用紙コード
- ・ 出力状態

印刷ジョブの詳細情報を確認する手順は、以下のとおりです。

1. 処理状況照会画面で詳細情報を確認する印刷ジョブの帳票名をクリックします。
→印刷ジョブ詳細情報画面が表示されます。
2. 印刷ジョブの詳細情報を確認します。
3. 【OK】ボタンをクリックします。
→処理状況照会画面に戻ります。



参考

出力状態が「失敗」「接続エラー」「印刷エラー」「応答待ち」の場合だけ、エラーメッセージ種別とエラーメッセージが表示されます。その際に、出力状態が「失敗」「接続エラー」では、エラーメッセージにエラーコードと詳細コードが表示されます。



エラーメッセージの対処方法については、“[第17章 帳票印刷配信機能のログ/メッセージ](#)”を参照してください。

処理状況照会画面の終了

処理状況照会画面を終了します。

処理状況照会画面を終了するには以下の手順で操作します。

1. 処理状況照会画面で【ログアウト】ボタンをクリックします。
→確認メッセージが表示されます。
2. メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックします。
→ログアウトしてログイン画面が表示されます。

10.4 プリンタの監視

プリンタで発生したエラーは、メッセージ通知クライアントに通知されます。通知されたメッセージにより、プリンタを監視できます。



参考

プリンタで発生したエラーは、処理状況照会画面で確認することができます。



エラーの確認方法については、“[10.3.2 印刷ジョブのエラー発生時の対処](#)”を参照してください。

メッセージ通知クライアントにメッセージが通知されると、以下のように表示されます(到着通知パネルコンパクトを例に示します)。



なお、到着通知パネルでメッセージを確認するには、あらかじめ、到着通知パネルの設定を行っておく必要があります。



到着通知パネルの設定については、“[7.2 到着通知パネルの設定](#)”を参照してください。

到着通知パネルに通知されるメッセージには、以下の2種類があります。

- ・ 返答メッセージ
エラーが発生した場合に通知されるメッセージです。
- ・ 応答メッセージ
帳票の出力中に応答が必要となった場合に通知されるメッセージです。応答メッセージには、用紙交換メッセージがあります。

10.4.1 返答メッセージ

返答メッセージについて説明します。返答メッセージは、エラーが発生した場合に通知されるメッセージです。

返答メッセージは、以下のように到着通知パネルに表示されます。返答メッセージが通知された場合、エラーが発生した印刷ドキュメントに対し、削除、ページ指定の印刷、再印刷ができます。

削除した場合、対応する印刷ジョブが取り消されます。ページ指定の印刷や再印刷をした場合、印刷処理が継続され、印刷ジョブの状態が更新されます。



【一覧】ボタン

メッセージの履歴を確認できる一覧画面が表示されます。



表示される画面の詳細については、“[表示される一覧画面のヘルプ](#)”を参照してください。

【続行】ボタン

印刷を再開します。

【操作】ボタン

ページ指定の印刷やテスト印刷を行うことができます。

【削除】ボタン

印刷を取り消すことができます。



表示されるメッセージの詳細については、「[17.4.1 返答メッセージ](#)」を参照してください。



注意

- VSP/VS/PS5000シリーズまたはPrintiaLASERシリーズのプリンタでは、そのプリンタ独自のメッセージが表示される場合があります。
- 到着通知パネルでテスト印刷を行う場合、「印刷再開ページ」に最終ページを指定して印刷すると、出力完了の状態となります。そのため、「印刷再開ページ」には最終ページを指定しないでください。

保留ボタンについての注意事項

以下の画面で、【保留】ボタンが表示されることがあります。

- 到着通知パネルに通知されるメッセージの画面
- 上記画面の【操作】ボタンをクリックして表示される画面

【保留】ボタンはPrint Managerで使用できるボタンです。帳票印刷配信機能で印刷を保留にすると、帳票は印刷されません。

保留した場合は、以下のとおり対処してください。

保留を解除する場合

以下のどちらかの操作をします。

- 印刷ドキュメントは、プリンタが接続されたWindowsのスーパーで「一時停止」の状態となっています。Windowsのプリンタ画面から、「一時停止」の印刷ドキュメントを選択し、印刷を再開します。
- Print Managerがインストールされている場合は、Print Managerの印刷操作画面で保留を解除します。

印刷を取り消す場合

処理状況照会画面で、「保留」を行った印刷ジョブを選択して【印刷取消】ボタンをクリックします。

10.4.2 応答メッセージ

応答メッセージについて説明します。応答メッセージは、帳票の印刷中に応答が必要となった場合に通知されるメッセージです。応答メッセージには、用紙交換メッセージがあります。

応答メッセージは、以下のように到着通知パネルに表示されます。応答メッセージが通知された場合、印刷ジョブは「応答待ち」となっているため、印刷の続行や削除の指示が必要です。

削除した場合、対応する印刷ジョブが取り消されます。



【一覧】ボタン

メッセージの履歴を確認できる一覧画面が表示されます。



表示される画面の詳細については、“表示される一覧画面のヘルプ”を参照してください。

【続行】ボタン

印刷を再開します。

【削除】ボタン

印刷を取り消すことができます。



表示されるメッセージの詳細については、“[17.4.2 応答メッセージ](#)”を参照してください。



注意

- VSP/VS/PS5000シリーズまたはPrintiaLASERシリーズのプリンタでは、そのプリンタ独自のメッセージが表示される場合があります。
- 到着通知パネルでテスト印刷を行う場合、「印刷再開ページ」に最終ページを指定して印刷すると、印刷は完了の状態となります。そのため、「印刷再開ページ」には最終ページを指定しないでください。

10.5 帳票の登録状況の監視

リスト管理サーバで受信した帳票の配信フォルダへの登録は、受信フォルダ、操作ログ、イベントログを監視することで確認します。

10.5.1 帳票の登録時に異常が発生した場合の対処

帳票の登録中に異常が発生した場合の対処は、扱う帳票の種類により異なります。

富士通ホスト帳票を分散印刷運用で扱う場合

手順1: 異常の原因を調査し、取り除く

帳票の登録中に異常となる場合には、主に以下の原因が考えられます。

- 配信フォルダが存在しない
- 帳票登録のワークユニットが起動していない

エラーが発生した原因を以下のログ情報により調査し、取り除きます。

- a. リスト管理サーバの受信フォルダの操作ログ
- b. List Worksサーバのイベントログ



リスト管理サーバの受信フォルダの操作ログについては、“メッセージ集”を参照してください。また、List Worksサーバのイベントログについては、“[17.2 配信管理サーバのメッセージ](#)”を参照してください。

手順2: 受信フォルダの帳票の再振り分けを実施する

受信フォルダに帳票が残っている場合は、帳票を再振り分けします。



帳票を再振り分けする方法については、“操作手引書 運用管理者編”を参照してください。

ただし、帳票形式の変換エラーの場合には、再振り分けを実施しても振り分けられません。その場合には、受信フォルダに残っている帳票を削除します。リスト管理サーバの操作ログを調査し、印刷データからエラーの原因を取り除いてください。エラー原因を取り除いたあと、帳票の再登録を行ってください。

手順3: 帳票を再登録する

受信フォルダに帳票が残っていない場合は、帳票出力アプリケーションにおいて帳票の登録をやり直します。

NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票の場合

手順1: 異常の原因を調査し、取り除く

帳票登録時に異常となる場合には、主に以下の原因が考えられます。

- 配信フォルダが存在しない
- 帳票登録のワークユニットが起動していない

エラーが発生した原因を以下のログ情報により調査し、取り除きます。

- a. リスト管理サーバの受信フォルダの操作ログ (List Creator互換印刷の場合を除く)
- b. List Worksサーバのイベントログ



リスト管理サーバの受信フォルダの操作ログについては、“メッセージ集”を参照してください。また、List Worksサーバのイベントログについては、“[17.2 配信管理サーバのメッセージ](#)”を参照してください。

手順2: 帳票出力アプリケーションにおいて帳票の登録をやり直す

10.6 帳票の管理

帳票の管理方法について説明します。

配信フォルダの帳票に対して、管理者権限を持ったユーザが以下の管理を行うことができます。

以下の作業を行う対象の帳票は、事前にコマンドまたは出力指示画面で一覧表示して、確認できます。

- ・ 最大出力回数の変更
- ・ 帳票状態(出力済/未出力)の変更

- ・ 帳票の削除
- ・ 保存期限を過ぎた帳票の削除
- ・ 帳票に関連するファイルと情報の削除

10.6.1 帳票の一覧表示

帳票の状態や印刷に関する情報などを確認するには、帳票を一覧表示します。

帳票を一覧表示するには、以下の方法があります。

- ・ 出力指示画面
- ・ lwoprformコマンド

管理者権限を持ったユーザがlwoprformコマンドを実行します。



lwoprformコマンドについては、“[16.3.5 lwoprformコマンド](#)”を参照してください。

出力指示画面で帳票を一覧表示する手順は、以下のとおりです。

1. 出力指示画面を表示します。
2. 「配信フォルダ」ドロップダウンリストで、印刷する帳票が格納されている配信フォルダを指定します。
→帳票の一覧が表示されます。



出力指示画面を表示する方法および出力指示画面で表示される項目の詳細については、“[13.3 出力指示画面](#)”を参照してください。

なお、出力指示画面とコマンドでは、一覧表示できる内容に違いがあります。



内容の詳細については、“[付録D コマンドと画面で表示される一覧の比較](#)”を参照してください。

10.6.2 最大出力回数の変更

不要な印刷を防止するため、印刷の指示ができる回数(最大出力回数)を、帳票ごとに設定できます。登録時に帳票情報で設定した最大出力回数を、変更できます。

帳票の最大出力回数を変更するには、管理者権限を持ったユーザがlwoprformコマンドを実行します。



lwoprformコマンドについては、“[16.3.5 lwoprformコマンド](#)”を参照してください。

10.6.3 帳票状態(出力済/未出力)の変更

帳票状態(出力済/未出力)を変更するには、管理者権限を持ったユーザがlwoprformコマンドを実行します。



lwoprformコマンドについては、“[16.3.5 lwoprformコマンド](#)”を参照してください。

10.6.4 帳票の削除

帳票を削除するには、以下の方法があります。管理者権限を持ったユーザが行います。

- ・ 出力指示画面
- ・ lwoprformコマンド



lwoprformコマンドについては、“[16.3.5 lwoprformコマンド](#)”を参照してください。

出力指示画面で帳票を削除するには、以下の手順で操作します。

1. 帳票の一覧で、削除する帳票のチェックボックスをチェックし、【F4 選択削除】ボタンをクリックします。
→確認メッセージが表示されます。
2. 【OK】ボタンをクリックします。
→帳票が削除されます。



注意

- ・ 帳票を削除しても、タイミングによっては、すでに帳票が削除されていることがあります。このとき、操作ログには、帳票を正常に削除した旨のログが出力されます。
- ・ 印刷処理中の帳票は、削除できません。
- ・ 帳票を削除しても、関連するファイルや情報は残ったままとなっています。



帳票に関連するファイルや情報を削除する方法については、“[10.6.6 帳票に関連するファイルと情報の削除](#)”を参照してください。

10.6.5 保存期限を過ぎた帳票の削除

配信フォルダに保存日数を指定した運用をする場合、保存期限を過ぎた帳票を削除するには、管理者権限を持ったユーザがlwdelexpireコマンドを実行します。本コマンドによる帳票の削除は、夜間や週末など負荷が少ない時間帯に、定期的の実施します。



lwdelexpireコマンドについては、“[16.3.6 lwdelexpireコマンド](#)”を参照してください。



注意

帳票を削除しても、関連するファイルや情報は残ったままとなっています。



帳票に関連するファイルや情報を削除する方法については、“[10.6.6 帳票に関連するファイルと情報の削除](#)”を参照してください。

10.6.6 帳票に関連するファイルと情報の削除

帳票を以下の操作によって削除した場合、帳票に関連するファイルや情報は削除されていません。

- 配信操作画面
- lwoprformコマンド
- lwdelexpireコマンド

帳票に関連するファイルと情報を削除するには、管理者権限を持ったユーザがlwcleanformコマンドを実行します。帳票を削除したあとには、定期的に必ず実行します。



lwcleanformコマンドについては、“[16.3.7 lwcleanformコマンド](#)”を参照してください。

10.7 配信フォルダの管理

配信フォルダの管理方法について説明します。

配信フォルダに対して、管理者権限を持ったユーザが以下の管理を行うことができます。

以下の作業を行う対象の配信フォルダは、事前にコマンドまたは配信フォルダ管理画面で一覧表示して、配信フォルダの情報を確認できます。

- 配信出力先の変更
- 出力動作モードの変更
- 配信フォルダの削除

10.7.1 配信フォルダの一覧表示

配信フォルダに設定されている情報を確認するには、配信フォルダを一覧表示します。

配信フォルダを一覧表示するには、以下の方法があります。管理者権限を持ったユーザが行います。

- 配信フォルダ管理画面
- lwedtfolコマンド



配信フォルダ管理画面を表示する方法、および配信フォルダ管理画面で表示される項目の詳細については、“[13.9 配信フォルダ管理画面](#)”を参照してください。

lwedtfolコマンドについては、“[16.1.6 lwedtfolコマンド](#)”を参照してください。

なお、配信フォルダ管理画面とコマンドでは、一覧表示できる内容に違いがあります。



内容の詳細については、“[付録D コマンドと画面で表示される一覧の比較](#)”を参照してください。

10.7.2 配信出力先の変更

配信出力先を変更するには、以下の方法があります。管理者権限を持ったユーザが行います。

- 配信フォルダ管理画面
- lwoprfolコマンド



lwoprfolコマンドについては、“[16.3.4 lwoprfolコマンド](#)”を参照してください。

配信フォルダ管理画面で、配信出力先を変更するには、以下の手順で操作します。

1. 配信フォルダ管理画面で、配信出力先を変更する配信フォルダ名をクリックします。
→配信フォルダ詳細情報画面が表示されます。
2. 「配信出力先」ドロップダウンリストから変更したい配信出力先を選択し、【OK】ボタンをクリックします。



配信フォルダ管理画面を表示する方法および配信フォルダ管理画面で表示される項目の詳細については、“[13.9 配信フォルダ管理画面](#)”を参照してください。

10.7.3 出力動作モード(即時印刷/ため置き印刷)の変更

帳票の登録後、すぐに印刷する「即時印刷」か、帳票の登録だけ行い、指示に従って印刷する「ため置き印刷」かを定義した出力動作モードを変更します。

出力動作モードを変更するには、管理者権限を持ったユーザがlwoprfolコマンドを実行します。



lwoprfolコマンドについては、“[16.3.4 lwoprfolコマンド](#)”を参照してください。

10.7.4 配信フォルダの削除

配信フォルダを削除するには、管理者権限を持ったユーザがlwedtfolコマンドを実行します。



lwedtfolコマンドについては、“[16.1.6 lwedtfolコマンド](#)”を参照してください。



注意

配信フォルダの削除は、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してから実施してください。

10.8 配信出力先の管理

配信出力先の管理方法について説明します。

配信出力先に対して、管理者権限を持ったユーザが以下の管理を行うことができます。

以下の作業を行う対象の配信出力先は、事前にコマンドまたは配信出力先一覧画面で一覧表示して、配信出力先の情報を確認できます。

- 配信出力先の状態(稼働/停止)の変更
- 配信出力先の変更

- ・ 配信出力先の削除

10.8.1 配信出力先の状態(稼働/停止)の変更

帳票の出力中にサーバやプリンタなどに異常が発生した場合に、配信出力先に印刷ジョブが大量にたまってしまふことを回避するために、配信出力先を一時的に停止させることができます。また、サーバやプリンタが復旧した場合に、配信出力先を稼働状態にすることができます。

配信出力先を起動または停止するには、管理者権限を持ったユーザが`lwoprdest`コマンドを実行します。



`lwoprdest`コマンドについては、“[16.3.3 lwoprdestコマンド](#)”を参照してください。

10.8.2 配信出力先の一覧表示

配信出力先に設定されている情報を確認するには、配信出力先を一覧表示します。

配信出力先を一覧表示するには、以下の方法があります。

- ・ 配信出力先一覧画面
- ・ `lwedtdest`コマンド

管理者権限を持ったユーザが`lwedtdest`コマンドを実行します。



配信出力先一覧画面を表示する方法、および配信出力先一覧画面で表示される項目の詳細については、“[13.5 配信出力先一覧画面](#)”を参照してください。

`lwedtdest`コマンドについては、“[16.1.5 lwedtdestコマンド](#)”を参照してください。

なお、配信出力先一覧画面とコマンドでは、一覧表示できる内容に違いがあります。



内容の詳細については、“[付録D コマンドと画面で表示される一覧の比較](#)”を参照してください。

10.8.3 配信出力先の変更

配信出力先を変更するには、管理者権限を持ったユーザが`lwedtdest`コマンドを実行します。



`lwedtdest`コマンドについては、“[16.1.5 lwedtdestコマンド](#)”を参照してください。



注意

配信出力先の変更は、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してから実施してください。

10.8.4 配信出力先の削除

配信出力先を削除するには、管理者権限を持ったユーザが`lwedtdest`コマンドを実行します。



lwdtdestコマンドについては、“[16.1.5 lwdtdestコマンド](#)”を参照してください。



注意

配信出力先の変更は、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してから実施してください。

10.9 操作ログの管理

帳票印刷配信機能の操作ログは、配信管理サーバで行われた処理を記録するためのログ情報です。操作ログは、CSV形式のファイルで出力されます。シフトJISコードで作成されます。



操作ログに出力される情報については、“[17.1 配信管理サーバの操作ログ](#)”を参照してください。

10.9.1 操作ログの格納場所

操作ログの格納場所について説明します。



操作ログの出力形式については、“[17.1.1 操作ログの出力形式](#)”を参照してください。

配信管理サーバの操作ログ

操作ログは、日付でファイルを分けない設定と日付でファイルを分ける設定ができます。日付でファイルを分ける設定では、操作ログを、日付単位の帳票の印刷量やユーザの運用の分析に利用できます。

配信管理サーバの環境設定ファイルで設定の変更ができます。



変更方法については、“[3.9.4 配信管理サーバの環境設定ファイルの編集](#)”を参照してください。

操作ログは、配信管理サーバの環境設定ファイルに指定されたフォルダ配下に作成されます。

操作ログの設定によって、格納されるファイル名が以下のように異なります。

- 操作ログのファイルを日付で分けない場合

`lwdstlog_IPアドレス_nn.csv`

IPアドレス：操作ログを出力したサーバのIPアドレス
nn：配信管理サーバで採番される2桁の「00」以上の数値

- 操作ログのファイルを日付で分ける場合

`lwdstlog_YYYYMMDD_IPアドレス_nn.csv`

YYYYMMDD : 操作ログを出力した日付
IPアドレス : 操作ログを出力したサーバのIPアドレス
nn : 配信管理サーバで採番される2桁の「00」以上の数値

操作ログの格納場所の初期値は、以下のとおりです。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥oprlog

操作ログの格納場所は、配信管理サーバの環境設定ファイルで変更できます。



格納場所の変更方法については、“[3.9.4 配信管理サーバの環境設定ファイルの編集](#)”を参照してください。

帳票の表示で出力される操作ログ

帳票の表示で出力される操作ログは、リスト管理サーバの操作ログと同じファイルに出力されます。

リスト管理サーバの操作ログは、リスト管理サーバの環境設定において【操作ログ】タブの「格納場所」に設定したフォルダ配下に、以下のファイル名で作成されます。

ListLog.csv



リスト管理サーバの環境設定、および操作ログの格納場所の設定については、“操作手引書 運用管理者編”を参照してください。

操作ログの格納場所の初期値は、以下のとおりです。

List Worksのインストール先フォルダ¥Manage¥Log

なお、格納場所を指定しない場合は、以下のフォルダ配下に出力されます。

List Worksのインストール先フォルダ¥Program¥Log

なお、List Creator互換印刷機能を使用して印刷する帳票を表示する場合は、配信管理サーバの操作ログに出力されます。

10.9.2 配信管理サーバの操作ログの自動バックアップ

配信管理サーバの操作ログのファイルサイズが10MBを超えた場合に、操作ログを自動的にバックアップファイルに退避します。

バックアップファイルは、配信管理サーバの操作ログと同じフォルダに作成されます。また、バックアップファイルのファイル名についても、操作ログのファイル名の設定が有効になり、以下のように作成されます。



操作ログの格納場所については、“[10.9.1 操作ログの格納場所](#)”を参照してください。

操作ログのファイル名の変更方法については、“[3.9.4 配信管理サーバの環境設定ファイルの編集](#)”を参照してください。

- 操作ログを日付で分けない場合

lwdstlog_IPアドレス_nn_mmm.csv

IPアドレス：操作ログを出力したサーバのIPアドレス
nn：配信管理サーバで採番される2桁の“00”以上の数値
mmm：“000”から“100”までの追番を再帰的に付加します。

- ・操作ログを日付で分ける場合

`lwdstlog_YYYYMMDD_IPアドレス_nn_mmm.csv`

YYYYMMDD：操作ログを出力した日付
IPアドレス：操作ログを出力したサーバのIPアドレス
nn：配信管理サーバで採番される2桁の“00”以上の数値
mmm：“000”から“100”までの追番を再帰的に付加します。

操作ログを日付で分ける場合は、操作ログのファイルを定期的にバックアップし、ディスク容量に合わせて削除してください。

10.9.3 操作ログの改ざん検知

操作ログの改ざん有無を確認するには、管理者権限を持ったユーザがF5CWCKLGコマンドを実行します。



F5CWCKLGコマンドの詳細については、“[16.3.8 F5CWCKLGコマンド](#)”を参照してください。

10.10 トラブル時の情報採取

帳票印刷配信機能を使用中にトラブルが発生した場合に、採取する情報について説明します。

- ・List Worksサーバ

以下の情報を採取します。

- ー リスト管理サーバ、配信管理サーバの保守情報(保守情報収集ツールの結果)

List Worksサーバで配信出力サーバを使用している場合は、以下の情報も採取します。

- ー 配信出力サーバの保守情報(保守情報収集ツールの結果)



注意

印刷時にトラブルが発生した場合は、配信管理サーバと配信出力サーバの両方の情報を採取してください。

- ・List Works配信出力サーバ

以下の情報を採取します。

- ー リスト管理サーバ、配信管理サーバの保守情報(保守情報収集ツールの結果)

- ー 配信出力サーバの保守情報(保守情報収集ツールの結果)

- ・メッセージ通知クライアント

以下の情報を採取します。

- ー 表示されたメッセージの内容
- ー 配信出力サーバの保守情報(保守情報収集ツールの結果)

- ・Web配信操作クライアント

以下の情報を採取します。

- ー 表示されたメッセージの内容
- ー リスト管理サーバ、配信管理サーバの保守情報(保守情報収集ツールの結果)
- ー Web連携の保守情報(保守情報収集ツールの結果)



保守情報収集ツールについては、“操作手引書 運用管理者編”の“8.4 トラブル調査用資料の採取”を参照してください。

- ・データベースサーバ(Symfowareを使用している場合)

以下の情報を採取します。

- ー パフォーマンスデータ格納ファイル
制御ファイル(LWLDSTDB.cfg)の「RDBPM」に指定したフォルダ配下にあるすべてのファイル
- ー メッセージログファイル
制御ファイル(LWLDSTDB.cfg)の「RDBREPORT」に指定したフォルダ配下にある以下のファイル
 - LWLDSTDB.log
 - LWLDSTDB.old

なお、制御ファイル(LWLDSTDB.cfg)は、以下に格納されています。

(例)List Worksに同梱されているSymfowareデータベースをデフォルトのインストールフォルダ(システムドライブ:¥SFW)にインストールした場合

システムドライブ:¥SFW¥SFWETC¥RDB¥etc



制御ファイルの詳細については、“インストールガイド”を参照してください。

10.11 クラスタシステム運用におけるフェールオーバー発生時の対処

クラスタシステム運用の帳票印刷配信機能で、フェールオーバーが発生した場合に必要な対処について説明します。

登録の再実行

フェールオーバーが発生してノードが切り替わっても、受信フォルダの内容は移動しません。

このため、フェールオーバー発生時に受信していた印刷データは、再度、登録を行う必要があります。

処理中の帳票の削除

受信中にフェールオーバーが発生してノードが切り替わった場合は、元のノードの受信フォルダに、処理中の帳票が残ります。
元のノードに再度切り替わったときは、これら処理中の帳票を、リストナビから手動で削除してください。



受信フォルダの帳票を削除する方法については、“操作手引書 運用管理者編”を参照してください。

第11章 帳票と印刷資源の退避、復元

運用中に定期的に行う退避および復元について説明します。

ディスク破壊による帳票、および帳票管理情報の損失などの事態に備え、毎日、数日ごと、繁忙期の前後など、運用に合わせ定期的に退避作業を行う必要があります。

ディスク破壊時など、復元作業が必要となった場合、最新のバックアップデータを復元します。

退避および復元を実施する場合は、List Worksサービス、配信管理サービス、および配信出力サービスを停止する必要があります。

ここでは、配信フォルダ配下の帳票、印刷資源、配信データベースを退避、復元する手順を説明します。



その他のフォルダ配下の帳票、印刷資源、保管データベースの退避、復元については、“保守手引書”を参照してください。

11.1 帳票と印刷資源の退避

配信フォルダ、配信フォルダ配下の帳票、印刷資源、および配信データベースを退避する手順を説明します。



注意

- 退避した配信フォルダ、配信フォルダ配下の帳票、および印刷資源と配信データベースは、整合性を保つ必要があります。すべての退避は、同じタイミングで行うよう運用設計をしてください。
- 退避するために必要なディスク容量は、導入時に運用設計によって見積もった値となります。

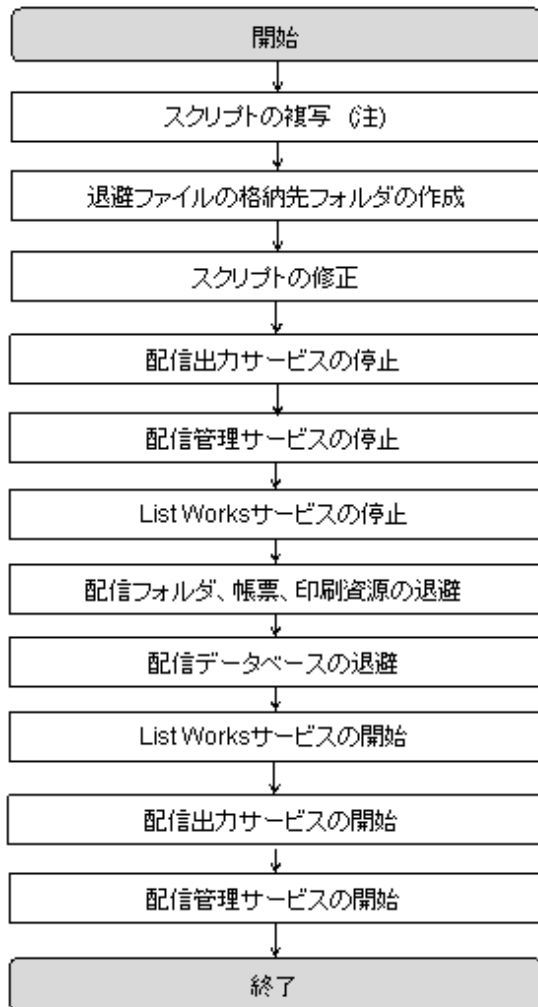


ディスク容量の見積もりは、“[1.6 システムの見積もり](#)”を参照してください。

配信データベースのディスク容量の見積もりは、“[3.3 配信データベースの環境設定](#)”を参照してください。

退避方法は、使用しているデータベースシステムにより異なります。

11.1.1 Symfowareデータベースの場合



注: 配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合に行います。

Symfowareデータベースの退避では、以下のスクリプトを使用します。

List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥backupLWLDSTDB.bat

手順1: スクリプトの複写(配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合)

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)にある場合は、スクリプト(backupLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバへ複写します。

手順2: 退避ファイルの格納先フォルダの作成

退避ファイルの格納先となるフォルダを作成します。

退避ファイルは、スクリプト(backupLWLDSTDB.bat)の実行により、配信データベースのデータが退避されるファイルです。

退避ファイルの格納先に必要なディスク容量は、導入時に運用設計によって見積もった値となります。



ディスク容量の見積もりについては、“[3.3.1 Symfowareデータベースの環境設定](#)”を参照してください。



注意

格納先フォルダに以前の退避ファイルがある状態で、スクリプトを実行すると、エラーとなります。

手順3: スクリプトの修正

スクリプト(backupLWLDSTDB.bat)を修正します。

退避ファイルの格納先

“[手順2: 退避ファイルの格納先フォルダの作成](#)”で作成した退避ファイルの格納先に合わせ、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 退避ファイルの格納先を指定します。 */
@rem /* 格納先は、予め作成しておく必要があります。 */
@rem /*-----*/
@SET BACKUP_DATA_FILE_PATH="C:\TEMP\LWLDSTDB_BAK"
```

配信データベースのRDBシステム名

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、環境に合わせて以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@set RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順4: 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順5: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止”を参照してください。

手順6: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。
保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順7: 配信フォルダ、帳票、印刷資源の退避

以下の手順で、配信フォルダを退避します。配信フォルダには、オーバーレイなどの印刷資源や帳票が含まれます。

1. lwdstmngrenvコマンドで、印刷配信の環境設定の内容を表示します。
→「folder.rootpath」キーに設定されているフォルダが、退避する対象の配信フォルダの格納場所です。
2. エクスプローラなどを使用して、フォルダごと別のフォルダや媒体に複写(退避)します。
なお、フォルダの階層構造は崩さないでください。



注意

- 配信フォルダの共有運用を行っている場合、配信フォルダの退避は、いずれか1台のサーバで実施してください。
- クラスタ運用を行っている場合、配信フォルダの退避は、運用ノードのサーバで実施してください。

手順8: 配信データベースの退避

“[手順3: スクリプトの修正](#)”で修正したスクリプト(backupLWLDSTDB.bat)を実行します。

スクリプト実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(backuplog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



配信データベースの退避処理時に出力される可能性の高いメッセージを、“保守手引書”に抜粋して説明しています。メッセージ中の「LWDB」を「LWLDSTDB」に置き換え、参考にしてください。
また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。



注意

- 配信フォルダの共有運用を行っている場合は、配信データベースがインストールされているサーバで配信データベースの退避を実施してください。
- クラスタ運用を行っている場合は、待機ノードのクラスタサービスとデータベースサービスを停止し、運用ノードのサーバで配信データベースの退避を実施してください。
 - ー クラスタサービス
 - ー データベースサービス

手順9: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順10: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“[10. 1. 1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順11: 配信管理サービスの開始

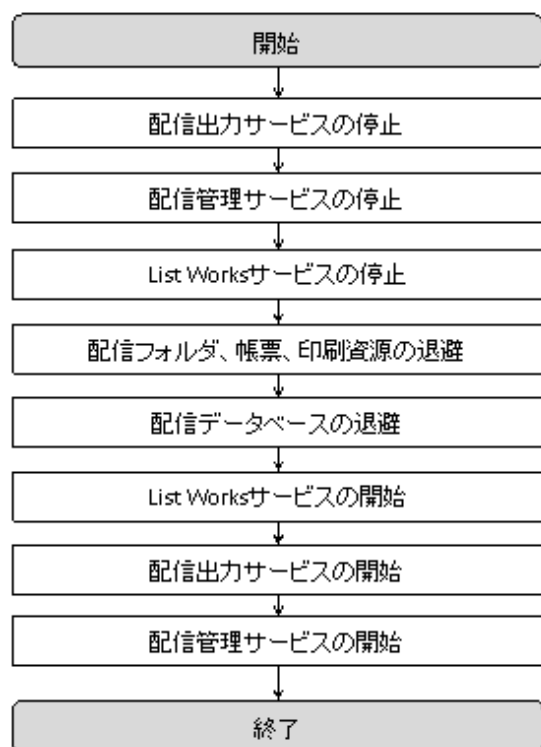
配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“10.1.2 配信管理サービスの開始/停止”を参照してください。

11.1.2 Oracleデータベースの場合



手順1: 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“10.1.1 配信出力サービスの開始/停止”を参照してください。

手順2: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止”を参照してください。

手順3: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。
保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順4: 配信フォルダ、帳票、印刷資源の退避

以下の手順で、配信フォルダを退避します。配信フォルダには、オーバーレイなどの印刷資源や帳票が含まれます。

1. lwdstmngrenvコマンドで、印刷配信の環境設定の内容を表示します。
→「folder.rootpath」キーワードに設定されているフォルダが、退避する対象の配信フォルダの格納場所です。
2. エクスプローラなどを使用して、フォルダごと別のフォルダや媒体に複写(退避)します。
なお、フォルダの階層構造は崩さないでください。



注意

- 配信フォルダの共有運用を行っている場合、配信フォルダの退避は、いずれか1台のサーバで実施してください。
- クラスタ運用を行っている場合、配信フォルダの退避は、運用ノードのサーバで実施してください。

手順5: 配信データベースの退避

Oracleデータベースの各種ツール(Oracle Enterprise Managerなど)を使用して退避します。



Oracleの各種ツールの詳細は、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

手順6: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。
保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順7: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“10. 1. 1 配信出力サービスの開始/停止”を参照してください。

手順8: 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止”を参照してください。

11.2 帳票と印刷資源の復元

以下の場合に、バックアップデータを復元します。

- 配信データベースが破損した場合

配信データベースが破損している状態では、以下のような現象が起きます。

- 出力指示画面や処理状況照会画面が表示されない
- ハードウェア障害で配信データベースが起動できない など

- ・ 配信フォルダ、および配信フォルダ配下の帳票が破損した場合

配信フォルダおよび配信フォルダ配下の帳票が破損している状態では、帳票ファイルが存在しません。この場合、以下のような現象が起きます。

- ー 配信フォルダ配下の帳票が表示されない
- ー 印刷が常に失敗する など

- ・ 配信データベース、配信フォルダ、および配信フォルダ配下の帳票が破損した場合

例えば、次の2つの現象が同時に起きている状態です。

- ー 配信データベースが破損した場合の現象
- ー 配信フォルダ、および配信フォルダ配下の帳票が破損した場合の現象

- ・ 保管データベースが破損した場合

保管データベースが破損している状態では、以下のような現象が起きます。

- ー 帳票や保管フォルダがリストナビの一覧に表示されない
- ー ハードウェア障害で保管データベースが起動できない など

- ・ 保管フォルダ、および保管フォルダ配下の帳票が破損した場合

保管フォルダおよび保管フォルダ配下の帳票が破損している状態では、帳票ファイルが存在しません。この場合、以下のような現象が起きます。

- ー 帳票が表示されない
- ー 保管フォルダが表示されない など

- ・ 保管データベース、保管フォルダ、および保管フォルダ配下の帳票が破損した場合

例えば、次の2つの現象が同時に起きている状態です。

- ー 保管データベースが破損した場合の現象
- ー 保管フォルダ、および保管フォルダ配下の帳票が破損した場合の現象

復元を実施する場合は、List Worksサービス、配信管理サービス、および配信出力サービスを停止する必要があります。



「保管データベースが破損した場合」、「保管フォルダおよび保管フォルダ配下の帳票が破損した場合」、「保管データベース、保管フォルダおよび保管フォルダ配下の帳票が破損した場合」の復元方法については、「保守手引書」を参照してください。

「配信データベースが破損した場合」、「配信フォルダ、および配信フォルダ配下の帳票が破損した場合」、「配信データベース、配信フォルダ、および配信フォルダ配下の帳票が破損した場合」の復元方法

“11.2.1 退避時の状態まで復元(Symfowareデータベースの場合)”または“11.2.2 退避時の状態まで復元(Oracleデータベースの場合)”の手順で復元します。

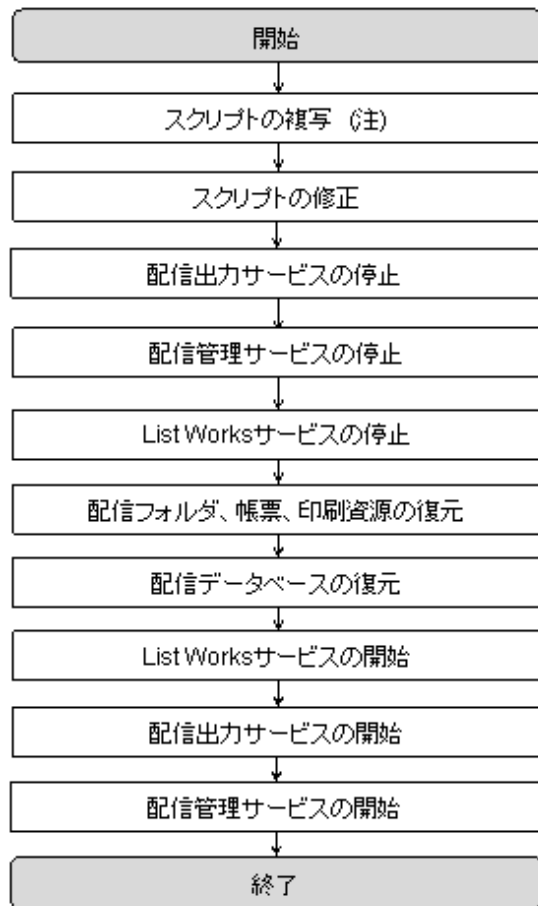
バックアップデータを復元するため、退避時の状態に戻ります。退避後に作成した配信フォルダおよび登録した帳票は、再度、作成および登録する必要があります。



詳細については“11.2.1 退避時の状態まで復元(Symfowareデータベースの場合)”または“11.2.2 退避時の状態まで復元(Oracleデータベースの場合)”を参照してください。

11.2.1 退避時の状態まで復元(Symfowareデータベースの場合)

Symfowareデータベースを使用している場合の、バックアップデータから、配信フォルダ、配信フォルダ配下の帳票、印刷資源、および配信データベースを、退避時の状態まで復元する手順を説明します。



注: 配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合に行います。

Symfowareデータベースの復元では、以下のスクリプトを使用します。

List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥restoreLWLDSTDB.bat

手順1: スクリプトの複写(配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合)

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)に存在する場合は、スクリプト(restoreLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバへ複写後、修正します。

手順2: スクリプトの修正

スクリプト(restoreLWLDSTDB.bat)を修正します。

復元する退避ファイルの格納先

復元する退避ファイルの格納先に合わせ、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* リストアする退避ファイルの格納先を指定します。 */
```

```
@rem /*-----*/
@SET RESTORE_DATA_FILE_PATH="C:\TEMP\LWLDSTDB_BAK"
```

配信データベースのRDBシステム名

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@set RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順3: 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10. 1. 1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順4: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順5: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順6: 配信フォルダ、帳票、印刷資源の復元

以下の手順で、配信フォルダを復元します。配信フォルダには、オーバレイなどの印刷資源や帳票が含まれます。

1. lwdstmgrenvコマンドで、印刷配信の環境設定の内容を表示します。
→「folder.rootpath」キーに設定されているフォルダが、復元先となる配信フォルダの格納場所です。
2. エクスプローラなどを使用して、退避フォルダや媒体から復元先のフォルダに複写(復元)します。
なお、フォルダの階層構造は崩さないでください。



注意

- 配信フォルダの共有運用を行っている場合、配信フォルダの復元は、いずれか1台のサーバで実施してください。
- クラスタ運用を行っている場合、配信フォルダの復元は、運用ノードのサーバで実施してください。

手順7: 配信データベースの復元

“[手順2: スクリプトの修正](#)”で修正したスクリプト(restoreLWLDSTDB.bat)を実行します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(restorelog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



配信データベースの復元処理時に出力される可能性の高いメッセージを、“保守手引書”に抜粋して説明しています。メッセージ中の「LWDB」を「LWLDSTDB」に置き換え、参考になしてください。
また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。



注意

- 印刷ジョブが存在する状態で配信データベースを退避、復元した場合は、印刷ジョブは削除されます。
- 配信フォルダの共有運用を行っている場合は、配信データベースがインストールされているサーバで配信データベースの復元を実施してください。
- クラスタ運用を行っている場合は、待機ノードの以下のサービスを停止し、運用ノードのサーバで配信データベースの復元を実施してください。
 - ー クラスタサービス

手順8: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。
保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順9: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順10: 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

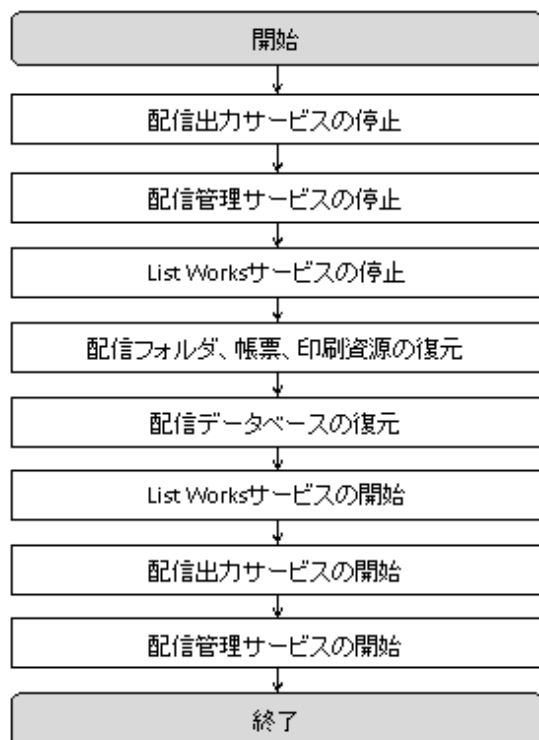
配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

11.2.2 退避時の状態まで復元(Oracleデータベースの場合)

Oracleデータベースを使用している場合の、バックアップデータから、配信フォルダ、配信フォルダ配下の帳票、印刷資源、および配信データベースを、退避時の状態まで復元する手順を説明します。



手順1: 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順2: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順3: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。
保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順4: 配信フォルダ、帳票、印刷資源の復元

以下の手順で、配信フォルダを復元します。配信フォルダには、オーバーレイなどの印刷資源や帳票が含まれます。

1. lwdstmgrenvコマンドで、印刷配信の環境設定の内容を表示します。
→「folder.rootpath」キーワードに設定されているフォルダが、復元先となる配信フォルダの格納場所です。
2. エクスプローラなどを使用して、退避フォルダや媒体から復元先のフォルダに複写(復元)します。
なお、フォルダの階層構造は崩さないでください。



注意

- 配信フォルダの共有運用を行っている場合、配信フォルダの復元は、いずれか1台のサーバで実施してください。
- クラスタ運用を行っている場合、配信フォルダの復元は、運用ノードのサーバで実施してください。

手順5: 配信データベースの復元

Oracleデータベースの各種ツール(Oracle Enterprise Managerなど)を使用して復元します。



Oracleの各種ツールの詳細は“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

手順6: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順7: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“[10. 1. 1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順8: 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“[10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

第12章 データベースの管理

List Worksでは、フォルダおよび帳票の管理のためにデータベースを利用しています。

ここでは、List Worksの運用中に定期的に行うデータベースの管理について説明します。

なお、List Worksでは、配信データベースと保管データベースの2つのデータベースを利用しており、それぞれのデータベースの管理が必要となります。

12.1 Symfowareデータベースの場合

配信データベースにSymfowareデータベースを使用している場合のデータベースの管理について説明します。

12.1.1 配信データベースの容量監視

保管するデータ量の増加によりデータベースの容量が不足し、予期せぬトラブルに見舞われることもあるため、毎週、毎月といった定期的な間隔で容量を監視する必要があります。

また、監視した結果、容量不足が想定される場合は、データベースの容量を拡張します。

ここでは、配信データベースの容量監視および容量拡張について説明します。



保管データベースの容量監視および容量拡張については、“保守手引書”を参照してください。

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)に存在する場合、配信データベースの容量監視はデータベースサーバ上で行います。

配信データベースの使用状況は、以下のスクリプトを使用して把握します。

List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥dbsp_checkLWLDSTDB.bat

配信データベースの容量監視の手順を以下に示します。

手順1:スクリプトの複写(配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合)

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)にある場合は、スクリプト(dbsp_checkLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバへ複写します。

手順2:スクリプトの修正

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプト(dbsp_checkLWLDSTDB.bat)の以下の箇所(太字下線)を、環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@SET RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順3:スクリプトの実行

“[手順2:スクリプトの修正](#)”で修正したスクリプトを実行します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(chkdbsplog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



エラーメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

手順4:空き容量の確認

スクリプトの実行結果を確認します。

次の形式の情報がログファイル(chkdbsplog_LWLDSTDB.txt)に出力されます。

```
Database space : LWLDSTDBSP1
Device         : C:¥LWLDSTDB¥RDB¥USR¥LWLDSTDBSP1
Size           : 2432000K
Static allocate size
total          : 1870568K
Dynamic allocate size
total          :      0K
Free size
total          : 561432K (注)
qdg12074i:rdbspcinfが正常終了しました 復帰コード 00 (システム名=LWLDSTDB)
```

注:Free sizeのtotalが、空き容量です。

空き容量が残り少なくなっている場合には、配信データベースの容量拡張が必要になります。実行結果のFree sizeがStatic allocate sizeの10%程度が目安です。

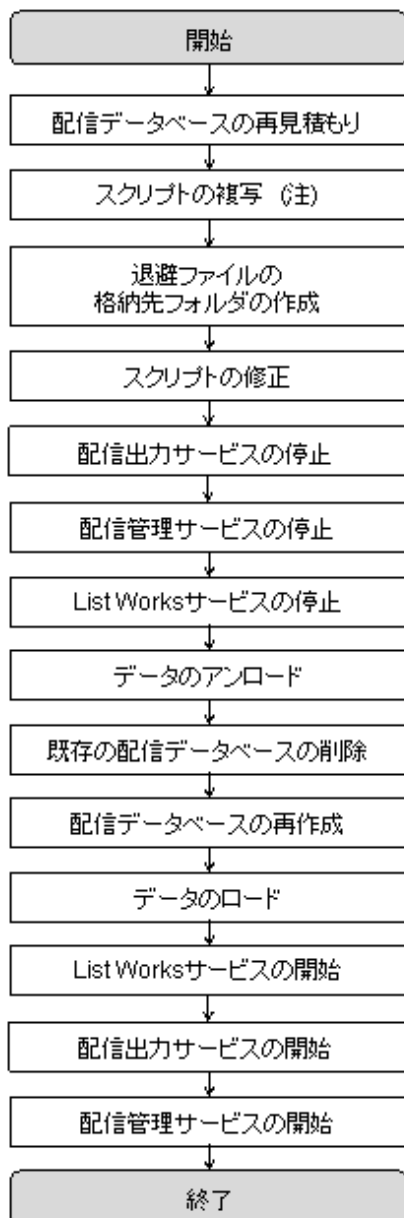
12.1.2 配信データベースの容量拡張/再構築

配信データベースの容量を監視した結果、容量の不足が想定される場合は、配信データベースの容量拡張を行う必要があります。

配信データベースの容量拡張/再構築は、List Worksサービス、配信管理サービス、および配信出力サービスを停止して行う必要があります。

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)に存在する場合、配信データベースの容量拡張/再構築はデータベースサーバ上で行います。

Symfowareデータベースの容量拡張/再構築の手順を以下に説明します。



注: 配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合に行います。

Symfowareデータベースの容量拡張では、以下のスクリプトを使用します。

アンロード用 : List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥dsi_unloadLWLDSTDB. bat

ロード用 : List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥dsi_loadLWLDSTDB. bat

手順1: 配信データベースの再見積もり

配信データベースの容量監視時の情報などを参考に、想定規模を再度設定して容量の見積もりを行い、配信データベースの構築スクリプトに反映してください。



配信データベースの見積もりについては、“[3.3 配信データベースの環境設定](#)”を参照してください。

手順2: スクリプトの複写(配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合)

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)にある場合は、スクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.batと dsi_loadLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバへ複写します。

手順3: 退避ファイルの格納先フォルダの作成

退避ファイルの格納先となるフォルダを作成します。

退避ファイルは、アンロード用のスクリプトの実行により、配信データベースのデータが退避されるファイルです。

退避ファイルの格納先に必要なディスク容量は、導入時に見積もった値となります。



ディスク容量の見積もりについては、“[3.3.1 Symfowareデータベースの環境設定](#)”を参照してください。



注意

格納先フォルダに以前の退避ファイルがある状態で、アンロード用のスクリプトを実行するとエラーとなります。

手順4: スクリプトの修正

アンロード用およびロード用のスクリプトの修正をします。

アンロード用のスクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.bat)

退避ファイルの格納先

“[手順3: 退避ファイルの格納先フォルダの作成](#)”で作成した退避ファイルの格納先に合わせ、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 退避ファイルの格納先を指定します。 */
@rem /* 格納先は、予め作成しておく必要があります。 */
@rem /*-----*/
@SET UNLOAD_DATA_FILE_PATH="C:\TEMP\LWLDSTDB_BAK"
```

配信データベースのRDBシステム名

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@SET RDBNAME=LWLDSTDB
```

ロード用のスクリプト(dsi_loadLWLDSTDB.bat)

退避ファイルの格納先

アンロード用のスクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.bat)で指定した退避ファイルの格納先に合わせ、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* ロードする退避ファイルの格納先を指定します。 */
```

```
@rem /*-----*/
@SET LOAD_DATA_FILE_PATH="C:\TEMP\LWLDSTDB_BAK"
```

配信データベースのRDBシステム名

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@SET RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順5: 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順6: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順7: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順8: データのアンロード

“[手順4: スクリプトの修正](#)”で修正したアンロード用のスクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.bat)を実行します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(unloadlog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



配信データベースの容量拡張時に出力される可能性の高いメッセージを、“保守手引書”に抜粋して説明しています。メッセージ中の「LWDB」を「LWLDSTDB」に置き換え、参考にしてください。

また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

手順9: 既存の配信データベースの削除

以下の手順で配信データベースを削除します。

1. RDB サービスの削除

【スタート】メニューの【すべてのプログラム】—【Symfoware Server Enterprise Edition】—【RDB システムセットアップ】からSymfoware RDB-System Setup 画面を表示し、システム一覧から「LWLDSTDB」を削除します。



参考

Symfoware Server V10を使用している場合、コマンドプロンプトからSYSSETUP.EXEコマンドを実行し、RDBシステムセットアップを起動します。



詳細については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

2. データベーススペースファイルの削除

配信データベース作成用のスクリプト(createLWLDSTDB.dat)に指定したデータベーススペースの物理ファイル(LWLDSTDBSP ファイル)を、エクスプローラなどから削除します。

手順10: 配信データベースの再作成

配信データベースの構築手順に従って、RDBシステムのセットアップから、配信データベースの構築を行います。

“[手順1: 配信データベースの再見積もり](#)”で算出された容量に対して、領域が十分に空いているディスクに再構築を行ってください。ディスクドライブやフォルダ構成を変更することもできます。

手順11: データのロード

“[手順4: スクリプトの修正](#)”で修正したロード用のスクリプト(dsi_loadLWLDSTDB.bat)を実行します。

ロードスクリプト実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(loadlog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



配信データベースの容量拡張時に出力される可能性の高いメッセージを、“保守手引書”に抜粋して説明しています。メッセージ中の「LWDB」を「LWLDSTDB」に置き換え、参考にしてください。
また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

手順12: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順13: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順14: 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細については、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

12.1.3 配信データベースのフラグメンテーションの監視

データベースのフラグメンテーションの発生状況の監視と、発生した場合の解消方法について説明します。

配信データベースで発生すると出力指示画面の表示に影響がでます。保管データベースで発生すると保管フォルダの帳票一覧の表示に影響がでます。そのため、定期的に各データベースのフラグメンテーションの発生状況を監視し、発生した場合は解消する必要があります。

ここでは、配信データベースのフラグメンテーションの監視および解消について説明します。



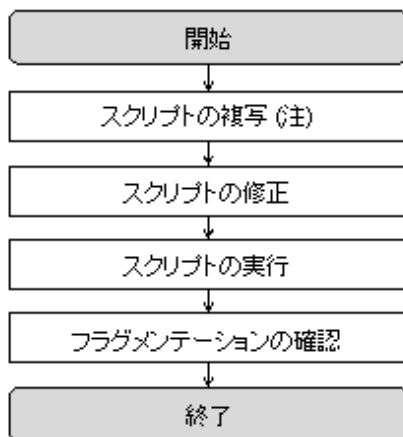
保管データベースのフラグメンテーションの監視および解消については、“保守手引書”を参照してください。

配信データベースのフラグメンテーションの監視では、以下のスクリプトを使用します。

List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥dsi_checkLWLDSTDB.bat

監視手順を以下に示します。

なお、フラグメンテーションの監視は、List Worksサービス、配信管理サービス、および配信出力サービスの起動中に実行できます。



注: 配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合に行います。

手順1: スクリプトの複写(配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合)

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)にある場合は、スクリプト(dsi_checkLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバへ複写します。

手順2: スクリプトの修正

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプト(dsi_checkLWLDSTDB.bat)の以下の箇所(太字下線の部分)を、環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@SET RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順3: スクリプトの実行

“[手順2: スクリプトの修正](#)”で修正したスクリプトを実行します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(checklog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



エラーメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

手順4:フラグメンテーションの確認

スクリプトの実行結果を確認します。

実行結果は、テキスト形式の1行としてログファイル(checklog_LWLDSTDB.txt)に出力されます。

出力形式は以下の2つがあります。

```
DSI (LWLDSTDB. DSI名), TYPE (SEQUENTIAL), DATA (aa, bb, cc, dd, ee)
DSI (LWLDSTDB. DSI名), TYPE (BTREE), BASE (aa, bb, cc, dd, ee), INDEX (—, ww, xx, yy, zz)
```

実行結果が以下の両方の条件を満たしている場合、フラグメンテーションを解消したほうがよいと判断します。

- ccが10%以上
- $bb \div cc/2$ (bbがccの半分程度)

実行結果の例を以下に示します。

```
DSI (LWLDSTDB. LIST_PK), TYPE (BTREE), BASE (178, 14%, 26%, 37, 41%), INDEX (—, 34%, 67%, 3, 1%)
```

この例では、ccが26%で目安である10%よりも多く、bbが14%、ccの半分が13%とほぼ同じ値になるため、フラグメンテーションを解消したほうがよいと判断します。

12.1.4 配信データベースのフラグメンテーションの解消

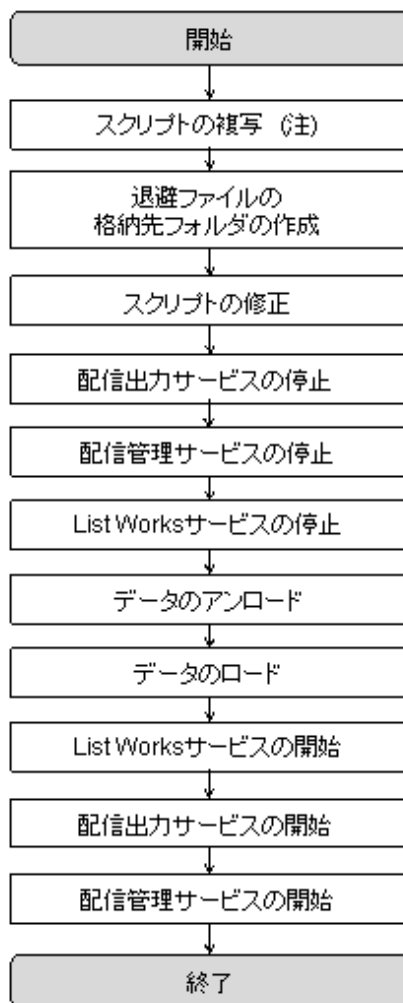
Symfowareデータベースのフラグメンテーションの解消について説明します。

配信データベースのフラグメンテーションの解消は、List Worksサービス、配信管理サービス、および配信出力サービスを停止して行う必要があります。

配信データベースのフラグメンテーションの解消では、以下のスクリプトを使用します。

アンロード用 : List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥dsi_unloadLWLDSTDB. bat
ロード用 : List Worksのインストール先フォルダ¥db¥symfo¥LWLDSTDB¥dsi_loadLWLDSTDB. bat

解消手順を以下に示します。



注: 配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合に行います。

手順1: スクリプトの複写(配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバにある場合)

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)にある場合は、スクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.batと dsi_loadLWLDSTDB.bat)をデータベースサーバへ複写します。

手順2: 退避ファイルの格納先フォルダの作成

退避ファイルの格納先となるフォルダを作成します。

退避ファイルは、アンロード用のスクリプトの実行により、配信データベースのデータが退避されるファイルです。

退避ファイルの格納先に必要なディスク容量は、導入時に運用設計によって見積もった値となります。



ディスク容量の見積もりについては、“[3.3.1 Symfowareデータベースの環境設定](#)”を参照してください。



注意

格納先フォルダに以前の退避ファイルがある状態で、アンロード用のスクリプトを実行するとエラーとなります。

手順3:スクリプトの修正

アンロード用およびロード用のスクリプトの修正をします。

アンロード用のスクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.bat)

退避ファイルの格納先

“[手順2:退避ファイルの格納先フォルダの作成](#)”で作成した退避ファイルの格納先に合わせ、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 退避ファイルの格納先を指定します。 */
@rem /* 格納先は、予め作成しておく必要があります。 */
@rem /*-----*/
@SET UNLOAD_DATA_FILE_PATH="C:¥TEMP¥LWLDSTDB_BAK"
```

配信データベースのRDBシステム名

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@SET RDBNAME=LWLDSTDB
```

ロード用のスクリプト(dsi_loadLWLDSTDB.bat)

退避ファイルの格納先

アンロード用のスクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.bat)で指定した退避ファイルの格納先に合わせ、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* ロードする退避ファイルの格納先を指定します。 */
@rem /*-----*/
@SET LOAD_DATA_FILE_PATH="C:¥TEMP¥LWLDSTDB_BAK"
```

配信データベースのRDBシステム名

配信データベースのRDBシステム名をLWLDSTDB以外に変更している場合は、スクリプトの以下の箇所(太字下線)を環境に合わせて修正します。

```
@rem /*-----*/
@rem /* 配信データベースのRDBシステム名を指定します。 */
@rem /* RDBシステム名をLWLDSTDB以外にしている場合は、環境に合わせて変更して */
@rem /* ください。 */
@rem /*-----*/
@SET RDBNAME=LWLDSTDB
```

手順4:配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“10.1.1 配信出力サービスの開始/停止”を参照してください。

手順5: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細は、“10.1.2 配信管理サービスの開始/停止”を参照してください。

手順6: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順7: データのアンロード

“[手順3: スクリプトの修正](#)”で修正したアンロード用のスクリプト(dsi_unloadLWLDSTDB.bat)を実行します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(unloadlog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



フラグメンテーションの解消時に出力される可能性の高いメッセージを、“保守手引書”に抜粋して説明しています。メッセージ中の「LWDB」を「LWLDSTDB」に置き換え、参考にしてください。
また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

手順8: データのロード

“[手順3: スクリプトの修正](#)”で修正したロード用のスクリプト(dsi_loadLWLDSTDB.bat)を実行します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合は、ログファイル(loadlog_LWLDSTDB.txt)を参照し、エラーメッセージを確認します。ログファイルは、スクリプトを実行したカレントフォルダに出力されます。



フラグメンテーションの解消時に出力される可能性の高いメッセージを、“保守手引書”に抜粋して説明しています。メッセージ中の「LWDB」を「LWLDSTDB」に置き換え、参考にしてください。
また、詳細なメッセージの説明については、“Symfowareのマニュアル”を参照してください。

手順9: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイレリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順10: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順11: 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細は、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

12.2 Oracleデータベースの場合

配信データベースにOracleデータベースを使用している場合のデータベースの管理について説明します。

12.2.1 配信データベースの容量監視

保管するデータ量の増加によりデータベースの容量が不足し、予期せぬトラブルに見舞われることもあるため、毎週、毎月といった定期的な間隔で容量を監視する必要があります。

また、監視した結果、容量不足が想定される場合は、データベースの容量を拡張します。

ここでは、配信データベースの容量監視および容量拡張について説明します。



保管データベースの容量監視および容量拡張については、“[保守手引書](#)”を参照してください。

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)に存在する場合、配信データベースの容量監視はデータベースサーバ上で行います。

Enterprise Manager Database ControlなどのOracleのツールを用いて、表領域を監視します。



参考

配信データベースの表領域は、使用状況に応じて、ハードディスク容量の限界まで自動的に拡張されます。容量が不足するような場合は、空き容量が十分ある別のディスク上にデータファイルを追加して表領域の容量を拡張します。また、データファイルが以下のサイズに達するような場合は、データファイルを追加し、表領域の容量を拡張します。

ブロック・サイズ (注)	データファイルの最大サイズ
8192 バイト	32 GB
16384 バイト	64 GB

注:ブロック・サイズは、配信データベースの作成時に指定したものです。



容量拡張の方法については、“[12.2.2 配信データベースの容量拡張/再構築](#)”を参照してください。

Oracle 11gのEnterprise Manager Database Controlを使用した、容量の確認手順を以下に示します。



Oracleにおける配信データベースの容量監視の方法および容量監視ツールの使用方法の詳細については、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

手順1:Enterprise Manager Database Controlサービスの起動

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】を選択します。

→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

Enterprise Manager Database Controlサービスは、「OracleDBConsoleLWLDSTDB」です。

サービスの【プロパティ】ダイアログボックスでスタートアップの種類が「手動」または「自動」になっていることを確認します。

プロセスが起動されていない場合は、【開始】をクリックします。

手順2: Enterprise Manager Database Controlにログインする

Webブラウザを起動し、配信データベースの作成時に表示されたURLを指定します。

通常は以下のURLです。

https://ホスト名:5500/em

→【ログイン】ダイアログボックスが表示されます。

以下の接続情報を指定します。

ユーザ名 : 「LWLDST」を指定します。

パスワード : ユーザLWLDSTに設定したパスワードを指定します。

接続モード : 「Normal」を選択します。

【ログイン】ボタンをクリックします。Enterprise Manager Database Controlに配信データベースのホームページが表示されます。

手順3: 表領域の情報を表示

【サーバー】タブー【記憶域】ー【表領域】を選択します。

→【表領域】ダイアログボックスが表示されます。

「合計割当済サイズ」がハードディスク容量の限界に近くなっている場合は、容量を拡張してください。

12.2.2 配信データベースの容量拡張/再構築

配信データベースの容量を監視した結果、容量の不足が想定される場合は、配信データベースの容量拡張を行う必要があります。

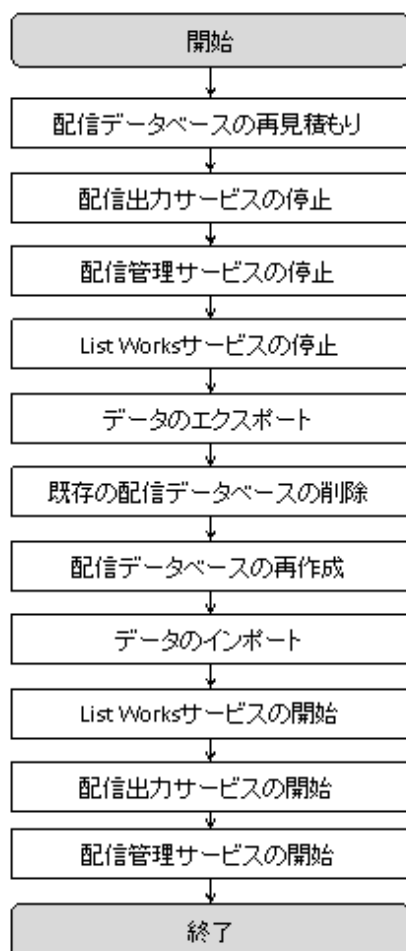
配信データベースの容量拡張/再構築は、List Worksサービス、配信管理サービス、および配信出力サービスを停止して行う必要があります。

配信データベースがList Worksサーバとは異なるサーバ(データベースサーバ)に存在する場合、配信データベースの容量拡張/再構築はデータベースサーバ上で行います。

配信データベースの容量拡張/再構築の手順を以下に説明します。

表領域の拡張/配信データベースの再構築には、Oracle Enterprise Manager などOracle向けの各種ツールを使用します。

一例として配信データベースを再構築する手順を説明します。



手順1: 配信データベースの再見積もり

配信データベースの容量監視時の情報などを参考に、想定規模を再度設定し、配信データベースの見積もりを実施します。



配信データベースの見積もりについては、“[3.3 配信データベースの環境設定](#)”を参照してください。

手順2: 配信出力サービスの停止

配信出力サービスを停止します。



注意

配信出力サービスを停止する際は、配信出力先一覧画面で、すべての配信出力先に印刷ジョブがないことを確認してください。印刷ジョブが存在する場合は、処理状況照会画面で印刷ジョブの状態を確認し、印刷が完了するまで待つか、不要な印刷ジョブを削除してください。

印刷ジョブがある状態で配信出力サービスを停止すると、印刷ジョブの出力状態が、失敗に変わる場合があります。



配信出力サービスの停止の詳細は、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順3: 配信管理サービスの停止

配信管理サービスを停止します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを停止する必要があります。



注意

配信管理サーバの環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドが実行中でないことを確認してください。



配信管理サービスの停止の詳細については、“[10. 1. 2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順4: List Worksサービスの停止

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを停止します。

保管フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを停止する必要があります。



注意

List Worksサービスを停止する際は、帳票保管活用機能を利用した業務を運用していないことを確認してください。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても起動している場合は停止します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理 (注2)
- List Works Filing Service (注3)
- List Works Watch Service
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも停止されます。依存関係にあるサービスについては、サービスのプロパティで確認できます。

注2: サービス「Print Spooler」を停止すると自動的に停止します。

注3: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注4: EEの場合のみ

手順5: データのエクスポート

Oracleデータベースの各種ツール(Oracle Enterprise Managerなど)を使用して、データのエクスポートを行います。



各種ツールの詳細については、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

手順6: 既存の配信データベースの削除

OracleのDatabase Configuration Assistantを使用して、配信データベースを削除します。

1. 【スタート】メニューの【すべてのプログラム】－【Oracle - <HOME_NAME>】－【コンフィグレーションおよび移行ツール】－【Database Configuration Assistant】からDatabase Configuration Assistantを起動します。
→【ようこそ】ダイアログボックスが表示されます。

2. 【次へ】ボタンをクリックします。
→【操作】ダイアログボックスが表示されます。
3. 「データベースの削除」を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。
→【データベース】ダイアログボックスが表示されます。
4. データベース一覧から削除する配信データベースを選択し、【完了】ボタンをクリックします。
→削除を確認するメッセージボックスが表示されます。
5. 【はい】ボタンをクリックします。
→配信データベースが削除されます。

手順7: 配信データベースの再作成

配信データベースの構築手順に従って、OracleのDatabase Configuration Assistantから配信データベースの構築を行います。

“[手順1: 配信データベースの再見積もり](#)”で算出された容量に対して、領域が十分に空いているディスクに再構築を行ってください。
ディスクドライブやフォルダ構成を変更することも可能です。

手順8: データのインポート

Oracleデータベースの各種ツール(Oracle Enterprise Managerなど)を使用して、データのインポートを行います。



各種ツールの詳細については、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

手順9: List Worksサービスの開始

【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から「List Works」のプロパティ画面を起動し、List Worksサービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて、List Worksサービスを開始します。

List Worksサービスの他に、以下のサービスについても開始します。

- Print Spooler (注1)
- FUJITSU帳票管理
- List Works Filing Service (注2)
- List Works Watch Service (注3)
- List Works Assort Service (注4)

注1: サービス「Print Spooler」に依存するサービスも開始してください。

注2: リストファイリングサーバをインストールしている場合のみ

注3: 本サービスを使用する場合に開始してください。

注4: EEの場合のみ

手順10: 配信出力サービスの開始

配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始の詳細については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

手順11: 配信管理サービスの開始

配信管理サービスを開始します。

配信フォルダの共有運用を行っている場合は、すべてのサーバにおいて配信管理サービスを開始します。



配信管理サービスの開始の詳細については、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

12.2.3 配信データベースのフラグメンテーションの監視と解消

データベースのフラグメンテーションの発生すると、以下のような影響が出ます。

- 配信データベースで発生すると、出力指示画面の表示に影響がでます。
- 保管データベースで発生すると、保管フォルダの帳票一覧の表示に影響がでます。

そのため、定期的に各データベースのフラグメンテーションの発生状況を監視し、発生した場合は解消する必要があります。



Oracleデータベースのフラグメンテーションの監視と解消については、“Oracleシステムのマニュアル”を参照してください。

第4部 GUIリファレンス

第13章 Web配信操作クライアントの画面.....	264
第14章 配信操作画面のカスタマイズ.....	300
第15章 配信操作画面のAPI(Httpリクエスト).....	312

第13章 Web配信操作クライアントの画面

Web配信操作クライアントで表示される、以下の画面について説明します。

- ・ ログイン画面
- ・ メニュー画面
- ・ 出力指示画面
- ・ 処理状況照会画面
- ・ 配信出力先一覧画面
- ・ 帳票詳細情報画面
- ・ 印刷ジョブ詳細情報画面
- ・ 帳票表示画面
- ・ 配信フォルダ管理画面
- ・ 配信フォルダ詳細情報画面



注意

Web配信操作クライアントを利用する前に、ログイン画面の【ご使用になる前に】を必ずご一読ください。

13.1 ログイン画面

ログイン画面は、Web配信操作クライアントのWebブラウザで、配信管理サーバに割り当てられたWWWサーバのURLを以下のように指定して、表示します。

```
http://hostname[:port]/listdistributor/
```



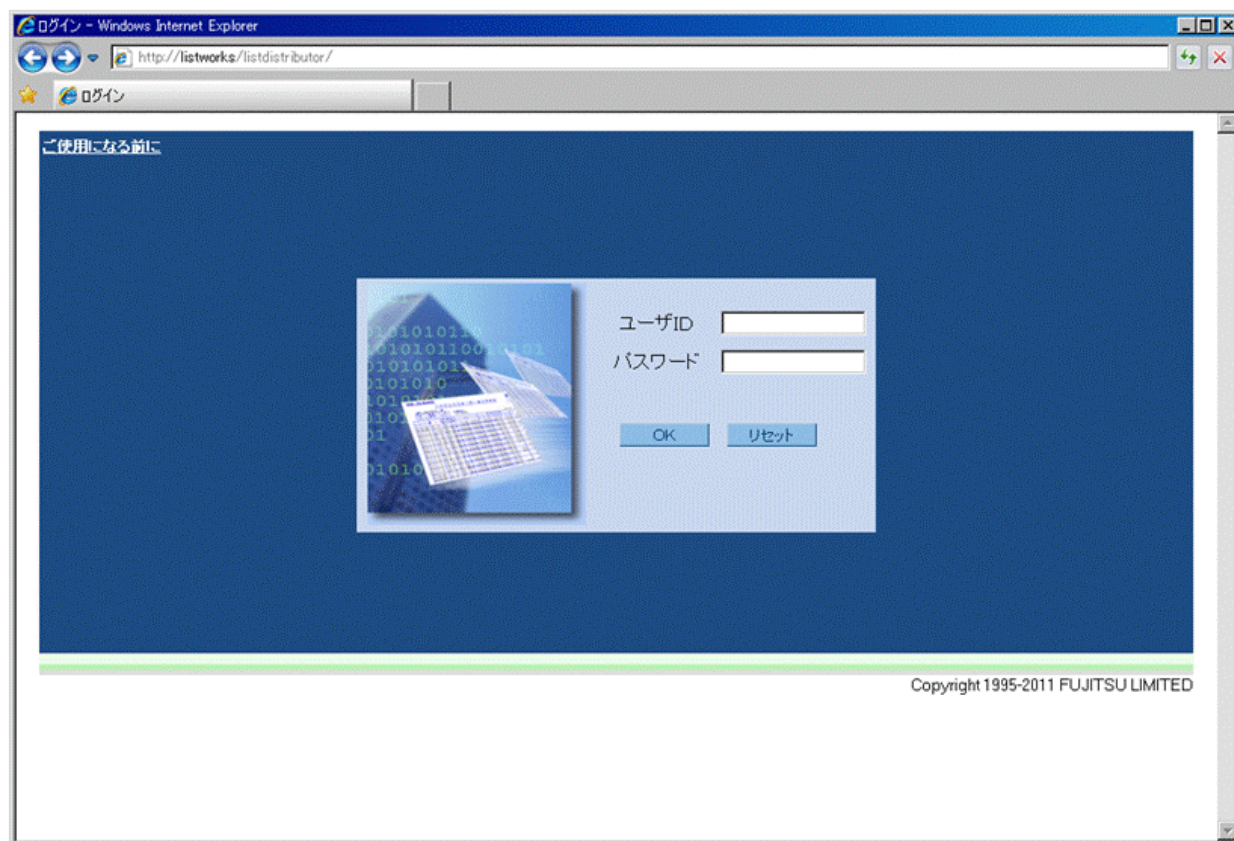
注意

- ・ hostnameには、List WorksサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定します。配信フォルダの共有運用を行っている場合は、負荷分散装置のIPアドレスを指定します。
- ・ portには、List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のWebサーバのポート番号を指定します。
- ・ 同一端末で、複数のWebブラウザ(タブを含む)からログインしないでください。画面が正しく動作しない場合があります。
- ・ 帳票保管活用機能のWeb連携機能の画面を表示している状態で、同一端末から別のWebブラウザ(タブを含む)を起動して、配信管理サーバにログインしないでください。必ずリスト管理サーバからログアウトしてWeb連携機能の画面を閉じた後に、配信管理サーバにログインしてください。リスト管理サーバからログアウトしない場合、帳票の表示やWeb連携機能の印刷が正しく動作しない場合があります。

ログイン画面では、Web配信操作クライアントから配信管理サーバへの接続情報を指定します。

セッションの有効時間は、配信管理サーバに正常に接続してから10分です。

有効時間を超えて利用者からアクセスがない場合、自動的にセッションが終了し、切断されます。セッションが切断された状態で操作を続行すると、エラー画面が表示されます。



項目名	説明
ユーザID	配信管理サーバに接続するユーザIDを、全角18文字以内(半角36文字以内)で指定します。 ユーザIDに使用できる全角文字は、以下の通りです。 ・ 非漢字 ・ JIS第一水準漢字 ・ JIS第二水準漢字 ユーザIDは、あらかじめ管理者によって登録されている必要があります。
パスワード	配信管理サーバに接続するユーザIDのパスワードを、半角255文字以内で指定します。
【OK】ボタン	配信管理サーバに接続し、メニュー画面が表示されます。
【リセット】ボタン	入力したユーザID、パスワードをクリアします。

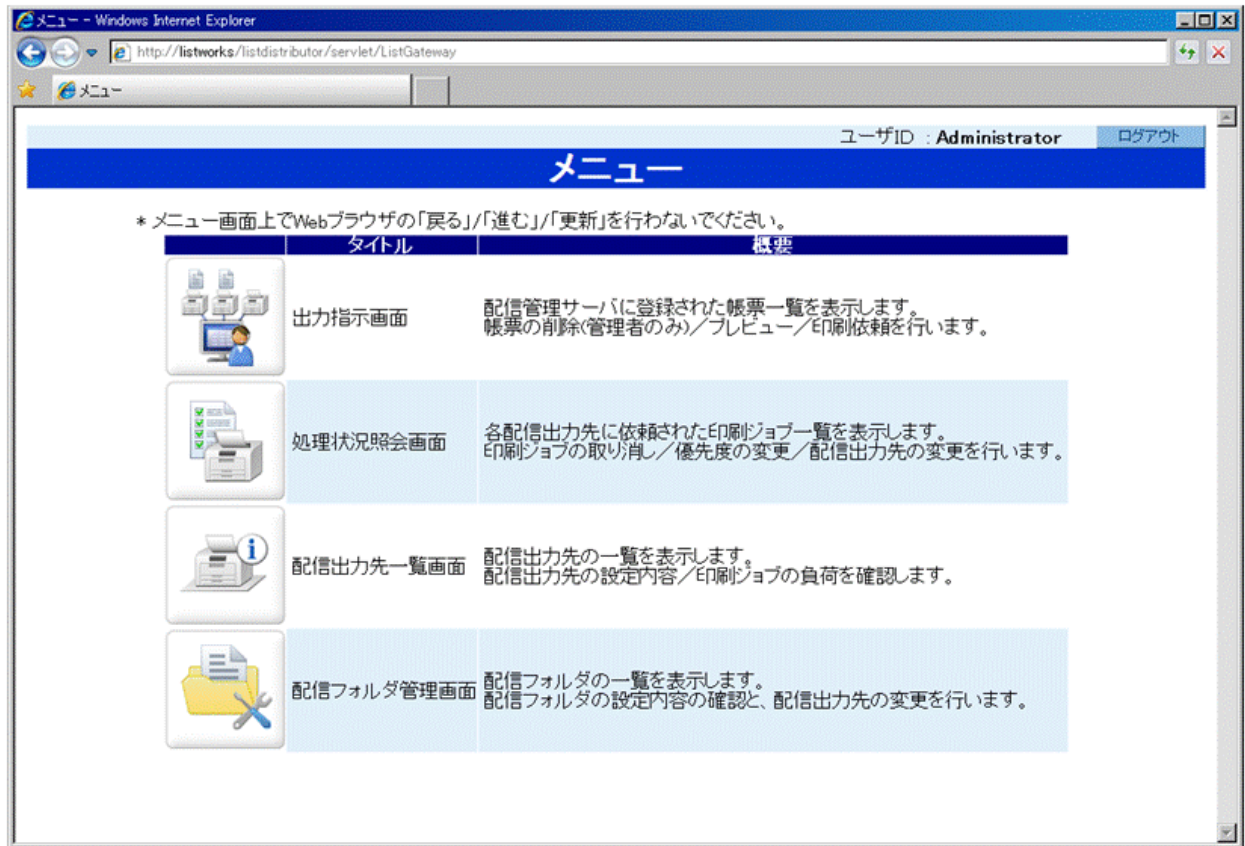
13.2 メニュー画面

メニュー画面は、ログイン画面より、正常に配信管理サーバに接続したときに表示されます。

メニュー画面では、帳票、印刷ジョブ、配信出力先、または配信フォルダの一覧を表示する画面を以下から選択します。

- ・ 出力指示画面
- ・ 処理状況照会画面
- ・ 配信出力先一覧画面

- ・ 配信フォルダ管理画面



項目名	説明
ユーザID	ログインしたユーザIDが表示されます。
【ログアウト】ボタン	配信管理サーバからログアウトします。確認画面が表示されます。

以下のボタンをクリックし、画面を表示します。

ボタン名	説明
【出力指示画面】ボタン	出力指示画面が表示されます。
【処理状況照会画面】ボタン	処理状況照会画面が表示されます。
【配信出力先一覧画面】ボタン	配信出力先一覧画面が表示されます。
【配信フォルダ管理画面】ボタン	配信フォルダ管理画面が表示されます。管理者権限を持つユーザでログインした場合のみ表示されます。

注意

- ・ メニュー画面上で、Webブラウザの「戻る」「進む」「更新」を行わないでください。
- ・ Webブラウザを閉じる場合は、Webブラウザを閉じる前に、必ず【ログアウト】ボタンをクリックして、配信管理サーバからログアウトしてください。ログアウトせずにWebブラウザを閉じた場合、有効時間が切れるまでセッションが保持されます。

- Webブラウザの機能を使用して、メニュー画面のWebブラウザを終了させたり、メニュー画面で異なるWebページを表示しようとした
りしないでください。【ログアウト】ボタンをクリックしてログアウトしていないとみなし、有効時間が切れるまでセッションが保持されます。
 - 配信操作画面を表示している状態で、同一端末から別のWebブラウザ(タブを含む)を起動して、リスト管理サーバにログインしない
でください。必ず配信管理サーバからログアウトして配信操作画面(帳票表示画面含む)を閉じた後に、リスト管理サーバにログイ
ンしてください。配信管理サーバからログアウトしない場合、帳票の表示やWeb連携機能の印刷が正しく動作しない場合があります。
-

13.3 出力指示画面

出力指示画面は、以下の操作によって表示されます。

- メニュー画面で、【出力指示画面】ボタンをクリックしたとき
- 処理状況照会画面で、【F12 出力指示】ボタンをクリックしたとき、または【F12】キーを押したとき
- 配信出力先一覧画面で、【F12 出力指示】ボタンをクリックしたとき、または【F12】キーを押したとき

出力指示画面は、画面カスタマイズ設定ファイルによって、カスタマイズできます。



出力指示画面のカスタマイズについては、“[第14章 配信操作画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

本節で使用する出力指示画面および検索条件画面は、インストール初期状態の画面です。

(1)出力指示画面

出力指示画面では、帳票が一覧表示されます。特定の配信フォルダの帳票の状況確認や印刷の指示をします。

帳票ごとに、帳票名、配信出力先名、帳票状態などの項目が表示されます。なお、出力指示画面をカスタマイズすることで、作成ユーザIDとログインしたユーザIDが一致している帳票だけを一覧に表示することもできます。



出力指示画面の利用情報

以下に出力指示画面で表示される項目について説明します。

項目名	説明
ユーザID	ログインしたユーザIDが表示されます。
更新日時	出力指示画面を表示した日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。

配信フォルダの指定

項目名	説明
配信フォルダ	配信フォルダを選択します。選択された配信フォルダに格納されている帳票が、一覧に表示されます。配信フォルダは、配信フォルダ名の昇順で表示されています。初期値は、「ドロップダウンリストの最上段にある配信フォルダ」です。 配信フォルダを変更したい場合は、【▼】ボタンをクリックして表示されるドロップダウンリストから、配信フォルダを指定します。検索条件が設定されている場合に配信フォルダを変更すると、設定されている検索条件は削除されます。

帳票の一覧

画面が最新の情報に更新されるタイミング

以下の操作をすると、出力指示画面が最新の情報に更新されます。「配信出力先」は、初期値が表示されます。

- 「配信フォルダ」を変更する。(注1)
- 【印刷】ボタンをクリックする。(注1)

- 【F2 選択印刷】ボタンをクリックする、または【F2】キーを押す。(注1)
- 【F4 選択削除】ボタンをクリックする、または【F4】キーを押す。(注1)
- 【F5 最新】ボタンをクリックする、または【F5】キーを押す。(注1)
- 【F7 前ページ】ボタンをクリックする、または【F7】キーを押す。
- 【F8 次ページ】ボタンをクリックする、または【F8】キーを押す。
- 検索条件画面で【OK】ボタンをクリックする。(注1)

注1: 更新された結果、帳票の一覧が複数ページにわたる場合は、1ページ目が表示されます。



出力指示画面は、「更新日時」時点の情報が表示されています。帳票の状態が変化し、表示されている情報と異なる場合、出力指示画面での操作がエラーになる可能性があります。

帳票の一覧のページ数

以下の情報が「n/m ページ (総件数 o件)」の形式で表示されます。

- n: 現在表示されているページ番号
- m: 総ページ数
- o: 選択している配信フォルダに格納されている帳票が設定されている帳票の総数

nに1～最終ページの範囲で半角数字を入力し、【Enter】キーを押すと、帳票の一覧のページを変更できます。nに何も入力しないで【Enter】キーを押した場合は、1が指定されたとみなし、1ページ目が表示されます。指定したページで表示される帳票がない場合、確認のメッセージ、またはエラー画面が表示されます。

項目の並び替えボタン

見出し行上段に▼、▲、□が表示されている場合は、並び替えることができます。

▼、▲、□をクリックすると、並び替える項目を変更したり、昇順/降順を変更したりできます。なお、複数の項目を指定して、並び替えることはできません。

記号	説明
▲	▲のある項目を昇順で並び替えていることを示します。クリックすると、▼に変更されます。
▼	▼のある項目を降順で並び替えていることを示します。クリックすると、▲に変更されます。
□	並び替えができる項目を示します。クリックすると▲に変更され、他の項目の▲または▼は、□に変更されます。

表示される項目の説明

帳票の一覧で表示される項目について、説明します。

出力指示画面で表示可能なすべての項目について、初期状態の項目名で説明します。

カスタマイズは、表示/非表示の切り替え、表示名の変更、表示する順序の変更などができます。カスタマイズすることによって項目名が変更可能な項目は、以下の表で「[項目名]」で示しています。



出力指示画面のカスタマイズについては、「第14章 配信操作画面のカスタマイズ」を参照してください。

項目名	説明	初期表示 ○: 表示 ×: 非表示	カスタマイズ ○: 可能 ×: 不可
選択	帳票を選択します。複数の帳票を印刷または削除したいときに、チェックします。	○	×

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
	見出し行下段にあるチェックボックスにチェックすると、一覧に表示されている、すべての帳票を選択できます。また、一覧に帳票が1つも表示されていない場合は、チェックできません。 出力指示画面が最新の情報に更新される場合は、チェックが外れます。		
帳票名	帳票名が表示されます。帳票名をクリックすると、帳票詳細情報画面が新しい画面に表示されます。帳票詳細情報画面を表示している間は、出力指示画面を操作できません。	○	×
[タイトル]	帳票のタイトル(帳票名の別名)が表示されます。	×	○
[コメント]	コメントが表示されます。	×	○
[用紙コード]	用紙コードが表示されます。	×	○
[登録日時]	帳票の登録日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。	○	○
[保存期限]	帳票の保存期限(配信フォルダに登録された日付に、配信フォルダに設定されている保存日数を加えた日付)が「YYYY/MM/DD」形式で表示されます。	×	○
[帳票状態]	以下のどちらかが表示されます。 ・ 未出力 一度も印刷の指示をされていません。 ・ 出力済 帳票が1回以上、印刷を指示されました。  注意 帳票状態とは、印刷を指示されたか否かを表します。印刷が、接続エラーなどで失敗した場合も、帳票状態には、「出力済」と表示されます。	○	○
[出力回数]	印刷を指示した回数が表示されます。	○	○
[最大出力回数]	最大出力回数が表示されます。	×	○
[作成ユーザID]	帳票の作成ユーザIDが表示されます。	×	○
[備考1～16]	帳票の備考1～16の情報が表示されます。	×	○
配信出力先	配信出力先を選択します。初期値は、「帳票が格納された配信フォルダに設定されている配信出力先」です。配信フォルダに配信出力先が設定されていない場合は、「(指定なし)」です。 配信出力先を変更したい場合は、【▼】ボタンをクリックして表示されるドロップダウンリストから、配信出力先を選択します。 出力指示画面が最新の情報に更新される場合は、初期値が表示されます。	○	×
開始ページ	印刷したいページの開始ページを1～最終ページの範囲で、半角数字で指定できます。初期値は、帳票出力アプリケーションで指定した、印刷時の開始ページです。帳票出力アプリケーションで指定しない場合は、「1」です。 開始ページの値が終了ページの値より大きい場合は、印刷を指示する時に確認のメッセージが表示されます。何も指定しない、	○	×

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
	または0が指定された場合は、初期値が指定されたものとみなします。 出力指示画面が最新の情報に更新される場合は、初期値が表示されます。		
終了ページ	印刷したいページの最終ページを1～最終ページの範囲で、半角数字で指定できます。初期値は、帳票出力アプリケーションで指定した、印刷時の終了ページです。帳票出力アプリケーションで指定しない場合は、最終ページです。 終了ページの値が開始ページの値より小さい場合は、印刷を指示する時に確認のメッセージが表示されます。何も指定しない、または0が指定された場合は、初期値が指定されたものとみなします。 出力指示画面が最新の情報に更新される場合は、初期値が表示されます。	○	×
部数	印刷する部数を1～999の範囲で、半角数字で指定します。 初期値は、電子帳票情報ファイルで指定した、印刷時の部数です。電子帳票情報ファイルで指定していない場合は、何も表示されません。 部数に何も指定しない、または0を指定した場合は、初期値が指定されたものとみなします。 - 登録時に部数を指定している場合は、「指定した値」 - 登録時に部数を指定していない場合は、「1」 出力指示画面が最新の情報に更新される場合は、初期値が表示されます。	○	×
表示	【表示】ボタンをクリックすると、帳票表示画面が表示され、帳票のすべてのページが参照できます。 帳票表示画面でダイアログボックスが表示されている場合は、【表示】ボタンをクリックしても新たに帳票を表示できません。【表示】ボタンをクリックする前に、ダイアログボックスを閉じてください。 帳票が存在しない場合に【表示】ボタンをクリックすると、エラー画面が表示されます。	○	×
印刷	【印刷】ボタンをクリックすると、開始ページから終了ページの範囲で指定された部数が、配信出力先に印刷を指示されます。 以下の場合に【印刷】ボタンをクリックすると、確認のメッセージ、またはエラー画面が表示されます。 「出力回数」が「最大出力回数」に達している場合 - 配信出力先が「(指定なし)」の場合 - 帳票が存在しない場合 - 配信出力先が存在しない場合	○	×

ボタン

出力指示画面で利用できるボタンについて説明します。ファンクションキーにも対応しています。

ボタン名	説明	ファンクションキーの割り当て
【ログアウト】ボタン	配信管理サーバからログアウトします。確認画面が表示されます。 検索条件画面、処理状況照会画面、配信出力先一覧画面、または配信フォルダ管理画面で、確認のメッセージが表示されている場合は、ログアウトできません。【ログアウト】ボタンをクリックする前に、確認のメッセージを閉じてください。	なし
【F2 選択印刷】ボタン	現在選択されている帳票の印刷を指示します。 複数の帳票の印刷を一括で指示したときに途中でエラーが発生しても、処理を中断できません。すべての処理が終了したときに、印刷を指示できなかった帳票についてのエラーがまとめて表示されます。最大出力回数に達している帳票が含まれている場合は、確認のメッセージが表示され、最大出力回数に達している帳票の印刷を中止します。 配信出力先が「(指定なし)」のときに【F2 選択印刷】ボタンをクリックすると、確認のメッセージ、またはエラー画面が表示されます。	【F2】キー
【F3 検索】ボタン	検索条件画面が表示されます。出力指示画面で選択している配信フォルダの帳票を検索します。	【F3】キー
【F4 選択削除】ボタン	現在選択されている帳票を削除します。確認画面が表示されます。(複数の帳票を選択している場合も、確認画面は一度だけ表示されます。) 管理者権限を持つユーザでログインした場合に使用できます。 複数の帳票を一括で削除したときに途中でエラーが発生しても、処理を中断できません。すべての処理が終了したときに、削除できなかった帳票についてのエラーがまとめて表示されます。	【F4】キー
【F5 最新】ボタン	出力指示画面を更新して最新の状態にします。	【F5】キー
【F7 前ページ】ボタン	一覧の前のページを表示します。	【F7】キー
【F8 次ページ】ボタン	一覧の次のページを表示します。	【F8】キー
【F9 配信フォルダ】ボタン	配信フォルダ管理画面が新しい画面に表示されます。すでに表示されている場合は、配信フォルダ管理画面にフォーカス移ります。配信管理サーバに定義されている配信フォルダの一覧および詳細情報を表示します。出力指示画面と表示した配信フォルダ管理画面は、同時に利用できます。 管理者権限を持つユーザでログインした場合に使用できます。	【F9】キー
【F10 配信出力先】ボタン	配信出力先一覧画面が新しい画面に表示されます。すでに表示されている場合は、配信出力先一覧画面にフォーカス移ります。配信管理サーバに定義されている配信出力先の設定内容および配信出力先にある印刷ジョブ数が確認できます。出力指示画面と表示した配信出力先一覧画面は、同時に利用できます。	【F10】キー
【F12 処理状況】ボタン	処理状況照会画面が新しい画面に表示されます。すでに表示されている場合は、処理状況照会画面にフォーカス移ります。各配信出力先に依頼された印刷ジョブの状況確認および操作ができます。出力指示画面と表示した処理状況照会画面は、同時に利用できます。	【F12】キー

(2)検索条件画面

検索条件画面では、出力指示画面に一覧表示する帳票の条件を設定します。出力指示画面で表示されている配信フォルダにある帳票を検索します。検索条件画面で複数の項目を指定した場合は、AND条件となります。

検索した状態から検索したい場合は、【F3 検索】ボタンをクリックする、または【F3】キーを押します。このとき、前回の検索条件および検索結果は破棄され、検索条件画面で設定されている内容で新たに検索します。

検索条件画面が表示されている間は、セッションの有効時間が過ぎても、セッションは切断されません。

検索条件の一覧

検索条件画面で表示可能なすべての項目について、初期状態の項目名で説明します。出力指示画面をカスタマイズすることによって項目名が変更される項目は、以下の表で「[項目名]」で示しています。

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
帳票名	帳票名を、300文字以内(全角半角の区別なし)で指定します。 検索文字列に使用できる全角文字は、以下の通りです。 ・ 非漢字 ・ JIS第一水準漢字 ・ JIS第二水準漢字 検索文字列に以下の文字を使用すると、意図した検索結果を得られないことがあります。 ・ 半角文字のアンダースコア「_」 ・ 半角文字のパーセント記号「%」 以下の文字は、ワイルドカード文字として扱われます。 ・ 半角文字のクエスチョンマーク「?」(任意の1文字) ・ 半角文字のアスタリスク「*」(任意の文字列)	○	×
[帳票状態]	以下のいずれかを選択します。初期値は、「(すべて)」です。	○	○(注1)

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
	・ (すべて) ・ 未出力 ・ 出力済		
登録日 (YYYYMMDD)	左欄に開始日、右欄に終了日を、「YYYYMMDD」形式で指定します。 開始日だけが設定されている場合、開始日以降のすべての日付を検索条件とします。 終了日だけが設定されている場合、終了日以前のすべての日付を検索条件とします。	○	○(注1)
[タイトル]	帳票のタイトル(帳票名の別名)を、300文字以内(全角半角の区別なし)で指定します。 検索文字列に以下の文字を使用すると、意図した検索結果を得られないことがあります。 ・ 半角文字のアンダースコア「_」 ・ 半角文字のパーセント記号「%」 以下の文字は、ワイルドカード文字として扱われます。 ・ 半角文字のクエスチョンマーク「?」(任意の1文字) ・ 半角文字のアスタリスク「*」(任意の文字列)	×	○
[コメント]	コメントを、300文字以内(全角半角の区別なし)で指定します。 検索文字列に以下の文字を使用すると、意図した検索結果を得られないことがあります。 ・ 半角文字のアンダースコア「_」 ・ 半角文字のパーセント記号「%」 以下の文字は、ワイルドカード文字として扱われます。 ・ 半角文字のクエスチョンマーク「?」(任意の1文字) ・ 半角文字のアスタリスク「*」(任意の文字列)	×	○
[用紙コード]	用紙コードを、300文字以内(全角半角の区別なし)で指定します。 検索文字列に以下の文字を使用すると、意図した検索結果を得られないことがあります。 ・ 半角文字のアンダースコア「_」 ・ 半角文字のパーセント記号「%」 以下の文字は、ワイルドカード文字として扱われます。 ・ 半角文字のクエスチョンマーク「?」(任意の1文字) ・ 半角文字のアスタリスク「*」(任意の文字列)	×	○
[作成ユーザID]	帳票の作成ユーザIDを、300文字以内で指定します。 検索文字列に以下の文字を使用すると、意図した検索結果を得られないことがあります。 ・ 半角文字のアンダースコア「_」 ・ 半角文字のパーセント記号「%」 以下の文字は、ワイルドカード文字として扱われます。	×	○(注2)

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
	- 半角文字のクエスチョンマーク「?」(任意の1文字) - 半角文字のアスタリスク「*」(任意の文字列)		
[備考1～16]	備考1～16を、1024文字以内(全角半角の区別なし)で指定します。 検索文字列に以下の文字を使用すると、意図した検索結果を得られないことがあります。 - 半角文字のアンダースコア「_」 - 半角文字のパーセント記号「%」 以下の文字は、ワイルドカード文字として扱われます。 - 半角文字のクエスチョンマーク「?」(任意の1文字) - 半角文字のアスタリスク「*」(任意の文字列)	×	○

注1:カスタマイズの有無に関係なく、表示されます。

注2:カスタマイズの設定によっては、表示されないことがあります。詳細は、“[14.2.5 帳票の一覧に表示する項目の変更](#)”を参照してください。

ボタン

検索条件画面で利用できるボタンについて説明します。

ボタン名	説明
【OK】ボタン	検索条件画面を閉じ、検索結果が出力指示画面に表示されます。 以下の場合、検索条件を指定しないものとみなして検索結果を表示します。 - 項目に半角空白だけを設定している場合 - 項目に何も設定しない場合
【キャンセル】ボタン	検索条件画面を閉じます。
【クリア】ボタン	検索条件をすべて削除します。

13.4 処理状況照会画面

処理状況照会画面は、以下の操作によって表示されます。

- メニュー画面で、【処理状況照会画面】ボタンをクリックしたとき
- 出力指示画面で、【F12 処理状況】ボタンをクリックしたとき、または【F12】キーを押したとき
- 配信出力先一覧画面で、配信出力先名をクリックしたとき

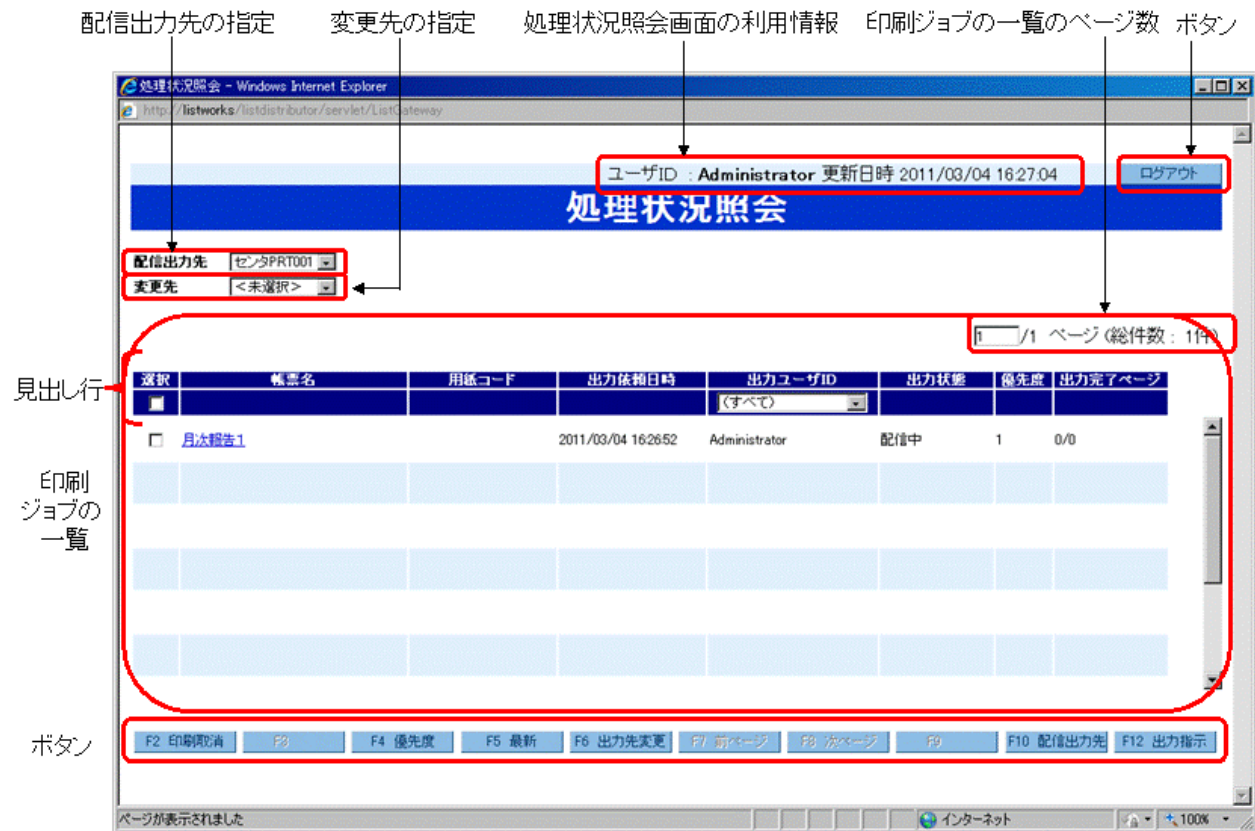
処理状況照会画面は、画面カスタマイズ設定ファイルによって、カスタマイズできます。



処理状況照会画面のカスタマイズについては、“[第14章 配信操作画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

本節で使用する処理状況照会画面は、インストール初期状態の画面です。

処理状況照会画面では、印刷ジョブが一覧表示されます。各配信出力先に印刷を指示された印刷ジョブの状況確認や操作をします。印刷ジョブごとに、帳票名、出力状態、優先度などの項目が表示されます。



処理状況照会画面の利用情報

以下に処理状況照会画面で表示される項目について説明します。

項目名	説明
ユーザID	ログインしたユーザIDが表示されます。
更新日時	処理状況照会画面を表示した日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。

配信出力先の指定

配信出力先を選択します。選択された配信出力先にある印刷ジョブが、一覧に表示されます。配信出力先は、配信出力先名の昇順で表示されています。

初期値は、「ドロップダウンリストの最上段にある配信出力先」です。配信出力先一覧画面で配信出力先名をクリックして処理状況照会画面を表示した場合の初期値は、「配信出力先一覧画面でクリックした配信出力先」です。

一覧に表示する配信出力先を変更したい場合は、【▼】ボタンをクリックして表示されるドロップダウンリストから、配信出力先を指定します。

変更先の指定

印刷ジョブをほかの配信出力先に移動したい場合に、変更先の配信出力先を選択します。初期値は、「<未選択>」です。

印刷ジョブをほかの配信出力先に移動するときに、【▼】ボタンをクリックして表示されるドロップダウンリストから、移動先の配信出力先を指定します。

印刷ジョブの一覧

画面が最新の情報に更新されるタイミング

以下の操作をすると、処理状況照会画面が最新の情報に更新されます。「変更先」は、「<未選択>」が表示されます。

- 「配信出力先」を変更する。(注1)
- 【F2 印刷取消】ボタンをクリックする、または【F2】キーを押す。(注1)
- 【F4 優先度】ボタンをクリックする、または【F4】キーを押す。(注1)
- 【F5 最新】ボタンをクリックする、または【F5】キーを押す。(注1)
- 【F6 出力先変更】ボタンをクリックする、または【F6】キーを押す。(注1)
- 【F7 前ページ】ボタンをクリックする、または【F7】キーを押す。
- 【F8 次ページ】ボタンをクリックする、または【F8】キーを押す。

注1: 更新された結果、印刷ジョブの一覧が複数ページにわたる場合は、1ページ目が表示されます。



注意

処理状況照会画面は、「更新日時」時点の情報が表示されています。印刷ジョブの状態が変化し、表示されている情報と異なる場合、処理状況照会画面での操作がエラーになる可能性があります。

印刷ジョブの一覧のページ数

以下の情報が「n/m ページ (総件数 o件)」の形式で表示されます。

- n: 現在表示されているページ番号
- m: 総ページ数
- o: 表示されている配信出力先にある印刷ジョブの総数

nに1～最終ページの範囲で半角数字を入力し、【Enter】キーを押すと、印刷ジョブの一覧のページを変更できます。nに何も入力しないで【Enter】キーを押した場合は、1が指定されたとみなし、1ページ目が表示されます。指定したページで表示される印刷ジョブがない場合、確認のメッセージ、またはエラー画面が表示されます。

印刷ジョブの表示順序

印刷ジョブは、出力状態ごとに並び替えて表示されます。出力状態が同じ場合は、優先度、出力依頼日時によって、さらに並び替えて表示されます。出力状態は、以下の順序で表示されます。

1. 失敗
2. 接続エラー
3. 印刷エラー
4. 応答待ち
5. 印刷中
6. 印刷待ち
7. 配信中
8. 配信開始
9. 配信待ち
10. 受付済

表示される項目の説明

処理状況照会画面で表示可能なすべての項目について、初期状態の項目名で説明します。

カスタマイズは、表示/非表示の切り替え、表示名の変更、表示する順序の変更などができます。カスタマイズすることによって項目名が変更可能な項目は、以下の表で「[項目名]」で示しています。



処理状況照会画面のカスタマイズについては、“[第14章 配信操作画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
選択	印刷ジョブを選択します。複数の印刷ジョブを取り消したり、優先度を変更したり、配信出力先を変更したりしたいときに、チェックします。 出力ユーザIDとログインしたユーザIDが同じ場合に、印刷ジョブがチェックできます。管理者権限を持つユーザでログインしている場合は、すべての印刷ジョブがチェックできます。 見出し行下段にあるチェックボックスにチェックすると、一覧に表示されているチェック可能なすべての印刷ジョブを選択できます。また、一覧に印刷ジョブが1つも表示されていない場合は、チェックできません。 処理状況照会画面が最新の情報に更新される場合は、チェックが外れます。  注意 一般ユーザでログインしているときは、出力ユーザIDとログインしたユーザIDが同じ場合にチェックできます。処理状況照会画面では、ユーザIDの大文字と小文字を区別しているため、出力ユーザIDとログインしたユーザIDは、大文字と小文字を区別した状態で一致している必要があります。 	○	×
帳票名	印刷を指示された帳票の帳票名が表示されます。帳票名をクリックすると、印刷ジョブ詳細情報画面が新しい画面に表示されます。印刷ジョブ詳細情報画面を表示している間は、処理状況照会画面を操作できません。	○	×
[用紙コード]	用紙コードが表示されます。	○	○
[出力依頼日時]	帳票が配信出力先に印刷を指示された日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。	○	○
[出力ユーザID]	配信出力先に印刷の指示をしたユーザIDが表示されます。 一覧の絞り込み 処理状況照会画面に表示される印刷ジョブを、出力ユーザIDによって絞り込めます。初期値は、「(すべて)」です。印刷ジョブが何も表示されていない場合は、ドロップダウンリストには何も表示されません。 印刷ジョブを絞り込む場合は、【▼】ボタンをクリックして表示されるドロップダウンリストから、ユーザIDを指定します。絞り込んだ結果、一覧が複数ページにわたる場合、1ページ目が表示されます。 なお、ログインしたユーザによって、表示されるユーザIDは、以下のように異なります。 管理者権限を持つユーザの場合 - 「(すべて)」または - 表示されている配信出力先にある、すべての印刷ジョブの出力ユーザID	○	○

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
	一般ユーザの場合 - 「(すべて)」または - ログインしたユーザID  注意 一般ユーザでログインしているときは、出力ユーザIDとログインしたユーザIDが同じ場合に絞り込めます。処理状況照会画面では、ユーザIDの大文字と小文字を区別しているため、出力ユーザIDとログインしたユーザIDは、大文字と小文字を区別した状態で一致している必要があります。 		
[出力状態]	印刷ジョブの状態により、以下のいずれかが表示されます。 ・ 受付済 ユーザまたは帳票出力アプリケーションから、配信管理サーバが印刷の指示を受け付けました。 ・ 配信待ち 配信処理を待ち合わせています。 ・ 配信開始 配信処理を開始しました。 ・ 配信中 配信管理サーバが配信出力サーバへ帳票を配信しています。 ・ 印刷待ち 配信出力サーバで印刷を待ち合わせています。 ・ 印刷中 配信出力サーバで印刷しています。 ・ 接続エラー 配信管理サーバと配信出力サーバの間で通信エラーが発生しています。 ・ 応答待ち 用紙交換の指示が発生した、または印刷開始の通知が発生しました。 ・ 印刷エラー オフライン、用紙切れなどプリンタ装置でエラーが発生しました。 ・ 失敗 続行不可能なエラーが発生し、終了しました。  参考 「出力状態」が以下のいずれかの場合、一覧に残ったままとなります。一覧から消去したい場合は、印刷ジョブを取り消します。 ・ 接続エラー	○	○

項目名	説明	初期表示 ○:表示 ×:非表示	カスタマイズ ○:可能 ×:不可
	- 印刷エラー - プリンタによっては、きめ細かなエラー通知やリカバリ機能により、印刷エラーの対処ができます。 - また、プリンタの機種によっては、エラーの要因を取り除き、プリンタをスタート状態にすることで、エラーが発生したページから自動的に印刷を再開できます。 対応するプリンタの機種など、詳細については、“付録A サポートプリンタについて”を参照してください。 - 到着通知パネルで応答することで、エラーを解除することもできます。 到着通知パネルについては、“到着通知パネルのヘルプ”を参照してください。 - 失敗 印刷ジョブのエラーの対処方法については、“10.3.2 印刷ジョブのエラー発生時の対処”を参照してください。		
優先度	印刷ジョブの優先度が、1～10の範囲で表示されます。優先度は、1が最も低く、10が最も高いことを示します。初期値は、「配信フォルダに設定されている優先度」です。	○	×
出力完了ページ	印刷が完了しているページ数が、「出力完了ページ数/出力総ページ数」形式で表示されます。  注意 帳票の登録時に部数を設定している帳票を印刷した場合、印刷ジョブの出力状態が「印刷中」になるまで、総ページ数は「0」と表示されます。 	○	×

ボタン

処理状況照会画面で利用できるボタンについて説明します。ファンクションキーにも対応しています。

ボタン名	説明	ファンクションキーの割り当て
【ログアウト】ボタン	配信管理サーバからログアウトします。確認画面が表示されます。 出力指示画面、検索条件画面、配信出力先一覧画面、または配信フォルダ管理画面で、確認のメッセージが表示されている場合は、ログアウトできません。【ログアウト】ボタンをクリックする前に、確認のメッセージを閉じてください。	なし
【F2 印刷取消】ボタン	現在選択されている印刷ジョブを取り消します。 複数の印刷ジョブを一括で取り消したときに途中でエラーが発生しても、処理を中断できません。すべての処理が終了したときに、取り消せなかった印刷ジョブについてのエラーがまとめて表示されます。	【F2】キー

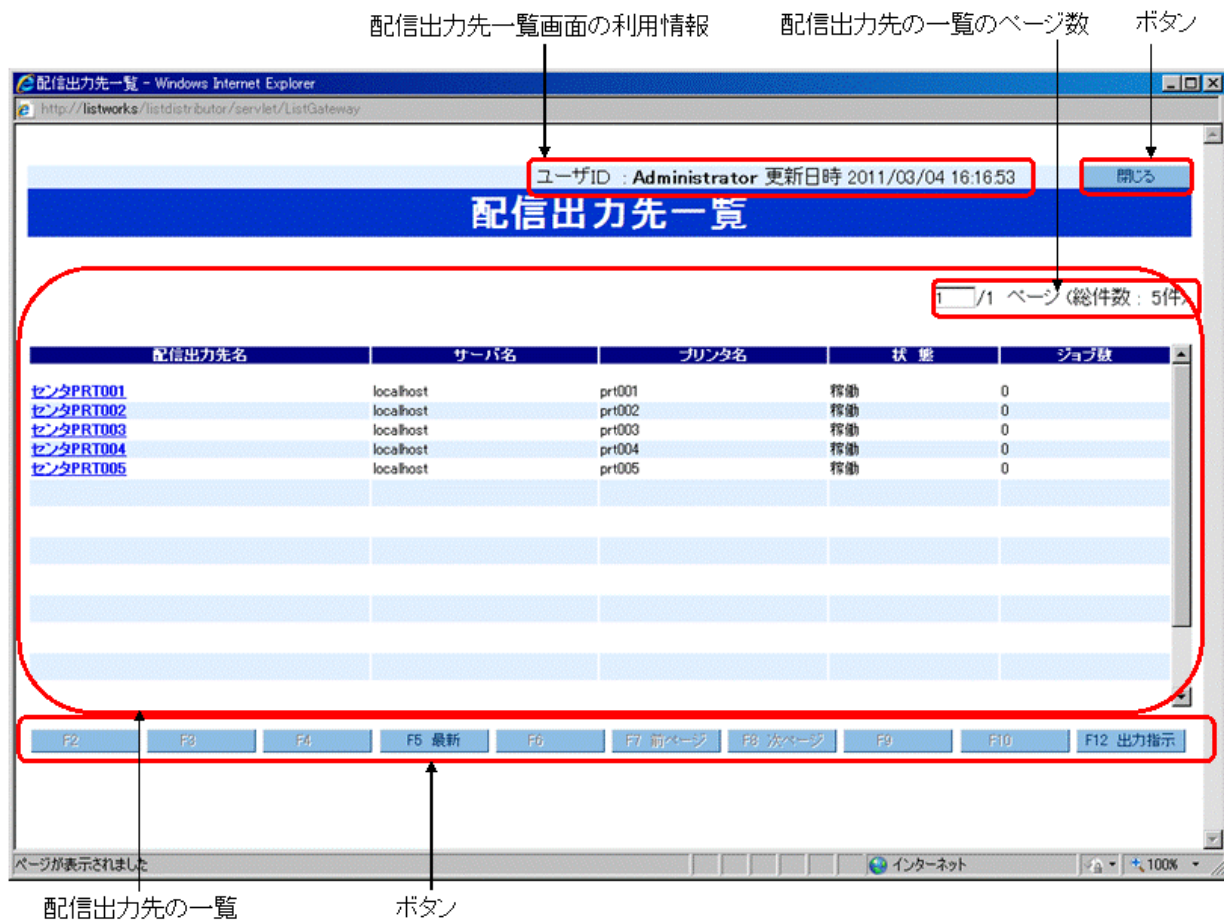
ボタン名	説明	ファンクションキーの割り当て
	 注意 【F2 印刷取消】 ボタンをクリックし、処理状況照会画面から該当の印刷ジョブが消えた場合でも、プリンタに出力されることがあります。	
【F4 優先度】 ボタン	現在選択されている印刷ジョブの優先度を1つ上げます。出力状態が、以下のどちらかの場合に優先度が上げられます。 ・ 受付済 ・ 配信待ち 優先度が10の印刷ジョブに優先度変更を実行した場合は、エラーになります。 複数の印刷ジョブを一括で優先度変更したときに途中でエラーが発生しても、処理を中断できません。すべての処理が終了したときに、優先度を上げられなかった印刷ジョブについてのエラーがまとめて表示されます。	【F4】 キー
【F5 最新】 ボタン	処理状況照会画面を更新して最新の状態にします。	【F5】 キー
【F6 出力先変更】 ボタン	現在選択されている印刷ジョブを、「変更先」に指定されている配信出力先に移動します。出力状態が「失敗」の場合に、配信出力先を変更できます。 複数の印刷ジョブを一括で配信出力先に移動しているときに途中でエラーが発生しても、処理を中断できません。すべての処理が終了したときに、配信出力先を変更できなかった印刷ジョブについてのエラーがまとめて表示されます。 配信出力先を変更すると、出力ユーザIDで表示する印刷ジョブを絞り込んでいた場合、絞り込みが解除されます。	【F6】 キー
【F7 前ページ】 ボタン	一覧の前のページを表示します。	【F7】 キー
【F8 次ページ】 ボタン	一覧の次のページを表示します。	【F8】 キー
【F10 配信出力先】 ボタン	配信出力先一覧画面が新しい画面に表示されます。すでに表示されている場合は、配信出力先一覧画面にフォーカスに移ります。配信管理サーバに定義されている配信出力先の設定内容および配信出力先にある印刷ジョブ数が確認できます。処理状況照会画面と表示した配信出力先一覧画面は、同時に利用できます。	【F10】 キー
【F12 出力指示】 ボタン	出力指示画面が新しい画面に表示されます。すでに表示されている場合は、出力指示画面にフォーカスに移ります。特定の配信フォルダの帳票の状況確認および印刷の指示ができます。処理状況照会画面と表示した出力指示画面は、同時に利用できます。	【F12】 キー

13.5 配信出力先一覧画面

配信出力先一覧画面は、以下の操作によって表示されます。

- ・ メニュー画面で、**【配信出力先一覧画面】**ボタンをクリックしたとき
- ・ 出力指示画面で、**【F10 配信出力先】**ボタンをクリックしたとき、または**【F10】**キーを押したとき
- ・ 処理状況照会画面で、**【F10 配信出力先】**ボタンをクリックしたとき、または**【F10】**キーを押したとき

配信出力先一覧画面では、配信出力先が一覧表示されます。配信管理サーバに定義されている配信出力先の定義内容、および配信出力先にある印刷ジョブ数を確認します。配信出力先ごとに、配信出力先名、サーバ名、プリンタ名などの項目が表示されます。



配信出力先一覧画面の利用情報

以下に配信出力先一覧画面で表示される項目について説明します。

項目名	説明
ユーザID	ログインしたユーザIDが表示されます。
更新日時	配信出力先一覧画面を表示した日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。

配信出力先の一覧

画面が最新の情報に更新されるタイミング

以下の操作をすると、配信出力先一覧画面が最新の情報に更新されます。

- 【F5 最新】ボタンをクリックする、または【F5】キーを押す。(注1)
- 【F7 前ページ】ボタンをクリックする、または【F7】キーを押す。
- 【F8 次ページ】ボタンをクリックする、または【F8】キーを押す。

注1: 更新された結果、配信出力先の一覧が複数ページにわたる場合は、1ページ目が表示されます。



注意

配信出力先一覧画面は、「更新日時」時点の情報が表示されています。配信出力先の状態が変化し、表示されている情報と異なる場合、配信出力先一覧画面での操作がエラーになる可能性があります。

配信出力先の一覧のページ数

以下の情報が「n/m ページ (総件数 o件)」の形式で表示されます。

- n: 現在表示されているページ番号
- m: 総ページ数
- o: 配信管理サーバに定義されている配信出力先の総数

nに1～最終ページの範囲で半角数字を入力し、【Enter】キーを押すと、配信出力先の一覧のページを変更できます。nに何も入力しないで【Enter】キーを押した場合は、1が指定されたとみなし、1ページ目が表示されます。指定したページで表示される配信出力先がない場合、確認のメッセージ、またはエラー画面が表示されます。

配信出力先の表示順序

配信出力先は、配信出力先名の昇順で表示されています。

表示される項目の説明

配信出力先の一覧で表示される項目について説明します。

項目名	説明
配信出力先名	配信管理サーバに定義されている配信出力先名が表示されます。 配信出力先名をクリックすると、クリックした配信出力先の処理状況照会画面が、新しい画面に表示されます。処理状況照会画面がすでに表示されている場合は、クリックした配信出力先の処理状況照会画面にフォーカスが移ります。配信出力先一覧画面と表示した処理状況照会画面は、同時に利用できます。 処理状況照会画面で確認のメッセージが表示されている場合は、クリックした配信出力先の処理状況照会画面の表示ができません。配信出力先名をクリックする前に、確認のメッセージを閉じてください。
サーバ名	配信出力先で定義されているサーバ名が表示されます。
プリンタ名	配信出力先で定義されているプリンタ名が表示されます。
状態	配信出力先の状態として、以下のどちらかが表示されます。 ・ 稼働 ・ 停止
ジョブ数	配信出力先にある印刷ジョブの数が表示されます。

ボタン

配信出力先一覧画面で使えるボタンについて説明します。ファンクションキーにも対応しています。

ボタン名	説明	ファンクションキーの割り当て
【閉じる】ボタン	配信出力先一覧画面を閉じます。確認画面が表示されます。	なし
【F5 最新】ボタン	配信出力先一覧画面を更新して最新の状態にします。	【F5】キー
【F7 前ページ】ボタン	一覧の前のページを表示します。	【F7】キー
【F8 次ページ】ボタン	一覧の次のページを表示します。	【F8】キー

ボタン名	説明	ファンクションキーの割り当て
【F12 出力指示】ボタン	出力指示画面が新しい画面に表示されます。すでに表示されている場合は、出力指示画面にフォーカスが移ります。特定の配信フォルダの帳票の状況確認および印刷の指示ができます。配信出力先一覧画面と表示した出力指示画面は、同時に利用できます。	【F12】キー

13.6 帳票詳細情報画面

帳票詳細情報画面は、以下の操作によって表示されます。

- ・ 出力指示画面で、帳票名をクリックしたとき

本節で使用する帳票詳細情報画面は、インストール初期状態の画面です。

帳票詳細情報画面では、指定された帳票の詳細情報を参照します。

帳票詳細情報画面が表示されている間は、セッションの有効時間が過ぎても、セッションは切断されません。

The screenshot shows a web browser window titled '帳票詳細情報 - Windows Internet Explorer'. The address bar shows 'http://listworks/listdistributor/servlet/ListGateway'. The main content area has a blue header with the text '帳票詳細情報'. Below this is a table with two columns: '項目' (Item) and '値' (Value).

項目	値
帳票ID	4c3491e508c14ed4a6ceaf105b72633e000C299B3ABD000000
コメント	
作成ユーザID	Administrator
帳票状態	出力済
出力回数	4
帳票名	月次報告1
用紙コード	
登録日時	2010/12/21 20:41:57
保存期限	
総ページ数	20
配信フォルダ名	センタ001

At the bottom of the table, there is an 'OK' button. The browser's status bar at the bottom shows 'ページが表示' (Page displayed), 'インターネット' (Internet), and a zoom level of '100%'.

以下に帳票詳細情報画面で表示される項目について説明します。出力指示画面をカスタマイズした場合に項目名が変更される項目は、以下の表で「[項目名]」で示しています。

項目名	説明	初期表示
帳票ID	帳票を識別するために、List Worksで内部的に付けられたIDが表示されます。	○
[コメント]	帳票のコメントが表示されます。	○
[作成ユーザID]	帳票の作成ユーザIDが表示されます。	○
[帳票状態]	帳票状態として、以下のどちらかが表示されます。 ・ 未出力 ・ 出力済	○
[出力回数]	印刷を指示した回数が表示されます。	○
帳票名	帳票名が表示されます。	○
[用紙コード]	用紙コードが表示されます。	○
[登録日時]	帳票の登録日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。	○
[保存期限]	帳票の保存期限(配信フォルダに登録された日付から、配信フォルダに設定されている保存日数を加えた日付)が「YYYY/MM/DD」形式で表示されます。 帳票の保存期限に「無期限」が設定されている場合は、何も表示されません。	○
総ページ数	帳票の総ページ数が表示されます。	○
配信フォルダ名	帳票が格納されている配信フォルダ名が表示されます。	○
[タイトル]	帳票のタイトル(帳票名の別名)が表示されます。	—
[最大出力回数]	最大出力回数が表示されます。	—
[備考1～16]	備考1～16の情報が表示されます。	—
【OK】ボタン	帳票詳細情報画面を閉じます。	○

○: 初期状態で表示されます。

—: 初期状態では表示されません。出力指示画面をカスタマイズすることにより、表示されます。

13.7 印刷ジョブ詳細情報画面

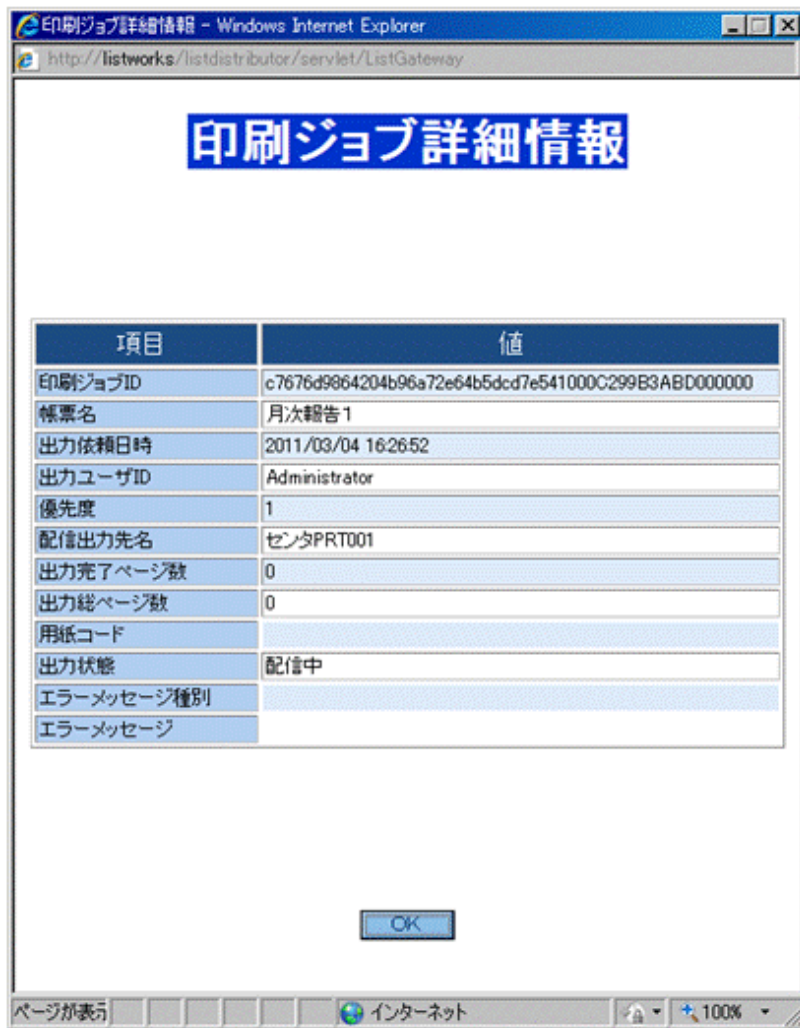
印刷ジョブ詳細情報画面は、以下の操作によって表示されます。

- ・ 処理状況照会画面で、帳票名をクリックしたとき

本節で使用する印刷ジョブ詳細情報画面は、インストール初期状態の画面です。

印刷ジョブ詳細情報画面では、指定された印刷ジョブの詳細情報を参照します。

印刷ジョブ詳細情報画面が表示されている間は、セッションの有効時間が過ぎても、セッションは切断されません。



以下に印刷ジョブ詳細情報画面で表示される項目について説明します。

処理状況照会画面をカスタマイズした場合に項目名が変更される項目は、以下の表で「[項目名]」で示しています。

項目名	説明
印刷ジョブID	印刷ジョブを識別するために、List Worksで内部的に付けられたIDが表示されます。
帳票名	印刷を指示された帳票の帳票名が表示されます。
[出力依頼日時]	印刷を指示された日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。
[出力ユーザID]	印刷を指示したユーザIDが表示されます。
優先度	印刷ジョブの優先度が、1～10の範囲で表示されます。優先度は、1が最も低く、10が最も高いことを示します。
配信出力先名	印刷を指示された配信出力先名が表示されます。
出力完了ページ数	印刷が完了しているページ数が表示されます。
出力総ページ数	印刷する総ページ数が表示されます。  注意 帳票の登録時に部数を設定している帳票を印刷した場合、印刷ジョブの出力状態が「印刷中」になるまで、出力総ページ数は「0」と表示されます。

項目名	説明
[用紙コード]	用紙コードが表示されます。
[出力状態]	印刷ジョブの処理状態として、以下のいずれかが表示されます。 ・ 受付済 ・ 配信待ち ・ 配信開始 ・ 配信中 ・ 印刷待ち ・ 印刷中 ・ 接続エラー ・ 応答待ち ・ 印刷エラー ・ 失敗
エラーメッセージ種別	以下のいずれかが表示されます。エラー発生時に表示されます。 ・ 配信出力サービス ・ 配信出力サーバのキャンセル処理 ・ 配信管理サーバ ・ 配信出力サーバの印刷処理 ・ プリンタ
エラーメッセージ	エラーメッセージが表示されます。エラー発生時に表示されます。
【OK】ボタン	印刷ジョブ詳細情報画面を閉じます。

13.8 帳票表示画面

帳票表示画面は、以下の操作によって表示されます。

- ・ 出力指示画面で、【表示】ボタンをクリックしたとき

帳票表示画面では、指定された帳票を参照します。



注意

帳票表示画面は、帳票の内容を確認するために、使用できます。印刷結果の確認には、使用できません。

表示するデータには以下の2種類があり、データによって表示される画面が異なります。

- ・ List Works帳票

List Works帳票用の帳票表示画面が表示されます。

- ・ List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票

Adobe Readerが起動し、PDFファイルが表示されます。



List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票の帳票表示画面については、Adobe Readerのマニュアルを参照してください。

注意

- メニュー画面、出力指示画面、処理状況照会画面で【ログアウト】ボタンをクリックしても帳票表示画面は閉じられません。【ログアウト】ボタンをクリックする前に、【閉じる】ボタンを押して帳票表示画面を閉じてください。
- 帳票が8000ページを超える場合は、Adobe Readerで正しく表示されない可能性があります。
- 表示されるPDFファイルでは、印刷やPDFファイルを編集する操作(内容のコピー、文書の変更、注釈やフォームフィールドの入力など)は、できません。
- List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票を表示するには、List Creator Enterprise Editionが必要です。
- あらかじめ、Web配信操作クライアントにAdobe Readerをインストールしておいてください。



Adobe Readerについては、Adobe社のホームページを参照してください。

以降は、List Works帳票を表示した場合の帳票表示画面について説明します。

帳票表示画面では、帳票を表示している部分以外に、ツールバー、スクロールバー、スクロールバーボタン(改ページ、ページ指定)、分割バー(分割ボックス)およびステータスバーが表示されます。

注意

以下のダイアログボックス以外で指定した値は、現在表示している帳票表示画面を操作している間のみ有効です。

- ・【検索条件の保存】ダイアログボックス
- ・【検索条件の読み込み】ダイアログボックス

List Works - Windows Internet Explorer
http://listworks/listworks/servlet/ListGateway

100% 1

特殊扱 当座口振込依頼書

月末支払予定表（兼）振込明細

<銀行名> A B C 銀行 東京本店 御中

コード 0:0:3:5 振込口数 20件 振込月日 11月10日

富士通株式会社
東京工場総務部

順	振込先名	個人名	取引銀行名		振込金額	要支払高	要支払高内	
			銀行名	本支店名			買掛金	未払費用
0001	01-31-135	更谷 昭夫	A B C	城南	3,000,000	10,000,000	3,000,000	2,000,000
0002	01-31-246	川田 正一	A B C	城南	1,500,000	30,000,000	10,000,000	10,000,000
0003	34-37-086	佐々木充雄	紅白	中央	25,000,000	25,000,000	20,000,000	3,000,000
0004	34-37-975	鳥居 裕之	紅白	中央	15,000,000	20,000,000	15,000,000	3,000,000
0005	01-32-357	植田 達郎	A B C	城北	30,000,000	55,000,000	50,000,000	3,000,000
0006	01-32-468	内田 敏弘	A B C	城北	45,000,000	45,000,000	43,000,000	1,000,000
0007	01-32-579	土橋 康博	A B C	城北	1,000,000	8,000,000	7,000,000	500,000
0008	01-32-680	天谷 寿浩	A B C	城北	2,000,000	2,000,000	1,500,000	250,000
0009	34-38-864	渋谷 兼	紅白	東都	1,500,000	2,000,000	1,000,000	800,000
0010	34-38-753	小川 研二	紅白	東都	1,750,000	2,000,000	1,500,000	250,000
0011	34-38-642	山地 勝幸	紅白	東都	10,000,000	20,000,000	15,000,000	3,000,000
0012	34-38-531	増田 愛子	紅白	東都	25,000,000	35,000,000	33,000,000	1,000,000
0013	56-51-791	仁藤 昭	いろは	東海	10,000,000	12,000,000	11,000,000	1,000,000

ページ 1 / 20 localhost

ページが表示されました インターネット 100%

以下に帳票表示画面で表示される項目について説明します。

項目名	説明
【閉じる】ボタン	帳票表示画面を閉じます。出力指示画面に戻ります。

13.8.1 ツールバーの説明

List Works帳票を表示した場合の帳票表示画面で利用できるボタンについて説明します。

ボタン	ボタン名	説明
	倍率を指定	指定の倍率にズームします。
	最初のページへ	最初のページを表示します。
	前のページへ	前のページを表示します。
1	指定ページへ	指定のページを表示します。
	次のページへ	次のページを表示します。
	最後のページへ	最後のページを表示します。

ボタン	ボタン名	説明
	検索	文字列を検索します。
	上方向に検索	上方向に検索します。
	下方向に検索	下方向に検索します。
	検索結果の表示	検索結果の表示/非表示を切り替えます。
	検索結果の一覧表示	検索結果の一覧表示の表示/非表示を切り替えます。
	ハンド	マウスのドラッグに従ってスクロールします。
	ズーム	マウスの右ボタンで拡大、左ボタンで縮小します。
	分割/分割の解除	画面を分割/分割解除します。
	ステータスバーの表示/非表示	ステータスバーを表示/非表示します。

13.8.2 帳票表示画面で検索するときに表示されるダイアログボックス

帳票表示画面で【検索】ボタンをクリックしたときに表示される、以下のダイアログボックスについて説明します。

- ・【検索】ダイアログボックス
- ・【検索の設定】ダイアログボックス
- ・【検索条件の保存】ダイアログボックス
- ・【検索条件の読み込み】ダイアログボックス
- ・【検索結果の行の一覧】ダイアログボックス

【検索】ダイアログボックス

詳細な検索方法を設定し、検索します。

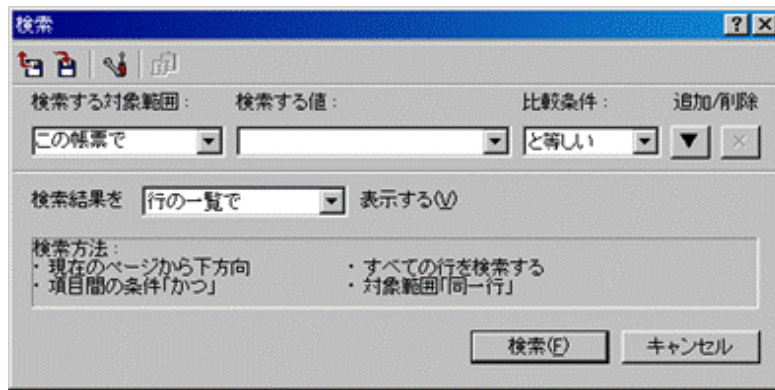
ボタン

【検索】

検索を開始します。

【キャンセル】

検索処理を実行せずにダイアログボックスを閉じます。



【検索条件の読み込み】

保存しておいた検索条件を読み込みます。

【検索条件の保存】

設定した検索条件を保存します。

【検索の設定】

【検索の設定】ダイアログボックスが表示されます。検索についての情報を設定します。

検索する対象範囲

指定できる検索する対象範囲は、「この帳票で」だけです。帳票のすべての文字列を検索します。

検索する値

最近、検索した文字列を指定する場合、【▼】ボタンをクリックして一覧から選択します。

直接入力する場合は、検索する文字列を全角、半角ともに40文字以内で指定します。なお、「検索する値」を指定していない場合、検索条件は有効になりません。

比較条件

指定できる比較条件は「と等しい」だけです。

追加/削除

【追加】

複数の条件で検索する場合、検索条件を追加します。

【削除】

不要な検索条件を削除します。

検索結果の表示方法

検索結果の表示方法を以下の中から指定します。

初期値は「行の一覧で」です。

－ 「ページごとに」

ページ単位で検索します。

検索条件に一致したページ内のすべてのデータが検索範囲とともに強調して表示されます。

－ 「項目ごとに」

- 1項目ずつ検索します。

検索条件に一致したデータが、検索範囲とともに強調して表示されます。

- 【検索の設定】ダイアログボックスの「項目間の条件」の対象範囲の「同一行」を指定した場合には行ごと、「同一ページ」を指定した場合にはページごとに表示されます。

- － 「行の一覧で」

【検索結果の行の一覧】ダイアログボックスが表示されます。検索条件に一致したデータを含む行が、一覧で表示されます。

検索方法

【検索の設定】ダイアログボックスで設定されている検索方法の内容が表示されます。

【検索の設定】ダイアログボックス

検索の方法を設定します。

【ボタン】

【OK】

ダイアログボックスを閉じ、検索の設定内容を保存します。

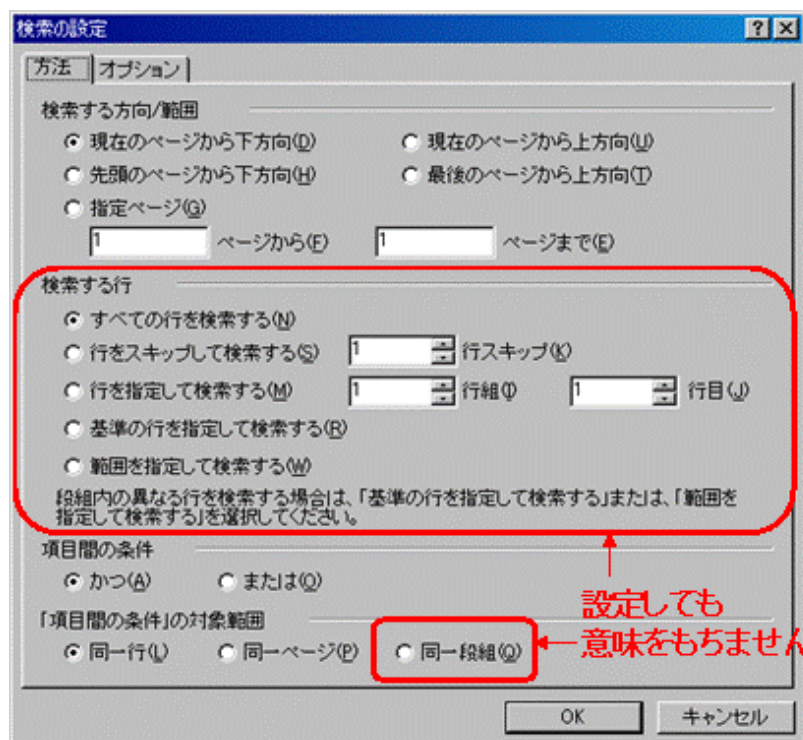
【キャンセル】

設定処理を実行せずにダイアログボックスを閉じます。

【方法】タブ

以下の項目は、設定しても意味をもちません。

- － 検索する行
- － 「項目間の条件」の「同一段組」



検索する方向/範囲

検索する方向と範囲を指定します。



【検索】ダイアログボックスの検索結果の表示方法で、「行の一覧で」を指定した場合は、指定した範囲内の先頭ページから最後のページへ向かって検索されます。

【検索】ダイアログボックスの検索結果の表示方法で、「ページごとに」または「項目ごとに」を指定した場合、最初の検索結果が表示されたあとで、ツールバーの【上方向に検索】ボタンまたは【下方向に検索】ボタンをクリックすると、この項目での指定は無効になります。

.....

現在のページから下方向

現在表示中のページから最後のページに向かって検索する場合に、選択します。初期設定はこの項目です。

現在のページから上方向

現在表示中のページから先頭のページに向かって検索する場合に、選択します。

先頭のページから下方向

先頭のページから最後のページに向かって検索する場合に、選択します。

最後のページから上方向

最後のページから先頭のページに向かって検索する場合に、選択します。

指定ページ

最初に指定したページから次に指定したページに向かって、指定したページの範囲を検索する場合に、選択します。選択した場合、必ず何ページから何ページまでを検索の対象とするかを指定します。

項目間の条件

かつ

複数の条件を指定し、各項目を「かつ(AND)」で結ぶ場合に、選択します。初期設定はこの項目です。

または

複数の条件を指定し、各項目を「または(OR)」で結ぶ場合に、選択します。

「項目間の条件」の対象範囲

同一行

複数の条件を指定し、各項目で検索条件に一致したデータのうち、同じ行にあるものを検索する場合に、選択します。

初期設定はこの項目です。

同一ページ

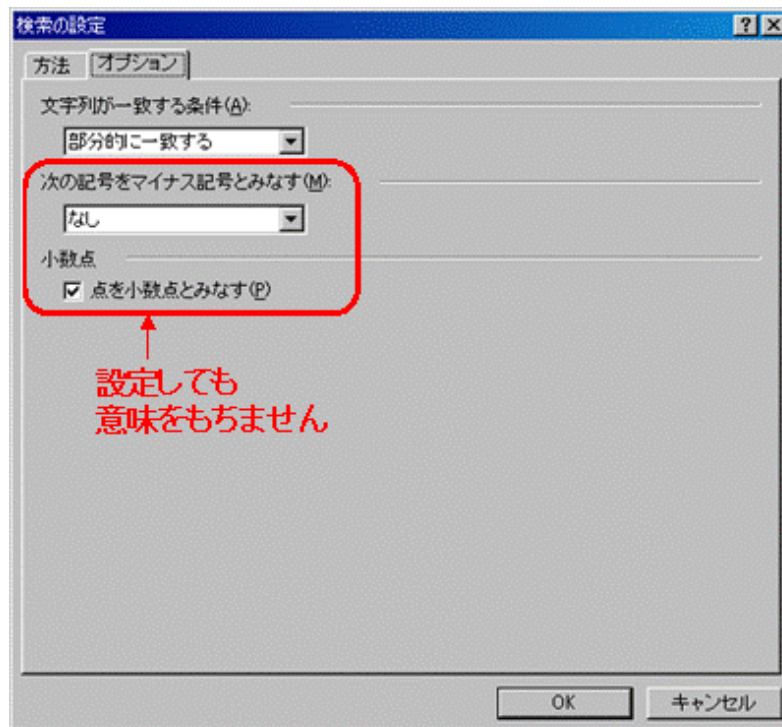
複数の条件を指定し、各項目で検索条件に一致したデータのうち、同じページにあるものを検索する場合に、選択します。

【オプション】タブ

以下の項目は、設定しても意味をもちません。

- 次の記号をマイナス記号とみなす

一 小数点



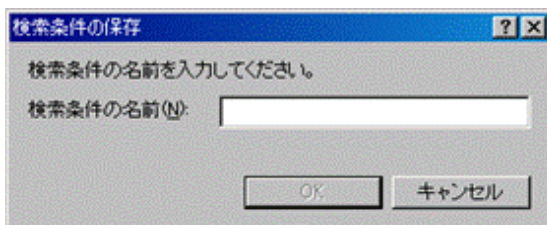
文字列が一致する条件

文字列が一致する条件を以下の中から選択します。初期値は「部分的に一致する」です。

- 「部分的に一致する」
「検索する値」で指定した文字列を含む項目を検索する場合に、選択します。
- 「完全に一致する」
「検索する値」で指定した文字列と完全に同じ文字列である項目を検索する場合に、選択します。
- 「前方から一致する」
「検索する値」で指定した文字列から始まる文字列の項目を検索する場合に、選択します。

【検索条件の保存】ダイアログボックス

検索条件を保存します。



ボタン

【OK】

ダイアログボックスを閉じ、検索条件を保存します。

【キャンセル】

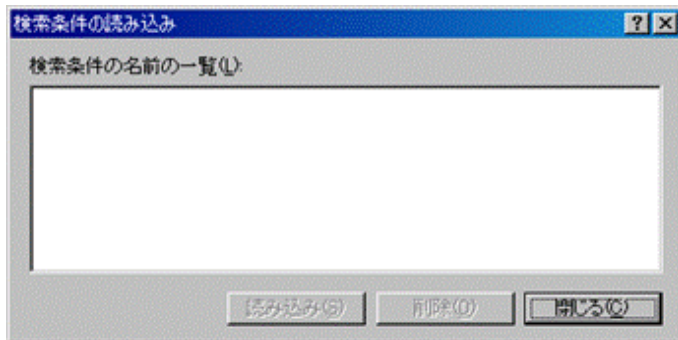
保存処理を実行せずにダイアログボックスを閉じます。

検索条件の名前

保存する検索条件の名前を、全角20文字(半角40文字)以内で指定します。検索条件は、最大9999個まで作成できます。

【検索条件の読み込み】ダイアログボックス

あらかじめ保存されている検索条件を読み込みます。



ボタン

【読み込み】

保存されている検索条件を、【検索】ダイアログボックスに反映します。

【削除】

保存されている検索条件を削除します。

【閉じる】

ダイアログボックスを閉じます。

検索条件の名前の一覧

保存されている検索条件の名前が、一覧で表示されます。

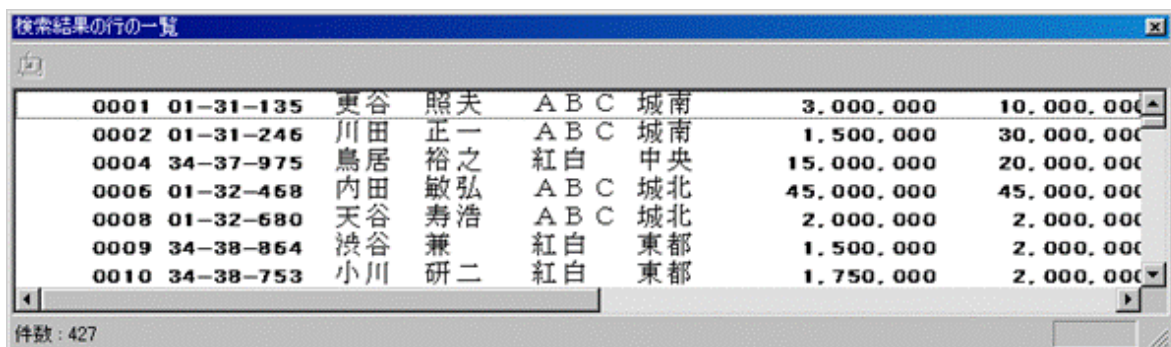
【検索結果の行の一覧】ダイアログボックス

検索条件に一致したデータを含む行を一覧で表示します。



注意

オペレーティングシステムの種類によってはマウスのホイール機能によるスクロールが正しく動作しない場合があります。その場合はスクロールバーを使用してスクロールしてください。



【ジャンプ】

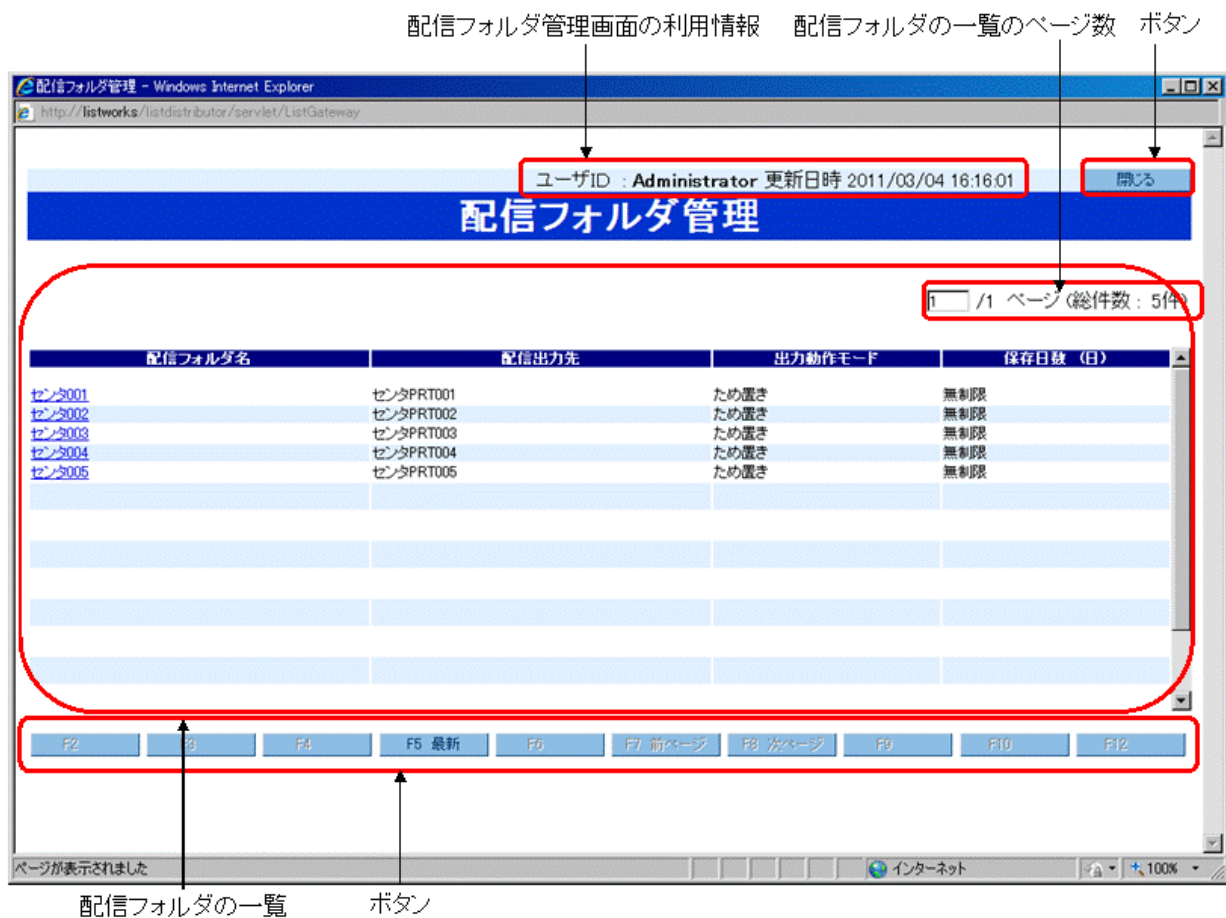
検索条件に一致したデータのあるページへジャンプします。

13.9 配信フォルダ管理画面

配信フォルダ管理画面は、以下の操作によって表示されます。管理者権限を持つユーザでログインした場合のみ表示されます。

- ・メニュー画面で、【配信フォルダ管理画面】ボタンをクリックしたとき
- ・出力指示画面で、【F9 配信フォルダ】ボタンをクリックしたとき、または【F9】キーを押したとき

配信フォルダ管理画面では、配信フォルダが一覧表示されます。配信管理サーバに定義されている配信フォルダの一覧および詳細情報を参照します。



配信フォルダ管理画面の利用情報

以下に配信フォルダ管理画面で表示される項目について説明します。

項目名	説明
ユーザID	ログインしたユーザIDが表示されます。
更新日時	配信フォルダ管理画面を表示した日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で表示されます。

配信フォルダの一覧

画面が最新の情報に更新されるタイミング

以下の操作をすると、配信フォルダ管理画面が最新の情報に更新されます。

- 配信フォルダ詳細情報画面で【OK】ボタンをクリックする。(注1)
- 【F5 最新】ボタンをクリックする、または【F5】キーを押す。(注1)
- 【F7 前ページ】ボタンをクリックする、または【F7】キーを押す。
- 【F8 次ページ】ボタンをクリックする、または【F8】キーを押す。

注1: 更新された結果、配信フォルダの一覧が複数ページにわたる場合は、1ページ目が表示されます。



注意

配信フォルダ管理画面は、「更新日時」時点の情報が表示されています。配信フォルダの状態が変化し、表示されている情報と異なる場合、配信フォルダ管理画面での操作がエラーになる可能性があります。

配信フォルダの一覧のページ数

以下の情報が「n/m ページ (総件数 o件)」の形式で表示されます。

- n: 現在表示されているページ番号
- m: 総ページ数
- o: 配信管理サーバに定義されている配信フォルダの総数

nに1～最終ページの範囲で半角数字を入力し、【Enter】キーを押すと、配信フォルダの一覧のページを変更できます。nに何も入力しないで【Enter】キーを押した場合は、1が指定されたとみなし、1ページ目が表示されます。指定したページで表示される配信フォルダがない場合、確認のメッセージ、またはエラー画面が表示されます。

配信フォルダの表示順序

配信フォルダは、配信フォルダ名の昇順で表示されています。

表示される項目の説明

配信フォルダの項目について説明します。

項目名	説明
配信フォルダ名	配信管理サーバに定義されている配信フォルダ名が表示されます。配信フォルダ名をクリックすると、配信フォルダ詳細情報画面が新しい画面に表示されます。配信フォルダ詳細情報画面を表示している間は、配信フォルダ管理画面を操作できません。
配信出力先	配信フォルダに設定されている配信出力先名が表示されます。配信出力先が設定されていない場合は、「(指定なし)」と表示されます。
出力動作モード	配信フォルダに設定されている出力動作モードとして、以下のどちらかが表示されます。 ・ ため置き ・ 即時
保存日数(日)	配信フォルダで管理される帳票の保存日数が「n日」形式で表示されます。保存日数に「無制限」が設定されている場合は、「無制限」と表示されます。

ボタン

配信フォルダ管理画面で使用できるボタンについて説明します。ファンクションキーにも対応しています。

ボタン名	説明	ファンクションキーの割り当て
【閉じる】ボタン	配信フォルダ管理画面を閉じます。確認画面が表示されます。	なし
【F5 最新】ボタン	配信フォルダ管理画面を更新して最新の状態にします。	【F5】キー
【F7 前ページ】ボタン	一覧の前のページを表示します。	【F7】キー
【F8 次ページ】ボタン	一覧の次のページを表示します。	【F8】キー

13.10 配信フォルダ詳細情報画面

配信フォルダ詳細情報画面は、以下の操作によって表示されます。管理者権限を持つユーザでログインした場合のみ表示されます。

- ・ 配信フォルダ管理画面で、配信フォルダ名をクリックしたとき

配信フォルダ詳細情報画面では、配信フォルダの詳細情報の参照および配信出力先の変更をします。

配信フォルダ詳細情報画面が表示されている間は、セッションの有効時間が過ぎても、セッションは切断されません。

項目	設定値
配信フォルダ名	センタ001
出力動作モード	ため置き
配信出力先	センタPRT001
保存日数	無制限
コメント	

OK キャンセル

以下に配信フォルダ詳細情報画面で表示される項目について説明します。

項目名	説明
配信フォルダ名	配信フォルダ名が表示されます。
出力動作モード	以下のどちらかが表示されます。 ・ ため置き ・ 即時
配信出力先	配信出力先を選択します。初期値は、「配信フォルダに設定されている配信出力先」です。

項目名	説明
	配信出力先を変更したい場合は、【▼】ボタンをクリックして表示されるドロップダウンリストから、配信出力先を指定します。出力動作モードが「ため置き印刷」の場合は、「(指定なし)」を選択できます。
保存日数	配信フォルダで管理される帳票の保存日数が「n日」形式で表示されます。保存日数に「無制限」が設定されている場合は、「無制限」と表示されます。
コメント	コメントが表示されます。
【OK】ボタン	配信出力先が変更されている場合は、配信出力先を更新します。配信フォルダ詳細情報画面を閉じ、更新された情報の配信フォルダ管理画面が表示されます。 指定した配信出力先がない場合は、エラーになります。
【キャンセル】ボタン	配信フォルダ詳細情報画面を閉じ、配信フォルダ管理画面に戻ります。

第14章 配信操作画面のカスタマイズ

以下の画面を運用に合わせてカスタマイズできます。

- ・ 出力指示画面
- ・ 処理状況照会画面

14.1 配信操作画面のカスタマイズ方法

画面をカスタマイズするには、画面カスタマイズ設定ファイルを編集します。

画面カスタマイズ設定ファイルの内容を有効にするには、配信操作画面のワークユニット(LWDST_MGUI)を再起動します。



配信操作画面のワークユニット (LWDST_MGUI) の再起動については、“[3.13 配信操作画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。



注意

- ・ 画面カスタマイズ設定ファイルの格納場所およびファイル名は、変更しないでください。格納場所に画面カスタマイズ設定ファイルがない場合は、カスタマイズできる項目は画面に表示されません。



出力指示画面でカスタマイズできる項目については“[14.2 出力指示画面のカスタマイズ](#)”、処理状況照会画面でカスタマイズできる項目については“[14.3 処理状況照会画面のカスタマイズ](#)”を参照してください。

- ・ 配信フォルダの共有運用またはクラスタシステムで運用をする場合は、すべてのList Worksサーバに同じ画面カスタマイズ設定ファイルを格納してください。
- ・ カスタマイズした場合は、運用前に、ご使用の環境で必ず画面の表示確認をしてください。

格納場所

List Worksインストール先フォルダ¥Distribute¥manager¥gui¥conf

ファイル名

画面によってファイルが異なります。

出力指示画面: lwdst_layout_output_instruction.csv

処理状況照会画面: lwdst_layout_processing_situation.csv

編集規約

- ・ 画面カスタマイズ設定ファイルは、テキストエディタで編集します。
- ・ CSV形式で指定します。
- ・ UTF-8で指定します。(他の文字コードで指定した場合は、画面上に表示される文字が文字化けすることがあります。)
- ・ 行の最後は改行します。
- ・ 1行に200文字まで記載できます。201文字以上を記載すると、指定に意味を持ちません。
- ・ 50行まで指定できます。51行目以降は、指定しても意味を持ちません。
- ・ 空白行は無効ですが、1行とみなします。
- ・ 1行1項目で指定し、項目のキー名は1列目から記載します。
- ・ 各項目は、記述形式に従って記載します。

- ・ キー名は、大文字・小文字を区別して正しく指定します。
- ・ ダブルクォーテーション"\"は、文字列として扱います。
- ・ 同じ項目を2回以上指定した場合、最初に指定した値が有効になります。
- ・ 「帳票の一覧に表示する項目」および「印刷ジョブの一覧に表示する項目」は、表示する順序で記載します。



「帳票の一覧に表示する項目」の詳細については“14.2.5 帳票の一覧に表示する項目の変更”、「印刷ジョブの一覧に表示する項目」の詳細については“14.3.4 印刷ジョブの一覧に表示する項目”を参照してください。

P ポイント

インストール初期状態の配信操作画面に戻すには

画面カスタマイズ設定ファイルの格納場所には、インストール初期状態のファイルが「画面カスタマイズ設定ファイル名.org」というファイル名で格納されています。インストール初期状態に戻したい場合は、「画面カスタマイズ設定ファイル名.org」をコピーして使用してください。

14.2 出力指示画面のカスタマイズ

出力指示画面でカスタマイズできる項目について、説明します。

表示する帳票の絞り込み

帳票の一覧に表示する項目の変更

出力指示画面の表示域の高さの変更

帳票の一覧の行数の変更

出力指示画面の表示域の幅の変更

選択	帳票名	登録日時	帳票状態	出力回数	配信出力先	開始ページ	終了ページ	部数	表示	印刷
☐	月次報告1	2010/12/21 20:41:57	出力済	4	センタPRT001	1	20		表示	印刷
☐	月次報告2	2010/12/21 20:42:26	出力済	1	センタPRT001	1	20		表示	印刷
☐	月次報告3	2010/12/21 20:42:38	出力済	1	センタPRT001	1	20		表示	印刷
☐	月次報告4	2010/12/21 20:42:50	出力済	1	センタPRT001	1	20		表示	印刷
☐	月次報告5	2010/12/21 20:43:01	未出力	0	センタPRT001	1	20		表示	印刷
☐	月次報告6	2010/12/21 20:43:10	未出力	0	センタPRT001	1	20		表示	印刷

F2 選択印刷 F3 検索 F4 選択削除 F5 最新 F6 F7 前ページ F8 次ページ F9 配信フォルダ F10 配信出力先 F12 処理状況

出力指示画面では、以下のカスタマイズができます。

- ・ 出力指示画面の表示域の幅、高さの変更
- ・ 帳票の一覧の行数の変更
- ・ 表示する帳票の絞り込み

作成ユーザIDとログインしたユーザIDが同じ帳票だけを出力指示画面に表示します。

- ・ 帳票の一覧に表示する項目の変更

以下の項目の表示/非表示、表示する順序、幅および表示する項目名を変更できます。

- ー タイトル
- ー コメント
- ー 用紙コード
- ー 登録日時
- ー 保存期限
- ー 帳票状態
- ー 出力回数
- ー 最大出力回数
- ー 作成ユーザID
- ー 備考1～16



注意

- ー 設定した項目は、検索条件画面および帳票詳細情報画面に同様に反映されます。ただし、「表示する帳票の絞り込み」が指定されている場合は、検索条件画面に「作成ユーザID」は表示されません。
- ー 帳票の一覧に表示される以下の項目は、カスタマイズできません。標準で表示されます。
 - 選択
 - 帳票名
 - 配信出力先
 - 開始ページ
 - 終了ページ
 - 部数
 - 表示
 - 印刷

14.2.1 出力指示画面の表示域の幅の変更

出力指示画面を表示するWebブラウザの表示域の幅を指定します。

以下の場合、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある
- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

WINDOW_WIDTH, Webブラウザの表示域の幅

キー名	Webブラウザの表示域の幅	省略値
WINDOW_WIDTH	640～1600の範囲で、半角数字で指定します。(単位:ピクセル) 各項目の幅の合計が、出力指示画面の表示幅となります。以下の計算式で算出します。	1000

キー名	Webブラウザの表示域の幅	省略値
	表示域の幅＝標準で表示される項目の幅＋カスタマイズして表示する項目 $= (685 + 4 \times 8) + (\text{カスタマイズして表示する項目の幅の合計} + 4 \times \text{カスタマイズして表示する項目数})$ 項目の幅の合計値が、Webブラウザの表示域の幅を超えた場合、帳票の一覧の下部にスクロールバーが表示されます。  参考 出力指示画面に標準で表示される項目の幅の合計は、「685」です。内訳は、以下のとおりです。なお、項目の枠線分として、各項目に4ピクセルを加算します。 選択:40 帳票名:200 配信出力先:185 開始ページ:65 終了ページ:65 部数:30 表示:50 印刷:50	

14.2.2 出力指示画面の表示域の高さの変更

出力指示画面を表示するWebブラウザの表示域の高さを指定します。

以下の場合には、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある
- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

WINDOW_HEIGHT, Webブラウザの表示域の高さ

キー名	Webブラウザの表示域の高さ	省略値
WINDOW_HEIGHT	480～1200の範囲で、半角数字で指定します。(単位:ピクセル)	600

14.2.3 帳票の一覧の行数の変更

帳票の一覧の行数を指定します。

以下の場合には、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある
- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

LIST_VIEWCOUNT, 帳票の一覧の行数

キー名	帳票の一覧の行数	省略値
LIST_VIEWCOUNT	5～50の範囲で、半角数字で指定します。	10

14.2.4 表示する帳票の絞り込み

管理者権限がないユーザに対して、作成ユーザIDとログインしたユーザIDが同じ帳票だけを出力指示画面に表示します。管理者権限を持つユーザIDでログインした場合は、意味を持ちません。（出力指示画面にすべての帳票が表示されます。）



作成ユーザIDとログインしたユーザIDは、大文字と小文字を区別した状態で、一致している必要があります。

以下の場合、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある
- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

DEFAULT_FILTERING, 表示する帳票の絞り込みの有無

キー名	表示する帳票の絞り込みの有無	省略値
DEFAULT_FILTERING	作成ユーザIDとログインしたユーザIDが同じ帳票だけを出力指示画面に表示するかどうかを「0」か「1」の半角数字で指定します。 0: 絞り込まない (出力指示画面にすべての帳票が表示されます。) 1: 絞り込む 注意 「1」を指定すると、検索条件画面に「作成ユーザID」は表示されません。	0

14.2.5 帳票の一覧に表示する項目の変更

帳票の一覧に表示する項目の表示/非表示、表示する順序、幅および表示する項目名を指定します。

出力指示画面では、画面カスタマイズ設定ファイルに表示したい項目を指定すると、上から指定された順序で、出力指示画面の帳票の一覧の「帳票名」と「配信出力先」の間に左から右へ表示されます。

帳票詳細情報画面では、出力指示画面用の画面カスタマイズ設定ファイルに指定されている内容が、自動的に反映されます。ただし、初期表示されている項目は、項目名だけが変更されます。

帳票詳細情報 - Windows Internet Explorer
http://listworks/listdistributor/servlet/ListGateway

帳票詳細情報

項目	値
帳票ID	4c3491e508c14ed4a6ceaf105b72633e000C299B3ABD000000
コメント	
作成ユーザID	Administrator
帳票状態	出力済
出力回数	4
帳票名	月次報告1
用紙コード	
登録日時	2010/12/21 20:41:57
保存期限	
総ページ数	20
配信フォルダ名	センタ001

カスタマイズが有効な場合は、
この位置(表の最下部)に追加される

OK

ページが表示 インターネット 100%

記述形式

キー名, 項目の幅, 検索条件画面での表示有無, 表示する項目名

キー名

下表を参照し、出力指示画面に表示する項目のキー名を指定します。キー名に誤りがある場合は、指定しても意味を持ちません。

項目の幅

項目の幅(単位:ピクセル)を35～1000の範囲で、半角数字で指定します。

項目の幅よりも表示される文字列が長い場合は、文字列は折り返して最大3行まで表示されます。

以下の場合、省略値が設定されます。

- 項目の幅の指定を省略する
- 範囲外の値を指定する
- 指定できる半角数字以外の値を指定する

各項目の省略値については、下表を参照してください。

注意

3行を超える文字列は、帳票の一覧に表示されません。このため、データの文字列長を考慮して、項目の幅を決めてください。なお、帳票の一覧に表示されない文字列は、帳票詳細情報画面を参照することで確認できます。

検索条件画面での表示有無

検索条件画面で、カスタマイズして表示する項目の表示/非表示を指定します。

表示する: 半角数字で「1」を指定する

表示しない: 何も指定しない、または「1」以外の値を指定する

有効になる項目は、下表の「検索条件画面での表示有無」が「○」の項目のみです。

検索条件画面には、画面カスタマイズ設定ファイルの上から指定された順序で、検索条件の一覧の最下部に「表示する項目名」で表示されます。

表示する項目名

項目名を40文字以内で指定します。3つ目のカンマから、以下のいずれかまでを項目名として表示します。

- 改行
- 4つ目のカンマ
- ファイルの終端(EOF)

以下の場合、指定しても意味を持ちません。

- 41文字目以降の文字列
- 項目名の前後にある半角空白やタブ文字

何も指定しない場合は、項目名には何も表示されません。



注意

特殊文字および外字は、正しく表示されません。

キー名	キーの説明	項目の幅の省略値	検索条件画面の表示有無	帳票詳細情報画面での表示
TITLE	タイトルを表示します。	200	○	○
COMMENT	コメントを表示します。	200	○	◎
PAPER_CODE	用紙コードを表示します。	100	○	◎
CREATEDATE	帳票の登録日時を表示します。	115	◎(注1)	◎
SAVE_LIMIT_DATE	帳票の保存期限を表示します。	70	—	◎
FORM_STATE	帳票状態を表示します。	60	◎	◎
OUTPUT_COUNT	出力回数を表示します。	60	—	◎
OUTPUT_MAX_COUNT	最大出力回数を表示します。	60	—	○
CREATE_USER_ID	作成ユーザIDを表示します。	100	○(注2)	◎
CUSTOMIZE_ITEM1	備考1を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM2	備考2を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM3	備考3を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM4	備考4を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM5	備考5を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM6	備考6を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM7	備考7を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM8	備考8を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM9	備考9を表示します。	100	○	○

キー名	キーの説明	項目の幅の省略値	検索条件画面の表示有無	帳票詳細情報画面での表示
CUSTOMIZE_ITEM10	備考10を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM11	備考11を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM12	備考12を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM13	備考13を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM14	備考14を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM15	備考15を表示します。	100	○	○
CUSTOMIZE_ITEM16	備考16を表示します。	100	○	○

◎:カスタマイズの有無に関係なく、初期表示されます。画面カスタマイズ設定ファイルが正しく設定されている場合は、「表示する項目名」で表示されます。表示順序は変更できません。

○:表示する指定をした場合に表示されます。

ー:表示できません。

注1:

表示する項目名を指定しても、検索条件画面には「登録日(YYYYMMDD)」と表示されます。

注2:

「表示する帳票の絞り込み」で「1(絞り込む)」を指定している場合、「作成ユーザID」は検索条件画面に表示できません。指定しても意味を持ちません。

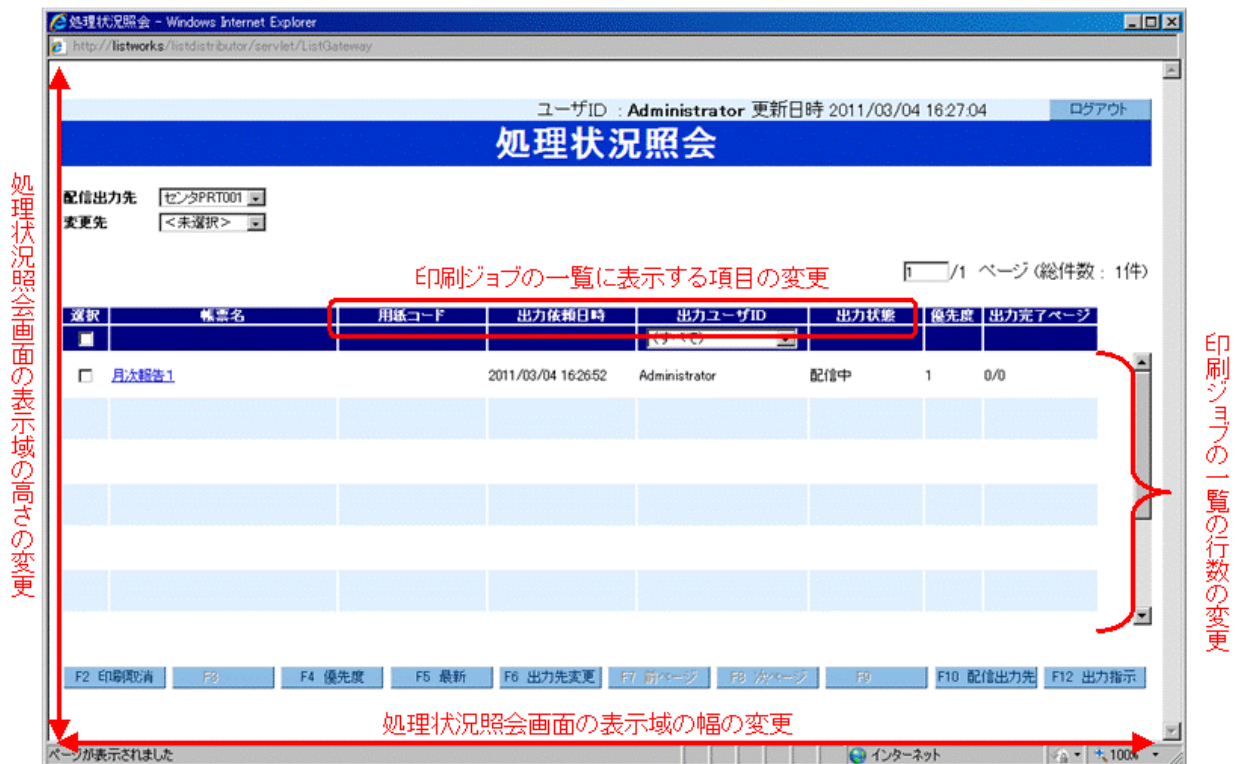
14.2.6 出力指示画面の画面カスタマイズ設定ファイルの設定例

出力指示画面の画面カスタマイズ設定ファイル(lwdst_layout_output_instruction.csv)の設定例を示します。

```
WINDOW_WIDTH, 1000
WINDOW_HEIGHT, 600
LIST_VIEWCOUNT, 10
DEFAULT_FILTERING, 0
CREATEDATE, 115, 1, 登録日時
FORM_STATE, 60, 1, 帳票状態
OUTPUT_COUNT, 60, 1, 出力回数
```

14.3 処理状況照会画面のカスタマイズ

処理状況照会画面でカスタマイズできる項目について、説明します。



処理状況照会画面では、以下のカスタマイズができます。

- ・ 処理状況照会画面の表示域の幅、高さの変更
- ・ 印刷ジョブの一覧の行数の変更
- ・ 印刷ジョブの一覧に表示する項目の変更

以下の項目の表示/非表示、表示する順序、幅および表示する項目名を変更できます。

- ー 用紙コード
- ー 出力依頼日時
- ー 出力ユーザID

「出力ユーザID」のドロップダウンリストの表示/非表示を切り替えられます。ドロップダウンリストに表示される出力ユーザIDを選択し、処理状況照会画面に表示する印刷ジョブを絞り込みます。

- ー 出力状態

注意

印刷ジョブの一覧に表示される以下の項目は、カスタマイズできません。標準で表示されます。

- ー 選択
- ー 帳票名
- ー 優先度
- ー 出力完了ページ

14.3.1 処理状況照会画面の表示域の幅の変更

処理状況照会画面を表示するWebブラウザの表示域の幅を指定します。

以下の場合は、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある
- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

WINDOW_WIDTH, Webブラウザの表示域の幅		
キー名	Webブラウザの表示域の幅	省略値
WINDOW_WIDTH	640～1600の範囲で、半角数字で指定します。(単位:ピクセル) 各項目の幅の合計が、処理状況照会画面の表示幅となります。以下の計算式で算出します。 表示域の幅＝標準で表示される項目の幅＋カスタマイズして表示する項目 $= (390 + 4 \times 4) + (\text{カスタマイズして表示する項目の幅の合計} + 4 \times \text{カスタマイズして表示する項目数})$ 項目の幅の合計値が、Webブラウザの表示域の幅を超えた場合、印刷ジョブの一覧の下部にスクロールバーが表示されます。  参考 処理状況照会に標準で表示される項目の幅の合計は、「390」です。内訳は、以下のとおりです。なお、項目の枠線分として、各項目に4ピクセルを加算します。 選択: 40 帳票名: 200 優先度: 50 出力完了ページ: 100 	1000

14.3.2 処理状況照会画面の表示域の高さの変更

処理状況照会画面を表示するWebブラウザの表示域の高さを指定します。

以下の場合には、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある
- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

WINDOW_HEIGHT, Webブラウザの表示域の高さ		
キー名	Webブラウザの表示域の高さ	省略値
WINDOW_HEIGHT	480～1200の範囲で、半角数字で指定します。(単位:ピクセル)	600

14.3.3 印刷ジョブの一覧の行数の変更

印刷ジョブの一覧の行数を指定します。

以下の場合には、省略値が設定されます。

- ・ キー名に誤りがある

- ・ 範囲外の値を指定する
- ・ 指定できる半角数字以外の値を指定する
- ・ 何も指定しない

記述形式

LIST_VIEWCOUNT, 印刷ジョブの一覧の行数

キー名	印刷ジョブの一覧の行数	省略値
LIST_VIEWCOUNT	5～50の範囲で、半角数字で指定します。	10

14.3.4 印刷ジョブの一覧に表示する項目

印刷ジョブの一覧に表示する項目の表示/非表示、表示する順序、幅および表示する項目名を指定します。画面カスタマイズ設定ファイルに表示したい項目を指定すると、上から指定された順序で、印刷ジョブの一覧の「帳票名」と「優先度」の間に左から右へ表示されます。

画面カスタマイズ設定ファイルが正しく設定されている場合、印刷ジョブ詳細情報画面には、「表示する項目名」で表示されます。表示順序は変更できません。

記述形式

キー名, 項目の幅, 表示する印刷ジョブの絞り込み, 表示する項目名

キー名

下表を参照し、処理状況照会画面に表示する項目のキー名を指定します。キー名に誤りがある場合は、指定しても意味を持ちません。

項目の幅

項目の幅(単位:ピクセル)を35～1000の範囲で、半角数字で指定します。

項目の幅よりも表示される文字列が長い場合は、文字列は折り返して最大3行まで表示されます。

以下の場合、省略値が設定されます。

- 項目の幅を指定しない
- 範囲外の値を指定する
- 指定できる半角数字以外の値を指定する

各項目の省略値については、下表を参照してください。



3行を超える文字列は、印刷ジョブの一覧に表示されません。このため、データの文字列長を考慮して、項目の幅を決めてください。なお、印刷ジョブの一覧に表示されない文字列は、印刷ジョブ詳細情報画面を参照することで確認できます。

表示する印刷ジョブの絞り込み

「出力ユーザID」にドロップダウンリストの表示/非表示を指定します。キー名が「OUTPUT_USER_ID」の場合のみ、有効です。初期設定は「1」のため、ドロップダウンリストが表示されています。

表示する: 半角数字で「1」を指定する

表示しない: 何も指定しない、「1」以外の値を指定する、または指定を省略する

キー名が「OUTPUT_USER_ID」以外の場合は、指定しても意味を持ちません。

表示する項目名

項目名を40文字以内で指定します。3つ目のカンマから、以下のいずれかまでを項目名として表示します。

- 改行

- 4つ目のカンマ
- ファイルの終端(EOF)

以下の場合、指定しても意味を持ちません。

- 41文字目以降の文字列
- 項目名の前後にある半角空白やタブ文字

何も指定しない場合は、項目名には何も表示されません。

注意

特殊文字および外字は、正しく表示されません。

キー名	キーの説明	項目の幅の省略値	表示する印刷ジョブの絞り込み
PAPER_CODE	用紙コードを表示します。	130	—
OUTPUT_DATE	出力依頼日時を表示します。	130	—
OUTPUT_USER_ID	出力ユーザIDを表示します。	150	○
OUTPUT_STATE	出力状態を表示します。	100	—

○:ド롭ダウンリストの表示/非表示を切り替えられます。

—:表示できません。

14.3.5 処理状況照会画面の画面カスタマイズ設定ファイルの設定例

処理状況照会画面の画面カスタマイズ設定ファイル (lwdst_layout_processing_situation.csv) の設定例を示します。

```
WINDOW_WIDTH, 1000
WINDOW_HEIGHT, 600
LIST_VIEWCOUNT, 10
PAPER_CODE, 130, , 用紙コード
OUTPUT_DATE, 130, , 出力依頼日時
OUTPUT_USER_ID, 150, 1, 出力ユーザID
OUTPUT_STATE, 100, , 出力状態
```

第15章 配信操作画面のAPI(Httpリクエスト)

15.1 Login

配信管理サーバに接続し、メニュー画面を表示します。

また、配信フォルダ名や配信出力先名を指定することにより、出力指示画面、処理状況照会画面、配信出力先一覧画面で、配信フォルダや配信出力先を絞り込んで表示することができます。

具体的には、以下の項目が絞り込んで表示されます。

- 配信フォルダ名を指定した場合
 - ー 出力指示画面
「配信フォルダ」のプルダウンメニューで選択する項目
- 配信出力先名を指定した場合
 - ー 出力指示画面
「配信出力先」のプルダウンメニューで選択する項目
 - ー 処理状況照会画面
「配信出力先」のプルダウンメニューで選択する項目
「変更先」のプルダウンメニューで選択する項目
 - ー 配信出力先一覧画面
配信出力先の一覧の「配信出力先名」に表示される内容



注意

配信フォルダ管理画面では、絞り込んで表示できません。

さらに、業務アプリケーションの外部情報を、操作ログの「補足情報4」に出力することができます。



参考

本APIを使用してメニュー画面を表示し、出力指示画面または処理状況照会画面から【ログアウト】ボタンをクリックした場合、確認のメッセージが表示されて、帳票表示画面を除いたWeb配信操作クライアントのすべての画面が閉じます。

記述形式

リクエスト方式は、POSTオペレーションのみ使用できます。

FORMタグの属性には、以下を指定します。

action属性

以下のURLを指定します。文字列は、大文字・小文字を区別して指定します。

```
http://hostname[:port]/listdistributor/servlet/ListGateway
```

hostname

List WorksサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定します。配信フォルダの共有運用を行っている場合は、負荷分散装置のIPアドレスを指定します。

port

List WorksサーバのWebサーバに設定しているポート番号を指定します。



注意

.....
プロトコルが「https」の場合は、「http」を「https」に置き換えて参照してください。
.....

method属性

「post」を指定します。

target属性

「lwdst_Menu」(固定値)を指定します。大文字・小文字を区別して指定します。



注意

.....
複数のウィンドウを開いて、List Works (Webクライアント、Web配信操作クライアント)を操作できません。
.....

パラメタの説明



注意

-
- Httpリクエストを使用した業務アプリケーションのJSPファイルやHTMLファイルは、UTF-8で記述し、パラメタの文字列がUTF-8で送信されるように作成してください。
 - 1つのパラメタを複数指定しないでください。指定した場合、どのパラメタの値が扱われるかについては、保証できません。
 - 不正なパラメタを指定した場合は、エラー画面が表示されます。
-

command

コマンド名「Login」を指定します。必ず指定します。文字列は、大文字・小文字を区別して指定します。省略するとエラーになります。

userid

配信管理サーバに接続するユーザIDを指定します。必ず指定します。文字列は、大文字・小文字を区別して指定します。

文字列は、全角18文字以内(半角36文字以内)で指定します。

password

ユーザIDに対応したパスワードを指定します。

必ず指定します。パスワードは、半角255文字以内で指定します。文字列は、大文字・小文字を区別して指定します。

パスワードなしの場合は、空文字列を指定します。

distribute

絞り込んで表示する配信フォルダ名を指定します。文字列は、大文字・小文字を区別して指定します。

配信フォルダ名は、500個まで指定できます。複数指定する場合は、配信フォルダ名を半角セミコロン(;)で区切って指定します。

表示させたい順番で配信フォルダ名を指定します。

先頭に指定した配信フォルダ名がドロップダウンリストの初期値として表示されます。

省略可能です。省略すると、すべての配信フォルダが表示されます。



注意

- 配信フォルダ名の文字列が一致する条件は完全一致です。
- 指定された配信フォルダ名の配信フォルダが存在しない場合、指定された配信フォルダは表示されませんが、指定した数としてカウントされます。
- 指定された配信フォルダ名の配信フォルダが1つも存在しない場合は、エラー画面が表示されます。
- セミコロン(;)を連続して記述しないでください。「セミコロン(;)の数+1」が指定した配信フォルダの数としてカウントされます。

destination

絞り込んで表示する配信出力先名を指定します。文字列は、大文字・小文字を区別して指定します。

配信出力先名は、500個まで指定できます。複数指定する場合は、配信出力先名を半角セミコロン(;)で区切って指定します。

表示させたい順番で配信出力先名を指定します。

先頭に指定した配信出力先名がドロップダウンリストの初期値として表示されます。

省略可能です。省略すると、すべての配信出力先が表示されます。



注意

- 配信出力先名の文字列が一致する条件は完全一致です。
- 指定された配信出力先名の配信出力先が存在しない場合、指定された配信出力先は表示されませんが、指定した数としてカウントされます。
- 指定された配信出力先名の配信出力先が1つも存在しない場合は、エラー画面が表示されます。
- セミコロン(;)を連続して記述しないでください。「セミコロン(;)の数+1」が指定した配信出力先の数としてカウントされます。

externalinfo

操作ログの「補足情報4」に出力する外部情報を指定します。指定すると、画面操作を行ったときに出力される操作ログに、「補足情報4」が出力されます。省略可能です。省略すると、操作ログの「補足情報4」には、何も出力されません。

100文字以内(全角半角の区別なし)の文字列で指定します。指定できる文字/記号は、以下のとおりです。

- 半角英数字
- 半角カナ
- 半角記号の一部(ASCIIコードで0x20～0x21、0x23～0x2f、0x3a～0x40、0x5b～0x60、0x7b～0x7eの範囲の文字)
- 全角文字(JIS非漢字、JIS第一水準漢字、JIS第二水準漢字)

使用例

「Web配信操作クライアントの表示」ボタンをクリックすると、ユーザID「user-A」、パスワード「password」で配信管理サーバ「Server」へ接続してメニュー画面を表示するJSPです。

メニュー画面で、【出力指示画面】ボタン、【処理状況照会画面】ボタンまたは【配信出力先一覧画面】ボタンをクリックすると、配信フォルダ名を「フォルダ1」、「フォルダ2」で、配信出力先名を「プリンタ1」「プリンタ2」、「プリンタ3」で絞り込んで表示し、操作ログの「補足情報4」に「login without screen」を出力するように要求しています。

以下の例では、パラメタに指定した値を下線で表示しています。


```

<%@ page contentType="text/html; charset=UTF-8"%>
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8">
<title>ログイン画面を表示せずに、配信管理サーバに接続してメニュー画面を表示します。</title>
</head>

<script language="javascript">
<!--
function login()
{
// ユーザID、パスワード、配信フォルダ名、配信出力先名を設定して、配信管理サーバへ接続します。
document.formLogin.userid.value = "user-A";
document.formLogin.password.value = "password";
document.formLogin.distribute.value = "フォルダ1;フォルダ2";
document.formLogin.destination.value = "プリンタ1;プリンタ2;プリンタ3";
document.formLogin.externalinfo.value = "login without screen";
document.formLogin.submit();
}
// -->
</script>

<body>

<!--ログイン画面を非表示にして、「Web配信操作クライアントの表示」ボタンを表示します。-->
<form name="formLogin" method="post" target="lwdst_Menu" action="http://Server/listdistributor/servlet/ListGateway">
  <input type="hidden" name="command" value="Login">
  <input type="hidden" name="userid" value="">
  <input type="hidden" name="password" value="">
  <input type="hidden" name="distribute" value="">
  <input type="hidden" name="destination" value="">
  <input type="hidden" name="externalinfo" value="">

  <input type="button" value="Web配信操作クライアントの表示" onclick="login()">
</form>

</body>
</html>

```

第5部 コマンドリファレンス

第16章 帳票印刷配信機能のコマンド.....	317

第16章 帳票印刷配信機能のコマンド

ここでは、帳票印刷配信機能で提供する環境設定用のコマンドおよび運用用のコマンドの詳細について説明します。

帳票印刷配信機能のコマンド名と参照箇所を、以下に示します。

用途	コマンド名	機能	参照箇所
配信管理サーバの環境設定用のコマンド	lwdstmgrenv	印刷配信の環境設定の定義/設定内容の表示	16.1.3
	lwdtprinfo	プリンタ構成の編集(定義、変更、削除、一覧表示)	16.1.4
	lwdtdest	配信出力先の編集(定義、変更、削除、一覧表示)	16.1.5
	lwdtfol	配信フォルダの編集(定義、変更、削除、一覧表示)	16.1.6
配信出力サーバの環境設定用のコマンド	addlprt	Windowsで定義したプリンタを管理対象として追加	16.2.3
	delprt	管理対象のプリンタを管理対象から削除	16.2.4
	prtlist	管理対象のプリンタの一覧表示	16.2.5
	setenvdef	プリンタの管理環境における、全体の設定情報の表示/変更	16.2.6
	setenvprt	プリンタの管理環境における、プリンタごとの設定情報の表示/変更	16.2.7
配信管理サーバの運用用のコマンド	lwoprdest	配信出力先の起動/停止(稼働/停止状態の切り替え)	16.3.3
	lwoprfol	配信フォルダの配信出力先の切り替え/出力動作モードの変更	16.3.4
	lwoprform	配信フォルダの帳票の削除/一覧表示/状態の変更/最大出力回数の変更	16.3.5
	lwdelexpire	配信フォルダの保存期限を経過した帳票の削除	16.3.6
	lwcleanform	削除された帳票/配信フォルダの関連するファイル、フォルダ、情報の削除	16.3.7
	F5CWCKLG	配信管理サーバの操作ログの改ざんチェック	16.3.8

16.1 配信管理サーバの環境設定

配信管理サーバの環境設定用のコマンドを実行する場合の留意点と各コマンドについて説明します。

16.1.1 利用時の準備

配信管理サーバの環境設定用のコマンドを使用するためには、以下の準備が必要です。

- コマンドを実行するには、管理者権限が必要です。
Windows Server 2008でコマンドを実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。
- lwdstmgrenvコマンドを実行するには、配信データベースが起動されている必要があります。
- lwdstmgrenvコマンド以外のコマンドを実行するには、「[第3章 配信管理サーバの環境構築](#)」が完了している必要があります。
- lwdstmgrenvコマンド以外のコマンドで、定義／変更／削除を行う場合は、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してください。

16.1.2 環境設定用のコマンドで指定できる文字

配信管理サーバの環境設定用のコマンドで指定できる文字について示します。

指定できる範囲

配信管理サーバの環境設定用のコマンドで指定できる文字/記号の範囲について示します。

- ・ 半角文字 : 半角英数字と半角記号を合わせた範囲の文字
- ・ 半角英数字 : A～Z,a～z,0～9
- ・ 半角記号 : ASCIIコードで0x20～0x2f、0x3a～0x40、0x5B～0x60、0x7b～0x7eの範囲の文字
- ・ 全角文字 : JIS非漢字、JIS第一水準漢字、JIS第二水準漢字

指定できる文字

配信管理サーバの環境設定用のコマンドのオプションで指定できる文字/記号について示します。

コマンド	オプション	指定できる文字/記号	文字列長(バイト)
lwedtpinfo	プリンタ構成コード	半角英数字 半角記号の一部(注1)	3
	用紙コード	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	40
	給紙口名	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	24
	用紙サイズ	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	64
lwedtdest	配信出力先ID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	配信出力先名	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	配信出力サーバ名	半角英数字 半角記号の一部(注1)	255
	プリンタ名	半角英数字 半角記号の一部(注1)	256
	コメント	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	64
	プリンタ構成コード	半角英数字 半角記号の一部(注1)	3

コマンド	オプション	指定できる文字/記号	文字列長(バイト)
	セパレータ印刷時の給紙口名	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	24
	メッセージ通知先	半角英数字 半角記号の一部(注1)	255
	機器メーカー名	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	40
	機器型名	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	40
	備考1～8	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	(注2)
lwdtfol	配信フォルダID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	配信フォルダ名	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	配信出力先ID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	コメント	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	64
	備考1～5	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	(注2)

注1:設定できる半角記号については、“[指定できる半角記号の一覧](#)”を参照してください。

注2:備考に設定できる文字列長については、各コマンドのオプションの説明を参照してください。

指定できる半角記号の一覧

指定できる半角記号の一覧を以下に示します。

配信管理サーバの環境設定用のコマンドで指定できる半角記号の一覧

コマンド	オプションの説明	空白	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*
lwdtprinfo	プリンタ構成コード	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	用紙コード	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×
	給紙口名	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×
	用紙サイズ	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×

コマンド	オプションの説明	空白	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	
lwdtdest	配信出力先ID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	(注2)
	配信出力先名	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	配信出力サーバ名	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	(注2)
	プリンタ名	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	コメント	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	プリンタ構成コード	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	(注2)
	セパレータ印刷時の給紙口名	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	
	メッセージ通知先	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	機器メーカー名	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	機器型名	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	備考1～8	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
lwdtfol	配信フォルダID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	(注2)
	配信フォルダ名	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	配信出力先ID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	(注2)
	コメント	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	備考1～5	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)

コマンド	オプションの説明	+	,	-	`	.	/	:	;	<	=	>
lwdtprinfo	プリンタ構成コード	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	用紙コード	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
	給紙口名	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
	用紙サイズ	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
lwdtdest	配信出力先ID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
	配信出力先名	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	配信出力サーバ名	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	プリンタ名	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○

コマンド	オプションの説明	+	,	-	`	.	/	:	;	<	=	>
	コメント	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	プリンタ構成コード	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	セパレータ印刷時の給紙口名	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
	メッセージ通知先	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	機器メーカー名	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	機器型名	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	備考1～8	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
lwdtfol	配信フォルダID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
	配信フォルダ名	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	配信出力先ID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
	コメント	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	備考1～5	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○

コマンド	オプションの説明	?	@	[	¥	]	^	_	{		}	~
lwdtprinfo	プリンタ構成コード	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		(注2)										
	用紙コード	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○
	給紙口名	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
lwdtdest	用紙サイズ	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	配信出力先ID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○
		(注2)										
	配信出力先名	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
	配信出力サーバ名	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		(注2)										
	プリンタ名	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
	コメント	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
lwdtfol	プリンタ構成コード	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		(注2)										
	セパレータ印刷時の給紙口名	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	メッセージ通知先	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	機器メーカー名	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
	機器型名	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
	備考1～8	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
	配信フォルダID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
		(注2)										
lwdtfol	配信フォルダ名	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										

コマンド	オプションの説明	?	@	[	¥	]	^	_	{		}	~
	配信出力先ID	× (注2)	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○
	コメント	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	備考1～5	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:指定できる文字

×:指定できない文字

注1:半角空白のみの文字列を指定した場合は、空文字「」を指定した場合と同じ扱いになります。

注2:クエスチョンマーク「?」、アスタリスク「*」は、定義・変更・削除時には指定できません。ただし、一覧表示時にはワイルドカード文字として指定できます。



- オプションのパラメタを設定する際には、先頭にハイフン「-」を指定できません。
- オプションのパラメタに半角空白やOSが解釈する文字(>:リダイレクトなど)を含む文字を指定する場合はパラメタをダブルクォーテーション「"」で囲む必要があります。
- `lwdtprinfo`コマンドの給紙口名、用紙サイズ、`lwdtdest`コマンドのセパレータ印刷時の給紙口名を除くオプションのパラメタで、文字列の先頭と末尾に半角空白が含まれている場合、指定値は先頭と末尾の半角空白が除去された文字列となります。
- オプションのパラメタで、文字列にダブルクォーテーション「"」を使用する場合は、ダブルクォーテーションで囲むことでダブルクォーテーションを文字として扱うことができます。

16.1.3 lwdstmgrenvコマンド

以下の機能があります。

- 印刷配信の環境設定の定義
印刷配信の動作環境定義ファイルの内容を有効にし、印刷配信の環境設定を行います。
- 印刷配信の環境設定の表示
すでに設定されている印刷配信の環境設定の内容を表示します。

形式

コマンドの形式を示します。

印刷配信の環境設定を行う場合

```
lwdstmgrenv -f 印刷配信の動作環境定義ファイルのパス (絶対パス)
```

印刷配信の環境設定を表示する場合

```
lwdstmgrenv -i
```


注意

- ・ オプションの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ー 指定できない組み合わせでオプションを指定した場合
 - ー 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合

説明

オプションについて説明します。

-f 印刷配信の動作環境定義ファイルのパス(絶対パス)

印刷配信の環境設定を行う場合に必ず指定します。印刷配信の動作環境定義ファイルのパスを、256バイト以内の絶対パスで指定します。指定した印刷配信の動作環境定義ファイルの設定内容を有効にします。

環境設定した定義を変更する場合、データソース名を変更していない場合でもコマンド実行時に以下のメッセージが表示されます。正常に終了しているため、問題はありません。

```
isj2eeadmin: 情報: isj2ee2202:JDBCデータソースを削除しました NAME=データソース名
isj2eeadmin: 情報: isj2ee2200:JDBCデータソースを登録しました NAME=データソース名
```



印刷配信の動作環境定義ファイルについては、“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー -iオプションと同時に指定した場合
- ー 印刷配信の動作環境定義ファイルが存在しない場合
- ー 印刷配信の動作環境定義ファイルの記述が誤っている場合

注意

lwdstmgrenvコマンドの-fオプションを実行する場合は、配信管理サービスおよび配信出力サービスを停止してから実行します。実行後は配信管理サービスおよび配信出力サービスを起動してください。



起動/停止方法については“[10.1 サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

参考

配信データベースに関する設定が変更された場合、配信データベースの接続確認を行ってください。



確認方法については“[3.9.5 印刷配信の環境設定](#)”を参照してください。

-i

印刷配信の環境設定の内容を表示する場合に指定します。以下の内容が表示されます。

- ー db.type

- db.systemname
- db.hostname
- db.port
- db.datasourcename
- db.userid
- db.naming.port
- classpath.jdbc
- classpath.nls
- path.oci
- certificate.mode
- certificate.type
- certificate.domainname
- server.hostname
- delivery.writer.web.port
- delivery.manager.web.port
- delivery.manager.filetrans.port
- default.userid
- folder.rootpath

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -fオプションと同時に指定した場合
- 印刷配信の環境設定が行われていない場合

復帰値



復帰値については、“[16.1.7 環境設定用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

印刷配信の環境設定を行う場合

印刷配信の動作環境定義ファイルに指定した値で、印刷配信の環境設定を行います。

```
lwdstmgrenv -f C:\¥ListWORKS¥Distribute¥manager¥conf¥lwmctr.conf
```

印刷配信の環境設定の内容を表示する場合

印刷配信の環境設定の各キーの設定値を表示します。

```
lwdstmgrenv -i
```

印刷配信の環境設定の内容を表示した例を以下に示します。

```

db.type=0
db.systemname=LWLDSTDB
db.hostname=localhost
db.port=
db.datasourcename=LWLDSTDS
db.userid=Administrator
db.naming.port=10326
classpath.jdbc=C:\$FW\$FWCLNT\JDBC\lib\libfjsymjdbc2.jar
classpath.nls=
path.oci=
certificate.mode=0
certificate.type=1
certificate.domainname=
server.hostname=SYS1
delivery.writer.web.port=80
delivery.manager.web.port=80
delivery.manager.filetrans.port=9564
default.userid=Administrator
folder.rootpath=C:\ListWORKS\ Distribute\manager\managefolder

```

16.1.4 lwedtprinfoコマンド

プリンタ構成を編集(定義、変更、削除、一覧表示)します。

形式

コマンドの形式を示します。

[]は、省略できることを示します。

プリンタ構成を定義する場合

lwedtprinfo	-a	プリンタ構成コード
	-papercode	用紙コード
	[-supply	給紙口名]
	[-formsize	用紙サイズ]

プリンタ構成を変更する場合

lwedtprinfo	-u	プリンタ構成コード
	-papercode	用紙コード
	[-supply	給紙口名]
	[-formsize	用紙サイズ]

プリンタ構成を削除する場合

lwedtprinfo	-r	プリンタ構成コード
	-papercode	用紙コード

プリンタ構成を一覧表示する場合

lwedtprinfo	-i	[プリンタ構成コード]
	[-dspmode	表示モード]



注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ー 指定できない組み合わせでオプションを指定した場合
 - ー 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
- ・ **-a**オプション、**-u**オプションまたは**-r**オプションは、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してから実行してください。

説明

オプションについて説明します。

-a プリンタ構成コード

プリンタ構成の定義時に必ず指定します。プリンタ構成コードを3バイト以内の文字列で指定します。

指定したプリンタ構成コードと**-papercode**オプションで指定した用紙コードの組み合わせでプリンタ構成が定義されます。

指定したプリンタ構成コードが存在しない場合は、新たにプリンタ構成コードが生成されます。別の用紙コードとの組み合わせで、すでにプリンタ構成コードが存在する場合は、そのプリンタ構成コードに、今回指定した用紙コードが追加されます。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー **-u**オプション、**-r**オプション、または**-i**オプションと同時に指定した場合
- ー 指定したプリンタ構成コードと用紙コードの組み合わせがすでに存在していた場合
- ー 空文字[""]を指定した場合
- ー プリンタ構成コードを設定している配信出力先に、印刷ジョブが存在する場合

-u プリンタ構成コード

プリンタ構成を、変更する場合に必ず指定します。

プリンタ構成のプリンタ構成コードを3バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー **-a**オプション、**-r**オプション、または**-i**オプションと同時に指定した場合
- ー 指定したプリンタ構成コードと用紙コードの組み合わせが存在しなかった場合
- ー プリンタ構成コードを設定している配信出力先に、印刷ジョブが存在する場合

-r プリンタ構成コード

プリンタ構成を削除する場合に必ず指定します。削除するプリンタ構成のプリンタ構成コードを3バイト以内の文字列で指定します。本オプションで指定したプリンタ構成コードと**-papercode**オプションで指定した用紙コードの組み合わせで定義されるプリンタ構成が削除されます。すべてのプリンタ構成が削除されると、プリンタ構成コードも削除されます。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー **-a**オプション、**-u**オプション、または**-i**オプションと同時に指定した場合
- ー 削除するプリンタ構成が存在しなかった場合
- ー プリンタ構成コードを設定している配信出力先に、印刷ジョブが存在する場合

- すべてのプリンタ構成が削除される場合に、プリンタ構成コードが配信出力先で使用されている場合

-i [プリンタ構成コード]

プリンタ構成を一覧表示する場合に必ず指定します。

一覧表示するプリンタ構成のプリンタ構成コードを3バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

プリンタ構成コードを省略すると、すべてのプリンタ構成が表示対象となります。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -aオプション、-uオプション、または-rオプションと同時に指定した場合

-papercode 用紙コード

用紙コードを40バイト以内の文字列で指定します。

プリンタ構成を定義する場合(-aオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

プリンタ構成を変更する場合(-uオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。

プリンタ構成を削除する場合(-rオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。

-supply 給紙口名

給紙口名を以下から指定します。

- MA: 手差し
- NO: 指定なし(Windowsのプリンタドライバのプロパティの設定に従います)
- AT: 自動
- 給紙口名: (Windowsのプリンタドライバのプロパティで選択できる給紙口名を24バイト以内の文字列で指定します)



注意

- プリンタやプリンタドライバによっては、指定が有効にならない場合があります。
- 富士通ホスト帳票をインパクトプリンタおよび連続紙プリンタに印刷する場合は、プリンタドライバの設定で給紙口を設定してください。その場合、必ず-formsizeオプションで「OT」を設定してください。
- -formsizesizeオプションで用紙サイズを設定した場合は、以下のとおり動作します。
 - -supplyオプションで「AT」が設定された場合は、指定した用紙が存在する給紙口から給紙されます。
 - -supplyオプションで「NO」が設定された場合は、プリンタドライバに設定された給紙口から指定した用紙が給紙されます。給紙口に用紙が存在しない場合は、プリンタドライバおよびプリンタの仕様に従います。
 - -supplyオプションで「AT」、「NO」以外が設定された場合は、指定した給紙口から指定した用紙が給紙されます。給紙口に用紙が存在しない場合は、プリンタドライバおよびプリンタの仕様に従います。
- 以下の場合、プリンタドライバ、プリンタの仕様に従います。
 - プリンタ/プリンタドライバが指定された給紙口名をサポートしていない場合

プリンタ構成を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、給紙口名は指定されず、帳票に設定された給紙方法、給紙口名が有効になります。

プリンタ構成を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。設定値を消去したい場合は、「」と指定してください。

-formsize 用紙サイズ

用紙サイズを以下から指定します。

- A3:A3用紙
- A4:A4用紙
- A5:A5用紙
- A6:A6用紙
- B4:B4用紙
- B5:B5用紙
- PS:はがき
- LT:Letter
- LG:Legal
- NO:指定なし(帳票に設定された用紙サイズに従います)
- OT:List Works帳票を印刷する場合は、プリンタドライバの設定が有効になります。List Creator互換印刷機能で印刷する場合は、帳票の用紙サイズが有効になります。
- 用紙サイズ:(Windowsのプリンタドライバのプロパティで選択できる用紙名を64バイト以内の文字列で指定します)



- プリンタやプリンタドライバによっては、指定が有効にならない場合があります。
- 富士通ホスト帳票をインパクトプリンタおよび連続紙プリンタに印刷する場合は、プリンタドライバの設定で用紙サイズを指定してください。その場合、必ず-formsizeオプションで「OT」を指定してください。
- -formsizeオプションで用紙サイズを設定した場合は、以下のとおり動作します。
 - -supplyオプションで「AT」が設定された場合は、指定した用紙が存在する給紙口から給紙されます。
 - -supplyオプションで「NO」が設定された場合は、プリンタドライバに設定された給紙口から指定した用紙が給紙されます。給紙口に用紙が存在しない場合は、プリンタドライバおよびプリンタの仕様に従います。
 - -supplyオプションで「AT」、「NO」以外が設定された場合は、指定した給紙口から指定した用紙が給紙されます。給紙口に用紙が存在しない場合は、プリンタドライバおよびプリンタの仕様に従います。
- 以下の場合、プリンタドライバ、プリンタの仕様に従います。
 - プリンタ/プリンタドライバが指定された用紙サイズをサポートしていない場合
 - Windowsのプリンタドライバのプロパティに指定した用紙が定義されていない場合
- List Works帳票をはがき、Legalで印刷する場合は、必ず-formsizeオプションで対応する用紙サイズを設定してください。

プリンタ構成を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、用紙サイズは指定されず、帳票に設定された用紙サイズが有効になります。

プリンタ構成を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。設定値を消去したい場合は、「'''」と指定してください。

-dspmode 表示モード

コマンドの表示モードを以下から指定します。

- 0:一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない
- 1:一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力する

プリンタ構成を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、省略すると「0(一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない)」が指定されます。

復帰値



復帰値については、“[16. 1. 7 環境設定用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

プリンタ構成を定義する場合

プリンタ構成を、プリンタ構成コードが「001」、用紙コードが「paper1」、給紙口名が「給紙口1」として定義します。

```
lwedtpinfo -a 001 -papercode paper1 -supply 給紙口1
```

プリンタ構成を変更する場合

プリンタ構成コードが「001」、用紙コードが「paper2」のプリンタ構成の用紙サイズを「B5」(B5用紙)に変更します。

```
lwedtpinfo -u 001 -papercode paper2 -formsize B5
```

プリンタ構成を削除する場合

プリンタ構成コードが「001」、用紙コードが「paper1」のプリンタ構成を削除します。

```
lwedtpinfo -r 001 -papercode paper1
```

プリンタ構成を一覧表示する場合

プリンタ構成コードが「001」のプリンタ構成を項目名付きで一覧表示します。

```
lwedtpinfo -i 001 -dspmode 1
```

プリンタ構成コードが「001」のプリンタ構成の一覧表示例を、以下に示します。値が設定されていない場合でもカンマ「,」は、必ず表示されます。

```
Print_Model_Code, Paper_Code, Feed_Place, Y_Size, X_Size, Form_Size  
001, paper1, 給紙口1, 0, 0, A4
```

一覧表示例の見方

一覧表示では、以下の順序で表示されます。

```
プリンタ構成コード, 用紙コード, 給紙口名, 予備(注), 予備(注), 用紙サイズ
```

注: 将来の拡張領域です。常に「0」が出力されます。



注意

一覧表示する場合、特殊文字を含む文字列は、以下のように表示されます。

— カンマ「,」を含む場合

文字列全体をダブルクォーテーション「"」で囲みます。

ー ダブルクォーテーション「"」を含む場合

該当文字の前にダブルクォーテーション「"」を付加し、さらにダブルクォーテーション「""」で文字列全体を囲みます。

16.1.5 lwedtdestコマンド

配信出力先を編集(定義、変更、削除、一覧表示)します。

形式

コマンドの形式を示します。

[]は、省略できることを示します。

配信出力先を定義する場合

lwedtdest	-a	配信出力先ID
	-name	配信出力先名
	-hostname	配信出力サーバ名
	-devicename	プリンタ名
	[-comment	コメント]
	[-prtmodelcode	プリンタ構成コード]
	[-separator	セパレータ印刷指定]
	[-septype	セパレータの印刷方法]
	[-sepsupply	セパレータ印刷時の給紙口名]
	[-msgclient	メッセージ通知先]
	[-makename	機器メーカー名]
	[-modelname	機器型名]
	[-displaymsg	用紙交換メッセージ表示指定]
	[-customizeitem1	備考1]
	[-customizeitem2	備考2]
	[-customizeitem3	備考3]
	[-customizeitem4	備考4]
	[-customizeitem5	備考5]
	[-customizeitem6	備考6]
	[-customizeitem7	備考7]
	[-customizeitem8	備考8]

配信出力先を変更する場合

lwedtdest	-u	配信出力先ID
	[-name	配信出力先名]
	[-comment	コメント]
	[-prtmodelcode	プリンタ構成コード]
	[-separator	セパレータ印刷指定]
	[-septype	セパレータの印刷方法]
	[-sepsupply	セパレータ印刷時の給紙口名]
	[-msgclient	メッセージ通知先]
	[-makename	機器メーカー名]
	[-modelname	機器型名]
	[-displaymsg	用紙交換メッセージ表示指定]
	[-customizeitem1	備考1]
	[-customizeitem2	備考2]
	[-customizeitem3	備考3]
	[-customizeitem4	備考4]
	[-customizeitem5	備考5]
	[-customizeitem6	備考6]

<code>[-customizeitem7</code>	備考7]
<code>[-customizeitem8</code>	備考8]

配信出力先を削除する場合

<code>lwedtdest</code>	<code>-r</code>	配信出力先ID

配信出力先を一覧表示する場合

<code>lwedtdest</code>	<code>-i</code>	[配信出力先ID]
	<code>[-name</code>	配信出力先名]
	<code>[-hostname</code>	配信出力サーバ名]
	<code>[-devicename</code>	プリンタ名]
	<code>[-prtmodelcode</code>	プリンタ構成コード]
	<code>[-comment</code>	コメント]
	<code>[-makername</code>	機器メーカー名]
	<code>[-modelname</code>	機器型名]
	<code>[-customizeitem1</code>	備考1]
	<code>[-customizeitem2</code>	備考2]
	<code>[-customizeitem3</code>	備考3]
	<code>[-customizeitem4</code>	備考4]
	<code>[-customizeitem5</code>	備考5]
	<code>[-customizeitem6</code>	備考6]
	<code>[-customizeitem7</code>	備考7]
	<code>[-customizeitem8</code>	備考8]
	<code>[-status</code>	状態]
	<code>[-dspmode</code>	表示モード]

注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ー 指定できない組み合わせでオプションを指定した場合
 - ー 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
 - ー 指定できる数値以外の値を指定した場合
- ・ `-a`オプション、`-u`オプションまたは`-r`オプションは、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してから実行してください。

説明

オプションについて説明します。

-a 配信出力先ID

配信出力先の定義時に必ず指定します。

定義する配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先は「稼働」の状態で作成されます。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー `-u`オプション、`-r`オプション、または`-i`オプションと同時に指定した場合

- 空文字「」を指定した場合
- 定義する配信出力先がすでに存在していた場合

-u 配信出力先ID

配信出力先の変更時に必ず指定します。

内容を変更する配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -aオプション、-rオプション、または-iオプションと同時に指定した場合
- 変更する配信出力先が存在しなかった場合
- 変更する配信出力先に、印刷ジョブが存在する場合

-r 配信出力先ID

配信出力先の削除時に必ず指定します。

削除する配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -aオプション、-uオプション、または-iオプションと同時に指定した場合
- 削除する配信出力先が存在しなかった場合
- 削除する配信出力先が、配信フォルダの配信出力先に指定されている場合
- 削除する配信出力先に、印刷ジョブが存在する場合

-i [配信出力先ID]

配信出力先の一覧表示時に、必ず指定します。一覧表示する配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

配信出力先IDを省略すると、すべての配信出力先が表示対象となります。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -aオプション、-uオプション、または-rオプションと同時に指定した場合

-name 配信出力先名

配信出力先の名前を80バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。同じ名前の配信出力先が存在する場合や、空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、同じ名前の配信出力先が存在する場合や、空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての配信出力先名が表示対象となります。

-hostname 配信出力サーバ名

配信出力サーバを運用しているサーバのホスト名またはIPアドレスを、255バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての配信出力サーバ名が表示対象となります。

-devicename プリンタ名

プリンタ名を、256バイト以内の文字列で指定します。ここで指定するプリンタ名は、配信出力サーバの環境構築で、Windowsのプリンタを定義しておく必要があります。



プリンタの定義については、“[4.2.3 プリンタの定義](#)”および“[4.8.2 プリンタの管理環境の設定](#)”を参照してください。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべてのプリンタ名が表示対象となります。



注意

配信出力サーバを運用しているサーバにPrint Managerがインストールされている場合、Print Managerで追加した、リモートプリンタ、List Worksプリンタ、FAX連携プリンタを本項目に指定できません。指定した場合、印刷時にエラーとなります。

-comment コメント

配信出力先のコメントを、64バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、コメントには何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべてのコメントが表示対象となります。

-prtmodelcode プリンタ構成コード

lwdtprinfoコマンドで定義した、プリンタ構成コードを3バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、プリンタ構成コードは指定されません。また、定義されていないプリンタ構成コードを指定すると、コマンドはエラーで復帰します。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。設定されている値を消去する場合は、「'''」と指定してください。また、定義されていないプリンタ構成コードを指定すると、コマンドはエラーで復帰します。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべてのプリンタ構成コードが表示対象となります。

-separator セパレータ印刷指定

セパレータを印刷するかどうかを以下から指定します。

- 0:セパレータを印刷しない
- 1:セパレータを印刷する

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、「0(セパレータを印刷しない)」が指定されます。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。

-septype セパレータの印刷方法

セパレータの印刷方法を以下から指定します。

- 0:定型フォーマットで印刷する
- 1:白紙で印刷する

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、「0(定型フォーマットで印刷する)」が指定されます。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。

「0(定型フォーマットで印刷する)」が設定されている場合、セパレータには以下の項目が出力されます。

- 業務印刷名:帳票名が出力されます。
- プリンタ名:帳票を印刷したプリンタ名が出力されます。
- 印刷時刻:帳票を印刷した時刻が出力されます。
- ユーザ名:印刷を指示したユーザIDが出力されます。即時印刷の場合は、帳票の作成ユーザIDが出力されます。
- ドキュメント名:帳票名が出力されます。

-sepsupply セパレータ印刷時の給紙口名

セパレータ印刷時の給紙口名を、24バイト以内の文字列で指定します。給紙口名はWindowsのプリンタドライバのプロパティに設定されている必要があります。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、給紙口名は指定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。設定値を消去したい場合は、「'''」と指定してください。

-msgclient メッセージ通知先

メッセージの通知先のホスト名またはIPアドレスを、255バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、メッセージ通知先は指定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。設定値を消去したい場合は、「'''」と指定してください。

メッセージ通知クライアントは、本コマンド以外に複数の場所で指定できます。



採用される優先順位については、“[1.4.3 帳票情報の優先順位](#)”を参照してください。

-makename 機器メーカー名

機器メーカー名を、40バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、機器メーカー名には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての機器メーカー名が表示対象となります。

-modelname 機器型名

機器型名を、40バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、機器型名には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての機器型名が表示対象となります。

-displaymsg 用紙交換メッセージ表示指定

用紙交換メッセージ表示指定を以下から指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 用紙変更時に自動で表示する
- 2: 印刷開始時に必ず表示する

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、「0(表示しない)」が指定されます。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。



注意

用紙交換メッセージ表示を利用する場合は、帳票に用紙コードを必ず設定してください。



帳票に用紙コードを設定する方法については、“9.2 印刷データの準備”を参照してください。

-customizeitem1 備考1

配信出力先の備考1を、8バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考1には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考1が表示対象となります。

-customizeitem2 備考2

配信出力先の備考2を、8バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考2には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考2が表示対象となります。

-customizeitem3 備考3

配信出力先の備考3を、8バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考3には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考3が表示対象となります。

-customizeitem4 備考4

配信出力先の備考4を、1024バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考4には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考4が表示対象となります。

-customizeitem5 備考5

配信出力先の備考5を、256バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考5には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考5が表示対象となります。

-customizeitem6 備考6

配信出力先の備考6を、256バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考6には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考6が表示対象となります。

-customizeitem7 備考7

配信出力先の備考7を、64バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考7には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考7が表示対象となります。

-customizeitem8 備考8

配信出力先の備考8を、64バイト以内の文字列で指定します。

配信出力先を定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考8には何も設定されません。

配信出力先を変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「'''」と指定してください。

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考8が表示対象となります。

-status 状態

表示対象とする配信出力先の状態を指定します。

- 0: 停止
- 1: 稼働

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、省略すると、すべての配信出力先の状態が表示対象となります。

-dspmode 表示モード

コマンドの表示モードを以下から指定します。

- 0: 一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない
- 1: 一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力する

配信出力先を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、省略すると「0(一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない)」が指定されます。

復帰値



復帰値については、“[16.1.7 環境設定用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

配信出力先を定義する場合

配信出力先IDが「dest1」、配信出力先名が「プリンタ1」、配信出力サーバ名が「printserv1」、プリンタ名が「PS5600B」、コメントが「業務A用プリンタ」、メッセージ通知先が「kanri1」として、定義します。

```
lwdtdest -a dest1 -name プリンタ1 -hostname printserv1 -devicename PS5600B -comment 業務A用プリンタ -msgclient kanri1
```


配信出力先を変更する場合

配信出力先IDが「dest1」の配信出力先のコメントを「業務A用プリンタ」に変更します。

```
lwedtddest -u dest1 -comment 業務A用プリンタ
```

配信出力先を削除する場合

配信出力先IDが「dest1」の配信出力先を削除します。

```
lwedtddest -r dest1
```

配信出力先を一覧表示する場合

配信出力先IDが「dest1」の配信出力先を項目名付きで一覧表示します。

```
lwedtddest -i dest1 -dspmode 1
```

配信出力先IDが「dest1」の配信出力先の一覧表示例を、以下に示します。値が設定されていない場合でもカンマ「,」は、必ず表示されます。

```
Dest_ID, Dest_Name, Comment, Host_Name, Printer_Name, Print_Model_Code, Maker_Name, Model_Name, CustomizeItem_1, CustomizeItem_2, CustomizeItem_3, CustomizeItem_4, CustomizeItem_5, CustomizeItem_6, CustomizeItem_7, CustomizeItem_8, Message_of_Paper_Change, Notice_Client, Separator, Separator_Mode, Separator_Supply, Dest_State  
dest1, プリンタ1, 業務A用プリンタ, printserv1, PS5600, 001, , , , , , 1, kanri1.0.0, , 1
```

一覧表示例の見方

一覧表示では、以下の順序で表示されます。

配信出力先ID, 配信出力先名, コメント, 配信出力サーバ名, プリンタ名, プリンタ構成コード, 機器メーカー名, 機器型名, 備考1, 備考2, 備考3, 備考4, 備考5, 備考6, 備考7, 備考8, 用紙交換メッセージ表示指定, メッセージ通知先, セパレータ印刷指定, セパレータの印刷方法, セパレータ印刷時の給紙口名, 状態



注意

一覧表示する場合、特殊文字を含む文字列は、以下のように表示されます。

ー カンマ「,」を含む場合

文字列全体をダブルクォーテーション「"」で囲みます。

ー ダブルクォーテーション「"」を含む場合

該当文字の前にダブルクォーテーション「"」を付加し、さらにダブルクォーテーション「"」で文字列全体を囲みます。

16.1.6 lwedtfolコマンド

配信フォルダを編集(定義、変更、削除、一覧表示)します。

形式

コマンドの形式を示します。

[]は、省略できることを示します。

配信フォルダを定義する場合

lwedtfol	-a	配信フォルダID
	-name	配信フォルダ名
	[-primarydest	配信出力先ID]
	[-outputmode	出力動作モード]
	[-priority	優先度]
	[-comment	コメント]
	[-customizeitem1	備考1]
	[-customizeitem2	備考2]
	[-customizeitem3	備考3]
	[-customizeitem4	備考4]
	[-customizeitem5	備考5]
	[-keepdays	保存日数]

配信フォルダを変更する場合

lwedtfol	-u	配信フォルダID
	[-name	配信フォルダ名]
	[-primarydest	配信出力先ID]
	[-outputmode	出力動作モード]
	[-priority	優先度]
	[-comment	コメント]
	[-customizeitem1	備考1]
	[-customizeitem2	備考2]
	[-customizeitem3	備考3]
	[-customizeitem4	備考4]
	[-customizeitem5	備考5]
	[-keepdays	保存日数]

配信フォルダを削除する場合

lwedtfol	-r	配信フォルダID

配信フォルダを一覧表示する場合

lwedtfol	-i	[配信フォルダID]
	[-name	配信フォルダ名]
	[-primarydest	配信出力先ID]
	[-outputmode	出力動作モード]
	[-priority	優先度]
	[-comment	コメント]
	[-customizeitem1	備考1]
	[-customizeitem2	備考2]
	[-customizeitem3	備考3]
	[-customizeitem4	備考4]
	[-customizeitem5	備考5]
	[-dspmode	表示モード]



注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ー 指定できない組み合わせでオプションを指定した場合

- 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
- 指定できる数値以外の値を指定した場合
- **-aオプション、-uオプションまたは-rオプションは、帳票の登録や印刷などの運用が行われていないことを確認してから実行してください。**

説明

オプションについて説明します。

-a 配信フォルダID

配信フォルダの定義時に必ず指定します。

定義する配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- **-uオプション、-rオプション、または-iオプションと同時に指定した場合**
- 空文字[""]を指定した場合
- 定義する配信フォルダがすでに存在する場合

-u 配信フォルダID

配信フォルダの変更時に必ず指定します。

内容を変更する配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- **-aオプション、-rオプション、または-iオプションと同時に指定した場合**
- 変更する配信フォルダが存在しなかった場合

-r 配信フォルダID

配信フォルダの削除時に必ず指定します。

削除する配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- **-aオプション、-uオプション、または-iオプションと同時に指定した場合**
- 削除する配信フォルダが存在しなかった場合
- 削除する配信フォルダ内に帳票が存在している場合



注意

本コマンドによって削除された配信フォルダは、表示したり、操作したりできなくなりますが、配信フォルダの情報は残ったままとなっています。

これらのフォルダ情報は、lwcleanformコマンドの実行によって一緒に削除されます。



lwcleanformコマンドの詳細については、“[16.3.7 lwcleanformコマンド](#)”を参照してください。

-i [配信フォルダID]

配信フォルダの一覧表示時に、必ず指定します。一覧表示する配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

配信フォルダIDを省略すると、すべての配信フォルダが表示対象となります。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -aオプション、-uオプション、または-rオプションと同時に指定した場合

-name 配信フォルダ名

配信フォルダの名前を80バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)、必ず指定する必要があります。同じ名前の配信フォルダが存在する場合や、空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、同じ名前の配信フォルダが存在する場合や、空文字「」を指定した場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての配信フォルダ名が表示対象となります。

-primarydest 配信出力先ID

配信フォルダに設定する配信出力先のIDを、80バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、配信出力先IDには何も設定されません。配信出力先IDを設定しない場合に、-outputmodeオプションで設定される、出力動作モードが「1(即時印刷)」の場合は、コマンドがエラーで復帰します。また、指定した配信出力先が存在しない場合は、エラーで復帰します。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「」と指定してください。配信出力先IDを設定しない場合に、-outputmodeオプションで設定される、出力動作モードが「1(即時印刷)」の場合は、コマンドがエラーで復帰します。また、指定した配信出力先が存在しない場合は、エラーで復帰します。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての配信出力先IDが表示対象となります。

-outputmode 出力動作モード

出力動作モードを以下から指定します。

- 0:ため置き印刷
- 1:即時印刷

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、省略すると、「0(ため置き印刷)」が指定されます。出力動作モードが「1(即時印刷)」の場合に、-primarydestオプションで設定される、配信出力先IDが設定されていない場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。出力動作モードが「1(即時印刷)」の場合に、-primarydestオプションで設定される、配信出力先IDが設定されていない場合は、コマンドがエラーで復帰します。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、省略すると、すべての出力動作モードが表示対象となります。

-priority 優先度

印刷指示時の印刷ジョブの優先度を1(優先度:低)～10(優先度:高)の範囲の整数で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、「1(優先度:低)」が指定されます。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、省略すると、すべての優先度が表示対象となります。

-comment コメント

配信フォルダのコメントを、64バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、コメントには何も設定されません。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「""」と指定してください。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべてのコメントが表示対象となります。

-customizeitem1 備考1

配信フォルダの備考1を、1024バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考1には何も設定されません。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「""」と指定してください。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考1が表示対象となります。

-customizeitem2 備考2

配信フォルダの備考2を、256バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考2には何も設定されません。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「""」と指定してください。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考2が表示対象となります。

-customizeitem3 備考3

配信フォルダの備考3を、256バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考3には何も設定されません。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「""」と指定してください。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考3が表示対象となります。

-customizeitem4 備考4

配信フォルダの備考4を、64バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考4には何も設定されません。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「""」と指定してください。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考4が表示対象となります。

-customizeitem5 備考5

配信フォルダの備考5を、64バイト以内の文字列で指定します。

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、備考5には何も設定されません。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。また、設定値を消去したい場合は「""」と指定してください。

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考5が表示対象となります。

-keepdays 保存日数

配信フォルダの帳票の保存日数を以下から指定します。

- 0 : 無期限
- 1～9999の整数 : 指定した日数

配信フォルダを定義する場合(-aオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、「0(無期限)」が指定されます。

配信フォルダを変更する場合(-uオプションを指定する場合)に、本オプションを省略すると、すでに設定されている値が保持されます。

lwdelexpireコマンドを実行することで、配信フォルダの保存期限を経過した帳票を削除できます。



コマンドの詳細は、“[16.3.6 lwdelexpireコマンド](#)”を参照してください。

-dspmode 表示モード

コマンドの表示モードを以下から指定します。

- 0: 一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない
- 1: 一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力する

配信フォルダを一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、省略すると「0(一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない)」が指定されます。

復帰値



復帰値については、“[16.1.7 環境設定用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

配信フォルダを定義する場合

配信フォルダを、配信フォルダIDが「folder1」、配信フォルダ名が「フォルダ1」、出力動作モードが「1」(即時印刷)、配信出力先IDが「printer1」、保存日数が「100」日として、定義します。

```
lwedtfol -a folder1 -name フォルダ1 -primarydest printer1 -outputmode 1 -keepdays 100
```

配信フォルダを変更する場合

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダのコメントを「業務B用」に変更します。

```
lwedtfol -u folder1 -comment 業務B用
```

配信フォルダを削除する場合

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダを削除します。

```
lwedtfol -r folder1
```

配信フォルダを一覧表示する場合

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダを項目名付きで一覧表示します。

```
lwedtfol -i folder1 -dspmode 1
```

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダの一覧表示例を、以下に示します。値が設定されていない場合でもカンマ「,」は、必ず表示されます。

Distribute_Folder_Id, Distribute_Folder_Name, Primary_Dest_ID, Output_Mode, Priority, Comment, Customizeitem_1, Customizeitem_2, Customizeitem_3, Customizeitem_4, Customizeitem_5, Keep_Days folder1, フォルダ1, printer1, 0, 1, 業務B用, , , , , 100

一覧表示例の見方

一覧表示では、以下の順序で表示されます。

配信フォルダID, 配信フォルダ名, 配信出力先ID, 出力動作モード, 優先度, コメント, 備考1, 備考2, 備考3, 備考4, 備考5, 保存日数



注意

一覧表示する場合、特殊文字を含む文字列は、以下のように表示されます。

— カンマ「,」含む場合

文字列全体をダブルクォーテーション「"」で囲みます。

16.1.7 環境設定用のコマンドの復帰値

配信管理サーバの環境設定用のコマンドの復帰値を、以下の表に示します。

なお、配信管理サーバの環境設定用のコマンドでエラーが発生した場合(復帰値が0以外の場合)には、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージを確認して、対処してください。エラーメッセージで対処できない場合は、イベントログを確認してください。



イベントログについては、“[17.2.1 ソースが「List Works Distributor」のイベントログ](#)”を参照してください。

復帰値	意味
0	正常復帰
1	管理者権限エラー
2	オプションエラー
3	パラメタエラー
4	メモリ確保失敗
5	システムリソース不足
6	指定した値が未定義の場合のエラー
7	定義済みエラー
8	指定した値が他の定義で使用されている場合のエラー
9	印刷処理中の場合のエラー
10	データベース未接続
11	データベースアクセスエラー
12	動作環境エラー
13	その他のエラー(内部エラー)

16.2 配信出力サーバの環境設定

配信出力サーバの環境設定用のコマンドを実行する場合の留意点と各コマンドについて説明します。

16.2.1 利用時の準備

配信出力サーバの環境設定用のコマンドを使用するためには、以下の準備が必要です。

- サービス「PRT Server Service」が起動している必要があります。なお、サービス「PRT Server Service」は、システムの起動時に自動で起動します。
- コマンドを実行するには、管理者権限が必要です。
Windows Server 2008でコマンドを実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

16.2.2 環境設定用のコマンドで指定できる文字

配信出力サーバの環境設定用のコマンドで指定できる文字について示します。

指定できる範囲

配信出力サーバの環境設定用のコマンドで指定できる文字/記号の範囲について示します。

- 半角文字 : 半角英数字と半角記号を合わせた範囲の文字
- 半角英数字 : A～Z,a～z,0～9
- 半角記号 : ASCIIコードで0x20～0x2f、0x3a～0x40、0x5b～0x60、0x7b～0x7eの範囲の文字

指定できる文字

配信出力サーバの環境設定用のコマンドのオプションで指定できる文字について示します。

オプション	指定できる文字
プリンタ名	半角文字。ただし半角記号「 」、「 」、「 」を除く



注意

オプションのパラメタに半角空白やOSが解釈する文字(>:リダイレクトなど)を含む文字を指定する場合はパラメタをダブルクォーテーション「"」で囲む必要があります。

16.2.3 addlprtコマンド

Windowsで定義したプリンタを、印刷状態を監視できるように管理対象として追加します。

形式

コマンドの記述形式を示します。

addlprt	-p	プリンタ名

説明

オプションについて説明します。

-p プリンタ名

管理対象として追加するプリンタ名を指定します。なお、複数のプリンタを指定できません。

復帰値

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常復帰
上記以外	エラー復帰

使用例

管理対象にプリンタを追加する場合

プリンタ「localprt」を管理対象として追加します。

```
addlprt -p localprt
```



注意

本コマンドを実行する前に、Windowsのプリンタの定義が必要です。

16.2.4 delprtコマンド

管理対象のプリンタを管理対象から削除します。

形式

コマンドの記述形式を示します。

delprt	-p	プリンタ名

説明

オプションについて説明します。

-p プリンタ名

管理対象から削除するプリンタ名を指定します。なお、複数のプリンタを指定できません。

復帰値

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常復帰
上記以外	エラー復帰

使用例

管理対象のプリンタを管理対象から削除する場合

プリンタ「localprt」を管理対象から削除します。

```
delprt -p localprt
```



注意

- ・ 本コマンドにより管理対象からプリンタが削除されますが、Windowsのプリンタの定義自体は削除されません。
- ・ Windowsのプリンタの定義を削除すると、管理対象のプリンタも自動的に管理対象から削除されます。

16.2.5 prtlistコマンド

管理対象のプリンタを一覧表示します。

形式

コマンドの記述形式を示します。

```
prtlist
```

説明

オプションはありません。

復帰値

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常復帰
上記以外	エラー復帰

使用例

管理対象のプリンタを一覧表示する場合

管理対象のプリンタを一覧表示します。

```
prtlist
```

管理対象のプリンタの一覧表示例を、以下に示します。

```
[Local Printer]
localprt
localprt2
```



注意

Print Managerが適用された環境で、Print Managerのリモートプリンタ、FAX連携プリンタ、List Worksプリンタが定義されている場合、このコマンドを実行すると、そのリモートプリンタ、FAX連携プリンタ、List Worksプリンタも一覧表示されます。

16.2.6 setenvdefコマンド

プリンタの管理環境における、全体の設定情報を表示/変更します。

形式

コマンドの記述形式を示します。

[]は、省略できることを示します。…は、複数指定できることを示します。

setenvdef	-a	動作モード
	-g	区分名
	[-i	設定項目=設定値] …

説明

オプションについて説明します。

-a 動作モード

動作モードを指定します。

- GET:プリンタの管理環境において、全体の設定情報を表示します。
- SET:プリンタの管理環境において、全体の設定情報を変更します。

-g 区分名

以下の区分名からいずれかを指定します。

区分名	区分内容
FLD	スプールフォルダに関する設定 本設定を有効にするには、コンピュータの再起動が必要です。
LOG_OPR	プリンタ監視の操作ログに関する設定
LOG_TRC	プリンタ監視のトレースログに関する設定
PRT_ERRMSG	返答メッセージ/応答メッセージに関する設定

-i 設定項目=設定値

- gオプションで指定した区分名に対応する設定項目と設定内容を「設定項目=設定値」の形式で指定します。
- aオプションで動作モードに「GET」を指定した場合は、本オプションは無効になります。

-aオプションで動作モードに「SET」を指定した場合は、-gオプションで指定した区分名に対応する設定項目を本オプションで複数指定できます。なお、同じ項目を複数設定した場合は、最後に設定された値が有効になります。

以下に区分名ごとの設定項目と設定値を示します。

- ・区分名に「FLD」を指定した場合の設定項目と設定値

本設定を有効にするには、コンピュータの再起動が必要です。

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
SPL (注1)(注2)(注3)	スプールフォルダを変更します。	変更するスプールフォルダをフルパスで指定します。	(Windowsのシステムドライブ)¥windows ¥system32¥spool¥PRINTERS

注1:

存在しないフォルダを設定した場合は、必ず作成してください。なお、Print Managerがインストールされている環境では、Print Managerの設定「印刷後のスプール保存フォルダ」と同じフォルダは指定できません。

注2:

ここで設定するフォルダがNTFS形式の場合、Usersグループのユーザに「変更」のアクセス許可を割り当ててください。

注3:

スプールフォルダには、Windowsのスプールファイルが格納されます。



スプールフォルダの変更手順については、“[4.8.2 プリンタの管理環境の設定](#)”を参照してください。

- ・区分名に「LOG_OPR」を指定した場合の設定項目と設定値

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
EVENT (注1)	採取するイベントの種類(エラー/警告/情報)を変更します。	以下の3桁の数字からなる文字列で指定します。 ・ 左から1桁目:エラー (0:採取しない 1:採取する) ・ 左から2桁目:警告 (0:採取しない 1:採取する) ・ 左から3桁目:情報 (0:採取しない 1:採取する) 例: エラー、警告のみ採取する場合 110	・ エラー:1 ・ 警告:1 ・ 情報:1
LOGFILE (注1)	プリンタ監視の操作ログの格納先および出力ファイル名を変更します。	プリンタ監視の操作ログの出力ファイル名を255バイト以内のフルパスで指定します。このうち出力ファイル名を除いた、格納先のフォルダまで	List Worksのインストール先フォルダ ¥PrintMGR¥Work¥log¥f3ewopr.log

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
		のパスは、229バイト以内で指定します。	
LOGSZ (注1)	プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズを変更します。	64～10240の整数値で、キロバイト単位で指定します。	1024
LOGNUM (注1)(注2)	プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数を変更します。	0～7までの整数値で、ファイル数を指定します。	2

注1:

以下の場合、ログファイルを作成(更新)するために必要なディスクの空き容量が不足し、エラーメッセージが出力されることがあります。

- － 「EVENT」で採取条件を変更した場合
- － 「LOGSZ」でファイルサイズを大きくした場合
- － 「LOGFILE」でファイル名を変更した場合
- － 「LOGNUM」で退避ファイル数を変更した場合

ディスクの空き容量を増やして、再度、設定してください。ただし、ログファイルの作成(更新)は、ログが出力されたタイミングで行われるため、環境設定が完了してからログが出力されるまでの間にディスクの空き容量が不足した場合は、指定した内容は無効になり、変更前の値が有効になります。この場合、ソースがF3EWSVLGのイベントログ(イベントID:140)が出力されますので、内容を確認してください。



イベントログについては、“[17.3 配信出力サーバのメッセージ](#)”を参照してください。

注2:

退避ファイル名は、「f3ewoprAuto 年月日時分秒.log」の形式でログファイルを出力するフォルダに作成されます。0を指定した場合、退避ファイルは作成されず、古いログから順に上書きされます。

- ・ 区分名に「LOG_TRC」を指定した場合の設定項目と設定値

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
LEVEL (注1)	プリンタ監視のトレースログの採取条件を変更します。	以下の2桁の数字からなる文字列で指定します。LEVELは、数字が大きいほど多くの情報を採取します。 ・ 左から1桁目: プログラムトレース (0: 採取しない 1～3: LEVEL1～3) ・ 左から2桁目: ネットワークトレース (0: 採取しない 1～3: LEVEL1～3) 例: プログラムトレースはLEVEL3で採取し、ネットワークトレースは採取しない場合 30	・ プログラム トレース: 3 ・ ネットワーク トレース: 0

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
LOGSZ (注1)	プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズを変更します。	64～99999の整数値で、キロバイト単位で指定します。ただし、本設定で変更した場合、変更前のトレースログの内容は無効になります。	16384
LOGNUM (注1)(注2)	プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数を変更します。	0～7までの整数値で、ファイル数を指定します。	2

注1:

以下の場合、ログファイルを作成(更新)するために必要なディスクの空き容量が不足し、エラーメッセージが出力されることがあります。

- 「LEVEL」で採取条件を変更した場合
- 「LOGSZ」でファイルサイズを大きくした場合
- 「LOGNUM」で退避ファイル数を変更した場合

ディスクの空き容量を増やして、再度、設定してください。ただし、ログファイルの作成(更新)は、ログが出力されたタイミングで行われるため、環境設定が完了してからログが出力されるまでの間にディスクの空き容量が不足した場合は、指定した内容は無効になり、変更前の値が有効になります。この場合、ソースがF3EWSVLGのイベントログ(イベントID:141)が出力されますので、内容を確認してください。



イベントログについては、“[17.3 配信出力サーバのメッセージ](#)”を参照してください。

注2:

0を指定した場合、退避ファイルは作成されず、古いログから順に上書きされます。

- ・ 区分名に「PRT_ERRMSG」を指定した場合の設定項目と設定値

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
RMSGDEST	返答メッセージ/応答メッセージを通知する、メッセージ通知クライアントのIPアドレス、ホスト名を変更します。	1文字以上の文字列で、メッセージ通知クライアントのIPアドレスまたはホスト名を指定します。 IPアドレスで指定する場合は、0～9までの数字とピリオド「.」を使用して、XXX.XXX.XXX.XXXの形式で指定してください。 メッセージ通知クライアントのIPアドレス、ホスト名はセミコロン「;」で区切って最大5つまで指定できます。(注1) 複数指定した場合、指定した順で最初に通信可能なコンピュータ1台にメッセージが通知されます。 メッセージ通知クライアントは、本コマンド以外に複数の場所で指定できます。 採用される優先順位については、“ 1.4.3 帳票情報の優先順位 ”を参照してください。	ローカルコンピュータ名
POPUP (注2)	メッセージウィンドウのポップアップを変更します。	数値の0か1を指定します。0または1以外の値を指定した場合、エラーになります。 0: ポップアップ表示しない 1: ポップアップ表示する	0

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
DISPBTN (注3)(注4)	返答メッセージ/応答メッセージの選択肢(続行/保留/操作/削除)を変更します。	以下の4桁の数字からなる文字列で指定します。ただし、0000(いずれも選択しない)は設定できません。 - 左から1桁目: 続行 (0: 選択しない 1: 選択する) - 左から2桁目: 保留(注5) 必ず0を指定します。Print Managerをインストールしている場合のみ1を指定できます。 (0: 選択しない 1: 選択する) - 左から3桁目: 操作 (0: 選択しない 1: 選択する) - 左から4桁目: 削除 (0: 選択しない 1: 選択する) 「1: 選択する」を指定した場合は、メッセージウィンドウにボタンが表示されます。 「0: 選択しない」を指定した場合は、メッセージウィンドウにボタンは表示されません。 例: 続行、削除のみ選択する場合 1001	- 続行: 1 - 保留: 0 - 操作: 1 - 削除: 1

注1:

6つ以上指定した場合、コマンドは正常復帰しますが、6つ目以降に指定したIPアドレスまたはホスト名は無効となります。

注2:

プリンタの種類によりポップアップ表示する/しないの動作が異なります。

ー VSP/VS/PS5000シリーズの場合

返答メッセージ/応答メッセージは、この設定に従います。通知メッセージは、プリントモニタの設定に従います。

ー 上記以外のプリンタの場合

返答メッセージ/応答メッセージは、この設定に従います。通知メッセージは、ポップアップ表示しません。

注3:

以下のプリンタにおける印刷エラーの返答メッセージでは有効になりません。

ー VSP/VS/PS5000シリーズ

ー PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)

注4:

返答メッセージ/応答メッセージの選択肢の注意を、以下に示します。

ー 【操作】ボタンは、以下のプリンタにおける印刷エラーの返答メッセージを除いて、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

- VSP/VS/PS5000シリーズ

- PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)

- 【確認】ボタンおよび【再試行】ボタンの変更はできません。
- 【続行】ボタンを無効にした場合でも、メッセージウィンドウには続行についてのメッセージが表示されます。
- メッセージウィンドウで【操作】ボタンをクリックして表示される画面のボタンには、この指定は有効になりません。
- メッセージウィンドウに、ここで選択したボタンが1 つも存在しない場合、既定のボタンが表示されます。ただし、【続行】ボタンだけを選択した環境で、【保留】ボタンおよび【削除】ボタンを持つメッセージを表示した場合、メッセージには【削除】ボタンだけが表示されます。

注5:

Print Managerがインストールされていない環境で【保留】ボタンをクリックすると、帳票印刷配信機能では印刷を再開できません。



誤って印刷を保留した場合の対処については、“10.4.1 返答メッセージ”を参照してください。

復帰値

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常復帰
上記以外	エラー復帰

使用例

スプールフォルダに関する設定を変更する場合

スプールフォルダを「d:¥spool¥save」に変更します。

```
setenvdef -a SET -g FLD -i SPL="d:¥spool¥save"
```

スプールフォルダに関する設定内容を表示する場合

スプールフォルダに関する設定内容を表示します。

```
setenvdef -a GET -g FLD
```

スプールフォルダに関する設定内容の一覧表示例を、以下に示します。

ここでは、スプールフォルダに「d:¥spool¥save」が定義されている場合の例を示しています。

```
Spool folder : "d:¥spool¥save"
```

プリンタ監視の操作ログに関する設定を変更する場合

採取するイベントの種類を「100」(エラー)、プリンタ監視の操作ログの出力ファイル名を「c:¥data¥log¥logfile.log」、プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズを「512」キロバイト、プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数を「3」に変更します。

```
setenvdef -a SET -g LOG_OPR -i EVENT=100 -i LOGFILE="c:¥data¥log¥logfile. log" -i LOGSZ=512 -i LOGNUM=3
```

プリンタ監視の操作ログに関する設定内容を表示する場合

プリンタ監視の操作ログに関する設定内容を表示します。

```
setenvdef -a GET -g LOG_OPR
```

プリンタ監視の操作ログに関する設定内容の一覧表示例を、以下に示します。

ここでは、採取するイベントの種類に「100」(エラー)、プリンタ監視の操作ログの出力ファイル名に「c:\¥data¥log¥logfile.log」、プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズに「512」キロバイト、プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数に「3」が定義されている場合の例を示しています。

```
Log mode           :ON
-> Error           :ON
-> Warning         :OFF
-> Information     :OFF
File name          :“c:\¥data¥log¥logfile.log”
File size          :512
Auto-log-backup    :ON
-> Number of backup files :3
```

プリンタ監視のトレースログに関する設定を変更する場合

プリンタ監視のトレースログの採取条件を「11」(プログラムトレース:LEVEL1、ネットワークトレース:LEVEL1)、プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズを「1024」キロバイト、プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数を「3」に変更します。

```
setenvdef -a SET -g LOG_TRC -i LEVEL=11 -i LOGSZ=1024 -i LOGNUM=3
```

プリンタ監視のトレースログに関する設定内容を表示する場合

プリンタ監視のトレースログに関する設定内容を表示します。

```
setenvdef -a GET -g LOG_TRC
```

プリンタ監視のトレースログに関する設定内容の一覧表示例を、以下に示します。

ここでは、プリンタ監視のトレースログの採取条件に「11」(プログラムトレース:LEVEL1、ネットワークトレース:LEVEL1)、プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズに「1024」キロバイト、プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数に「3」が定義されている場合の例を示しています。

```
Collect following condition :ON
-> Program trace           :Level1
-> Network trace           :Level1
File size                  :1024
Auto-log-backup            :ON
-> Number of backup files  :3
```

返答メッセージ/応答メッセージに関する設定を変更する場合

返答メッセージ/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントを「kanri1」、メッセージウィンドウのポップアップを「1」(ポップアップ表示する)、返答メッセージ/応答メッセージの選択肢を「1001」(【続行】ボタンおよび【削除】ボタンを表示)に変更します。

```
setenvdef -a SET -g PRT_ERRMSG -i MSGDEST="kanri1" -i POPUP=1 -i DISPBTN=1001
```

返答メッセージ/応答メッセージに関する設定内容を表示する場合

返答メッセージ/応答メッセージに関する設定内容を表示します。

```
setenvdef -a GET -g PRT_ERRMSG
```

返答メッセージ/応答メッセージに関する設定内容の一覧表示例を、以下に示します。ここでは、返答メッセージ/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントに「kanri1」、メッセージウィンドウに「ポップアップ表示する」、返答メッセージ/応答メッセージの選択肢に「続行」、「削除」が定義されている場合の例を示しています。

```
Message console :“kanri1”
Message pop-up  :ON
[Message button]
Continue        :ON
```

Hold	:OFF
Operate	:OFF
Delete	:ON

16.2.7 setenvprtコマンド

プリンタの管理環境におけるプリンタごとの設定情報を表示/変更します。

形式

コマンドの記述形式を示します。

[]は、省略できることを示します。…は、複数指定できることを示します。

setenvprt	-p	プリンタ名
	-a	動作モード
	-g	区分名
	[-i	設定項目=設定値] …

説明

オプションについて説明します。

-p プリンタ名

プリンタ名を指定します。

-a 動作モード

動作モードを指定します。

- GET:プリンタの管理環境におけるプリンタごとの設定情報を表示します。
- SET:プリンタの管理環境におけるプリンタごとの設定情報を変更します。

-g 区分名

以下の区分名を指定します。

区分名	区分内容
PRT_ERRMSG	返答メッセージ/応答メッセージに関する設定

-i 設定項目=設定値

- gオプションで指定した区分名に対応する設定項目と設定内容を「設定項目=設定値」の形式で指定します。
- aオプションで動作モードに「GET」を指定した場合は、本オプションは無効になります。
- aオプションで動作モードに「SET」を指定した場合は、-gオプションで指定した区分名に対応する設定項目を本オプションで複数指定できます。なお、同じ項目を複数設定した場合は、最後に設定された値が有効になります。

以下に区分名ごとの設定項目と設定値を示します。

- 区分名に「PRT_ERRMSG」を指定した場合の設定項目と設定値

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
RMSGDEST	返答メッセージ/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントのIPアドレス、ホスト名を変更します。	1文字以上の文字列で、メッセージ通知クライアントのIPアドレス、ホスト名を指定します。 IPアドレスで指定する場合は、0～9までの数字とピリオド「.」を使用して、 XXX.XXX.XXX.XXXの形式で指定してください。 メッセージ通知クライアントのIPアドレス、ホスト名はセミicolon「;」で区切って最大5つまで指定できます。(注1) 複数指定した場合、指定した順で最初に通信可能なコンピュータ1台にメッセージが通知されます。 以下のいずれかを指定した場合、それぞれの設定内容が有効になります(注2)。 • !DEFAULT: setenvdef コマンドで設定した「RMSGDEST」の内容に従う • !PRTFLD: Windowsのプリンタの設定に従う(注3) • !CLIENT: 配信出力サーバに通知する メッセージ通知クライアントは、本コマンド以外に複数の場所で指定できます。 採用される優先順位については、“1.4.3 帳票情報の優先順位”を参照してください。	!DEFAULT
POPUP(注4)	メッセージウィンドウのポップアップを変更します。	数値の0か1を指定します。0または1以外の値を指定した場合、エラーになります。 本コマンドで「RMSGDEST」に「!DEFAULT」を設定している場合、無効になります。 0:ポップアップ表示しない 1:ポップアップ表示する	返答メッセージ/応答メッセージの通知先の初期値が「!DEFAULT」(setenvdefコマンドで設定した「RMSGDEST」の内容に従う)のため、無効になります。
DISPBTN(注5)(注6)	返答メッセージ/応答メッセージの選択肢(続行/保留/操作/削除)を変更します。	以下の4桁の数字からなる文字列で指定します。ただし、0000(いずれも選択しない)は設定できません。 本コマンドで「RMSGDEST」に「!DEFAULT」を設定している場合、無効になります。 • 左から1桁目:続行 (0:選択しない 1:選択する) • 左から2桁目:保留(注7) 必ず0を指定します。Print Managerをインストールしている場合のみ1を指定できます。	返答メッセージ/応答メッセージの通知先の初期値が「!DEFAULT」(setenvdefコマンドで設定した「RMSGDEST」の内容に従う)のため、無効になります。

設定項目	項目の概要	設定値	初期値
		(0:選択しない 1:選択する) ・ 左から3桁目:操作 (0:選択しない 1:選択する) ・ 左から4桁目:削除 (0:選択しない 1:選択する) 例:続行、削除のみ選択する場合 1001	

注1:

6つ以上指定した場合、コマンドは正常復帰しますが、6つ目以降に指定したIPアドレスまたはホスト名は無効となります。

注2:

「!DEFAULT」、「!PRTFLD」、「!CLIENT」が設定されている状態で設定内容の一覧表示を行った場合、返答メッセージ/応答メッセージとして表示される内容は無効になります。

注3:

VSP/VS/PS5000シリーズや、PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)のプリンタは、プリンタ固有のメッセージ通知先が指定できます。プリンタ固有のメッセージ通知先に従う場合に指定します。

注4:

プリンタの種類によりポップアップ表示する/しないの動作が異なります。

ー VSP/VS/PS5000シリーズの場合

返答メッセージ/応答メッセージは、この設定に従います。通知メッセージは、プリントモニタの設定に従います。

ー 上記以外のプリンタの場合

返答メッセージ/応答メッセージは、この設定に従います。通知メッセージは、ポップアップ表示しません。

注5:

以下のプリンタにおける印刷エラーの返答メッセージでは有効になりません。

ー VSP/VS/PS5000シリーズ

ー PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)

注6:

返答メッセージ/応答メッセージの選択肢の注意を以下に示します。

ー 【操作】ボタンは、以下のプリンタにおける印刷エラーの返答メッセージを除いて、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

- VSP/VS/PS5000シリーズ

- PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)

ー 【確認】ボタンおよび【再試行】ボタンの変更はできません。

ー 【続行】ボタンを無効にした場合でも、メッセージウィンドウには続行についてのメッセージが表示されます。

ー メッセージウィンドウで【操作】ボタンをクリックして表示される画面のボタンには、この指定は有効になりません。

ー メッセージウィンドウに、ここで選択したボタンが1つも存在しない場合、既定のボタンが表示されます。ただし、【続行】ボタンだけを選択した環境で、【保留】ボタンおよび【削除】ボタンを持つメッセージを表示した場合、メッセージには【削除】ボタンだけが表示されます。

注7:

Print Managerがインストールされていない環境で【保留】ボタンをクリックすると、帳票印刷配信機能では印刷を再開できません。



誤って印刷を保留した場合の対処については、“10.4.1 返答メッセージ”を参照してください。

復帰値

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常復帰
上記以外	エラー復帰

使用例

返答メッセージ/応答メッセージに関する設定を変更する場合

プリンタ「prt」の返答メッセージ/応答メッセージに関する設定として、返答メッセージ/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントを「kanri2」、メッセージウィンドウのポップアップを「1」(ポップアップ表示する)、返答メッセージ/応答メッセージの選択肢を「1001」(【続行】ボタンおよび【削除】ボタンを表示)に変更します。

```
setenvprt -p prt -a SET -g PRT_ERRMSG -i RMSGDEST=kanri2 -i POPUP=1 -i DISPBTN=1001
```

返答メッセージ/応答メッセージに関する設定内容を表示する場合

プリンタ「prt」の返答メッセージ/応答メッセージに関する設定内容を表示します。

```
setenvprt -p prt -a GET -g PRT_ERRMSG
```

プリンタ「prt」の返答メッセージ/応答メッセージに関する設定内容の一覧表示例を、以下に示します。ここでは、プリンタ「prt」の返答メッセージ/応答メッセージに関する設定として、返答メッセージ/応答メッセージを通知するメッセージ通知クライアントに「kanri2」、メッセージウィンドウを「ポップアップ表示する」、返答メッセージ/応答メッセージの選択肢に「続行」、「削除」が定義されている場合の例を示しています。

```
Setting mode      :Customize
-> Message console :“kanri2”
-> Message pop-up  :ON
-> [Message button]
    Continue      :ON
    Hold          :OFF
    Operate       :OFF
    Delete        :ON
```

16.3 配信管理サーバの運用

配信管理サーバの運用用のコマンドを実行する場合の留意点と各コマンドについて説明します。

16.3.1 利用時の準備

配信管理サーバの運用用のコマンドを使用するためには、以下の準備が必要です。

- ・ 配信管理サーバの環境設定が実施され、配信データベースが起動している必要があります。

- ・ コマンドを実行するには、管理者権限が必要です。
Windows Server 2008でコマンドを実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

16.3.2 運用用のコマンドで指定できる文字

以下に、運用用のコマンドで指定できる文字について示します。

指定できる範囲

配信管理サーバの運用用のコマンドで指定できる文字/記号の範囲について示します。

- ・ 半角文字 : 半角英数字と半角記号を合わせた範囲の文字
- ・ 半角英数字 : A～Z,a～z,0～9
- ・ 半角記号 : ASCIIコードで0x20～0x2f, 0x3a～0x40, 0x5b～0x60, 0x7b～0x7eの範囲の文字
- ・ 全角文字 : JIS非漢字、JIS第一水準漢字、JIS第二水準漢字

指定できる文字

配信管理サーバの運用用のコマンドのオプションで指定できる文字/記号について示します。

コマンド	オプション	指定できる文字/記号	文字列長(バイト)
lwoprdest	配信出力先ID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
lwoprfol	配信フォルダID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	配信出力先ID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
lwoprform	帳票ID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	50
	配信フォルダID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80
	作成ユーザID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	64
	備考1～16	全角文字 半角英数字 半角記号の一部(注1)	(注2)
lwdelexpire	配信フォルダID	半角英数字 半角記号の一部(注1)	80

注1: 指定できる半角記号については、“[指定できる半角記号の一覧](#)”を参照してください。

注2: 備考に指定できる文字列長については、コマンドの説明を参照してください。

指定できる半角記号の一覧

指定できる半角記号の一覧を以下に示します。

配信管理サーバの運用用のコマンドで指定できる半角記号の一覧

コマンド	オプションの説明	空白	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	
lwoprdest	配信出力先ID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	
lwoprfol	配信フォルダID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	
	配信出力先ID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	
lwoprform	帳票ID	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	(注2)
	配信フォルダID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	(注2)
	作成ユーザID	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
	備考1～16	○ (注1)	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	(注2)
lwdelexpire	配信フォルダID	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	

コマンド	オプションの説明	+	,	-	`	.	/	:	;	<	=	>
lwoprdest	配信出力先ID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
lwoprfol	配信フォルダID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
	配信出力先ID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
lwoprform	帳票ID	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	配信フォルダID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×
	作成ユーザID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	備考1～16	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
lwdelexpire	配信フォルダID	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×

コマンド	オプションの説明	?	@	[	¥	]	^	_	{		}	~
lwoprdest	配信出力先ID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○
lwoprfol	配信フォルダID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
	配信出力先ID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○
lwoprform	帳票ID	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		(注2)										
	配信フォルダID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
		(注2)										
	作成ユーザID	×	○	×	×	×	○	○	○	×	○	○
		(注2)										
	備考1～16	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		(注2)										
lwdelexpire	配信フォルダID	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×

○: 指定できる文字

×:指定できない文字

注1:半角空白のみの文字列を指定した場合は、空文字[""]を指定した場合と同じ扱いになります。

注2:クエスションマーク「?」、アスタリスク「*」は、変更・削除時には指定できません。ただし、一覧表示時にはワイルドカード文字として指定できます。



注意

- ・ オプションのパラメタを設定する際には、先頭にハイフン「-」を指定できません。
- ・ オプションのパラメタに半角空白やOSが解釈する文字(>:リダイレクトなど)を含む文字を指定する場合はパラメタをダブルクォーテーション「"」で囲む必要があります。
- ・ オプションのパラメタで、文字列の先頭と末尾に半角空白が含まれている場合、指定値は先頭と末尾の半角空白が除去された文字列となります。

16.3.3 lwoprdestコマンド

配信出力先を起動/停止します。配信出力先を起動または停止すると、配信出力先の状態が稼働または停止となります。

形式

コマンドの形式を示します。

配信出力先を起動する場合

lwoprdest	-s	配信出力先ID

配信出力先を停止する場合

lwoprdest	-e	配信出力先ID



注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合、コマンドはエラーで復帰します。

説明

オプションについて説明します。

-s 配信出力先ID

配信出力先の起動時に必ず指定します。配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -eオプションと同時に指定した場合

- 指定された配信出力先が存在しない場合

-e 配信出力先ID

配信出力先の停止時に必ず指定します。配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -sオプションと同時に指定した場合
- 指定された配信出力先が存在しない場合

復帰値



復帰値については、“[16.3.9 運用用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

配信出力先を起動する場合

配信出力先IDが「dest1」の配信出力先を起動します。

```
lwoprdest -s dest1
```

配信出力先を停止する場合

配信出力先IDが「dest1」の配信出力先を停止します。

```
lwoprdest -e dest1
```

16.3.4 lwoprfolコマンド

配信フォルダの配信出力先を切り替えたり、出力動作モードを変更したりします。

形式

コマンドの形式を示します。

配信フォルダの配信出力先を切り替える場合

lwoprfol	-d	配信フォルダID
	-primarydest	配信出力先ID

配信フォルダの出力動作モードを変更する場合

lwoprfol	-o	配信フォルダID
	-outputmode	出力動作モード



注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。

- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ー 指定できない組み合わせでオプションを指定した場合
 - ー 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
 - ー 指定できる数値以外の値を指定した場合

.....

説明

オプションについて説明します。

-d 配信フォルダID

配信出力先を切り替える場合に必ず指定します。配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー -oオプションと同時に指定した場合
- ー 指定されたIDの配信フォルダが存在しない場合

-o 配信フォルダID

出力動作モードを変更する場合に必ず指定します。配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー -dオプションと同時に指定した場合
- ー 指定されたIDの配信フォルダが存在しない場合

-primarydest 配信出力先ID

配信出力先を切り替える場合に必ず指定します。切り替え先とする配信出力先のIDを80バイト以内の文字列で指定します。また、設定を削除したい場合は「'''」と指定してください。以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー 切り替え先とする配信出力先が存在しない場合
- ー 出力動作モードが「1(即時印刷)」の場合に、本オプションのパラメタに「'''」を指定したとき

-outputmode 出力動作モード

出力動作モードを以下から指定します。

- ー 0:ため置き印刷
- ー 1:即時印刷

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー 配信フォルダの配信出力先が未設定の場合に、本オプションで「1(即時印刷)」を指定したとき

復帰値



復帰値については、“[16.3.9 運用用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

配信フォルダIDが「folder1」の配信出力先を、「dest1」に切り替える場合

```
lwoprfol -d folder1 -primarydest dest1
```

配信フォルダIDが「folder1」の出力動作モードを、「1」(即時印刷)に変更する場合

```
lwoprfol -o folder1 -outputmode 1
```



注意

配信出力先を停止した状態で、配信出力先を切り替えることを推奨します。

16.3.5 lwoprformコマンド

配信フォルダの帳票を削除/一覧表示/状態の変更/最大出力回数の変更をします。

形式

コマンドの形式を示します。

[] は、省略できることを示します。

配信フォルダの帳票を削除する場合

lwoprform	-r	[帳票ID]
	[-folderid	配信フォルダID]
	[-nomsg]	

配信フォルダの帳票を一覧表示する場合

lwoprform	-i	[帳票ID]
	[-folderid	配信フォルダID]
	[-createuserid	作成ユーザID]
	[-startdate	登録日時 (From)]
	[-enddate	登録日時 (To)]
	[-savestartdate	保存期限 (From)]
	[-saveenddate	保存期限 (To)]
	[-status	帳票状態]
	[-customizeitem1	備考1]
	[-customizeitem2	備考2]
	[-customizeitem3	備考3]
	[-customizeitem4	備考4]
	[-customizeitem5	備考5]
	[-customizeitem6	備考6]
	[-customizeitem7	備考7]
	[-customizeitem8	備考8]
	[-customizeitem9	備考9]
	[-customizeitem10	備考10]
	[-customizeitem11	備考11]
	[-customizeitem12	備考12]
	[-customizeitem13	備考13]
	[-customizeitem14	備考14]
	[-customizeitem15	備考15]

<code>[-customizeitem16</code>	備考16]
<code>[-dspmode</code>	表示モード]

配信フォルダの帳票の状態を変更する場合

<code>lwoprform</code>	<code>-s</code>	[帳票ID]
	<code>[-folderid</code>	配信フォルダID]
	<code>-status</code>	状態
	<code>[-nomsg]</code>	

配信フォルダの帳票の最大出力回数を変更する場合

<code>lwoprform</code>	<code>-c</code>	[帳票ID]
	<code>[-folderid</code>	配信フォルダID]
	<code>-maxcount</code>	最大出力回数
	<code>[-nomsg]</code>	



注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ー 指定できない組み合わせでオプションを指定した場合
 - ー 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
 - ー 指定できる数値以外の値を指定した場合

説明

オプションについて説明します。

-r [帳票ID]

配信フォルダの帳票の削除時に必ず指定します。

1つの帳票を削除する場合、このオプションの値に、操作の対象にする帳票IDを50バイト以内の文字列で指定します。この場合、`-folderid`オプションで配信フォルダIDを指定しないでください。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー `-i`オプション、`-s`オプションまたは`-c`オプションと同時に指定した場合
- ー 削除する帳票が存在しなかった場合
- ー 帳票が印刷処理中の場合

-i [帳票ID]

配信フォルダの帳票の一覧表示時に必ず指定します。

帳票を特定して一覧表示する場合、帳票IDを50バイト以内の文字列で指定します。

このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

帳票を特定して一覧表示する場合は、`-folderid`オプションで配信フォルダIDを指定しないでください。`-folderid`オプションを指定した場合は、エラーで復帰します。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。
以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -rオプション、-sオプションまたは-cオプションと同時に指定した場合

-s [帳票ID]

配信フォルダの帳票の状態を変更する場合に必ず指定します。

1つの帳票を変更する場合、このオプションの値に、操作の対象にする帳票IDを50バイト以内の文字列で指定します。この場合、-folderidオプションで配信フォルダIDを指定しないでください。-folderidオプションを指定した場合は、エラーで復帰します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -rオプション、-iオプションまたは-cオプションと同時に指定した場合
- 変更する帳票が存在しなかった場合

-c [帳票ID]

配信フォルダの帳票の最大出力回数を変更する場合に必ず指定します。

1つの帳票を変更する場合、このオプションの値に、操作の対象にする帳票IDを50バイト以内の文字列で指定します。この場合、-folderidオプションで配信フォルダIDを指定しないでください。-folderidオプションを指定した場合は、エラーで復帰します。

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- -rオプション、-iオプションまたは-sオプションと同時に指定した場合
- 変更する帳票が存在しなかった場合

-folderid 配信フォルダID

配信フォルダ内の帳票に対して、以下の操作を実施する場合に、配信フォルダIDを80バイト以内の文字列で指定します。

- 配信フォルダ内の帳票を一括で削除する(-rオプション指定時)
- 配信フォルダ内の帳票を一覧表示する(-iオプション指定時)
- 配信フォルダ内の帳票の状態を一括で変更する(-sオプション指定時)
- 配信フォルダ内の帳票の最大出力回数を一括で変更する(-cオプション指定時)

帳票を一覧表示する場合(-iオプションを指定する場合)、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。
このオプションの指定時、-rオプション、-iオプション、-sオプションまたは-cオプションの値に、帳票IDは指定できません。指定した場合は、エラーで復帰します。

配信フォルダ内の帳票を一括で削除する場合(-rオプション指定時)、配信フォルダ内の帳票の状態を一括で変更する場合(-sオプション指定時)、または最大出力回数を一括で変更する場合(-cオプション指定時)に、処理中にエラーが発生した場合、エラーが発生した時点で、処理を終了します。

エラーの表示例を以下に示します。

帳票の削除に失敗しました。イベントログを参照して、エラー原因を取り除いてください。(Document_ID[bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000])

上記のエラー表示の表示形式を、以下に示します。

エラーメッセージ(Document_ID[帳票ID])

以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。

- ー 配信フォルダが存在しない場合
- ー 配信フォルダ内に帳票が存在しない場合
- ー 配信フォルダ内の帳票が印刷処理中の場合
- ー 帳票IDと配信フォルダIDを同時に指定した場合

-nomsg

配信フォルダ内の帳票の一括操作時に確認メッセージを表示しない場合に指定します。

配信フォルダ内の帳票を一括して操作する場合のみ有効です。省略すると、一括操作時の確認メッセージが表示されます。

確認メッセージの表示例を以下に示します。

指定された配信フォルダに格納された帳票をすべて削除します。よろしいですか？ [Y/N]

指定された配信フォルダに格納された帳票をすべて削除する場合は、「Y」または「y」を、操作を中止する場合には、「N」または「n」を指定してください。それ以外が入力された場合は、再度確認メッセージを表示します。

-status 帳票状態

帳票の状態を以下から指定します。

- ー 0:未出力
- ー 1:出力済

帳票の状態を変更する場合(-sオプション指定時)は、必ず指定します。すでに設定されている状態と同じ値を指定した場合は指定が無視されます。

帳票の一覧を表示する場合(-iオプション指定時)は、本オプションを省略すると、すべての状態が表示対象となります。

-maxcount 最大出力回数

帳票の最大出力回数を以下から指定します。

- ー 0:無制限
- ー 1~9999の整数:指定した回数

帳票の最大出力回数を変更する場合(-cオプション指定時)は、必ず指定します。

設定されている最大出力回数と同じ値を指定した場合は指定が無視されます。また、次の場合はエラーとなります。

- ー 設定されている最大出力回数より小さい値を指定した場合
- ー 設定されている最大出力回数が無制限の場合

-createuserid 作成ユーザID

表示対象とする帳票の作成ユーザIDを64バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての作成ユーザIDが表示対象となります。

-startdate 登録日時(From)

表示対象とする帳票の登録日時の起点を17バイトの文字列(「YYYYMMDDhhmmssxxx」形式)で指定します。以下に、指定例を示します。

例:20110521123000000

指定した登録日時以降の帳票を表示対象とします。

登録日時(From)のみを指定して登録日時(To)を省略すると、指定した登録日時以降の帳票を表示対象とします。17バイト未満で指定した場合、17バイトになるように下桁に「0」が埋められます。

省略すると、すべての登録日時が表示対象となります。

-enddate 登録日時(To)

表示対象とする帳票の登録日時の終点を17バイトの文字列(「YYYYMMDDhhmmssxxx」形式)で指定します。以下に、指定例を示します。

例:20120521122959999

指定した登録日時以前の帳票を表示対象とします。

登録日時(From)を省略して登録日時(To)のみを指定すると、指定した登録日時以前の帳票を表示対象とします。17バイト未満で指定した場合、17バイトになるように下桁に「9」が埋められます。

省略すると、すべての登録日時が表示対象となります。

-savestartdate 保存期限(From)

表示対象とする帳票の保存期限の起点を8バイトの文字列(「YYYYMMDD」形式)で指定します。以下に、指定例を示します。

例:20100101

指定した保存期限以降の帳票を表示対象とします。

保存期限(From)のみを指定して保存期限(To)を省略すると、指定した保存期限以降の帳票を表示対象とします。8バイト未満で指定した場合、8バイトになるように下桁に「0」が埋められます。

省略すると、すべての保存期限が表示対象となります。

-saveenddate 保存期限(To)

表示対象とする帳票の保存期限の終点を8バイトの文字列(「YYYYMMDD」形式)で指定します。以下に、指定例を示します。

例:20101231

指定した保存期限以前の帳票を表示対象とします。

保存期限(From)を省略して保存期限(To)のみを指定すると、指定した保存期限以前の帳票を表示対象とします。8バイト未満で指定した場合、8バイトになるように下桁に「9」が埋められます。

省略すると、すべての保存期限が表示対象となります。

-customizeitem1 備考1

表示対象とする帳票の備考1を64バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考1が表示対象となります。

-customizeitem2 備考2

表示対象とする帳票の備考2を64バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考2が表示対象となります。

-customizeitem3 備考3

表示対象とする帳票の備考3を64バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考3が表示対象となります。

-customizeitem4 備考4

表示対象とする帳票の備考4を64バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考4が表示対象となります。

-customizeitem5 備考5

表示対象とする帳票の備考5を8バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考5が表示対象となります。

-customizeitem6 備考6

表示対象とする帳票の備考6を8バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考6が表示対象となります。

-customizeitem7 備考7

表示対象とする帳票の備考7を8バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考7が表示対象となります。

-customizeitem8 備考8

表示対象とする帳票の備考8を1024バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考8が表示対象となります。

-customizeitem9 備考9

表示対象とする帳票の備考9を1024バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考9が表示対象となります。

-customizeitem10 備考10

表示対象とする帳票の備考10を256バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。省略すると、すべての備考10が表示対象となります。

-customizeitem11 備考11

表示対象とする帳票の備考11を256バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

省略すると、すべての備考11が表示対象となります。

-customizeitem12 備考12

表示対象とする帳票の備考12を256バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

省略すると、すべての備考12が表示対象となります。

-customizeitem13 備考13

表示対象とする帳票の備考13を256バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

省略すると、すべての備考13が表示対象となります。

-customizeitem14 備考14

表示対象とする帳票の備考14を128バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

省略すると、すべての備考14が表示対象となります。

-customizeitem15 備考15

表示対象とする帳票の備考15を128バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

省略すると、すべての備考15が表示対象となります。

-customizeitem16 備考16

表示対象とする帳票の備考16を128バイト以内の文字列で指定します。このとき、ワイルドカード文字のクエスチョンマーク「?」およびアスタリスク「*」を指定できます。クエスチョンマーク「?」は任意の1文字、アスタリスク「*」は任意の長さの任意の文字として指定できます。

クエスチョンマーク「?」とアスタリスク「*」を使用した場合、オプションで指定する値にパーセント「%」やアンダーバー「_」があると、SQLのワイルドカード文字として処理されるため、目的の検索結果を得られないことがあります。

一覧表示するときに、複数のオプションを指定した場合は、それぞれのオプションで指定した条件がAND条件として処理されます。

省略すると、すべての備考16が表示対象となります。

-dspmode 表示モード

帳票の一覧を表示する場合(-iオプションを指定する場合)に、コマンドの表示モードを以下から指定します。省略すると「0(一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない)」が指定されます。

- 0:一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力しない
- 1:一覧の先頭に項目名をタイトルとして出力する

復歸値



復帰値については、“[16.3.9 運用用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

帳票を削除する場合

帳票IDが「bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000」の帳票を削除します。

```
lwoprform -r bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000
```

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダ内の帳票を削除します。

```
lwoprform -r -folderid folder1
```

帳票を一覧表示する場合

帳票IDが「bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000」の帳票を項目名つきで一覧表示します。

```
lwoprform -i bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000 -dspmode 1
```

帳票IDが「bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000」の帳票の一覧表示例を、以下に示します。値が設定されていない場合でもカンマ「,」は必ず表示されます。

Folder_ID, Document_ID, Document_Name, Title, Comment, Created, Owner, Save_Limit_Date, Business_Name, Paper_Code, Output_Num, Max_Output_Num, Status, Copies, Start_Page, End_Page, Total_Page, Notice_Client, Customizeitem_1, Customizeitem_2, Customizeitem_3, Customizeitem_4, Customizeitem_5, Customizeitem_6, Customizeitem_7, Customizeitem_8, Customizeitem_9, Customizeitem_10, Customizeitem_11, Customizeitem_12, Customizeitem_13, Customizeitem_14, Customizeitem_15, Customizeitem_16
foI0001, bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000, fr010001, 明細書, 本社,
20100521120030900, user001, 20110101, , PAPERC001, 0, 99, 0, 1, 1, 99, 99, ...

一覧表示例の見方

一覧表示では、以下の順序で表示されます。

配信フォルダID, 帳票ID, 帳票名, タイトル, コメント, 登録日時, 作成ユーザID, 保存期限, 予備(注1), 用紙コード, 出力回数, 最大出力回数, 帳票状態, 印刷時の部数, 印刷時の開始ページ, 印刷時の終了ページ, 総ページ数, メッセージ通知先, 備考1, 備考2, 備考3, 備考4, 備考5, 備考6, 備考7, 備考8, 備考9, 備考10, 備考11, 備考12, 備考13, 備考14, 備考15, 備考16

注1: 将来の拡張領域のため、値は何も出力されません。

注意

一覧表示する場合、特殊文字を含む文字列は、以下のように表示されます。

— カンマ「,」を含む場合

文字列をダブルクォーテーション「"」で囲みます。

帳票の状態を変更する場合

帳票IDが「bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000」の帳票の状態を「0」(未出力)に変更します。

```
lwoprform -s bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000 -status 0
```

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダ内の帳票の状態を「0」(未出力)に一括変更します。

```
lwoprform -s -folderid folder1 -status 0
```

帳票の最大出力回数を変更する場合

帳票IDが「bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000」の帳票の最大出力回数を「99」に変更します。

```
lwoprform -c bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000 -maxcount 99
```

配信フォルダIDが「folder1」の配信フォルダ内の帳票の最大出力回数を「99」に一括変更します。

```
lwoprform -c -folderid folder1 -maxcount 99
```

注意

- 本コマンドによって削除された帳票は、表示したり、操作したりできなくなりますが、帳票の関連ファイルや配信情報は残ったままとなっています。



帳票の関連ファイルや配信情報を削除するコマンドについては、“[16.3.7 lwcleanformコマンド](#)”を参照してください。

- 一覧表示の結果は、List Worksのバージョンアップ・レベルアップによって、末尾に項目名が追加される可能性があります。このコマンドで表示される結果をもとにユーザプログラムを作成する場合は、末尾に項目名が追加されることを考慮した処理にしてください。

16.3.6 lwdelexpireコマンド

配信フォルダの保存期限を経過した帳票を削除します。

形式

コマンドの形式を示します。

[] は、省略できることを示します。

配信フォルダの保存期限を経過した帳票を削除する場合

lwdelexpire	[-folderid	配信フォルダID]
	[-status	状態]



注意

- ・ オプションとパラメタの文字列は大文字と小文字を区別して指定してください。
- ・ 以下の場合、コマンドはエラーで復帰します。
 - ― 指定できる文字列長を超えた値を指定した場合
 - ― 指定できる数値以外の値を指定した場合

説明

オプションについて説明します。

-folderid 配信フォルダID

削除する保存期限が経過した帳票を配信フォルダ単位で削除する場合に、配信フォルダのIDを80バイト以内の文字列で指定します。

省略すると、すべての配信フォルダ内の帳票が削除の対象になります。

-status 状態

削除対象とする帳票の状態として以下のいずれかを指定します。

- ― 0: 未出力の帳票を削除対象にする
- ― 1: 出力済の帳票を削除対象にする
- ― 9: 状態にかかわらず、保存期限を経過したすべての帳票を対象にする

省略すると、出力済の帳票を削除対象にします。ただし、-folderidオプションを指定した場合、指定した配信フォルダ内の帳票が削除の対象となります。

復帰値



復帰値については、“[16.3.9 運用用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

保存期限が経過した帳票を削除する場合

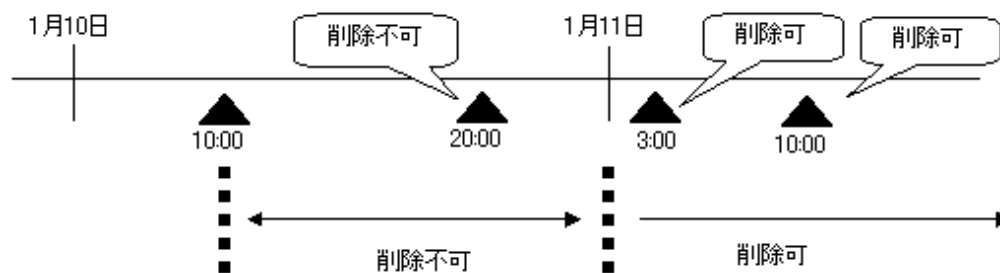
配信フォルダIDが「folder1」内に存在する帳票のうち、帳票状態が出力済の帳票を削除対象として、保存期限が経過した帳票を削除します。

```
lwdelexpire -folderid folder1
```

補足

- 保存期限は帳票の登録日時からの経過日数のみチェックされ、時間は関係ありません。

例:1月10日10:00 に保存日数1日として登録した場合



- 以下の条件をすべて満たす帳票を削除し、コマンドは正常復帰します。
 - 保存期限(帳票の登録された日 + 保存日数-1)を経過した帳票
 - 指定した状態の帳票(-statusオプションを指定した場合のみ)
 - 印刷処理中ではない帳票
- 削除する帳票が存在しない場合でも、正常復帰します。

注意

「保存期限を経過した帳票の削除」によって削除された帳票は、表示したり、操作したりできなくなりますが、帳票の関連ファイルや帳票の情報は残ったままとなっています。これらの帳票の関連ファイルや関連情報は、ディスクを圧迫すること場合がありますので、定期的に削除する必要があります。



帳票の関連ファイルや配信情報を削除するコマンドについては、“[16.3.7 lwcleanformコマンド](#)”を参照してください。

16.3.7 lwcleanformコマンド

以下の方法で削除された帳票/配信フォルダの関連するファイル、フォルダ、情報を削除します。

- 出力指示画面の【F4 選択削除】ボタン
- lwoprformコマンド
- lwdelexpireコマンド
- lwedtfolコマンド

本コマンドで指定された時間だけ削除処理を実行します。削除対象の帳票が残っていても、削除処理を終了します。

形式

コマンドの形式を示します。

[] は、省略できることを示します。

帳票を削除する場合

lwcleanform	[-time [-nomsg]	削除処理を実行する時間(分)]

説明

オプションについて説明します。

-time 削除処理を実行する時間(分)

削除処理を実行する時間(分)を整数値で指定します。省略すると60分削除処理を行います。指定できる数値以外の値を指定した場合は、コマンドはエラーで復帰します。

— 1～60の整数:削除処理を実行する時間(分)

本コマンドは、エラーが発生した時点で、処理を終了します。

エラーの表示例を、以下に示します。

帳票の関連するファイルや情報の削除に失敗しました。イベントログを参照して、エラー原因を取り除いてください。 (Document_ID[bdca6288c0c7472f945987db660ba3af005056A04C7F000000])

上記のエラー表示の表示形式を、以下に示します。

エラーメッセージ(Document_ID[帳票ID])または、エラーメッセージ(Folder_ID[配信フォルダID])

-nomsg

確認メッセージを表示しない場合に指定します。

省略すると、確認メッセージが表示されます。

復帰値



復帰値については、“[16.3.9 運用用のコマンドの復帰値](#)”を参照してください。

使用例

削除済みの帳票の関連するファイルや情報を最長30分間削除する場合

lwcleanform -time 30



注意

本コマンドを複数同時に実行した場合、エラーが発生する場合があります。本コマンドは、複数同時に実行しないことを推奨します。

16.3.8 F5CWCKLGコマンド

配信管理サーバの操作ログの改ざんチェックを行うコマンドです。本コマンドを実行することで、指定した操作ログが改ざんされていた場合に以下のことが分かります。

- ・ 行単位での改ざん/削除があるか
- ・ 改ざん/削除されている行

改ざんを検知した時点でメッセージを標準出力に出力します。改ざんチェックは、操作ログの最後まで行います。

コマンドを実行するには、管理者権限が必要です。

Windows Server 2008でコマンドを実行する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して起動し、管理者権限に昇格させたコマンドプロンプトで実行してください。

形式

コマンドの形式を示します。

操作ログファイルが改ざんされていないか確認する場合

F5CWCKLG	-F	ログファイル名

説明

オプションについて説明します。

-F ログファイル名

改ざんチェックを行う操作ログのファイル名を、256バイト以内の物理パスで指定します。必須項目です。空白または記号文字を含むパスを指定する場合は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲みます。「"」は長さに含みません。



操作ログの格納場所については、“[10.9.1 操作ログの格納場所](#)”を参照してください。

復帰値

コマンド実行の復帰値を以下に示します。

- ・ 0 : 改ざんチェック処理が正常終了し、改ざんが検出されなかった
- ・ 1 : 改ざんチェック処理が正常終了し、改ざんが検出された
- ・ 2以上 : 改ざんチェック処理が異常終了

使用例

操作ログファイルが改ざんされていないか確認する場合

操作ログファイル「C:\ListWORKS\Distribute\oprlog\lwdstlog_10.9.200.1_01.csv」が改ざんされていないか確認します。

F5CWCKLG -FC:\ListWORKS\Distribute\oprlog\lwdstlog_10.9.200.1_01.csv



注意

改ざんチェックを行う際は、配信管理サービスおよび配信出力サービスを停止する必要があります。または、対象の操作ログを退避して、退避した操作ログに対して本コマンドを実行してください。

16.3.9 運用用のコマンドの復帰値

配信管理サーバの運用用のコマンドの復帰値を、以下の表に示します。

なお、配信管理サーバの運用用のコマンドでエラーが発生した場合(復帰値が0以外の場合)には、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージを確認して、対処してください。エラーメッセージで対処できない場合は、イベントログを確認してください。



イベントログについては、“[17.2.1 ソースが「List Works Distributor」のイベントログ](#)”を参照してください。

復帰値	意味
0	正常復帰
1	管理者権限エラー
2	オプションエラー
3	パラメタエラー
4	メモリ確保失敗
5	システムリソース不足
6	指定した値が未定義の場合のエラー
7	印刷処理中の場合のエラー
8	データベース未接続
9	データベースアクセスエラー
10	動作環境エラー
11	一括操作エラー
12	その他のエラー(内部エラー)

第6部 メッセージリファレンス

第17章 帳票印刷配信機能のログ/メッセージ.....	382
第18章 トラブルシューティング.....	607

第17章 帳票印刷配信機能のログ/メッセージ

17.1 配信管理サーバの操作ログ

ここでは、配信管理サーバの操作ログに出力される情報について説明します。

操作ログには、配信管理サーバで管理している情報を変更する操作や処理が出力されます。

また、帳票印刷配信機能で提供している各画面での運用に影響を与える恐れのある操作も、操作ログに出力されます。

操作ログに出力される操作や処理は、以下のとおりです。

- ・ 帳票の登録
- ・ 帳票の印刷、表示、削除など
- ・ 印刷ジョブの削除、配信出力先の変更、優先度の変更など
- ・ 配信フォルダの定義、削除、配信出力先や出力動作モードの切り替えなど
- ・ 配信出力先の定義、削除、起動や停止など
- ・ プリンタ構成の定義、削除など
- ・ ログイン、ログアウト



操作ログに出力される項目の詳細については、“[17.1.1 操作ログの出力形式](#)”を参照してください。

なお、List Works帳票を表示するときのログは、リスト管理サーバの操作ログに出力されます。



リスト管理サーバの操作ログについては、“メッセージ集”を参照してください。

17.1.1 操作ログの出力形式

操作ログは、1行につき1操作分のログが、以下の形式で出力されます。処理によって該当する項目が存在しない場合、その項目は表計算ソフトなどで表示したとき、空白で表示されます。

先頭行には、ログの改ざん検知で使用する情報が出力されます。

項目	説明
年月日	操作が完了した日時の年月日部分が、「YYYY/MM/DD」の形式で出力されます。
時分秒	操作が完了した日時の時分秒部分が、「hh.mm.ss.xxx」の形式で出力されます。
ログ種別	「Distributor」(固定文字列)/「Output」(固定文字列)
操作	行った操作が文字列で出力されます。 詳細は、“ 「操作」項目の詳細 ”を参照してください。
ステータス	処理のステータス情報が出力されます。 「Information」/「Warning」/「Error」/「Cancel」
詳細情報	復帰時の詳細情報(メッセージ)が出力されます。
配信管理サーバ	List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作端末	処理を依頼したコンピュータのIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作ユーザ	操作を行ったユーザのユーザID が出力されます。

項目	説明
作成ユーザ	帳票登録時に指定した作成ユーザIDが出力されます。帳票情報で作成ユーザIDを指定しない場合、印刷配信の環境設定の「default.userid」キーで設定された作成ユーザIDが出力されます。
登録日時	帳票を登録した日時が出力されます。 登録日時は「YYYY/MM/DD hh:mm:ss.xxx」の形式で出力されます。
配信フォルダ名	配信フォルダ名が出力されます。
予備	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
配信出力先名	配信出力先名が出力されます。
帳票ID	帳票の帳票IDが出力されます。
ジョブID	印刷ジョブのジョブIDが出力されます。
帳票種別	帳票種別が以下の情報で出力されます。 0: List Works形式の帳票 1: List Creator互換印刷形式の帳票
種別	実行したコマンド名または、内部のインタフェース名が文字列で出力されます。 詳細は、「 「種別」項目の詳細 」を参照してください。
帳票名	帳票または印刷ジョブの帳票名が出力されます
タイトル	帳票のタイトルが出力されます。
コメント	帳票のコメントが出力されます。
ページ数	帳票または印刷ジョブのページ数が出力されます。
開始ページ	操作時に指定された帳票の開始ページが出力されます。
終了ページ	操作時に指定された帳票の終了ページが出力されます。
部数	操作時に指定された部数が出力されます。
出力完了ページ	・ 帳票の印刷が正常に完了した場合 印刷が完了したページ数が出力されます。 ・ 印刷を取り消した場合 取り消すまでに印刷したページ数が出力されます。
用紙コード	帳票または印刷ジョブの用紙コードが出力されます。
補足情報1	操作に関する補足の情報が出力されます。
補足情報2	
補足情報3	
補足情報4	
備考1	帳票の備考情報が出力されます。
備考2	
備考3	
備考4	
備考5	
備考6	
備考7	
備考8	
備考9	

項目	説明
備考10	
備考11	
備考12	
備考13	
備考14	
備考15	
備考16	
予備1	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
予備2	
予備3	
予備4	
予備5	
接続識別子	配信操作画面、帳票出力アプリケーションから配信管理サーバへ接続する単位の識別子が出力されます。
改ざん防止情報1	改ざん防止情報1が数字で出力されます。
改ざん防止情報2	改ざん防止情報2が文字列で出力されます。

「操作」項目の詳細

「操作」項目に出力される文字列と意味を以下に示します。

出力される文字列	意味
Register Document	帳票の登録
Output Document	帳票の印刷の指示
Preview Document	帳票の表示(List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票のみ)
Delete Document	帳票の削除
Delete Documents	選択した帳票の削除 (注1)
Delete All Documents	帳票一括削除 (注1) (注2)
Delete Expired Document	期限切れ帳票の削除 (注2)
Clean Document	削除済み帳票の関連ファイルの削除 (注2)
Cancel Output Job	印刷ジョブの取り消し
Cancel Output Jobs	選択した印刷ジョブの取り消し (注1)
Start Output Destination	配信出力先の起動
Stop Output Destination	配信出力先の停止
Change Output Destination	配信フォルダの配信出力先の切り替え
Change Output Mode	配信フォルダの出力動作モードの切り替え (注2)
Update Form	帳票情報の更新 (注2)
Update All Forms	帳票情報の一括更新 (注1) (注2)
List Document	帳票の一覧表示 (注2)
Login	ログイン
Logout	ログアウト

出力される文字列	意味
Edit Printer Configuration	プリンタ構成の編集(定義/変更/削除/一覧表示) (注2)
Edit Output Destination	配信出力先の編集(定義/変更/削除/一覧表示) (注2)
Edit Distribute Folder	配信フォルダの編集(定義/変更/削除/一覧表示) (注2)
Change Priority of Output Job	印刷ジョブの優先度の変更
Change Output Destination of Output Job	印刷ジョブの配信出力先の変更
Change Output Destination of Output Jobs	選択した印刷ジョブの配信出力先の変更 (注1)
Unknown	操作不明 (注3)

注1:選択した帳票、および印刷ジョブの操作の開始時と終了時に出力されます。

注2:コマンドで操作した場合にのみ出力されます。

注3:「Unknown」が出力された場合、「種別」および「補足情報2」で、実行したインタフェースを確認してください。

「種別」項目の詳細

「種別」項目に出力される文字列と意味を以下に示します。

出力される文字列	実行されたインタフェース
Lwedtprinfo	lwedtpinfoコマンド
Lwedtdest	lwedtdestコマンド
Lwedtfol	lwedtfolコマンド
Lwoprdest	lwoprdestコマンド
Lwoprfol	lwoprfolコマンド
Lwoprform	lwoprformコマンド
Lwdelexpire	lwdelexpireコマンド
Lwcleanform	lwcleanformコマンド
Start Printing	印刷の開始
End Printing	印刷の完了
その他文字列	内部のインタフェース名が出力されます。

17.1.2 操作ログに出力される情報

操作ログに出力される情報を説明します。操作によって、出力される情報が異なります。

17.1.2.1 帳票を登録した場合

項目	説明
年月日	操作が完了した日時の年月日部分が、「YYYY/MM/DD」の形式で出力されます。
時分秒	操作が完了した日時の時分秒部分が、「hh.mm.ss.xxx」の形式で出力されます。
ログ種別	「Distributor」(固定文字列)
操作	「Register Document」が出力されます。
ステータス	処理のステータス情報が出力されます。

項目	説明
	「Information」/「Warning」/「Error」
詳細情報	ステータスが「Warning」/「Error」のときに復帰時の詳細情報が出力されます。 最大100文字まで出力されます。
配信管理サーバ	List Worksサーバ(操作を実行した配信管理サーバがインストールされているサーバ)のIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作端末	—
操作ユーザ	—
作成ユーザ	帳票登録時に指定した作成ユーザIDが出力されます。帳票情報で作成ユーザIDを指定しない場合、印刷配信の環境設定の「default.userid」キーで設定された作成ユーザIDが出力されます。
登録日時	帳票を登録した日時が出力されます。 登録日時は「YYYY/MM/DD hh:mm:ss.xxx」の形式で出力されます。
配信フォルダ名	帳票を登録した配信フォルダ名が出力されます。
予備	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
配信出力先名	—
帳票ID	登録した帳票の帳票IDが出力されます。
ジョブID	—
帳票種別	帳票種別が以下の情報で出力されます。 0 : List Works形式の帳票 1 : List Creator互換印刷形式の帳票
種別	—
帳票名	登録した帳票の帳票名が出力されます。
タイトル	登録した帳票のタイトルが出力されます。
コメント	登録した帳票のコメントが出力されます。
ページ数	登録した帳票のページ数が出力されます。
開始ページ	登録した帳票の開始ページが出力されます。
終了ページ	登録した帳票の終了ページが出力されます。
部数	登録した帳票の部数が出力されます。 帳票登録時に帳票情報で印刷時の部数を指定していない場合は、0が出力されます。
出力完了ページ	—
用紙コード	登録した帳票の用紙コードが出力されます。
補足情報1	—
補足情報2	
補足情報3	
補足情報4	
備考1	登録した帳票の備考情報が出力されます。
備考2	
備考3	
備考4	
備考5	
備考6	

項目	説明
備考7	
備考8	
備考9	
備考10	
備考11	
備考12	
備考13	
備考14	
備考15	
備考16	
予備1	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
予備2	
予備3	
予備4	
予備5	
接続識別子	帳票出力アプリケーションから配信管理サーバへ接続する単位の識別子が出力されます。
改ざん防止情報1	改ざん防止情報1が数字で出力されます。
改ざん防止情報2	改ざん防止情報2が文字列で出力されます。



注意

帳票登録時、登録が正常に行われた場合は、登録成功のログが出力されます。登録に失敗した場合は、登録失敗のログが出力されない場合がありますため、システムログ/イベントログを確認してください。

17.1.2.2 コマンドを実行した場合

項目	説明
年月日	操作が完了した日時の年月日部分が、「YYYY/MM/DD」の形式で出力されます。
時分秒	操作が完了した日時の時分秒部分が、「hh.mm.ss.xxx」の形式で出力されます。
ログ種別	「Distributor」(固定文字列)
操作	行った操作が文字列で出力されます。 詳細は、“ 「操作」項目の詳細 ”を参照してください。
ステータス	処理のステータス情報が出力されます。 「Information」/「Warning」/「Error」
詳細情報	ステータスが「Warning」/「Error」のときに復帰時の詳細情報が出力されます。 最大100文字まで出力されます。
配信管理サーバ	List Worksサーバ(操作を実行した配信管理サーバがインストールされているサーバ)のIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作端末	—

項目	説明
操作ユーザ	操作を行ったユーザのユーザIDが出力されます。
作成ユーザ	—
登録日時	—
配信フォルダ名	操作対象の配信フォルダ名が出力されます。
予備	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
配信出力先名	操作対象の配信出力先名が出力されます。
帳票ID	操作対象の帳票IDが出力されます。
ジョブID	—
帳票種別	—
種別	実行したコマンド名が文字列で出力されます。 詳細は、「 「種別」項目の詳細 」を参照してください。
帳票名	—
タイトル	—
コメント	—
ページ数	—
開始ページ	—
終了ページ	—
部数	—
出力完了ページ	—
用紙コード	操作対象の用紙コードが出力されます。
補足情報1	操作対象のプリンタモデルコードが出力されます。
補足情報2	コマンドオプションが出力されます。 コマンドオプションが1200文字を超える場合は、先頭から1200文字まで出力されます。
補足情報3	操作が「Delete Expired Document」または、「Delete All Documents」または、「Update All Forms」または、「Clean Document」の場合、一括操作の開始終了時に「Begin」「End」の文字列が出力されます。
補足情報4	—
備考1	—
備考2	
備考3	
備考4	
備考5	
備考6	
備考7	
備考8	
備考9	
備考10	
備考11	
備考12	
備考13	

項目	説明
備考14	
備考15	
備考16	
予備1	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
予備2	
予備3	
予備4	
予備5	
接続識別子	—
改ざん防止情報1	改ざん防止情報1が数字で出力されます。
改ざん防止情報2	改ざん防止情報2が文字列で出力されます。

17.1.2.3 配信操作画面を操作した場合



注意

以下の場合、配信管理サーバの操作ログにログが出力されません。

- ・ 帳票を削除したときに、対象の帳票および帳票が格納されている配信フォルダが、すでに削除されていた場合
- ・ 帳票を印刷したときに設定されていた配信出力先が、すでに削除されていた場合
- ・ 以下の操作をしたときに、対象の印刷ジョブおよび印刷ジョブに設定されている配信出力先が、すでに削除されていた場合
 - 印刷ジョブの削除
 - 印刷ジョブの配信出力先の変更
 - 印刷ジョブの優先度の変更
- ・ 印刷ジョブの優先度を変更したときに、すでに印刷が完了していた、または印刷ジョブが削除されていた場合

項目	説明
年月日	操作が完了した日時の年月日部分が、「YYYY/MM/DD」の形式で出力されます。
時分秒	操作が完了した日時の時分秒部分が、「hh.mm.ss.xxx」の形式で出力されます。
ログ種別	「Distributor」(固定文字列)
操作	行った操作が文字列で出力されます。 詳細は、「 「操作」項目の詳細 」を参照してください。
ステータス	処理のステータス情報が出力されます。 「Information」/「Warning」/「Error」
詳細情報	ステータスが「Warning」/「Error」のときに復帰時の詳細情報が出力されます。 最大100文字まで出力されます。
配信管理サーバ	List Worksサーバ(操作を実行した配信管理サーバがインストールされているサーバ)のIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作端末	処理を依頼したコンピュータのIPアドレスまたはホスト名が出力されます。プロキシサーバの利用時は、プロキシサーバのIPアドレスが出力されます。

項目	説明
操作ユーザ	操作を行ったユーザのユーザIDが出力されます。
作成ユーザ	—
登録日時	—
配信フォルダ名	操作対象の配信フォルダ名が出力されます。
予備	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
配信出力先名	配信出力先への操作の場合、配信出力先名が出力されます。
帳票ID	帳票への操作の場合、操作対象の帳票IDが出力されます。 印刷ジョブへの操作の場合、印刷を指示された帳票の帳票IDが出力されます。
ジョブID	印刷ジョブへの操作の場合、操作対象のジョブIDが出力されます。
帳票種別	—
種別	内部のインタフェース名が文字列で出力されます。
帳票名	操作した帳票または印刷ジョブの帳票名が出力されます。
タイトル	操作した帳票のタイトルが出力されます。
コメント	操作した帳票のコメントが出力されます。
ページ数	操作した帳票のページ数が出力されます。
開始ページ	操作時に指定された帳票の開始ページが出力されます。 出力指示画面で開始ページに何も指定しない場合、または0を指定した場合は、帳票登録時に帳票情報で指定した印刷時の開始ページが出力されます。なお、帳票登録時に帳票情報で印刷時の開始ページを指定していない場合は、1が出力されます。
終了ページ	操作時に指定された帳票の終了ページが出力されます。 出力指示画面で終了ページに何も指定しない場合、または0を指定した場合は、帳票登録時に帳票情報で指定した印刷時の終了ページが出力されます。なお、帳票登録時に帳票情報で印刷時の終了ページを指定していない場合は、帳票の最終ページが出力されます。
部数	操作時に指定された部数が出力されます。 出力指示画面で部数に何も指定しない場合、または0を指定した場合は、帳票登録時に帳票情報で指定した印刷時の部数が出力されます。なお、帳票登録時に帳票情報で印刷時の部数を指定していない場合は、0が出力されます。
出力完了ページ	—
用紙コード	—
補足情報1	- 操作が「Delete Documents」、「Cancel Output Jobs」または、「Change Output Destination of Output Jobs」の場合 一括操作の開始時には「Begin」、終了時には「End」の文字列が出力されます。 - 操作が「Logout」の場合 「LogoutOperation」(ログアウト操作によるログアウト)、または「SessionTimeout」(セッションタイムアウトによるログアウト)の文字列が出力されます。
補足情報2	- 操作が「Change Output Destination」の場合 変更元の配信出力先名が出力されます。 - 操作が「Change Output Destination of Output Job」の場合 変更元の配信出力先名が出力されます。 - 操作が「Change Priority of Output Job」の場合 変更元の優先度が出力されます。

項目	説明
補足情報3	- 操作が「Change Output Destination」の場合 変更先の配信出力先名が出力されます。 - 操作が「Change Output Destination of Output Job」の場合 変更先の配信出力先名が出力されます。 - 操作が「Change Priority of Output Job」の場合 変更先の優先度が出力されます。
補足情報4	配信操作画面のAPI(Httpリクエスト)のLoginで、パラメタ「externalinfo」に有効な値を指定した場合に、指定値が出力されます。
備考1	—
備考2	
備考3	
備考4	
備考5	
備考6	
備考7	
備考8	
備考9	
備考10	
備考11	
備考12	
備考13	
備考14	
備考15	
備考16	
予備1	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
予備2	
予備3	
予備4	
予備5	
接続識別子	配信操作画面から配信管理サーバへ接続する単位の識別子が出力されます。
改ざん防止情報1	改ざん防止情報1が数字で出力されます。
改ざん防止情報2	改ざん防止情報2が文字列で出力されます。

17.1.2.4 印刷をした場合

項目	説明
年月日	印刷イベントが発生した日時の年月日部分が、「YYYY/MM/DD」の形式で出力されます。
時分秒	印刷イベントが発生した日時の時分秒部分が、「hh.mm.ss.xxx」の形式で出力されます。
ログ種別	「Output」(固定文字列)

項目	説明
操作	—
ステータス	「Information」/「Error」/「Cancel」
詳細情報	ステータスが「Error」のときに復帰時の詳細情報が出力されます。 最大100文字まで出力されます。
配信管理サーバ	List Worksサーバ(操作を実行した配信管理サーバがインストールされているサーバ)のIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作端末	—
操作ユーザ	印刷を指示したユーザのユーザIDが出力されます。 即時印刷の場合、作成ユーザIDが出力されます。
作成ユーザ	—
登録日時	—
配信フォルダ名	—
予備	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
配信出力先名	帳票の配信出力先名が出力されます。
帳票ID	印刷を指示された帳票の帳票IDが出力されます。
ジョブID	印刷ジョブのジョブIDが出力されます。
帳票種別	—
種別	印刷イベントが以下の文字列で出力されます。 「Start Printing」「End Printing」
帳票名	帳票名が出力されます。
タイトル	—
コメント	—
ページ数	印刷ジョブの出力総ページ数が出力されます。
開始ページ	印刷を指定された帳票の開始ページが出力されます。 出力指示画面で開始ページに何も指定しない場合、または0を指定した場合、または即時印刷の場合は、帳票登録時に帳票情報で指定した印刷時の開始ページが出力されます。なお、帳票登録時に帳票情報で印刷時の開始ページを指定していない場合は、1が出力されます。
終了ページ	印刷を指定された帳票の終了ページが出力されます。 出力指示画面で終了ページに何も指定しない場合、または0を指定した場合、または即時印刷の場合は、帳票登録時に帳票情報で指定した印刷時の終了ページが出力されます。なお、帳票登録時に帳票情報で印刷時の終了ページを指定していない場合は、帳票の最終ページが出力されます。
部数	印刷を指定された部数が出力されます。 出力指示画面で部数に何も指定しない場合、または0を指定した場合、または即時印刷の場合は、帳票登録時に帳票情報で指定した印刷時の部数が出力されます。なお、帳票登録時に帳票情報で印刷時の部数を指定していない場合は、0が出力されます。
出力完了ページ	印刷が正常に完了した場合、印刷が完了したページ数が出力されます。 印刷を取り消した場合、取り消すまでに印刷したページ数が出力されます。
用紙コード	印刷ジョブの用紙コードが出力されます。
補足情報1	帳票の出力回数が出力されます。
補足情報2	—
補足情報3	—

項目	説明
補足情報4	—
備考1	—
備考2	
備考3	
備考4	
備考5	
備考6	
備考7	
備考8	
備考9	
備考10	
備考11	
備考12	
備考13	
備考14	
備考15	
備考16	
予備1	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
予備2	
予備3	
予備4	
予備5	
接続識別子	—
改ざん防止情報1	改ざん防止情報1が数字で出力されます。
改ざん防止情報2	改ざん防止情報2が文字列で出力されます。

17.1.2.5 帳票を表示した場合

Web配信操作クライアントで帳票を表示したときのログは、リスト管理サーバまたは配信管理サーバの操作ログに出力されます。

表示する帳票によって、以下のように操作ログが出力されるコンポーネントが異なります。

- List Works帳票の場合

リスト管理サーバの操作ログに出力されます。

List Works帳票を表示したときに、対象の帳票および帳票が格納されている配信フォルダが、すでに削除されていた場合は、リスト管理サーバの操作ログにログが出力されません。



リスト管理サーバの操作ログについては、“メッセージ集”を参照してください。

- List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票の場合

配信管理サーバの操作ログに出力されます。



配信管理サーバの操作ログについては、“[17.1 配信管理サーバの操作ログ](#)”を参照してください。

(1) List Works帳票の場合

項目	説明
年月日	処理が行われた年月日が、「yyyy/mm/dd」の形式で出力されます。
時分秒	処理が行われた時刻が、「hh:mm:ss」の形式で出力されます。
フォルダ種別	「配信」(固定文字列)
処理種別	「開く」(固定文字列)
ユーザID	処理を依頼したユーザのユーザIDが、IPアドレス¥ユーザIDの形式で出力されます。
ステータス	処理のステータス情報が出力されます。 「情報」「警告」「エラー」
詳細情報	復帰時の詳細情報(メッセージ)が出力されます。
帳票ID	処理対象になった帳票の帳票IDが出力されます。
帳票名	処理対象になった帳票の帳票名が出力されます。
入力サーバ名	「127.0.0.1」
入力フォルダ名	表示対象の帳票ファイルが格納されているフォルダの物理パスが出力されます。
入力ファイル名	表示対象の帳票ファイルのファイル名が出力されます。
出力サーバ名	—
出力フォルダ名	—
出力ファイル名	—
その他1	—
その他2	—
予約域	—
予約域	—
予約域	—
予約域	—
予約域	—
予約域	—
サーバ接続識別子	—
行番号	行番号が出力されます。
予約域	ログに関する情報が出力されます。

(2) List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票の場合

項目	説明
年月日	操作が完了した日時の年月日部分が、「YYYY/MM/DD」の形式で出力されます。
時分秒	操作が完了した日時の時分秒部分が、「hh.mm.ss.xxx」の形式で出力されます。
ログ種別	「Distributor」(固定文字列)
操作	「Preview Document」(固定文字列)

項目	説明
ステータス	処理のステータス情報が出力されます。 「Information」/「Warning」/「Error」/「Cancel」
詳細情報	復帰時の詳細情報(メッセージ)が出力されます。
配信管理サーバ	List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作端末	処理を依頼したコンピュータのIPアドレスまたはホスト名が出力されます。
操作ユーザ	操作を行ったユーザのユーザIDが出力されます。
作成ユーザ	—
登録日時	—
配信フォルダ名	—
予備	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
配信出力先名	—
帳票ID	帳票の帳票IDが出力されます。
ジョブID	—
帳票種別	—
種別	「Form.downloadPDF」(固定文字列)
帳票名	帳票の帳票名が出力されます。
タイトル	帳票のタイトルが出力されます。
コメント	帳票のコメントが出力されます。
ページ数	帳票のページ数が出力されます。
開始ページ	—
終了ページ	—
部数	—
印刷完了ページ	—
用紙コード	—
補足情報1	操作に関する補足の情報が出力されます。
補足情報2	
補足情報3	
補足情報4	配信操作画面のAPI(Httpリクエスト)のLoginで、パラメタ「externalinfo」に有効な値を指定した場合に、指定値が出力されます。
備考1	—
備考2	
備考3	
備考4	
備考5	
備考6	
備考7	
備考8	
備考9	
備考10	

項目	説明
備考11	
備考12	
備考13	
備考14	
備考15	
備考16	
予備1	何も出力されません。将来の拡張のための領域です。
予備2	
予備3	
予備4	
予備5	
接続識別子	配信操作画面、帳票出力アプリケーションから配信管理サーバへ接続する単位の識別子が出力されます。
改ざん防止情報1	改ざん防止情報1が数字で出力されます。
改ざん防止情報2	改ざん防止情報2が文字列で出力されます。

17.2 配信管理サーバのメッセージ

配信管理サーバで出力される以下のメッセージについて説明します。

- ・ イベントログに出力されるメッセージ
ソースが「List Works Distributor」のイベントログです。

17.2.1 ソースが「List Works Distributor」のイベントログ

配信管理サーバで出力されるメッセージと、その対処方法について説明します。



注意

イベントログに出力される補足情報、詳細情報で、半角文字のパーセント記号「%」が、半角文字のアンダースコア「_」に置き換わって表示される場合があります。

17.2.1.1 イベントログ

1000

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サーバで異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の環境設定に誤りがないことを確認してください。

上記の設定が正しければ、以下のワークユニットの作成手順に誤りがないことを確認してください。

- ・ 印刷管理のワークユニット
- ・ 帳票登録のワークユニット
- ・ 配信操作画面のワークユニット

再度同じ現象が発生する場合は、List Worksを再インストールしてください。

再インストールをしても同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

1001

[種類]

エラー

[意味]

帳票出力アプリケーションや配信出力サーバの処理によって、List Worksサーバが高負荷の状態となっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージが頻繁に出力される場合は、帳票出力アプリケーションの多重度やList Works配信出力サーバの台数を見直して、List Worksサーバの負荷を軽減してください。

1002

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サーバで深刻なエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

1003

[種類]

情報

[意味]

帳票登録のワークユニットを起動しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

1004

[種類]

情報

[意味]

配信操作画面のワークユニットを起動しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

1005

[種類]

情報

[意味]

印刷管理のワークユニットを起動しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

1006

[種類]

情報

[意味]

帳票登録のワークユニットを停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

1007

[種類]

情報

[意味]

配信操作画面のワークユニットを停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

1008

[種類]

情報

[意味]

印刷管理のワークユニットを停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

1009

[種類]

エラー

[意味]

帳票登録のワークユニットの起動に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除き、ワークユニットを再起動してください。

1010

[種類]

エラー

[意味]

配信操作画面のワークユニットの起動に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除き、ワークユニットを再起動してください。

1011

[種類]

エラー

[意味]

印刷管理のワークユニットの起動に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除き、ワークユニットを再起動してください。

1012

[種類]

エラー

[意味]

帳票登録のワークユニットの停止に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除いてください。

1013

[種類]

エラー

[意味]

配信操作画面のワークユニットの停止に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除いてください。

1014

[種類]

エラー

[意味]

印刷管理のワークユニットの停止に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除いてください。

1015

[種類]

エラー

[意味]

ワークユニットの起動に失敗しました。

ワークユニットの設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のワークユニットのJavaVMオプションに指定した値を確認し、ワークユニットを再起動してください。

- ・ 印刷管理のワークユニット
- ・ 帳票登録のワークユニット
- ・ 配信操作画面のワークユニット

1100

[種類]

警告

[意味]

操作ログが改ざんされた恐れがあります。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

操作ログの改ざんチェックを行ってください。

1101

[種類]

エラー

[意味]

操作ログを出力するフォルダが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サーバの環境設定ファイルで指定された操作ログの出力フォルダが存在するかどうか確認してください。

出力フォルダが存在しない場合は、フォルダを作成してください。

1102

[種類]

エラー

[意味]

操作ログの出力に必要なライブラリのロードに失敗しました。

List Worksが正しくインストールされていない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ライブラリの存在を確認してください。

存在しない場合は、List Worksを再インストールしてください。

1103

[種類]

エラー

[意味]

操作ログの出力で、内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

1104

[種類]

エラー

[意味]

操作ログの出力に必要なレジストリ情報の取得に失敗しました。
List Worksが正しくインストールされていない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。
再度発生する場合は、システムを再起動してください。
それでも問題が解決されない場合は、List Worksを再インストールしてください。

1105

[種類]

エラー

[意味]

操作ログの出力でメモリエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

1106

[種類]

エラー

[意味]

操作ログの出力でコード変換に失敗しました。
メモリが不足している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。再度発生する場合は、List Worksサーバを再起動してください。

1107

[種類]

エラー

[意味]

操作ログを出力するフォルダのパスの長さが210バイトを超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サーバの環境設定ファイルで指定された操作ログの出力フォルダのパスを見直してください。

1108

[種類]

エラー

[意味]

操作ログファイルのオープンに失敗しました。
以下のいずれかの可能性があります。

- List Worksサーバに十分な空き容量がない可能性があります。
- 操作ログを出力するフォルダ、または操作ログファイルにアクセス権がない可能性があります。
- 操作ログファイルを他のアプリケーションが利用している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のいずれかの対処をしてください。

- ディスクの空き容量を確認してください。
空き容量の確認後、不要なファイルを削除してください。
- アクセス権を確認してください。
- 操作ログファイルを利用しているアプリケーションを終了してください。

1109

[種類]

エラー

[意味]

操作ログファイルの書き込みに失敗しました。List Worksサーバに十分な空き容量がない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクの空き容量を確認してください。
空き容量の確認後、不要なファイルを削除してください。

1110

[種類]

エラー

[意味]

操作ログを他のアプリケーションで参照しているため、操作ログファイルへのファイルアクセスに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

操作ログを参照しているアプリケーションを終了してください。

2001

[種類]

エラー

[意味]

配信データベースに接続できませんでした。

以下の原因が考えられます。

- 配信データベースが起動していません。
- データベースサーバとの通信に関するファイアウォールの設定に誤りがあります。
- 印刷配信の環境設定の先頭がdb.で始まるキーに指定した値に誤りがあります。
- List Worksサーバにデータベースクライアントがインストールされていません。
- Symfowareデータベースを使用している場合、コネクションプーリングの環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- データベースを起動してください。
- データベースサーバとの通信に関するファイアウォールが正しく設定されているかを確認してください。
- 印刷配信の環境設定の先頭がdb.で始まるキーに正しい値が設定されているかを確認してください。
- List Worksサーバにデータベースクライアントをインストールしてください。
- コネクションプーリングの環境設定が正しく実施されているかを確認してください。

2002

[種類]

エラー

[意味]

JDBCアーカイブファイルのロードに失敗しました。

以下の原因が考えられます。

- 印刷配信の環境設定の「classpath.jdbc」キーで指定したJDBCアーカイブファイルが誤っています。
- ワークユニットの設定が誤っています。
- List Worksサーバにデータベースクライアントがインストールされていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 印刷配信の環境設定の「classpath.jdbc」キーに正しい値が設定されているかを確認してください。
- ・ ワークユニットが正しく設定されているかを確認してください。
- ・ List Worksサーバにデータベースクライアントをインストールしてください。

2003

[種類]

エラー

[意味]

配信データベースでエラーが発生しました。

環境設定用のコマンドが動作している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

運用を停止してから環境設定用のコマンドを実行してください。

再度発生する場合は、補足情報を参考に、データベースのマニュアルを参照して、問題の解決を行ってください。

2004

[種類]

エラー

[意味]

配信データベースに接続できませんでした。

データソースが見つかりません。

以下の原因が考えられます。

- ・ 印刷配信の環境設定の先頭がdb.で始まるキーに指定した値に誤りがあります。
- ・ ワークユニットの設定に誤りがあります。
- ・ List Worksサーバにデータベースクライアントがインストールされていません。
- ・ Symfowareデータベースを使用している場合、コネクションプーリングの環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 印刷配信の環境設定の先頭がdb.で始まるキーに正しい値が設定されているかを確認してください。
- ・ ワークユニットが正しく設定されているかを確認してください。
- ・ List Worksサーバにデータベースクライアントをインストールしてください。
- ・ コネクションプーリングの環境設定が正しく実施されているかを確認してください。

2006

[種類]

エラー

[意味]

配信データベースにデータを格納できませんでした。

配信データベースの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信データベースの容量拡張を行ってください。

2007

[種類]

エラー

[意味]

データベースでタイムアウトが発生しました。

配信データベースの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

しばらくしてから再度実行してください。

データベースサーバにメッセージが出力されている場合は、メッセージに対する対処を行ってください。

2101

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバに接続できませんでした。

以下の原因が考えられます。

- ・ 配信出力サーバのワークユニットが起動していません。
- ・ 配信出力サーバが起動していません。
- ・ List Works配信出力サーバとの通信に関するファイアウォールの設定が誤っています。
- ・ 印刷配信の環境設定の「`delivery.writer.web.port`」キーに指定した値が誤っています。
- ・ 配信出力先に設定した、配信出力サーバ名が誤っています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 配信出力サーバのワークユニットを起動してください。
- ・ 配信出力サーバを起動してください。
- ・ List Works配信出力サーバとの通信に関するファイアウォールを正しく設定してください。
- ・ 印刷配信の環境設定の「`delivery.writer.web.port`」キーに正しい値が設定されているかを確認してください。
- ・ 配信出力先に設定した、配信出力サーバ名を正しく設定してください。

2102

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバとの通信時にタイムアウトが発生しました。

以下の原因が考えられます。

- ・ ネットワークが切断されています。
- ・ ネットワークの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ ネットワークの状態を確認し、再度実行してください。

- ・しばらくしてから再度実行してください。

2103

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバとの通信でエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、印刷ジョブを取り消して、再度実行してください。

2104

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバとの通信でエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

補足情報のメッセージを参考に、問題の解決を行ってください。

2105

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバでエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバのイベントログを確認し、必要な処置を行ってください。

イベントログが出力されていない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

2106

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバでリクエストが受け付けられませんでした。

以下の原因が考えられます。

- ・ 配信出力サーバのサービスが起動していない可能性があります。
- ・ 配信出力サーバの環境構築が行われていない可能性があります。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 配信出力サーバの以下のサービスを起動してください。
 - WORKIT MSG(F3BW)
 - PRT Server Service
 - Print Spooler
 - LW Print State Service
- ・ 配信出力サーバの環境構築スクリプトを実行して、配信出力サーバの環境構築を行ってください。

2201

[種類]

エラー

[意味]

ファイルまたはフォルダの処理でエラーが発生しました。

以下の原因が考えられます。

- ・ 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダのアクセス権が誤っています。
- ・ 他の処理が利用しているため、ファイルまたはフォルダにアクセスできません。

- ・ ディスクの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーに指定したフォルダのアクセス権を確認し、再度実行してください。
- ・ 不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。
- ・ 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダが存在するドライブで、空き容量が不足していないかを確認してください。

再度発生する場合は、補足情報に表示されているファイルまたはフォルダを削除してください。

2202

[種類]

エラー

[意味]

印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーには存在するフォルダを指定してください。

2301

[種類]

エラー

[意味]

予期せぬエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。再度発生する場合は、システムを再起動してください。

2401

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なサービスおよびアプリケーションを終了し、再度実行してください。再度発生する場合は、システムを再起動してください。

3001

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ構成の編集に失敗しました。

プリンタ構成コードを設定している配信出力先に印刷ジョブが存在するため、プリンタ構成の編集はできません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ構成コードを設定している配信出力先の印刷ジョブの印刷が完了してから、再度実行してください。

3002

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ構成の削除に失敗しました。プリンタ構成コードが配信出力先に設定されているため、プリンタ構成を削除できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力先に設定されているプリンタ構成コードを消去してから、再度実行してください。

3003

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ構成の編集に失敗しました。

指定したパラメタに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

パラメタを正しく指定して、再度実行してください。

3004

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ構成の定義に失敗しました。

指定したプリンタ構成が既に存在します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

重複しないプリンタ構成コード、または用紙コードを指定して、再度実行してください。

3101

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の削除に失敗しました。配信出力先に印刷ジョブが存在するため、削除できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力先の印刷ジョブの印刷が完了してから、再度実行してください。

3102

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の削除に失敗しました。

配信出力先が配信フォルダに設定されているため、削除できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信フォルダに設定されている配信出力先を消去してから、再度実行してください。

3103

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の変更に失敗しました。配信出力先に印刷ジョブが存在するため、変更できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力先の印刷ジョブの印刷が完了してから、再度実行してください。

3104

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の編集に失敗しました。

配信出力先に指定したプリンタ構成が存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

存在するプリンタ構成を指定して、再度実行してください。

3105

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の編集に失敗しました。

パラメタに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

パラメタを正しく指定して、再度実行してください。

3106

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の作成に失敗しました。

指定した配信出力先IDまたは配信出力先名が既に存在します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

別の配信出力先ID、または配信出力先名を指定して、再度実行してください。

3107

[種類]

エラー

[意味]

配信出力先の変更に失敗しました。

指定した配信出力先名の配信出力先が、既に存在します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

重複しない配信出力先名を指定して、再度実行してください。

3207

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの配信出力先の変更に失敗しました。

指定した配信出力先が存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

存在する配信出力先を指定して、再度実行してください。

3209

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの配信出力先への送信に失敗しました。システムの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

しばらくしてから再度実行してください。

3210

[種類]

エラー

[意味]

印刷の取り消しに失敗しました。

システムの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

しばらくしてから再度実行してください。

3211

[種類]

エラー

[意味]

印刷の取り消しを配信出力サーバに送信できませんでした。

配信出力先が存在しません。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

3212

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

システムの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報を参照し、しばらくしてから再度印刷してください。

3301

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

帳票情報のキーワードに指定した値が誤っています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

電子帳票情報ファイルまたは情報連携のキーワードに対応する値に、正しい値を指定して、再度実行してください。

3302

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

帳票情報に必要なキーワードまたはセクションが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

電子帳票情報ファイルまたは情報連携に、必要なキーワードまたはセクションを定義して、再度実行してください。

3303

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

帳票名として指定した値が誤っています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票名に正しい値を指定して、再度実行してください。

3306**[種類]**

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

印刷資源または帳票にアクセスできませんでした。

以下の原因が考えられます。

- ・ 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダのアクセス権が誤っている可能性があります。
- ・ 他の処理が利用しているため、印刷資源または帳票ファイルにアクセスできない可能性があります。
- ・ 印刷資源または帳票ファイルが存在していない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーに指定したフォルダのアクセス権を確認し、帳票を再登録してください。

3309**[種類]**

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

指定した配信フォルダが存在しません。

指定した配信フォルダは、関連情報が残った状態で削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

存在する配信フォルダを指定して、再度実行してください。

3310

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

指定した配信フォルダは存在しません。

配信フォルダの指定が誤っているか、または既に削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

存在する配信フォルダを指定して、再度実行してください。

3311

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

印刷配信の環境設定の「**folder.rootpath**」キーで指定したフォルダのアクセス権が誤っています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の環境設定の「**folder.rootpath**」キーに指定したフォルダのアクセス権を確認し、再度実行してください。

3313

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

帳票の出力回数が最大出力回数に達しています。最大出力回数を超えた印刷はできません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

最大出力回数を変更して、再度実行してください。

3314

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

帳票が削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票が存在しているかを確認してください。

3315

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

配信出力先が存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

存在する配信出力先を指定して、再度実行してください。

3316

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

配信出力先が停止しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力先を起動して、再度実行してください。

3317

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。配信出力先が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力先を指定して、再度実行してください。

3318

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

帳票が格納されている配信フォルダが削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ありません。

3319

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

配信管理サーバの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

しばらくしてから、印刷ジョブを取り消して、再度実行してください。

3320

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

帳票が格納されている配信フォルダが削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ありません。

3322

[種類]

エラー

[意味]

帳票の削除に失敗しました。指定した配信フォルダの帳票は印刷処理中のため削除できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信フォルダの帳票の印刷が完了してから、再度実行してください。

3328

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

配信管理サーバの負荷が高くなっています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

しばらくしてから再度実行してください。

3329

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

List Worksが正しくインストールされていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

List Worksを再インストールしてください。

3330

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

帳票が格納されている配信フォルダが削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ありません。

3331

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

帳票が格納されている配信フォルダが削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ありません。

3332

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

帳票が削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票が存在しているかを確認してください。

3333

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

印刷資源が存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票を再登録してください。

3335

[種類]

エラー

[意味]

最大出力回数の変更に失敗しました。設定されている最大出力回数より小さい値への変更や、無制限からの変更はできません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ありません。

3336

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

配信フォルダIDの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信フォルダIDを正しく指定して、再度実行してください。

3337

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。

配信フォルダIDが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信フォルダIDを指定して、再度実行してください。

3338

[種類]

エラー

[意味]

帳票の削除に失敗しました。

内部で異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。再度発生する場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

3350

[種類]

エラー

[意味]

帳票の登録に失敗しました。
内部で異常が発生しました。

[システムの対処]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。再度発生する場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

3352

[種類]

エラー

[意味]

登録のファイル処理で失敗しました。

[システムの対処]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報にファイル格納場所が出力されている場合は、表示されているフォルダを削除してください。

3360

[種類]

エラー

[意味]

帳票に関連するファイルや情報の削除に失敗しました。
lwcleanformコマンドが複数同時に実行されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

lwcleanformコマンドは複数同時に実行しないでください。

3361

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

帳票が削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票が存在しているかを確認してください。

3362

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

帳票が削除されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票が存在しているかを確認してください。

3365

[種類]

エラー

[意味]

登録のファイル処理で失敗しました。

印刷配信の環境設定の「`folder.rootpath`」キーで指定したフォルダのアクセス権が誤っています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の環境設定の「`folder.rootpath`」キーに指定したフォルダのアクセス権を確認し、再度実行してください。

補足情報にファイル格納場所が出力されている場合は、表示されているフォルダを削除してください。

3366

[種類]

エラー

[意味]

帳票の表示に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して、原因を取り除き、再度実行してください。

3367

[種類]

エラー

[意味]

帳票に関連するファイルや情報の削除に失敗しました。

帳票の格納場所に帳票以外のファイルやフォルダがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報のファイル格納場所の配下に存在するファイルやフォルダを、すべて削除してから、再度実行してください。

3401

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの削除に失敗しました。帳票が存在するため、配信フォルダを削除できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信フォルダの帳票を削除してから、配信フォルダを削除してください。

3402

[種類]

エラー

[意味]

帳票に関連するファイルや情報の削除に失敗しました。

内部で異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。再度発生する場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

3403

[種類]

エラー

[意味]

帳票に関連するファイルや情報の削除に失敗しました。

lwcleanformコマンドが複数同時に実行されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

lwcleanformコマンドは複数同時に実行しないでください。

3404

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの編集に失敗しました。
指定された配信出力先が存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

存在する配信出力先を指定して、再度実行してください。

3405

[種類]

エラー

[意味]

帳票に関連するファイルや情報の削除に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報にファイル格納場所が出力されている場合は、表示されているフォルダを削除してください。

3406

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの定義に失敗しました。
以下の原因が考えられます。

- ・ 印刷配信の環境設定の「`folder.rootpath`」キーで指定したフォルダのアクセス権が誤っています。
- ・ 他の処理がファイルまたはフォルダを利用しているため、ファイルまたはフォルダにアクセスできません。
- ・ ディスクの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 印刷配信の環境設定の「`folder.rootpath`」キーに指定したフォルダのアクセス権を確認し、再度実行してください。
- ・ 不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。
- ・ 当該ディスクの空き容量を確認し、再度実行してください。

3407

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの編集に失敗しました。

指定したパラメタに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

パラメタを正しく指定して、再度実行してください。

3408

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの定義に失敗しました。

指定した配信フォルダIDまたは配信フォルダ名の配信フォルダが、既に存在します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

重複しない配信フォルダIDまたは配信フォルダ名を指定して、再度実行してください。

3409

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの編集に失敗しました。

配信フォルダの出力動作モードに「即時印刷」が指定されていますが、配信出力先が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

出力動作モードまたは配信出力先を正しく設定してください。

3410

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの変更に失敗しました。

指定した配信フォルダ名の配信フォルダが、既に存在します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

重複しない配信フォルダ名を指定して、再度実行してください。

3505

[種類]

エラー

[意味]

認証に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。再度発生する場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

3507

[種類]

エラー

[意味]

認証に失敗しました。

ユーザ作成ライブラリをロードできませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ユーザ作成ライブラリがロードできるように、システム環境変数「Path」を正しく設定してください。

3601

[種類]

エラー

[意味]

印刷配信の環境設定の読み込みに失敗しました。

以下の原因が考えられます。

- ・ 印刷配信の環境設定が行われていない可能性があります。
- ・ ワークユニットの設定に誤りがある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 印刷配信の環境設定を行ってください。

- ・ ワークユニットの設定に誤りがないかを確認してください。

3602

[種類]

エラー

[意味]

印刷配信の環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の環境設定を実行して、再度処理を行ってください。

3701

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダの帳票の印刷に失敗しました。

印刷ジョブを配信出力サーバへ送信できませんでした。

以下の原因が考えられます。

- ・ 配信出力先の設定が誤っている可能性があります。
- ・ 配信出力先が削除された可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- ・ 配信出力先が正しく設定されているかを確認してください。
- ・ 存在する配信出力先を指定してください。

3702

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの出力状態の更新に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信フォルダの帳票の印刷が完了しているかプリンタを直接確認し、印刷されていない場合は印刷ジョブを取り消し、再度実行してください。

完了している場合は、印刷ジョブを取り消してください。

3703

[種類]

警告

[意味]

配信フォルダの帳票の出力処理を終了しました。

印刷が取り消されたため、印刷ジョブを配信出力サーバへ送信できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷ジョブが存在することを確認してください。

3801

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

List Worksが正しくインストールされていないため、ライブラリがロードできませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

List Worksを再インストールしてください。

3802

[種類]

エラー

[意味]

帳票の配信に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報のエラー分類、エラーコードを参考に、マニュアルで配信処理のエラーの説明を参照してください。

対象のエラー分類、エラーコードに関する説明がない場合や、問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。



エラーコードとエラーメッセージをもとに、“[17.2.1.2 配信処理のエラー](#)”を参照して対処してください。

3803

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

メモリ不足が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

3804

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

サービス「LW Transfer Service」を起動したユーザに管理者権限がない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

起動したユーザの権限を確認し、再度実行してください。

5700

[種類]

エラー

[意味]

通信データに未サポートの情報が含まれているため、印刷ジョブの問い合わせに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

5701

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サーバで問題が発生したため、印刷ジョブの問い合わせに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているエラーのメッセージを確認して、対処を行ってください。

5720

[種類]

エラー

[意味]

通信データに未サポートの情報が含まれているため、出力状態の更新に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

5721

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サーバで問題が発生したため、出力状態の更新に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているエラーのメッセージを確認して、対処を行ってください。

5723

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブのデータが不正であったため、出力状態の更新に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信操作画面より、印刷ジョブの状態を確認してください。印刷ジョブの状態が更新されない場合は、印刷ジョブの取り消しを行ってください。

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

5790

[種類]

警告

[意味]

配信管理サーバで、メモリ不足が発生しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信管理サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

5799

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サーバで深刻なエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

5900

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Transfer Service」が開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

5901

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Transfer Service」が停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

5902

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

製品が正しくインストールされていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

5903

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

開始処理で問題が発生しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前にメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して原因を取り除いてください。

直前にメッセージが出力されていない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

5904

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

メモリ不足が発生しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、システムを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

5906

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の停止に失敗しました。

停止処理で問題が発生しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前にメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して原因を取り除いてください。

直前にメッセージが出力されていない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

8000

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダへの登録処理で異常が発生したため、帳票の振り分け処理を中止します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下を確認して、再度帳票を登録してください。

- ・ 印刷配信の動作環境定義ファイルの「folder.rootpath」キーで設定したフォルダが存在すること。
- ・ 上記のフォルダに正しくアクセス権が付与されていること。

これらが正しければ、本メッセージの前に出力される帳票印刷配信機能のエラーメッセージを確認し、エラーの原因を取り除いて、再度帳票を登録してください。

8001

[種類]

警告

[意味]

印刷データに対応したオーバーレイが存在しないため、オーバーレイを使用せずに配信フォルダに登録します。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

8101

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

OSの仮想メモリサイズを増やして、再度帳票を登録してください。

8102

[種類]

エラー

[意味]

ディスクに十分な空きがありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷配信の動作環境定義ファイルの「`folder.rootpath`」キーで設定したフォルダのあるディスクの容量を確認して、再度帳票を登録してください。

8103

[種類]

エラー

[意味]

システムのリソース不足が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8111

[種類]

エラー

[意味]

ファイルアクセスに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8112

[種類]

エラー

[意味]

ファイルが見つかりません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8113

[種類]

エラー

[意味]

帳票情報に配信フォルダIDが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票情報に配信フォルダIDが指定されていることを確認し、再度帳票を登録してください。

8114

[種類]

エラー

[意味]

帳票情報の書式に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票情報の書式が正しいことを確認し、再度帳票を登録してください。

8115

[種類]

エラー

[意味]

ファイルの削除に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8121

[種類]

エラー

[意味]

帳票情報に指定された配信フォルダIDが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票情報に指定された配信フォルダIDに対応する配信フォルダが存在することを確認し、再度帳票を登録してください。

8131

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダへの登録処理に渡されたパラメタが正しくありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8132

[種類]

エラー

[意味]

配信フォルダへの登録処理の呼びだし順が不当です。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8141

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サービスが起動していません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下を確認して、再度帳票を登録してください。

- ・ 帳票登録のワークユニットの作成手順に誤りがないこと。
- ・ 上記に誤りがなければ、帳票登録のワークユニットが起動していること。
- ・ 上記が起動されていれば、配信データベースが起動していること。

8142

[種類]

エラー

[意味]

ネットワークエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の順序で処置を実施し、帳票が登録できることを確認してください。登録できた場合は、それ以降の処置は必要ありません。

1. 以下の点について確認し、再度帳票を登録してください。
 - － 配信管理サーバの環境設定ファイルで、[regist]セクションの「trkRegPeerPort」キーに指定するポート番号が正しいこと。
 - － List WorksサーバのWebサーバが起動していること。
2. サーバの負荷が高い場合は、負荷を下げて、再度帳票を登録してください。
3. 不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。
4. 配信管理サービスを再起動してください。
5. システムを再起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8151

[種類]

エラー

[意味]

配信管理サービスへの要求でエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下を確認して、再度帳票を登録してください。

- ・ 帳票登録のワークユニットが作成されていること。
- ・ 上記が作成されていれば、ワークユニットの作成手順に誤りがないこと。

これらが正しければ、不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、配信管理サービスを再起動してください。

それでも問題が解決されない場合は、システムを再起動してください。

上記の対処で問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8152**[種類]**

エラー

[意味]

配信管理サービスのデータベースの処理でエラーが発生しました。

データベースの処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

データベースのログファイルおよびイベントログを参照して、エラーの原因を取り除いてから、再度帳票を登録してください。

8153**[種類]**

エラー

[意味]

配信管理サービスの処理でエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下を確認して、再度帳票を登録してください。

- ・ 印刷配信の環境設定に誤りがないこと。
- ・ 上記の設定が正しければ、帳票登録のワークユニットの作成手順に誤りがないこと。

これらが正しければ、不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、配信管理サービスを再起動してください。

それでも問題が解決されない場合は、システムを再起動してください。

上記の対処で問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

8199

[種類]

エラー

[意味]

帳票印刷配信機能の登録処理で内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度帳票を登録してください。

再度発生する場合は、配信管理サービスを再起動してください。

それでも問題が解決されない場合は、システムを再起動してください。

上記の対処で問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

17.2.1.2 配信処理のエラー

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
20	10	—	帳票の配信時に、ファイルの読み込みで異常が発生しました。	ディスクに問題が発生しています。 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダのあるディスクの状態を確認してください。
20	30	あり	帳票の配信時に、ファイルの読み込みで異常が発生しました。	ディスクに問題が発生しています。 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダのあるディスクの状態を確認してください。

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
				なお、詳細コードに「3004」が表示された場合は、一時エラーの場合があります。再度、帳票の印刷を指示してください。
20	40		帳票の配信時に、ファイルのクローズで異常が発生しました。	ディスクに問題が発生しています。 印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダのあるディスクの状態を確認してください。
20	60		帳票の配信時に、ファイルの読み込みで異常が発生しました。	印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダにアクセス権がありません。フォルダのアクセス権を確認してください。
20	70		帳票の配信時に、ファイルの読み込みで異常が発生しました。	印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダの存在を確認してください。
20	90		帳票の配信時に、ファイルの読み込みで異常が発生しました。	印刷配信の環境設定の「folder.rootpath」キーで指定したフォルダ内部のファイルが、他のプログラムによって使用されています。 ファイルを使用中のプログラムを終了してから、再度、帳票の印刷を指示してください。
40	10	TCP/IPの詳細コード	帳票の配信時に、配信出力サーバで異常が発生しました。	配信出力サーバで強制的に中断されました。 配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信出力サーバを運用しているサーバのサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
40	20	TCP/IPの詳細コード	帳票の配信時に、配信出力サーバで異常が発生しました。	配信出力サーバとの通信に問題があります。 配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信出力サーバを運用しているサーバのサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
40	30	TCP/IPの詳細コード	帳票の配信時に、ネットワークエラーが発生しました。	以下の原因が考えられます。 ・ ネットワークエラーが発生しています。 ・ 配信出力サーバで強制的に中断されました。 ・ List Worksサーバのネットワーク環境に問題があります。 以下の対処を行ってください。 ・ ネットワークで異常が発生していないか確認してください。 ・ 配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信出力サーバを運用しているサーバのサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。 ・ hostsファイルへ設定したList Worksサーバの情報と、印刷配信の環境設定の「server.hostname」キーで指定した値が一致しているか確認してください。
40	40	TCP/IPの詳細コード	帳票の配信時に、配信出力サーバからキャンセルを受信しました。	配信出力サーバで異常が発生しています。配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信出力サーバを運用しているサーバのサー

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
				ビス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
40	50	TCP/IPの詳細コード	帳票の配信時に、配信出力サーバで異常が発生しました。	配信出力サーバで異常が発生しています。配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信出力サーバを運用しているサーバのサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
50	10		サービス「LW Transfer Service」が起動されていません。	サービス「LW Transfer Service」を起動してください。
50	60		帳票の配信時に、タイムアウトが発生しました。	配信出力サーバでエラーが発生しています。配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。
50	80		配信出力サーバへの接続に失敗しました。	以下の原因が考えられます。 ・ 配信出力サーバに問題が発生しています。 ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワークの設定に問題があります。 ・ 配信出力サーバの環境設定に問題があります。 以下の対処を行ってください。 ・ 配信出力サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信出力サーバを運用しているサーバのサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。 ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのhostsファイルやDNSサーバの設定、servicesファイルの設定、およびWindowsファイアウォールの設定を確認してください。 ・ 配信出力サーバの環境設定を確認してください。
50	90		配信出力サーバが見つかりませんでした。	hostsファイルやDNSサーバの設定に問題があります。hostsファイルやDNSサーバに、配信出力サーバを運用しているサーバが登録されているか確認してください。
50	100		配信管理サーバで一時的な資源不足が発生しました。	メモリ不足が発生しています。または、ファイル転送の多重度が限界値を超えています。 不要なアプリケーションを停止し、しばらく待ってから再度印刷を指示してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信管理サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。
50	250		配信管理サーバのファイル転送処理の負荷が高い状態になっています。	帳票の印刷量を軽減してください。
60	10		配信を中止しました。	—
60	20		配信済みのため、配信を中止できませんでした。	—
60	30		配信中にサービスの強制終了の要求を受け付けました。	サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
90	10		サービス「LW Transfer Service」に問題が発生しています。	一時的な資源(メモリ、ディスク容量)不足が発生しています。資源不足を解消後、再度、帳票の印刷を指示してください。 インストールフォルダに、アクセス権がありません。インストールフォルダのアクセス権の設定を確認してください。 サービス「LW Transfer Service」が停止要求を受けています。サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。
90	20		サービス「LW Transfer Service」に問題が発生しています。	一時的な資源(メモリ、ディスク容量)不足が発生しています。資源不足を解消後、再度、帳票の印刷を指示してください。 サービス「LW Transfer Service」が停止要求を受けています。サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。
90	30		深刻なエラーが発生しました。	サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。 問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
150	20 22 23 24		配信管理サーバで資源不足が発生しました。	不要なアプリケーションを停止し、しばらく待ってから再度帳票の印刷を指示してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信管理サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

17.3 配信出力サーバのメッセージ

配信出力サーバで出力されるメッセージと、その対処方法について説明します。

配信出力サーバで出力されるイベントログには、以下の種類があります。

ソース	説明
List Works Distributor	配信出力サービスのイベントログ
F3EWSRV	プリンタ監視に関するイベントログ
F3EWSVLG	プリンタ監視のログ機能のイベントログ
f3ewlprm	Interstage Enabledプリンタへの印刷に関するイベントログ
WORKIT MSG(F3BW)	メッセージ通知に関するイベントログ
WORKIT JOB(F3BW)	メッセージ通知に関するイベントログ
F5CWSVLG	トラブル調査用ログ機能に関するイベントログ
List Works PrintFit	トナー削減印刷に関するイベントログ

17.3.1 ソースが「List Works Distributor」のイベントログ

ソースが「List Works Distributor」のイベントログは、配信出力サービスのイベントログです。

ソースが「List Works Distributor」のイベントログについて、番号の順に説明します。



注意

イベントログに出力される補足情報、詳細情報で、半角文字のパーセント記号「%」が、半角文字のアンダースコア「_」に置き換わって表示される場合があります。

17.3.1.1 イベントログ

3801

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

製品が正しくインストールされていないため、ライブラリがロードできませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

3802

[種類]

エラー

[意味]

帳票の配信に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報のエラー分類、エラーコードを参考に、マニュアルで配信処理のエラーの説明を参照してください。

対象のエラー分類、エラーコードに関する説明がない場合や、問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。



配信処理のエラーの詳細については、“[17.3.1.2 配信処理のエラー](#)”を参照して対処してください。

3803

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。
メモリ不足が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

3804

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。
サービス「LW Transfer Service」を起動したユーザに管理者権限がない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

起動したユーザの権限を確認し、再度実行してください。

5000

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、ネットワークエラーが発生しました。
ネットワーク環境に問題があります。または配信管理サーバの設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の内容を確認してください。

- ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワークの設定
- ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのファイアウォールの設定
- ・ List WorksサーバのWebサーバが起動しているか
- ・ 印刷配信の環境設定に誤りがないか

5001

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、配信を依頼した配信管理サーバが見つかりませんでした。
ネットワークの設定、DNSの設定、または配信管理サーバの環境設定に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワークの設定を確認してください。印刷配信の環境設定に誤りがないか確認してください。

5002

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、通信エラーが発生しました。
List Worksサーバのネットワーク環境に問題が発生している可能性があります。
また、これにより、List Worksサーバの負荷が高くなっている可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

List WorksサーバのWebサーバの環境を確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

List Worksサーバの負荷が高くなっている場合は、帳票を印刷する多重度を減らしてください。

5003

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、配信管理サーバが見つかりませんでした。

配信管理サーバの環境設定が正しく行われていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の内容を確認してください。

- ・ 配信管理サーバの印刷管理のワークユニットが作成されているか
- ・ 印刷管理のワークユニットの作成手順に誤りがないか
- ・ 印刷配信の環境設定に誤りがないか

5004

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、通信がタイムアウトしました。

List Worksサーバへアクセスが集中しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

しばらく時間をおいて、再度実行してください。

5005

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、配信管理サーバのエラーが発生しました。

配信管理サービスが起動していません。または配信管理サーバの環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サービスが起動しているか確認してください。配信管理サーバの印刷管理のワークユニットの作成手順に誤りがないか確認してください。

5006**[種類]**

情報

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、配信管理サーバとの接続が復旧しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

5007**[種類]**

警告

[意味]

印刷ジョブの問い合わせ中に、タイムアウトが発生したため、リトライを行います。

List Worksサーバへアクセスが集中しています。

[システムの処理]

リトライします。

[ユーザの処置]

しばらく時間をおいて、再度実行してください。

5050

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、ネットワークエラーが発生しました。

ネットワーク環境に問題があります。または配信管理サーバの設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の内容を確認してください。

- ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワークの設定
- ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのファイアウォールの設定
- ・ List WorksサーバのWebサーバが起動しているか
- ・ 印刷配信の環境設定に誤りがないか

5051

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、配信を依頼した配信管理サーバが見つかりませんでした。

ネットワークの設定、DNSの設定、または配信管理サーバの環境設定に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワークの設定を確認してください。印刷配信の環境設定に誤りがないかを確認してください。

5052

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、通信エラーが発生しました。

List Worksサーバのネットワーク環境に問題が発生している可能性があります。

また、これにより、List Worksサーバの負荷が高くなっている可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

List WorksサーバのWebサーバの環境を確認してください。

List Worksサーバの負荷が高くなっている場合は、帳票を印刷する多重度を減らしてください。

それでも問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

5053

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、配信管理サーバが見つかりませんでした。

配信管理サーバの環境設定が正しく行われていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の内容を確認してください。

- ・ 配信管理サーバの印刷管理のワークユニットが作成されているか
- ・ 印刷管理のワークユニットの作成手順に誤りがないか
- ・ 印刷配信の環境設定に誤りがないか

5054

[種類]

警告

[意味]

出力状態の通知で、通信がタイムアウトしました。
List Worksサーバへアクセスが集中しています。

[システムの処理]

リトライします。

[ユーザの処置]

しばらく時間をおいて、再度実行してください。

5055

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、配信管理サーバのエラーが発生しました。
配信管理サービスが起動していません。または配信管理サーバの環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サービスが起動しているか確認してください。配信管理サーバの印刷管理のワークユニットの作成手順に誤りがないか確認してください。

5056

[種類]

情報

[意味]

出力状態の通知で、配信管理サーバとの接続が復旧しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

5100

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、配信管理サーバの処理でエラーが発生しました。

メッセージに出力されているイベントログのIDが0の場合は、印刷管理のワークユニットの起動に失敗している、または配信管理サーバの処理で異常が発生しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サーバのイベントログを確認してください。

イベントログのIDに0が表示されている場合は、印刷管理のワークユニットが起動しているかを確認後、配信管理サーバのイベントログを確認してください。

5101

[種類]

エラー

[意味]

印刷ジョブの問い合わせで、配信管理サーバから不正なデータが返却されました。

配信管理サーバで問題が発生しています。または配信管理サーバの環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サーバで、エラーが発生していないか確認してください。配信管理サーバの印刷管理のワークユニットの作成手順に誤りがないことを確認してください。

5150

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、配信管理サーバの処理でエラーが発生しました。

メッセージに出力されているイベントログのIDが0の場合は、印刷管理のワークユニットの起動に失敗している、または配信管理サーバの処理で異常が発生しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サーバのイベントログを確認してください。

イベントログのIDに0が表示されている場合は、印刷管理のワークユニットが起動しているかを確認後、配信管理サーバのイベントログを確認してください。

5151

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知で、配信管理サーバから不正なデータが返却されました。

配信管理サーバで問題が発生しています。または配信管理サーバの環境設定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信管理サーバで、エラーが発生していないか確認してください。配信管理サーバの印刷管理のワークユニットの作成手順に誤りがないことを確認してください。

5301

[種類]

エラー

[意味]

出力状態の通知に失敗しました。

出力状態の情報に未サポートの情報が含まれています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

5900

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Transfer Service」が開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

5901

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Transfer Service」が停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

5902

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

製品が正しくインストールされていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

5903

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前にメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して原因を取り除いてください。

直前にメッセージが出力されていない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

5904

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の開始に失敗しました。

メモリ不足が発生しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、システムを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

5906

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Transfer Service」の停止に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前にメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して原因を取り除いてください。

直前にメッセージが出力されていない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員へ連絡してください。

5999

[種類]

エラー

[意味]

深刻なエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6600

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6601

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の開始に失敗しました。
メモリ不足が発生しました。
システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

6602

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の開始に失敗しました。
指定されたモジュールが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

6603

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の取得に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6604

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の取得に失敗しました。

メモリ不足が発生しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

6605

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の取得に失敗しました。

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

6606

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の取得に失敗しました。

依存するサービスが停止しています。

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」、またはサービス「PRT Server Service」が停止した可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の順番でサービスを再起動してください。

1. WORKIT MSG(F3BW)
2. PRT Server Service

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6607

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6608

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6609

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6610

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

メモリ不足が発生しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

6611

[種類]

警告

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

メモリ不足が発生しました。

以下の原因が考えられます。

- ・ システム環境に問題があります。

- ・ 配信出力サーバの環境設定ファイルの設定値に誤りがあります。
- ・ 配信出力サーバの環境設定ファイルが破損しています。

[システムの処理]

リトライします。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。

本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

問題がない場合は、補足情報に表示された配信出力サーバの環境設定ファイルに定義されているセクションのキーの値に、誤りが無いことを確認してください。

問題が解決されない場合、再度、配信出力サーバの環境設定を行ってください。

6612

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

6613

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に他のメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。

他のメッセージが出力されていない場合は、配信出力サーバの環境設定ファイルに設定されている、配信出力サーバのWebサーバのポート番号に誤りがないことを確認してください。

問題がない場合は、帳票印刷のワークユニットを再起動してください。

問題が解決されない場合、配信出力サーバの環境設定ファイルが破損しています。再度、配信出力サーバの環境設定を行ってください。

6614

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

ネットワークで異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サーバのネットワーク設定を確認してください。

6615

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の停止に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6616

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

配信出力サーバの環境設定ファイルにWebサーバのポート番号が設定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されたセクションのキーの値に誤りがないことを確認してください。

問題が解決されない場合、配信出力サーバの環境設定ファイルが破損しています。再度、配信出力サーバの環境設定を行ってください。

6617

[種類]

警告

[意味]

印刷状態の詳細情報を通知できませんでした。

メモリ不足が発生しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

6618

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の詳細情報を通知できませんでした。

依存するサービスが停止しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6619

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の詳細情報を通知できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6620

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

帳票印刷のワークユニットが起動していません。

[システムの処理]

リトライします。

[ユーザの処置]

直前に他のメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。

他のメッセージが出力されていない場合は、帳票印刷のワークユニットを起動し、再度帳票の印刷を行ってください。

6621

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

配信出力サーバの環境設定ファイルが破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

再度、配信出力サーバの環境設定を行ってください。

6622

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して対処してください。

6623

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

印刷状態の一時保存ファイルの復元に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「LW Print State Service」を再起動してください。

6624

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の停止に失敗しました。

メモリ不足が発生しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

6625

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の開始に失敗しました。

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

6626

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」の停止に失敗しました。
ファイルの書き込みに失敗しました。
ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

6627

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Print State Service」を開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

6628

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Print State Service」を停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

6629

[種類]

エラー

[意味]

印刷状態の通知に失敗しました。

ライブラリのロードに失敗しました。

ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

6800

[種類]

情報

[意味]

配信出力サービスを開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

6801

[種類]

情報

[意味]

配信出力サービスを停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

6802

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスの開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認して原因を取り除き、帳票印刷のワークユニットを再起動してください。

6803

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスの停止に失敗しました。

配信出力サービスを正常に終了できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されているメッセージを確認してください。

6804

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷中に配信出力サーバが停止したため、帳票の印刷処理に失敗した可能性があります。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

印刷結果を確認してください。問題がある場合は、再度帳票の印刷を行ってください。

6810

[種類]

エラー

[意味]

システム情報の取得に失敗しました。

配信出力サーバの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

6811

[種類]

エラー

[意味]

ライブラリのロードに失敗しました。

ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

6812

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバの環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。
配信出力サーバの環境設定ファイルへのアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバの環境設定ファイルへのアクセス権が正しく設定されているか確認してください。
アクセス権が正しく設定されている場合、配信出力サーバの環境設定ファイルが破損しています。再度、配信出力サーバの環境設定を行ってください。

6813**[種類]**

エラー

[意味]

配信出力サーバの環境設定ファイルの設定値に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されたセクションのキーの値に誤りがないことを確認してください。値にパス情報を含む場合は、パスで表わされるフォルダが存在し、アクセス権があることを確認してください。
配信出力サーバの環境設定ファイルの設定値に誤りがない場合、配信出力サーバの環境設定ファイルが破損しています。再度、配信出力サーバの環境設定を行ってください。

6814**[種類]**

警告

[意味]

配信出力サーバの環境設定ファイルの設定値に問題があるため、既定値で動作します。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示される既定値を確認してください。

既定値で動作することが望ましくない場合は、配信出力サーバの環境設定ファイルに正しい値を設定してください。

6820

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスが利用するJMSの定義が見つかりません。

配信出力サーバの環境構築に失敗しています。または配信出力サーバの環境が破壊されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

イベントID6820に関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6821

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスが利用するJMSのリソースが動作していません。

JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

イベントID6821に関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6822

[種類]

エラー

[意味]

JMSのリソースとの接続に失敗しました。

JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されているJMSのエラーコードに関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6823

[種類]

警告

[意味]

JMSのリソースとの切断に失敗しました。

JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されているJMSのエラーコードに関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6824

[種類]

エラー

[意味]

JMSメッセージの受信に失敗しました。

JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されているJMSのエラーコードに関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6825

[種類]

エラー

[意味]

JMSメッセージの送信に失敗しました。

JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されているJMSのエラーコードに関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6826

[種類]

情報

[意味]

JMSキューへの接続に成功しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

ありません。

6827

[種類]

警告

[意味]

配信出力サービスが利用するJMSのリソースが動作していません。リトライします。
JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

リトライします。

[ユーザの処置]

イベントID6827に関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6828

[種類]

警告

[意味]

JMSのリソースとの接続に失敗しました。リトライします。
JMSの環境に問題があります。

[システムの処理]

リトライします。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されているJMSのエラーコードに関する記述を、マニュアルのJMSのエラーから参照してください。



対処方法は、“[17.3.1.3 JMSのエラー](#)”を参照してください。

6829

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスの処理を継続できません。
通信中の情報に、未サポートの情報が含まれています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6830

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足が発生しました。
システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

6831

[種類]

エラー

[意味]

フォルダの作成に失敗しました。
帳票印刷時の作業フォルダが存在しない、または作業フォルダにアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の内容を確認してください。

- ・ 帳票印刷時の作業フォルダが存在するか
- ・ 帳票印刷時の作業フォルダにアクセス権があるか

6832

[種類]

警告

[意味]

フォルダの削除に失敗しました。

帳票印刷時の作業フォルダにアクセス権がないか、作業フォルダ配下の一時フォルダのアクセス権が変更されています。または一時フォルダ内のファイルが使用中です。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

作業フォルダにアクセス権があることを確認し、補足情報に表示された一時フォルダを削除してください。

6833

[種類]

エラー

[意味]

ファイルの読み込みに失敗しました。

帳票の印刷配信処理で利用するファイルが破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6834

[種類]

エラー

[意味]

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

6835

[種類]

エラー

[意味]

フォルダの参照に失敗しました。

帳票印刷時の作業フォルダが存在しない、または作業フォルダにアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の内容を確認してください。

- ・ 帳票印刷時の作業フォルダが存在するか
- ・ 帳票印刷時の作業フォルダにアクセス権があるか

6840

[種類]

エラー

[意味]

帳票の配信に失敗しました。

List Works配信出力サーバのサービス「LW Transfer Service」が開始されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「LW Transfer Service」を開始してください。

6841

[種類]

エラー

[意味]

帳票の配信に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

補足情報に表示されるエラー分類、エラーコードに関する記述を配信出力サーバの配信処理のエラーから参照して対処してください。
対象のエラー分類、エラーコードに関する記述がない場合や、問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。



配信出力サーバの配信処理のエラーについては、“[17.3.1.2 配信処理のエラー](#)”を参照して対処してください。

6850

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷または印刷の取り消しに失敗しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6860

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバで問題が発生したため、印刷処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に他のメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。

他のメッセージが出力されていない場合や、問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6861

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバで問題が発生したため、キャンセル処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に他のメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。

他のメッセージが出力されていない場合や、問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6862

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバで問題が発生したため、プリンタの状態監視処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に他のメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。

他のメッセージが出力されていない場合は、サービス「LW Print State Service」が起動されているか確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

6900

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

6901

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

内部エラーが発生しました。

指定された作業フォルダが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7000

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。
内部エラーが発生しました。
指定された作業フォルダが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7001

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。
プリンタ定義に異常があります。
配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義、またはプリンタが管理対象に追加されているかを確認してください。
上記に問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。
問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7002

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。
メモリ不足が発生しました。
システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

7003

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「LW Print State Service」が起動している場合は、以下の順番でサービスを再起動してください。

1. WORKIT MSG(F3BW)
2. PRT Server Service

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7004

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

7005

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。

ライブラリのロードに失敗しました。

ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

7006

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。

内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7007

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。

プリンタ定義に異常があります。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義を確認してください。

問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7008

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷の中断に失敗しました。

プリンタの印刷中断に失敗しました。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義を確認してください。問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7200

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

7201

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。
内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7202

[種類]

エラー

[意味]

ライブラリのロードに失敗しました。
ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

7204

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。
サービス「LW Print State Service」の開始待ち合わせに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「LW Print State Service」が起動している場合は、以下の順番でサービスを再起動してください。

1. WORKIT MSG(F3BW)
2. PRT Server Service

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7207

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

プリンタの印刷開始に失敗しました。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義、またはプリンタが管理対象に追加されているかを確認してください。

上記に問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7208

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

プリンタの印刷終了に失敗しました。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義、またはプリンタが管理対象に追加されているかを確認してください。

上記に問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7209

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

ファイルの書き込みに失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

7210

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

プリンタ定義に異常があります。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義、またはプリンタが管理対象に追加されているかを確認してください。

上記に問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7211

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

サービス「LW Print State Service」が起動されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「LW Print State Service」を起動してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7212**[種類]**

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

帳票を取得できませんでした。

ファイルシステムの空き容量が不足している、または帳票印刷時の作業フォルダにアクセス権がない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下の対処を行ってください。

- ・ ディスクに空き容量があるか
- ・ 補足情報に表示されているファイル内の作業フォルダにアクセス権があるか

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7213**[種類]**

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

帳票情報を取得できませんでした。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

7214

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

帳票の文字コード変換に失敗しました。

ファイルシステムの空き容量が不足している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7217

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7218

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

メモリ不足が発生しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

7219

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7220

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

プリンタの状態が取得できませんでした。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義、またはプリンタが管理対象に追加されているかを確認してください。

上記に問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7223

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

プリンタ定義に異常があります。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義を確認してください。

問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7224

[種類]

エラー

[意味]

ライブラリのロードに失敗しました。

ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

7229

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷に失敗しました。

プリンタ定義に異常があります。

配信出力サーバを運用しているサーバの、プリンタの環境設定に問題がある可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバで、Windowsのプリンタ定義を確認してください。

問題がない場合は、配信管理サーバで定義した配信出力先のプリンタ名に誤りがないことを確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7231

[種類]

エラー

[意味]

プリンタとの通信処理に失敗しました。

システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

7232

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。
システムまたはネットワーク上で高負荷状態です。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

7233**[種類]**

エラー

[意味]

ファイル操作に失敗しました。
システム環境に問題があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。また、ファイルシステムの空き容量が不足している可能性もあります。
ディスクに空き容量があることを確認してください。

7238**[種類]**

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。
ライブラリのロードに失敗しました。
ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

7300

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に他のメッセージが出力されている場合は、そちらを参照して対処を行ってください。

他のメッセージが出力されていない場合や、問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7301

[種類]

エラー

[意味]

ライブラリのロードに失敗しました。

ライブラリが存在しない、または破損しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品を再インストールしてください。

7303

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

内部エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

7304

[種類]

エラー

[意味]

帳票の印刷、または表示に失敗しました。

帳票情報を取得できませんでした。

ファイルシステムの空き容量が不足しています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ディスクに空き容量があることを確認してください。

17.3.1.2 配信処理のエラー

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
20	10	—	帳票の配信時に、ファイルの書き込みで異常が発生しました。	ディスクに問題が発生しています。帳票印刷時の作業フォルダのあるディスクの状態を確認してください。
20	30	あり	帳票の配信時に、ファイルの書き込みで異常が発生しました。	ディスクに問題が発生しています。帳票印刷時の作業フォルダのあるディスクの状態を確認してください。 なお、詳細コードに「3004」が表示された場合は、一時エラーの場合があります。再度、帳票の印刷指示を行ってください。
20	40	—	帳票の配信時に、ファイルのクローズで異常が発生しました。	ディスクに問題が発生しています。 帳票印刷時の作業フォルダのあるディスクの状態を確認してください。
20	50	—	帳票の配信時に、ディスク容量不足が発生しました。	帳票印刷時の作業フォルダを割り当てているディスク容量が不足しています。

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
				時間をおいてから、再度、帳票の印刷指示を行ってください。 また、このエラーが頻繁に出力される場合は、帳票印刷時の作業フォルダを十分な空き容量のあるディスク上のフォルダへ変更してください。
20	60	—	帳票の配信時に、ファイルの書き込みで異常が発生しました。	帳票印刷時の作業フォルダにアクセス権がありません。作業フォルダのアクセス権を確認してください。
20	70	—	帳票の配信時に、ファイルの書き込みで異常が発生しました。	帳票印刷時の作業フォルダが作成されていません。作業フォルダの存在を確認してください。
20	90	—	帳票印刷時の作業フォルダ内のファイルの書き込みで異常が発生しました。	帳票印刷時の作業フォルダ内部のファイルが、他のプログラムによって使用されています。 ファイルを使用中のプログラムを終了してから再度、帳票の印刷を行ってください。
40	10	—	帳票の配信時に、配信管理サーバで異常が発生しました。	配信管理サーバで強制的に中断されました。 配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、List Worksサーバ上のサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
40	20	—	帳票の配信時に、配信管理サーバで異常が発生しました。	配信管理サーバとの通信に問題があります。 配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、List Worksサーバ上のサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
40	30	—	帳票の配信時に、ネットワークエラーが発生しました。	以下の原因が考えられます。 ・ ネットワークエラーが発生しています。 ・ 配信管理サーバで強制的に中断されました。 ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワーク環境に問題があります。 以下の対処を行ってください。 ・ ネットワークで異常が発生していないか確認してください。 ・ 配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、List Worksサーバ上のサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。 ・ List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのホスト名およびIPアドレスが、hostsファイルやDNSサーバに正しく設定されているか確認してください。 ・ 1つのネットワークにのみ接続している場合は、配信出力サーバの環境設定ファイルのCOMMONセクションで、OwnServerキーの設定が省略されているか確認してください。省略されていない場合は、設定を省略してください。 ・ 複数のネットワークが存在し、LANボード/カードでそれぞれのネットワークに接続している場合は、配信出力サーバの環境設定ファイルのCOMMONセクションで、OwnServerキーにList

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
				Works配信出力サーバのホスト名が正しく設定されているか確認してください。また、OwnServerキーに設定したList Works配信出力サーバのホスト名とhostsファイルに設定したホスト名が、一致しているか確認してください。
40	40	—	帳票の配信時に、配信管理サーバからキャンセルを受信しました。	配信管理サーバで異常が発生しています。配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、List Worksサーバ上のサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。
40	50	—	帳票の配信時に、配信管理サーバで異常が発生しました。	配信管理サーバで異常が発生しています。配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、配信管理サービスが起動しているか確認してください。
50	10	—	サービス「LW Transfer Service」が起動されていません。	サービス「LW Transfer Service」を起動してください。
50	60	—	帳票の配信時に、タイムアウトが発生しました。	以下の原因が考えられます。 • 配信管理サーバでエラーが発生しています。 • List Worksサーバのネットワークの設定に問題があります。 以下の対処を行ってください。 • 配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。 • List Worksサーバのhostsファイル、DNSサーバの設定を確認してください。
50	80	—	配信管理サーバへの接続に失敗しました。	以下の原因が考えられます。 • 配信管理サーバに問題が発生しています。 • List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのネットワークの設定に問題があります。 • 配信管理サーバの環境設定に問題があります。 • 配信の多重度が上限に達しています。 以下の対処を行ってください。 • 配信管理サーバでエラーが発生していないか確認してください。また、List Worksサーバ上のサービス「LW Transfer Service」が起動しているか確認してください。 • List WorksサーバおよびList Works配信出力サーバのhostsファイル、DNSサーバの設定、servicesファイルの設定、およびWindowsファイアウォールの設定を確認してください。 • 配信管理サーバの環境設定における、印刷配信の環境設定を確認してください。 • 配信出力サーバの数を確認してください。
50	90	—	配信管理サーバが見つかりませんでした。	hostsファイルやDNSサーバの設定に問題があります。hostsファイルやDNSサーバにList Worksサーバが登録されているか確認してください。

エラー分類	エラーコード	詳細コード	意味	原因と対処
50	100	—	配信出力サーバで一時的な資源不足が発生しました。	メモリ不足が発生しています。または、ファイル転送の多重度が限界値を超えています。 不要なアプリケーションを停止し、しばらく待ってから再度帳票の印刷指示を行ってください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。また、配信出力サーバに対するプリンタの数を見直してください。
50	250	—	配信出力サーバのファイル転送処理の負荷が高い状態になっています。	帳票の印刷量を軽減してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、List Works配信出力サーバの台数を見直して、負荷を分散してください。
60	10	—	配信を中止しました。	—
60	20	—	配信済みのため、配信を中止できませんでした。	—
60	30	—	配信中にサービスの強制終了の要求を受け付けました。	サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。
90	10	—	サービス「LW Transfer Service」に問題が発生しています。	一時的な資源(メモリ、ディスク容量)不足が発生しています。資源不足を解消後、再度、帳票の印刷指示を行ってください。 インストールフォルダに、アクセス権がありません。インストールフォルダのアクセス権の設定を確認してください。 サービス「LW Transfer Service」が停止要求を受けています。サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。
90	20	—	サービス「LW Transfer Service」に問題が発生しています。	一時的な資源(メモリ、ディスク容量)不足が発生しています。資源不足を解消後、再度、帳票の印刷指示を行ってください。 サービス「LW Transfer Service」が停止要求を受けています。サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。
90	30	—	深刻なエラーが発生しました。	サービス「LW Transfer Service」を再起動してください。 問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールで調査資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

—: 内部情報が表示されます。

17.3.1.3 JMSのエラー

List Worksのエラーコード	JMSのエラーコード	対処方法
6820	-	配信出力サーバの環境構築が正しく行われていません。 環境を確認し、リソースが定義されているか確認してください。(注1) リソースが定義されていない場合は、環境を再構築してください。
6821	-	Interstageの動作環境に必要なサービスが追加されていません。

List Worksのエラーコード	JMSのエラーコード	対処方法
		Interstage管理コンソールより、Interstageの動作環境にイベントサービスが追加されていることを確認してください。追加されていない場合は、イベントサービスを追加してください。 イベントサービスが動作環境に追加されているか確認する方法および追加する方法については、“4.4 Interstageのサービスの設定”を参照してください。 内部で使用するリソース(イベントチャネル)が停止しています。 イベントチャネルを起動してください。(注2) イベントチャネルが存在しない場合は、環境の構築に失敗しているか、環境が破壊されています。 環境を再構築してください。
6827	-	必要なサービスが起動されていません。 必要なサービスが起動しているか確認してください。 必要なサービスが起動しているか確認する方法は、“4.4 Interstageのサービスの設定”を参照してください。 内部で使用するリソース(イベントチャネル)が停止しています。 イベントチャネルを起動してください。(注2) イベントチャネルが存在しない場合は、環境の構築に失敗しているか、環境が破壊されています。 環境を再構築してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms1001	不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms1002	ファイルシステムの空き容量が不足しています。 ディスクに空き容量があることを確認してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms1007	メモリが不足している可能性があります。不要なアプリケーションを停止してください。 問題が解決されない場合、保守情報収集ツールで調査情報を採取し、弊社技術員へ連絡してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms1012	I/Oエラーが発生しました。 システムをインストールしたディスクが正常に動作しているか確認してください。
6822	jms1200	必要なサービスが起動されていません。

List Worksのエラーコード	JMSのエラーコード	対処方法
6823 6824 6825 6828		必要なサービスが起動しているか確認してください。 必要なサービスが起動しているか確認する方法は、“ 4.4 Interstageのサービスの設定 ”を参照してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms1998	メモリが不足している可能性があります。不要なアプリケーションを停止してください。 問題が解決されない場合、保守情報収集ツールで調査情報を採取し、弊社技術員へ連絡してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms1999	メモリが不足している可能性があります。不要なアプリケーションを停止してください。 問題が解決されない場合、保守情報収集ツールで調査情報を採取し、弊社技術員へ連絡してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms2550	必要なサービスが起動されていません。 必要なサービスが起動しているか確認してください。 必要なサービスが起動しているか確認する方法は、“ 4.4 Interstageのサービスの設定 ”を参照してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms2552	補足情報のキュー名に「LwdstStateRQueue」または「LwdstPrintJobRQueue」が表示されている場合、配信出力サービスの負荷が高くなっています。 List Works配信出力サーバの台数を見直してください。 補足情報のキュー名に「LwdstStateSQueue」が表示されており、前後で5050～5055,5150のメッセージがイベントログに出力されている場合、配信出力サーバで保持できる出力状態の情報の制限を超えています。5050～5055,5150のメッセージの対処方法を参照して、問題を解決してください。 List WorksサーバのIPアドレスなどの接続情報を変更した場合、配信出力サーバ内に古い情報が残っているため、処理が行えません。その場合、配信出力サーバ内の古い情報を削除してください。(注3)
6822 6823 6824 6825 6828	jms2553	システムの資源不足またはディスク不足が発生しています。 不要なアプリケーションを停止してください。ディスクに空き容量があることを確認してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms2555	内部で使用するリソース(イベントチャネル)が停止しています。 以下の手順で、リソース(イベントチャネル)を起動してください。(注2)
6822	jms2560	内部で使用するリソース(イベントチャネル)が停止しています。

List Worksのエラーコード	JMSのエラーコード	対処方法
6823 6824 6825 6828		リソース(イベントチャネル)を起動してください。(注2)
6822 6823 6824 6825 6828	jms2562	メモリが不足しています。 不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。
6823 6824 6825 6828	jms2563	内部で使用するリソース(イベントチャネル)への接続数が最大値を超過しています。不要となった接続情報を回収してください。(注4)
6822 6823 6824 6825 6828	jms6014	配信出力サーバの環境構築が正しく行われていません。 環境を確認し、リソースが定義されているか確認してください。(注1) リソースが定義されていない場合は、環境を再構築してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms6100	必要なサービスが起動されていません。 必要なサービスが起動しているか確認してください。 必要なサービスが起動しているか確認する方法は、“ 4.4 Interstageのサービスの設定 ”を参照してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms6101	配信出力サーバの環境構築が正しく行われていません。 環境を確認し、リソースが定義されているか確認してください。(注1) リソースが定義されていない場合は、環境を再構築してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms7000	メモリが不足しています。 不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms9001	メモリが不足しています。 不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

List Worksのエラーコード	JMSのエラーコード	対処方法
6822 6823 6824 6825 6828	jms9013	配信出力サーバの環境構築が正しく行われていません。 環境を確認し、リソースが定義されているか確認してください。(注1) リソースが定義されていない場合は、環境を再構築してください。
6822 6823 6824 6825 6828	jms9301	メモリが不足しています。 不要なアプリケーションを停止してください。本メッセージが頻繁に出力される場合は、配信出力サービスを運用するために必要なメモリ量が、十分に用意されていることを確認してください。

注1:環境の確認方法

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

`https://hostname:port/IsAdmin/`

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名またはIPアドレスを指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分で「http」に置き換えて指定してください。

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。
3. 【システム: 状態】画面の「詳細[表示]」をクリックします。
4. Interstage構成サービスの一覧を確認し、「イベントサービス」が存在していることを確認します。存在しないサービスがある場合、環境の再構築が必要です。
5. 【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】配下の以下のどちらかをクリックします。
 - 【サービス】→【イベントサービス】→【保存先】
 - 【リソース】→【JMS】→【保存先】
6. 【保存先: 情報】画面のユニットIDの一覧に「lwdst」が存在しているか確認します。存在しない場合は、環境の再構築が必要です。
7. 【Interstage管理コンソール】→【Interstage Application Server】→【システム】配下の以下のどちらかをクリックします。
 - 【サービス】→【イベントサービス】→【イベントチャネル】
 - 【リソース】→【JMS】→【イベントチャネル】
8. 【イベントチャネル: 状態】画面のグループ名の一覧に「Lwdstevent」が存在しているか確認します。また、Lwdsteventのグループ配下のイベントチャネルに、タイプが「Queue」である以下の3つのイベントチャネルが存在しているか確認します。存在しない場合や、タイプが「Topic」である場合は、環境の再構築が必要です。
 - 「LwdstPrintJobRCh」

- 「LwdstStatusRCh」
 - 「LwdstStatusSCh」
9. 【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【リソース】－【JMS】－【ConnectionFactory】をクリックします。
 10. 【ConnectionFactory：一覧】画面のJNDI名の一覧に、「LwdstStatusQueueCF」が存在し、タイプが「QueueConnectionFactory」であることを確認します。存在しない場合やタイプが「TopicConnectionFactory」である場合は環境の再構築が必要です。
 11. 【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】－【リソース】－【JMS】－【Destination】をクリックします。
 12. 【Destination：一覧】画面のJNDI名の一覧に「LwdstPrintJobRQueue」が存在し、タイプが「Queue」、グループ名が「Lwdstevent」、チャンネル名が「LwdstPrintJobRCh」であることを確認します。存在しない場合や、タイプやチャンネル名が異なる場合は、環境の再構築が必要です。
 13. 【Destination：一覧】画面のJNDI名の一覧に「LwdstStatusRQueue」が存在し、タイプが「Queue」、グループ名が「Lwdstevent」、チャンネル名が「LwdstStatusRCh」であることを確認します。存在しない場合や、タイプやチャンネル名が異なる場合は、環境の再構築が必要です。
 14. 【Destination：一覧】画面のJNDI名の一覧に「LwdstStatusSQueue」が存在し、タイプが「Queue」、グループ名が「Lwdstevent」、チャンネル名が「LwdstStatusSCh」であることを確認します。存在しない場合や、タイプやチャンネル名が異なる場合は、環境の再構築が必要です。

注2: イベントチャンネル起動方法

1. Webブラウザで、以下に示すURLを指定し、Interstage管理コンソールのログイン画面を表示します。

https://hostname:port/IsAdmin/

hostname

List Worksサーバ(配信管理サーバがインストールされているサーバ)のホスト名またはIPアドレスを指定します。

port

Interstage管理コンソールのポート番号を指定します。デフォルトは12000です。



注意

.....
SSL暗号化通信を使用しない設定を行った場合は、「https」の部分を「http」に置き換えて指定してください。
.....

2. 管理者権限を持つユーザIDとパスワードを指定し、【ログイン】ボタンをクリックします。
→Interstage管理コンソールの画面が表示されます。
3. 【Interstage管理コンソール】－【Interstage Application Server】－【システム】配下の以下のどちらかをクリックします。
 - 【サービス】－【イベントサービス】－【イベントチャンネル】
 - 【リソース】－【JMS】－【イベントチャンネル】
4. 【イベントチャンネル：状態】画面のグループ名の一覧から「Lwdstevent」のチェックボックスをチェックします。
5. 【起動】ボタンをクリックします。
→イベントチャンネルが起動します。

注3: 配信出力サーバの一時データ初期化

1. 配信出力サービスを停止します。



配信出力サービスの停止については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

2. 帳票印刷時の作業フォルダ配下のファイルとフォルダをすべて削除します。帳票印刷時の作業フォルダは、通常は以下に存在します。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥data¥spool¥

配信出力サーバの環境設定で、帳票印刷時の作業フォルダを変更している場合は、そのフォルダ配下のファイルとフォルダを削除してください。

3. 配信出力サーバの環境設定ファイルに、配信出力サーバ内の古い情報の削除を指定します。配信出力サーバの環境設定ファイルは以下の場所に配置されています。

List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥writer¥conf¥lwdstwr. ini

環境設定ファイルの、COMMONセクションに、以下の行を追加します。

Reset=Y

4. 配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

→配信出力サービスが開始すると、配信出力サービス内の古い情報が削除されます。

5. 環境設定ファイルに設定した、配信出力サーバ内の古い情報の削除の指定を解除します。

3で追加した行を、削除します。

注4: 不要な接続情報の回収

以下のすべてのコンシューマ/サプライヤに対して、不要な接続情報の回収を行います。

	グループ名 (イベントチャンネルグループ名)	チャンネル名 (イベントチャンネル名)	コンシューマ/サプライヤ
1	Lwdstevent	LwdstPrintJobRCh	コンシューマ
2	〃	〃	サプライヤ
3	〃	LwdstStatusRCh	コンシューマ
4	〃	〃	サプライヤ
5	〃	LwdstStatusSCh	コンシューマ
6	〃	〃	サプライヤ

回収の手順を以下に示します。

1. 配信出力サービスを停止します。



配信出力サービスの停止については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

2. すべてのコンシューマ/サプライヤに対して、2.～8.を繰り返します。
esmonitorchnlコマンドを実行します。

esmonitorchnl

3. イベントチャンネルの起動タイプを選択します。「1」を入力してください。

チャンネルタイプを選択してください。

1. 静的チャンネル 2. 動的チャンネル > 1

4. イベントチャンネルグループ名(Lwdstevent)を入力します。

グループ名を入力してください。> Lwdstevent

5. イベントチャンネル名を入力します。

以下はLwdstStatusSChの場合です。他のイベントチャンネルのコンシューマ/サプライヤに対して処理する場合は、そのイベントチャンネル名を入力してください。

チャンネル名を入力してください。> LwdstStatusSCh

6. 表示する情報を選択します。

コンシューマの場合は「1」を入力してください。サプライヤの場合は「2」を入力してください。

表示する情報を選択してください。

1. コンシューマ 2. サプライヤ > 1

→回収する接続情報がない場合は、以下のメッセージが表示されます。この場合は、本コンシューマ/サプライヤに対して、接続情報の回収を行う必要はありません。

ES: 情報: es10074: [107135] 表示する接続情報はありません。

→回収する接続情報がある場合は、入力したイベントチャンネルの接続情報が表示されます。

```
group name      : Lwdstevent
channel name    : LwdstStatusSCh
count/all count : 1/1
```

No.	IP address[HOST]	Connected Time	Final Access Time

0001	192. 9. 200. 2[SYS2]	Tue Jan 18 12:10:30 2011	Tue Jan 18 13:07:30 2011

7. 接続情報の回収を行います。「discon -all」を入力してください。

>discon -all

→以下のメッセージが表示されます。

ES: 情報: es10072: [107145] すべての接続情報を回収しました。

8. コマンドを終了します。「q」を入力してください。

>q

→コマンドが終了します。

9. 配信出力サービスを開始します。



配信出力サービスの開始については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

17.3.2 ソースが「F3EWSRV」のイベントログ

ソースが「F3EWSRV」のイベントログは、プリンタ監視に関するイベントログです。

ソースが「F3EWSRV」のイベントログについて、番号の順に説明します。

[種類]

エラー

[意味]

内部矛盾が発生したため、サービス「PRT Server Service」の起動に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

イベントビューアのデータの内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

504

[種類]

情報

[意味]

サービス「PRT Server Service」を開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

505

[種類]

情報

[意味]

サービス「PRT Server Service」を停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

1001

[種類]

情報

[意味]

プリンタのエラー状態が解除されました。

実際にはプリンタ装置の異常が除去されていなくても、印刷中に印刷ドキュメントに対して削除操作などを行い、印刷を取りやめた場合に通知されます。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

1002

[種類]

警告

[意味]

トナーの残量が少なくなりました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

トナーを交換してください。

1010

[種類]

エラー

[意味]

オフライン状態のため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置のコントロールパネルまたは操作パネルでオンライン状態にしてください。

1011

[種類]

エラー

[意味]

トナーがなくなったため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

トナーを交換してください。

1012

[種類]

エラー

[意味]

用紙切れのため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

用紙を補充してください。

1013

[種類]

エラー

[意味]

カバーが開いているため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置のカバーを閉じてください。

1014

[種類]

エラー

[意味]

用紙詰まりが発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

詰まった用紙を取り除いてください。

1015

[種類]

エラー

[意味]

排出装置(スタッカー)がいっぱいになったため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

排出装置の用紙を取り除いてください。

1016

[種類]

エラー

[意味]

電源が切斷状態のため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置の電源の状態、またはプリンタ装置の接続環境を確認してください。

1017

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、印刷できません。

プリンタ装置がサポートしている解像度以上の解像度で印刷された場合などに発生します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度印刷してください。

1018

[種類]

エラー

[意味]

用紙切れ、用紙詰まり以外の用紙に関する異常が発生したため、印刷できません。

プリンタ装置がサポートしている解像度以上の解像度で印刷された場合などに発生します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

帳票出力アプリケーションで指定した用紙を確認し、再度印刷してください。

1019

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ装置でユーザ操作が必要、またはユーザが操作中のため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置を確認してください。

1020

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ装置でハードウェア異常が発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタドライバに添付のドキュメントを参照して対処してください。

1021

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ装置でイベントID1010～1020以外の予期しないエラーが発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置の状態を確認してください。

1101

[種類]

エラー

[意味]

システムエラーが発生したため、印刷ドキュメントの情報を取得できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

「詳細情報:」に表示されているエラーの要因を取り除き、再度印刷してください。

1102

[種類]

エラー

[意味]

システムエラーが発生したため、印刷ドキュメントの情報を取得できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

「詳細情報:」に表示されているエラーの要因を取り除き、再度印刷してください。

1103

[種類]

エラー

[意味]

システムエラーの発生によりドキュメントグループの情報を取得できなかったため、List Worksでプリンタの監視ができません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

メッセージ本文の「詳細情報:」に表示されているエラーの要因を取り除き、再度印刷してください。

7401

[種類]

エラー

[意味]

ネットワーク環境の異常により、通信サーバの初期化に失敗しました。そのため、クライアントと通信できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ネットワーク環境を見直したあと、サービス「PRT Server Service」を再起動してください。

10501

[種類]

エラー

[意味]

システム資源不足により、プリンタの状態獲得に失敗したため、プリンタの監視処理でエラーが発生しました。

本イベントログのエラーが発生した場合、イベントID:10502のイベントログでエラーが発生したプリンタ名が出力されます。

ネットワークプリンタが定義されている場合も、本イベントログが表示される場合があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ネットワークプリンタが定義されている場合、本イベントログが表示されても動作上問題ありません。

ネットワークプリンタが定義されていない場合、不要なアプリケーションを終了し、サービス「PRT Server Service」を再起動してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、システムの動作環境を見直し、メモリを増設するなどの処置を行ってください。

10502

[種類]

エラー

[意味]

システム資源不足により、プリンタの監視処理で異常が発生したため、プリンタの監視処理を中止します。

本イベントログのエラーが発生した場合、イベントID:10501のイベントログでエラーの詳細情報が出力されます。

ネットワークプリンタが定義されている場合も、本イベントログが表示される場合があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ネットワークプリンタが定義されている場合、本イベントログが表示されても動作上問題ありません。

ネットワークプリンタが定義されていない場合、不要なアプリケーションを終了し、サービス「PRT Server Service」を再起動してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、システムの動作環境を見直し、メモリを増設するなどの処置を行ってください。

11001

[種類]

エラー

[意味]

メッセージの通知先、またはネットワークの環境に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

メッセージの通知先に表示されているコンピュータ名が正しいかを確認してください。

コンピュータ名が正しい場合、そのコンピュータとの通信が可能か、ネットワーク環境を確認してください。

13502

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスに対し、通知できなかった印刷状態を内部ファイルに一時的に書き込む処理で失敗しました。内部ファイルを削除して初期化するため、通知されなかった印刷状態は削除されます。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

13503

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスに対し、通知できなかった印刷状態を内部ファイルから読み込む処理で失敗しました。内部ファイルを削除して初期化するため、通知されなかった印刷状態は削除されます。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

13504

[種類]

エラー

[意味]

サービス「LW Print State Service」が未起動のため、印刷状態を通知できません。通知できなかった印刷状態を保存していましたが、保存期間をオーバーしたため、保存期間をオーバーした印刷状態が削除されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

32001

[種類]

エラー

[意味]

印刷処理で生成する印刷属性ファイルに誤りがあるため、印刷の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

32002

[種類]

エラー

[意味]

印刷処理で生成する印刷属性ファイルが見つからないため、印刷の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

32003

[種類]

エラー

[意味]

FAX配信情報の誤りにより、印刷処理中に内部矛盾が発生したため、印刷の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

32006

[種類]

エラー

[意味]

サービス「PRT Server Service」が起動していないため、印刷の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サービス「PRT Server Service」を起動してください。

32007

[種類]

エラー

[意味]

印刷処理で生成する印刷属性ファイルにアクセス権がないため、印刷の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

32008

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足が発生したため、印刷の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度印刷してください。

32009

[種類]

エラー

[意味]

印刷の開始時に異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

32010

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サービスが内部で指定するアプリ種別オブジェクトの最大個数を超えました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

50001

[種類]

エラー

[意味]

印刷処理中に異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のいずれかの対処を行ってください。

- ・ 詳細情報に「タイムアウト期間が経過したため、この操作は終了しました。」と表示された場合、Windowsのプリンタのプロパティ画面の【詳細設定】タブで「プリンタに直接印刷データを送る」が選択されていないかを確認してください。
「プリンタに直接印刷データを送る」が選択されている場合、「印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う」を選択してください。
- ・ プリンタドライバが最新版でない場合、プリンタドライバを最新版に更新することで現象が回避される場合があります。



プリンタドライバの更新方法については、各プリンタドライバのマニュアルなどを参照してください。

- ・ プリンタのポートに正しいものを使用しているか、またはポートの設定が正しいかを確認してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

50002

[種類]

エラー

[意味]

システム資源不足などのため、ドキュメントグループの印刷順序を保証する処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

システムの動作環境を見直し、メモリを増設するなどの処置を行ってください。

50003

[種類]

エラー

[意味]

印刷処理中に異常が発生したため、印刷できません。ドキュメントを保留しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

保留されたドキュメントに対応する印刷ジョブについて、印刷を取り消してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

50004

[種類]

警告

[意味]

セパレータの給紙方法に指定した給紙口名がプリンタに存在しないため、印刷時に指定した給紙方法に従います。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

セパレータの給紙方法に関する設定を確認してください。

50005

[種類]

警告

[意味]

印刷ドキュメントのスプールデータ形式がRAWのため、セパレータは印刷されません。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

印刷ドキュメントのスプールデータ形式をEMFにしてください。

50006

[種類]

エラー

[意味]

プリンタプールを有効にした場合のWindowsプリンタの設定に誤りがあるため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタプールを有効にする場合は、Windowsプリンタのプロパティ画面の【詳細設定】タブで「印刷後ドキュメントを残す」を選択してください。

50007

[種類]

エラー

[意味]

Windowsプリンタの設定に誤りがあります。Windowsプリンタのプロパティで「印刷後ドキュメントを残す」が選択されていないため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

配信出力サーバの環境設定で、定義したプリンタへ印刷を行う場合には、Windowsプリンタのプロパティ画面の【詳細設定】タブで「印刷後ドキュメントを残す」を選択してください。

50008

[種類]

エラー

[意味]

印刷ドキュメントのスプールデータ形式がRAW形式で、再印刷マークを印字できないため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷ドキュメントのスプールデータ形式をEMF形式にしてください。

50009

[種類]

エラー

[意味]

印刷ドキュメントのスプールデータ形式がTEXT形式で、再印刷マークを印字できないため、印刷できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

印刷ドキュメントのスプールデータ形式をEMF形式にしてください。

50010

[種類]

エラー

[意味]

再印刷マークの印刷処理中に異常が発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

50011

[種類]

エラー

[意味]

再印刷マークの印刷に必要な情報の取得に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本イベントIDの「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

50013

[種類]

警告

[意味]

テスト印刷の処理中に異常が発生しました。テスト印刷結果に再印刷マークが正しく出力されない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のいずれかの対処を行ってください。

- ・ 「PRT Server Service」を再起動する
- ・ 不要なアプリケーションを終了し、再度印刷する

繰り返し同じ現象が発生する場合は、当イベントID の「メッセージ本文」に表示される内容をすべて記録し、当社技術員に連絡してください。

17.3.3 ソースが「F3EWSVLG」のイベントログ

ソースが「F3EWSVLG」のイベントログは、プリンタ監視のログ機能のイベントログです。

ソースが「F3EWSVLG」のイベントログについて、番号の順に説明します。

101

[種類]

エラー

[意味]

内部処理に失敗したため、サービス「PRT Log Service」の開始に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

イベントビューアでイベントの詳細を表示し、「データ」ボックスで「ワード」を選択し、2ワード目を確認してください。値が「0x0000000E」であれば他のアプリケーションを終了し、サービスを再起動してください。

その他の値であれば、本メッセージ、イベントビューアの詳細、および操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

103

[種類]

情報

[意味]

サービス「PRT Log Service」を開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

104

[種類]

情報

[意味]

サービス「PRT Log Service」を停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

105

[種類]

エラー

[意味]

ログデータを受信できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

106

[種類]

エラー

[意味]

内部処理(排他処理)に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

108

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中に予期しないエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

113

[種類]

情報

[意味]

操作ログファイルを自動で退避しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

114

[種類]

情報

[意味]

トレースログファイルを自動で退避しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

122

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中に予期しないファイル入出力エラーが発生したため、操作ログを採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ログファイルが壊れている可能性があります。ログファイルを削除して、ハードディスクに異常がないかを確認してください。

123

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中に予期しないファイル入出力エラーが発生したため、トレースログを採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ログファイルが壊れている可能性があります。ログファイルを削除して、ハードディスクに異常がないかを確認してください。

124

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中にメモリが不足したため、操作ログを採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

125

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中にメモリが不足したため、トレースログを採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

126

[種類]

エラー

[意味]

ログファイルの作成中またはログファイルサイズの更新時に、ディスクの空き容量が不足したため、操作ログが採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視の操作ログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数)の値を見直してください。

127

[種類]

エラー

[意味]

ログファイルの作成中またはログファイルサイズの更新時に、ディスクの空き容量が不足したため、トレースログが採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視のトレースログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数)の値を見直してください。

128

[種類]

エラー

[意味]

予期しないエラーが発生したため、ログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

129

[種類]

エラー

[意味]

予期しないエラーが発生したため、ログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

130**[種類]**

エラー

[意味]

予期しないファイル入出力エラーが発生したため、操作ログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

131**[種類]**

エラー

[意味]

予期しないファイル入出力エラーが発生したため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

132

[種類]

エラー

[意味]

予期しないファイル入出力エラーが発生したため、操作ログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

133

[種類]

エラー

[意味]

予期しないファイル入出力エラーが発生したため、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

134

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、操作ログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

135

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

136

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、操作ログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

137

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

138

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、操作ログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視の操作ログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数)の値を見直してください。

139

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視のトレースログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数)の値を見直してください。

140

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、操作ログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。そのため、環境設定の変更が行われました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視の操作ログ」に関する設定を見直してください。

141

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。そのため、環境設定の変更が行われました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視のトレースログ」に関する設定を見直してください。

142

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、操作ログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視の操作ログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数)の値を見直してください。

143

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視のトレースログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数)の値を見直してください。

144

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ監視の操作ログの退避ファイルの削除に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

退避ファイルが指定数に達した場合は、最も古いファイルが削除されます。削除されるファイルが使用中ではないかを確認してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

145

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ監視のトレースログの退避ファイルの削除に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

退避ファイルが指定数に達した場合は、最も古いファイルが削除されます。削除されるファイルが使用中ではないかを確認してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

146

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、内部処理に失敗し、操作ログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視の操作ログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視の操作ログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視の操作ログの退避ファイル数)の値を見直してください。

147

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、内部処理に失敗し、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。また、`setenvdef`コマンドの「プリンタ監視のトレースログ」に関する設定で、「LOGSZ」(プリンタ監視のトレースログの出力ファイルサイズ)および「LOGNUM」(プリンタ監視のトレースログの退避ファイル数)の値を見直してください。

17.3.4 ソースが「f3ewlprm」のイベントログ

ソースが「f3ewlprm」のイベントログは、連携プリンタへの印刷に関するイベントログです。



連携プリンタの詳細は、“[A.2 Interstage Enabled認定プリンタについて](#)”を参照してください。

ソースが「f3ewlprm」のイベントログについて、番号の順に説明します。

50301

[種類]

エラー

[意味]

予期しないエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

50302

[種類]

エラー

[意味]

SNMP処理に必要なファイルが存在しない、またはファイルが壊れているため、ファイルの読み込みに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品をインストールした後、コンピュータの再起動を行っていない場合、コンピュータの再起動を行ってください。再起動しても問題が解決されない場合は、製品を再インストールしてください。

50304

[種類]

エラー

[意味]

プリンタ装置の動作(電源断など)、ポートの構成の設定、またはネットワーク環境が原因で通信エラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置の動作(電源断など)、ポートの構成の設定、およびネットワークの環境設定を確認してください。

ポートの構成については、“4.2.3 プリンタの定義”の“(2) プリンタのポート設定”において、プリンタのホスト名やIPアドレスが間違っていないかを確認してください。

ネットワークの環境設定については、以下を確認してください。

- ・ 配信出力サーバを運用しているサーバがネットワークに接続されているか
- ・ 配信出力サーバを運用しているサーバから“4.2.3 プリンタの定義”の“(2) プリンタのポート設定”で指定したIPアドレス、ホスト名のプリンタにアクセスができるか

50311

[種類]

エラー

[意味]

メッセージの通知処理に異常が発生したため、印刷要求を保留にしました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

メッセージ通知環境を確認してください。繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

17.3.4.1 詳細情報

詳細情報	原因と対処
用紙詰まりです。詰まった用紙を取り除いてください。	用紙詰まりが発生しています。 詰まった用紙を取り除いてください。

詳細情報	原因と対処
カバーが開いています。カバーを閉めてください。	カバーが開いています。 カバーを閉めてください。
トナーを交換してください。または、トナーカートリッジが正しくセットされているかを確認してください。	トナーがない、またはトナーカートリッジがセットされていません。 トナーを交換するか、トナーカートリッジを確認してください。
用紙サイズが違います。指定した用紙をセットしてください。	以下のどちらかです。 - 用紙トレイに指定したサイズの用紙がありません。 - 用紙が正しい方向にセットされていません。 用紙トレイに指定したサイズの用紙をセットするか、用紙を正しい方向にセットしてください。
給紙トレイがセットされていないか、正しくセットされていません。給紙トレイを正しくセットしてください。	給紙トレイがセットされていないか、正しくセットされていません。 給紙トレイを正しくセットしてください。
排紙トレイが一杯になりました。排紙トレイの用紙を取り除いてください。	排紙トレイ、スタックートレイ、センタートレイ、またはビンがいっぱいです。 用紙を取り除いてください。
スタックートレイがいっぱいです。スタックートレイの用紙を取り除いてください。	スタックートレイがいっぱいです。 スタックートレイの用紙を取り除いてください。
センタートレイまたはメールボックスビンがいっぱいです。センタートレイまたはメールボックスビンの用紙を取り除いてください。	センタートレイまたはメールボックスビンがいっぱいです。 センタートレイまたはメールボックスビンの用紙を取り除いてください。
ホチキス針詰まりが発生しています。詰まったホチキス針を取り除いてください。	ホチキス針詰まりが発生しています。 詰まったホチキス針を取り除いてください。
ホチキスカートリッジのホチキス針がありません。ホチキス針を補給してください。	ホチキスカートリッジのホチキス針がありません。 ホチキス針を補給してください。
ホチキスカートリッジが正しくセットされていません。ホチキスカートリッジを正しくセットしてください。	ホチキスカートリッジが正しくセットされていません。 ホチキスカートリッジを正しくセットしてください。
トナー回収ボトルが一杯になりました。トナー回収ボトルを交換してください。	トナー回収ボトルがいっぱいになりました。 新しいトナー回収ボトルに交換してください。
トナー回収ボトルがセットされていないか、正しくセットされていません。トナー回収ボトルを正しくセットしてください。	トナー回収ボトルがセットされていないか、正しくセットされていません。 トナー回収ボトルを正しくセットしてください。
異なる機種のだらみカートリッジがセットされています。正しいのだらみカートリッジがセットされているか確認してください。	異なる機種のだらみカートリッジがセットされています。 プリンタ機種に対応したのだらみカートリッジを正しくセットしてください。
のだらみカートリッジが交換時期です。のだらみカートリッジを交換してください。	のだらみカートリッジが交換時期です。 新しいのだらみカートリッジに交換してください。
のだらみカートリッジがセットされていないか、正しくセットされていません。のだらみカートリッジを正しくセットしてください。	のだらみカートリッジがセットされていないか、正しくセットされていません。 のだらみカートリッジを正しくセットしてください。
オイルカートリッジが交換時期です。オイルカートリッジを交換してください。	オイルカートリッジが交換時期です。新しいオイルカートリッジに交換してください。
クリーニングカートリッジが交換時期です。クリーニングカートリッジを交換してください。	クリーニングカートリッジが交換時期です。 新しいクリーニングカートリッジに交換してください。

詳細情報	原因と対処
クリーニングカートリッジがセットされていないか、正しくセットされていません。クリーニングカートリッジを正しくセットしてください。	クリーニングカートリッジがセットされていないか、正しくセットされていません。 クリーニングカートリッジを正しくセットしてください。
現像剤回収ボトルが一杯になりました。現像剤回収ボトルを交換してください。	現像剤回収ボトルがいっぱいになりました。 新しい現像剤回収ボトルに交換してください。
セットされている用紙の紙質が違います。用紙を交換してください。	給紙トレイにセットされている用紙の紙質が違います。 正しい用紙に交換してください。
OHPフィルムの向き、表/裏、または用紙ガイドの位置が正しくセットされていません。OHPフィルムを正しくセットしてください。	OHPフィルムの向き、表/裏、または用紙ガイドの位置が正しくセットされていません。 OHPフィルムを正しくセットしてください。
OHPフィルムがセットされています。OHPフィルムを取り除いてください。	手差しトレイ以外にOHPフィルムがセットされています。 OHPフィルムを取り除いてください。
ステーブルフィニッシャーまたはスタックカートレイに障害物があります。障害物を取り除いてください。	ステーブルフィニッシャーまたはスタックカートレイに障害物があります。 ステーブルフィニッシャーまたはスタックカートレイの障害物を取り除いてください。
トレイが故障です。プリンタ装置を確認してください。	トレイが故障しました。 プリンタ装置の操作パネルを確認し、プリンタドライバに添付のドキュメントを参照して対処してください。
フィニッシャーが故障です。プリンタ装置を確認してください。	ステーブルフィニッシャーが故障しました。 プリンタ装置の操作パネルを確認し、プリンタドライバに添付のドキュメントを参照して対処してください。
スタックカートレイが故障です。プリンタ装置を確認してください。	スタックカートレイが故障しました。 プリンタ装置の操作パネルを確認し、プリンタドライバに添付のドキュメントを参照して対処してください。
ステーブルフィニッシャーは停止準備中または一時停止中です。プリンタ装置を確認してください。	ステーブルフィニッシャーは、停止準備中または一時停止中です。 停止準備中の場合、停止するまでお待ちください。一時停止中の場合、排出された用紙を取り除いて[一時停止／再開]キーを押してください。
プリンタ装置で致命的なエラーが発生しました。プリンタ装置を確認してください。	プリンタ装置で致命的なエラーが発生しました。 プリンタ装置の操作パネルを確認し、プリンタドライバに添付のドキュメントを参照して対処してください。
プリンタ装置で異常が発生しました。プリンタ装置を確認してください。	プリンタ装置で異常が発生しました。 プリンタ装置の操作パネルを確認し、プリンタドライバに添付のドキュメントを参照して対処してください。
プリンタ装置との通信ができません。プリンタ装置の動作(電源断等)、TCP/IPアドレスおよびネットワーク環境を確認してください。	プリンタ装置との通信ができません。 以下の対処を行ってください。 - プリンタ装置を確認して、プリンタ装置の電源が切断されている場合、電源を投入してください。 【ポートの構成】画面にて、ホスト名またはTCP/IPアドレスに誤りがないかを確認してください。 - ネットワーク環境に異常がないかを確認してください。
プリンタ装置との通信で異常が発生しました。プリンタ装置またはネットワーク環境を確認してください。	プリンタ装置またはネットワーク環境に異常があるため、プリンタ装置との通信ができません。

詳細情報	原因と対処
	プリンタ装置またはネットワーク環境を確認してください。また、ネットワーク状態(高負荷など)を確認してください。
ホスト名の名前解決に失敗しました。ホスト名またはネットワーク環境を確認してください。	プリンタ装置に接続するときに、ホスト名の名前解決に失敗しました。 【ポートの構成】画面で、ホスト名に誤りがないか、ネットワーク環境(DNSサーバやhostsファイルにプリンタ装置のホスト名が定義されているか、およびゲートウェイ定義が正しいか)を確認してください。
プリンタ装置との通信が切断されました。プリンタ装置の状態またはネットワーク環境を確認してください。	プリンタ装置の状態、またはネットワーク異常のため、プリンタ装置との通信が切断されました。 以下の対処を行ってください。 ・ プリンタ装置を確認してください。 ・ ネットワーク環境を確認してください。 配信出力サーバの異常により、印刷データをプリンタ装置に送信できない場合、プリンタ装置のタイムアウトが発生します。配信出力サーバの異常を取り除いたあと、再度印刷してください。
プリンタキュー名に誤りがあります。プリンタキュー名を確認してください。	プリンタキュー名に誤りがあります。 【ポートの構成】画面で設定したプリンタキュー名を確認してください。プリンタキュー名はプリンタメーカーや機種によって異なるため、デフォルトのキュー名では接続できないことがあります。その場合は、プリンタ装置の取扱説明書を参照の上、正しいプリンタキュー名を設定してください。
印刷サーバのディスクの空き容量が不足しています。不要なファイルを削除してください。	配信出力サーバを運用しているサーバにおいて、インストールドライブのディスクの空き容量がなくなったため、作業用ファイルの作成ができません。 ディスク内の不要なファイルを削除して、ディスク容量を確保してください。
プリンタ装置が使用中のため、印刷を開始できません。プリンタ装置が解放されると自動で印刷を開始します。	直前の印刷ドキュメントを保留または削除操作し、かつプリンタ装置上に印刷データが残っている場合に表示されます。 プリンタ装置に残っている印刷データの印刷が完了すると自動で印刷を開始します。または、プリンタ装置上で不要となった印刷データを削除してください。プリンタ装置上で現在印刷している印刷データを削除する方法については、プリンタドライバに添付のドキュメントを参照してください。
オフラインです。オンラインにしてください。	プリンタ装置がオフライン状態です。 プリンタ装置をオンラインにしてください。
用紙切れです。用紙を補給してください。	プリンタ装置が用紙切れのため印刷できません。 プリンタ装置に用紙を補給してください。

17.3.5 ソースが「WORKIT MSG(F3BW)」のイベントログ

ソースが「WORKIT MSG(F3BW)」のイベントログは、メッセージ通知に関するイベントログです。

ソースが「WORKIT MSG(F3BW)」のイベントログについて、番号の順に説明します。

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバの動作環境(レジストリ)が存在しない、または壊れています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品をインストールした後、コンピュータの再起動を行っていない場合、コンピュータの再起動を行ってください。再起動しても問題が解決されない場合は、製品を再インストールしてください。

2

[種類]

警告

[意味]

内部処理で利用するファイルが存在しません。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

製品をインストールした後、コンピュータの再起動を行っていない場合、コンピュータの再起動を行ってください。再起動しても問題が解決されない場合は、製品を再インストールしてください。

4

[種類]

警告

[意味]

内部処理で利用するファイルが壊れています。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は不要です。

5

[種類]

エラー

[意味]

インストールフォルダ配下に必要なファイルが存在しない、または壊れています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品をインストールした後、コンピュータの再起動を行っていない場合、コンピュータの再起動を行ってください。再起動しても問題が解決されない場合は、製品を再インストールしてください。

6

[種類]

エラー

[意味]

ネットワークプロトコルが正常にインストールされていない、またはネットワークプロトコルが正常に動作していません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ネットワークのソフトウェア環境およびハードウェア環境を見直してください。

7

[種類]

エラー

[意味]

ネットワークプロトコルが正常にインストールされていない、またはネットワークプロトコルが正常に動作していません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ネットワークのソフトウェア環境およびハードウェア環境を見直してください。

8

[種類]

エラー

[意味]

ネットワークプロトコルが正常にインストールされていない、またはネットワークプロトコルが正常に動作していません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ネットワークのソフトウェア環境およびハードウェア環境を見直してください。

100

[種類]

情報

[意味]

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

101

[種類]

情報

[意味]

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

102

[種類]

情報

[意味]

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

103

[種類]

情報

[意味]

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」を停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

111

[種類]

警告

[意味]

返答メッセージ、または応答メッセージの送信に失敗したため、別の通知先へ送信しました。

返答メッセージ、または応答メッセージの送信に失敗した場合、印刷時の優先順位に従い、通知可能なコンピュータを検索し、最初に見つかったコンピュータにメッセージを通知します。

なお、メッセージの通知先コンピュータが存在しないなど、不当なコンピュータ名が指定された場合、本イベントIDのメッセージ本文の「送信に失敗したコンピュータ」には何も表示されません。この場合、ソースが「F3EWSRV」のイベントログのイベントID11001に不当な通知先コンピュータに関する情報が表示されます。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

メッセージ通知先に指定している環境を見直してください。主な原因は以下のとおりです。

- ・ メッセージ通知先のコンピュータの電源が投入されていない。
- ・ メッセージ通知先のコンピュータの到着通知パネルが起動されていない。
- ・ メッセージ通知先のコンピュータが存在しない。

112

[種類]

エラー

[意味]

返答メッセージ、または応答メッセージの送信に失敗しました。

返答メッセージ、または応答メッセージの送信に失敗した場合、印刷時の優先順位に従い、通知可能なコンピュータを検索しますが、どこにも通知できなかった場合に表示されます。

なお、メッセージの通知先コンピュータが存在しないなど、不当なコンピュータ名が指定された場合、本イベントIDのメッセージ本文の「送信に失敗したコンピュータ」には何も表示されません。この場合、ソースが「F3EWSRV」のイベントログのイベントID11001に不当な通知先コンピュータに関する情報が表示されます。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

メッセージ通知先に指定している環境を見直してください。主な原因は以下のとおりです。

- ・ メッセージ通知先のコンピュータの電源が投入されていない。
- ・ メッセージ通知先のコンピュータの到着通知パネルが起動されていない。
- ・ メッセージ通知先のコンピュータが存在しない。

2000

[種類]

エラー

[意味]

サービス「WORKIT MSG(F3BW)」に、予期しないエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージの内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

17.3.6 ソースが「WORKIT JOB(F3BW)」のイベントログ

ソースが「WORKIT JOB(F3BW)」のイベントログは、メッセージ通知に関するイベントログです。

ソースが「WORKIT JOB(F3BW)」のイベントログについて、番号の順に説明します。

10

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバを運用しているサーバの負荷が高くなったため、印刷に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

実行中の印刷の終了を待ってから、エラーとなっている印刷ジョブについて、出力指示画面から再印刷を行ってください。

13

[種類]

エラー

[意味]

ジョブログの採取処理中に異常が発生し、ジョブログの採取処理を中止しました。

中止の原因となった異常は、本エラーが出力されている直前にソースが「WORKIT MSG(F3BW)」のイベントログのイベントID2000のエラーで出力されます。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

直前に出力されたメッセージの内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

1000

[種類]

エラー

[意味]

配信出力サーバの動作環境(レジストリ)が存在しない、または壊れています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

製品をインストールした後、コンピュータの再起動を行っていない場合、コンピュータの再起動を行ってください。再起動しても問題が解決されない場合は、製品を再インストールしてください。

2000

[種類]

エラー

[意味]

予期しないエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージの内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

17.3.7 ソースが「F5CWSVLG」のイベントログ

ソースが「F5CWSVLG」のイベントログは、帳票印刷配信機能で利用するログサービスに関するイベントログです。

ソースが「F5CWSVLG」のイベントログについて、番号の順に説明します。

31

[種類]

エラー

[意味]

内部処理の失敗により、サービス「LW Log Service」の停止に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

32

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Log Service」を開始しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

33

[種類]

情報

[意味]

サービス「LW Log Service」を停止しました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

34

[種類]

エラー

[意味]

ログデータを受信することができませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

35

[種類]

エラー

[意味]

排他処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

36

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中に予期しないエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

38

[種類]

情報

[意味]

トレースログファイルが退避されました。

[システムの処理]

処理を続行します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

39

[種類]

エラー

[意味]

ログ採取中に予期しないファイル入出力エラーが発生したため、トレースログを採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

ログファイルが壊れている可能性があります。ログファイルを削除して、ハードディスクに異常がないか確認してください。

40

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、トレースログを採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

41

[種類]

エラー

[意味]

ログファイルの作成中またはログファイルサイズ更新時に、ディスクの空き容量が不足したため、トレースログが採取できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。

42

[種類]

エラー

[意味]

予期しないエラーが発生したため、ログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

43

[種類]

エラー

[意味]

予期しないエラーが発生したため、ログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

44

[種類]

エラー

[意味]

予期しないファイル入出力エラーが発生したため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

45

[種類]

エラー

[意味]

予期しないファイル入出力エラーが発生したため、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

46

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

47

[種類]

エラー

[意味]

メモリ不足のため、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了してください。

48

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。

49

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、トレースログファイルを自動で退避する環境を作成できませんでした。そのため、システムに合わせてトレースログの環境設定を自動変更します。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

対処は必要ありません。

50

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。

51

[種類]

エラー

[意味]

トレースログの退避ファイルの削除に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

52

[種類]

エラー

[意味]

ディスクの空き容量が不足したため、内部処理に失敗し、トレースログファイルを自動で退避できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除し、ディスクの空き容量を増やしてください。

17.3.8 ソースが「List Works PrintFit」のイベントログ

ソースが「List Works PrintFit」のイベントログは、トナー削減印刷に関するイベントログです。

ソースが「List Works PrintFit」のイベントログについて、番号の順に説明します。

300

[種類]

エラー

[意味]

トナー削減印刷の内部処理で、必要なメモリを獲得できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

サーバ上の不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

再度発生する場合は、イベントビューアのデータの内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

310

[種類]

エラー

[意味]

トナー削減印刷の内部ファイルの読み込み時にエラーが発生しました。

トナー削減印刷の内部ファイルが存在しないか、破損している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

インストール環境を確認してください。再度発生する場合は製品を再インストールし、再度実行してください。

320

[種類]

エラー

[意味]

トナー削減印刷の動作環境ファイルにアクセスできませんでした。

トナー削減印刷の動作環境ファイルが存在しないか、破損している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[ユーザの処置]

以下のフォルダにある動作環境ファイル(lwdstpfptr.ini)を確認してください。

List Worksのインストール先フォルダ¥PrintFit

17.4 メッセージ通知クライアントのメッセージ

印刷制御に関するメッセージは、到着通知パネルに表示されます。プリンタで発生したエラーや出力経過が、指定したコンピュータにメッセージで通知されます。そのメッセージを確認することによって、プリンタを監視できます。

印刷制御に関するメッセージには、以下の2つがあります。

- ・ 返答メッセージ
- ・ 応答メッセージ

17.4.1 返答メッセージ

返答メッセージは、プリンタで発生したエラーの対処ができるメッセージです。

エラーが発生した印刷ドキュメントに対し、「続行」や「削除」などの操作や、ページ指定、再印刷など、リカバリ処理ができます。

到着通知パネルの処理を選択するボタンは、以下の設定によって異なります。

- ・ プリンタの管理環境における全体の設定
- ・ プリンタの管理環境におけるプリンタごとの設定



プリンタの管理環境における詳細については、“[4.8.2 プリンタの管理環境の設定](#)”を参照してください。

返答メッセージには、以下のメッセージがあります。

- ・ 自動復旧されるメッセージ

プリンタ装置の異常やその他の原因を取り除くことで自動的に印刷が続行されます。その際、メッセージの応答を行わなくともメッセージは自動的に閉じます。

- ・ 自動復旧されないメッセージ

プリンタ装置の異常やその他の原因を取り除いても、メッセージの応答を行わなければ、印刷は続行されません。

以下に、返答メッセージをイベントID順に説明します。

0001

[意味]

プリンタ装置で異常が発生しました。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置の異常を取り除いてください。

本メッセージは、Interstage Enabled認定プリンタと連携している場合で、タイムアウトが発生したときに表示されることがあります。メッセージが繰り返し表示される場合は、【ポートの構成】画面のタイムアウトの設定を現在の値より大きくしてください。



注意

【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

0002

[意味]

プリンタ装置の準備ができていないため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置を稼働状態にしてください。



注意

.....
【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。
.....

0003

[意味]

プリンタ装置が用紙切れのため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置に用紙を補給してください。



注意

.....
【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。
.....

0101

[意味]

プリンタ装置で異常が発生しました。

または、プリンタ装置への接続で異常が発生しました。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置またはネットワーク環境を確認してください。



注意

【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

0102

[意味]

プリンタ装置の準備ができていないため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置を稼働状態にしてください。



注意

【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

0103

[意味]

プリンタ装置が用紙切れのため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

プリンタ装置に用紙を補給してください。

Interstage Enabled認定プリンタと連携している場合は、詳細情報に給紙トレイ名や用紙サイズについての情報が表示されます。



注意

【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

1002

[意味]

テスト印刷が終了しました。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

印刷結果を確認してください。



注意

【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

1100

[意味]

サービス「PRT Server Service」が起動していないため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

サービス「PRT Server Service」を起動してください。



注意

【削除】ボタンをクリックしても、印刷ドキュメントが「印刷済」状態で残ります。

サービス「PRT Server Service」を起動して、プリンタの操作画面から該当する印刷ドキュメントを削除してください。

1102

[意味]

印刷中にサービス「PRT Server Service」が停止したため、操作できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

サービス「PRT Server Service」を起動して、再度印刷してください。

1111

[意味]

表示中のドライブのディスクの空き容量が不足しているため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

不要なファイルを削除して、空き容量を確保してください。

1112

[意味]

再開ページに不当なページ数が指定されました。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

再開ページに正しい数値を指定してください。



注意

.....
返答メッセージだけ表示されます。
.....

1202

[意味]

メモリ不足のため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

メモリが不足しています。

不要なアプリケーションを終了し、再度印刷してください。

1204

[意味]

システム資源が不足しているため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

システム資源が不足しています。

不要なアプリケーションを終了し、再度印刷してください。

1206

[意味]

AdministratorユーザまたはSYSTEMユーザに、プリンタのアクセス許可の「ドキュメント管理」が割り当てられていないため、操作できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsプリンタの【プロパティ】画面の【セキュリティ】タブで、アクセス許可に「ドキュメントの管理」を割り当てて、再度印刷してください。

1207

[意味]

プリンタのスプールフォルダが不正のため、スプールファイルが見つかりません。そのため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsプリンタの【プロパティ】画面の【詳細設定】タブで、正しいフォルダ名を設定し、再度印刷してください。

1208

[意味]

プリンタプールを使用する場合のWindowsプリンタの設定に誤りがあるため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsプリンタの【プロパティ】画面の【詳細設定】タブで、「印刷後ドキュメントを残す」を選択してください。

1210

[意味]

印刷中に続行不可能な異常が発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

再度印刷してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

1211

[意味]

配信出力サーバの環境設定で、定義したプリンタへ印刷する場合の、Windowsプリンタの設定に誤りがあります。

Windowsプリンタのプロパティで「印刷後ドキュメントを残す」が選択されていないため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsプリンタの【プロパティ】画面の【詳細設定】タブで、「印刷後ドキュメントを残す」を選択してください。

1300

[意味]

システムの高負荷によるタイムアウトが発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了するなど、システムの負荷を下げて、再度印刷してください。

1500

[意味]

印刷中に続行不可能な異常が発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

再度印刷してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージ、操作内容、およびメッセージに表示される次の情報を記録し、弊社技術員に連絡してください。

- ・ コンピュータ名
- ・ プリンタ名
- ・ 印刷名
- ・ ユーザ名
- ・ 詳細情報

1503

[意味]

印刷終了処理中に続行不可能な異常が発生したため、操作できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

再度印刷してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージ、操作内容、およびメッセージに表示される次の情報を記録し、弊社技術員に連絡してください。

- ・ コンピュータ名
- ・ プリンタ名
- ・ 印刷名
- ・ ユーザ名
- ・ 詳細情報

7001

[意味]

メモリが不足しています。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度印刷してください。

7002

[意味]

システム資源が不足しています。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度印刷してください。

7003

[意味]

AdministratorユーザまたはSYSTEMユーザに、プリンタのアクセス許可の「ドキュメント管理」が割り当てられていないため、操作できません。または、作業ディレクトリに作業ファイルを作成する権限がありません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsプリンタの【プロパティ】画面の【セキュリティ】タブで、アクセス許可の「ドキュメントの管理」を割り当てて、再度印刷してください。
作業ディレクトリに「変更」のアクセス許可が割り当てて、再度印刷してください。作業ディレクトリは、Windowsプリンタの【ポートの構成】画面から【オプション】画面を開いて確認してください。

7004

[意味]

プリンタが操作できないスプールデータ形式です。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsのプリンタのスプールデータ形式をEMFに設定し、再度印刷してください。

7101

[意味]

続行不可能な異常が発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

再度印刷してください。

繰り返し同じ現象が発生する場合、操作内容、メッセージ本文、およびメッセージに表示される以下の情報を記録して、弊社技術員に連絡してください。

- ・ コンピュータ名
- ・ プリンタ名
- ・ 印刷名
- ・ ユーザ名
- ・ 詳細情報

7103

[意味]

SNMPサービスがWindowsにインストールされていないため、印刷ができません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsの「SNMPサービス」をインストールして下さい。

「SNMPサービス」をインストールしたあとは、必ず現在適用しているシステムのサービスパックを再度適用してください。

7104

[意味]

必要なファイルが見つかりません。または必要なファイルが壊れています。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

配信出力サーバを運用しているサーバに製品をインストールした後、コンピュータの再起動を行っていない場合、コンピュータの再起動を行ってください。

再起動しても問題が解決されない場合は、配信出力サーバを運用しているサーバの製品を再インストールしてください。

7105

[意味]

Windowsプリンタの【ポートの構成】画面で指定されているプリンタ装置に誤りがあります。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

Windowsプリンタの【ポートの構成】画面で、「プリンタ装置 (内蔵型プリントサーバ) を指定する」で正しいプリンタ装置を指定してください。

7201

[意味]

プリンタ装置の電源が切断されたか、またはリセット操作が行われたため、印刷が正しく完了したか確認することができませんでした。または、ネットワーク異常が発生したため、印刷できません。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

プリンタ装置で印刷結果を確認してください。
ネットワーク環境を確認してください。

7202

[意味]

印刷ドキュメントの操作後、プリンタ装置に送信されたデータの削除処理に失敗しました。

[システムの処理]

自動復旧しません。

[ユーザの処置]

プリンタ装置で印刷結果を確認してください。
【確認】ボタンをクリックすると、次の印刷ドキュメントの印刷が開始されます。

7401

[意味]

プリンタ装置が他で使用中です。プリンタ装置が解放されると自動で印刷を開始します。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

ありません。プリンタ装置が解放されると、自動で印刷が開始されます。

7402

[意味]

プリンタ装置が他で使用中です。他の印刷ドキュメントで印刷エラーが発生しています。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

ありません。印刷エラーが解除されると、自動で印刷が開始されます。

7403

[意味]

プリンタ装置が他で使用中です。プリンタ装置が解放されると自動で印刷を開始します。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

ありません。プリンタ装置が解放されると自動で印刷が開始されます。



注意

削除操作を行うと、プリンタ装置へ送信済みの印刷ドキュメントが印刷されることがあります。

7404

[意味]

プリンタ装置が他で使用中です。他の印刷ドキュメントで印刷エラーが発生しています。

[システムの処理]

自動復旧します。

[ユーザの処置]

ありません。印刷エラーが解除されると、自動で印刷が開始されます。



注意

削除操作を行っても、プリンタ装置へ送信済みの印刷ドキュメントが印刷されることがあります。

17.4.2 応答メッセージ

応答メッセージは、プリンタで帳票の印刷中に応答が必要になった場合に出力されるメッセージです。

応答メッセージが通知された場合、帳票は「応答待ち」となっているため、印刷の続行や削除などの対処が必要です。

到着通知パネルの処理を選択するボタンは、以下の設定によって異なります。

- ・ プリンタの管理環境における全体の設定
- ・ プリンタの管理環境におけるプリンタごとの設定



プリンタの管理環境における詳細については、“[4.8.2 プリンタの管理環境の設定](#)”を参照してください。

プリンタ装置の異常やその他の原因を取り除いても、メッセージの応答を行わなければ、印刷は続行されません。

以下に、応答メッセージをイベントID順に説明します。

1000

[意味]

プリンタ装置に設定されている用紙名と違う用紙が指定された可能性があります。

[ユーザの処置]

指定された用紙をプリンタ装置にセットしてください。【続行】ボタンを選択すると印刷を再開します。



注意

【操作】ボタンは、印刷ドキュメントのスプールデータ形式にEMFが指定されている場合だけ表示されます。

17.4.3 到着通知パネルに表示されるメッセージ

到着通知パネルに関するメッセージは、操作中の画面にポップアップでメッセージボックスが表示されます。

以下に、到着通知パネルに関するメッセージを50音順に示します。

XXXXXXの表示に失敗しました。
詳細情報はXXXX-XXXX-XXXXです。

[原因と対処]

【メッセージ一覧】画面およびメッセージウィンドウの画面描画処理でエラーが発生しました。

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

**新しいメッセージが到着しています。
メッセージ一覧を自動更新しますか？**

[原因と対処]

メッセージの一覧が自動更新停止モードで表示されています。

メッセージ一覧を自動更新モードに切り替えて表示する場合は、【はい】ボタンをクリックしてください。

メッセージ一覧を自動更新モードに切り替えない場合は、【いいえ】ボタンをクリックしてください。

**異常が発生したため、処理を中止します。
詳細情報は XXXX-XXXX-XX です。**

[原因と対処]

異常が発生しました。

再度操作を行ってください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

印刷ドキュメントを削除してもよろしいですか？

[原因と対処]

印刷ドキュメントを削除しようとしてしました。

印刷ドキュメントを削除する場合は、【はい】ボタンをクリックしてください。

処理を中止する場合は、【いいえ】ボタンをクリックしてください。

起動パラメタに誤りがあります。

[原因と対処]

環境に異常があります。

メッセージ通知クライアントで本メッセージが出力された場合は、Message Clientを再インストールしてください。それ以外の場合は、配信出力サーバを運用しているサーバに製品を再インストールしてください。

システム資源不足のため、処理を中止します。

[原因と対処]

システム資源が不足しています。

不要なアプリケーションを終了し、再度操作を行ってください。

システム資源不足のため、メッセージ監視処理を中止します。

[原因と対処]

システム資源が不足しています。

不要なアプリケーションを終了し、到着通知パネルを再度起動してください。

**システムで異常が発生しました。
当メッセージの内容を控え、当社技術員に連絡してください。
詳細コード:XXXX-XXXX-XXXX**

[原因と対処]

システム関数で異常が発生しました。

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

**省電力処理が行えませんでした。
到着通知パネルを終了後、再度起動してください。**

[原因と対処]

省電力モード復帰時の監視プログラムの作成に失敗しました。

省電力モード復帰後に到着通知パネルを再度起動してください。

到着通知アイコン点滅時間を0から999の間で入力してください。

[原因と対処]

「到着通知アイコン点滅時間」が省略されています。

0～999の範囲で値を指定し、再度操作を行ってください。

**到着通知インジケータの表示に失敗しました。
到着通知パネルを元のサイズに戻します。**

[原因と対処]

到着通知パネルのインジケータ表示に失敗しました。

到着通知パネルの最小化を再度行ってください。

到着通知パネルが同一端末上ですでに起動されているか、指定されたポートが使用中のため、到着通知パネルを起動できません。

[原因と対処]

到着通知パネルが同一端末上ですでに起動されているか、指定されたポートは、すでに他のプログラムで使用中です。

すでに起動されている到着通知パネルを終了するか、到着通知パネルで指定しているポート番号(通常は9599)が、他のアプリケーションなどで使用されていないかを確認してください。

到着通知パネルが他のユーザ権限ですでに起動されています。

[原因と対処]

二重起動チェック(CreateMutex)エラーが発生しました。

すでに起動されている到着通知パネルを終了してください。

**到着通知パネルの最小化に失敗しました。
再試行しますか？
【はい】で再試行します。
【いいえ】で到着通知パネルを通常のウィンドウサイズで起動します。**

[原因と対処]

到着通知パネルの最小化に失敗しました。
再度最小化処理を行う場合は、【はい】ボタンをクリックしてください。
最小化を行わない場合は、【いいえ】ボタンをクリックしてください。

**内部矛盾が発生したため、処理を中止します。
詳細情報は XXXX-XXXX です。**

[原因と対処]

内部矛盾が発生しました。
再度操作を行ってください。
繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

認証情報の獲得に失敗した、またはメッセージサーバ定義に誤りがあるため、メッセージ監視処理を中止します。

[原因と対処]

特定のホスト(あらかじめ定義されたホスト、または認証中のホスト)を、メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)とする指定になっていますが、接続対象となるメッセージサーバが存在しません。
以下のいずれかを確認し、到着通知パネルを再度起動してください。

- ・ 特定のホスト(あらかじめ定義したホスト)をプリンタエラーのメッセージを管理するサーバとする場合
 - ー 【メッセージ操作動作環境】画面の【メッセージサーバ】タブで、接続対象とするメッセージサーバが登録されているか。
メッセージサーバが未登録の場合は、登録してください。
- ・ 接続していないホストからメッセージが通知されたときにそのホストを自動的にメッセージサーバとする場合
 - ー 「メッセージ通知ホストをメッセージサーバとする」が有効になっているか。
「メッセージ通知ホストをメッセージサーバとする」が無効になっている場合は、有効にしてください。

ネットワーク環境に異常があるため、メッセージ管理制御との接続に失敗しました。

[原因と対処]

ネットワークが正常に動作していません。
ネットワーク環境を見直し、到着通知パネルを再度起動してください。
なお、このメッセージは、一時停止状態から復帰した場合にも表示されることがあります。

**ネットワーク環境に異常があるため、リモートサーバとの接続ができません。
ローカルサーバのみでメッセージ監視処理を続行しますか？**

[原因と対処]

ネットワークが正常に動作していません。

ローカルサーバだけでメッセージ監視処理を続行する場合は、【はい】ボタンをクリックしてください。

リモートサーバも接続する場合は、【いいえ】ボタンをクリックしてください。また、ネットワーク環境を見直し、到着通知パネルを再度起動してください。

ファイル(XXXXXX)が見つからないため、処理を中止します。

[原因と対処]

ファイル(XXXXXX)が見つかりません。

以下の項目を確認してください。

- ・ ファイルが存在するか。

ファイルが存在しない場合は、Message Clientを再インストールしてください。

- ・ ファイルが存在する場合は、ファイルが格納されているフォルダのパスがPATH環境変数に設定されているか。

パスが設定されていない場合は、パスを設定する、またはパスが設定されているフォルダ配下にファイルを格納してください。

プログラムの起動に失敗しました。

[原因と対処]

システム資源が不足しています。

不要なアプリケーションを終了し、到着通知パネルを再度起動してください。

メッセージウィンドウの初期化に失敗しました。

詳細コード:XXXXX

[原因と対処]

メッセージウィンドウの初期化処理でエラーが発生しました。

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

メッセージ監視処理を終了しますか？

[原因と対処]

到着通知パネルの終了確認メッセージです。

終了する場合は、【はい】ボタンをクリックしてください。

メッセージ監視処理を続行する場合は、【いいえ】ボタンをクリックしてください。

メッセージ管理制御とのコネクションが切断されたため、メッセージ監視処理を中止します。

[原因と対処]

ネットワークが切断されました。

以下の項目を確認し、到着通知パネルを再度起動してください。

- ・ CPUが省電力モードになっていないか。

CPUが省電力モードになっている場合は、解除してください。

- ・ ネットワークが正常に動作しているか。

ネットワークが正常に動作していない場合は、ネットワーク環境を見直してください。

メッセージサーバ XXXXX がメモリ資源不足のため、処理が行えません。

[原因と対処]

メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)でメモリ資源不足が発生しました。

メッセージサーバの不要なアプリケーションを終了し、再度操作を行ってください。

メッセージサーバ XXXXXからの一覧情報の獲得に失敗したため、メッセージ一覧を表示できません。

[原因と対処]

メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)で異常が発生しました。

メッセージ一覧を再度表示してください。

メッセージサーバ XXXXX との通信手順に誤りがあるため、メッセージ監視処理を中止します。詳細情報は XXXX-XXXX です。

[原因と対処]

続行不可能な通信異常が発生しました。

到着通知パネルを再度起動し、操作を行ってください。

繰り返し同じ現象が発生する場合は、本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

メッセージサーバ XXXXX との通信手順に誤りがあるため、メッセージの表示ができません。

[原因と対処]

メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)との通信(詳細情報要求)が、プロトコルエラーで復帰してきました。

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

メッセージサーバ XXXXX との通信に失敗しました。

[原因と対処]

メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)との通信に失敗しました。

以下の項目を確認し、再度操作を行ってください。

- ・ メッセージサーバのメッセージ管理制御が動作しているか。(【サービス】ダイアログボックスで「WORKIT MSG(F3BW)」が「開始」状態になっているか。)

「停止」状態の場合は、「WORKIT MSG(F3BW)」のスタートアップを「自動」にし、コンピュータを再起動してください。

- ・ ネットワークが正常に動作しているか。

ネットワークが正常に動作していない場合は、ネットワーク環境を見直してください。

**メッセージサーバXXXXXXとの通信に失敗しました。
メッセージサーバが通信可能な状態になっているか確認してください。**

[原因と対処]

サーバXXXXXXとの通信部分でエラーが発生しました。

メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)が通信可能かを確認してください。

例) ping サーバ名

メッセージサーバ XXXXXXにおいて該当するメッセージが削除されたため、メッセージの表示ができません。

[原因と対処]

表示しようとしたメッセージは、すでにメッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)のログから削除されています。

対処は不要です。

**メッセージサーバ XXXXXX にメッセージが到着しています。
メッセージ一覧を切り替えますか？**

[原因と対処]

すでに別のメッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)のメッセージ一覧が表示されています。

メッセージ一覧を該当のメッセージサーバに切り替えて表示する場合は、【はい】ボタンをクリックしてください。

メッセージ一覧を切り替えない場合は、【いいえ】ボタンをクリックしてください。

**メッセージサーバ XXXXXX の電源が未投入、又は通信に失敗しました。
[再試行]で再度接続処理を行います。
[続行]で当該サーバに対する処理を中止します。
[打ち切り]でメッセージ監視処理を中止します。**

[原因と対処]

メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)と接続する環境が整っていません。

メッセージサーバで、以下の項目を確認してください。

- ・ 電源が投入されているか。
電源が投入されていない場合は、電源を投入してください。
- ・ メッセージ管理制御が動作しているか。(【サービス】ダイアログボックスで「WORKIT MSG(F3BW)」が開始状態になっているか)
停止状態の場合は、「WORKIT MSG(F3BW)」のスタートアップを「自動」にし、コンピュータを再起動してください。
- ・ メッセージ通知クライアントと同じポート番号が指定されているか。
ポート番号が異なる場合は、同じポート番号を指定してください。
なお、ポート番号を変更した場合はサーバを再起動してください。

また、ネットワークが正常に動作しているか確認し、正常に動作していない場合はネットワーク環境を見直してください。

再度接続処理を行う場合は、【再試行】ボタンをクリックしてください。

当該サーバに対する処理を中止する場合は、【続行】ボタンをクリックしてください。

メッセージ監視処理を中止する場合は、【打ち切り】ボタンをクリックしてください。

なお、メッセージ通知クライアントのポート番号を変更した場合、またはネットワーク環境を見直した場合は、【打ち切り】ボタンをクリックし、到着通知パネルを再度起動してください。

メッセージサーバ XXXXX のメッセージ管理制御が停止したため、メッセージ監視処理を中止します。

[原因と対処]

電源の切断などにより、メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)のメッセージ管理制御が停止しました。
対処は不要です。

メッセージサーバ定義に誤りがあるため、メッセージ監視処理を中止します。

[原因と対処]

特定のホスト(あらかじめ定義されたホスト)を、メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)とする指定になっていますが、接続対象となるメッセージサーバが存在しません。
「メッセージ通知ホストをメッセージサーバとする」が有効になっているかを確認し、「メッセージ通知ホストをメッセージサーバとする」が無効になっている場合は、有効にし、到着通知パネルを再度起動してください。

**メッセージサーバとの通信処理で異常が発生しました。
詳細情報はXXXX-XXXX です。**

[原因と対処]

サーバとの通信部分でエラーが発生しました。
メッセージサーバ(配信出力サーバを運用しているサーバ)が通信可能かを確認してください。
例) ping サーバ名

メッセージ情報表示順を 1 からXXXXXXの間で重複しないように入力してください。

[原因と対処]

【メッセージ一覧】画面の【プロパティ】ダイアログボックスの【メッセージ一覧】タブで、「メッセージ情報表示順の設定」に同じ番号が指定されました。
メッセージ情報表示順を重複しないように入力し直してください。

メッセージ操作環境が整っていないため、メッセージ管理制御との接続に失敗しました。

[原因と対処]

接続先情報をレジストリから取得できなかった場合のエラーです。
本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

**メモリ資源不足のため、メッセージ監視処理を中止します。
詳細コード:XXXXX**

[原因と対処]

システムメモリ不足です。
他のアプリケーションなどを終了してください。

ローカルコマンドXXXXXXに失敗しました。
詳細コード:XXXXXX

[原因と対処]

内部処理で、ローカルコマンド起動(終了)時の通信処理エラー、またはローカルコマンド起動パラメタのエラーが発生しました。

本メッセージと操作内容を記録してください。また、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

17.5 List Creator互換印刷機能で出力されるメッセージ

17.5.1 ログの出力形式

メッセージは、イベントのプロパティ画面の説明フィールドに、以下の形式で出力されます。

なお、イベントIDは常に「1」で出力されます。

エラー処理種別
ERROR CODE : aa-xxxx-yyyyyyyyy-zzzzzzzz
PRTID : 帳票名
SUPPLEMENT : dddd, 帳票定義情報名, パーティション名, 項目名
システムエラーコード説明
ファイルパス情報

エラー処理種別

エラー処理種別として、以下の文字列が出力されます。

OPEN error.

帳票のデータを描画する処理の前処理でエラーが発生した場合に出力されます。

WRITE error.

帳票のデータの描画処理でエラーが発生した場合に出力されます。

CLOSE error.

帳票のデータを描画する処理の後処理でエラーが発生した場合に出力されます。

Print Error

帳票のデータを展開する処理でエラーが発生した場合に出力されます。

ERROR CODE

ERROR CODEとして、以下が出力されます。

aa-xxxx(エラー詳細情報)

aaには、処理結果通知コードが2桁の英数字文字列で出力されます。

xxxxには、エラー検出情報が4桁の16進数で出力されます。

yyyyyyyy(システムエラーコード)

Windowsのシステム関数で異常が発生した場合の要因が出力されます。

zzzzzzzz(ツールエラーコード)

連携製品のシステム関数で異常が発生した場合の要因、または内部コードが出力されます。

PRTID

List Creatorの帳票様式定義の名前が出力されます。

SUPPLEMENT

List Creatorの帳票定義情報のエラー検出箇所が出力されます。

ddddにはエラーが発生した該当ページ番号が表示されます。

システムエラーコード説明

システムエラーが発生した場合のシステムエラーコードの説明文が出力されます。

ファイルパス情報

List Creatorの帳票定義情報、および組込みメディアの各ファイルのアクセス処理でエラーを検出した場合、参照した各ファイル名がフルパスで出力されます。

17.5.2 ソースが「List Works MeFt」のイベントログ

ソースが「List Works MeFt」のイベントログに出力される、エラー詳細情報(ERROR CODE)の原因と、その対処方法について説明します。

詳細コード	原因	対処
09-30b0	拡大/縮小または、段組み印刷時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
09-f000 09-f001 09-f002 09-f003 09-f004 09-f005 09-f006 09-f007 09-f008 09-f009 09-f00a 09-f00b 09-f00c 09-f00d 09-f00e 09-f00f 09-f030 09-f060 09-f061 09-f062	List Creator互換印刷で内部エラーを検出しました。	List Worksが正しくインストールされているか確認してください。問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

詳細コード	原因	対処
10-0211 10-0212 10-0213 10-0214 10-0216 10-0217 10-0218 10-0219 10-021a 10-021d	プリンタのオープン処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
10-3e12	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能の初期化処理からエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
18-0eb0 18-0eb1 18-0ef0 18-0ef1 18-0ef2 18-0ef3 18-0ef4 18-0ef5	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からファイルアクセスエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
18-41b0 18-42d0 18-42d1	メディア出力処理時に一時ファイルの作成処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
18-47d0 18-47d1	バーコードまたはグラフ出力処理時に一時ファイルの作成処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
18-4e10 18-4e20 18-4ec0 18-4ef0 18-4ef1	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からファイルアクセスエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。

詳細コード	原因	対処
18-4ef2		
18-5210 18-5211 18-5212 18-5213 18-5214	プリンタのオープン処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
18-52b0 18-52b1 18-52b2 18-52b3	プリンタ出力処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
18-f000 18-f001 18-f002 18-f003 18-f004 18-f030 18-f031 18-f032 18-f033 18-f034 18-f035 18-f090 18-f091 18-52b5 18-52b6 18-52b7 18-52b8	List Creator互換印刷でファイルアクセスエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
20-41b0 20-42d0 20-42d1	メディア出力処理時に一時ファイルの作成でディスク容量不足が発生しました。	以下のディスク空き容量を確認し、不要なファイルを削除するなどして、ディスク空き容量を増やした後、再度印刷してください。 ・ 環境変数TEMPに設定されているフォルダ ・ 環境変数TMPに設定されているフォルダ
20-47d0 20-47d1	バーコードまたはグラフ出力処理時に一時ファイルの作成でディスク容量不足が発生しました。	以下のディスク空き容量を確認し、不要なファイルを削除するなどして、ディスク空き容量を増やした後、再度出力してください。 ・ 環境変数TEMPに設定されているフォルダ

詳細コード	原因	対処
		・ 環境変数TMPに設定されているフォルダ
20-5210 20-5211 20-5212 20-5213 20-5214	プリンタのオープン処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
20-52b0 20-52b1 20-52b2 20-52b3	プリンタ出力処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
20-f000 20-f001 20-f002 20-f030 20-f031 20-f032 20-f033 20-f090 20-f091 20-52b5 20-52b6 20-52b7	List Creator互換印刷でディスク容量不足が発生しました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
21-0000 21-0010 21-0012 21-0013 21-0014 21-0015	メモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-0016 21-0017	初期化処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

詳細コード	原因	対処
21-001b 21-001c 21-0050 21-0091 21-0092 21-00b0 21-00b2 21-0210 21-0212 21-0213 21-0214 21-0215	メモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-0216	初期化処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
21-02a1	メディア出力処理時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
21-02a4 21-02a5 21-02a7 21-02aa 21-07f0 21-07f1	メモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-02b0 21-02b6	印刷処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
21-02b7	バーコード出力時にメモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。

詳細コード	原因	対処
21-0e10 21-0e11	帳票の表示時にメモリ不足のため作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-0eb0 21-0eb1 21-0eb2	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からメモリ不足が通知されました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 - 不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行する。 - ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されるので、「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認する。
21-0ed0	帳票の表示時にメモリ不足のため作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-0ef0 21-0ef1	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からメモリ不足が通知されました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 - 不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行する。 - ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されるので、「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認する。
21-0ef2 21-0ef3	帳票の表示時にメモリ不足のため作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-0ef4 21-0ef5 21-0ef6 21-0ef7 21-0ef8 21-0efb	帳票の表示時(バーコード)に、List Creator PDF変換機能からメモリ不足が通知されました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 - 不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行する。 - ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されるので、「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認する。
21-41b0 21-42d0 21-42d1	メディア出力時の一時ファイル作成でメモリ不足が発生しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-47d0 21-47d1	バーコードまたはグラフ出力処理時の一時ファイル作成でメモリ不足が発生しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-47e0	メモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-4e10 21-4e11 21-4e20 21-4ec0 21-4ee0 21-4ee1 21-4ef0 21-4ef1 21-4ef2	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からメモリ不足が通知されました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 - 不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行する。 - ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されるので、「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認する。

詳細コード	原因	対処
21-5010 21-5011	メモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-5210 21-5211 21-5212 21-5213 21-5214	プリンタのオープン処理でシステム関数からメモリ不足が通知されました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-52b0 21-52b1 21-52b2 21-52b3	印刷処理中にメモリ不足が発生しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
21-f000 21-f001 21-f002 21-f003 21-f004 21-f005 21-f030 21-f031 21-f032 21-f033 21-f090 21-f091 21-52b5 21-52b6 21-52b7	List Creator互換印刷でメモリ不足のため、作業領域の獲得に失敗しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。 また、システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。
23-0050	帳票定義情報の読み込み処理でメモリ不足が発生しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
42-02a1	拡大/縮小印刷、段組み印刷、および組込みメディア出力時に一時ファイルの作成または読み込み時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-02a3 42-02a4 42-02a5 42-02a6	組込みメディア(ビットマップ)出力時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。

詳細コード	原因	対処
		繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-02a9	組込みメディア(グラフ)出力時にグラフ属性ファイルおよびグラフデータファイル以外のファイルが指定されました。	帳票出力アプリケーションで指定したグラフ属性ファイルとグラフデータファイルのファイル形式を確認してください。
42-07f0	バーコード出力時に、ライブラリからエラーが通知されました。	保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-12a0 42-12a1	組込みメディア出力時に指定されたメディアファイルが見つかりませんでした。	組込みメディアを帳票出力アプリケーションで指定したフォルダに格納してください。
42-3ed1	帳票の表示時に組込みメディアに扱えないデータ(OLE2オブジェクト)が指定されました。	帳票出力アプリケーションの組込みメディアの形式を確認してください。 サポートしている組み込みメディアの形式については、“List Creator”のマニュアルを確認してください。
42-3ed2	帳票の表示時に未サポートの形式の組込みメディアが指定されました。	帳票出力アプリケーションの組込みメディアの形式を確認してください。 サポートしている組み込みメディアの形式については、“List Creatorのマニュアル”を参照してください。
42-3ed3	グラフ出力時にライブラリの不整合が発生しました。	List Worksが正しくインストールされているか確認してください。 問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-42d0 42-42d1	メディア出力処理時に一時ファイルの作成処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-47d0 42-47d1	バーコードまたはグラフ出力時に一時ファイルの作成処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-47e0	グラフ出力時にライブラリからエラーが通知されました。	保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-47e1	グラフ出力時にライブラリの不整合が発生しました。	List Worksが正しくインストールされているか確認してください。 問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
42-4ee0 42-4ee1	帳票の表示時に、List Creator PDF変換機能で組込みメディアをPDF変換する際に、ファイルアクセスエラーが発生しました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。

詳細コード	原因	対処
		「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
44-02a0	メディア出力時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
44-02a3 44-02a4 44-02a6 44-02a7	メディア出力時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
44-02b2 44-02b3 44-02b4 44-02b5 44-02b6 44-02b7 44-02b8 44-02b9 44-02ba 44-02bb 44-02bc 44-02bd 44-02be	バーコード出力時にシステムリソース不足が発生しました。	システムリソース不足が発生していないか確認してください。
44-0ca3	組込みメディア出力(JPEG、TIFF、またはPNG)時にメディア形式にJPEG、TIFF、またはPNG以外のデータが指定されました。	帳票出力アプリケーションの組込みメディアの形式を確認してください。
44-0ca4 44-0ca5 44-0ca6	メディア出力時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
47-02b0	バーコード出力(モジュール幅指定)時に扱えないデータが指定されました。	帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認してください。

詳細コード	原因	対処
47-02b1	バーコード出力(項目のサイズに収まるようにする指定)時に扱えないデータが指定されました。	帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認してください。
47-02b2	バーコード出力(カスタマバーコード)時に扱えないデータが指定されました。	帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認してください。
47-02b3	バーコード出力(U.S.POSTNETまたはU.S. Postal FIM)時に帳票定義情報で指定した範囲内で印刷できませんでした。	帳票定義情報で指定範囲を大きくしてください。
47-02b4	バーコード出力(U.S.POSTNET またはU.S. Postal FIM)時に扱えないデータが指定されました。	帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認してください。
47-02b5	バーコード出力(QR Code)時に入力データが指定可能なサイズを超えました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 ・ 帳票出力アプリケーションのバーコードデータの長さを確認してください。 ・ 誤り訂正比率を下げて、再度帳票出力アプリケーションから帳票を出力してください。
47-02b6 47-02b7	バーコード出力時の項目長または有効データ長が正しくありません。	帳票出力アプリケーションで使用しているプリンタ情報ファイル、およびバーコードデータについて、プリンタ情報ファイルのBAR128DATALEN(CODE128、EAN-128の有効データ長指定)の設定値にあった形式でバーコードデータを指定しているか確認してください。
47-02b9 47-02ba	バーコード出力(PDF417またはMaxi Code)時に扱えないデータが指定されました。	帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認してください。
47-02bc	バーコード出力(カスタマバーコードまたはQR Code以外)時に帳票定義情報で指定した範囲内で出力できませんでした。	帳票定義情報で指定範囲を大きくしてください。
47-07f0	以下のバーコード出力時に扱えないデータが指定されました。 ・ GS1 DataBar Omnidirectional ・ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional ・ GS1 DataBar Stacked ・ GS1 DataBar Limited ・ GS1 DataBar Expanded ・ GS1 DataBar Expanded Stacked ・ GS1 DataBar Truncated ・ Intelligent Mail Barcode	帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認してください。
47-0ef1 47-0ef3 47-0ef4 47-0ef6	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からバーコード出力エラーが通知されました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 ・ 帳票出力アプリケーションのバーコードデータを確認する。 ・ 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラーの詳細を確認する。
52-02b0 52-02b1 52-02b2	文字出力時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。

詳細コード	原因	対処
52-02b3		システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
53-02b0 53-02b1 53-02b2	文字出力時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
6D-30b0	文字出力中に項目領域長を超えました。	List Creatorの帳票定義情報で項目領域長を大きくしてください。
6D-30b1	矩形テキスト項目、矩形固定リテラル項目への文字出力中に矩形範囲を超えました。	List Creatorの帳票定義情報で矩形テキスト項目、矩形固定リテラル項目のサイズを大きくしてください。
86-00b1	文字出力処理中にメモリ不足が発生しました。	不要なアプリケーションを終了させる、仮想メモリを増やす、またはメモリを増設して、再度実行してください。
86-0222	クローズ処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
86-02b4 86-02b5 86-02b9 86-0ab4 86-0ab6 86-0ab7 86-0aba	プリンタ出力処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。 エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
86-0abd 86-0abe	拡大/縮小または段組み印刷時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
86-0bb5 86-0bb6 86-0cb7	プリンタ出力処理中にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。

詳細コード	原因	対処
		繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
91-0ef2 91-0ef3	帳票の表示時に、List Creator PDF変換機能でオーバーレイをPDF変換する際に、ファイルアクセスエラーが発生しました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
91-12a2 91-12a3 91-12a5 91-12a9 91-12aa 91-12ab	オーバーレイ出力時にエラーを検出しました。	List Creatorの帳票定義情報でオーバーレイに異常がないか確認してください。
91-12a2 91-12a3 91-12a5 91-12a9 91-12aa 91-12ab	オーバーレイ印刷時にエラーを検出しました。	帳票定義情報(オーバーレイ)に異常がないか確認してください。
97-5210 97-5211 97-5212 97-5213 97-5214 97-52b0 97-52b1 97-52b2 97-52b3	プリンタアクセス中にネットワーク関連エラーが発生しました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 ・ プリンタのアクセス権を確認してください。 ・ システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
9H-0090	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能のローディングに失敗しました。	List Creator Enterprise Editionがインストールされているか確認してください。
9H-07f0 9H-07f1	バーコードまたはグラフ出力時にライブラリのローディングに失敗しました。	List Worksが正しくインストールされているか確認してください。 問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
9H-0e10 9H-0e11 9H-0e13	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能のローディングに失敗しました。	List Creator Enterprise Editionがインストールされているか確認してください。
9J-02b0 9J-02b1 9J-02b2 9J-02b3	文字出力時のフォントの作成処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。

詳細コード	原因	対処
9J-02b4		繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
9J-02b5	文字出力時にJEF拡張漢字、JEF拡張非漢字、およびユーザ定義文字が出力できませんでした。	FF特殊112およびFF特殊113のフォントがインストールされているか確認してください。
9K-02b2	バーコード出力時にEAN-128(コンビニエンスストア向け)のドット補正指定でエラーが発生しました。プリンタが使用不可である可能性があります。	プリンタが使用可能かを確認してください。
9K-0ef0	帳票の表示時にバーコードの細太エレメント比に不当な値が指定されました。	以下で指定しているバーコードの細太エレメント比を見直してください。 ・ 帳票様式定義で指定した細太エレメント比 ・ プリンタ情報ファイルのBARNWRATIO(細太エレメント比指定)で指定した細太エレメント比
9K-0ef1	帳票の表示時にEAN-128(コンビニエンスストア向け)のドット補正指定が指定されました。	帳票の表示ではEAN-128(コンビニエンスストア向け)のドット補正指定は未サポートです。以下を確認してください。 ・ List Creator の バーコード 補 正 情 報 ファイル の BARCONVENIDOT(EAN-128(コンビニエンスストア向け)のドット補正指定) ・ プリンタ情報ファイルのBARCONVENIDOT(EAN-128(コンビニエンスストア向け)のドット補正指定) なお、帳票をプリンタへ印刷した時に、EAN-128(コンビニエンスストア向け)のドット補正指定を有効にしたい場合は、本エラーは無視してください。
9M-0eb0 9M-0eb1	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からファイルアクセスエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-0eb2	帳票の表示時に、List Creator PDF変換機能でしおりを生成する際に、エラーが発生しました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-0ef0 9M-0ef1 9M-3ef0 9M-3ef2 9M-3ef3 9M-3ef4 9M-3ef5 9M-3ef6	帳票の表示時に、List Creator PDF変換機能でバーコードをPDF変換する際に、ファイルアクセスエラーが発生しました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-37f0	バーコード出力時にライブラリからエラーが通知されました。	保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
9M-47e0	グラフ出力時にライブラリからエラーが通知されました。	保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

詳細コード	原因	対処
9M-4e10	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能の初期化処理からエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-4e20	帳票の表示時のList Creator PDF変換機能の終了処理からエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-4ec0	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からファイルアクセスエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-4ee0 9M-4ee1	帳票の表示時に、List Creator PDF変換機能で組込みメディアをPDF変換する際に、エラーが発生しました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-4ef0 9M-4ef1 9M-4ef2	帳票の表示時にList Creator PDF変換機能からファイルアクセスエラーが通知されました。	ツールエラーコードにList Creator PDF変換機能から通知されたエラーコードが出力されます。 「ListCREATOR:e-Doc」のイベントログからエラー詳細を確認してください。
9M-f000	List Creator互換印刷の帳票のデータを展開する処理で失敗しました。	List Worksが正しくインストールされているか確認してください。 問題が解決されない場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
C4-0210 C4-3211	プリンタのオープン処理中にデフォルトプリンタの獲得に失敗しました。	以下のいずれかの対処を行ってください。 ・ システムにプリンタが登録されているか確認してください。
C7-0050	オープンされているファイルが多すぎるため帳票定義情報が読み込めませんでした。	オープンするファイルを減らしてください。
CX-02a8 CX-02ac CX-02ad	メディア出力処理時に一時ファイルの作成処理でシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。 システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
GF-0210 GF-3211	JEF拡張漢字サポートのローディングに失敗しました。 JEF拡張漢字サポートがインストールされていない可能性があります。	JEF拡張漢字サポートをインストールしてください。
GG-4e10	コード変換処理のオープンでエラーが発生しました。	List Creator Enterprise Editionが正しくインストールされているか、またはCharset Managerが正しくインストールされているか確認してください。
GM-02b0 GM-02b1 GM-02b3	拡大/縮小印刷時にシステム関数からエラーが通知されました。	システムエラーコードにシステム関数から通知されたエラーコードが出力されます。

詳細コード	原因	対処
GM-02b4 GM-02b5 GM-02b6 GM-02b7		システムエラーコードの説明に、該当する要因がないか確認してください。エラーとなった要因を取り除き、再度実行してください。 繰り返し同じ現象が発生する場合は、保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。
上記以外	描画処理で内部矛盾が発生しました。	保守情報収集ツールを使用して、配信管理サーバおよび配信出力サーバの資料を採取し、弊社技術員に連絡してください。

第18章 トラブルシューティング

この章では、List Works帳票印刷配信機能の運用中に、異常が発生した場合の対処について説明します。

18.1 エラー通知のトラブル

エラー通知に関するその他のトラブルの原因と、その対処方法について説明します。

18.1.1 KERNEL32.DLLの初期化エラーが発生し、印刷されない。

原因

配信出力サービスが起動する、帳票を印刷するプロセス(lwlprprt.exe、lwlprcan.exe)や、印刷状態を通知するプロセス(lwlprstateget.exe)の起動処理が失敗した場合、例外コード0xC0000142で異常終了します。0xC0000142は、アプリケーションの実行に必要なDLLの初期化処理に失敗したことを意味します。

アプリケーションの実行に必要なDLLの初期化処理に失敗する原因としては、デスクトップヒープ(Windowsが管理している領域)の枯渇が発生したことが考えられます。

対処方法

帳票を印刷する多重度を減らしてください。または、しばらく時間をおいて帳票を再度印刷してください。

18.1.2 印刷エラーが発生したとき、List Works がメッセージ通知クライアントに表示するエラーメッセージと同時に、Windowsのエラーメッセージも配信出力サーバを運用しているサーバ上に表示される

原因

VSP/VSシリーズおよびPrintia LASERシリーズ(Printianavi搭載機)以外のプリンタを配信出力先で定義したプリンタとし、印刷エラーが発生した場合に本現象が発生します。List Worksがメッセージ通知クライアントに表示したメッセージに応答することで、Windowsシステムのメッセージボックスは自動的にクローズされます。

対処方法

Windowsシステムのメッセージが表示されないように設定します。ただし、この設定をすると、以下の問題が発生します。

- ・プリンタの追加で、「ポートの構成」を選択しても設定画面が表示されない。
- ・Printia LASER XLシリーズのプリンタで、【ドキュメントの既定値】画面の【用紙】タブで【ステータス表示】ボタンをクリックしても、プリンタステータスの獲得はできない。

上記の問題に対して支障がないことを確認し、以下の手順で、設定してください。

1. 【スタート】メニューの【管理ツール】—【サービス】をクリックします。
→【サービス】ダイアログボックスが表示されます。
2. 【サービス】ダイアログボックスで「Print Spooler」を選択し、【操作】メニューから【プロパティ】を実行します。
→サービス「Print Spooler」の【プロパティ】画面が表示されます。
3. サービス「Print Spooler」の【プロパティ】画面の【ログオン】タブで「デスクトップとの対話をサービスに許可」を無効にし、【OK】ボタンをクリックします。

4. コンピュータを再起動します。

18.1.3 システムのシャットダウン時またはPrint Managerのインストール時、イベントログに「イベントID:6862 配信出力サーバで問題が発生したため、プリンタの状態監視処理に失敗しました。」「イベントID:6606 印刷状態の取得に失敗しました。依存するサービスが停止しています。」のメッセージが出力される。

原因

サービス「LW Print State Service」が停止する前に、システムまたはPrint Managerのインストーラによって、サービス「PRT Server Service」が停止された場合に、本現象が発生します。

対処方法

対処の必要はありません。サービス「LW Print State Service」がサービス「PRT Server Service」の起動状態を監視しているため、表示されるメッセージです。動作上は問題ありません。なお、Print Managerのインストール後は、システムを再起動してください。

18.2 印刷時のトラブル

帳票を印刷しているときに発生したトラブルの原因と、その対処方法について説明します。

18.2.1 帳票出力アプリケーションで、帳票の登録は正常終了したが、印刷されない

原因

以下の原因が考えられます。

1. 帳票を格納した配信フォルダの出力動作モードが、「ため置き印刷」になっている。
2. 帳票が印刷中の状態で、コンピュータが再起動したため、印刷ドキュメントが消えてしまった。(Windowsの既知の問題)
3. Windowsのプリンタフォルダが「プリンタをオフラインで使用する」の設定で使用している。

対処方法

原因に応じて以下の対処を行ってください。

1. 配信フォルダに保存されている対象の帳票を、出力指示画面で印刷してください。
配信フォルダに帳票が登録されると同時に印刷する「即時印刷」を行う場合は、配信フォルダの出力動作モードを「即時印刷」に変更してください。変更後に、設定した配信フォルダに登録される帳票に対して、即時印刷が有効になります。
2. 対処方法はありません。出力指示画面で、対象の帳票を、再度印刷してください。
3. Windowsのプリンタフォルダで「プリンタをオフラインで使用する」の設定を解除してください。

18.2.2 プリンタ装置のエラーを解除しても印刷が自動再開されない

原因

VSP/VSシリーズを以下の設定で使用している可能性があります。

- ・ ポートの設定画面の【リトライ動作】タブの「メッセージ通知できない場合も自動リトライする」が無効の設定になっている。

上記の場合、返答メッセージを通知先コンピュータに表示できなかった場合、印刷されません。

対処方法

ポートの設定画面の【リトライ動作】タブの「メッセージ通知できない場合も自動リトライする」を有効にしてください。

対象の印刷ジョブを、処理状況照会画面から取り消して、再度帳票の印刷を指示してください。



注意

返答メッセージを通知先コンピュータに表示できない原因として、以下のことが考えられます。システム動作環境を確認し、対処してください。

- ・ 通知先コンピュータの到着通知パネルが起動されていない。
- ・ 通知先コンピュータの電源が入っていない。
- ・ ネットワーク環境で異常が発生している。
- ・ 通知先コンピュータにログインしていない。
- ・ 返答メッセージの通知先に存在しないコンピュータ名を設定している。

18.2.3 Printia LASERシリーズ(Printianavi搭載機)でプリンタエラーが発生してもエラーメッセージが表示されない

原因

Printia XLプリンタドライバV5.0L10以降を使用している可能性があります。

対処方法

V5.0L10以降をご使用の場合は、以下の手順でXLプリンタドライバの設定を行ってください。

1. Windowsで、プリンタフォルダのプロパティを開きます。
2. 【Printianavi】タブを選択し、以下の機能を有効にします。機能名は、プリンタドライバのバージョンによって異なります。
 - ー SystemWalker/PrintMGRと連携する
 - ー Systemwalker PrintMGRと連携する
 - ー 到着通知パネルと連携する

なお、上記の機能は、【Printianavi】タブ内の【オプション】ボタンをクリックして開く画面内にある場合があります。

18.2.4 セパレータ印刷を行った場合、帳票出力アプリケーションで指定した部数が印刷されない

原因

セパレータ印刷をした場合、一部のプリンタではプリンタドライバの問題により、帳票出力アプリケーションで指定した部数が印刷されないことがあります。

対処方法

レジストリエディタを起動し、以下のレジストリを設定してください。これにより、帳票出力アプリケーションで指定した部数で印刷されるようになります。

- ・ レジストリキー

¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Cntrl¥Print¥Printers¥プリンタ名¥PrinterDriverData

- ・ 追加する値

— 名前

PPnBannerNoResetDC

— データ型

REG_DWORD

— データ

1

— 基数

10 進数



注意

本対処を行った場合、以下の結果になります。

- ・ セパレータが部数分、印刷されます。
- ・ セパレータの給紙方法が指定してある場合でも、帳票と同じ給紙方法に従います。

18.2.5 到着通知パネルから「保留」を行うと、帳票が印刷されない。

原因

「保留」が行われた印刷ジョブは、印刷されません。

対処

以下のどちらかを行ってください。

- ・ 保留を解除する
- ・ 印刷を取り消す

上記の操作手順は、以下のとおりです。

保留を解除する場合

以下のどちらかの操作をします。

- 印刷ドキュメントは、プリンタが接続されたWindowsのスプーラで「一時停止」の状態となっています。Windowsのプリンタ画面から、「一時停止」の印刷ドキュメントを選択し、印刷を再開します。
- Print Managerがインストールされている場合は、Print Managerの印刷操作画面で保留を解除します。

印刷を取り消す場合

処理状況照会画面で、「保留」を行った印刷ジョブを選択して【印刷取消】ボタンをクリックします。そのあと再度帳票を印刷してください。



注意

【保留】ボタンはPrint Managerで利用できるボタンです。帳票印刷配信機能では、到着通知パネルから「保留」を行わないでください。

18.2.6 大量ページを印刷すると、印刷がエラーとなる場合がある。

現象の詳細

以下のイベントログが出力されます。

イベントID : 7303 帳票の印刷、または表示に失敗しました。
内部エラーが発生しました。

原因

Windowsの仕様により、スプールファイルのサイズに制限があります。

印刷データやオーバーレイに画像データが含まれる帳票を印刷したり、大量ページを印刷したりすると、スプールファイルのサイズの制限を超えてしまい、その結果、印刷が正常に行われない場合があります。

対処

大量ページの印刷時には、スプールファイルのサイズが4GBより小さい値となるように、ページ分割して印刷するなどして運用してください。

同じ帳票を印刷した場合でも、オペレーティングシステムによってスプールファイルのサイズが異なる場合があるため、ご注意ください。

Windows Server 2008は、スプールファイルのサイズが大きくなることが確認されています。

18.3 表示時のトラブル

帳票を表示しているときに発生したトラブルの原因と、その対処方法について説明します。

18.3.1 Web配信操作クライアントを使用中に「HTTP 404」「HTTP 500」「サーバでエラーが発生しました」「Internal Server Error」などのメッセージが表示される。または、Webブラウザの画面に何も表示されない。

原因

以下の原因が考えられます。

1. 配信操作画面のワークユニットが停止している。
2. 印刷配信の環境設定に誤りがある。
3. 配信操作画面のワークユニットの設定に誤りがある。
4. 帳票印刷配信機能の動作に必要なサービスが停止している。

対処

原因に応じて、以下の対処を行ってください。

1. 配信操作画面のワークユニットを起動してください。
2. 印刷配信の環境設定を確認してください。設定に誤りがあれば、修正してください。
3. 配信操作画面のワークユニットの作成手順を確認してください。設定に誤りがあれば、修正してください。
4. 以下のサービスがすべて起動していることを確認してください。起動していないサービスがあれば、起動してください。
 - FJapache
 - FUJITSU帳票管理
 - INTERSTAGE
 - List Works
 - SymfoWARE RDB LWDB
 - SymfoWARE RDB LWLDSTDB

18.3.2 List Works帳票を表示しようとすると、帳票表示画面が起動されるが、帳票が表示されない

原因

List Worksサービスを停止せずに、印刷配信の環境設定を行った可能性があります。

対処

以下の対処を行ってください。

1. 配信出力サービスを停止してください。
2. 配信管理サービスを停止してください。
3. List Worksサービスを再起動してください。
4. 配信出力サービスを開始してください。
5. 配信管理サービスを開始してください。



配信出力サービスの開始/停止の詳細については、“[10.1.1 配信出力サービスの開始/停止](#)”を参照してください。
配信管理サービスの開始/停止の詳細については、“[10.1.2 配信管理サービスの開始/停止](#)”を参照してください。

18.3.3 List Works帳票を表示すると、Webブラウザが異常終了する。

原因

同じ端末上で、以下のどちらかの操作をした。

- ・ 帳票印刷配信機能の画面を表示しているときに、別のWebブラウザ(タブを含む)を起動して、Web連携機能から帳票を表示/印刷する。
- ・ Web連携機能で帳票を表示/印刷しているときに、別のWebブラウザ(タブを含む)を起動して、帳票印刷配信機能の出力指示画面から帳票を表示する。

対処

帳票を表示するときは、以下のように操作してください。

- ・ 帳票印刷配信機能で帳票を表示したい場合

リスト管理サーバからログアウトしてください。

Web連携機能の画面をすべて閉じたことを確認し、配信管理サーバにログインして、帳票を表示してください。

- ・ Web連携機能で帳票を表示/印刷したい場合

配信管理サーバからログアウトしてください。

帳票印刷配信機能の画面をすべて閉じたことを確認し、リスト管理サーバにログインして、帳票を表示/印刷してください。

18.4 帳票の操作時のトラブル

18.4.1 lwoprformコマンドまたはlwdelexpireコマンドを実行しても、帳票を削除できない。

現象の詳細

以下のイベントログが出力されます。

イベントID : 2007

データベースでタイムアウトが発生しました。

配信データベースの負荷が高くなっています。

原因

印刷ジョブ数が推奨値(5,000)を超えている可能性があります。



推奨値の詳細については、“[E.1 配信管理サーバ運用環境の推奨値](#)”を参照してください。

対処

処理状況照会画面で不要な印刷ジョブを削除し、再度コマンドを実行してください。

18.5 サービス「PRT Server Service」のトラブル

サービス「PRT Server Service」に関するトラブルの原因と、その対処方法について説明します。

18.5.1 サービス「PRT Server Service」を停止できない

現象の詳細

「¥¥xxxxxxx で PRT Server Service サービスを停止できませんでした。エラー 2186: サービスが制御機能に応答しません。」が表示され、サービス「PRT Server Service」を停止できません。

原因

サービス「PRT Server Service」がクライアントと通信処理中に、サービスを停止しようとして、タイムアウトが発生している可能性があります。

対処方法

サービス「PRT Server Service」が終了されていない場合、サービス「PRT Server Service」を再度停止してください。

18.5.2 サービス「PRT Server Service」の停止に時間がかかる

原因

サービス「PRT Server Service」がクライアントと通信処理中に、サービスを停止しようとした場合、サービスの停止に時間がかかることがあります。

対処方法

サービス「PRT Server Service」がクライアントとの通信処理を終了するまでお待ちください。

18.6 メッセージ通知クライアント(到着通知パネル)のメッセージ

メッセージ通知クライアント(到着通知パネル)のメッセージに関するトラブルの原因と、その対処方法について説明します。

18.6.1 メッセージ「メッセージサーバXXXXXXXXX の電源が未投入、または通信に失敗しました。」が表示される

原因

以下の原因が考えられます。

1. 配信出力サーバを運用しているサーバの電源が投入されていない。
2. 配信出力サーバを運用しているサーバのサービス「WORKIT MSG(F3BW)」が開始状態になっていない。
3. ネットワークが正常に動作していない。

対処方法

原因に応じて、以下の対処を行ってください。

1. 電源が投入されていない場合は、電源を投入してください。
2. 【サービス】ダイアログボックスで「WORKIT MSG(F3BW)」が停止状態になっている場合は、「WORKIT MSG(F3BW)」のスタートアップの種類を「自動」にして、コンピュータを再起動してください。サービスの動作状況の確認、起動/停止は、【スタート】メニューの【管理ツール】－【サービス】から実行できます。
3. 配信出力サーバを運用しているサーバのコマンドプロンプト画面で、以下のコマンドを実行してください。

`ping メッセージ通知クライアントのホスト`

コマンドプロンプト画面に応答結果が表示されなければ、ネットワークが正常に動作していません。

ネットワークが正常に動作していない場合は、ネットワークのソフトウェア環境/ハードウェア環境を見直してください。

18.6.2 メッセージ「メッセージ管理制御とのコネクションが切断されたため、メッセージ監視処理を中止します。」が表示される

原因

以下の原因が考えられます。

1. 配信出力サーバを運用しているサーバのCPUが省電力モードになっている。
2. ネットワークが正常に動作していない。

対処方法

原因に応じて以下の対処を行ってください。

1. 配信出力サーバを運用しているサーバのCPUが省電力モードになっている場合は、省電力モードを解除してください。なお、省電力モードの確認および解除方法については、コンピュータのマニュアルを参照してください。
2. 配信出力サーバを運用しているサーバのコマンドプロンプト画面で、以下のコマンドを実行してください。

`ping メッセージ通知クライアントのホスト`

コマンドプロンプト画面に応答結果が出力されなければ、ネットワークが正常に動作していません。

ネットワークが正常に動作していない場合は、ネットワークのソフトウェア環境/ハードウェア環境を見直してください。

18.6.3 メッセージ「到着通知パネルが同一端末上ですでに起動されているか、指定されたポートが使用中のため、到着通知パネルを起動できません。」が表示される

原因

以下の原因が考えられます。

1. ターミナルサービス上で到着通知パネルを使用している。
2. 別ユーザですでに起動している。
3. 他のアプリケーションでポートが使用されている。

対処方法

原因に応じて以下の対処を行ってください。

1. ターミナルサービス上では到着通知パネルは動作できません。
ターミナルサービス上で使用している到着通知パネルを終了してください。
2. 別ユーザですでに起動している到着通知パネルを終了後、再度起動してください。
3. 到着通知パネルで指定しているポート番号(9599)が他のアプリケーションなどで使用されていないかを確認してください。

18.6.4 印刷指定画面に回答すると、メッセージ「不当なページ数が指定されました。」が表示される

原因

続行やテスト印刷を行うときに指定したページが、印刷範囲外のページを指定している可能性があります。

対処方法

表示された印刷範囲内の数値を入力して、もう一度操作を行ってください。

付録A サポートプリンタについて

ここでは、帳票印刷配信機能のサポートプリンタおよびプリンタ使用時の留意事項について説明します。

A.1 帳票印刷配信機能のサポートプリンタ

帳票印刷配信機能は、Windowsに接続できるプリンタをサポートしています。

推奨している以下のプリンタを使用すると、よりきめ細かなエラー通知やリカバリ機能を利用できます。

- VSP/VS/PS5000シリーズ
- PrintiaLASERシリーズ
- Interstage Enabled認定プリンタ



注意

- List Works帳票を印刷する場合とトナー削減印刷する場合は、Postscriptドライバのプリンタは利用できません。
List Creator互換印刷の場合は、Postscriptプリンタを利用できます。
- スプールデータにEMF形式を指定できないプリンタの場合は、以下の機能が利用できません。
 - 印刷中のページ数の表示
 - セパレータ印刷
 - 返答メッセージ/応答メッセージでの再開ページの指定
 - 返答メッセージ/応答メッセージでのテスト印刷
 - 再印刷マークの印刷

以下に、プリンタによる機能差を示します。

プリンタ種別	エラーの通知/対処		プリンタの印刷状態の監視		
	エラーの通知	エラーの対処後、エラーページから印刷を自動再開	用紙の排出まで印刷状態を監視	印刷ページ数の経過を把握	エラーが発生したページを把握
VSPシリーズ (注1)	○ 詳細	○	○	○	○
VSシリーズ (注1)	○ 詳細	○	○	○	○
PS5000シリーズ (注1)	○ 詳細	○	○	○	○
PrintiaLASERシリーズ (Printianavi搭載機) (注2)	○ 詳細	○	○	○	○
Interstage Enabled 認定プリンタ	○ 詳細	○	○	×	×
通常のWindowsプリンタ (注3)	○ エラーのみ(注4)	×	× (注5)	×	×

○:できる ×:できない

注1:配信出力サーバを運用するサーバにPrintWalker/PMをインストールする必要があります。

注2:配信出力サーバを運用するサーバにPrintia XLプリンタドライバをインストールする必要があります。

注3:Postscriptドライバのプリンタの場合、イメージとして運用している外字が黒く塗りつぶされるなど、正常に印刷されないことがあります。

注4:プリンタの接続方法がプリンタポート接続の場合、エラー、オフライン、用紙なしのいずれかに集約して通知されます。なお、プリンタ装置によってはエラーを通知できない場合があります。

注5:プリンタ装置に印刷データを送信した時点で印刷完了となります。



注意

- ・ 帳票印刷配信機能では、Print Managerの高信頼リモートプリンタ、およびWindowsのリモートプリンタ(配信出力サーバを運用するサーバと異なるコンピュータに接続されているプリンタ)は使用できません。
- ・ プリンタ装置またはスプールデータ形式によっては、上記の動作とならない場合があります。使用する環境で確認のうえ、使用してください。

A.1.1 VSP/VS/PS5000シリーズ

帳票印刷配信機能は、すべてのVSP/VS/PS5000シリーズプリンタと連携しています。



注意

- ・ プリンタのプロパティにおいて、【印刷設定】画面、または【標準の設定】画面の【レイアウト】タブの「シートごとのページ数」は使用できません。
- ・ ポートの設定画面の【リトライ動作】タブの「メッセージ通知できない場合も自動リトライする」を有効にしてください。設定していない場合、プリンタ装置のエラーを解除しても、印刷が自動再開されない場合があります。

A.1.2 PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)

帳票印刷配信機能は、PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)の以下の機種と連携しています。

- ・ XL-4360
- ・ XL-5250
- ・ XL-5310 (Windows Server 2008は除く)
- ・ XL-5320
- ・ XL-5330
- ・ XL-5340
- ・ XL-5350
- ・ XL-5370
- ・ XL-5400
- ・ XL-5400G

- XL-5510 (Windows Server 2008は除く)
- XL-5710 (Windows Server 2008は除く)
- XL-5720
- XL-5730
- XL-5750
- XL-5770
- XL-5810 (Windows Server 2008は除く)
- XL-5900
- XL-5900G
- XL-6010
- XL-6100
- XL-6200
- XL-6300
- XL-6700
- XL-9260
- XL-9280
- XL-9281
- XL-9310
- XL-9311
- XL-9380
- XL-9380E
- XL-9400
- XL-9440
- XL-9440E
- XL-9500
- XL-C2260
- XL-C8360
- XL-C8360G



注意

Printia XLプリンタドライバ V5.0L10以降をご利用の場合は、以下の手順でXLプリンタドライバの設定を行ってください。

1. プリンタのプロパティを開きます。

Windows Server 2008の場合、プリンタフォルダを右クリックして表示されるメニューから「管理者として実行」を選択し、プロパティを開きます。

2. 【Printianavi】タブを選択し、以下の機能を有効にします。機能名は、プリンタドライバのバージョンによって異なります。なお、以下の機能は、【Printianavi】タブ内の【オプション】ボタンをクリックして開く画面内にある場合があります。

- ー SystemWalker/PrintMGRと連携する
- ー Systemwalker PrintMGRと連携する

ー 到着通知パネルと連携する

3. 【メッセージ連携サービスの設定】ボタンを選択し、「メッセージ連携サービス」を有効にします。本機能の有無やデフォルトはプリンタドライバのバージョンによって異なります。

【メッセージ連携サービス】画面を開き、【操作】メニューから【開始】を選択します。状態が「開始」となれば設定完了です。なお、メッセージ連携サービスの状態は、【Printianavi/Printianavi2】タブ内に表示しているサマリ(ビットマップ)下部でも確認できます。

A.1.3 Interstage Enabled認定プリンタ

帳票印刷配信機能は各社プリンタと連携し、VSP/VS/PS5000シリーズやPrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機)と同等レベルの機能を実現しています。帳票印刷配信機能と連携できる各社プリンタを「Interstage Enabled認定プリンタ」と呼びます。

なお、プリンタごとに環境設定の方法が異なります。

1) 帳票印刷配信機能が提供する環境設定が必要なプリンタ

下表の「環境設定」欄に「1)」と示したプリンタは、帳票印刷配信機能が提供する環境設定が必要です。プリンタのポートの設定を行ってください。



環境設定については、“[4.2.3 プリンタの定義](#)”を参照してください。
プリンタごとの機能や留意事項などについては、“[A.2 Interstage Enabled認定プリンタについて](#)”を参照してください。



注意

Windowsサーバ(x64)では、帳票印刷配信機能が提供するプリンタのポート設定は未サポートです。

2) 各社が提供する環境設定が必要なプリンタ

下表の「環境設定」欄に「2)」と示したプリンタは、各社が提供する環境設定が必要です。各社のWebサイトを参照し、プリンタの設定を行ってください。



プリンタごとの機能および留意事項などについては、各社のWebサイトを参照してください。

Interstage Enabled認定プリンタの環境設定について、以下に示します。

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
キャノンマーケティング ジャパン株式会社 (注1)	Color Image RUNNER iR C4080(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3580(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3080(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C2550F	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C2620(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3100(N,F,I)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3200(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3220(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C5800(N)	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	Color Image RUNNER iR C6800(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C2570(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C2880(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3170(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3380(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C3880(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C4580(F)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C5180(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C5185(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C5870(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C6870(N)	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C6880N	標準実装品	2)
	Color Image RUNNER iR C5880N	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2230F	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3025(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3035(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3045(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3225F	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3235F	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3245F	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5055(N)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5065(N)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5075N	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5000i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5150i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5160i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 6000i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 6050i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 6060i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2200(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2800(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2870(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3250(i)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3300(F)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3235	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3245	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5000	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 5110	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 6000	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	Image RUNNER iR 6010	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 7200	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 7270N	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 8500(B)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 8570N	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 105(i)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2200i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2250i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2800i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 2850i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3300i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 3350i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 7086(B/N)	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 7095i	標準実装品	2)
	Image RUNNER iR 7105(B/i)	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5051	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5051F	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5045	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5045F	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5035	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5035F	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5030	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE C5030F	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE 8105 PRO	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE 8095 PRO	標準実装品	2)
	Image RUNNER ADVANCE 8085 PRO	標準実装品	2)
	ImagePRESS 1110	標準実装品	2)
	ImagePRESS 1125	標準実装品	2)
	ImagePRESS 1135	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP8630	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP8620	標準実装品	2)
	Satera LASER BPAM PRINTER LBP8610	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3700	CANON NB-E2	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3800	CANON NB-5F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5500	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5700	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5800	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3410	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3900	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3910	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3920	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3930	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3950	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3970	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP3980	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP4500	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5400	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5900(SE)	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5910	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP5910F	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP9500C	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP9600C	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1910	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1820	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1810	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1710	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1620	CANON NB-5F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1610	CANON NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1510	CANON NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1420	CANON NB-5F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-1310	CANON NB-5F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-950	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-930EX	CANON NB-2 (注2)	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-910	CANON NB-3F (注3)、NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-880	CANON NB-3F (注3)、NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-870	CANON NB-3F (注3)、NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-850	CANON NB-2 (注2)	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2810	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2710	CANON NB-5F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2510	CANON NB-5F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2360	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2300	CANON NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2260N	標準実装品	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2260	CANON NB-3F (注3)、NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2200	CANON NB-3F (注3)、NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2160	CANON NB-2 (注2)	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2050	CANON NB-4F	2)
	Satera LASER BEAM PRINTER LBP-2040	CANON NB-3F (注3)、NB-4F	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
エプソン販売株式会社	オフィリオプリンタ LP-S4200 (注4)	標準実装品	2)
	オフィリオプリンタ LP-S4000 (注4)	標準実装品	2)
	オフィリオプリンタ LP-S3500 (注4)	標準実装品	2)
	オフィリオプリンタ LP-S3000 (注4)	標準実装品	2)
	オフィリオプリンタ LP-S300N (注4)	標準実装品	2)
	オフィリオプリンタ LP-9600S (注5)	標準実装品	1)
	オフィリオプリンタ LP-9500C	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-9400	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-9100	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-9000B	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-9000C	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-8900	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-8800C	PRIFNW3S	1)
	オフィリオプリンタ LP-3000C	PRIFNW3 (注6)、PRIFNW3S	1)
	InterLaser LP-9600	標準実装品	1)
	InterLaser LP-8700	PRIFNW3 (注6)、PRIFNW3S	1)
	ESPER*LASER LP-8600FXN	標準実装品	1)
	ESPER*LASER LP-8400FXN	標準実装品	1)
	ESPER*LASER LP-8600FN	標準実装品	1)
	ESPER*LASER LP-8400FN	標準実装品	1)
	Intercolor LP-8500C	標準実装品	1)
	Intercolor LP-8300C	PRIFNW3 (注6)、PRIFNW3S	1)
富士ゼロックス株式会社	DocuPrint 505	標準実装品	2)
	DocuPrint 405	標準実装品	2)
	DocuPrint 401 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 400 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 360 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 340A	標準実装品	2)
	DocuPrint 305	標準実装品	2)
	DocuPrint 280 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 260 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 255	標準実装品	2)
	DocuPrint 250 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 205	標準実装品	2)
	Laser Press 4410 (注7)	標準実装品	1)
	Laser Press 4210 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint 3000	標準実装品	2)
	DocuPrint 3100	標準実装品	2)
	DocuPrint 4050	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	DocuPrint 4060	標準実装品	2)
	DocuPrint 5060	標準実装品	2)
	DocuPrint C5450	標準実装品	2)
	DocuPrint C3530	標準実装品	2)
	DocuPrint C3540	標準実装品	2)
	DocuPrint C3360	標準実装品	2)
	DocuPrint 3350	標準実装品	2)
	DocuPrint C3250	標準実装品	2)
	DocuPrint C3200A	標準実装品	2)
	DocuPrint C3140	標準実装品	2)
	DocuPrint C2426	標準実装品	2)
	DocuPrint C2425	標準実装品	2)
	DocuPrint C2424	標準実装品	2)
	DocuPrint C2221 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint C2220 (注7)	標準実装品	1)
	DocuPrint C2250	標準実装品	1)
	DocuPrint C1250 (注7)	インタフェースボードType1	1)
	DocuTech 180 HighLight Color	標準実装品	2)
	DocuTech 155 HighLight Color	標準実装品	2)
	DocuTech 128 HighLight Color	標準実装品	2)
	DocuPrint 180 EPS	標準実装品	2)
	DocuPrint 155 EPS	標準実装品	2)
	DocuPrint 115 EPS	標準実装品	2)
	DocuPrint 702 DPS	標準実装品	2)
	DocuPrint 701 DPS	標準実装品	2)
	DocuPrint 500 DPS	標準実装品	2)
	DocuCentre Color f450	標準実装品	2)
	DocuCentre Color f360	標準実装品	2)
	DocuCentre Color f250	標準実装品	2)
	DocuCentre Color a450	標準実装品	2)
	DocuCentre Color a360	標準実装品	2)
	DocuCentre Color a250	標準実装品	2)
	DocuCentre Color 400 CP	標準実装品	2)
	DocuCentre Color 320 CP	標準実装品	2)
	DocuCentre 402 FS	標準実装品	2)
	DocuCentre 352 FS	標準実装品	2)
	DocuCentre f1100	標準実装品	2)
	DocuCentre f900	標準実装品	2)
	DocuCentre f285	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	DocuCentre f235	標準実装品	2)
	DocuCentre a1100	標準実装品	2)
	DocuCentre a900	標準実装品	2)
	DocuCentre a285	標準実装品	2)
	DocuCentre a235	標準実装品	2)
	DocuCentre 350 I	標準実装品	2)
	DocuCentre 450 I	標準実装品	2)
	DocuCentre 550 I	標準実装品	2)
	DocuCentre 650 I	標準実装品	2)
	DocuCentre 750 I	標準実装品	2)
	DocuCentre 9000	標準実装品	2)
	DocuCentre C2521 I	標準実装品	2)
	DocuCentre C3626 I	標準実装品	2)
	DocuCentre C4535 I	標準実装品	2)
	DocuCentre C5540 I	標準実装品	2)
	DocuCentre C6550 I	標準実装品	2)
	DocuCentre-II C2200	標準実装品	2)
	DocuCentre-II C3300	標準実装品	2)
	DocuCentre-II C4300	標準実装品	2)
	DocuCentre-II C5400	標準実装品	2)
	DocuCentre-II C6500	標準実装品	2)
	DocuCentre-II C7500	標準実装品	2)
	DocuCentre-II 3000	標準実装品	2)
	DocuCentre-II 4000	標準実装品	2)
	DocuCentre-II 5000	標準実装品	2)
	DocuCentre-II 6000	標準実装品	2)
	DocuCentre-II 7000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 2000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 3000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 3010	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 4000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 5000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 6000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III 7000	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C2200	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C2205	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C3300	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C3305	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C4400	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	DocuCentre-III C4405	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C5500	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C6500	標準実装品	2)
	DocuCentre-III C7600	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C2260	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C2270	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C3370	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C4470	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C5570	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C5580	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C6680	標準実装品	2)
	DocuCentre-IV C7780	標準実装品	2)
	ApeosPort 350 I	標準実装品	2)
	ApeosPort 450 I	標準実装品	2)
	ApeosPort 550 I	標準実装品	2)
	ApeosPort 650 I	標準実装品	2)
	ApeosPort 750 I	標準実装品	2)
	ApeosPort C2521 I	標準実装品	2)
	ApeosPort C3626 I	標準実装品	2)
	ApeosPort C4535 I	標準実装品	2)
	ApeosPort C5540 I	標準実装品	2)
	ApeosPort C6550 I	標準実装品	2)
	ApeosPort-II C2200	標準実装品	2)
	ApeosPort-II C3300	標準実装品	2)
	ApeosPort-II C4300	標準実装品	2)
	ApeosPort-II C5400	標準実装品	2)
	ApeosPort-II C6500	標準実装品	2)
	ApeosPort-II C7500	標準実装品	2)
	ApeosPort-II 3000	標準実装品	2)
	ApeosPort-II 4000	標準実装品	2)
	ApeosPort-II 5000	標準実装品	2)
	ApeosPort-II 6000	標準実装品	2)
	ApeosPort-II 7000	標準実装品	2)
	ApeosPort-III 3010	標準実装品	2)
	ApeosPort-III 4000	標準実装品	2)
	ApeosPort-III 5000	標準実装品	2)
	ApeosPort-III 6000	標準実装品	2)
	ApeosPort-III 7000	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C2200	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	ApeosPort-III C2205	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C3300	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C3305	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C4400	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C4405	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C5500	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C6500	標準実装品	2)
	ApeosPort-III C7600	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C2270	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C3370	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C4470	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C5570	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C5580	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C6680	標準実装品	2)
	ApeosPort-IV C7780	標準実装品	2)
	4112	標準実装品	2)
	4112 Light Publisher	標準実装品	2)
	4127 Light Publisher	標準実装品	2)
	4110 Enterprise Printing System	標準実装品	2)
	4127 Enterprise Printing System	標準実装品	2)
	4590 Enterprise Printing System	標準実装品	2)
株式会社リコー	IPSiO Pro 100	標準実装品	2)
	IPSiO SP 4210	標準実装品	2)
	IPSiO SP 4300	標準実装品	2)
	IPSiO SP 4310	標準実装品	2)
	IPSiO SP 6210	標準実装品	2)
	IPSiO SP 6310	標準実装品	2)
	IPSiO SP 6320	標準実装品	2)
	IPSiO SP 6330	標準実装品	2)
	IPSiO SP 8100	標準実装品	2)
	IPSiO SP 8200	標準実装品	2)
	IPSiO SP 8200M	標準実装品	2)
	IPSiO SP 9100Pro	標準実装品	2)
	IPSiO SP 9300Pro	標準実装品	2)
	IPSiO SP 9300UTPro	標準実装品	2)
	IPSiO SP 9301Pro	標準実装品	2)
	IPSiO SP 9301UTPro	標準実装品	2)
	IPSiO SP C320	標準実装品	2)
	IPSiO SP C420	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	IPSiO SP C811	標準実装品	2)
	IPSiO SP C810	標準実装品	2)
	IPSiO SP C720	標準実装品	2)
	IPSiO SP C721	標準実装品	2)
	IPSiO SP C721M	標準実装品	2)
	IPSiO SP C820	標準実装品	2)
	IPSiO SP C820M	標準実装品	2)
	IPSiO SP C821	標準実装品	2)
	IPSiO SP C821M	標準実装品	2)
	IPSiO NX920	標準実装品	2)
	IPSiO NX850	標準実装品	2)
	IPSiO NX750	標準実装品	2)
	IPSiO NX650S	標準実装品	2)
	IPSiO NX96e	標準実装品	2)
	IPSiO NX860e	標準実装品	2)
	IPSiO CX400	標準実装品	2)
	IPSiO CX7500	標準実装品	2)
	IPSiO CX8800	標準実装品	2)
	IPSiO CX9000	標準実装品	2)
	IPSiO CX9800	標準実装品	2)
	imagic Neo C246	標準実装品	2)
	imagic Neo C285	標準実装品	2)
	imagic Neo C355	標準実装品	2)
	imagic Neo C455	標準実装品	2)
	imagic Neo 352	標準実装品	2)
	imagic Neo 353	標準実装品	2)
	imagic Neo 452	標準実装品	2)
	imagic Neo 453	標準実装品	2)
	imagic MP C2201 SP	標準実装品	2)
	imagic MP C2201 SPF	標準実装品	2)
	imagic MP C2800 SP	標準実装品	2)
	imagic MP C2800 SPF	標準実装品	2)
	imagic MP C2801	標準実装品	2)
	imagic MP C2801 SP	標準実装品	2)
	imagic MP C2801 SPF	標準実装品	2)
	imagic MP C3300 SP	標準実装品	2)
	imagic MP C3300 SPF	標準実装品	2)
	imagic MP C3301	標準実装品	2)
	imagic MP C3301 SP	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	imaggio MP C3301 SPF	標準実装品	2)
	imaggio MP C4000 SP	標準実装品	2)
	imaggio MP C4000 SPF	標準実装品	2)
	imaggio MP C4001	標準実装品	2)
	imaggio MP C4001 SP	標準実装品	2)
	imaggio MP C4001A SP	標準実装品	2)
	imaggio MP C4001 SPF	標準実装品	2)
	imaggio MP C5000 SP	標準実装品	2)
	imaggio MP C5000 SPF	標準実装品	2)
	imaggio MP C5001	標準実装品	2)
	imaggio MP C5001 SP	標準実装品	2)
	imaggio MP C5001A SP	標準実装品	2)
	imaggio MP C5001 SPF	標準実装品	2)
	imaggio MP C6000	標準実装品	2)
	imaggio MP C7500	標準実装品	2)
	imaggio MP 9001	標準実装品	2)
	imaggio MP 9001 T	標準実装品	2)
	imaggio MP 7501	標準実装品	2)
	imaggio MP 7501 SP	標準実装品	2)
	imaggio MP 6001	標準実装品	2)
	imaggio MP 6001 SP	標準実装品	2)
	imaggio MP 5000	標準実装品	2)
	imaggio MP 4000	標準実装品	2)
	RICOH Pro 1357	標準実装品	2)
	RICOH Pro 1357M	標準実装品	2)
	RICOH Pro 1107	標準実装品	2)
	RICOH Pro 1107M	標準実装品	2)
	IPSiO NX910 (注8)	標準実装品	1)
	IPSiO NX900 (注8)	標準実装品	1)
リコープリンティングシステムズ株式会社 (注9)	DDP92	標準実装品	2)
	DDP70	標準実装品	2)
	LB-F50/75	標準実装品	2)
	LB-F75A/100A	標準実装品	2)
	KD 80A	C5100KD	2)
	KD 55A	C5100KD	2)
	KD 38A	C5100KD	2)
	KD 20C	C5100KD	2)
京セラミタ株式会社	ECOSYS LS-9520DN	標準実装品	2)
	ECOSYS LS-9530DN	標準実装品	2)

メーカー	プリンタ機種(販売中止の製品も含む)	ネットワークボード	環境設定
	ECOSYS LS-C8026N	標準実装品	2)
	ECOSYS LS-C8100DN	標準実装品	2)
カシオ計算機株式会社	SPEEDIA N6000	CP-NW200T、CP-NW110	2)
	SPEEDIA N5300	CP-NW200T、CP-NW110	2)
	SPEEDIA N5100	CP-NW200T、CP-NW110	2)
	SPEEDIA N5II	CP-NW200T、CP-NW110	2)
	SPEEDIA CP-E8500	CP-NW200T、CP-NW110	2)
	SPEEDIA CP-E8000	CP-NW200T、CP-NW110	2)
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社	bizhub C450	標準実装品	2)
	bizhub C352	標準実装品	2)
	bizhub C351	標準実装品	2)
	bizhub C300	標準実装品	2)
	bizhub C252	標準実装品	2)
	bizhub C250	標準実装品	2)
	bizhub C450P	標準実装品	2)
	bizhub C352P	標準実装品	2)
	bizhub C252P	標準実装品	2)
	bizhub C250P	標準実装品	2)
	bizhub C650/C550/C451	標準実装品	2)
	bizhub 750/600/500/420/360	標準実装品	2)

注1:

機種により、プリンタ固有機能(ページコンポーザ)により、一部制限が生じるものがあります。また、Satera LASER BEAM PRINTER シリーズの場合、印刷中にプリンタの電源を切ると印刷要求が消えることがあります。
機種の詳細については、プリンタのメーカーにご確認ください。

注2:

Version2.02 以降がサポート対象です。以前のバージョンや、異なった種類のネットワークボードはご使用になれません。ネットワークボードの種類やバージョンを確認するには、プリンタ装置でステータスプリントを実行し、「拡張インタフェース」の「製品名称」、「バージョン」をお確かめください。

注3:

Version3.03 以降がサポート対象です。以前のバージョンや、異なった種類のネットワークボードはご使用になれません。ネットワークボードの種類やバージョンを確認するには、プリンタ装置でステータスプリントを実行し、「拡張インタフェース」の「製品名称」、「バージョン」をお確かめください。サポート対象外のバージョンの場合は、以下のWeb サイトからネットワークボードのファームウェア最新版をダウンロード後、ファームウェアのバージョンアップを行ってください。

<http://cweb.canon.jp/e-support/index.html>

注4:

EpsonNet for Interstage Print Managerとの連携で一部制限があります。詳細については、プリンタのメーカーにご確認ください。

注5:

プリンタ添付のドライバ(Ver.2.16fh 以降)の場合、一部制限があります。

注6:

Version1.50 以降がサポート対象です。以前のバージョンや、異なった種類のネットワークボードは、ご使用になれません。ネットワークボードの種類やバージョンを確認するには、ネットワークボードの裏のステータスシートボタンを押し、「Software」の項目をお確かめください。

注7:

以下のシステムバージョンがサポート対象です。プリンタ装置のシステムバージョンを確認するには、プリンタ装置でプリンタ設定リストを実行し、【General】―【ROM バージョン】―【標準ROM】、または【システム設定】―【ROM】でお確かめください。

- ― DocuPrint 400/250 1.0.23 以降
- ― LaserPress 4410/4210 1.0.12 以降
- ― DocuPrint 401 1.0.23 以降
- ― DocuPrint 360/260 1.0.4 以降
- ― DocuPrint 280 1.0.19 以降
- ― DocuPrint C2221 1.0.5 以降
- ― DocuPrint C2220 1.0.23 以降
- ― DocuPrint C1250 2.0.2 以降

注8:

プリンタ装置のシステムバージョンは、IPSiO NX910 では2.5.3C 以降、IPSiO NX900 では2.2.5以降がサポート対象です。プリンタ装置のシステムバージョンを確認するには、プリンタ装置でステータスシートを実行し、【システム構成】―【バージョン】をお確かめください。

注9:

以下の製品名が変更されています。

- ― DDP92-SW → DDP92
- ― DDP70-SW → DDP70

A.2 Interstage Enabled認定プリンタについて

帳票印刷配信機能が環境設定を提供するInterstage Enabled認定プリンタの機能や留意事項を示します。

A.2.1 プリントドライバ

以下のプリントドライバをサポートします。

最新のプリントドライバ情報に関しては、プリンタのメーカーにお問い合わせください。

メーカー	プリンタ機種	プリントドライバ
CANON	LASER SHOT LBP-3800	CANON製LIPS4 Printer Driver
	LASER SHOT LBP-3700	
	LASER SHOT LBP-1910	
	LASER SHOT LBP-1820	
	LASER SHOT LBP-1810	
	LASER SHOT LBP-1710	
	LASER SHOT LBP-1620	
	LASER SHOT LBP-1610	

メーカー	プリンタ機種	プリンタドライバ
	LASER SHOT LBP-1510	
	LASER SHOT LBP-1420	
	LASER SHOT LBP-950	
	LASER SHOT LBP-930EX	
	LASER SHOT LBP-910	
	LASER SHOT LBP-880	
	LASER SHOT LBP-870	
	LASER SHOT LBP-850	
	COLOR LASER SHOT LBP-2810	
	COLOR LASER SHOT LBP-2710	
	COLOR LASER SHOT LBP-2510	
	COLOR LASER SHOT LBP-2360	
	COLOR LASER SHOT LBP-2300	
	COLOR LASER SHOT LBP-2260N	
	COLOR LASER SHOT LBP-2260	
	COLOR LASER SHOT LBP-2200	
	COLOR LASER SHOT LBP-2160	
	COLOR LASER SHOT LBP-2050	
	COLOR LASER SHOT LBP-2040	
EPSON	オフィリオプリンタ LP-9600S	EPSON製ESC/Page Printer Driver
	オフィリオプリンタ LP-9400	
	オフィリオプリンタ LP-9100	
	オフィリオプリンタ LP-8900	
	オフィリオプリンタ LP-9500C	EPSON製Printer Driver
	オフィリオプリンタ LP-9000B	
	オフィリオプリンタ LP-9000C	
	オフィリオプリンタ LP-8800C	
	オフィリオプリンタ LP-3000C	
	InterLaser LP-9600	EPSON製ESC/Page Printer Driver
	InterLaser LP-8700	
	ESPER・LASER LP-8600FXN	EPSON製Printer Driver
	ESPER・LASER LP-8600FN	
	ESPER・LASER LP-8400FXN	EPSON製ESC/Page Printer Driver
	ESPER・LASER LP-8400FN	
	Intercolor LP-8500C	EPSON製Printer Driver
	Intercolor LP-8300C	
FUJI XEROX	DocuPrint 401	FUJI XEROX製ART4 Advanced Driver
	DocuPrint 400	
	DocuPrint 360	

メーカー	プリンタ機種	プリンタドライバ
	DocuPrint 280	
	DocuPrint 260	
	DocuPrint 250	
	Laser Press 4410	
	Laser Press 4210	
	DocuPrint C2221	FUJI XEROX製ART EX Printer Driver またはFUJI XEROX製PostScriptドライバ (注)
	DocuPrint C2220	
	DocuPrint C1250	FUJI XEROX製PLW Printer Driver
RICOH	IPSiO NX910	RICOH製RPDLドライバ
	IPSiO NX900	

注:

FUJI XEROX社より提供されているPostScriptドライバが対象です。また、プリンタ装置のオプションとなる「PostScript キット」が必要となります。

A.2.2 配信出力サーバとプリンタの接続形態

プリンタにより以下の2つの接続形態があります。

- ・ シングルサーバ運用

1台のプリンタに対して、1台の配信出力サーバから印刷する形態です。

- ・ マルチサーバ運用

1台のプリンタに対して、複数の配信出力サーバから印刷する形態です。

この接続形態の場合、プリンタのポートの設定で「マルチサーバ運用を行う」を有効にしてください。



ポートの設定の詳細については、“[4.2.3 プリンタの定義](#)”を参照してください。

この形態では、返答メッセージ/応答メッセージで再開ページの指定、およびテスト印刷はできません。(返答メッセージ/応答メッセージの【操作】ボタンが非表示になります。)



注意

- ・ 以下のプリンタでは、マルチサーバ運用は行えません。これらのプリンタを使用するには、配信出力サーバを1台にしてください。
 - EPSON オフィリオプリンタ LP-9600S
 - EPSON InterLaser LP-9600
 - EPSON ESPER・LASER LP-8600FXN
 - EPSON ESPER・LASER LP-8600FN
 - EPSON ESPER・LASER LP-8400FXN
 - EPSON ESPER・LASER LP-8400FN
- ・ 用紙交換メッセージを使用する場合、配信出力サーバを1台にすることを推奨します。異なる配信出力サーバで印刷した帳票の用紙名については、用紙交換メッセージでは管理されません。そのため、異なる配信出力サーバから用紙名が異なる帳票を印刷しても、用紙交換メッセージが正しく表示されません。

A.2.3 プリンタ機種ごとの機能

以下に、プリンタ機種ごとに使用できる機能を示します。

プリンタ種別(注1)		CANON		EPSON			FUJI XEROX		RICOH		備考
機能		1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	
接続形態	シングルサーバ運用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	マルチサーバ運用	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—
印刷エラー通知	印刷要求の完全監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	エラー詳細の通知	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(注1)
印刷エラーメッセージ 操作	エラー解除後の自動続行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	削除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(注2)
	操作(再開ページ指定、テスト印刷)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(注3) (注4)
連続印刷機能		×	○	×	×	○	×	○	×	×	—
印刷中指示の送信済み印刷データのキャンセル		○	○	×	×	○	×	○	×	×	(注2)

○: サポート

×: 未サポート

1) CANON

LASER SHOT LBP-930EX、LASER SHOT LBP-850、COLOR LASER SHOT LBP-2160

2) CANON

LASER SHOT LBP-3800、LASER SHOT LBP-3700、LASER SHOT LBP-1910、
LASER SHOT LBP-1820、LASER SHOT LBP-1810、LASER SHOT LBP-1710、
LASER SHOT LBP-1620、LASER SHOT LBP-1610、LASER SHOT LBP-1420、
LASER SHOT LBP-1510、LASER SHOT LBP-950、LASER SHOT LBP-910、
LASER SHOT LBP-880、LASER SHOT LBP-870、COLOR LASER SHOT LBP-2810、
COLOR LASER SHOT LBP-2710、COLOR LASER SHOT LBP-2510、
COLOR LASER SHOT LBP-2360、COLOR LASER SHOT LBP-2300、
COLOR LASER SHOT LBP-2260N、COLOR LASER SHOT LBP-2260、
COLOR LASER SHOT LBP-2200、COLOR LASER SHOT LBP-2050、
COLOR LASER SHOT LBP-2040

3) EPSON

オフィリオプリンタ LP-9600S、InterLaser LP-9600、
ESPER・LASER LP-8600FXN、ESPER・LASER LP-8600FN、
ESPER・LASER LP-8400FXN、ESPER・LASER LP-8400FN

4) EPSON

Intercolor LP-8500C

5) EPSON

オフィリオプリンタ LP-9400、オフィリオプリンタ LP-9100、オフィリオプリンタ LP-8900、
オフィリオプリンタ LP-9500C、オフィリオプリンタ LP-9000B、
オフィリオプリンタ LP-9000C、オフィリオプリンタ LP-8800C、
オフィリオプリンタ LP-3000C、InterLaser LP-8700、Intercolor LP-8300C

6) FUJI XEROX

DocuPrint 400、DocuPrint 250、Laser Press 4410、Laser Press 4210

7) FUJI XEROX

DocuPrint 401、DocuPrint 360、DocuPrint 280、DocuPrint 260、DocuPrint C2221、
DocuPrint C2220、DocuPrint C1250

8) RICOH

IPSiO NX910

9) RICOH

IPSiO NX900

注1:

プリンタの機種によって検出されるエラーが異なります。



エラーの詳細については、“[A.2.4 プリンタ機種ごとのエラー検出内容](#)”を参照してください。

注2:

プリンタ機種が1)、2)、5)、または7)の場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データを自動的に削除(プリンタ機種が1)の場合はハードリセット、2)、5)、または7)の場合はジョブリセット)します。ただし、プリンタ装置がエラー状態の場合は、プリンタ装置でのエラー解除操作が必要になるプリンタ機種があります。

注3:

スプールデータ形式がEMFの場合のみ有効です。

注4:

マルチサーバ運用時または連続印刷指定時には選択できません。

A.2.4 プリンタ機種ごとのエラー検出内容

以下に、プリンタ機種ごとに検出できるエラーの内容を示します。

プリンタ種別 エラー検出内容	CANON		EPSON			FUJI XEROX		RICOH	
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)
オフライン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カバーオープン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
用紙詰まり	○	○	○	○	○	○	○	○	○
用紙切れ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エラー(用紙サイズ不一致)	○	○	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注2)	○ (注2) (注7)	× (注5)	○ (注11)
排出装置フル	○	○ (注9)	○ (注9)	— (注9)	— (注9)	○	○	○	○
トナーなし	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電源オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビジー	○	○	— (注6)	○	○	○	○	○	○

プリンタ種別 エラー検出内容	CANON		EPSON			FUJI XEROX		RICOH	
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)
カセットなし	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○	○	○
カートリッジなし	○ (注3)	○ (注3)	○ (注4)	○ (注4)	○ (注4)	○	○ (注8)	× (注8)	× (注8)
ハードエラー	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)	○ (注1)
手差し待ち	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	○ (注2)	— (注10)	○ (注2)

○: サポート
×: 未サポート
—: 対応する装置、およびエラーがない

1) CANON

LASER SHOT LBP-930EX、LASER SHOT LBP-850、COLOR LASER SHOT LBP-2160

2) CANON

LASER SHOT LBP-3800、LASER SHOT LBP-3700、LASER SHOT LBP-1910、
LASER SHOT LBP-1820、LASER SHOT LBP-1810、LASER SHOT LBP-1710、
LASER SHOT LBP-1620、LASER SHOT LBP-1610、LASER SHOT LBP-1420、
LASER SHOT LBP-1510、LASER SHOT LBP-950、LASER SHOT LBP-910、
LASER SHOT LBP-880、LASER SHOT LBP-870、COLOR LASER SHOT LBP-2810、
COLOR LASER SHOT LBP-2710、COLOR LASER SHOT LBP-2510、
COLOR LASER SHOT LBP-2360、COLOR LASER SHOT LBP-2300、
COLOR LASER SHOT LBP-2260N、COLOR LASER SHOT LBP-2260、
COLOR LASER SHOT LBP-2200、COLOR LASER SHOT LBP-2050、
COLOR LASER SHOT LBP-2040

3) EPSON

オフィリオプリンタ LP-9600S、InterLaser LP-9600、
ESPER・LASER LP-8600FXN、ESPER・LASER LP-8600FN、
ESPER・LASER LP-8400FXN、ESPER・LASER LP-8400FN

4) EPSON

InterColor LP-8500C

5) EPSON

オフィリオプリンタ LP-9400、オフィリオプリンタ LP-9100、オフィリオプリンタ LP-8900、
オフィリオプリンタ LP-9500C、オフィリオプリンタ LP-9000B、
オフィリオプリンタ LP-9000C、オフィリオプリンタ LP-8800C、
オフィリオプリンタ LP-3000C、InterLaser LP-8700、InterColor LP-8300C

6) FUJI XEROX

DocuPrint 400、DocuPrint 250、Laser Press 4410、Laser Press 4210

7) FUJI XEROX

DocuPrint 401、DocuPrint 360、DocuPrint 280、DocuPrint 260、DocuPrint C2221、
DocuPrint C2220、DocuPrint C1250

8) RICOH

IPSIO NX910

9) RICOH

IPSiO NX900

注1:

プリンタ装置のエラーは検出されますが、エラーの詳細がメッセージに表示されません。

注2:

「用紙切れ」として検出されます。

注3:

「トナーなし」として検出されます。

注4:

EPSON InterLaser LP-9600 は、「カバーオープン」として検出されます。その他については、プリンタ装置のエラーは検出されますが、エラーの詳細がメッセージに表示されません。

注5:

指定されたサイズ of 用紙がセットされていない場合でも、エラーは検出されません。また、「用紙サイズ(種類)をチェックする」の指定によって、プリンタ装置の動作が異なります。

「用紙サイズ(種類)をチェックする」は、プリンタ印刷設定画面の【その他】タブで指定できます。プリンタ印刷設定画面は、プリンタフォルダでプリンタを選択し、【プリンタ】—【印刷設定】を選択すると表示されます。

「用紙サイズ(種類)をチェックする」を有効にした場合で、かつ指定されたサイズの用紙がない場合、プリンタ装置は一時停止状態となりますが、エラーを表示しません。

「用紙サイズ(種類)をチェックする」を無効にした場合で、かつ指定されたサイズの用紙がない場合でも、プリンタ装置にセットされている用紙で印刷されます。



詳細については、プリンタ装置のマニュアルを参照してください。

注6:

マルチサーバ運用はできません。

注7:

FUJI XEROX DocuPrint C2220 では、「カセットなし」として検出されることがあります。

注8:

FUJI XEROX DocuPrint C2221、DocuPrint C2220、DocuPrint C1250、RICOH IPSiO NX910、NX900 では、カートリッジがない場合にエラーは検出されず、印刷が行われます。

注9:

CANON LASER SHOT LBP-1710、LBP-1510、EPSON オフィリオプリンタLP-9400、LP-8900、LP-8800C、LP-3000C、Inter Laser LP-8700、ESPER・LASER LP-8600FXN、LP-8600FN、LP-8400FXN、LP-8400FN、Intercolor LP-8500C、LP-8300C では、排出装置がフルの場合にエラーは検出されません。

注10:

RICOH IPSiO NX910 では、給紙トレイを指定して印刷を行った場合、用紙サイズのチェックは行われません。

注11:

RICOH IPSiO NX900 では手差し印刷はできません。

A.2.5 留意事項

Interstage Enabled認定プリンタにおける共通の留意事項について説明します。

- WAN 環境で使用すると、以下の問題が発生することがあります。LAN 環境で使用することを推奨します。
 - ー 印刷データを送信する以外にもプリンタ装置上の印刷状態を監視するため、一定間隔でプリンタ装置に問い合わせを行っています。このため、課金をともなうWAN の回線を使用すると異常課金となります。
 - ー WAN 環境ではLAN 環境と比較して転送速度が低いため、印刷データの送信に時間を要するとプリンタ装置側への接続が切断されたり、プリンタ装置の状態を正しく取得できなかったりすることがあります。
- 1 台のプリンタ装置に、複数の異なるネットワークプロトコルでの印刷を同時に行わないでください。また、1 台のプリンタ装置に、ネットワークボードによる接続やセントロニクスによる接続を同時に行わないでください。
- Windowsのプリンタプロパティ画面の【ポート】タブで「双方向サポートを有効にする」が指定可能になっている場合、必ず無効にしてください。
- 処理状況照会画面で表示される出力完了ページ数は、配信出力サーバ上で処理を行ったページ数が表示されます。また、プリンタ機種によって出力完了ページの表示が異なります。



詳細については、以下を参照してください。

CANON製プリンタの場合：“[A. 2. 7 CANON製プリンタ使用時の留意事項](#)”

EPSON製プリンタの場合：“[A. 2. 8 EPSON製プリンタ使用時の留意事項](#)”

FUJI XEROX 製プリンタの場合：“[A. 2. 9 FUJI XEROX製プリンタ使用時の留意事項](#)”

RICOH 製プリンタの場合：“[A. 2. 10 RICOH製プリンタ使用時の留意事項](#)”

プリンタドライバの機能でプリンタ装置の情報を自動で取得する機能は、正常に動作しないことがあります。その場合、ステータスシートを印刷し、プリンタ装置の情報を手動で設定してください。



ステータスシートの印刷方法については、プリンタ装置に添付のマニュアルを参照してください。

A.2.6 連続印刷指定時の留意事項

以下に、ポートの構成画面において「連続印刷を行う」を有効にした場合の留意事項について示します。

- マルチサーバ運用時には、ポートの構成画面の「連続印刷を行う」チェックボックスのチェック指定を、すべての配信出力サーバで同一にしてください。
- 連続印刷指定時は、返答メッセージ/応答メッセージの【操作】ボタンが非表示になるため、返答メッセージ/応答メッセージから再開ページ指定およびテスト印刷はできません。
返答メッセージが表示された場合は、【削除】ボタンをクリックし、出力指示画面から印刷しなおしてください。
- 複数部数が指定されている帳票は、連続印刷の対象となりません。

A.2.7 CANON製プリンタ使用時の留意事項

以下に、CANON製プリンタ使用時の留意事項について示します。

- NetSpot Job Monitorなどの印刷ドキュメントを管理するソフトウェアとは同時に使用できません。
- プリンタ装置上でジョブランプが点灯中(印刷中)に操作パネルでオフライン操作後、排出ボタンを押さないでください。排出や排出中止が行われた場合、ページ抜けが発生したり、印字結果が異常となったりすることがあります。プリンタ装置上で印刷データを削除するには、操作パネル上でソフトリセットを行ってください。
- プリンタドライバのスタンプ機能を利用した場合、印刷ドキュメントはRAW 形式でスプールされます。

LBP-1910、LBP-1810、LBP-1710、LBP-1610、LBP-1510、LBP-950、LBP-910、LBP-880、LBP-870、LBP-2810、LBP-2710、LBP-2360、LBP-2300、LBP-2260N、LBP-2260、LBP-2220、LBP-2040などの場合

- 処理状況照会画面で表示される出力完了ページ数は、プリンタ装置上で印刷されたページ数ではありません。プリンタ装置上で印刷が開始されると、常に最終ページ数が表示されます。
- 印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行った場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データは削除されますが、プリンタ装置で処理されたページは印刷されます。
- 印刷開始時に、List Worksインストール先フォルダ配下に印刷データをすべてスプールします。印刷するデータ量に応じて、インストールドライブの空きディスク領域を十分に確保してください。また、インストールドライブがNTFS形式の場合、「作業ディレクトリ」に対してユーザに「変更」のアクセス許可を割り当ててください。
- プリンタ装置の操作パネルなどで、印刷中の印刷ドキュメントをジョブリセット、ソフトリセット、ハードリセットしても印刷ドキュメントの印刷中止が検出されず、正常に印刷が完了されることがあります。印刷を中止するには、処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行ってください。
- 最終ページが印刷中にもかかわらず、メッセージ「プリンタ装置が用紙切れのため印刷できません。」が表示されることがあります。このエラーメッセージは、最終ページで用紙切れとなった場合に表示されます。プリンタ装置に用紙を補給してください。最終ページが正常に印刷されると自動的にエラーメッセージは消えます。
- プリンタ装置にハードディスクが装着されている場合、プリンタドライバから指定できる以下の印刷モードは使用できません。
 - 「保存」
 - 「保存＋印刷」
 - 「ジョブ割り込み印刷」

A.2.8 EPSON製プリンタ使用時の留意事項

以下に、EPSON製プリンタ使用時の留意事項について示します。

- EPSON プリントウィンドウ！3などの印刷ドキュメントを管理するソフトウェアとは、同時に使用できません。
- 印刷開始時に、List Worksインストール先フォルダ配下に印刷データをすべてスプールします。印刷するデータ量に応じて、インストールドライブの空きディスク領域を十分に確保してください。また、インストールドライブがNTFS形式の場合、「作業ディレクトリ」に対してユーザに「変更」のアクセス許可を割り当ててください。
- 処理状況照会画面で表示される出力完了ページ数は、プリンタ装置上で印刷されたページ数ではありません。出力完了ページ数は、プリンタ装置上で印刷が開始されると常に最終ページ数が表示されます。
- プリンタ装置の排紙ランプが点灯中(印刷中)の場合、操作パネルでオフライン操作後、【排紙】キーを押さないでください。【排紙】キーを押すと、プリンタ装置へ送信済みの印刷データのみが出力され、印刷が完了したり、印字結果が異常となったりすることがあります。プリンタ装置上で印刷データを削除するには、操作パネル上でリセットを行ってください。
- プリンタ装置の電源投入直後に印刷を行った場合、操作パネルに「インサツカノウ」と表示されていても、メッセージ「プリンタ装置との通信ができません。」が表示されることがあります。プリンタ装置との通信が可能になると、エラーメッセージは自動的に消えて印刷が開始されます。
- プリンタ装置の操作パネルでリセット操作をした場合、メッセージ「0002 プリンタ装置の準備が出来ていないため印刷できません。」が表示されることがあります。しばらくすると、メッセージは自動的に消えて印刷が開始されます。
- プリンタ装置の操作パネルなどで印刷中の印刷ドキュメントをリセットしても、印刷ドキュメントの印刷中止が検出されず、正常に印刷が完了されることがあります。印刷を中止するには、処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行ってください。
- PostScriptプリンタドライバから印刷できません。
- スキャナやコピーなどの複合機として使用しないでください。

LP-9600S、LP-9600、LP-8600FXN、LP-8600FN、LP-8400FXN、LP-8400FNなどの場合

- マルチサーバ運用はできません。必ず、1台の配信出力サーバだけから印刷してください。

- ー 印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行っても、プリンタ装置へ送信済みの印刷データが印刷されます。不要となった印刷データの印刷が続く場合、プリンタ装置の操作パネルでリセットを行ってください。

LP-8500C などの場合

印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行っても、プリンタ装置へ送信済みの印刷データは印刷されます。不要となった印刷データの印刷が続く場合、プリンタ装置の操作パネルでリセットを行ってください。

LP-9400、LP-8900、LP-8700、LP-8800C、LP-8300C、LP-3000Cなどの場合

印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行った場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データは削除されますが、プリンタ装置で処理されたページは印刷されることがあります。

A.2.9 FUJI XEROX製プリンタ使用時の留意事項

以下に、FUJI XEROX 製プリンタ使用時の留意事項について示します。

- ・ PrintDirectやCentreWareなどの印刷ドキュメントを管理するソフトウェアとは、同時に使用できません。
- ・ DocuPrint C2221 およびDocuPrint C2220 以外でPostScript プリンタドライバからの印刷はできません。
- ・ 印刷開始時に、List Worksインストール先フォルダ配下に印刷データをすべてスプールします。印刷するデータ量に応じて、インストールドライブの空きディスク領域を十分に確保してください。また、インストールドライブがNTFS 形式の場合、「作業ディレクトリ」に対してユーザに「変更」のアクセス許可を割り当ててください。
- ・ 処理状況照会画面で表示される出力完了ページ数は、プリンタ装置上で印刷されたページ数ではありません。出力完了ページ数は、プリンタ装置上で印刷が開始されると常に最終ページ数が表示されます。
- ・ プリンタ装置上でオンラインランプ(印刷ランプ)が点滅中(印刷中)の場合、操作パネルでポーズボタンを押したあと、排出ボタンを押さないでください。排出されると、プリンタ装置へ送信済みの印刷データのみが出力され、印刷が完了します。

DocuPrint 401、DocuPrint 360、DocuPrint 280、DocuPrint 260、DocuPrint C2221、DocuPrint C2220などの場合

印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行った場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データは削除されますが、プリンタ装置で処理されたページは印刷されることがあります。

DocuPrint 400、DocuPrint 250、Laser Press 4410、Laser Press 4210などの場合

印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行った場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データが印刷されます。不要となった印刷データの印刷が続くときは、プリンタ装置の操作パネルで、モードボタンとメニューボタンを同時に押して、リセットを行ってください。

DocuPrint C1250などの場合

- ー 印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行った場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データは削除されますが、プリンタ装置で処理されたページは印刷されることがあります。
- ー プリンタ装置に用紙切れや用紙サイズ不一致のエラーが発生している状態で、取り消し操作を行った場合、プリンタ装置のエラーは解除されます。
- ー 環境設定に誤りがある(トレイの設定が印刷する用紙サイズに対応していないなど)場合、メッセージ「プリンタ装置の電源断、またはリセットを検出しました。」が表示されることがあります。

A.2.10 RICOH製プリンタ使用時の留意事項

以下に、RICOH 製プリンタ使用時の留意事項について示します。

- Multi Direct Printなどの印刷ドキュメントを管理するソフトウェアと同時に使用できません。
- PostScript プリントドライバからの印刷はできません。RPDL ドライバを使用してください。
- 処理状況照会画面で表示される出力完了ページ数は、プリンタ装置上で印刷されたページ数ではありません。配信出力サーバからプリンタ装置へ送信したページ数が表示されます。
- プリンタ装置の操作パネルで、印刷中の印刷ドキュメントをリセット(オンライン状態でのリセット操作)した場合、印刷ドキュメントの印刷中止が検出されず、最終ページまで印刷されます。
- 印刷ドキュメントの印刷を中止するには、処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行ってください。
- 印刷中に処理状況照会画面で印刷ジョブの取り消しを行った場合、プリンタ装置へ送信済みの印刷データは印刷されます。不要となった印刷データの印刷が続くときは、プリンタ装置の操作パネルで、☆ボタンとリセットボタンを同時に押してリセットを行ってください。
- 最終ページが印刷中にもかかわらず、メッセージ「プリンタ装置が用紙切れのため印刷できません。」が表示されることがあります。このエラーメッセージは、最終ページで用紙切れとなった場合に発生します。プリンタ装置に用紙を補給してください。最終ページが正常に印刷されると、自動的にエラーメッセージは消えます。
- プリンタ装置のオペレーションパネルにメッセージが表示されていてもプリンタ装置が印刷を続行している場合、エラーは通知されません。

例：ステーブルエラー、パンチエラー、パンチクズフル、リョウメンエラーなど

NX910などの場合

プリントドライバの定義で「用紙サイズをチェックする」チェックボックスをチェックし、給紙トレイを指定して印刷した場合、用紙サイズ不一致のエラーは検出されず、指定した給紙トレイにセットされている用紙で印刷されます。

付録B Windowsファイアウォールの設定

この章ではWindowsファイアウォールの設定内容および設定手順について説明します。

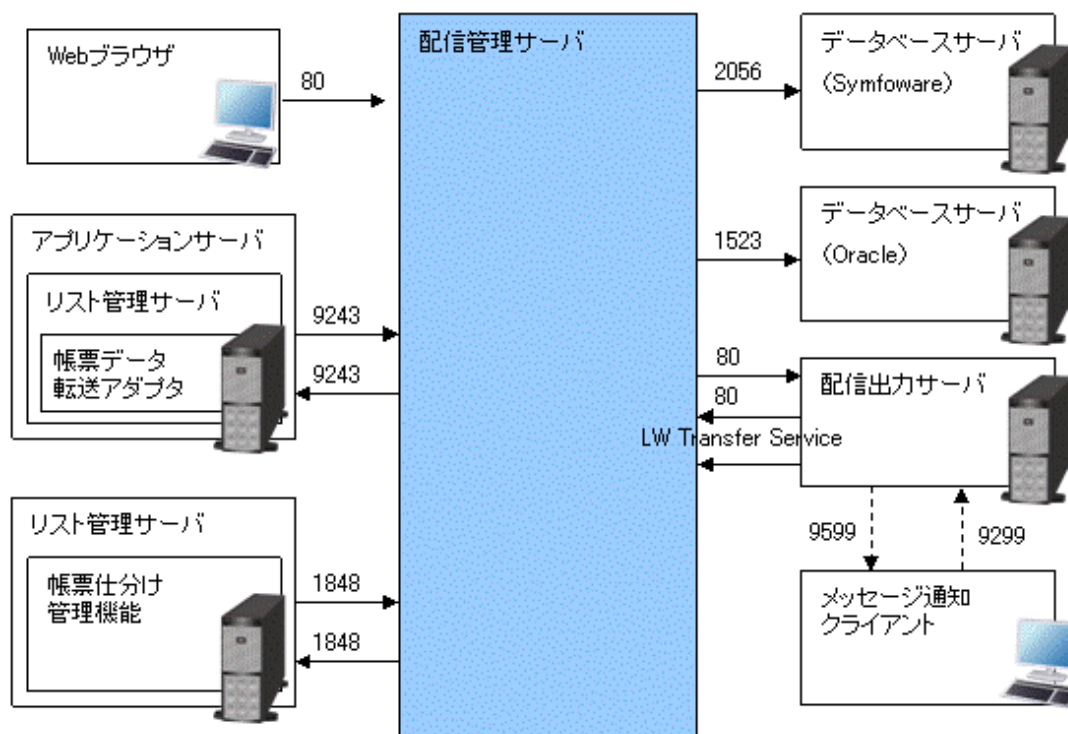
B.1 Windowsファイアウォールの設定内容

B.2 Windowsファイアウォールの設定手順

B.1 Windowsファイアウォールの設定内容

以下の図は帳票印刷配信機能の通信の方向と通信ポート/通信するサービスの関係を示しています。ポート番号は初期値で示しています。変更している場合は、変更後の値で読み替えてください。

図中に色付けして示した配信管理サーバと同じサーバに、それぞれの機能を同居させる場合は、配信管理サーバと同居させた機能の間のWindowsファイアウォールの設定は必要ありません。



矢印の元および先のサーバやPCにおいて、Windowsファイアウォールを「有効」にしている場合に、Windowsファイアウォールに「例外」または「受信の規則」、「送信の規則」として設定が必要になります。

矢印の元側で必要な設定

矢印の元側のサーバやPCが利用しているオペレーティングシステムにより、以下の設定をします。

- Windows Server2008 R2、Windows7の場合

実線の矢印の上にならべて書かれているポート番号を、Windowsファイアウォールの「送信の規則」に設定します。プロトコルはTCPです。
破線の矢印の上にならべて書かれているポート番号を、Windowsファイアウォールの「送信の規則」に設定します。プロトコルはUDPです。
サービス「LW Transfer Service」のプログラムをWindowsファイアウォールの「送信の規則」に設定します。以下のプログラムのパスを設定します。

ー List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jtsdisp.exe

- List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jttmrntdm.exe
- List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jttmrspdm.exe

- Windows Server 2008、Windows Server 2003、Windows Vista、Windows XPの場合
設定は必要ありません。

矢印の先側で必要な設定

矢印の先側のサーバやPCが利用しているオペレーティングシステムにより、以下の設定をします。

- Windows Server 2008 R2、Windows 7の場合
実線の矢印の上に書かれているポート番号を、Windowsファイアウォールの「受信の規則」に設定します。プロトコルはTCPです。
破線の矢印の上に書かれているポート番号を、Windowsファイアウォールの「受信の規則」に設定します。プロトコルはUDPです。
サービス「LW Transfer Service」のプログラムをWindowsファイアウォールの「受信の規則」に設定します。以下のプログラムのパスを設定します。
 - List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jtsdisp.exe
 - List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jttmrntdm.exe
 - List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jttmrspdm.exe
- Windows Server 2008、Windows Server 2003、Windows Vista、Windows XPの場合
実線の矢印の上に書かれているポート番号を、Windowsファイアウォールの「例外」に設定します。プロトコルはTCPです。
破線の矢印の上に書かれているポート番号を、Windowsファイアウォールの「例外」に設定します。プロトコルはUDPです。
サービス「LW Transfer Service」のプログラムをWindowsファイアウォールの「例外」に設定します。以下のプログラムを設定します。
 - List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jtsdisp.exe
 - List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jttmrntdm.exe
 - List Worksのインストール先フォルダ¥Distribute¥lnk01¥bin¥f3jttmrspdm.exe



注意

Windowsファイアウォールを有効に設定している場合に、以下の設定にチェックまたは選択していると、「例外」や「受信の規則」、「送信の規則」の設定が有効になりません。Windowsファイアウォールを有効に設定している場合は、以下のチェックまたは選択を外してください。



それぞれのWindowsの詳細な画面操作については、“Windowsシステムのマニュアル”を参照してください。

- Windows Server 2003、Windows XPの場合
「例外を許可しない」
- Windows Server 2008、Windows Vistaの場合
「すべての着信接続をブロックする」
- Windows Server 2008 R2、Windows 7の場合
受信接続「すべての接続をブロック」(「受信の規則」を設定している場合)
送信接続「すべての接続をブロック」(「送信の規則」を設定している場合)

B.2 Windowsファイアウォールの設定手順

Windowsファイアウォールで「例外」または「受信の規則」、「送信の規則」を設定する手順について、以下に説明します。

B.2.1 ポート番号の設定方法

ポート番号を「例外」または「受信の規則」、「送信の規則」に設定する手順は、以下のとおりです。

Windows Server 2003、Windows XPの場合

1. 【スタート】メニューの【コントロールパネル】から「Windows ファイアウォール」をクリックします。
→【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスが表示されます。
2. 【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスの【全般】タブを確認します。「有効」が選択されている場合は、【例外】タブをクリックします。「無効」が選択されている場合は、設定する必要はありません。
3. 【例外】タブで、【ポートの追加】ボタンをクリックします。
→【ポートの追加】ダイアログボックスが表示されます。
4. 【ポートの追加】ダイアログボックスで、以下の値を設定してください。
 - － 名前(任意)
 - － ポート番号
 - － プロトコル

Windows Server 2008、Windows Vistaの場合

1. 【スタート】メニューから「コントロールパネル」をクリックします。
→【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。
2. 【コントロールパネル】ウィンドウの「Windows ファイアウォール」をクリックします。
→【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスが表示されます。
3. 【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスの「設定の変更」をクリックします。
→【Windows ファイアウォールの設定】ダイアログボックスが表示されます。
4. 【Windows ファイアウォールの設定】ダイアログボックスの【全般】タブを確認します。「有効」が選択されている場合は、【例外】タブをクリックします。「無効」が選択されている場合は、設定する必要はありません。
5. 【例外】タブで、【ポートの追加】ボタンをクリックします。
→【ポートの追加】ダイアログボックスが表示されます。
6. 【ポートの追加】ダイアログボックスで、以下の値を設定して、【OK】ボタンをクリックします。
 - － 名前(任意)
 - － ポート番号
 - － プロトコル

Windows Server 2008 R2、Windows 7の場合

1. 【スタート】メニューから「コントロールパネル」をクリックします。
→【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。
2. 【コントロールパネル】ウィンドウの「Windows ファイアウォール」をクリックします。
→【Windows ファイアウォール】画面が表示されます。
3. 【Windows ファイアウォール】画面の左側に表示されている一覧から「詳細設定」をクリックします。
→【セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール】画面が表示されます。
4. 「受信の規則」を設定する必要があるければ、12.へ進みます。
5. 「ドメイン プロファイル」、「プライベート プロファイル」、「パブリック プロファイル」のいずれかに「Windowsファイアウォールは有効です。」と表示されている場合は、左側のコンソールツリーで「受信の規則」をクリックします。いずれにも「Windowsファイアウォールは有効です。」と表示されていない場合は、12.へ進みます
6. 【操作】メニューから【新しい規則】をクリックします。
→【新規の受信の規則ウィザード】ダイアログボックスが表示されます。
7. 「ポート」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
8. 「受信の規則」に設定する値を選択および設定して、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー プロトコル
 - ー 特定のローカルポート・ポート番号
9. 「接続を許可する」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
10. 「ドメイン」、「プライベート」「パブリック」をご利用の環境に合わせて選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
11. この設定に以下の値を設定して、【完了】ボタンをクリックします。
 - ー 名前(任意)
 - ー 説明(任意)
12. 「送信の規則」を設定する必要があるければ、これで終了です。
13. 【セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール】画面の左側のコンソールツリーで「送信の規則」をクリックします。
14. 【操作】メニューから【新しい規則】をクリックします。
→【新規の送信の規則ウィザード】ダイアログボックスが表示されます。
15. 「ポート」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
16. 「送信の規則」に設定する値を選択および設定して、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー プロトコル
 - ー 特定のリモートポート・ポート番号
17. 「接続を許可する」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
18. 「ドメイン」、「プライベート」「パブリック」をご利用の環境に合わせて選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
19. この設定に以下の値を設定して、【完了】ボタンをクリックします。
 - ー 名前(任意)
 - ー 説明(任意)

B.2.2 プログラムの設定方法

プログラムを「例外」または「受信の規則」、「送信の規則」に設定する手順は、以下のとおりです。

Windows Server 2003、Windows XPの場合

1. 【スタート】メニューの【コントロールパネル】から「Windows ファイアウォール」をクリックします。
→【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスが表示されます。
2. 【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスの【全般】タブを確認します。「有効」が選択されている場合は、【例外】タブをクリックします。「無効」が選択されている場合は、設定する必要はありません。
3. 【例外】タブで、【プログラムの追加】ボタンをクリックします。
→【プログラムの追加】ダイアログボックスが表示されます。
4. 【プログラムの追加】ダイアログボックスで、【参照】ボタンをクリックし、該当するプログラムを設定してください。

Windows Server 2008、Windows Vistaの場合

1. 【スタート】メニューから「コントロールパネル」をクリックします。
→【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。
2. 【コントロールパネル】ウィンドウの「Windows ファイアウォール」をクリックします。
→【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスが表示されます。
3. 【Windows ファイアウォール】ダイアログボックスの「設定の変更」をクリックします。
→【Windows ファイアウォールの設定】ダイアログボックスが表示されます。
4. 【Windows ファイアウォールの設定】ダイアログボックスの【全般】タブを確認します。「有効」が選択されている場合は、【例外】タブをクリックします。「無効」が選択されている場合は、設定する必要はありません。
5. 【例外】タブで、【プログラムの追加】ボタンをクリックします。
→【プログラムの追加】ダイアログボックスが表示されます。
6. 【プログラムの追加】ダイアログボックスで、【参照】ボタンをクリックし、該当するプログラムを設定してください。

Windows Server 2008 R2、Windows 7の場合

1. 【スタート】メニューから「コントロールパネル」をクリックします。
→【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。
2. 【コントロールパネル】ウィンドウの「Windows ファイアウォール」をクリックします。
→【Windows ファイアウォール】画面が表示されます。
3. 【Windows ファイアウォール】画面の左側に表示されている一覧から「詳細設定」をクリックします。
→【セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール】画面が表示されます。
4. 「受信の規則」を設定する必要がなければ、12.へ進みます。
5. 「ドメイン プロファイル」、「プライベート プロファイル」、「パブリック プロファイル」のいずれかに「Windowsファイアウォールは有効です。」と表示されている場合は、左側のコンソールツリーで「受信の規則」をクリックします。いずれにも「Windowsファイアウォールは有効です。」と表示されていない場合は、12.へ進みます
6. 【操作】メニューから【新しい規則】をクリックします。
→【新規の受信の規則ウィザード】ダイアログボックスが表示されます。
7. 「プログラム」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
8. 「このプログラムのパス」に設定する値を選択および設定して、【次へ】ボタンをクリックします。
 - ー プロトコル
 - ー 特定のローカルポート・ポート番号

9. 「接続を許可する」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
10. 「ドメイン」、「プライベート」「パブリック」をご利用の環境に合わせて選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
11. この設定に以下の値を設定して、【完了】ボタンをクリックします。
 - ー 名前(任意)
 - ー 説明(任意)
12. 「送信の規則」を設定する必要がなければ、これで終了です。
13. 【セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール】画面の左側のコンソールツリーで「送信の規則」をクリックします。
14. 【操作】メニューから【新しい規則】をクリックします。
→【新規の送信の規則ウィザード】ダイアログボックスが表示されます。
15. 「プログラム」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
16. 「このプログラムのパス」に設定する値を選択および設定して、【次へ】ボタンをクリックします。
17. 「接続を許可する」を選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
18. 「ドメイン」、「プライベート」「パブリック」をご利用の環境に合わせて選択して、【次へ】ボタンをクリックします。
19. この設定に以下の値を設定して、【完了】ボタンをクリックします。
 - ー 名前(任意)
 - ー 説明(任意)

付録C List Creator互換印刷機能

List Creator互換印刷機能とは、帳票の登録時にList Works帳票に変換せずに、List Creatorの出力形式のまま印刷配信することで、List Creatorから印刷した結果と同等の印刷を行う機能です。

List Works V10.1.0では、List Creator V9.3.0が出力した帳票に対して、本機能を利用できます。

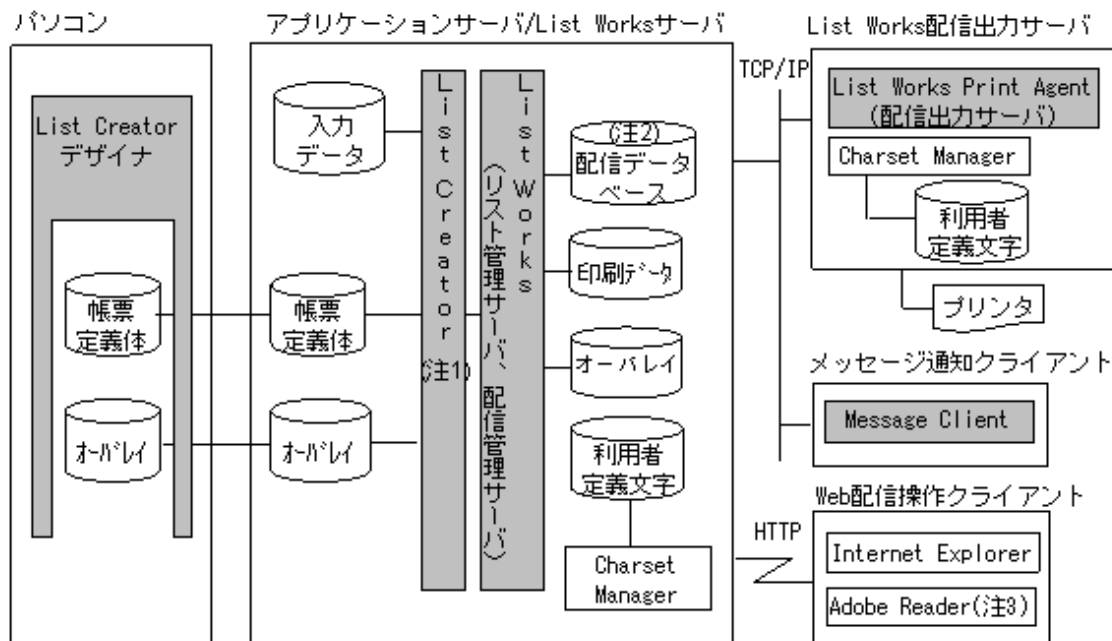
ここでは、List Creator互換印刷機能の環境構築、運用管理について説明します。

C.1 環境構築

List Creator互換印刷機能を使用するために必要な環境構築について説明します。

C.1.1 システム構成

アプリケーションサーバとList Worksサーバは同一サーバ機に構築します。システム構成は以下のようになります。



注1: 帳票の表示には、List Creator Enterprise Editionが必要です。

注2: 帳票およびフォルダの管理情報です。

注3: 帳票の表示はPDFで行うため、Adobe Readerが必要です。

C.1.2 環境設定

List Creator互換印刷を行うには、帳票印刷配信機能の環境構築にあわせ、以下の設定が必要です。

- 配信管理サーバにおける帳票の表示の設定
- Web配信操作クライアントにおける帳票の表示の設定

配信管理サーバにおける帳票の表示の設定

出力指示画面から帳票を表示する場合、List Creator Enterprise Editionと連携して、帳票をPDFに変換して表示します。外字を含む帳票を表示するために、配信管理サーバで必要となる環境設定を以下に示します。

PDFで外字を使用する設定

PDFで外字を設定するには、List Worksサーバに定義された外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)をPDFにエンベッドする必要があります。PDFに外字をエンベッドするためには、List Creator Enterprise Editionの設定が必要です。



PDFに外字をエンベッドする設定方法については、“List Creatorのマニュアル”を参照してください。

なお、外字フォントをWeb配信操作クライアントにインストールする必要はありません。

Web配信操作クライアントにおける帳票の表示の設定

帳票を表示するために、Web配信操作クライアントで必要となる環境設定を以下に示します。

Adobe Readerの設定

出力指示画面からの帳票の表示はPDFで行うため、Web配信操作クライアントにAdobe Readerが必要です。



Adobe Readerのインストール/アンインストールについては、アドビシステムズ社のホームページを参照してください。

C.2 運用管理

List Creator互換印刷機能を使用する場合、“第3部 運用”で説明した作業に加え、以下の作業が必要です。

- ・ 帳票の準備
- ・ 帳票の表示

List Creator互換印刷機能を利用する場合は、運用前の準備作業として、以下の点について問題がないかを確認することを推奨します。

- ・ List Creator互換印刷機能を利用してList Worksに帳票を登録する前に、List Creatorから直接プリンタに印刷し、エラーが発生しないか、帳票の印刷結果が正しいか、などを確認する
- ・ バーコードに関するエラーは通知されないため、あらかじめ印刷するプリンタで問題がないことを確認する

また、List Creator互換印刷機能での印刷結果と、List Creatorから直接プリンタに印刷したときの印刷結果を、帳票の細部まで合わせたい場合は、以下のように環境を構築してください。

- ・ List WorksサーバとList Works配信出力サーバのシステム環境(フォントのインストール状況やプリンタのプロパティの設定など)を合わせておく

List Worksサーバにインストールされているフォントや、印刷するプリンタの解像度によって、項目が領域長にすべて収まらず、データがすべて印刷されない場合があります。

その場合は、項目の文字ピッチを指定したり、領域長を大きくしたりするなど、指定したデータがすべて印刷されるように、List Creatorの帳票定義情報に定義されている項目の設定を調整してください。

C.2.1 帳票の準備

List Creator互換印刷機能を使用するには、帳票出力アプリケーションで以下の設定が必要です。

List Creatorの帳票出力インタフェースを利用する場合

List Creatorの帳票出力インタフェースを利用する場合、帳票出力アプリケーションで以下のとおり設定してください。

コマンドの場合(prprint)

- -atdirectオプションで「stream」(電子保存)を指定します。
- -lwdstmethodオプションで「mat」(List Creator互換印刷)を指定します。
- -lwdstfolderオプションで配信フォルダIDを指定します。
- -in2オプションで電子帳票情報ファイル名を指定します。(任意)
- -pオプションで帳票出力情報ファイル名を指定します。(任意)

帳票出力情報ファイルには、必要に応じて以下のキーワードを設定します。

LWMATQUALITY

List Creator互換印刷時の動作モードに、品質重視モード「Y」または性能重視モード「N」を指定します。

指定を省略した場合は、品質重視モードになります。帳票に異常がないか登録時にチェックを行わず、性能を重視する場合は性能重視モード「N」を指定します。ただし、この場合、List Worksに登録した後で、帳票を印刷するときにエラーが発生する場合があります。List Worksへ登録する前に、プリンタへ印刷して異常がないか確認することを推奨します。

PDFJIS2004MODE

JIS2004で新しく追加された文字(サロゲートペア)を含む帳票を表示する場合に、「Y」を指定します。指定を省略した場合に、JIS2004で新しく追加された文字を含む帳票を表示した場合、エラーとなります。



参考

List Creatorの帳票出力インタフェースで、帳票に「帳票1」を使用し、入力データに「帳票1.dat」を使用して、配信フォルダIDが「fol01」の配信フォルダに帳票を登録する例を以下に示します。

```
prprint  "帳票1"  
-atdirect stream  
-assetsdir "C:¥Assets"  
-lwdstmethod mat  
-lwdstfolder fol01  
-f "C:¥Data¥帳票1.dat"
```

Javaインタフェースの場合

- PrintPropertiesクラスのsetPropertyメソッドで以下を指定します。
- 定数ID_DIRECTMETHODの値に「LIST」(電子保存)を指定します。
- 定数ID_LW_DSTFOLDERの値に配信フォルダIDを指定します。
- 定数ID_LW_DSTMETHODの値に「MAT」(List Creator互換印刷)を指定します。
- 定数ID_LW_STREAMENVFILEの値に電子帳票情報ファイル名を指定します。(任意)
- 定数ID_PRINTENVFILEで帳票出力情報ファイル名を指定します。(任意)

帳票出力情報ファイルには、必要に応じて以下のキーワードを設定します。

LWMATQUALITY

List Creator互換印刷時の動作モードに、品質重視モード(Y)または性能重視モード(N)を指定します。

指定を省略した場合は、品質重視モードになります。帳票に異常がないか登録時にチェックを行わず、性能を重視する場合は性能重視モード「N」を指定します。ただし、この場合、List Worksに登録した後で、帳票を印刷するときにエラーが発生する場合があります。List Worksへ登録する前に、プリンタへ印刷して異常がないか確認することを推奨します。

PDFJIS2004MODE

JIS2004で新しく追加された文字(サロゲートペア)を含む帳票を表示する場合に、「Y」を指定します。指定を省略した場合には、JIS2004で新しく追加された文字を含む帳票を表示した場合、エラーとなります。



電子帳票情報ファイルに設定する情報については、“9.2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票を扱う場合”を参照してください。

List Creatorの帳票出力インタフェースについては、“List Creatorのマニュアル”を参照してください。

COBOLアプリケーション連携機能を利用する場合

COBOLアプリケーション連携機能を利用する場合、帳票出力アプリケーションのプリンタ情報ファイルに以下のとおり設定してください。

- STREAMキーワードに「LW」(電子保存)を指定します。
- LWDSTMETHODキーワードに「MAT」(List Creator互換印刷)を指定します。
- 配信フォルダIDを電子帳票情報ファイルに指定し、STREAMENVキーワードに電子帳票情報ファイル名を指定します。
- LWMATQUALITYキーワードに、品質重視モード「Y」または性能重視モード「N」を指定します。(任意)

指定を省略した場合は、品質重視モードになります。帳票に異常がないか登録時にチェックを行わず、性能を重視する場合は性能重視モード「N」を指定します。ただし、この場合、List Worksに登録した後で、帳票を印刷するときにエラーが発生する場合があります。List Worksへ登録する前に、プリンタへ印刷して異常がないか確認することを推奨します。



電子帳票情報ファイルに設定する情報については、“9.2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票を扱う場合”を参照してください。



注意

List Creator互換印刷機能では、電子帳票情報ファイルのキーワードのうち、帳票印刷配信機能のための帳票情報のキーワードのみが有効になります。指定時に振る舞いが異なるキーワードについて、以下に説明します。

- LDST-FOLDERID(配信フォルダID)
値を指定しない場合は、登録時にエラーになります。
- TITLE(帳票名)
本キーワードを省略した場合、以下の値が有効になります。
 - List Creatorの帳票出力インタフェースを利用する場合
List Creatorの帳票出力インタフェースで指定したタイトル、またはList Creatorデザイナの帳票様式定義の名前
 - COBOLアプリケーション連携機能を利用する場合
プリンタ情報ファイルの「PRTID」の値、または帳票定義体名、画面帳票定義体名
- STITLE(コメント)
本キーワードを省略した場合、以下の値が有効になります。

- 一 List Creatorの帳票出力インタフェースを利用する場合

List Creatorの帳票出力インタフェースで指定したコメント、またはList Creatorデザイナーの帳票業務情報のコメント

- 一 COBOLアプリケーション連携機能を利用する場合

値は設定されません。

- LDST-COPY(印刷時の部数)

本キーワードを省略した場合、値は設定されず、以下で設定した部数に従って印刷されます。ただし、部数単位での印刷は無効となります。

- 一 List Creatorの帳票出力インタフェースを利用する場合

List Creatorの帳票出力インタフェースで指定した印刷部数、またはList Creatorデザイナーの帳票業務情報(【印刷】タブ)で指定した印刷部数

- 一 COBOLアプリケーション連携機能を利用する場合

プリンタ情報ファイルの「COPYG」の値、またはCOBOLアプリケーションのI制御レコードの複写枚数



COBOLアプリケーション連携機能については、“List Creatorのマニュアル”を参照してください。

C.2.2 帳票の表示

List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票は、出力指示画面から表示します。帳票は、Adobe Readerで表示されます。



注意

List Creator互換印刷を使用して印刷する帳票の表示については、以下のとおりです。

- 帳票を表示した画面から印刷することはできません。
- 出力指示画面で開始ページ、終了ページを指定しても、全ページが表示されます。
- 初回表示時に、帳票をPDFに変換します。帳票のページ数が多い場合、表示されるまでに時間がかかります。また、PDFの言語仕様によって、帳票が8000ページを超える場合は、Adobe Readerで正しく表示されない可能性があります。
- 表示されるPDFファイルでは、印刷やPDFファイルを編集する操作(内容のコピー、文書の変更、注釈やフォームフィールドの入力など)は、できません。

付録D コマンドと画面で表示される一覧の比較

帳票の一覧表示、配信フォルダの一覧表示、および配信出力先の一覧表示では、コマンドで表示する場合と画面で表示する場合では、表示される内容が異なります。

表示される内容の比較を、以下に示します。

D.1 帳票の一覧表示

コマンドで帳票を一覧表示する場合と、画面で帳票を一覧表示する場合では、以下のように表示される内容が異なります。

項目	lwoprformコマンド	出力指示画面
配信フォルダID	○	×
帳票ID	○	×
帳票名	○	○
タイトル	○	△
コメント	○	△
登録日時	○	○
作成ユーザID	○	△
保存期限	○	△
用紙コード	○	△
出力回数	○	△
最大出力回数	○	△
帳票状態	○	○
部数	○	○
開始ページ	○	○
終了ページ	○	○
総ページ数	○	×
メッセージ通知先	○	×
備考1	○	△
備考2	○	△
備考3	○	△
備考4	○	△
備考5	○	△
備考6	○	△
備考7	○	△
備考8	○	△
備考9	○	△
備考10	○	△
備考11	○	△
備考12	○	△
備考13	○	△

項目	lwoprformコマンド	出力指示画面
備考14	○	△
備考15	○	△
備考16	○	△
配信出力先	×	○

○:表示されます。

△:カスタマイズにより、項目の表示/非表示および項目名を変更できます。

×:表示されません。

D.2 配信フォルダの一覧表示

コマンドで配信フォルダを一覧表示する場合と、画面で配信フォルダを一覧表示する場合では、以下のように表示される内容が異なります。

項目	lwedtfolコマンド	配信フォルダ管理画面
配信フォルダID	○	×
配信フォルダ名	○	○
配信出力先	○	○
出力動作モード	○	○
優先度	○	×
コメント	○	×
備考1	○	×
備考2	○	×
備考3	○	×
備考4	○	×
備考5	○	×
保存日数	○	○

○:表示されます。

×:表示されません。

D.3 配信出力先の一覧表示

コマンドで配信出力先を一覧表示する場合と、画面で配信出力先を一覧表示する場合では、以下のように表示される内容が異なります。

項目	lwedtfolコマンド	配信出力先一覧画面
配信出力先ID	○	×
配信出力先名	○	○
コメント	○	×
配信出力サーバ名	○	○
プリンタ名	○	○

項目	lwedtfolコマンド	配信出力先一覧画面
プリンタ構成コード	○	×
機器メーカー名	○	×
機器型名	○	×
備考1	○	×
備考2	○	×
備考3	○	×
備考4	○	×
備考5	○	×
備考6	○	×
備考7	○	×
備考8	○	×
用紙交換メッセージ表示指定	○	×
メッセージ通知先	○	×
セパレータ	○	×
セパレータの印刷方法	○	×
セパレータ印刷時の給紙口名	○	×
状態	○	○
ジョブ数	×	○

○:表示されます。
 ×:表示されません。

付録E 大量帳票、多重運用時の留意事項

ここでは、大量の帳票を扱う場合、登録の多重度についての留意事項について説明します。

E.1 配信管理サーバ運用環境の推奨値

配信管理サーバの運用環境における推奨値を示します。

注意

- ・ 推奨値以下での運用／設計を行うようにしてください。
- ・ 推奨値を超えた場合、処理時間が長くなるなど、快適な操作性を保てなくなることがあります。

項目	推奨値	注意事項
配信フォルダ	500	既に削除されている帳票に関連する配信フォルダの情報について、lwcleanformコマンドによる削除を完了していない配信フォルダも含まれます。 lwcleanformコマンドによって、定期的に配信フォルダの関連する情報の削除を行ってください。
帳票(システム全体)	100,000	既に削除されているが、lwcleanformコマンドによる関連するファイルや情報の削除を完了していない帳票も含まれます。 lwcleanformコマンドによって、定期的に帳票の関連するファイルや情報の削除を行ってください。
配信出力先	500	
印刷ジョブ	5,000	印刷の失敗などにより印刷が完了していないか、印刷を取り消していない印刷ジョブは残り続けます。 定期的に印刷の取り消しをしてください。
プリンタ構成定義	500	
配信出力サーバ	List Works サーバ1台 につき「3」	以下のサーバで運用している配信出力サーバの合計です。 ・ List Worksサーバ ・ List Works配信出力サーバ

E.2 帳票の登録

同時に処理が可能な登録処理の数(多重度)および登録可能な帳票のページ数について、以下に示す帳票の種類ごとに説明します。

- ・ NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票
- ・ List Creator互換印刷機能を利用するList Creator帳票
- ・ 富士通ホスト帳票

E.2.1 NetCOBOL/MeFt帳票およびList Creator帳票の場合

登録の多重度

登録の多重度は、List Worksでは制御していません。帳票出力アプリケーションで制御します。

- List Creator帳票の場合
登録の多重度が高くなると、List Creatorの帳票出力インタフェースでエラーとなります。
- NetCOBOL/MeFt帳票の場合
登録の多重度が高くなると、帳票出力アプリケーションでエラーとなります。

帳票のページ数／サイズ

登録可能な帳票は、ファイルサイズが1.8GB以下の帳票です。

帳票のファイルサイズは、以下の計算式で算出することができます。

帳票のファイルサイズ = 1ページあたりのサイズ（注） × ページ数

注:1ページあたりのサイズは、3KBが目安です。



- 1.8GBを超える帳票は、分割して登録してください。
- 登録可能なサイズを超えた帳票が登録された場合、1.8GB分のページだけ登録されます。このとき、リスト管理サーバの操作ログに、スプールデータが最大値を超えた旨のメッセージが出力されます。

E.2.2 List Creator互換印刷機能を利用するList Creator帳票の場合

登録の多重度

登録の多重度は、List Worksでは制御していません。帳票出力アプリケーションで制御します。

登録の多重度が高くなると、帳票出力アプリケーションでエラーとなります。

E.2.3 富士通ホスト帳票の場合

登録の多重度

登録の多重度は、運用によって異なります。

なお、帳票の登録が設定した多重度を超えた場合は、処理中の帳票登録が完了するまで登録待ち状態になります。

- 分散印刷運用(FNA通信)の場合
帳票の仕分けを行うかどうかによって上限が異なります。
帳票を仕分ける場合:4多重以下
帳票を仕分けない場合:8多重以下
- 分散印刷運用(TCP/IP通信)の場合
4多重で処理します。

帳票のページ数／サイズ

登録可能な帳票は、65,535ページ以下の帳票です。65,535ページを超える帳票は、分割して登録してください。



登録可能なページ数を超えた帳票が登録された場合、65,535ページ分だけが登録されます。このとき、イベントログに帳票のページ数がList Worksの上限ページ数を超えた旨のメッセージが出力されます。

索引

[A]		
ActiveXコントロール	145	
addlprtコマンド	133,317,347	
API	18	
API(Login)	312	
API(Login)の使用例	314	
[B]		
backupLWLDSTDB.bat	229	
[C]		
Cancel Output Job	384	
Cancel Output Jobs	384	
「certificate.domainname」キー	96,324	
「certificate.mode」キー	95,324	
「certificate.type」キー	96,324	
Change Output Destination	384	
Change Output Destination of Output Job	385	
Change Output Destination of Output Jobs	385	
Change Output Mode	384	
Change Priority of Output Job	385	
checklog_LWLDSTDB.txt	252	
chkdbsplog_LWLDSTDB.txt	245	
「classpath.jdbc」キー	95,324	
「classpath.nls」キー	95,324	
Clean Document	384	
「COMMENT」キー	306	
[COMMON]セクション	136	
「CREATEDATE」キー	306	
createLWLDSTDB.bat	49,51	
createLWLDSTDB.dat	49	
createWU.bat	78	
createWUPA.bat	130	
「CREATE_USER_ID」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM10」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM11」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM12」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM13」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM14」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM15」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM16」キー	307	
「CUSTOMIZE_ITEM1」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM2」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM3」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM4」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM5」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM6」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM7」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM8」キー	306	
「CUSTOMIZE_ITEM9」キー	306	
[D]		
Database見積もりツール	50	
「db.datasourcename」キー	94,324	
「db.hostname」キー	94,324	
「db.naming.port」キー	95,324	
「db.password」キー	95	
「db.port」キー	94,324	
「db.systemname」キー	94,324	
「db.type」キー	94,323	
「db.userid」キー	94,324	
dbsp_checkLWLDSTDB.bat	244	
「default.userid」キー	97,324	
「DEFAULT_FILTERING」キー	304	
[Default]セクション	138	
Delete All Documents	384	
Delete Document	384	
Delete Documents	384	
Delete Expired Document	384	
「delivery.manager.filetrans.port」キー	73,96,120,324	
「delivery.manager.web.port」キー	96,324	
「delivery.writer.web.port」キー	96,324	
delprtコマンド	317,348	
DISPBTN	354,358	
DNSサーバの設定(List Worksサーバ)	72	
DNSサーバの設定(List Works配信出力サーバ)	119	
dsi_checkLWLDSTDB.bat	251	
dsi_loadLWLDSTDB.bat	246,252	
dsi_unloadLWLDSTDB.bat	246,252	
[E]		
Edit Distribute Folder	385	
Edit Output Destination	385	
Edit Printer Configuration	385	
EMF形式	354,359,617,636	
End Printing	385	
EVENT	351	
[F]		
f3ewlprm	550	
F3EWSRV	519	
F3EWSVLG	537	
F5CWCKLGコマンド	225,317,379	
F5CWSVLG	561	
「filetype」キー	91	
fjsymjdbc2.jar	81,84,87,99	
FLD	350,351	
「folder.rootpath」キー	23,97,324	
「FORM_STATE」キー	306	
FUJITSU帳票管理	249,250,255,256	
[G]		
GET	350,357	
[H]		
hostsファイルの設定(List Worksサーバ)	72	
hostsファイルの設定(List Works配信出力サーバ)	119	
Httpリクエスト	18,312	
Httpリクエスト(Login)	312	
Httpリクエスト(Login)の使用例	314	

[I]	
Interstage Application Serverの初期設定(クラスタシステムの場合).....	77
Interstage Enabled認定プリンタ.....	617,620,632
Interstage管理コンソールの起動.....	193,195
Interstageのサービスの設定.....	120
IPCプロトコルの設定(Oracle).....	64

[J]	
JDBCアーカイブファイル.....	81,84,87,95,99
JDBCデータソースの登録(Symfoware).....	75

[L]	
LDST-COPY.....	172,653
LDST-CREATEUSERID.....	164
LDST-CUSTOM1.....	166
LDST-CUSTOM10.....	169
LDST-CUSTOM11.....	169
LDST-CUSTOM12.....	169
LDST-CUSTOM13.....	170
LDST-CUSTOM14.....	170
LDST-CUSTOM15.....	170
LDST-CUSTOM16.....	171
LDST-CUSTOM2.....	166
LDST-CUSTOM3.....	167
LDST-CUSTOM4.....	167
LDST-CUSTOM5.....	167
LDST-CUSTOM6.....	168
LDST-CUSTOM7.....	168
LDST-CUSTOM8.....	168
LDST-CUSTOM9.....	168
LDST-ENDPAGE.....	171
LDST-FOLDERID.....	163,652
LDST-KEEPDAYS.....	165
LDST-MAXOUTPUT.....	165
LDST-MSGHOST.....	172
LDST-PAPERCODE.....	165
LDST-RPRINTFLG.....	172
LDST-RPRINTPOS.....	173
LDST-RPRINTSTR.....	174
LDST-STARTPAGE.....	171
LDST-TITLE.....	166
LEVEL.....	352
List Creator互換印刷.....	7,13,14,200,224,287,288,617
List Creator互換印刷機能.....	591,649
List Creator互換印刷機能で出力されるメッセージ.....	591
List Creator帳票の環境構築.....	29
List Creator帳票の環境設定(List Creator互換印刷).....	649
List Creator帳票のシステム構成.....	28
List Creator帳票のシステム構成(List Creator互換印刷).....	649
List Creator帳票の準備(List Creator互換印刷).....	650,651
List Creator帳票の登録の多重度.....	658
List Creator帳票の登録の多重度(List Creator互換印刷).....	658
List Creator帳票の表示(List Creator互換印刷).....	653
List Creator帳票のページ数/サイズ.....	658
List Creatorの出力形式.....	7
List Document.....	384
ListPrint.....	145

List Works Assort Service.....	249,250,255,256
List Works Distributor.....	396,456
List Works Filing Service.....	249,250,255,256
List Works MeFt.....	592
List Works PrintFit.....	569
List Works Watch Service.....	249,250,255,256
List Worksサーバ.....	4
List Worksサーバの移行.....	156
List Worksサーバの追加.....	152
List Worksサービスの開始.....	100,102,250,256
List Worksサービスの停止.....	89,101,248,255
List Works帳票.....	7,287,617
listworksのワークユニットの自動起動の抑止.....	103
List Works配信出力サーバ.....	4
「LIST_VIEWCOUNT」キー.....	304,310
loadlog_LWLDSTDB.txt.....	250
LOGFILE.....	351
「logfolder」キー.....	91
Login.....	313,384
LOGNUM.....	352,353
Logout.....	384
LOGSZ.....	352,353
LOG_OPR.....	350,351
LOG_TRC.....	350,352
LV-LDST-COPY.....	185
LV-LDST-CREATEUSERID.....	178
LV-LDST-CUSTOM1.....	180
LV-LDST-CUSTOM10.....	183
LV-LDST-CUSTOM11.....	183
LV-LDST-CUSTOM12.....	183
LV-LDST-CUSTOM13.....	183
LV-LDST-CUSTOM14.....	184
LV-LDST-CUSTOM15.....	184
LV-LDST-CUSTOM16.....	184
LV-LDST-CUSTOM2.....	180
LV-LDST-CUSTOM3.....	181
LV-LDST-CUSTOM4.....	181
LV-LDST-CUSTOM5.....	181
LV-LDST-CUSTOM6.....	182
LV-LDST-CUSTOM7.....	182
LV-LDST-CUSTOM8.....	182
LV-LDST-CUSTOM9.....	182
LV-LDST-ENDPAGE.....	185
LV-LDST-FOLDERID.....	177
LV-LDST-KEEPDAYS.....	179
LV-LDST-MAXOUTPUT.....	179
LV-LDST-MSGHOST.....	186
LV-LDST-PAPERCODE.....	179
LV-LDST-RPRINTFLG.....	186
LV-LDST-RPRINTPOS.....	187
LV-LDST-RPRINTSTR.....	187
LV-LDST-STARTPAGE.....	185
LV-LDST-TITLE.....	180
LV-STITLE.....	178
LV-TITLE.....	178
Lwcleanform.....	385
lwcleanformコマンド.....	220,317,377

Lwdelexpire.....	385
lwdelexpireコマンド.....	219,317,361,376,377
lwdstinitS.bat	77
lwdstmgr.ini.....	90
lwdstmgrenvコマンド.....	92,98,317,322
lwdstpfptr.ini.....	137
lwdststartWU.bat	108
lwdstwtr.ini.....	134
lwdst_layout_output_instruction.csv.....	110,300
lwdst_layout_processing_situation.csv.....	110,300
lwdst_Menu	313
LWDST_MGUI.....	5,83,194
LWDST_MREG.....	5,80,194
LWDST_MWTR.....	5,86,194
LWDST_W.....	6,131,192
Lwedtdest.....	385
lwedtdestコマンド.....	114,142,317,318,320,322,330
Lwedtfol.....	385
lwedtfolコマンド.....	143,317,319,320,339,377,655
Lwedtprinfo.....	385
lwedtprinfoコマンド.....	141,317,318,319,322,325
LWLDSTDB.....	244,247,251
lwmctr.conf.....	93
Lwoprdest.....	385
lwoprdestコマンド.....	317,361,363
Lwoprfol.....	385
lwoprfolコマンド.....	317,361,364
Lwoprform.....	385
lwoprformコマンド.....	317,361,366,377,654
LW Print State Service.....	5,6
LW Print State Serviceの開始.....	190
LW Print State Serviceの停止.....	192
lwsetupwtr.bat.....	123
LW Transfer Service.....	5,6,73,120
LW Transfer Serviceの開始.....	189,193
LW Transfer Serviceの停止.....	192,196

[M]

mat.....	651
MAT.....	651,652
Message Client.....	5,147

[N]

NetCOBOL/MeFt帳票の環境構築.....	29
NetCOBOL/MeFt帳票のシステム構成.....	26
NetCOBOL/MeFt帳票の登録の多重度.....	658
NetCOBOL/MeFt帳票のページ数/サイズ.....	658
[nnnn]セクション.....	138

[O]

ojdbc5.jar.....	99
[oprlog]セクション.....	91
Oracleの設定(IPCプロトコル).....	64
Oracleの設定(Windowsファイアウォール).....	65
Oracleの設定(サービス・ネーミング).....	62
Oracleの設定(ディスクスペースの見積もり).....	54
Oracleの設定(テーブルの作成).....	65
Oracleの設定(配信データベースの環境設定).....	52

Oracleの設定(配信データベースの作成).....	55
Oracleの設定(配信データベースの動作確認).....	65
Oracleの設定(ユーザの作成).....	61
Oracleの設定(リスナーの作成).....	54
Oracleの設定(リスナーの設定).....	60
orai18n.jar.....	95,99
Output Document.....	384
「OUTPUT_COUNT」キー.....	306
「OUTPUT_DATE」キー.....	311
「OUTPUT_MAX_COUNT」キー.....	306
「OUTPUT_STATE」キー.....	311
「OUTPUT_USER_ID」キー.....	311
「OwnServer」キー.....	136

[P]

「PAPER_CODE」キー.....	306,311
「path.oci」キー.....	95,324
POPUP.....	353,358
「PORT」キー.....	136
Preview Document.....	384
「Printer」キー.....	138
PrintiaLASERシリーズ(Printianavi搭載機).....	617,618
Print Spooler.....	249,250,255,256
「PRINT_JOB_FOLDER」キー.....	135
prtlistコマンド.....	133,317,349
PRT Server Service.....	347
PRT_ERRMSG.....	350,353,357,358
PS5000シリーズ.....	617,618

[R]

「Ratio」キー.....	138
RDBシステム名.....	41,244,247,251
Register Document.....	384
[regist]セクション.....	91
「Reset」キー.....	136
restoreLWLDSTDB.bat	237
RMSGDEST.....	353,358

[S]

「SAVE_LIMIT_DATE」キー.....	306
「server.hostname」キー.....	96,324
servicesファイルの設定(List Worksサーバ).....	73
servicesファイルの設定(List Works配信出力サーバ).....	120
SET.....	350,357
setenvdefコマンド.....	133,317,350
setenvprtコマンド.....	134,317,357
setpmlWLDSTDB.bat.....	47
SPL.....	351
Start Output Destination.....	384
Start Printing.....	385
[STATE]セクション.....	136
STITLE.....	164,652
Stop Output Destination.....	384
Symfoware JDBC Naming Service.....	73
Symfowareの設定(Windowsファイアウォール).....	48
Symfowareの設定(サービス起動).....	48
Symfowareの設定(ディスクスペースの見積もり).....	40
Symfowareの設定(データベースサービス).....	40

[か]

改ざんチェック(配信管理サーバの操作ログ).....	379
外字.....	199
外字の準備.....	159
開始ページ.....	171,185,270,654
概要(帳票印刷配信機能).....	2
確認メッセージの表示/非表示.....	369,378
カスタマイズ(API(Login)).....	312
カスタマイズ(API).....	18,312
カスタマイズ(一覧の行数の変更).....	303,309
カスタマイズ(印刷ジョブの絞り込み).....	310
カスタマイズ(画面).....	16,300
カスタマイズ(画面の高さ).....	303,309
カスタマイズ(画面の幅).....	302,308
カスタマイズ(検索条件画面での表示有無).....	306
カスタマイズ(項目の幅).....	305,310
カスタマイズ(項目名の変更).....	306,310
カスタマイズ(出力指示画面).....	301
カスタマイズ(処理状況照会画面).....	307
カスタマイズ設定例(出力指示画面).....	307
カスタマイズ設定例(処理状況照会画面).....	311
カスタマイズ(帳票の絞り込み).....	304
カスタマイズ(表示する項目の変更).....	304,310
カスタマイズ方法(画面).....	300
稼働.....	338,363
画面カスタマイズ設定ファイル.....	110,300
画面カスタマイズ設定ファイル(出力指示画面).....	300
画面カスタマイズ設定ファイル(処理状況照会画面).....	300
画面カスタマイズ設定ファイルの設定例(処理状況照会画面).....	311
画面カスタマイズ設定ファイルの設定例(出力指示画面).....	307
画面のAPI.....	312
画面のカスタマイズ.....	16,300
画面のカスタマイズ(出力指示画面).....	301
画面のカスタマイズ(処理状況照会画面).....	307
画面のカスタマイズ方法.....	300
画面の高さの変更.....	303,309
画面の幅の変更.....	302,308
環境構築(List Creator帳票).....	29
環境構築(NetCOBOL/MeF帳票).....	29
環境構築(Web配信操作クライアント).....	145
環境構築スクリプト.....	124
環境構築スクリプトが失敗した場合の再構築手順.....	124
環境構築スクリプトによる配信出力サーバの環境構築.....	121
環境構築スクリプトのエラーと対処方法.....	126
環境構築スクリプトの実行手順.....	121
環境構築スクリプトファイル.....	123
環境構築(配信管理サーバ).....	35
環境構築(配信出力サーバ).....	112
環境構築(富士通ホスト帳票).....	32
環境構築(メッセージ通知クライアント).....	147
環境削除スクリプトのエラーと対処方法.....	126
環境設定(List Creator帳票 List Creator互換印刷).....	649
環境設定用のコマンド(配信管理サーバ).....	317
環境設定用のコマンド(配信出力サーバ).....	317,347
環境の変更.....	150
監視(配信データベースのフラグメンテーションの発生 (Symfoware)).....	250

監視(印刷ジョブ).....	15,205
監視機能.....	15
監視(帳票の登録状況).....	216
監視(プリンタ).....	15,213
管理(データベース(Oracle)).....	257
管理(データベース(Symfoware)).....	244
管理(配信データベース(Oracle)).....	257
管理(配信データベース(Symfoware)).....	244
管理(配信データベースの容量(Oracle)).....	257
管理(配信データベースの容量(Symfoware)).....	244
管理機能.....	14
管理対象プリンタの追加.....	133
管理(データベース).....	244
管理(配信データベース).....	244
機器型名.....	319,335,656
機器メーカー名.....	319,335,656
起動(配信出力先).....	363
機能差(コマンドと画面操作による一覧表示).....	654
機能差(帳票の一覧表示).....	654
機能差(配信出力先の一覧表示).....	655
機能差(配信フォルダの一覧表示).....	655
機能差(プリンタ).....	617
機能差(プリンタ機種).....	635
給紙口名.....	318,327
共有ディスクの準備.....	38
共有ディスクの準備(クラスタシステムの場合).....	38
共有ディスクの準備(クラスタシステムへの登録手順).....	38
区切りページ.....	13
区分名.....	350,357
クラスタシステム.....	18
クラスタシステムへの登録(Interstage Application Serverのサー ビス).....	107
クラスタシステムへの登録(ネーミングサービス).....	106
クラスタシステムへの登録(配信管理サービス).....	108
クラスタシステムへの登録(配信データベースのサービス).....	105
クラスタシステムへの登録(ワークユニット起動スクリプト).....	108
検索条件画面で表示する項目を設定する.....	306
検索条件の保存.....	202
検索条件の読み込み.....	202
コネクションプーリングの環境設定(Symfoware).....	73
コマンド.....	317
コマンドと画面操作による一覧の機能差.....	654
コマンド利用の準備(配信管理サーバの運用).....	360
コマンド利用の準備(配信管理サーバの環境設定).....	317
コマンド利用の準備(配信出力サーバの環境設定).....	347
コメント.....	164,178,270,285,299,318,333,343,654,655
コンポーネント(帳票印刷配信機能).....	5

[さ]

再印刷.....	14
再印刷マークの印刷.....	13
再印刷マークの印刷有無.....	172,186
再印刷マークの印刷場所.....	173,187
再印刷マークの印刷文字列.....	174,187
再構築(配信データベース(Oracle)).....	258
再構築(配信データベース(Symfoware)).....	245
最大出力回数.....	14,16,165,179,270,285,317,369,654

最大出力回数の変更.....	218,366	出力動作モード.....	6,143,297,298,342,365,655
作業ディレクトリ.....	117,118	出力動作モードの変更.....	221,364
作業フォルダ(帳票の印刷時).....	135	出力ユーザID.....	278,286
作業フォルダ(帳票の登録用).....	23	詳細情報の表示.....	206
削除(印刷ジョブ).....	280	状態.....	283,338,376,656
削除(管理対象プリンタ).....	348	ジョブ数.....	283,656
削除した帳票の関連情報の削除.....	220,377	処理状況照会画面.....	275
削除処理の実行時間.....	378	処理状況照会画面(一覧の行数の変更).....	309
削除(帳票).....	219,272,366,376	処理状況照会画面(印刷ジョブの絞り込み).....	310
削除(配信出力先).....	222,330	処理状況照会画面(高さの変更).....	309
削除(配信フォルダ).....	221,339	処理状況照会画面のカスタマイズ.....	307
削除(プリンタ構成).....	325	処理状況照会画面の更新.....	212
作成ユーザID.....	178,270,285,361,369,654	処理状況照会画面の項目の幅を変更する.....	310
サポートプリンタ.....	617	処理状況照会画面の項目名を変更する.....	310
サンプルスクリプト(帳票印刷のワークユニット).....	130	処理状況照会画面の終了.....	213
サンプルスクリプト(配信管理サーバのワークユニット).....	78	処理状況照会画面(幅の変更).....	308
サーバ名.....	283	処理状況照会画面(表示する項目の変更).....	310
サービス「PRT Server Service」のトラブル.....	613	シングルサーバ運用.....	634
サービス開始の確認.....	196	推奨値.....	657
サービス起動の設定(Symfoware).....	48	スクリプト(配信データベースのアンロード).....	246,252
サービスの自動起動の抑止(クラスタシステムの場合).....	103	スクリプト(配信データベースのフラグメンテーションの監視).....	251
サービス・ネーミングの設定(Oracle).....	62	スクリプト(配信データベースのロード).....	246,252
しくみ(帳票印刷配信機能).....	3	スプールフォルダ.....	350
システム構成.....	3	スプールフォルダの変更手順.....	134
システム構成(List Creator帳票).....	28	セキュリティ機能.....	15
システム構成(List Creator帳票 List Creator互換印刷).....	649	接続エラー(印刷ジョブの出力状態).....	207
システム構成(NetCOBOL/MeFt帳票).....	26	設定の確認.....	144
システム構成(適用パターン).....	8,9,10	セパレータ.....	656
システム構成(富士通ホスト帳票).....	31	セパレータ印刷.....	13,142,334
システムの見積もり.....	21	セパレータ印刷時の給紙口名.....	319,334,656
失敗(印刷ジョブの出力状態).....	207	セパレータの印刷方法.....	334,656
指定できる文字(配信管理サーバの運用).....	361	操作ログ.....	15
指定できる文字(配信管理サーバの環境設定).....	318	操作ログ(補足情報4).....	312
指定できる文字(配信出力サーバの環境設定).....	347	操作ログ(コマンドの実行).....	387
指定ページへの移動.....	201	操作ログ(帳票の印刷).....	391
自動復旧.....	571	操作ログ(帳票の登録).....	385
終了ページ.....	171,185,271,654	操作ログ(帳票の表示).....	393
出力依頼日時.....	278,286	操作ログの改ざん検知.....	225
出力回数.....	14,16,270,285,654	操作ログの格納場所.....	223
出力完了ページ.....	280	操作ログの管理.....	223
出力完了ページ数.....	286	操作ログのファイルの作成方法.....	91
出力先変更.....	206,281	操作ログの自動バックアップ.....	224
出力指示画面.....	198,267,654	操作ログの出力形式(配信管理サーバ).....	382
出力指示画面(一覧の行数の変更).....	303	操作ログのバックアップファイル.....	224
出力指示画面(高さの変更).....	303	操作ログ(配信管理サーバ).....	382
出力指示画面(帳票の絞り込み).....	304	操作ログ(配信操作画面の操作).....	389
出力指示画面のカスタマイズ.....	301	総ページ数.....	285,654
出力指示画面の更新.....	203	即時印刷.....	13,15,143,221,342,365
出力指示画面の項目の幅を変更する.....	305	ソースが「f3ewlprm」のイベントログ.....	550
出力指示画面の項目名を変更する.....	306	ソースが「F3EWSRV」のイベントログ.....	519
出力指示画面の終了.....	205	ソースが「F3EWSVLG」のイベントログ.....	537
出力指示画面(幅の変更).....	302	ソースが「F5CWSVLG」のイベントログ.....	561
出力指示画面(表示する項目の変更).....	304	ソースが「List Works Distributor」のイベントログ.....	396,456
出力状態.....	279,287	ソースが「List Works MeFt」のイベントログ.....	592
出力状態の確認.....	205	ソースが「List Works PrintFit」のイベントログ.....	569
出力済.....	369,376	ソースが「WORKIT JOB(F3BW)」のイベントログ.....	560
出力総ページ数.....	286	ソースが「WORKIT MSG(F3BW)」のイベントログ.....	554

[た]

タイトル.....	166,180,270,285,654
ため置き印刷.....	13,15,143,221,342,365
帳票ID.....	285,361,367,654
帳票印刷時の作業フォルダ.....	135
帳票印刷のワークユニット.....	6
帳票印刷のワークユニットの起動.....	190
帳票印刷のワークユニットの作成.....	130
帳票印刷のワークユニットの停止.....	191
帳票印刷配信機能の概要.....	2
帳票印刷配信機能の機能.....	12
帳票印刷配信機能のコンポーネント.....	5
帳票印刷配信機能のしくみ.....	3
帳票印刷配信機能のシステム構成.....	3
帳票印刷配信機能の登録(クラスタシステムの場合).....	105
帳票印刷配信機能の特長.....	2
帳票詳細情報画面.....	284
帳票状態.....	270,285,369,654
帳票状態の変更.....	14,218,366
帳票情報.....	12
帳票情報(List Creator帳票).....	160
帳票情報(NetCOBOL/MeFt帳票).....	160
帳票情報の優先順位.....	12
帳票情報(富士通ホスト帳票).....	174
帳票数(推奨値).....	657
帳票と印刷資源の退避、復元.....	228
帳票登録のワークユニット.....	5,77
帳票登録のワークユニットの起動.....	194
帳票登録のワークユニットの作成手順.....	79
帳票登録のワークユニットの自動起動の抑止.....	103
帳票登録のワークユニットの設定変更.....	101
帳票登録のワークユニットの停止.....	195
帳票の一覧(印刷ジョブの絞り込み).....	310
帳票の一覧(行数の変更).....	303
帳票の一覧(帳票の絞り込み).....	304
帳票の一覧の行数の変更.....	303
帳票の一覧表示.....	218,267,366,654
帳票の一覧(表示する項目の変更).....	304
帳票の印刷.....	14,198,267,271,272,382
帳票の印刷の指示.....	267
帳票の拡大表示.....	200
帳票の管理.....	14,217
帳票の検索.....	203
帳票の削除.....	14,219,272,317,366,376,384
帳票の縮小表示.....	200
帳票の準備.....	159
帳票の準備(List Creator帳票 List Creator互換印刷).....	650,651
帳票の詳細情報の表示.....	204,284
帳票のスクロール.....	201
帳票の操作時のトラブル.....	613
帳票のタイトル.....	166,180
帳票の退避.....	228
帳票の退避(Oracleデータベース).....	233
帳票の退避(Symfowareデータベース).....	229
帳票の登録時に異常が発生した場合の対処.....	216
帳票の登録状況の監視.....	216
帳票の登録に必要な作業フォルダ(格納場所).....	23
帳票の登録に必要な作業フォルダ(ディスク容量).....	23
帳票の並べ替え.....	203
帳票の表示.....	14,200,271,287
帳票の表示(List Creator帳票 List Creator互換印刷).....	653
帳票の復元.....	235
帳票の復元(Oracleデータベース).....	240
帳票の復元(Symfowareデータベース).....	237
帳票の分割表示.....	201
帳票の保存期限.....	165,179
帳票の保存日数.....	6,12,143,165,179,297,299,345,655
帳票表示画面.....	200,287
帳票名.....	164,178,270,278,285,286,654
追加(管理対象プリンタ).....	347
定義(印刷配信の環境設定).....	322
定義(配信出力先).....	330
定義(配信フォルダ).....	339
定義(プリンタ構成).....	325
停止.....	338,363
停止(配信出力先).....	363
ディスクスペースの見積もり(Oracle).....	54
ディスクスペースの見積もり(Symfoware).....	40
ディスク容量(帳票の登録に必要な作業フォルダ).....	23
ディスク容量(配信管理サーバ).....	23
ディスク容量(配信出力サーバ).....	23
ディスク容量(配信フォルダ).....	23
出口ルーチンの準備.....	69
テスト印刷.....	14,209,215
電子帳票情報ファイル.....	160
データベース構築スクリプトの実行.....	51
データベース構築スクリプトの編集.....	49
データベースサービスの設定(Symfoware).....	40
データベースの管理.....	244
データベースの管理(Oracle).....	257
データベースの管理(Symfoware).....	244
データベースのフラグメンテーションの監視(Symfoware).....	250
データベースの容量監視(Oracle).....	257
データベースの容量監視(Symfoware).....	244
テーブルの作成(Oracle).....	65
動作モード.....	350,357
到着通知パネル.....	5,570
到着通知パネルに関するメッセージ.....	583
到着通知パネルの削除.....	105
到着通知パネルの設定.....	147
到着通知パネルのメッセージ.....	614
登録日時.....	270,285,370,654
登録の多重度(List Creator帳票).....	658
登録の多重度(List Creator帳票 List Creator互換印刷).....	658
登録の多重度(NetCOBOL/MeFt帳票).....	658
登録の多重度(富士通ホスト帳票).....	658
特長(帳票印刷配信機能).....	2
トナー削減印刷.....	13,456,569,617
トナー削減印刷の設定.....	137
トナー削減印刷の動作環境ファイル.....	137
トラブル(印刷時).....	608
トラブル(エラー通知).....	607
トラブル(サービス「PRT Server Service」).....	613
トラブル時の情報採取.....	225

トラブルシューティング.....	607
トラブル(帳票の操作時).....	613
トラブル(表示時).....	611

[な]

ネットワークの設定(List Works配信出力サーバ).....	119
ネットワークの設定(List Worksサーバ).....	72

[は]

配信管理サーバ.....	5
配信管理サーバの運用用のコマンド.....	360
配信管理サーバの環境構築.....	35
配信管理サーバの環境構築手順.....	35
配信管理サーバの環境構築手順(クラスタシステムで運用する場合).....	35
配信管理サーバの環境設定.....	88
配信管理サーバの環境設定 事前準備.....	67
配信管理サーバの環境設定ファイルの編集.....	90
配信管理サーバの環境設定用のコマンド.....	317
配信管理サーバの操作ログ.....	223,382
配信管理サーバの操作ログの改ざんチェック.....	379
配信管理サーバの操作ログの自動バックアップ.....	224
配信管理サーバのディスク容量.....	23
配信管理サーバのメッセージ.....	396
配信管理サーバへの接続.....	264
配信管理サービス.....	5
配信管理サービスの開始.....	100,103,192,193,250,256
配信管理サービスの開始の確認.....	197
配信管理サービスの停止.....	89,101,192,195,248,255
配信出力先.....	6,7,270,297,298,655
配信出力先ID.....	142,143,318,331,342,361,363,365,655
配信出力先一覧画面.....	281,655
配信出力先数(推奨値).....	657
配信出力先の一覧表示.....	222,281,655
配信出力先の管理.....	15,221
配信出力先の起動.....	222
配信出力先の起動/停止.....	363
配信出力先の削除.....	222
配信出力先の状態の変更.....	15,222
配信出力先の定義.....	142
配信出力先の定義/変更/削除/一覧表示.....	330
配信出力先の停止.....	222
配信出力先の変更.....	15,206,211,220,222,281,364
配信出力先名.....	142,283,286,318,332,655
配信出力サーバ.....	5
配信出力サーバの環境構築.....	112
配信出力サーバの環境設定.....	134
配信出力サーバの環境設定ファイル.....	134
配信出力サーバの環境設定用のコマンド.....	347
配信出力サーバのディスク容量.....	23
配信出力サーバのメッセージ.....	456
配信出力サーバ名.....	142,318,333,655
配信出力サービス.....	5
配信出力サービスの開始.....	189,250,256
配信出力サービスの開始の確認.....	196
配信出力サービスの停止.....	133,189,191,248,254
配信操作画面.....	4
配信操作画面のAPI.....	312

配信操作画面のカスタマイズ.....	16,300
配信操作画面のカスタマイズ方法.....	300
配信操作画面のワークユニット.....	5,77
配信操作画面のワークユニットの起動.....	194
配信操作画面のワークユニットの再起動.....	110
配信操作画面のワークユニットの作成手順.....	82
配信操作画面のワークユニットの自動起動の抑止.....	103
配信操作画面のワークユニットの設定変更.....	101
配信操作画面のワークユニットの停止.....	195
配信データベース構築スクリプト.....	49
配信データベース構築用のSQL定数定義ファイル.....	49
配信データベースの環境設定.....	39
配信データベースの環境設定(Oracle).....	52
配信データベースの環境設定(Symfoware).....	39
配信データベースの管理.....	244
配信データベースの管理(Oracle).....	257
配信データベースの管理(Symfoware).....	244
配信データベースの構築確認.....	52
配信データベースの再構築(Oracle).....	258
配信データベースの再構築(Symfoware).....	245
配信データベースの作成(Oracle).....	55
配信データベースの作成(Symfoware).....	49
配信データベースの作成に失敗した場合の再構築手順(Oracle).....	67
配信データベースの作成に失敗した場合の再構築手順(Symfoware).....	66
配信データベースの使用状況.....	244
配信データベースの動作確認(Oracle).....	65
配信データベースのフラグメンテーションの解消(Symfoware).....	252
配信データベースのフラグメンテーションの監視(Symfoware).....	250
配信データベースのフラグメンテーションの監視と解消(Oracle).....	262
配信データベースの容量拡張(Oracle).....	258
配信データベースの容量拡張(Symfoware).....	245
配信データベースの容量監視(Oracle).....	257
配信データベースの容量監視(Symfoware).....	244
配信フォルダ.....	6
配信フォルダID.....	143,163,177,341,361,365,368,376,654,655
配信フォルダ管理画面.....	296,655
配信フォルダ詳細情報画面.....	298
配信フォルダ数(推奨値).....	657
配信フォルダの一覧表示.....	220,296,655
配信フォルダの管理.....	14,220
配信フォルダの共有運用.....	19
配信フォルダの共有運用の準備.....	71
配信フォルダの切替え.....	202
配信フォルダの削除.....	221
配信フォルダの詳細情報の表示.....	298
配信フォルダの帳票を格納するフォルダ.....	92
配信フォルダの帳票を格納するフォルダの変更.....	150
配信フォルダの定義.....	143
配信フォルダの定義/変更/削除/一覧表示.....	339
配信フォルダのディスク容量.....	23
配信フォルダ名.....	143,285,297,298,342,655
パスワード.....	265,313
バックアップファイル.....	224
パフォーマンスモニタの設定(Symfoware).....	47

備考.....		プリンタの一覧表示.....	349
166,167,168,169,170,180,181,182,183,184,270,285,319,336,		プリンタの環境設定.....	133
343,361,371,654,655,656		プリンタの監視.....	15,213
表示(印刷ジョブの一覧).....	275	プリンタの管理環境.....	571
表示(印刷ジョブの詳細情報).....	285	プリンタの削除.....	348
表示(印刷配信の環境設定).....	322	プリンタの接続形態.....	634
表示(管理対象プリンタの一覧).....	349	プリンタの設定情報の表示/変更.....	350,357
表示時のトラブル.....	611	プリンタの追加.....	347
表示する印刷ジョブの絞り込み.....	310	プリンタの定義.....	113
表示する項目の変更.....	304,310	プリンタのポート設定.....	114
表示する帳票の絞り込み.....	304	プリンタ名.....	142,283,318,333,347,348,357,655
表示(帳票).....	271,287	プログラムの設定(Windowsファイアウォール).....	646
表示(帳票の一覧).....	267,366,654	変更(最大出力回数).....	366
表示(帳票の詳細情報).....	284	変更(出力動作モード).....	364
表示(配信出力先の一覧).....	281,330,655	変更(帳票の状態).....	366
表示(配信フォルダの一覧).....	296,339,655	変更(配信出力先).....	220,281,330,364
表示(配信フォルダの詳細情報).....	298	変更(配信フォルダ).....	339
表示(プリンタ構成の一覧).....	325	変更(プリンタ構成).....	325
表示(プリンタ全体の設定情報).....	350	変更(プリンタ全体の設定情報).....	350
表示(プリンタの設定情報).....	357	変更(プリンタの設定情報).....	357
表示モード.....	328,338,345,374	変更(優先度).....	281
表のDSIの定義.....	50	編集規約(印刷配信の動作環境定義ファイル).....	93
表のスペース量の指定.....	50	編集規約(画面カスタマイズ設定ファイル).....	300
ファイアウォールの設定.....	68,643	編集規約(トナー削減印刷の動作環境ファイル).....	137
ファイルサイズ(List Creator帳票).....	658	編集規約(配信管理サーバの環境設定ファイル).....	90
ファイルサイズ(NetCOBOL/MeFt帳票).....	658	編集規約(配信出力サーバの環境設定ファイル).....	135
ファイルサイズ(富士通ホスト帳票).....	659	返答メッセージ.....	214,350,571
フェールオーバー.....	19	ページ数(List Creator帳票).....	658
フェールオーバー発生時の対処(クラスタシステムの場合).....	226	ページ数(NetCOBOL/MeFt帳票).....	658
フォルダの作成(Symfowareのパフォーマンスデータ格納ファイルの配置先).....	47	ページ数(富士通ホスト帳票).....	659
負荷分散装置の環境設定(配信フォルダの共有運用の場合).....	111	保守情報収集ツール.....	225
富士通ホスト帳票の環境構築.....	32	保存期限.....	165,179,270,285,345,370,376,654
富士通ホスト帳票のシステム構成.....	31	保存期限を過ぎた帳票の削除.....	219,317
富士通ホスト帳票の登録の多重度.....	658	保存日数.....	6,12,143,165,179,297,299,345,655
富士通ホスト帳票のページ数/サイズ.....	659	ポートの追加.....	114
部数.....	172,185,271,654	ポート番号.....	643
復帰値(運用用のコマンド).....	380	ポート番号の設定(Windowsファイアウォール).....	645
復帰値(環境設定用のコマンド).....	346	ポート番号の変更.....	112,147
フラグメンテーションの解消(Symfoware).....	252	ポート名.....	115
フラグメンテーションの確認.....	252		
フラグメンテーションの監視(Symfoware).....	250	[ま]	
フラグメンテーションの監視と解消(Oracle).....	262	マルチサーバ運用.....	115,634
プリンタ.....	617	未出力.....	369,376
プリンタ(Interstage Enabled認定プリンタ).....	620	メッセージ通知.....	116
プリンタ(PrintiaLASERシリーズ Printianavi搭載機).....	618	メッセージ通知クライアント.....	5,112,213
プリンタ(VSP/VS/PS5000シリーズ).....	618	メッセージ通知クライアントの環境構築.....	147
プリンタ監視の操作ログ.....	350	メッセージ通知クライアントのメッセージ.....	570,614
プリンタ監視のトレースログ.....	350	メッセージ通知先.....	12,142,172,186,319,335,654,656
プリンタ機種によるエラー検出内容.....	636	メッセージ(到着通知パネル).....	583
プリンタ機種による機能差.....	635	メッセージ(配信管理サーバ).....	396
プリンタ構成コード.....	140,142,318,326,334,656	メッセージ(配信出力サーバ).....	456
プリンタ構成定義数(推奨値).....	657	メッセージ(メッセージ通知クライアント).....	570
プリンタ構成の定義.....	140,141	メニュー画面.....	265
プリンタ構成の定義/変更/削除/一覧表示.....	325	メモリ量.....	21
プリンタドライバ.....	632	文字列の検索.....	201
プリンタによる機能差.....	617		
		[や]	
		優先度.....	6,143,280,281,286,343,655

優先度の変更.....	14,206,211,281,385,389
ユーザID.....	164,265,313
ユーザ作成ライブラリによる認証.....	69
ユーザ登録.....	68
ユーザの作成(Oracle).....	61
用紙交換メッセージ.....	199,209,215,634
用紙交換メッセージ表示指定.....	142,335,656
用紙コード.....	140,142,165,179,270,278,285,287,318,327,654
用紙サイズ.....	318,328
容量拡張(配信データベース(Oracle)).....	258
容量拡張(配信データベース(Symfoware)).....	245

[ら]

リスナーの作成(Oracle).....	54
リスナーの設定(Oracle).....	60
リソース名.....	121
留意事項(CANON製プリンタ).....	639
留意事項(EPSON製プリンタ).....	640
留意事項(FUJI XEROX製プリンタ).....	641
留意事項(Interstage Enabled認定プリンタ).....	638
留意事項(RICOH製プリンタ).....	641
留意事項(大量帳票、多重運用).....	657
留意事項(連続印刷指定時).....	639
ログイン画面.....	264
ログの出力形式(List Creator互換印刷).....	591
ログファイル名.....	379

[わ]

ワークユニット(印刷管理).....	5,77
ワークユニット起動スクリプト.....	108
ワークユニット(帳票印刷).....	6
ワークユニット(帳票登録).....	5,77
ワークユニットの起動(帳票印刷).....	190
ワークユニットの起動の確認.....	190,194
ワークユニットの起動(配信管理サーバ).....	193
ワークユニットの再起動(配信操作画面).....	110
ワークユニットの作成(印刷管理).....	85
ワークユニットの作成(帳票印刷).....	130
ワークユニットの作成(帳票管理サーバ).....	77
ワークユニットの作成(帳票登録).....	79
ワークユニットの作成(配信操作画面).....	82
ワークユニットの自動起動の抑止(listworks).....	103
ワークユニットの自動起動の抑止(印刷管理).....	103
ワークユニットの自動起動の抑止(クラスタシステムの場合).....	103
ワークユニットの自動起動の抑止(帳票登録).....	103
ワークユニットの自動起動の抑止(配信操作画面).....	103
ワークユニットの設定変更(印刷管理).....	101
ワークユニットの設定変更(帳票登録).....	101
ワークユニットの設定変更(配信操作画面).....	101
ワークユニットの設定変更(配信フォルダの共有運用の場合).....	100
ワークユニットの停止(帳票印刷).....	191
ワークユニットの停止(配信管理サーバ).....	195
ワークユニット(配信操作画面).....	5,77